令和７年度　仕様書

工事名称　　仮称芳野市民センター新築工事

工事場所　　川越市大字北田島１４４番地１

【工事の大要】
仮称芳野市民センターを新築する工事である。

構造：鉄筋コンクリート造
規模：地上２階建て　延べ面積　８８３．２０㎡

・建築工事　　一式

・本工事は、「週休２日制適用工事（現場閉所型）」の対象工事である。

名　　称	数　　量	単位	金　　額	備　　考
直接工事費				
建築工事	1	式		
昇降機設備工事	1	式		
計				
共通費				
共通仮設費	1	式		
現場管理費	1	式		
一般管理費等	1	式		
計				
工事価格	1	式		
消費税等相当額	1	式		
工事費	1	式		

名　　称	数　　量	単位	金　　額	備　　考
建築工事	1	式		
昇降機設備工事	1	式		
計				

建築工事				
名　称	数　量	単位	金　額	備　考
直接仮設工事	1	式		
土工事	1	式		
地業工事	1	式		
鉄筋工事	1	式		
ｺﾝｸﾘｰﾄ工事	1	式		
型枠工事	1	式		
鉄骨工事	1	式		
防水工事	1	式		
ﾀｲﾙ工事	1	式		
木工事	1	式		
屋根及びとい工事	1	式		
金属工事	1	式		
左官工事	1	式		
建具工事	1	式		
ｶﾞﾗｽ工事	1	式		
塗装工事	1	式		
内外装工事	1	式		
雑工事	1	式		
計				

外構工事

名　　称	数　　量	単位	金　　額	備　　考
外構工事	1	式		
撤去工事	1	式		
発生材処理	1	式		
計				

昇降機設備工事

名　　称	数　　量	単位	金　　額	備　　考
昇降機設備工事	1	式		
計				

≪週休２日制適用工事（現場閉所型）に係る特記仕様書≫

本工事は「週休２日制適用工事（現場閉所型）」の対象工事である。

本工事は、月単位の週休２日を採用している。週休２日が守れなかった場合は減額変更となります。

実施は、川越市週休２日制適用工事要領（建築工事）（令和６年１１月１日施行） によるものとする。

同要領は、川越市総務部技術管理課ホームページで確認のこと。

技術管理課ホームページで確認のこと。

川越市総務部技術管理課ホームページ

https://www.city.kawagoe.saitama.jp/sangyo/nyusatsu/1011724/1011747.html川越市総務部技術管理課ホームページ

川越市

工事に伴う環境調査等仕様書

本業務においては、以下の環境調査等仕様書のうち「事前調査」に係る内容について適用するものとする。

第１章　総　　則

（目的）

第１条　この仕様書は、「公共事業に係る工事の施行に起因する地盤変動により生じた建物等の損害等に係る事務処理要領」（昭和６１年４月１日建設事務次官通知）（以下「事務処理要領」という）第２条（事前調査等）第５号建物等の配置及び現況、第４条（損害等が生じた建物等の調査）の調査に係る業務（以下「環境調査等」という。）を行う場合の内容その他必要とする事項を定めるものとし、もって業務の適正な執行を確保するものとする。

２　環境調査等の業務の実施上、この仕様書記載の内容により難いとき又は特に指示しておく事項があるときは、この仕様書とは別に、特記仕様書を定めることができるものとし、適用にあたっては特記仕様書を優先するものとする。

（用語の定義）

第２条　用語の定義は、次の各号に定めるとおりとする。

一　「調査区域」とは、環境調査等を行う区域として別途図面等で指示する範囲をいう。

二　「監督員」とは、川越市建設工事標準請負契約約款（以下「約款」という。）第９条に定める者をいう。

三　「現場責任者」とは、環境調査等の業務に関し７年以上の実務経験を有する者、又はこの環境調査等の業務に関する補償業務管理士（社団法人日本補償コンサルタント協会の補償業務管理士研修及び検定試験実施規程第 14 条に基づく補償業務管理士登録台帳に登録されている者をいう。）等、発注者がこれらの者と同等の知識及び能力を有するものと認めた者をいう。

四　「権利者」とは、土地又は建物等の所有者及び所有権以外の権利を有する者をいう。

五　「指示」とは、発注者側の発議により監督員が受注者に対し、監督員の所掌業務に関する方針、基準及び計画等を示して実施させることをいい、原則として、書面により行うものとする。

六　「協議」とは、監督員と受注者とが相互の立場で環境調査等の内容又は取り扱い等について合議することをいう。

七　「報告」とは、受注者が環境調査等に係る権利者又は関係者等の情報及び業務の進捗状況等を、必要に応じて、監督員に報告することをいう。

八　「調査」とは、建物等の現状等を把握させるための現地踏査、立入調査又は管轄登記所（調査区域内の土地を管轄する法務局及び地方法務局（支局、出張所を含む。）等での調査をいう。

九　「調査書等の作成」とは、外業調査結果を基に行う各種図面の作成、費用負担額算定のための数量等の算出及び各種調査書の作成をいう。

（基本的処理方針）

第３条　受注者は、環境調査等を実施する場合において、この仕様書等に適合したものとなるよう、公正かつ的確に業務を処理しなければならないものとする。

（業務従事者の資格）

第４条　受注者は、現場責任者の管理の下に、環境調査等に従事する者（補助者を除く。）として、その業務に十分な知識と能力を有する者を当てなければならない。

第２章　環境調査等の実施手続き

（環境調査等の施行の原則）

第５条　受注者は、仕様書等に準拠し、調査区域内の土地等の権利者及び隣接する土地等の権利者等（以下「関係人」という。）並びに関係ある他の官公署と協調を保ち、監督員の指示を受けて正確かつ誠実に環境調査等を行うとともに、次の各号に定める事項を遵守しなければならない。

一　自ら行わなければならない関係官公署への届出等の手続きを迅速に処理しなければならない。

二　環境調査等で知り得た権利者側の事情及び成果物の内容を他に漏らしてはならない。本業務が完了した後も同様とする。

三　環境調査等が権利者の財産に関するものであり、損害等の有無の立証及び費用負担額算定の基礎となることを理解し、正確かつ良心的に行うことはもとより、権利者に不信の念を抱かせる言動を慎まなければならない。

四　権利者からの要望、陳情等があった場合には、十分その意向を把握したうえで、速やかに監督員に報告し、指示を受けなければならない。

（提出書類）

第６条　受注者は、業務従事者名簿等、監督員の指示する書類を、監督員の指定する期日までに提出しなければならない。

２　受注者は、環境調査等が完了したときは、速やかに関係図書を点検整備し、必要な書類を整えて、監督員に提出しなければならない。

（現地踏査）

第７条　受注者は、環境調査等の着手に先立ち調査区域の現地踏査を行い、地域の状況、土地及び建物等の概況を把握するものとする。

（監督員の指示等）

第８条　受注者は、環境調査等の実施に先立ち、現場責任者を立ち会わせたうえ監督員から業務の実施について必要な指示を受けるものとする。

２　受注者は、環境調査等の実施にあたりこの仕様書、特記仕様書又は監督員の指示について疑義が生じたときは、監督員と協議するものとする。

（協議、報告及び指示）

第９条　受注者は、当該業務において監督員に対して行う協議及び報告は、書面により行うものとする。

第 10 条　受注者は、環境調査等を着手するに当たっては、この仕様書及び特記仕様書並びに現地踏査の結果等を基に作業計画を策定するものとする。

２　受注者は、前項の作業計画が確実に実施できる執行体制を整備するものとする。

第 11 条　削除

（立ち入り及び立ち会い）

第 12 条　受注者は、環境調査等のために権利者の占有する土地、建物等に立ち入ろうとする場合は、あらかじめ、当該土地、建物等の権利者の同意を得なければならない。

２　受注者は、前項に規定する同意が得られたものにあっては立ち入りの日及び時間を、あらかじめ、監督員に報告するものとし、同意が得られないものにあってはその理由を付して、速やかに監督員に報告し、その指示を受けるものとする。

３　受注者は、環境調査等を行うため建物等の立入り調査を行う場合には、権利者の立会いを得なければならない。ただし、立会いを得ることができないときは、権利者の了解を得ることをもって足りるものとする。

（身分証明書の携帯）

第 13 条　受注者は、発注者から交付された身分証明書を環境調査等に従事する者に常時携帯させるものとする。

２　環境調査等に従事する者は、関係人から請求があったときは、身分証明書を提示しなければならない。

３　受注者は、環境調査等が完了したときは、速やかに、身分証明書を発注者に返納しなければならない。

第 14 条　削除

（監督員への進捗状況の報告）

第 15 条　受注者は、環境調査等の進捗状況について報告を求められたときは、これに応じなければならない。

２　受注者は、前項の進捗状況の報告に現場責任者を立ち会わせるものとする。

（成果物の一部提出等）

第 16 条　受注者は、環境調査等の実施期間中であっても、監督員が成果物の一部の提出を求めたときは、これに応ずるものとする。

２　受注者は、前項で提出した成果物について監督員が確認を行うときは、現場責任者を立ち会わせるものとする。

（検査）

第 17 条　受注者は、検査のために必要な資料の提出その他の処置について、監督員からの指示に速やかに従うものとする。

第３章　環境調査

第１節　調査

（調査）

第 18 条　調査は、事務処理要領第２条第５号の建物等の配置及び現況の調査（以下「事前調査」という。）と同第４条の損害等が生じた建物等の調査（以下「事後調査」という。）に区分して行うものとする。

（事前調査における一般事項）

第 19 条　受注者は、事前調査の実施にあたっては、調査区域内に存する建物等につき、建物の所有者ごとに次の各号の調査を行うものとする。

一　建物の敷地ごとに建物等（主たる工作物）の敷地内の位置関係

二　建物ごとに実測による間取り平面及び立面

この場合の計測の単位は、埼玉県の定める物件調査等仕様書第２編第１章「建物等の数量等の処理」を準用するものとする。

三　建物等の所在及び地番並びに所有者の氏名及び住所

現地調査において所有者の氏名及び住所が確認できないときは、必要に応じて登記事項証明書の交付等の方法により調査を行う。

四　その他調査書の作成に必要な事項

（事前調査における損傷調査）

第 20 条　受注者は、前条の一般的事項の調査が完了したときは、当該建物等の既存の損傷箇所の調査を行うものとし、当該調査は、原則として、次の部位別に行うものとする。

一　基　礎

二　軸　部

三　開口部

四　床

五　天　井

六　内　壁

七　外　壁

八　屋　根

九　水回り

十　外　構

2　建物の全体又は一部に傾斜又は沈下が発生しているときは、次の調査を行うものとする。

一　傾斜又は沈下の状況を把握するため、原則として、当該建物の四方向を水準測量又は傾斜計等で計測する。この場合において、事後調査の基準点とするため、沈下等のおそれのない堅固な物件を定め併せて計測を行う。

二　コンクリート布基礎等に亀裂等が生じているときは、建物の外周について、発生箇所及び状況（最大幅、長さ）を計測する。

三　基礎のモルタル塗り部分に剥離又は浮き上りが生じているときは、発生箇所及び状況（大きさ）を計測する。

四　計測の単位は、幅についてはミリメートル、長さについてはセンチメートルとする。

3　軸部（柱及び敷居）に傾斜が発生しているときは、次の調査を行うものとする。

一　原則として、当該建物の工事箇所に最も接近する壁面の両端の柱及び建物中央部の柱を全体で３箇所程度を計測する。

二　柱の傾斜の計測位置は、直交する二方向の床（敷居）から１メートルの高さの点とする。

三　敷居の傾斜の計測位置は、柱から１メートル離れた点とする。

四　計測の単位は、ミリメートルとする。

4　開口部（建具等）に建付不良が発生しているときは、次の調査を行うものとする。

一　原則として、当該建物で建付不良となっている数量調査を行った後、主たる居室から一室につき１箇所程度とし、全体で５箇所程度を計測する。

二　測定箇所は、柱又は窓枠と建付との隙間との最大値の点とする。

三　建具の開閉が滑らかに行えないもの、又は開閉不能及び施錠不良が生じているものは、その程度と数量を調査する。

四　計測の単位は、ミリメートルとする。

5　床に傾斜等が発生しているときは、次の調査を行うものとする。

一　えん甲板張り等の居室（畳敷の居室を除く。）について、気泡水準器で直交する二方向の傾斜を計測する。

二　床仕上げ材に亀裂及び縁切れ又は剥離、破損が生じているときは、それらの箇所及び状況（最大幅長さ又は大きさ）を計測する。

三　束又は大引、根太等床材に緩みが生じているときは、その程度を調査する。

四　計測の単位は、幅についてはミリメートル、長さ及び大きさについてはセンチメートルとする。

6　天井に亀裂、縁切れ雨漏等のシミ等が発生しているときの調査は、内壁の調査に準じて行うものとする。

7　内壁にちり切れ（柱及び内法材と壁との分離）が発生しているときは、次の調査を行うものとする。

一　居室ごとに発生個所数の調査を行った後、主たる居室のうちから一室につき１箇所、全体で 6 箇所程度を計測する。

二　計測の単位は、幅についてはミリメートルとする。

8　内壁に亀裂が発生しているときは、次の調査を行うものとする。

一　原則として、すべての亀裂の計測をする。

二　計測の単位は、幅についてはミリメートル、長さについてはセンチメートルとする。

三　亀裂が一壁面に多数発生している場合にはその状態をスケッチするとともに、壁面に雨滴等のシミが生じているときは、その形状、大きさの調査をする。

9　外壁に亀裂等が発生しているときは、次の調査を行うものとする。

一　四方向の立面に生じている亀裂等の数量、形状等をスケッチするとともに、一方向の最大の亀裂から２箇所程度を計測する。

二　計測の単位は、幅についてはミリメートルとし、長さについてはセンチメートルとする。

10　屋根（庇、雨樋を含む。）に亀裂又は破損等が発生しているときは、当該建物の屋根伏図を作成し、次の調査を行うものとする。

一　仕上げ材ごとに、その損傷の程度を計測する。

二　計測の単位は、原則として、センチメートルとする。ただし、亀裂等の幅についてはミリメートルとする。

11　水廻り（浴槽、台所、洗面所等）に亀裂、破損、漏水等が発生しているときは、次の調査を行うものとする。

一　浴槽、台所、洗面所等の床、腰、壁面のタイル張りに亀裂、剥離、目地切れ等が生じているときはすべての損傷を第８項に準じて行う。

二　給水、排水等の配管に緩み、漏水等が生じているときは、その状況等を調査する。

12　外構（テラス、コンクリート三和土、ベランダ、犬走り、池、浄化槽、門柱、塀、擁壁等の屋外工作物）に損傷が発生しているときは、前 11 項に準じて、その状況等の調査を行うものとする。この場合において、必要に応じ、当該工作物の平面図、立面図等を作成し、損傷箇所、状況等を記載する。

（写真撮影）

第 21 条　前条に掲げる建物等の各部位の調査に当たっては、計測箇所を次の各号により写真撮影するものとする。この場合において、写真撮影が困難な箇所又はスケッチによることが適当と認められる箇所については、スケッチによることができるものとする。

一　カラーフィルム又はデジタルカメラ対応改ざん防止メディアを使用する。

二　撮影対象箇所を指示棒等により指示し、次の事項を明示した黒板等と同時に撮影する。

(1) 調査番号、建物番号及び建物所有者の氏名

(2) 損傷名及び損傷の程度（計測）

(3) 撮影年月日、撮影番号及び撮影対象箇所

〔事後調査における損傷調査〕

第 22 条　受注者は、事前調査を行った損傷箇所等の変化及び工事によって新たに発生した損傷について、その状態及び程度を前３条の定めるところにより調査を行うものとする。

２　事前調査の調査対象外であって、事後調査の対象となったものについては、第 19 条事前調査における一般的事項に準じた調査を行ったうえで損傷箇所の調査を行うものとする。

第２節　調査書等の作成

（事前調査書等の作成）

第 23 条　受注者は、事前調査を行ったときは、次の各号の事前調査書及び図面を作成するものとする。

一　調査区域位置図

二　調査区域平面図

三　建物等調査一覧表

四　建物等調査図等

五　損傷調査書

六　写真集

（事前調査書及び図面）

第 24 条　受注者は、前条の事前調査書及び図面を次の各号により作成するものとする。

一　調査区域位置図は、工事の工区単位ごとに作成するものとし、調査区域と工事箇所を併せて表示する。この場合の縮尺は、５，０００分の１又は１０，０００分の１程度とする。

二　調査区域平面図は、調査区域内の配置を示す平面図で工事の工区単位又は調査単位ごとに次により作成する。

(1) 調査を実施した建物については、建物等調査一覧表で付した調査番号及び建物番号を記載し、建物の構造別に色分けし、建物の外枠（外壁）を着色する。この場合の構造別色分けは、木造を赤色、非木造を緑色とする。

(2) 縮尺は、５００分の１又は１，０００分の１程度とする。

三　建物等調査一覧表は、工事の工区単位又は調査単位ごとに調査を実施した建物等について調査番号、建物番号（同一所有者が２棟以上の建物等を所有している場合）の順に建物等の所在及び地番、所有者並びに建物等の概要等必要な事項を記入する。

四　建物等調査図（平面図・立面図等）は、第 19 条及び第 20 条の事前調査の結果を基に建物等ごとに次により作成するものとする。

(1) 建物平面図は、縮尺１００分の１で作成し、写真撮影を行った位置を表示するとともに建物延べ面積、各階別面積及びこれらの計算式を記入する。

(2) 建物立面図は、縮尺１００分の１により、原則として、四面（東西南北）作成し、外壁の亀裂等の損傷位置を記入する。

(3) その他調査図（基礎伏図、屋根伏図及び展開図）は、発生している損傷を表示する必要がある場合に作成し、縮尺は１００分の１又は１０分の１程度とする。この場合において写真撮影が困難であり、又は詳細（スケッチ）図を作成することが適当であると認めたものについては、スケッチによる調査図を作成する。

（4）工作物の調査図は、損傷の状況及び程度により建物に準じて作成する。

五　損傷調査書は、第 19 条及び第 20 条の事前調査の結果に基づき、建物ごとに建物等の所有者名、建物の概要、名称（室名）、損傷の状況を記載して作成し、損傷の状況については、事前調査欄に損傷名（亀裂、沈下、傾斜等）及び程度（幅、長さ及び箇所数）を記載する。

六　写真は、撮影したものをカラーサービス判で焼付し、必要な事項の記載を行ったうえでファイルする。

（事後調査書等の作成）

第 25 条　受注者は、事後調査を行ったときは、事前調査書及び図面を基に建物等の概要、損傷箇所の変化及び工事によって新たに発生した損傷について、第23条の各号の調査書及び図面を作成するものとする。

（調査業務の完了）

第 26 条　受注者は、調査した結果に基づいて、次の各号に掲げる資料等を綴り込み、成果物として、監督員に提出し、確認を受けるものとする。

一　調査区域位置図

二　調査区域平面図

三　建物等調査一覧表

四　建物等調査図

五　損傷調査書

六　写真集

七　その他必要と認められるもの

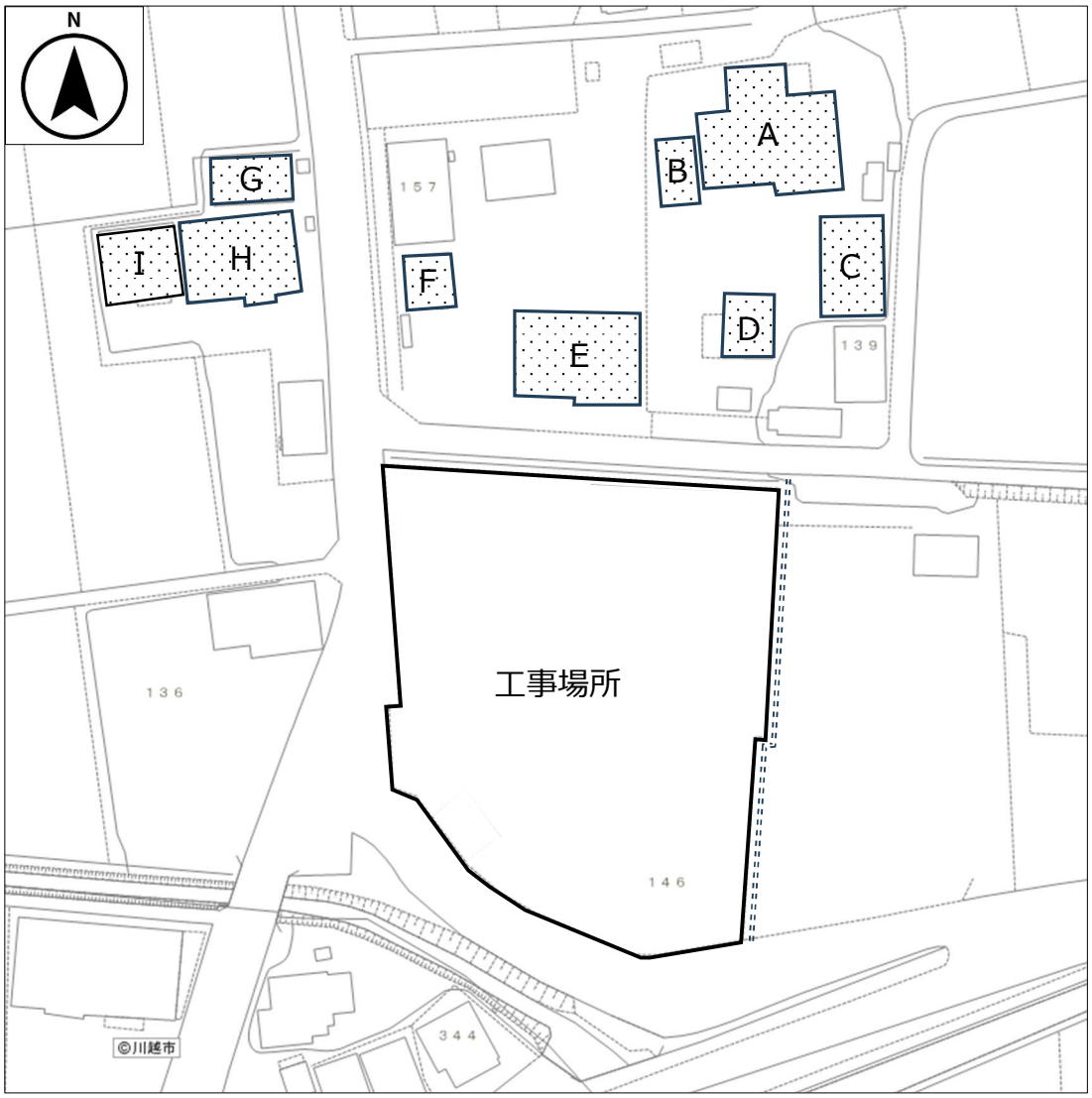
2　成果物は、種類別に編集し、表紙に年度、工事名、箇所（地区）名、業務の名称及び受注者名等を記載するとともに目次を付したうえ、容易に取り外すことが可能な方法により編綴するものとする。

この場合において、当該業務の実施に当たり使用した野帳等の原簿を提出するものとする。

工事場所：川越市北田島１４４－１

家屋記号	調査対象地番	用　途	構　造	階　数	延床面積	備考
A	北田島１３９－１	戸建住宅	木造	2 階建て	約 140 ㎡	木造 A
B	北田島１３９－１	蔵	組積造	2 階建て	約 40 ㎡	非木造 C
C	北田島１３９－１	戸建住宅	木造	平屋建て	約 100 ㎡	木造 A
D	北田島１３９－１	戸建住宅	木造	平屋建て	約 40 ㎡	木造 A
E	北田島１３９－3	居宅事務所	軽量鉄骨造	2 階建て	約 260 ㎡	非木造 A
F	北田島１５７－１	事務所	軽量鉄骨造	平屋建て	約 40 ㎡	非木造 A
G	北田島１３９－１	戸建住宅	鉄骨造	平屋建て	約 60 ㎡	非木造 A
H	北田島１３８－２	戸建住宅	木造	2 階建て	約 230 ㎡	木造 A
I	北田島１３４－２	戸建住宅	木造	平屋建て	約 80 ㎡	木造 A
J	北田島１４６－２ 北田島１４７－１	擁壁	鉄筋ｺﾝｸﾘｰﾄ造	RC 造部高さ ：約 1.8m	約 65m	－

※附帯工作物等については、『工事に伴う環境調査等仕様書』第 20 条第 12 項による。



----- ：J

仮称芳野市民センター新築工事

図面リスト

意匠図												構造図		
No		図面名称	SCALE(A2)	No		図面名称	SCALE(A2)	No		図面名称	SCALE(A2)	No	図面名称	SCALE(A2)
01-01		図面リスト	NS	12-01		展開図(1)	1/50	15-01	確24	法規チェック図(1)	1/150	S-01	特記仕様書(構造関係・その1)	NS
02-01	確01	設計概要・案内図	NS	12-02		展開図(2)	1/50	15-02	確25	法規チェック図(2)	NS	S-02	特記仕様書(構造関係・その2)	NS
03-01		工事区分表	NS	12-03		展開図(3)	1/50					S-03	構造関係共通図(配筋標準図・その1)	NS
				12-04		展開図(4)	1/50	21-01	確26	昇降機詳細図(1)	図示	S-04	構造関係共通図(配筋標準図・その2)	NS
04-01		特記仕様書(1)	NS	12-05		展開図(5)	1/50	21-02	確27	昇降機詳細図(2)	図示	S-05	構造関係共通図(配筋標準図・その3)	NS
04-02		特記仕様書(2)	NS	12-06		展開図(6)	1/50	21-03	確28	昇降機詳細図(3)	図示	S-06	構造関係共通図(配筋標準図・その4)	NS
04-03		特記仕様書(3)	NS	12-07		展開図(7)	1/50	21-04	確29	昇降機詳細図(4)	図示	S-07	構造関係共通図(鉄骨標準図・その1)	NS
04-04		特記仕様書(4)	NS	12-08		展開図(8)	1/50					S-08	構造関係共通図(鉄骨標準図・その2)	NS
04-05		特記仕様書(5)	NS	12-09		展開図(9)	1/50	22-01		外構撤去配置図	1/300	S-09	杭頭補強筋New-BAR標準図	NS
04-06		特記仕様書(6)	NS	12-10		展開図(10)	1/50	22-02		外構撤去詳細図(参考図)(1)	図示	S-10	ボーリング柱状図(1)	NS
				12-11		展開図(11)	1/50	22-03		外構撤去詳細図(参考図)(2)	図示	S-11	ボーリング柱状図(2)	NS
05-01	確02	一般共通事項・外部仕上表・参考品番	NS	12-12		展開図(12)	1/50					S-12	ボーリング柱状図(3)	NS
05-02	確03	内部仕上表	NS					41-01		サインキープラン		S-13	伏図(1)	1/200
				13-01	確17	建具共通事項	NS	41-02		サイン詳細図(1)	図示	S-14	伏図(2)	1/200
06-01		現況図	1/300	13-02	確18	建具キープラン	NS	41-03		サイン詳細図(2)	図示	S-15	伏図(3)	1/200
				13-03	確19	建具表(1)	NS	41-04		サイン詳細図(3)	図示	S-16	軸組図(1)	1/200
07-01	確04	敷地求積図	1/300	13-04	確20	建具表(2)	NS	41-05		サイン詳細図(4)	図示	S-17	軸組図(2)	1/200
07-02	確05	平均地盤面図算定	1/150	13-05	確21	建具表(3)	NS					S-18	杭・基礎リスト	NS
07-03	確06	法定面積表	1/300	13-06	確22	建具表(4)	NS	51-01		仮設計画図(参考図)	1/300	S-19	基礎梁・基礎小梁リスト	NS
07-04	確07	各室求積図	1/300	13-07	確23	建具表(5)	NS					S-20	柱・大梁リスト	NS
												S-21	小梁・壁リスト	NS
08-01	確08	配置図	1/300	14-01		各部詳細図(1)	図示					S-22	スラブリスト	NS
08-02	確09	ピット図	1/150	14-02		各部詳細図(2)	図示					S-23	架構詳細図(1)	図示
08-03	確10	平面図	1/150	14-03		各部詳細図(3)	図示					S-24	架構詳細図(2)	図示
08-04	確11	屋根伏図	1/150	14-04		各部詳細図(4)	図示					S-25	各部詳細図(1)	図示
				14-05		各部詳細図(5)	図示					S-26	各部詳細図(2)	図示
09-01	確12	立面図	1/150	14-06		各部詳細図(6)	図示							
09-02	確13	断面図	1/150	14-07		各部詳細図(7)	図示							
09-03		矩計図(1)	1/50	14-08		各部詳細図(8)	図示							
09-04		矩計図(2)	1/50	14-09		各部詳細図(9)	図示							
09-05		矩計図(3)	1/50	14-10		各部詳細図(10)	図示							
				14-11		庇詳細図(参考図)	図示							
10-01		天井伏図	1/150	14-12		トイレブース詳細図(1)(参考図)	図示							
				14-13		トイレブース詳細図(2)(参考図)	図示							
11-01	確14	平面詳細図(1)	1/50	14-14		家具詳細図(1)	図示							
11-02		平面詳細図(2)	1/50	14-15		家具詳細図(2)	図示							
11-03		平面詳細図(3)	1/50	14-16		移動間仕切詳細図(参考図)	図示							
11-04		平面詳細図(4)	1/50	14-17		カーテンウォール詳細図(1)(参考図)	図示							
11-05		平面詳細図(5)	1/50	14-18		カーテンウォール詳細図(2)(参考図)	図示							
11-06		平面詳細図(6)	1/50	14-19		カーテンウォール詳細図(3)(参考図)	図示							
11-07	確15	屋内階段詳細図	図示	14-20		ルーバー詳細図(1)	図示							
11-08	確16	屋外階段詳細図	図示	14-21		ルーバー詳細図(2)	図示							
				14-22		止水板詳細図	図示							
				14-23		壁面鏡詳細図	図示							

訂正

月 日	事 項		

株式会社ユニバァサル設計
UNIVERSAL DESIGN OFFICE INC.

事務所登録: 東京本部一級建築士事務所 一級建築士事務所 東京都知事登録 第22736号
設計者: 一級建築士 登録第362390号 屋野 康二
法適合確認結果等

工事名称: 仮称芳野市民センター新築工事
図面名称: 図面リスト
作成: 2025 年 2 月 17 日
承認
部長 課長 担当 製図
縮尺: NS
設計No.
図面No.: 01-01

1. 工事名称

工事名称	仮称芳野市民センター新築工事
建設地	（地名地番）　埼玉県川越市大字北田島144-1 （住居表示）　－
主要用途	【建築基準法】集会場（公民館、出張所）　【消防法】(16)項イ　複合用途防火対象物 ※公民館(1)+出張所(15)
工事種別	(新築)・増築・別棟増築・改築・改修（大規模の修繕）・室内装飾 別途変更（大規模の模様替）・仮設建築・解体・移設・移転

2. 敷地状況

敷地面積	公　簿　－　㎡ 実　測　2,991.39　㎡	建ぺい率 容積率	基準建ぺい率　60 % 基準容積率　200 %
用途地域	低層住居専用（第　種）・中高層住居専用（第　種）・住居地域（第1種・第2種） 準住居・近隣商業・商業・準工業・工業・工業専用・(指定なし)	日影制限：(有)・無　※建物高さ10m未満のため制限対象外 平均地盤面からの高さ　－ m 敷地境界線より5mを越え10m以内の範囲　－ 時間以上 敷地境界線より10mを越える範囲　－ 時間以上	
防火地域	防火・準防火・(指定なし)・特定行政庁の指定地域（法22条）		
その他の地域地区	(都市計画区域内)・都市計画区域外・市街化区域・(市街化調整区域)・特別工業地区・特別用途地区・美観地区・再開事業区域・特定街区・改良地区 文教地区（　）・風致地区（　）・高度地区(第二・三種)・駐車場整備地区・電波伝搬障害防止地区・多雪地区・災害危険地区 緑地地区・土地区画整理事業地区・宅地造成工事規制区域・国立公園・国定公園・河川敷・その他：(下水道処理区域内)		

3. 構造・規模

構　造	ＳＲＣ造・(ＲＣ造)・ＰＣ造・鉄骨造・軽量鉄骨造・ＣＢ造・木造・その他		階　数	最高高さ	最高軒高
構造形式	(ラーメン造)・壁・立体トラス・シェル・折版・その他	申請建物1 本体棟	（Ｂ：－） （Ｆ：２） （Ｐ：－）	設計ＧＬ＋9.550 m 平均ＧＬ＋9.495 m	設計ＧＬ＋7.900 m 平均ＧＬ＋7.845 m
基　礎	地盤支持（ベタ・布・(独立)　その他（　）				
	杭支持　(ＲＣ杭)・ＰＣ杭・アースドリル・ベノト・深礎・その他（柱状改良）	申請建物2 外物置	（Ｂ：－） （Ｆ：１） （Ｐ：－）	設計ＧＬ＋2.485 m 平均ＧＬ＋2.509 m	設計ＧＬ＋2.331 m 平均ＧＬ＋2.355 m
増築予定	有・(無)				
その他		申請建物3 油庫	（Ｂ：－） （Ｆ：１） （Ｐ：－）	設計ＧＬ＋2.450 m 平均ＧＬ＋2.450 m	設計ＧＬ＋2.450 m 平均ＧＬ＋2.450 m

4. 面　積

	申請建物1 本体棟	申請建物2 外物置	申請建物3 油庫	他の建築物	合　計	建ぺい率・容積率
建築面積	570.49 ㎡	11.62 ㎡	3.73 ㎡	0.00 ㎡	585.84 ㎡	585.84 ㎡ 計画 19.59 % ≦ 許容 60.00 %
延床面積	883.20 ㎡	11.62 ㎡	3.73 ㎡	0.00 ㎡	898.55 ㎡	対象面積 881.57 ㎡ 計画 29.48 % ≦ 許容 200.00 %

5. 床面積

申　請　建　物　1

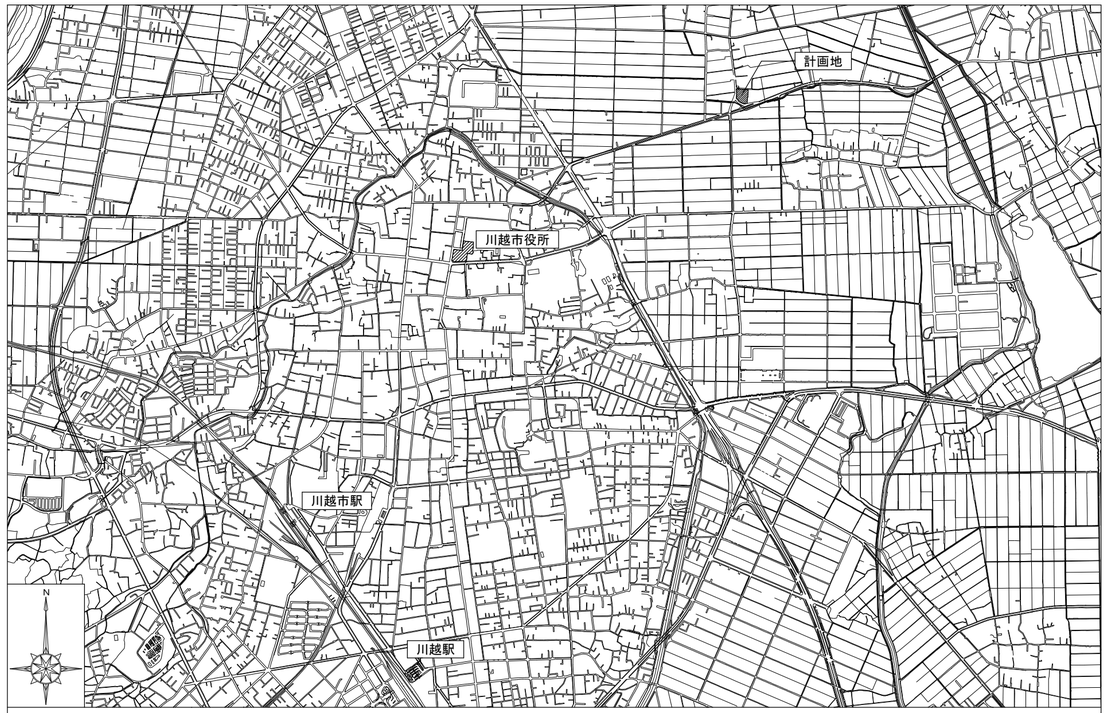
階　別	申　請　部　分	申請以外の部分	階　高	主要用途
2階	463.48 ㎡	－ ㎡	－ m	集会場
1階	419.72 ㎡	－ ㎡	4.00 m	集会場
小計	883.20 ㎡	－ ㎡		

申　請　建　物　2

1階	11.62 ㎡	－ ㎡	－ m	倉庫
小計	11.62 ㎡	－ ㎡		

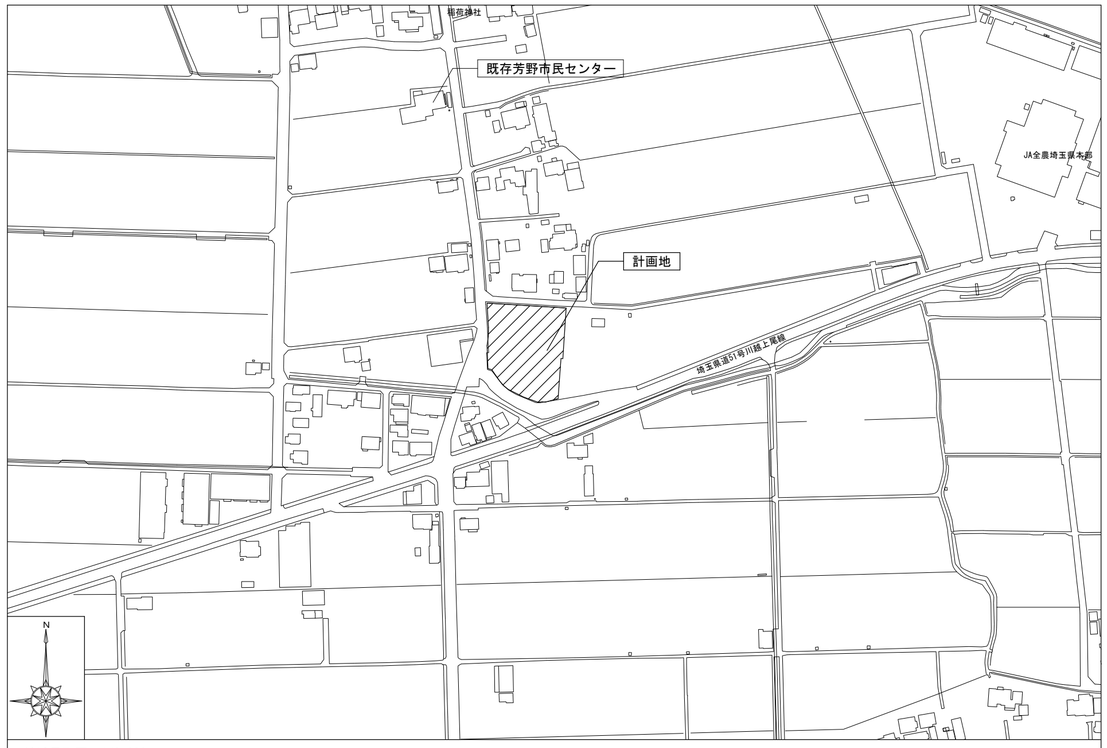
申　請　建　物　3

1階	3.73 ㎡	－ ㎡	－ m	倉庫
小計	3.73 ㎡	－ ㎡		



案内図　1/20,000

出典：国土地理院 基盤地図情報を加工して作成



付近見取図　1/3,000

出典：国土地理院 基盤地図情報を加工して作成

訂正	月　日	事　項		

unlversal 株式会社ユニバァサル設計
UNIVERSAL DESIGN OFFICE INC.

事務所登録	東京本部一級建築士事務所 一級建築士事務所 東京都知事登録 第22736号		
設計者	一級建築士　登録第362390号　星野　康二	法適合確認結果等	

工事名称	仮称芳野市民センター新築工事	図面名称	設計概要・案内図	縮尺 A2:NS A3:NS
作成	2025 年 2 月 17 日	承認	部長　課長　担当　製図	設計No.

図面No. 02-01 確01

工事名　仮称芳野市民センター新築工事

特記仕様書

Ⅰ　工事概要

1．工事場所　埼玉県川越市大字北田島144-1
　用途地域　指定なし

2．敷地面積　2,991.39 ㎡

3．工事種目（建物概要）　1棟　RC造　2階建て（地下　0階・ＰＨ　0階）

　建築面積　570.49 ㎡

　延べ面積　883.20 ㎡

　床面積

　計画建物(本棟)

　1階　419.72 ㎡

　2階　463.48 ㎡

4．工　期　契約工期　　契　約　　日から令和8年9月30日まで

5．工事範囲

㊟「3．工事種目」全てを工事範囲とする。
・「3．工事種目」のうち＿＿＿＿＿＿の工事範囲は下記表のとおりとする。
　ただし、他の工事種目は全て今回工事範囲とする。

② 仮設工事	※工事範囲全て
③ 土工事	※工事範囲全て
④ 地業工事	※工事範囲全て
⑤ 鉄筋工事	※工事範囲全て
⑥ コンクリート工事	※工事範囲全て
⑦ 鉄骨工事	※工事範囲全て
8 ｺﾝｸﾘｰﾄﾌﾞﾛｯｸ・ＡＬＣﾊﾟﾈﾙ・押出成形セメント板工事	
⑨ 防水工事	※工事範囲全て
１０ 石工事	
１１ タイル工事	※工事範囲全て
１２ 木工事	※工事範囲全て
１３ 屋根及びとい工事	※工事範囲全て
１４ 金属工事	※工事範囲全て
１５ 左官工事	※工事範囲全て
１６ 建具工事	※工事範囲全て
１７ カーテンウォール工事	※工事範囲全て
１８ 塗装工事	※工事範囲全て
１９ 内装工事	※工事範囲全て
２０ ユニット及びその他の工事	※工事範囲全て
２１ 排水工事	・機械設備工事範囲は別途工事
２２ 舗装工事	
２３ 植栽及び屋上緑化工事	

Ⅱ　建築工事仕様

（１）質問回答書、本特記仕様書及び図面に記載されていない事項は、すべて~~「埼玉県建築工事特別共通仕様書」及び~~国土交通省大臣官房官庁営繕部監修「公共建築工事標準仕様書（建築工事編）令和4年版」（以下、「標準仕様書」という。）による。
　なお、新たな版が出版され、当該基準によりがたい場合は、監督員と協議し、適用する基準等を決定する。
（２）標準仕様書で「特記がなければ、」以下に具体的な材料・工法・検査方法等を明示している場合において、それらが関係法令等（条例を含む）と異なる場合には、具体的な対応策について監督員と協議すること。
（３）特記仕様書の表記
　１）項目は、番号に○印の付いたものを適用する。
　２）特記事項は、・印の付いたものを適用する。・印の付かない場合は、※印の付いたものを適用する。
　　・印と ㊟ 印の付いた場合は、共に適用する。・印 と ※の場合は、・のみを適用する。
　~~３）特記事項に記載の（　．　．）内の表示番号は、「埼玉県建築工事特別共通仕様書」の当該項目、当該図表を示す。~~
　４）特記事項に記載の（　．　．）内の表示番号は、標準仕様書の当該項目、当該図表を示す。
　５）製造所名は、五十音順とし「株式会社」等の記載は省略する。また（　）内は製品名を示す。
　~~６）上記において、「環境物品等の調達の推進に関する基本方針（令和5年2月24日変更閣議決定）」及び、「埼玉県グリーン調達・環境配慮契約推進方針（最新版）」による特定調達品目のうち、「判断の基準」を満たす環境物品等（以下「特定調達物品等」という。）を選択するよう努めるものとする。~~
　~~なお、[G]印は設計図書で定めのある品目を示す。~~

章	項目	特記事項
① 一般共通事項	① 適用基準等	・埼玉県建築工事実務要覧に記載の要領等 ※建築工事監理指針（国土交通省監修）（参考図書） ※建築工事標準詳細図（国土交通省大臣官房官庁営繕部整備課監修　令和４年版） なお、新たな版が出版され、当該基準によりがたい場合は、監督員と協議し、適用する基準等を決定する。
	② 条件明示事項	保険の種類 (1.1.3) ※法定外の労災保険（工事に従事する者(全ての下請負人を含む)の業務上の負傷等を対象とするもの） ※建設工事保険等（工事目的物及び工事材料等を対象とするもの） ※請負業者賠償責任保険等 保険の期間　※工事完成期日後１４日を含む期間　・
	③ 工事実績情報ｼｽﾃﾑ コリンズへの登録	※行う（請負代金額500万円以上，10日以内に登録）　・行わない　(1.1.4) {1.1.8}
	④ 適用区分	建築基準法に基づき定まる風圧力及び積雪荷重の算定には次の条件を用いる。 ・風圧力　風速（Vo= 32 m/s）　地表面粗度区分（・Ⅰ　・Ⅱ　○Ⅲ　・Ⅳ） ・積雪荷重　H12.5.31告示第1455号における区域　別表（ 30 ）
	⑤ 別契約の関連工事	※監督員指定の別契約工事を今回工事全体としてとらえ、主導的に調整する。(1.1.7) ・監督員指定の別契約工事が行う全体調整に全面的に協力する。 ・別契約関連工事 仮称芳野市民センター新築外構工事（工事時期：令和8年7月～令和9年1月） 仮称芳野市民センター新築植栽工事（工事時期：令和8年7月～令和9年2月） 仮称芳野市民センター新築電気設備工事（工事時期：令和7年8月～令和8年10月） 仮称芳野市民センター新築機械設備工事（工事時期：令和7年8月～令和8年10月） 外周道路整備工事（工事時期：令和8年7月～令和9年2月）
	6 施工に注意を要する区域等	本工事場所は以下の区域等に指定等されているため、施工計画の作成及び施工に当たっては関係法令等の遵守に十分注意する。(1.1.12、13) ・周知の埋蔵文化財包蔵地　・史跡名勝天然記念物 ・　・
	7 工事の記録	埼玉県建築工事写真作成要領に基づき作成し、監督員に提出する。　(1.2.4) {1.6.5} 川越市電子納品運用ｶﾞｲﾄﾞﾗｲﾝ　・適用する(CD-R又はDVD-Rで１部提出)　・適用しない
	⑧ 電気保安技術者	適用する　(1.3.3) {1.3.1}
	⑨ 施工条件	施工時間　(1.3.5) ※行政機関の休日に関する法律（S63第91号）に定める行政機関の休日以外とする。 ただし、監督職員の承諾を受けた場合はこの限りでない。 ・以下の期間を除いた現場閉所日数の割合が28.5%(8日/28日)以上であること 年末年始6日間、夏季休暇3日間、工場製作のみの期間、工事全体の一時中止期間 指定期間（　　） 施工時間以外の施工条件 ・図示による　・
	⑩ 施工中の安全確保	本工事の受注者を、作業が同一の場所において行われることによって生じる労働災害を防止するために必要な措置を講ずべき者（統括安全衛生管理義務者）とする。(1.3.7)
	⑪ 施工中の環境保全等	建設機械は、原則として排出ガス対策型、低騒音型、低振動型を使用する。　(1.3.10)
	⑫ 発生材の処理等	(1.3.11) {1.1.13} 引渡しを要するもの ※無し（全て構外搬出適正処理）　・有り（※図示　・　　） 注 a）発生材のうち特記により、引き渡しを要するものは、指示された場所に整理のうえ調書を添えて監督員に報告する。 b）産業廃棄物処理許可書及び最終処理受入票の写しを提出する。 c）引き渡しを要しないものは、すべて構外に搬出し、「資源の有効な利用の促進に関する法律」「建設工事に係る資材の再資源化等に関する法律」（以下「建設リサイクル法」という。）「廃棄物の処理及び清掃に関する法律」その他関係法令等により適切に処理し監督員に報告する。
	⑬ 県産品の使用	受注者は、工事材料に係る納入契約を締結する場合には、当該契約の相手方は埼玉県内に本店を有する者の中から選定するように努めるとともに、調達する工事材料は、埼玉県産とするよう努める。　(1.4.2)
	⑭ 環境への配慮	建築物内部に使用する材料等は、設計図書に規定する所要の品質及び性能を有すると共に、次の①から④を満たすものとする。　(1.4.1) {1.4.3} ① 合板、木質系フローリング、構造用パネル、集成材、単板積層材、ＭＤＦ、パーティクルボード、その他の木質建材、ユリア樹脂板、壁紙、接着剤、保温材、緩衝材、断熱材、塗料、仕上塗材は、アセトアルデヒド及びスチレンを発散しないか、発散が極めて少ない材料で、設計図書に規定する「ホルムアルデヒドの放散量」の区分に応じた材料を使用する。 ② 接着剤及び塗料はトルエン、キシレン及びエチルベンゼンの含有量が少ない材料を使用する。 ③ 接着剤は、可塑剤（フタル酸ジ-ｎ-ブチル及びフタル酸ジ-2-エチルヘキシルを含有しない難揮発性の可塑剤を除く）が添加されていない材料を使用する。 ④ ①の材料等を使用して作られた家具、書架、実験台、その他の什器類等は、ホルムアルデヒド、アセトアルデヒド及びスチレンを発散しないか、発散が極めて少ない材料を使用したものとする。
	⑮ 材料の品質等	※本工事に使用する材料等は、設計図書に定める品質及び性能と同等以上のものを使用する。ただし製造業者等が指定されている場合に同等以上かもしくとする場合は、あらかじめ監督員の承諾を受ける。　(1.4.2) ※材料・機材等の製造業者等は次の①から⑥すべての事項を満たすものとし、この証明となる資料又は外部機関が発行する品質及び性能等が評価されたことを示す書面を提出して監督員の承諾を受ける。 ① 品質及び性能に関する試験データが整備されていること ② 生産施設及び品質の管理が適切に行われていること ③ 安定的な供給が可能であること ④ 法令等で定める許可、認可、認定又は免許等を取得していること ⑤ 製造又は施工の実績があり、その信頼性があること ⑥ 販売、保守等の営業体制が整えられていること ※製材等、フローリング又は再生木質ボードを使用する場合は、グリーン購入法の基本方針の判断の基準に従い、あらかじめ「木材・木材製品の合法性、持続可能性の証明のためのｶﾞｲﾄﾞﾗｲﾝ」（林野庁 H18.2.15）に準拠した証明書を監督員に提出する。
	16 技能士	(1.5.2) {1.3.3}

適用工事種別	技能検定作業
仮設工事	・とび作業
鉄筋工事	・鉄筋組立て作業
コンクリート工事	・型枠工事作業　・ｺﾝｸﾘｰﾄ圧送工事作業
鉄骨工事	・構造物鉄工作業　・とび作業
ｺﾝｸﾘｰﾄﾌﾞﾛｯｸ･ALCﾊﾟﾈﾙ 押出成形ｾﾒﾝﾄ板工事	・ｺﾝｸﾘｰﾄﾌﾞﾛｯｸ工事作業 ・ｴｰｴﾙﾊﾟﾈﾙ工事作業
防水工事	・ｱｽﾌｧﾙﾄ防水工事作業　・ｳﾚﾀﾝｺﾞﾑ系塗膜防水工事作業 ・ｱｸﾘﾙｺﾞﾑ系塗膜防水工事作業　・合成ｺﾞﾑｼｰﾄ防水工事作業 ・塩化ﾋﾞﾆｰﾙ系ｼｰﾄ防水工事作業　・ｾﾒﾝﾄ系防水工事作業 ・ｼｰﾘﾝｸﾞ防水工事作業　・改質ｱｽﾌｧﾙﾄｼｰﾄｰﾄﾞ工法防水工事作業 ・FRP防水工事作業
石工事	・石張り作業
タイル工事	・タイル張り作業
木工事	・大工工事作業
屋根及びとい工事	・内外装板金作業
金属工事	・鋼製下地工事作業　・内外装板金作業
左官工事	・左官作業
建具工事	・ｱﾙﾐ用ｻｯｼ施工作業　・ガラス工事作業　・自動ドア施工作業
ｶｰﾃﾝｳｫｰﾙ工事	・金属製カーテンウォール工事作業　・ｱﾙﾐ用ｻｯｼ施工作業 ・ガラス工事作業
塗装工事	・建築塗装作業　・木工塗装作業
内装工事	・ﾌﾟﾗｽﾁｯｸ系床仕上げ工事作業　・カーペット系床仕上作業 ・ボード仕上げ工事作業　・壁装作業　・保温保冷工事作業
排水工事	・建築配管作業
舗装工事	・溶融ﾍﾟｲﾝﾄﾏｰｶｰ工事作業　・加熱ﾍﾟｲﾝﾄﾏｼﾝﾏｰｶｰ工事作業
植栽工事	・造園工事作業
その他	・ｺﾝｸﾘｰﾄﾌﾞﾛｯｸ工事作業

⑰ 化学物質の濃度測定		(1.5.9)

対象化学物質	判定基準	備考
ホルムアルデヒド	100μg/m³（0.08ppm）以下	※厚生労働省が定める指針値、量単位の換算は２５℃
トルエン	260μg/m³（0.07ppm）以下	
キシレン	200μg/m³（0.05ppm）以下	
エチルベンゼン	3,800μg/m³（0.88ppm）以下	
スチレン	220μg/m³（0.05ppm）以下	
パラジクロロベンゼン	240μg/m³（0.04ppm）以下	

測定方法
採取及び分析は、法令に基づき空気中の物質の濃度に係る証明を行う者が行う。
①検体の採取方法　※吸引方式(アクティブ法)又は拡散方式(パッシブ法)
・吸引方式(アクティブ法)　・拡散方式(パッシブ法)

②アクティブ法
ホルムアルデヒドは、ジニトロフェニルヒドラジン誘導体固相吸着／溶媒抽出法によって採取し、高速液体クロマトグラフ法（以下ＨＰＬＣ）により行う。
トルエン、キシレン、エチルベンゼン、スチレン及びパラジクロロベンゼンは、固相吸着／溶媒抽出法、固相吸着／加熱脱着法、容器採取法のいずれかを用いて採取し、ガスクロマトグラフ／質量分析法（以下ＧＣ／ＭＳ）により行う。
③パッシブ法
ホルムアルデヒドは、パッシブ採取機器により採取し、ＨＰＬＣ又はガスクロマトグラフ法（以下ＧＣ）あるいはＡＨＭＴ－吸光光度法のうち採取機器に適応した分析法による。
トルエン、キシレン、エチルベンゼン、スチレン及びパラジクロロベンゼンは、パッシブ採取機器により採取しＧＣまたはＧＣ／ＭＳのうち採取機器に適応した分析法による。
測定対象室　※監督員の指定する室　・図示
測定箇所数　※（　2　）箇所　・図示
測定時期　※工事完了後　○監督員指示による
報告書　※２部　・

⑱ 中間検査		

中間検査　※行う（ 川越市工事検査規則第３条 ）　・行わない　(1.6.2) {1.5.1}
中間検査実施回数（　2　）実施段階（　　）監督員の指示による
中間検査成績評定　※対象外　・対象（埼玉県建築工事成績評定要領第２）

⑲ 完成図等		(1.7.1～3) {1.6.1～3}

監督員の指示により~~埼玉県建築工事監督要綱別表第１~~に示す書類を原則電子データで提出する

完成図等の種類及び記入内容
完成(竣工)図（※監督員が指定した設計図面に完成時の状態を表現したもの）
図面情報電子化媒体　※CD-RまたはDVD-R　１部
CADデータの形式　※SXF(sfc)　○DXF　・JWW
（埼玉県建築工事図面情報電子化媒体作成要領による。CADﾃﾞｰﾀのﾊﾞｰｼｮﾝは監督員と協議する。）
保全に関する資料（通常取扱いに注意を要するものの使用方法を解説する）
~~完成写真 ［埼玉県建築工事写真作成要領に基づき作成する］~~
川越市電子納品運用ｶﾞｲﾄﾞﾗｲﾝ　・適用する(CD-R又はDVD-Rで提出)　・適用しない
撮影者　※監督員の承諾する撮影者　・
撮影箇所　※外部（5枚）内部（10枚）
着工時と完成時の状況を比較できるように撮影する
~~［埼玉県建築工事写真作成要領表示］~~
原本及びアルバムを各1部提出
原本(電子媒体：撮影時のJPEG)及びアルバム(紙媒体又は電子媒体)を各1部提出
RAWデータがある場合は、RAWデータも提出する。
パネル入り（外部全景）完成写真　・要　○不要
~~施設CADデータ　・要新しく提出　・要新しく作成~~

⑳ 保証書		(1.6.4)

防水工事　※屋上防水　・外壁防水　○金属屋根　・
建物引渡し日から10年間、受注者、施工者、材料ﾒｰｶｰの3者連名とし2部提出する。
上記以外　・１部提出

㉑ その他		

・予備材料　※監督員の指示による　・
・下請契約　・全体及び県内に分け、契約数及び契約金額の総計を提出する。
※川越市ワンデーレスポンス対象工事とする。
※週休２日制適用工事（現場閉所型）とする。
○着手に先立ち、工事打合せ用図面（A3二つ折り製本）を6部提出すること。
○地方自治法第199条に基づく、監査の対象となった場合、監査に係る事前質問への回答、資料の提出、事前監査及び本監査への出席及び質疑への回答、並びに、現場監査への対応に協力すること。

② 仮設工事

① 足場その他		(2.2.4)

「手すり先行工法に関するガイドライン」に基づく足場の設置に当たっては、同ガイドラインの別紙１「手すり先行工法による足場の組立て等に関する基準」における2の(2)手すり掴置き方式又は(3)手すり先行専用足場方式により行う。

墜落制止用器具の使用は、「墜落制止用器具の安全な使用に関するガイドライン」(厚生労働省 H30.6.22)による。
・フルハーネス型墜落制止用器具を用いる。

② 監督員事務所		(2.3.1)

規模　・既存建物内の一部を使用　・構内に新設　　㎡
・構内に新設　　㎡
○設置しない（下記備品のみ用意する）
備品（　名分相当）
・机　・椅子　・書棚　・黒板　・掛時計　・寒暖計　○長靴　○雨合羽
○保護帽　・懐中電灯　・墜落制止用器具　○軍手　・衣類ロッカー
・冷暖房機器　・消火器　・湯沸器　・茶器　・掃除用具　・電話機
・ＦＡＸ　・電子メール通信機器　・スキャナー　・プリンター

③ 現場表示板	・設置する（{1.1.12}による表示　※要　・不要）　・設置しない	(2.3.1) {1.1.12}
④ 工事用水	構内既存の施設　※利用できない　・利用できる（※有償　・無償）	
⑤ 工事用電力	構内既存の施設　※利用できない　・利用できる（別途施設調整を行うこと）	
⑥ 工事用搬入路	※図示　・	
⑦ 仮囲い	※設置位置等は監督員の指示による　○図示（仮設計画図(参考図)）	
⑧ 交通誘導員	必要に応じ搬入路付近に交通誘導員を配置する。 配置箇所　※監督員の指示による　・図示	
9 快適トイレ	仕様　※図示　・	

③ 土工事

① 埋戻し及び盛土		(3.2.3)

埋戻し及び盛土の種別
・Ａ種　適用場所（　　）
○Ｂ種　適用場所（　　）
・Ｃ種　適用場所（　　）土質（　　）受渡場所（　　）
・Ｄ種　適用場所（　　）
品質　細粒分（75μm以下）の含有率（重量百分率）の上限を50%未満とする。
・六価クロム溶出試験　・行う　・行わない

② 建設発生土の処理		(3.2.5)

○場外搬出適切処理（搬出場所：木材建材工業㈱リサイクルセンター　）
・構内指示の場所にたい積　・構内指示の場所に敷き均し
・UCRの受け入れに必要な土質調査を実施する。また、この調査による資料は他工区の工事へも利用する。

③ 山留めの撤去	鋼矢板等の抜き跡　※地盤の変形を防止する適切な措置を講ずる	(3.3.3)

④地業工事　⑤鉄筋工事　⑥コンクリート工事　⑦鉄骨工事
特記仕様書（構造関係）による

⑧ コンクリートブロック・ＡＬＣパネル及び押出成形セメント板工事

1 補強コンクリートブロック造	ブロックの種類	(8.2.2、3、5、7、9)

断面形状及び圧縮強さによる区分	正味厚さ(mm)	ﾓｼﾞｭｰﾙ呼び寸法(mm) 長さ	高さ	化粧の有無	適用箇所	備考
※空洞ブロックC(16)				・無　・有		
・				・無　・有		

モルタルの調合(容積比)※標準仕様書表8.2.1による　・セメント（　）：砂（　）
各部の配筋　※図示　・
目地仕上げ　・押し目地仕上げ　・化粧目地仕上げ
まぐさを受ける開口部両側のブロックのモルタル又はコンクリートで充填する範囲
※図示による

2 コンクリートブロック帳壁及び塀	ブロックの種類	

断面形状及び圧縮強さによる区分	正味厚さ(mm)	ﾓｼﾞｭｰﾙ呼び寸法(mm) 長さ	高さ	化粧の有無	(表8.3.1)以外の適用箇所	備考
・空洞ブロックC(16)				・無　・有		
・型枠状ブロック 20				・無　・有		

モルタルの調合(容積比)※標準仕様書表8.2.1による　・セメント（　）：砂（　）
塀に用いるブロックの正味厚さ　・
壁鉄筋の継手、定着及び末端部の折り曲げ形状　※図示　・
各部の配筋　※図示　・
充填するブロックの範囲　・図示　・

3 ＡＬＣパネル	ＡＬＣパネルの区分等	

区分			単位荷重(N/㎡) 正荷重	負荷重	厚さ(mm)	幅及び長さ	耐火性能(時間)	構法の種別
・外壁用	・一般	・平	・		・	図示による	・なし ・1	・A種・B種
	・コーナー	・意匠						
・間仕切壁用	・一般	・平	―		―	図示による	・なし ・1	・C種・D種・E種
	・コーナー	・意匠						
・屋根用	―	―	・	・	・	図示による	・0.5	※F種
・床用	―	―	・	―	・	図示による	・1 ・2	

パネルの相互の接合部に挿入する耐火目地材　・
外壁・屋根パネルの構法
建築基準法に基づき定まる風圧力の（・1・1.15・1.3）倍の耐風圧性能
パネル幅の最小限度を300mm未満とする場合　・
目地幅
パネル短辺小口相互の接合部、外壁、間仕切壁パネルの出隅及び入隅パネル接合部、パネルと他部材との取合い部の目地幅（mm）　※10～20　・
外壁、間仕切壁パネルの伸縮目地への耐火目地材の充填　・適用する　・適用しない

4 押出成形セメント板（ＥＣＰ）	ECPの種類等	

パネルの種類	形状	厚さ(mm)	幅(mm)	工法の種別	備考
・外壁パネル	・Ｆ（ﾌﾗｯﾄﾊﾟﾈﾙ）	・50・60・		・Ａ種 ・Ｂ種	
	・Ｄ（ﾃﾞｻﾞｲﾝﾊﾟﾈﾙ）	・50・60	600		
	・Ｔ（ﾀｲﾙﾍﾞｰｽﾊﾟﾈﾙ）	60			
・間仕切壁パネル	・Ｆ（ﾌﾗｯﾄﾊﾟﾈﾙ）	・50・60・		・Ｂ種 ・Ｃ種	
	・Ｄ（ﾃﾞｻﾞｲﾝﾊﾟﾈﾙ）	・50・60	600		
	・Ｔ（ﾀｲﾙﾍﾞｰｽﾊﾟﾈﾙ）	60			

外壁パネルの工法における耐風圧性能
建築基準法に基づき定まる風圧力の（・1・1.15・1.3）倍の耐風圧性能
パネル幅の最小限度を300mm未満とする場合　・
パネル相互の目地幅（mm）　・長辺（　）　・短辺（　）
出隅及び入隅のパネル接合目地の目地幅（mm）　※15程度　・
耐火構造以外の目地及び隙間の処理　※パネルの製造所の仕様

やむを得ず欠き込み等を行う場合は、下表の寸法を限度とする。ただし、欠損部分を考慮した強度を確認の上、施工計画書を提出する。

		孔あけ及び欠き込みの大きさ	切断後のパネルの残り部分の幅
ﾊﾟﾈﾙに孔あけを設ける場合	短辺	ﾊﾟﾈﾙ幅の1/2以下、かつ、300mm以下	150mm以下
	長辺	500mm以下	300mm以下
ﾊﾟﾈﾙに欠き込みを設ける場合	短辺	ﾊﾟﾈﾙ幅の1/2以下、かつ、300mm以下	300mm以下
	長辺	500mm以下	300mm以下

⑨ 防水工事

1 アスファルト防水	屋根保護防水 防水層の種別	

種別	施工箇所	断熱材 [G]	絶縁用シート	立上り部の保護
・Ａ－１			※ｶﾞﾗｽﾚﾝﾌｨﾙﾑ 厚さ0.15mm以上又はﾌﾗｯﾄﾔｰﾝｸﾛｽ70g/㎡程度	○乾式保護材
・Ａ－２				・ｺﾝｸﾘｰﾄ押え
・Ａ－３				・れんが押え（※JIS R 1250）
・Ｂ－１				・ﾓﾙﾀﾙ押え（屋内）
・Ｂ－２				
・ＡＩ－１		（材質）※JIS A 9521による押出法ﾎﾟﾘｽﾁﾚﾝﾌｫｰﾑ断熱材3種bA(ｽｷﾝ層付き) （厚さ）○ 40 mm　・	※ﾌﾗｯﾄﾔｰﾝｸﾛｽ 70g/㎡程度 ・	
・ＡＩ－２				
・ＡＩ－３				
・ＢＩ－１				
・ＢＩ－２				

改質アスファルトルーフィングシートの種類及び厚さ
※標準仕様書表9.2.3及び表9.2.4による
・JIS A 6013に基づく種類及び厚さ
用途による区分　・
材料による区分　※R種
厚さ　※（　　）mm以上　・
部分粘着層付改質アスファルトルーフィングシートの種類及び厚さ
※標準仕様書表9.2.5から標準仕様書表9.2.6による
・JIS A 6013に基づく種類及び厚さ
用途による区分　・
材料による区分　※R種
厚さ　※（　　）mm以上　・
立上り部への断熱材及び絶縁シート　※設置しない　・設置する
平場の保護コンクリートの厚さ
こて仕上げ　※水下　80mm以上　・
床タイル張り　※水下　60mm以上　・

・乾式保護材
窯業系パネルⅠ類　厚さ（　15　）mm　幅（　150　）mm

屋根露出防水
防水層の種別

種別	施工箇所	断熱材 [G]	仕上塗料
・Ｄ－１			種類 ※ｱｽﾌｧﾙﾄﾙｰﾌｨﾝｸﾞ類の製造所の仕様
・Ｄ－２			・
・ＤＩ－１		※標準仕様書9.2.2(9) (種類) (厚さ)(mm)	使用量 ※ｱｽﾌｧﾙﾄﾙｰﾌｨﾝｸﾞ類の製造所の仕様
・ＤＩ－２			・

高日射反射率防水の適用[G]　※適用する　・適用しない
改質アスファルトルーフィングシートの種類及び厚さ
※標準仕様書 表9.2.8による
・JIS A 6013に基づく種類及び厚さ
用途による区分　・
材料による区分　※R種
厚さ　※（　　）mm以上　・
部分粘着層付改質アスファルトルーフィングシートの種類及び厚さ
※標準仕様書 表9.2.7及び表9.2.8による
・JIS A 6013に基づく種類及び厚さ
用途による区分　・
材料による区分　※R種
厚さ　※（　　）mm以上　・

訂正	月　日	事項			
	. .				
	. .				
	. .				

universal 株式会社ユニバァサル設計
UNIVERSAL DESIGN OFFICE INC.

事務所登録	東京本部一級建築士事務所 一級建築士事務所 東京都知事知事登録 第22736号		
設計者	一級建築士　登録第362390号　星野　康二	法適合確認結果等	

工事名称　仮称芳野市民センター新築工事
作成　2025 年 2 月 17 日　承認

図面名称　特記仕様書(1)
縮尺　A2:NS　A3:NS
部長　課長　担当　製図　設計
図面No.　04-01

項目		A	E	M	G	備考
躯体関係						
1. ＲＣ造（梁・壁・床）の貫通孔・開口部	貫通スリーブ材及び取付け		○	○		
	補強を要する型枠材及び取付け	○				
	補強を要しない型枠材及び取付け		○	○		
	貫通孔・開口部の墨出し		○	○		
	貫通孔・開口部の補強	○				
	スリーブ・型枠の穴埋め	○	○	○		
2. Ｓ・ＳＲＣ造・梁貫通口	Ｓ・ＳＲＣ造貫通鋼管スリーブ・補強					
	使用されたスリーブの穴埋め					
	予備スリーブの穴埋め					
3. 設備機器の基礎	建築設計図に記入のあるもの	○				
	室内の基礎（建築設計図に記入のないもの）		○	○		
	室外・屋上の基礎	○				
	屋上の基礎で押さえコンにアンカーしない軽微なもの（配管架台類）		○	○		
	機器取付け用アンカー・架台		○	○		建築設計図にあるものはＡ
	屋内受水タンク用の基礎					
	空調屋外機用ﾌｪﾝｽ工事					
	屋外機の据付架台			○		
4. 昇降機関連	昇降路・機械室の躯体	○				
	機械室の床開口					
	機械室の床配管ピット・蓋					
	機械室の上げ床コンクリート打設・仕上					
	巻上機周囲のチェッカープレート敷					
	昇降路内ピット防水・集水桝・点検用タラップ	○				
	各階出入口穴あけ・同補強	○				
	出入口扉・三方枠	○				
	三方枠取付け・枠廻り埋戻し・同補強	○				
	昇降機がＲＣ造の時、軌条・中間ビーム・ブラケット他昇降路内の鉄製部材一式	○				
	機械室天井フック取付け					
	ホール押釦・インジケータ・銅索などの壁開口	○				
	機械室換気設備					
	昇降路がＳ造の時中層ビームブラケット受ピース	○				
	ＥＶ機械室からインターホンまでの配線工事		○			
	ＥＶ機械室からインターホンまでの配管工事		○			
5. その他	トラフ・ピット類（蓋を含む）	○				
	湧水・汚水ピット・ＲＣ造各種水槽	○				
	同上用防水・マンホール・タラップ一式	○				
	避雷設備・同接地工事					
	ＡＬＣ板の壁開口・補強					
	厨房排水溝					
	厨房グリース阻集器					
	オイルサービスタンクの防油堤					

項目		A	E	M	G	備考
仕上げ関係						
1. 軽鉄天井・壁下地	補強を要するボードの切り込み及び下地の補強	○				
	補強を要しないボードの切り込み		○	○		
	開口部の墨出し		○	○		
2. 既製間仕切り	切り込み及び補強	○				
	位置ボックス		○	○		
3. 吊ボルト及びインサート	設備機器・器具・配管・配線・ダクト用		○	○		
4. 外壁廻り	外壁ガラリ及びダクト接続用フランジ	○		○		ガラリはA
	ウェザーカバー・ベンドキャップ			○		
	換気扇			○		
5. 湯沸室廻り	流し台・吊戸棚・水切り棚・コンロ台	○		○		配管接続はM
	フード（標準詳細図のもの）					
	流し台の排水トラップ			○		
6. 浴室廻り	ユニットバス・シャワーユニット					
	既製浴槽（蓋を含む）					
	浴室及び便所の床排水金物					
7. 便所廻り	洗面カウンター	○				
	鏡（規格寸法のみ）	○		○		特注寸法はA
	衛生器具			○		
	身障用手すり（一般トイレ）	○				
	バリアフリートイレパック （大便器、汚物流し、洗面器、手洗器、電気温水器 背もたれ、手摺、鏡、L型カウンター他標準付属品共）			○		
	ベビーチェア、ベビーシート	○				
	紙巻器			○		
	取付下地補強	○				
	手洗い・掃除流しの排水トラップ			○		
8. 事務室廻り	ファンコイルカバー					
	家具組み込みの洗面器					
9. フリーアクセスフロア	フロアパネル及び支柱	○				
	コンセント		○			
	床パネルの切り込み加工	○				
10. その他	２重ピット及びトレンチのマンホール蓋					
	機器搬入用フック・ビーム					
	チェンブロック					
	化粧マンホール上蓋の表面仕上げ	○				
	点検口（天井・床下）	○				
	排煙口等の天井仕上材の取付け					
	自動閉鎖装置を取付ける防火戸の切り込み補強及びドアチェック、フロアヒンジ					
	消火器ＢＯＸ（壁埋込式）設置工事	○				消火器は別途
	自動扉・電動シャッターへの電源供給		○			
	自動扉・電動シャッターから付属のスイッチ・センサーへの配管工事		○			

項目		A	E	M	G	備考
屋外排水設備・外構						
1. 雨水	屋外雨水排水設備（Ｕ字溝）				○	
	桝及び桝蓋				○	
	雨水再利用設備					
	雨水浸透トレンチ				○	
2. 雑排水・汚水	屋外雑排水及び屋外汚水排水設備			○		
	桝及び桝蓋			○	○	天端調整はG
	化粧マンホール上蓋の表面仕上げ				○	
	外手洗い躯体、グレーチング				○	
	同上排水管の接続（コン柱共）			○		
3. 植栽	植栽及び客土					植栽工事
4. ユニット形浄化槽の躯体	ピット形の躯体及び砂充てん					
	上記以外のユニット形浄化槽本体・配管及び据付等					
	ピット形以外					
5. その他	駐車場ガソリントラップ					
	グリストラップ					
	外部物置及び物置基礎				○	
設備関連						
1. 空調設備	空調室外機・室内機への電源接続		○			
	空調リモコン線の配管・配線			○		
	空調リモコンの取付け			○		
2. 換気設備	換気機器への電源接続		○			
	汎用手元スイッチの取付け		○			
	２４時間換気スイッチの支給			○		
	２４時間換気スイッチの取付け		○			
	３φ用ｺﾝﾄﾛｰﾙｽｲｯﾁ及びｺﾝﾄﾛｰﾙﾎﾞｯｸｽの支給			○		
	３φ用ｺﾝﾄﾛｰﾙｽｲｯﾁ及びｺﾝﾄﾛｰﾙﾎﾞｯｸｽの取付け		○			
	全熱交換器への電源接続		○			
	全熱交換器スイッチの配管・配線			○		
	全熱交換器スイッチの取付け			○		
	調理室関係３φ給気・排気ファンの電源接続					
	調理室関係３φ給気～排気ファンの発停制御・連動（動力盤面操作）					
3. ガス設備	ガス給湯器の電源（コンセント）					
	ガス給湯器リモコン線の配管・配線					
4. 衛生設備 消火設備	機械設備で設置する制御盤の一次側電源接続		○			
	上記制御盤の二次側配管・配線		○			関連工事別
	消火水槽の電極取付けと配管・配線（消火ポンプ二次側）					
	ｽﾌﾟﾘﾝｸﾗｰ設置、高架水槽の電極取付けと配管・配線（警報出力含む）					
5. 警報設備	機械設備で設置する制御盤の警報信号の端子台出力					
	機械設備で設置する制御盤から警報盤までの配線と警報盤本体					

項目		A	E	M	G	備考
電気配線配管						
	機器付属の制御盤以降の配管配線（接地線共）		○			２次側
	機器付属の制御盤への電源供給配管配線		○			１次側
	自動制御と動力盤との電源供給の渡り配管配線		○			
	機器と付属操作スイッチの渡り配管配線		○	○		図面参照のこと
	煙感知器から連動制御盤を経て防煙ダンパに至る配管配線					
	小便器用節水装置の制御盤以降の配管配線					
	注油口内アース端子よりのアース用配管配線		○			自家発用はＥ
	遠方操作制御用配管配線（集中リモコン）			○		
	太陽電池モジュール屋根取付金物及び配管支持金物	○				
	外構照明器具・EV充電コンセント用配管配線		○		○	

絶縁断熱工法のルーフドレン回り及び立上り部周辺の断熱材の張りじまい位置
※図示 ・
絶縁工法及び絶縁断熱工法の脱気装置の種類及び設置数量
※アスファルトルーフィング類の製造所の指定
・種類（ ） 設置数量（ ）
屋内防水
防水層の種別

種別	施工箇所	種別	施工箇所
・Ｅ－１		・Ｅ－２	

保護層 ・設ける（※図示 ・ ） ・設けない
E-1の工程3を行う部位 ※貯水槽、浴槽等常時水に接する部位
防水層の下地の立上り
※コンクリート打放し仕上げ 標準仕様書表6.2.4[打放し仕上げの種別]のＢ種
・
立上り部の押え金物の材質、形状及び寸法
※アルミニウム製 L-30×15×2.0mm程度 ・
防水層の下地のモルタル塗り
・適用する（施工範囲 ※図示 ・ ） ・適用しない
屋上排水溝 ※図示 ・

2 改質アスファルトシート防水

屋根露出防水 (9.3.2、3)(表9.3.1～3)
防水層の種別

種別	施工箇所	断熱材 G	防湿用シート	仕上塗料
・ＡＳ－Ｔ１				種類 ※改質ｱｽﾌｧﾙﾄｼｰﾄの製造所の仕様 ・
・ＡＳ－Ｔ２				
・ＡＳ－Ｔ３				
・ＡＳ－Ｔ４				
・ＡＳ－Ｊ１				
・ＡＳＩ－Ｔ１		（材質） ※標準仕様書9.3.2(3)(ｳ)による ・ （厚さ） ・25mm ・50mm ・	・設ける （改質ｱｽﾌｧﾙﾄｼｰﾄの製造所の仕様による） ・ ・設けない	使用量 ※改質ｱｽﾌｧﾙﾄｼｰﾄの製造所の仕様 ・
・ＡＳＩ－Ｊ１				

高日射反射率防水の適用G ・適用する ・適用しない
改質アスファルトシートの種類及び厚さ
※標準仕様書9.3.1から表9.3.3による ・
・JIS A 6013に基づく種類及び厚さ
用途による区分 ・
材料による区分 ※Ｒ種
厚さ ※（ ）mm以上 ・
粘着層付改質アスファルトシートの種類及び厚さ
※標準仕様書表9.3.2から表9.3.3による ・
・JIS A 6013に基づく種類及び厚さ
用途による区分 ・
材料による区分 ※Ｒ種
厚さ ※（ ）mm以上 ・
部分粘着層付改質アスファルトシートの種類及び厚さ
※標準仕様書表9.3.2から表9.3.3による ・
・JIS A 6013に基づく種類及び厚さ
用途による区分 ・
材料による区分 ※Ｒ種
厚さ ※（ ）mm以上 ・
立上り部の押え金物の材質、形状及び寸法
※アルミニウム製 Ｌ－30×15×2.0(mm)程度 ・
絶縁工法及び絶縁断熱工法の脱気装置の種類及び設置数量
※改質アスファルト製造所の仕様による ・
・種類（ ） 設置数量（ 個）

3 合成高分子系ルーフィングシート防水

防水層の種別 (9.4.2～4)(表9.4.1～3)

種別	施工箇所	可塑剤移行防止用ｼｰﾄの材質	仕上塗料
・Ｓ－Ｆ１	・ﾌﾟﾚｷｬｽﾄｺﾝｸﾘｰﾄ下地 ・	※発砲ｽﾁﾚﾝｼｰﾄ ・	種類・使用量 ※ﾙｰﾌｨﾝｸﾞｼｰﾄの製造所の仕様 ・
・Ｓ－Ｆ２			
・Ｓ－Ｍ１			種類・使用量 ※ﾙｰﾌｨﾝｸﾞｼｰﾄの製造所の仕様 ・
・Ｓ－Ｍ２			
・ＳＩ－Ｆ１	・ﾌﾟﾚｷｬｽﾄｺﾝｸﾘｰﾄ下地 ・	※発砲ｽﾁﾚﾝｼｰﾄ ・	種類・使用量 ※ﾙｰﾌｨﾝｸﾞｼｰﾄの製造所の仕様 ・
・ＳＩ－Ｆ２			
・ＳＩ－Ｍ１			種類・使用量 ※ﾙｰﾌｨﾝｸﾞｼｰﾄの製造所の仕様 ・
・ＳＩ－Ｍ２		※発砲ｽﾁﾚﾝｼｰﾄ ・	

合成高分子系ルーフィングシート防水工法（断熱工法）における断熱材G
（種類）SI-F1、SI-F2の場合 ※標準仕様書9.4.2(3)(ｲ)(b)による ・
SI-M1、SI-M2の場合 ※標準仕様書9.4.2(3)(ｲ)(a)による ・
（厚さ）・25mm ・50mm ・
高日射反射率防水の適用G ・適用する ・適用しない
S-F1、S-M1、S-F2、S-M2の仕様 ※非歩行仕様 ・軽歩行仕様
SI-M1及びSI-M2における防湿用フィルムの設置
・設ける ・設けない
S-M2またはSI-M2の場合立上り部の工法
・接着工法
・機械的固定方法

屋内防水
防水層の種別

種別	施工箇所	保護層		
		平場の保護モルタル塗り		立上り部の保護ﾓﾙﾀﾙ塗り厚さ
		塗り厚さ	工法	
・S-C1		・ mm	・床塗り工法 ・下地モルタル塗り ・	※７mm以下 ・

平場の保護モルタル床塗りにおける目地の目地割及び種類
目地割 ※目地割2㎡程度、最大目地間隔3m程度
目地の種類 ※押し目地 ・
合成高分子系ルーフィングシートの種類及び厚さ
※標準仕様書 表9.4.1から表9.4.3による
・JIS A 6008に基づく種類及び厚さ
種類 ・
厚さ ・
固定金具の材質、寸法、形状
※厚さ0.4mm以上の防錆処理した鋼板、ステンレス鋼板又はそれらの片面若しくは両面に樹脂を積層加工した鋼板
・
接着工法の場合の脱気装置の種類及び設置数量
※ルーフィングシートの製造所の仕様
・種類（ ） 設置数量（ 個）
接着工法の場合のプレキャストコンクリート部材下地の目地処理
・行う（・図示 ・ ） ・行わない
プレキャストコンクリート部材の入隅部の増張り（種別 S-F1、SI-F1の場合）
・行う（・図示 ・ ） ・行わない
機械的固定工法の場合の一般部のルーフィングシートの張付け
建築基準法に基づき定まる風圧力（・1・ ・ ）倍の風圧力に対応した工法

④ 塗膜防水 ※特定化学物質障害予防規則の対象とならない材とする (9.5.3)(表9.5.1～2)
防水層の種別

種別	施工箇所	仕上塗料	保護層
・Ｘ－１		種類・使用量 ※主材料の製造所の仕様 ・	
○Ｘ－２	屋外階段、設備基礎 外部ＡＷ廻り上部	種類・使用量 ※主材料の製造所の仕様 ・	
・Ｙ－１	※地下外壁防水 ・		
・Ｙ－２	※屋内防水 ・		・適用する ・適用しない

（Ｘ－１、Ｘ－２）高日射反射率防水の適用G ・適用する ○適用しない

ウレタンゴム系塗膜防水Ｘ－１の脱気装置の種類及び設置数量
※主材料の製造所の仕様
・種類（ ） 設置数量（ 個）

⑤ ケイ酸質系塗布防水 防水層の下地 (9.6.4)(表9.6.1)
壁 ※コンクリート打放し仕上げ（表6.2.4 B種）
天井部 ※コンクリート打放し仕上げ（表6.2.4 B種）
下地処理
コンクリートの打継ぎ箇所の処理
※打継ぎ部分に対し、幅30mm及び深さ30mm程度の目地棒を用いる。目地棒の除去後、水洗い清掃し、ｹｲ酸質系塗布防水材の製造所の仕様により、ﾎﾟﾘﾏｰｾﾒﾝﾄﾓﾙﾀﾙを充填
・図示 ・
型枠締付け材にコーンが使用されている部位及びｹｲ酸質系塗布防水材の塗布面以外の下地処理
・図示 ・

⑥ シーリング 下表以外は、標準仕様書表9.7.1による (9.7.2～5)(表9.7.1)
ただし、外壁タイル接着剤張りの場合のシーリングは11章に、カーテンウォールの場合のシーリングは17章による

施工箇所	シーリング材の種類（記号）
図示	図示

仕上を行わない施工箇所 ○図示による ・ ）
シーリング材の目地寸法
○標準仕様書9.7.3(1)(ア)～(ウ)による
○図示 ・
外部に面するシーリング材の接着性試験
※簡易接着性試験 ・引張接着性試験

注 練り混ぜた２成分形シーリング材は、１組の作業班が１日に行った施工箇所を１ロットとして、各ロットごとにサンプリングを行い、サンプリング試料を監督員に提出すること。

⑦ 防水工事施工票 ※設置する（ １ ヶ所） (2.1.2)
（施工年月日は防水工事施工完了日（手直しは除く）を記入）

10 石工事

1 施工

2 石材等

石材の割付け ・図示 ・ (10.1.3)

天然石 (10.2.1、3)(表10.2.1、2)

施工箇所	岩石の種類	形状及び寸法(mm)	厚さ(mm)	表面仕上げの種類	備考
・床石		※正方形に近い矩形(石材1枚の面積が0.8㎡以下) ・			

ジェットバーナー仕上げの場合のバフ仕上げの有無
・あり ・なし

テラゾブロック

施工箇所	種石の種類	種石の大きさ(mm)	形状による区分	仕上げ面による区分	寸法(mm)	表面仕上げの種類	備考
	※大理石 ・花こう岩	※1．5～12 ・	・平もの ・役もの	・片面 ・両面			
	※大理石 ・花こう岩	※1．5～12 ・	・平もの ・役もの	・片面 ・両面			

テラゾタイル

施工箇所	種石の種類	種石の大きさ(mm)	寸法による区分	表面仕上げ	備考
	※大理石 ・花こう岩	※1．5～12 ・	・３００型 ・４００型		
	※大理石 ・花こう岩	※1．5～12 ・	・３００型 ・４００型		

その他の材料
取付け用モルタル、既調合の目地モルタル、浸透性吸水防水材、石裏面処理材、裏打ち処理材、金物の固定に使用する充填材料
※専門工事業者の指定する製品 ・
ドレンパイプの材質
・樹脂ネット製パイプ クロスメッシュ巻き25～35φ

3 外壁湿式工法

受金物 (10.2.2、3)(10.3.2、3)
材質 ※SUS304 ・
形状及び寸法 ・L-75×75×6(mm)の加工 L=100mm
・L-75×75×6(mm)の加工 L=150mm
・
アンカーの材質及び寸法
※SS400 ・
あと施工アンカーの材質及び寸法等 種類・ 材質・ 寸法・
ドレンパイプ ・設ける（設置位置：図示による） ・設けない
石裏面処理 ・適用する ・適用しない
裏打ち処理 ・適用する ・適用しない
下地ごしらえ ※あと施工アンカー・横筋流し工法
・あと施工アンカー工法
・流し筋工法
目地
一般目地 ・目地モルタル （目地幅 ・ ）
・既調合の目地モルタル（目地幅 ・ ）
※シーリング材（種類 ※標準仕様書表9.7.1による ・ ）
（目地幅及び深さ ・ ）
伸縮調整目地
位置 ・図示による
シーリング材の種類 ※標準仕様書 表9.7.1による
目地寸法 ※幅・深さとも10mm以上 ・図示による

4 内壁空積工法

受金物 (10.2.2、3)(10.4.2、3)
材質 ※SUS304 ・
形状及び寸法 ・L-75×75×6(mm)の加工 L=100mm又は150mm ・
あと施工アンカーの材質及び寸法等 種類・ 材質・ 寸法・
石裏面処理 ・適用する ・適用しない
裏打ち処理 ・適用する ・適用しない
下地ごしらえ ※あと施工アンカー・横筋流し工法
・あと施工アンカー工法

5 外壁乾式工法

金物の種類、形状、寸法等 (10.2.2、3)(10.5.2、3)(表10.2.4)
※標準仕様書表10.2.4による ・
取付け方式
・スライド方式 ・ロッキング方式
あと施工アンカーの材質及び寸法等 種類・ 材質・ 寸法・
だぼ用の穴の位置 ※標準仕様書10.5.2(2)(ｱ)による ・図示
裏打ち処理 ・適用する ・適用しない
建築基準法に基づく風圧力の（・1、・1.15、・1.3）倍の風圧力に対応した工法
シーリング材 種類 ※標準仕様書 表9.7.1による
目地幅及び深さ

6 床及び階段の石張り

透水性吸収防水剤 (10.6.2、3)
（床石張り） ・適用する ・適用しない
石裏面処理
（床石張り） ・適用する ・適用しない
（階段張り） ・適用する ・適用しない
裏打ち処理
（床石張り） ・適用する ・適用しない
一般目地 ・目地モルタル （目地幅 ・ ）
・既調合の目地モルタル（目地幅 ・ ）
・シーリング材（種類 ※標準仕様書表9.7.1による ・ ）
（目地幅及び深さ ・ ）
伸縮調整目地
位置 ※標準仕様書 表10.6.2(5)(a)による ・図示による
シーリング材の種類 ※標準仕様書 表9.7.1による
目地寸法 ※幅・深さとも10mm以上 ・図示による

7 笠木、甲板等の石張り

取付け工法 ・湿式工法 ・乾式工法 (10.2.2)(10.7.2)
物珠部位用金物 標準仕様書10.2.2(3)参照
材質 ※ステンレス（SUS304） ・
寸法 引金物 ・
たぼ ・
かすがい ・
受金物 ・
ファスナーの形状 ・スライド式 ・ロッキング方式
あと施工アンカーの材質及び寸法等 種類・ 材質・ 寸法・
石裏面処理 ・適用する ・適用しない
乾式工法の場合の取付代 ※70mm程度 ・
石裏の補強用モルタル ・適用する ・適用しない
一般目地 ・目地モルタル （目地幅 ・ ）
・既調合の目地モルタル（目地幅 ・ ）
・シーリング材（種類 ※標準仕様書表9.7.1による ・ ）
（目地幅及び深さ ・ ）

11 タイル工事

① 伸縮調整目地及びひび割れ誘発目地 位置 ※標準仕様書 表11.1.1による ・図示 (11.1.3)(表11.1.1)
目地寸法 ○図示

② 見本焼 試験施工 見本焼 ・行う（施工箇所： ） ○行わない (11.1.4)
試験張り ・行う（範囲、仕様等は図示による） ○行わない

③ セメントモルタルによるタイル張り

タイルの形状・寸法等 (11.2.2、3、6)

施工箇所	種類	形状/寸法(mm)	吸水率による区分 Ⅰ種	Ⅱ種	Ⅲ種	うわぐすり 無ゆう	施ゆう	役物 有	無	色 標準	特注	再生材の 適用	耐凍害性 G	有	無	耐滑り性	備考
床	磁器	300角	○	・	・	・	○	・	○	○	・	・	・	○	・	○	
			・	・	・	・	・	・	・	・	・	・	・	・	・	・	

標準的な曲がりの役物は一体成形とする

下地モルタル塗りのコンクリート素地面の処理
※目荒し工法（高圧水洗処理） ・MCR工法 ・
壁タイル張りの工法
内外装タイル ・密着張り ・改良圧着張り
内装タイル以外のユニットタイル ・マスク張り ・モザイクタイル張り

・既調合モルタル
モルタル下地としたタイル工事に使用する張付け用モルタルとして、セメント、細骨材、混和剤等を予め工場において所定の割合に配合した材料とする。

④ 有機系接着剤によるタイル張り

タイルの形状・寸法等 (11.3.2～5)

施工箇所	種類	形状/寸法(mm)	吸水率による区分 Ⅰ種	Ⅱ種	Ⅲ種	うわぐすり 無ゆう	施ゆう	役物 有	無	色 標準	特注	再生材の 適用	耐凍害性 G	有	無	耐滑り性	備考
外柱	磁器	300角	○	・	・	・	○	○	・	○	・	・	・	○	・	○	
			・	・	・	・	・	・	・	・	・	・	・	・	・	・	

標準的な曲がりの役物は一体成形とする
内装タイル接着剤張りの接着剤のホルムアルデヒド放散量 ※F☆☆☆☆
下地調整塗材塗りを行うコンクリート素地面の処理
※目荒し工法(高圧水洗処理) ・MCR工法 ・
目地のシーリング材
打継ぎ目地 ※ポリウレタン系シーリング材 ・
ひび割れ誘発目地 ※ポリウレタン系シーリング材 ・
伸縮調整目地及びそその他の目地 ※変成シリコーン系シーリング材 ・
外装タイルの目地詰め
○行う ・行わない

12 木工事

① 施工一般

2 製材 G 材料のホルムアルデヒド放散量 (12.2.1)
※F☆☆☆☆ 又は 標準仕様書 12.2.1(1)(ｳ)(b)による

・JIS 1083-5 製材-第5部に基づく (12.2.1)(12.4.1)(12.5.1)(12.6.1)(12.7.1)
下地用製材 (表12.2.2)

施工箇所	寸法(mm)	等級	含水率	保存処理	間伐材等の適用
		※2級 ・	※A種 ・B種		・
		※2級 ・	※A種 ・B種		・

・JIS 1083-2 製材-第2部に基づく造作用製材

施工箇所	寸法(mm)	等級	含水率	保存処理	間伐材等の適用
見え掛り面		※上小節 ・	※A種 ・B種		・
見え掛り面以外		※小節以上 ・	※A種 ・B種		・
			※A種 ・B種		・

③ 造作用集成材 G (12.2.1)

・JAS 1083-6 製材-第6部に基づく集成樹製材

施工箇所	寸法(mm)	等級	含水率	保存処理	間伐材等の適用
		※1等 ・	※10%以下 ・A種・B種・		・
		※1等 ・	※10%以下 ・A種・B種・		・

・JAS 1083（製材）以外の製材

施工箇所	寸法(mm)	材面の品質	含水率	防虫処理の適用	間伐材等の適用
		（ ） 造作材の場合（※A種・B種） ・	※A種 ・B種	・適用する ・適用しない	・
		（ ） 造作材の場合（※A種・B種） ・	※A種 ・B種	・適用する ・適用しない	・

④ 造作用単板積層材 G (12.2.1)

・JAS 0701に基づく造作用単板積層材

施工箇所	品名	寸法(mm)	表面の品質（化粧加工の有無）	防虫処理の適用	間伐材等の適用
			・有り（加工 ・天然木加工・塗装加工） ・無し（等級 ・１等 ・２等 ・３等）	・する ・しない	・

・JAS 0701以外の造作用単板積層材

施工箇所	寸法(mm)	表面の品質（化粧加工の有無）	含水率	防虫処理の適用	間伐材等の適用
		・有り（加工 ・天然木加工・塗装加工） ・無し（ ）	※14%以下 ・	・する ・しない	・
		・有り（加工 ・天然木加工・塗装加工） ・無し（ ）	※14%以下 ・	・する ・しない	・

・JAS 3079に基づくＣＬＴ（直交集成板）G

施工箇所	品名	強度等級	種別	接着性能（使用環境）	樹種名	寸法(mm)	間伐材等の適用
							・
							・

⑤ 合板等 (12.2.1)

○「合板の日本農林規格」による普通合板 G

施工箇所	厚さ(mm)	接着の程度	板面の品質	単板の樹種名	防虫処理の適用	間伐材等の適用
壁下地（構示用クロス下地）	※5.5 ・図示	※1類 ・2類	広葉樹 ※２等以上 ・１等 針葉樹 ※C-D以上 ・	ラワン	○する ・しない	・

・「合板の日本農林規格」による構造用合板 G

施工箇所	厚さ(mm)	接着の程度	等級	板面の品質	単板の樹種名	強度等級	防虫処理の適用	間伐材等の適用
壁下地	※12 ・	※1類 ・特類	※2級以上 ・1級	※C・D以上 ・	ラワン	・適用する（１級） ・適用しない	○する ・しない	・

・「合板の日本農林規格」による化粧ばり構造用合板 G

施工箇所	厚さ(mm)	単板の樹種名	防虫処理の適用	間伐材等の適用
		・1類 ・特類	・する ・しない	・

・「合板の日本農林規格」による天然木化粧合板 G

施工箇所	厚さ(mm)	接着の程度	化粧板に使用する単板の樹種名	防虫処理の適用
		・1類 ・2類		・する ・しない

・「合板の日本農林規格」による特殊加工化粧合板 G

施工箇所	厚さ(mm)	接着の程度	単板の樹種名	化粧加工の方法	防虫処理の適用
		・1類 ・2類			・する ・しない

訂 正

月 日	事 項		
. .		.	
. .		.	
. .		.	

universal 株式会社ユニバァサル設計
UNIVERSAL DESIGN OFFICE INC.

事務所登録	東京本部一級建築士事務所 一級建築士事務所 東京都知事知事登録 第22736号			工事名称	仮称芳野市民センター新築工事	図面名称	特記仕様書(2)	縮尺	A2:NS A3:NS	図面No.
設計者	一級建築士 登録第362390号 星野 康二	法適合確認結果等		作成	2025 年 2 月 17 日	承認	部長 課長 担当 製図	設計No.		04-02

13 屋根及びとい工事

① 長尺金属板葺 （13.2.1～3）(13.2.2、3)

施工箇所	板及びコイルの種類	塗膜の耐久性、めっき付着量等の種類及び記号	厚さ(mm)	屋根葺形式	備考
屋根	※JIS G 3322の屋根用 着色 ・有 ・	○5類（AZ150）	○0.4 ・0.5 ・	・心木なし瓦棒葺 ・立て平葺・繊掛葺 ○横葺 ・	

下葺材料 ・アスファルトルーフィング 940
○改質アスファルトルーフィング下葺材
（○一般タイプ ・複層基材タイプ ・粘着層付タイプ）
横葺きの場合のけらば納め
○つかみ込み納め ・けらば包み納め
工法
建築基準法に基づき定まる風圧力の（○1・1.15・1.3）倍の風圧力に対応した工法
雪止め ○設置する（施工箇所 ※図示 ・ ） ・設置しない

② 折板葺 (13.2.2)(13.3.2、3)(表13.2.1)

施工箇所	形式	山高、山ピッチによる区分 山高	山ピッチ	耐力による区分	材料による区分	厚さ(mm)	軒先面戸板	防火性能
	・重ね形 ・はぜ締め形 ・かん合形			（ ）種	※鋼板製 ・ｱﾙﾐﾆｳﾑ合金板製		・有り ・無し	・30分 ・無し

材料
鋼板の種類（※JIS G 3322の屋根用（着色 ・有 ・ ）
塗膜の耐久性の種類、めっき付着量（・5種(AZ150) ・ ）
断熱材 ・有り（種別： 厚さ(mm)： 防火性能： 時間）
・無し
工法
建築基準法に基づき定まる風圧力の（・1・1.15・1.3）倍の風圧力に対応した工法
耐雪性能に対応した工法の適用 ・適用する ・適用しない
折板のけらば納め ※けらば包みによる方法 ・
雪止め ・設置する（施工箇所 ※図示 ・ ） ・設置しない

③ 粘土瓦葺 (13.4.2、3)

施工箇所	種類 製法による区分	形状による区分	寸法による区分	大きさ	産地	役物瓦の種類	雪止め瓦の使用
							・する ・しない
							・する ・しない

桟瓦の防災瓦の使用 ・適用する ・適用しない
JIS A 5208 に基づく凍害試験等 ※行わない ・行う（ ）
瓦桟木 材質 ※杉 ・ひのき ・
寸法 ※幅21×高さ15(mm)以上 ・
棟補強用心材 材質 ※杉 ・ひのき ・
寸法 ※幅40×高さ30(mm)以上 ・
瓦緊結用釘又はねじ
種類（ ） 径（ ） 長さ（ ）
棟補強等に使用する金物等
材質 ・ステンレス製 ・溶融亜鉛めっき処理を行った鋼製
形状、寸法及び留付け方法 ・図示 ・
工法
建築基準法に基づき定まる風圧力の（・1・1.15・1.3）倍の風圧力に対応した工法
風圧力又は地震力に対応した瓦の緊結方法等 ※図示による
瓦桟木の留付け工法 ※図示 ・
棟の工法 ・７寸丸伏せ棟又はF形用冠瓦伏せ棟 ・のし積み棟
面戸、雀口、葺土の露出する瓦接合部に仕上げを施す場合
・モルタル ・瓦葺き用しっくい

④ とい

といその他の材種 (13.5.2、3)(表13.5.1、2、4)
・配管用鋼管 ○硬質ポリ塩化ビニル管 ・ルーフドレン
・表面処理鋼板（表面及び裏面の塗膜の種類） ○アルミ
とい受け金物
材種 ※標準仕様書表13.5.2による（溶融亜鉛めっきを行ったもの） ○アルミ
形状 ※市販品（とい径100以下） ・25×4.5(mm)以上（とい径100超）
取付け間隔 ※標準仕様書表13.5.2による ・
足金物
材種 ※標準仕様書表13.5.2による（溶融亜鉛めっきを行ったもの） ○SUS304
形状 ※市販品 ・
取付け間隔 ※標準仕様書表13.5.2による ・
多雪地域の軒どいの取付間隔 ※0.5m以下 ・
防露材のホルムアルデヒド放散量 ※F☆☆☆☆ ・
鋼管製といの防露巻き
※標準仕様書表13.5.4による ・

ルーフドレンの種類及び呼び

種別		呼び	施工箇所
・ろく屋根用たて形Ⅰ型	※ねじ込み式	・80 ・100 ・125 ・150	
・ろく屋根用横形Ⅰ型	※ねじ込み式	・80 ・100 ・125 ・150	
・バルコニー中継用	・ねじ込み式	・50 ・80 ・100	
	・差し込み式	・50 ・75 ・100	
○バルコニー用	○ねじ込み式	・50 ・80 ○100	設備置き場
	・差し込み式	・50 ・75 ・100	

14 金属工事

1 アルミニウム及びアルミニウム合金の表面処理

※表面処理は標準仕様書表14.2.1による (14.2.1)(表14.2.1)

種別	施工箇所（成形版、笠木、建具以外）
・AB－1種	
・AB－2種	
・AC－1種	
・AC－2種	
・BA－1種	
・BA－2種	
・BB－1種	
・BB－2種	
・BC－1種	
・BC－2種	
・C 種	

陽極酸化皮膜の着色方法 ※二次電解着色 ・三次電解着色
色合等 ・シルバー
・アンバー ・ブロンズ
・ブラック系 ・ステンカラー ・
・特注色（ ）

2 鉄鋼の亜鉛めっき (14.2.2)(表14.2.2)

表面処理方法	種別	施工箇所（手すり、タラップ以外）
溶融亜鉛めっき	・A種	
	・B種	
	・C種	
電気亜鉛めっき	・D種	
	・E種	
	・F種	

③ 軽量鉄骨天井下地

野縁等の種類 (14.4.2～4)(表14.4.1)
屋外の形式及び寸法
野縁受、つりボルト及びインサートの間隔 ・図示 ○900mm程度
周辺部の端からの間隔 ・図示 ○150mm以内
野縁の間隔 ・図示 ○360mm程度
・つりボルトの間隔が900mmを超える場合の補強方法 ※図示 ・
○天井のふところが3.0mを超える場合の補強方法 ※図示 ・
・天井下地材における耐震性を考慮した補強
補強箇所 ※図示 ・
補強方法 ※図示 ・
屋外の軒天井、ピロティ天井の工法
建築基準法に基づき定まる風圧力の（○1・1.15・1.3）倍の風圧力に対応した工法

④ 軽量鉄骨壁下地

スタッド、ランナーの種類 (14.5.3、4)(表14.5.1)
※標準仕様書表14.5.1によるスタッドの高さによる区分に応じた種類
・図示 ・
スタッドの高さが5.0mを超える場合 ※図示 ・
出入口及びこれに準ずる開口部の補強
※標準仕様書14.5.4(5)による ・

⑤ 金属成形板張り (14.6.2、3)(表14.2.1)

種別	製法	形状	板幅(mm)	板厚(mm)	表面処理 種別	表面処理 色合い等
○アルミニウム	○押出し・ロール	ｽﾊﾟﾝﾄﾞﾚﾙ形	図示	図示	B-2種	標準色
	・プレス	パネル形				

取付け用下地 ※標準仕様書14.4による ・図示 ・
伸縮調整継手 ・設ける（施工箇所 ・図示 ・ ） ・設けない
屋外の軒天井、ピロティ天井の工法
建築基準法に基づき定まる風圧力の（○1・1.15・1.3）倍の風圧力に対応した工法

⑥ アルミニウム製笠木

種類 ・250形 ・300形 ・350形 ○625形 (14.7.2、3)(表14.2.1)(表14.7.1)
表面処理 種別 （ B-2種 ）種
色合等 ○標準色（ ）
・特注色（ ）
笠木の固定金具の工法等
建築基準法に基づき定まる風圧力の（○1・1.15・1.3）倍の風圧力に対応した工法

15 左官工事

① モルタル塗り

モルタル ・現場調合材料 ○既調合材料 (15.3.2、5)
既製目地材 ○設ける 施工箇所（ ） 形状（※図示 ・ ）
・設けない
床の目地 ○設ける（目地割り ※2m程度(最大目地間隔3m程度) ・ ）
（種類 ※押し目地 ・ ）
・設けない
屋外のタイル張り下地及び屋内の吹付部分等のタイル張りの下地モルタル塗り及び下地調整塗材塗りの接着力試験
・適用する ○適用しない

② せっこうボード その他のボード下地

せっこうボード及びせっこうラスボードの種類及び厚さ (15.2.5)
種類 ○GB-R GB-L ○GB-S ） 厚さ（ 図示 ）
木質系セメント板の種類及び厚さ
種類（ ） 厚さ（ mm）

③ 仕上塗材仕上げ

内装仕上げに用いる塗材のホルムアルデヒド放散量 (15.6.2)
※F☆☆☆☆ ・

仕上塗材の種類

薄付け仕上塗材

呼び名	防火材料	仕上げの形状及び工法等
・外装薄塗材 Si	・	○砂壁状
・可とう形外装薄塗材 Si	・	・ゆず肌状（・吹付け ・ローラー塗り）
・外装薄塗材 E	・	・さざ波状
○可とう形外装薄塗材 E	・	・平たん状
・防水形外装薄塗材 E	・	・凹凸状（・吹付け ・こて塗り）
・外装薄塗材 S	・	・着色骨材砂壁状（・吹付け ・こて塗り）
・内装薄塗材 C	・	・砂壁状じゅらく
・内装薄塗材 L	・	・京壁状じゅらく
・内装薄塗材 Si	・	
・内装薄塗材 E	・	吸放湿性 ・適用する ・適用しない
・内装薄塗材 W	・	

厚付け仕上塗材

呼び名	防火材料	仕上げの形状及び工法等
・外装厚塗材 C	・	・吹放し ・凸部処理 ・平たん状
・外装厚塗材 Si	・	・凹凸状 ・ひき起こし ・かき落とし
・外装厚塗材 E	・	
・内装厚塗材 C	・	吸放湿性 ・適用する ・適用しない
・内装厚塗材 L	・	上塗材 ・適用する ・適用しない
・内装厚塗材 G	・	外装厚塗材 C の上塗材 ・ｾﾒﾝﾄﾘｼﾝﾀｯﾁ ・
・内装厚塗材 Si	・	
・内装厚塗材 E	・	

複層仕上塗材

呼び名	防火材料	仕上げの形状及び工法等
・複層塗材 CE	・	○ゆず肌状 ・凸部処理 ・凹凸状
・可とう形複層塗材 CE	・	
・複層塗材 Si	・	耐候性 ※耐候形３種 ・
・複層塗材 E	・	上塗材
・複層塗材 RE	・	溶 媒 ※水系 ・溶剤系 ・弱溶剤系
・防水形複層塗材 CE	・	樹 脂 ※アクリル系 ・
○防水形複層塗材 E	・	外 観 ※つやあり ・つやなし
・防水形複層塗材 RE	・	・メタリック

軽量骨材仕上塗材

呼び名	防火材料	仕上げの形状及び工法等
・吹付用軽量塗材	・	
・こて塗用軽量塗材	・	

4 マスチック塗材塗り

種別 ・A種 ・B種 (15.7.2)

5 ロックウール吹付け

ロックウールのホルムアルデヒド放散量 ※F☆☆☆☆ ・ (15.12.2、3)
接着剤のホルムアルデヒド放散量 ※F☆☆☆☆ ・
吹付け厚さ(mm) ・図示 ・25 ・

6 しっくい塗り

しっくい (15.10.2～4)
・既調合材料
色しっくい ・適用する ・適用しない
下地
・せっこうボード ・せっこうラスボード ・モルタル塗り ・木ずり
・こまい ・下塗りをせっこうプラスターとし上塗りに使用する場合
既調合しっくいの調合
・せっこうボード下地 ※標準仕様書表15.10.1
・モルタル塗り下地 ※標準仕様書表15.10.2
・せっこうラスボード下地 ※製造所の仕様による
現場調合しっくいの調合及び各層の塗厚
・木ずり下地 ※標準仕様書表15.10.3
・せっこうプラスター下地、こまい下地 ※標準仕様書表15.10.4
既調合しっくいの上塗り仕上げ工法
・なで切り仕上げ ・パターン仕上げ

16 建具工事

① 防火戸

※建具表による ・ (16.1.3)

② 見本の製作等

建具見本の製作 ・行う（建具符号： ） ○行わない (16.1.4)
建具見本製作の目的等
特殊な建具の仮組 ・行う（建具符号： ） ○行わない

③ 防犯建物部品

・適用する（※建具表による ・ ） ○適用しない (16.1.6)

④ アルミニウム製建具

性能値等（建具符号、枠の見込み寸法：建具表による） (16.2.2～5)(表16.2.1、2)
耐風圧性等級、気密性等級、水密性等級 ※建具表による ・図示
外部に面する建具の種別

種別	耐風圧性	気密性	水密性	枠見込み(mm)	施工箇所
○A種	S-1	A-3	W-4	○70 ・100	※図示による
・B種	S-5			・	※図示による
・C種	S-6	A-3	W-3	・	※図示による
・D種	S-2			・	※図示による
・E種	S-3			・	※図示による

○防音ドア、防音サッシとする場合 遮音性の等級（ T-1 ）
・断熱ドア、断熱サッシ G とする場合 断熱性の等級（ ）
材料 ステンレス鋼板 ※SUS304、SUS430J1L又はSUS443J1
ステンレス製のくつずりの仕上げ ※HL
形状及び仕上げ
表面処理
外部に面する建具 種別 ・BB-1種 ○BB-2種 （標準仕様書表14.2.1）
着色 ○標準色 ・特注色
屋内の建具 種別 ・BC-1種 ○BC-2種 （標準仕様書表14.2.1）
着色 ○標準色 ・特注色
結露水の処理方法 ・水抜き式 ○水密式
工法 水切り板、ぜん板 ※図示
木下地の場合の内付け建具 ・適用しない・適用する

⑤ 網戸等 (16.2.3)

種類	材種	線径	網目
○防虫網	・合成樹脂製 ・ガラス繊維入り合成樹脂製 ○ステンレス(SUS316)製	※0.25mm以上 ・	※16～18メッシュ ・
・防鳥網	ステンレス(SUS304)線材	1.5mm	網目寸法15mm

⑥ 樹脂製建具 (16.2.5)(16.3.2～5)(表16.3.1～3)

性能値等（建具符号、枠の見込み寸法：建具表による）
耐風圧性等級、気密性等級、水密性等級 ※建具表による ・図示
外部に面する建具の種別

種別	耐風圧性	気密性	水密性	枠見込み(mm)	施工箇所
・A種	S-4	A-4	W-4	・	※図示による
・B種	S-5		W-5	・	※図示による
・C種	S-6			・	※図示による
・D種	S-2		W-3	・	※図示による
・E種	S-3			・	※図示による

・防音ドア、防音サッシとする場合
遮音性の等級 ・T－１種 ・T－２種
・断熱ドア、断熱サッシ G とする場合
断熱性の等級 ・H-4種 ・H-5種 ・H-6種 ・H-7種 ・H-8種
外部に面する建具の日射熱取得性の等級
枠の見込み寸法 ・建具表による
ガラス ※複層ガラス（組合せは建具表による） ・
ステンレス製のくつずりの仕上げ ※HL
形状及び仕上げ
表面色 ・標準色 ・特注色
工法 水切り板、ぜん板 ※図示 ・
木下地の場合の内付け建具 ・適用しない ・適用する

⑦ 鋼製建具

性能値等（建具符号：建具表による）
・簡易気密型ドアセット ○適用する ・適用しない
外部に面する建具の耐風圧性
・耐風圧性の等級（ ・ ）
○防音ドア、防音サッシとする場合 遮音性の等級（ T-3 ）
・断熱ドア、断熱サッシ G とする場合 断熱性の等級（ ）
材料 ステンレス鋼板 ※SUS304、SUS430J1L又はSUS443J1
ステンレス製のくつずりの仕上げ ※HL
形状及び仕上げ
鋼板類の厚さ ※標準仕様書 表16.4.2による ・ 使用箇所（ ）
標準型鋼製建具の形式及び寸法 ※建具表による ・

⑧ 鋼製軽量建具

性能値等（建具符号：建具表による）
・簡易気密型ドアセット ・適用する ・適用しない
・防音ドア、防音サッシとする場合 遮音性の等級（ ）
・断熱ドア、断熱サッシ G とする場合 断熱性の等級（ ）
材料
鋼板 ○亜鉛めっき鋼板 ・ビニル被膜鋼板 ・カラー鋼板 ・ステンレス鋼板
ステンレス鋼板 ※SUS304、SUS430J1L又はSUS443J1
ステンレス製のくつずりの仕上げ ※HL
形状及び仕上げ
鋼板類の厚さ ※標準仕様書 表16.4.2による ・ 使用箇所（ ）
標準型鋼製建具の形式及び寸法 ※建具表による ・

⑨ ステンレス製建具

性能値等（建具符号：建具表による）
○簡易気密型ドアセット（建具符号：○建具表による ・ ）
外部に面する建具の耐風圧性
○耐風圧性の等級（ ・S-5 ）
・防音ドア、防音サッシとする場合 遮音性の等級（ ）
・断熱ドア、断熱サッシ G とする場合 断熱性の等級（ ）
材料 ステンレス鋼板 ※SUS304、SUS430J1L、SUS443J1 ・
ステンレス製のくつずりの仕上げ ※HL
形状及び仕上げ 表面仕上げ ※HL ・鏡面仕上げ ・
工法 ステンレス鋼板の曲げ加工 ※普通曲げ ・角出し曲げ

⑩ 木製建具

建具材の加工、組立時の含水率 ※A種 ・ (16.7.2～4)
建物内部の木製建具に使用する表面材及び接着剤のホルムアルデヒド放散量
※F☆☆☆☆ ・
○フラッシュ戸
表面材のホルムアルデヒド放散量等
※標準仕様書16.7.2(2)(イ)(a)による
表面材の合板の種類

合板の種類	規格等	備考
・普通合板 G	表面の樹種 ・ 板面の品質（※広葉樹１号 ・ ） 接着の程度（・１類 ・２類）	
・天然木化粧合板 G	樹種名（ ） 接着の程度（・１類 ・２類）	
・特殊加工化粧合板 G	化粧加工の方法 ※プリント ・ポリエステル化粧合板 ○メラミン化粧合板 ・ 接着の程度（・１類 ・２類）	
・ＭＤＦ G		

表面板の厚さ ※表16.7.6による ○メーカー仕様による
引戸の召合せかまちのいんろう付きの適用 ・適用しない ・適用する
・かまち戸
かまち樹種（ ） 鏡板樹種（ ）
見込み寸法 ※36mm ・建具表による ・
・ふすま
張りの種別（・Ⅰ型 ・Ⅱ型）
上張り(押入等の裏側以外) ・鳥の子 ・新鳥の子又はビニル紙程度
縁仕上げ ・塗り縁 ・生地縁（素地） ・生地縁（ウレタンクリヤー塗装）
見込み寸法 ※19.5mm ・建具表による ・
表面板の仕上 ・建具表による
・戸ぶすま
表面板の仕上 ・建具表による
見込み寸法 ※30mm ・建具表による ・
・紙張り障子
見込み寸法 ※30mm ・建具表による ・
枠及びくつずりの材料 ○建具表による ・

⑪ 建具用金物

金物の種類及び見え掛り部の材質等 (16.8.2、3)(表16.8.1)
※標準仕様書表16.8.1及び適用は建具表による ・
金属製建具に使用する丁番の枚数及び大きさ
※標準仕様書表16.8.2による ・建具表による
樹脂製建具に使用する丁番の枚数及び大きさ
※標準仕様書16.8.3による ・建具表による
木製建具に使用する丁番の枚数及び大きさ
※標準仕様書16.8.4による ・建具表による
木製建具に使用する戸車及びレール
※標準仕様書16.8.5による ・建具表による
握り玉、レバーハンドル、押板類、クレセントの取付位置
○建具表による ・

⑫ 鍵

マスターキー ○製作する（GM×3本、M×5本） (16.8.4)
・製作しない
鍵の製作本数 ※各室３本１組（室名札付き）
鍵箱 ※有り ・無し

⑬ 自動ドア開閉装置

戸の開閉方式 (16.9.2)
○建具表による
引き戸用駆動装置
※標準仕様書 表16.9.1による（防錆 ・適用する ・適用しない）
・種類・開閉方式（ ） ・耐電圧（ ）
・温度上昇（ ） ・耐久性(サイクル)（ ）
・防錆（ ） ・電源（ ）
車椅子使用者用便房出入口引き戸用駆動装置（表16.9.2）
※標準仕様書 表16.9.2による（防錆 ・適用する ・適用しない）
・耐電圧（ ） ・温度上昇（ ）
・耐久性(サイクル)（ ） ・防錆（ ）
・電源（ ）
引き戸用検出装置（表16.9.3）
※標準仕様書 表16.9.3による（防錆 ・適用する ・適用しない）
・放射無線周波数電磁界耐性（ ） ・耐電圧（ ）
・防錆（ ） ・防滴（ ） ・電源（ ）
引き戸用検出装置の種類（表16.9.4） ○建具表による
タッチスイッチの種類
・無線式タッチスイッチ ○光線式タッチスイッチ
車椅子使用者用便房スイッチの種類
・大形押しボタンスイッチ ・非接触スイッチ
凍結防止措置 ・行う ・行わない

訂正	月 日	事項		

universal 株式会社ユニバァサル設計
UNIVERSAL DESIGN OFFICE INC.

事務所登録	東京本部一級建築士事務所 一級建築士事務所 東京都知事登録 第22736号		
設計者	一級建築士 登録第362390号 星野 康二	法適合確認結果等	

工事名称	仮称芳野市民センター新築工事	図面名称	特記仕様書(3)	縮尺	A2:NS A3:NS	図面No.	04-03
作成	2025 年 2 月 17 日	承認		部長 課長 担当 製図		設計No.	

⑭ 自閉式上吊り引戸装置

性能　※標準仕様書表16.10.1による　・　(16.10.3)(表16.10.1)
・手動開き力（　　）　・手動閉じ力（　　）
・閉じ速度の調整（　　）　・制動区間（　　）
・開閉繰返し（　　）　・耐衝撃性（　　）

15　重量シャッター

シャッターの種類　(16.11.2、3)
・管理用シャッター
・外壁用防火シャッター
・屋内用防火シャッター
・防煙シャッター
外壁開口部に設ける重量シャッターの耐風圧強度（　　）pa
開閉方式の種類　※電動式（手動併用）　・手動式
安全装置
急降下制御装置、急降下停止装置、障害物感知装置
（設置箇所　・建具表による　・　　）
屋内用防火シャッター若しくは防煙シャッターの危害防止機構
（設置箇所　・建具表による　・　　）
管理用シャッターのシャッターケース　※設ける　・設けない
スラット及びシャッターケース用鋼板
鋼板の種類　・JIS G 3302（溶融亜鉛めっき鋼板及び鋼帯）
・JIS G 3312（塗装溶融亜鉛めっき鋼板及び鋼帯）
めっきの付着量　※Z12又はF12　・
ガイドレール、まぐさ、雨掛りに用いる座板及び座板のカバー、雨掛りに用いる
スイッチボックス類のふたの材質
ステンレス鋼板　※SUS304、SUS430J1L又はSUS443J1

⑯ 軽量シャッター

開閉形式の種類　※手動式　⊙電動式（手動併用）　(16.12.2～4)
耐風圧強度（　　）pa
安全装置
電動シャッターの障害物感知装置
（設置箇所　・建具表による　・　　）
スラットの材質の種類
⊙JIS G 3312（塗装溶融亜鉛めっき鋼板及び鋼帯）
めっき付着量　（※Z06又はF06　・　　）
・JIS G 3322（塗装溶融55%アルミニウム－亜鉛合金めっき鋼板及び鋼帯）
めっき付着量　（※AZ90　・　　）
スラットの形状　・インターロッキング形　・オーバーラッピング形
⊙上部グリルシャッター＋下部スラット

17 オーバーヘッドドア

(16.13.2、3)

セクション材料による区分	風圧力による強さの区分	開閉方式による区分	収納形式による区分	ガイドレールの材料
※スチールタイプ ・アルミニウムタイプ ・ファイバーグラスタイプ	・125(1250Pa) ・100(1000Pa) ・75（ 750Pa） ・50（ 500Pa）	※バランス式 ・チェーン式 ・電動式	・スタンダード形 ・ローヘッド形 ・ハイリフト形 ・バーチカル形	※溶融亜鉛めっき鋼板 ・ステンレス鋼板

電動式オーバーヘッドドアの障害物感知装置（設置箇所　・建具表による　・　　）

⑱ ガラス

(16.14.2～4)(図16.14.1)
適用は以下によるほか、ガラスの種類・厚さの組み合わせは建具表及び図面による。
フロート板ガラスの品種、厚さの呼びによる種類　※建具表による　・図示
型板ガラスの厚さによる種類　※建具表による　・図示
網入り板ガラス、線入り板ガラスの網、線の形状、板の表面の状態、厚さの呼びによる種類　※建具表による　・図示

・合わせガラス
材料板ガラスの種類及び厚さの組み合わせ並びに合わせガラスの合計厚さ、特性による種類　※建具表による　・図示
形状　・平面合わせガラス　・曲面合わせガラス
落球衝撃はく離特性及びショットバック衝撃特性
・Ⅰ類　・Ⅱ－1類　・Ⅱ－2類　・Ⅲ類

⊙強化ガラス
形状による種類、材料板ガラスの種類による名称、特性による種類
※建具表による　・図示
破片の状態及びショットバック衝撃特性による種類　・Ⅰ類　・Ⅲ類

・熱線吸収板ガラス
板ガラスによる種類、厚さによる種類、性能による種類
※建具表による　・図示
性能　・1種　・2種

⊙複層ガラス
材料板ガラスの種類及び厚さの組み合わせ並びに複層ガラスの厚さ
※建具表による　・図示
断熱性による区分　・T1　⊙T2　・T3　・T4　・T5　・T6
日射取得性及び日射遮蔽性による区分　・G　⊙S
乾燥気体の種類　⊙空気　・アルゴン

・熱線反射ガラス
材料板ガラスの種類及び厚さによる種類　※建具表による　・図示
日射熱遮へい性による区分　・1種　・2種　・3種
耐久性による区分(日射熱遮へい性が2種の場合)　・A類　・B類

・倍強度ガラス
材料板ガラスの種類及び厚さによる種類　※建具表による　・図示

ガラスの留め材及び溝の大きさ

建具の種類	ガラス留め材	ガラス溝の大きさ(mm)
アルミニウム製	⊙シーリング材 ・グレイジングチャンネル ・	・図示による ※建具の製造所の仕様による
鋼製及び鋼製軽量	⊙シーリング材 ・	・図示による ※建具の製造所の仕様による
ステンレス製	⊙シーリング材 ・	・図示による ※建具の製造所の仕様による
樹脂製	・グレイジングチャンネル ・	・図示による ※建具の製造所の仕様による

19 ガラスブロック積み

(16.14.5)

呼び寸法(mm)	厚さ(mm)	色調	目地幅(mm)	伸縮調整目地位置(mm)	防火性能
・160×160	・95 ・				
・200×200	・95 ・				

壁用金属枠及び補強材　・図示による
力骨　材質　※ステンレス鋼(SUS304)　・
寸法　※径5.5mm　・
形状　※はしご形状複筋及び単筋　・
化粧目地モルタルの色（・白　・グレー）
シーリングの種類　（・SR-1　・PS-1）
金属製化粧カバー　材質　・ステンレス製　・アルミニウム製
寸法　※図示　・
形状　※図示　・
木下地の場合のアンカー等の取付け間隔　・図示による
目地部の横力骨の納まり
※ガラスブロック製造所の仕様による　・図示　・
工法
建築基準法に基づき定まる風圧力の（・1　・1.15　・1.3）倍の風圧力に対応した工法

17 カーテンウォール工事

① 取付方法、性能等

取付け形態による分類　(17.1.3)
・層間方式　・柱・梁方式　⊙方立方式　・スパンドレル方式　・

水密性	気密性	遮音性	断熱性	耐火性能	耐温度差性(℃)
⊙W-5	⊙A-4			・30分 ・1時間	⊙80 ・70 ・60

耐風圧性
建築基準法に基づき定まる風圧力の　⊙　・1.15　・1.3）倍の風圧力に対応した工法
主要部材の耐風圧性能（ガラスを除く）

支点間距離(h)	耐風圧性能
4m以下	⊙たわみ量が±(1/150)×h かつ絶対量20mm以下であること ・
4mを超える	⊙たわみ量が±(1/200)×h

性能の確認方法及び判定方法
※性能の確認及び判定方法が確認できる資料を提出し、監督職員の承諾を受ける

② メタルカーテンウォール

金属系材料の種類　(17.2.2、3、5、6)
⊙アルミニウム材　・鋼材　・ステンレス鋼材
シーリング材の種類（目地等）
種類及び寸法等　※図示による
ガラスの取付け材料
⊙シーリング　種類　⊙SR-2　・SR-1)
・構造ガスケット　形状、寸法等　・図示　・
断熱材 G
種類及び範囲　※図示による
形状及び仕上げ
製品の寸法許容差　※標準仕様書表17.2.1による　・
見え掛り部の仕上げ　・
（アルミニウム材の場合）
規格等　※標準仕様書16.2.3による
種別　⊙E-1種　（標準仕様書表14.2.1）
着色　⊙標準色　・特注色
（鋼材及びステンレス鋼材の場合）
ガラス溝の寸法、形状　※カーテンウォールの製造所の仕様　・
取付け
躯体付け金物の取付け位置の寸法許容差
鉛直方向　※±10mm　・
水平方向　※±25mm　・
カーテンウォール部材の取付け位置の寸法許容差
目地の幅　※±3mm　・
目地の心の通り　※0～2mm　・
目地両側の段差　※0～2mm　・
各階の基準墨から各部材までの距離　※±3mm　・
耐火処理　適用部位、材料等　※図示による
ガラスの取付け材料
ガラスの取付け材料がシーリングの場合のガラスの支持方法　※4辺支持　・

③ PCカーテンウォール

材料
コンクリート　種類　（・普通コンクリート　・軽量コンクリート1種　・　　）
品質　設計基準強度(Fc)　※30N/mm²　・
スランプ　※12cm　・
気乾単位容積質量
・普通コンクリートの場合　2.1t/m³を超え2.5t/m³以下
・軽量コンクリートの場合　1.8t/m³ ～ 2.1t/m³
・
単位水量の最大値　※185kg/m³　・
鉄筋　種類記号　※SD295
補強鉄線の径(mm)　・3.2　・4.0　・5.0　・6.0
網目寸法　・
シーリング材の種類（目地等）
種類及び寸法等　※図示による
ガラスの取付け材料
・構造ガスケット　形状、寸法等　・図示　・
耐火処理
適用部位、材料等　※図示による
断熱材 G　種類（　　）
種類及び範囲　※図示による
先付けの材料
・表面仕上げ材　・セラミックタイル
・石材（・花こう岩　・大理石　・　　）
・建具枠
・ゴンドラ用ガイドレール

形状及び仕上げ
製品に見え掛り部の寸法許容差
辺長　※±3mm　・　ねじれ、そり　※0～5mm　・
対角線長の差　※0～5mm　・　曲がり　※0～3mm　・
版厚　※±2mm　・　面の凹凸　※0～3mm　・
開口部内法寸法　※±2mm　・　先付け金物の位置　※0～5mm　・
PCカーテンウォールの仕上げ　・
構造ガスケットを用いる場合のアンカー溝の寸法及び寸法許容差
※図示による
製作
PC版の配筋　※図示による
取付け
躯体付け金物の取付位置の寸法許容差
鉛直方向　※±10mm
水平方向　※±25mm
カーテンウォール部材の取付け位置の寸法許容差
目地の幅　※±5mm　・
目地の心の通り　※0～3mm　・
目地両側の段差　※0～4mm　・
各階の基準墨から各部材までの距離　※±5mm　・
ガラスの取付け方法
・ガラスの取付け材が構造用ガスケットで複層ガラス等を使用する場合は排水機能の設置及びガラスの封着処理の強化を行う

⑱ 塗装工事

① 材料

屋内で使用する塗料のホルムアルデヒド放散量　(18.1.3)
※F☆☆☆☆
・防火材料　※屋内の壁、天井仕上げは防火材料とする
・仕上表による

② 素地ごしらえ

(18.2.2～7)

下地面等		種別
木部	不透明塗料塗りの場合	※A種　・B種
	透明塗りの場合	・A種　※B種
鉄鋼面（DP以外）		・A種　・B種　※C種
鉄鋼面（DPのみ）		・A種　※B種　・C種
亜鉛めっき鋼面		・A種　・B種
モルタル面及びせっこうプラスター面		・A種　※B種
コンクリート面（DP以外）及びALCパネル面		・A種　※B種
押出成形セメント板面		・A種　※B種
コンクリート面（DPのみ）		※A種　・B種
せっこうボード面及び	目地：継目処理工法	※A種　・B種
その他ボード面	目地：継目処理工法以外	・A種　※B種

③ 錆止め塗料塗り

(18.3.2、3)

下地面	塗料の種別	錆止め塗料の種別	錆止め塗料塗りの工程
鉄鋼面	SOP	A種	見え掛り：A種 見え隠れ：B種
	DP	C種及びD種	表18.3.4
	EP-G	・A種　※B種	見え掛り：A種 見え隠れ：B種
亜鉛めっき鋼面	SOP	※A種　・B種	鋼製建具等：A種 上記以外：B種
	DP	B種	表18.3.6
	EP-G	C種	鋼製建具等：C種 上記以外：B種

④ 塗装

(18.4.1～18.12.2)

塗装		種別	塗料の種類
⊙合成樹脂調ペイント塗り(SOP)	木部屋外	※A種　・B種	—
	木部屋内	・A種　※B種	
	鉄鋼面	・A種　※B種	
	亜鉛めっき鋼面	—	
・クリヤラッカー塗り（CL）		・A種　※B種	—
・アクリル樹脂系非水分散形塗料塗り(NAD)		・A種　※B種	—
⊙耐候性塗料塗り(DP)	鉄鋼面	—	上塗り塗料の等級(1)級
	亜鉛めっき鋼面	—	上塗り塗料の等級(・)級
	コンクリート面及び押出成形セメント板面	・A種　・B種　・C種	—
・つや有合成樹脂エマルションペイント塗り(EP-G)	コンクリート面、モルタル面、せっこうプラスター面、せっこうボード面、その他ボード面等	・A種　※B種	—
	屋内の木部、鉄鋼面 亜鉛めっき鋼面	・A種　※B種	—
⊙合成樹脂エマルションペイント塗り(EP)		・B種　※B種	—
・ウレタン樹脂ワニス塗り(UC)		・A種　※B種	—
・ステイン塗り		・ビグメントステイン塗り ・オイルステイン塗り(OS)	—
⊙木材保護塗料塗り(WP)		・A種　※B種	—

屋上、屋根面の金属面に塗装する場合の塗料は高日射反射率塗装 G とする。
クリヤラッカー塗りA種の工程2の適用
・適用しない　・適用する(着色剤：・溶剤系着色剤　・油性染料着色剤)
ウレタン樹脂ワニス塗りの工程1の着色の適用
・適用する　・適用しない
オイルステン塗りの工程等　※製造所の仕様による

⑲ 内装工事

① 接着剤

(19.2.2)
ビニル床シート、ビニル床タイル、ゴム床タイル用接着剤のホルムアルデヒド放散量　※F☆☆☆☆
施工箇所の下地がセメント系下地及び木質系下地以外の場合の接着剤の種別
・図示　・

② 下地の工法

標準仕様書19.2.3(1)～(3)以外の下地の工法　・図示　・

③ ビニル床シート G

(19.2.2、3)

種類の記号	色柄	厚さ(mm)	備考
※FS(複層ビニル床シート) ・ ・	・無地 ⊙マーブル柄 ・柄物	※2.0 ・	トイレ・給湯室はウレタン系又はエポキシ系接着剤使用

接合部の処理　※熱溶接工法　・

④ ビニル床タイル G

(19.2.2)

種類の記号	色柄	寸法	厚さ(mm)	備考
※KT(コンポジションビニル床タイル) ・TT(単層ビニル床タイル) ・FT(複層ビニル床タイル) ・FOA(置敷きビニル床タイル) ・FOB(薄型置敷きビニル床タイル)	・無地 ・柄物	・300×300 ・450×450 ・500×500	※2.0 ・2.5 ・3.0 ・	

⑤ 特殊機能床材

(19.2.2)

シート種別	厚さ、寸法、形状	性能	種類
・帯電防止床シート	(mm)		
・帯電防止床タイル	× (mm)		
⊙視覚障害者用床タイル	300×300×13 (mm)	視覚障害者誘導ブロック等の突起の形状・寸法及びその配列はJIS T 9251による	
・耐動荷重性床シート	(mm)		
⊙防滑性床シート	t2.0 (mm)		
⊙防滑性床タイル	300×300×13 (mm)		

⑥ ビニル幅木

材質　⊙軟質　・硬質　・床シート巻上げ（端部の処理は図示）　(19.2.2)
高さ(mm)　⊙60　・75　・100
厚さ(mm)　※1.5以上　・

⑦ ゴム床タイル

色柄　(　　)　(19.2.2)
厚さ(mm)　(　　)
寸法(mm)　(　　)

⑧ カーペット敷き G

・織じゅうたん　(19.3.2、3)(表19.3.1)

織り方	パイル形状
・ウィルトンカーペット ・ダブルフェースカーペット ・アキスミンスターカーペット	・カットパイル ・ループパイル ・カット/ループパイル

色柄、※模様のない無地
パイル糸の種類等　※無地の織りじゅうたんの種別（・A種　・B種　・C種）
帯電性　・適用する　・適用しない
織じゅうたんの接合方法　※ヒートボンド工法　・つづり縫い
下敷き材　※反毛フェルト(JIS L 3204)の第2種2号　呼び厚さ8mm　・
・タフテッドカーペット

パイル形状	ﾊﾟｲﾙ長さ(mm)	工法	帯電性	備考
・カットパイル	・5～7　・	・全面接着工法 ・グリッパー工法	・適用する(　　) ・適用しない	
・ループパイル	・4～6　・			
・カット、ループ併用	・			

下敷き材（グリッパー工法の場合）
※反毛フェルト(JIS L 3204)の第2種2号　呼び厚さ8mm　・
タフテッドカーペット用接着剤のホルムアルデヒド放散量　※F☆☆☆☆

⊙タイルカーペット

パイル形状	種別	施工箇所	寸法(mm)	総厚さ(mm)	備考
※ループパイル	※第一種 ・第二種	事務室床	※500× 500 ・	※6.5 ・	
・カットパイル	・第一種 ・第二種		※500× 500 ・	※6.5 ・	
・カット、ループ併用	・第一種 ・第二種		※500× 500 ・	※6.5 ・	

タイルカーペット用接着剤のホルムアルデヒド放散量　※F☆☆☆☆
タイルカーペットの敷き方　平場　※市松敷き　・模様流し　・
階段部分　※模様流し　・市松敷き　・
見切り、押え金物　・材質、種類、形状等　※図示　・

⑨ 合成樹脂塗床

塗床材のホルムアルデヒド放散量　※F☆☆☆☆　・

種別	施工箇所	工法	仕上げの種類
・厚膜型塗床材 弾性ウレタン樹脂系塗床			※平滑仕上げ ・防滑仕上げ　・つや消し仕上げ
・厚膜型塗床材 エポキシ樹脂系塗床		・薄膜流しのべ工法 ・厚膜流しのべ工法 ・樹脂モルタル工法	・平滑仕上げ ・防滑仕上げ
・薄膜型塗床材 エポキシ樹脂系塗床			※平滑仕上げ
⊙アクリル樹脂塗床(JIS K 5970) (防塵塗料塗り)	PS・EPS床	※製造所の指定による	工程 塗布量(kg/㎡) ※0.25kg/㎡以上 表面仕上げ ※平滑　・防滑 溶剤 ※水性　⊙溶剤系　・無溶剤系 仕上げ色 ※標準色　・

10 フローリング張り

フローリングのホルムアルデヒド放散量等
※標準仕様書19.5.2(2)による
各工法に使用する接着剤のホルムアルデヒドの放散量　※F☆☆☆☆

単層フローリング
・フローリングボード1等
工法　・釘止め工法（・根太張り　・直張り）　・接着工法
樹種　※なら
厚さ、大きさ　※標準仕様書表19.5.1、3による　・
仕上塗装　・塗装品　・無塗装品
間伐材等の適用　・する　・しない
・フローリングブロック1等
工法　※接着工法　・
樹種　※ なら　・
厚さ、大きさ　※標準仕様書 表19.5.1による
仕上塗装　・塗装品　・無塗装品
間伐材等の適用　・する　・しない
複合フローリング
・天然木化粧複合フローリング
工法　・釘止め工法（・根太張り　・直張り）　・接着工法
樹種　※なら
種別（標準仕様書表19.5.2、4、6）　・A種　・B種　・C種
仕上塗装　・塗装品　・無塗装品
間伐材等の適用　・する　・しない
接着工法の場合の不陸緩和材　※合成樹脂発泡シート　・
・現場塗装仕上げ　※ウレタン樹脂ワニス塗り
・オイルステインの上、ワックス塗り
・生地のままワックス塗り

11 畳敷き

(19.6.2)(表19.6.1)
種別　・A種　・B種　・C種　・D種（畳床：・KT-Ⅰ・KT-Ⅱ・KT-Ⅲ・KT-K・KT-N）
下地の種類　・標準仕様書表12.6.1による床組
・ポリスチレンフォーム床下地（ノンフロン G ）
・
畳表及び畳床はホルムアルデヒド、アセドアルデヒド及びスチレンを発散しないか、発散が極めて少ない材料を使用したものとする。
衝撃緩和型畳　（畳表：・C1　・C2）

⑫ せっこうボード、その他のボード及び合板張り

MDF、パーティクルボード及び接着剤の　(19.7.2、3)(表19.7.1)
ホルムアルデヒド放散量　※F☆☆☆☆　・
合板のホルムアルデヒド放散量　※標準仕様書 19.7.2(2)(イ)の(a)～(d)のいずれか

木質系セメント板

種類	厚さ(mm)、規格等
・硬質木毛セメント板 G	・15　・20　・25　・
・中質木毛セメント板 G	・15　・20　・25　・
・普通木毛セメント板 G	・15　・20　・25　・

木片セメント板

種類	厚さ(mm)、規格等
・硬質木片セメント板 G	・12　・15　・18　・21　・
・普通木片セメント板 G	・30　・

繊維強化セメント板

・けい酸カルシウム板	普通ボード0.8FK　ﾀｲﾌﾟ2(無石綿)　・6　・8
⊙化粧けい酸カルシウム板	普通ボード0.8FK　ﾀｲﾌﾟ2(無石綿)　⊙6　・8 表面への化粧張り等の加工　⊙アクリル樹脂系焼付

火山性ガラス質複層板

・火山性ガラス質複層板	・図示による

繊維板

ハードボード(素地) スタンダードボード（無処理）	・内装用化粧ハードボード(DE) 厚さ　・2.5　・3.5　・5　・7
テンパードボード（処理）	・素地ハードボード(・未研磨板(RN)・研磨板(RS)) ・外装用化粧ハードボード(DE) 厚さ　・2.5　・3.5　・5　・7
・ミディアムデンシティファイバーボード（MDF）G	・3　・7　・9　・12　・
・インシュレーションボード G	A級（・天井仕上　・内装仕上　・　　） ・9　・12　・15　・18

パーティクルボード

・単板張りパーティクルボード G	・無研磨板 VN　・研磨板 VS ・10　・12　・15　・18　・
・化粧パーティクルボード G	・単板オーバーレイ DV　・プラスチックオーバーレイ DO ・塗装 DC ・10（難燃）　・12（難燃）　・

訂正	月	日	事項

universal 株式会社ユニバァサル設計
UNIVERSAL DESIGN OFFICE INC.
事務所登録　東京本部一級建築士事務所　一級建築士事務所 東京都知事知事登録 第22736号
設計者　一級建築士　登録第362390号　星野　康二

法適合確認結果等

工事名称	仮称芳野市民センター新築工事
図面名称	特記仕様書(4)
縮尺	A2:NS　A3:NS
図面No.	04-04
作成	2025 年 2 月 17 日
承認	
部長	
課長	
担当	
製図	
設計No.	

吸音材料

⊙ロックウール化粧吸音板	・フラットタイプ （⊙9(不燃)　・12(不燃)　・　） ・凹凸タイプ （・12(不燃)　・15(不燃)　・　）
・ロックウール吸音ボード1号	・25　・
・グラスウール吸音ボード32K	・25（ガラスクロス包）　・

⊙せっこうボード製品

⊙せっこうボード(GB-R)	⊙12.5（不燃）　・15（不燃）
・不燃積層せっこうボード(GB-NC)	9.5（不燃）　・化粧無（下地張り用） ・化粧有（トラバーチン模様）
⊙シージングせっこうボード(GB-S)	12.5（※不燃　・準不燃）
⊙強化せっこうボード(GB-F)	⊙12.5（不燃）　・15（不燃）
・せっこうラスボード(GB-L)	9.5
・化粧せっこうボード(GB-D)(木目)	12.5（不燃）　幅440mm程度 模様（・柾目　・板目）専用下地材有り
⊙化粧せっこうボード(GB-D) （トラバーチン模様）	9.5（準不燃）

合板

・普通合板 G	表板の材種 生地、透明塗料塗り （※ﾗﾜﾝ程度　・　） 不透明塗料塗り （※しな程度　・　） 板面の品質（　） 厚さ(mm)（　） 防虫処理　・行う　・行わない
・天然木化粧合板 G	化粧板の樹種名（　） 厚さ(mm)（　） 防虫処理　・行う　・行わない
・特殊加工化粧合板 G	化粧加工の方法（・ｵｰﾊﾞｰﾚｲ　・ﾌﾟﾘﾝﾄ　・塗装） 表面性能（　）タイプ 厚さ(mm)（　） 防虫処理　・行う　・行わない

化粧板

⊙メラミン樹脂化粧板	JIS K 6903による厚さ（※1.2　・　）
・ポリエステル樹脂化粧板	

天井のボード類(ロックウール吸音板を除く)の重ね張りを行う場合　※図示　・
合板類の張付け　・A種　・B種
せっこうボードの目地工法等　目地工法の種類　※仕上表による　⊙綱目処理工法

突付け工法のエッジの種類	・ベベルエッジ　・スクェアエッジ
目透かし工法のエッジの種類	・ベベルエッジ　・スクェアエッジ

⑬ 壁紙張り

壁紙のホルムアルデヒド放散量　※F☆☆☆☆　・　(19.8.2、3)

施工箇所	壁紙の種類						防火性能	備考
	紙	織物	塩化ﾋﾞﾆﾙﾌﾟﾗｽﾁｯｸ	無機質	その他			
図示	・	・	⊙	・	・	・	⊙不燃・準不燃・難燃	
	・	・	・	・	・	・	・不燃・準不燃・難燃	

モルタル及びせっこうプラスター面の素地ごしらえの種別　・A種　※B種
コンクリート面の素地ごしらえの種別　・A種　※B種
せっこうボード面の素地ごしらえの種別　・A種　※B種

⑭ 断熱材 G　(19.9.2～4)

ﾌｪﾉｰﾙﾌｫｰﾑ断熱材、保温剤又は接着剤のﾎﾙﾑｱﾙﾃﾞﾋﾄﾞ放散量　※F☆☆☆☆　・
開口部等補修のための張付け用の接着剤のﾎﾙﾑｱﾙﾃﾞﾋﾄﾞ放散量　※F☆☆☆☆　・

※断熱材打込み工法

種類	厚さ(mm)	施工箇所
・ビーズ法ポリスチレンフォーム断熱材	・	・
⊙押出法ポリスチレンフォーム断熱材(スキン層なし) （・2種bA　⊙3種bA　・3種bC　・3種bD）	・25	・ピット
・硬質ウレタンフォーム断熱材	・	・
・フェノールフォーム断熱材	・	・

⊙断熱材現場発泡工法
断熱材の種類　・A種1　⊙A種1H
吹付け厚さ(mm)　40
施工箇所　⊙図示(外気に接する壁の内側)　・

⑳ ユニット及びその他工事

① フリーアクセスフロア　(20.2.2)

施工箇所	構　法	寸法(mm)	高さ(mm)	耐震性能	所定荷重(N)	表面仕上げ材	備　考
事務室	⊙置敷式 ・支柱調整式	⊙500×500 ・	40	・1.0G ⊙0.6G	⊙8,000 ・5,000	・帯電防止床ﾀｲﾙ ⊙ﾀｲﾙｶｰﾍﾟｯﾄ ・	
	・置敷式 ・支柱調整式	・500×500 ・		・1.0G ・0.6G	・3,000 ・5,000	・帯電防止床ﾀｲﾙ ・ﾀｲﾙｶｰﾍﾟｯﾄ ・	

フリーアクセスフロアスフロアの試験方法
※標準仕様書20.2.2(2)(ｲ)(a)～(d)による　・
寸法精度
※標準仕様書20.2.2(2)(ｵ)(a)～(c)による　・
・以下による
パネルの長さの寸法精度（　）
パネルの平面形状（角度）の寸法精度（　）
フリーアクセスフロアの高さの寸法精度（　）
帯電防止性能
・評価値（U）≧0.6以上
・評価値（U）≧1.2以上
感電防止性能
漏えい抵抗（R）≧1×10⁶Ω

2 可動間仕切　パネル材料のホルムアルデヒド放出量　※F☆☆☆☆　・　(20.2.3)

構造形式	構成基材の種類		パネル表面仕上げ	遮音性(db/500HZ)	防火性能
	ｽﾀｯﾄﾞ	パネル			
・スタッド式（内蔵） ・スタッド式（露出） ・パネル式 ・スタッドパネル式			・メラミン樹脂焼付又は アクリル樹脂焼付 ・壁紙張り	・0 ・12 ・20 ・28 ・36	・不燃

パネル内に取付ける建具　・あり（※図示　・　）　・なし
パネル内に取付ける建具のドアクローザ、丁番、錠前、上げ落しは、標準仕様書 16章 8節 の建具用金物に対応する材質とする。
表面仕上材を壁紙張りとする場合の品質、性能は標準仕様書19章による。

③ 移動間仕切　(20.2.4)

構造形式	操作方法	圧接装置の操作方法	総厚さ(mm)	パネル表面材		遮音性(dB/500Hz)
				材質	仕上げ	
・平行方向移動式 ⊙二方向移動式	⊙手動式 ・電動式 ・部分電動式	・プッシュ式 ⊙ハンドル式 ・	65	⊙鋼板 ・	⊙焼付塗装 ・壁紙張り ・	・36未満 ⊙36以上

パネル表面仕上げの壁紙張りの品質、性能は、標準仕様書19章による。
遮音性能は、JIS A 6512に準拠し、中心周波数500Hzの音についての透過損失とする。
ハンガーレールの取付け下地の補強
※取付け全重量の5倍以上の荷重に対して、使用上支障のない耐力及び変形量となるように補強する。
⊙図示
パネルをランナーに取り付ける部品
※ランナーに加わる重量の5倍以上の荷重に耐えられるもの
ハンガーレール及びランナー
※パネル重量の5倍の荷重を、パネル1枚に使用するランナー数で除した値に対して、耐力及び変形量が使用上支障のないもの

④ トイレブース　パネル材料のホルムアルデヒド放射量　※F☆☆☆☆　・　(20.2.5)

表面材の種類	脚部種類	ドアエッジの材質	ドアエッジの形状
⊙メラミン樹脂系化粧板 ・ポリエステル樹脂系化粧板	※幅木タイプ ・	※製造所の標準仕様 ・アルミニウム製 ・ステンレス製 ⊙表面材と同材	・標準 ⊙Rタイプ

⑤ 手すり　材料の種類及び仕上げ　(20.2.6)
・SUS304　表面処理　※HL程度　・
・鋼製　表面処理　溶融亜鉛めっき（※標準仕様書 表14.2.2による種別（　種））
⊙アルミニウム　表面処理（※標準仕様書 表14.2.1による種別（　種））
色合等　⊙標準色（　）　・特注色（　）
手すりの握り部分

材種	表面仕上げ	直径(mm)	取付箇所	備考
・集成材(材種：　)	・ｸﾘｱﾗｯｶｰ　・	・30程度・35程度　・45程度		
・ﾋﾞﾆﾙ製ﾊﾝﾄﾞﾚｰﾙ	・	・30程度・35程度　・45程度		
⊙樹脂被膜ﾀｲﾌﾟ	・	⊙34φ	廊下・屋内階段	抗菌性、大腸

⑥ 階段滑り止め　材種　・ステンレス製　・黄銅製押出型材　(20.2.7)
⊙アルミニウム製押出型材　・
形状　※タイヤ型（タイヤの材質：ゴム又は合成樹脂合等）　・タイヤレス製
端部の形状　フラットエンド　・あり　⊙なし
寸法(幅)　⊙35mm程度　・40mm程度　・50mm程度
取付け工法　※接着工法　・埋め込み工法　⊙ビス留め

⑦ 黒板及びホワイトボード G　(20.2.9)
・黒板　区分　※焼き付け　・
種類　・ほうろう　・鋼製　・
色　※緑　・
⊙ホワイトボード（　図示　）

⑧ 鏡　取付箇所（図示　）　(20.2.10)
寸法（mm）　⊙図示　・
厚さ（mm）　※5　・

⑨ 表示　衝突防止表示　(20.2.11)
・設置場所　※図示による
形状・寸法（⊙80Φ　・　）
材質　⊙ステンレス製　・塩ビシート　）
・設置しない
誘導標識、非常用進入口等の表示　※消防法に適合する市販品　・
室名札、ピクトグラフ、案内板等の形状、寸法、材質、色、書体、印刷等の種別、取付け形式等(案内用図記号はJIS Z 8210による)
※図示による

⑩ タラップ　材質及び仕上げ　(20.2.12)
⊙SUS304（スリップ止め加工　※あり　・なし　）
・鋼製　表面処理　溶融亜鉛めっき
（※標準仕様書表 14.2.2による種別（※C種　・　種））

11 煙突ライニング　適用安全使用温度　・　(20.2.13)
工法
※鋼製ユニット煙突(煙突用成形ライニング材)

12 ブラインド　(20.2.14)

形式	操作方法	操作方法の種類	スラットの材種	ｽﾗｯﾄ幅(mm)	ﾎﾞｯｸｽ・ﾚｰﾙの材種	幅・高さ取付箇所
・横形	・手動	※ギヤ式 ・コード式 ・操作棒式	※アルミニウム合金製 G ・	※25 ・	※鋼製 ・	・図示 ・
	・電動	―				
・縦形	・手動	※2本操作ｺｰﾄﾞ式 ・1本操作ｺｰﾄﾞ式	・アルミスラット ・クロススラット ・	・80 ・100	※ｱﾙﾐﾆｳﾑ合金製	・図示 ・
	・電動	―				

縦型ブラインドのスラットの材質
アルミスラット　焼付け塗装仕上げ
クロススラット　消防法で定める防炎性能の表示がある特殊樹脂加工
ポリエステル繊維又は植物を原料とする合成繊維を使用した製品を使用する場合 G とする

⑬ ロールスクリーン　操作方法　⊙スプリング式　・コード式　・電動式　(20.2.15)
幅、高さ、取付箇所　⊙図示　・
材種　⊙ガラス繊維製　・合成・天然繊維製
品質等　⊙遮光性
その他の材料　※ロールスクリーンの製造所の仕様による　・
スクリーンの仕様
消防法で定める防炎性能の表示があるもの
ポリエステル繊維又は植物を原料とする合成繊維を使用した製品を使用する場合は G とする

14 カーテン　(20.2.16)

形式		開閉操作	ひだの種類	生地の種別、品質、特殊加工等	取付け箇所	備考
・シングル ・ダブル	・片引き ・引分け	・手引き ・ひも引き ・電動	・つまみひだ ・箱ひだ、片ひだ ・ﾌﾟﾚｰﾝひだ		・図示 ・	
						(暗幕)

生地の仕様　消防法で定める防炎性能の表示があるもの
ポリエステル繊維又は植物を原料とする合成繊維を使用する場合は、G とする
暗幕カーテンの両端、上部及び召合せの重なり　※300mm以上　・

⑮ カーテンレール　材料による区分　※アルミニウム及びアルミニウム合金の押出し成型材　(20.2.16)
・ステンレス製
強さによる区分　※10-90　・
仕上げ　※アルマイト　・
形状　※角形　・

⑯ ブラインドボックス及びカーテンボックス　溝幅×深さ(mm)　・90×150　・120×80　・120×150　・150×80　⊙図示
材種　・集成材（仕上げ：　）
・アルミニウム製　押出し型材（市販品）
種別（標準仕様書表14.2.1）　・BC-1種　・BC-2種
色合い　・標準色（　）　・特注色（　）
⊙鋼製（仕上げ：SOP　）

⑰ 天井点検口

材種	寸法	形式		外枠	内枠
※アルミニウム製 ・	⊙450×450 ⊙600×600 ・	⊙一般形 ・気密形	・屋内外用 ⊙屋内用	・額縁タイプ ⊙目地タイプ	・額縁タイプ ⊙目地タイプ

⑱ 床点検口

材種	寸法	形式		備考
・アルミニウム製 ⊙ステンレス製 ・鋼製	・450×450 ⊙600×600 ・	・一般形 ⊙防水、防臭型	・屋内外用 ⊙屋内用	⊙鍵付き

密閉型とは、ボルト、ナット等メカニカル構造にパッキンを装着したものとする。
※構造図による

方向	幅(mm)	タイプ	耐火性能	防水性能	備考
・垂直 ・水平	・25 ・	※完全（全貫通型）	・耐火型 ・非耐火型	・有り ・無し	

目地

目地	内壁	外壁
目地材	・ｼｰﾘﾝｸﾞ材（見え掛かり部のみ） ・	・ｼｰﾘﾝｸﾞ材（見え掛かり部のみ） ・ｼｰﾘﾝｸﾞ材（内外とも）
目地寸法 (幅mm×深さmm)	・スリット幅×深さ10 ・	・スリット幅×深さ10 ・

目地材の材質は標準仕様書表9.7.1による。

⑳ 止水版　形式　⊙差込式　・据置式　・壁張り式
施工箇所　⊙図示　・

21 エキスパンション・ジョイント金物

材質	階区分	建築物間のｸﾘｱﾗﾝｽ(mm)	変位追従性(mm)	耐火性能	断熱性能	備考
・ｱﾙﾐﾆｳﾑ製 ・ｽﾃﾝﾚｽ製	( )階～( )階 ( )階～( )階	・50 ・100 ・150 ・	(避難経路の床等) ・　以上 (その他) ・　以上	・有り(　) ・無し	・有り(　) ・無し	

外部は防水型とする。
エキスパンションジョイントカバーには、脱落防止措置を講ずる。

22 くつふきマット

材種	受け枠	備考
・塩化ビニル又はゴム製 ・硬質アルミニウム合金製 ・ステンレス鋼(SUS304)製 ・	・ステンレス製(SUS304) ・硬質アルミニウム合金 ・	

㉓ 流し台ユニット

材種	寸法(mm)			備考
	W	D	H	
⊙流し台	・1200 ⊙1500 ⊙2100	・550 ⊙600 ・650	・800 ⊙850	市販品 トラップ付き 天板ステンレス製
・コンロ台	・600	・550 ・600 ・650	・620 ・670	市販品 バックガード有り 天板ステンレス製
⊙つり戸棚	⊙1500 ⊙2100	・450 ⊙870	・500 ⊙700	市販品
・水切り	・1200 ・900 ・600	―	―	市販品 ステンレス製 ・1段式　・

品質・性能　外観は、JIS A 4420「キッチン設備の構成材」の4.1 による。
構成材は、JIS A 4420の8 により試験を行ったとき、表1 の規定による。
形状　※図示　・

24 旗竿

材種	形式	高さ(m)	操作方法	固定方法	備考
・アルミニウム合金製 ・	・テーパー式 ・同一断面式		・ハンドル式 ・ロープ式	・埋込式 ・ベース式 ・バンド式	

25 旗竿受金物　材種　・ステンレス製（SUS304）　・

26 車止めさく

形式		材種	柱径、肉厚(mm)	高さ(mm)
・上下式鎖内蔵式	・標準品 ・スプリング式	・ステンレス製 ・	・図示	・図示
・				

27 フェンス　フェンスの種類　・ビニル被覆エキスパンドフェンス
・樹脂塗装メッシュフェンス
・鋼管フェンス　・アルミフェンス
高さ　・図示　・

28 プレキャスト コンクリート　(20.3.2～4)
コンクリートの設計基準強度
※水セメント比55%以下、単位セメント量の最小値300kg/m³ を満足する調合強度
・図示
配筋
※配筋を定めた計算書を監督員に提出する。　・図示
取付け方法
※図示　・

29 間知石及びコンクリート間知ブロック積み　(20.4.2、3)

	材種	種類	質量区分	備考
・間知石	・花こう岩 ・凝灰岩	―	―	
・コンクリート間知ブロック	―		・A　・B	

積み方　※谷積み　・布積み
目塗り　・図示　・
伸縮調整目地　材種　・図示　・
厚さ　・図示　・

30 鋼製書架及び物品棚

種　類	規　格　等	JIS による種類
・鋼製書架	JIS S 1039の規格による	・1種　・2種　・3種
・鋼製物品棚		・4種　・5種　・6種　・

㉛ 屋内掲示板　枠の材質　※アルミニウム製　・
表面の材質　※塩ビ発泡シート張り　・

㉜ 洗面カウンター　材種　・メラミン樹脂化粧板張り（芯材：集成材）　⊙人工大理石
奥行き(mm)　・約450　⊙約600

㉝ 防煙垂れ壁　⊙固定式

材　質	厚さ(mm)	高さ(mm)	備　考
※網入り磨板ガラス ⊙線入り磨板ガラス	※6.8 ・	※500 ⊙550	アルミ製枠付き

・可動式

種　類	材　質	高さ(mm)	備　考
・垂直降下式 （巻取り型）	※不燃布 （不燃認定品）	※500 ・800 ・	ガイドレール ※固定式（壁埋込型） ・可動式（天井収納型）
・回転降下式	鋼板製又はアルミ製	※500 ・800 ・	表面仕上げ ※天井材張り ・

降下機構　煙感知器連動及び手動開放装置（埋込型）

34 屋外掲示板　照明器具　※有り　・無し
施錠　※有り　・無し
製造所　（　）

㉟ 収納家具　材質、形状、寸法　※図示　・
材料のホルムアルデヒド放散量
※F☆☆☆☆　・

㉑ 排水工事

① 屋外雨水排水　材料

材種	種類・記号	形状	呼び径	備考
・遠心力鉄筋コンクリート管	※外圧管（1種）	・B形管 ・	※図示　・	
⊙硬質ポリ塩化ビニル管	⊙VP		※図示　・	
	・VU		※図示　・	
	・RF-VP G		※図示　・	
	・RS-VU G		※図示　・	

基床の厚さ及び種類　⊙図示　・
硬質ポリ塩化ビニル管の継手に用いる材料　※接着剤　・ゴム輪
側塊の形状及び寸法　⊙図示　・
排水桝、ふたの種類　⊙図示　・
砂地業に用いる材料(標準仕様書4.6.2(2))
・シルト　⊙山砂　・川砂　・砕砂
砂利地業に用いる材料(標準仕様書4.6.2(1))
⊙再生クラッシャラン G　・切込砂利　⊙切込砕石
現場打ちの場合のコンクリート材料
種類　※普通コンクリート
設計基準強度　※18N/mm²　・
スランプ(cm)　※15又は18
現場打ちの場合の鉄筋　種類の記号　※SD295　・
排水桝が現場打ちの場合の足掛け金物
※標準仕様書21.2.2(6)(ｵ)
・ステンレス製　・鋼製　・合成樹脂被覆加工されたもの
凍上抑制層の厚さ　・図示　・
凍上抑制層に用いる材料　・
（砂を用いる場合の粒度試験）・行う　・行わない

2 鋳鉄製ふた　鋳鉄製マンホールふた

種類	適用荷重	鍵	備考
・水封形 ・簡易密閉形(パッキン式) ・密閉形(テーパ・パッキン式) ・中ふた付き密閉形 （テーパ・パッキン式） ・	・T－2用 ・T－6用 ・T－20用 ・	・有り ・無し	左記以外の品質等は、(公社)空気調和衛生工学会SHASE-S209による。

3 グレーチング　・鋼製

形式	用途	適用荷重	ﾒｲﾝﾊﾞｰﾋﾟｯﾁ	亜鉛めっき（付着量）	上面形状
・受枠付き、ボルト固定 ・	・溝ふた(横断用) ・溝ふた(側溝用) ・桝ふた ・U字溝用	・歩行用	・細目 ・	・（　）	・凹凸形 ・
		・T-2用 ・T-6用 ・T-14用 ・T-20用 ・T-25用	・普通目 ・細目	・（　）	・平形 ・

・ステンレス製

形式	用途	適用荷重	ﾒｲﾝﾊﾞｰﾋﾟｯﾁ	亜鉛めっき（付着量）	上面形状
・受枠付き、ボルト固定	・溝ふた(横断用) ・溝ふた(側溝用) ・桝ふた ・U字溝用	・歩行用	・	―	・凹凸形 ・
		・T-2用 ・T-6用 ・T-14用 ・T-20用 ・	・	―	・平形 ・

4 街きょ、縁石、側溝

種類	形状、寸法
・縁石	・図示　・
・L形側溝	・図示　・
・U形側溝	・図示　・
・U形側溝ふた	・図示　・
・	・図示　・

砂地業に用いる材料
・シルト　・山砂　・川砂　・砕砂
砂利地業に用いる材料
・再生クラッシャラン G　・切込砂利　・切込砕石
砂利地業の厚さ　※100(mm)　・図示
現場打ちの場合のコンクリート材料
種類　※普通コンクリート
設計基準強度　※18N/mm²　・
スランプ(cm)　※15又は18
現場打ちの場合の鉄筋　種類の記号　※SD295　・
凍上抑制層に用いる材料　・
（砂を用いる場合の粒度試験）・行う　・行わない

5 埋戻し　・B種　(21.2.1)(表3.2.1)

22 舗装工事

1 路床　路床の材料　(22.2.2、3～5)(表22.2.1)

種別	材料	厚さ(mm)
・盛土	・A種　・B種　・C種　・D種 ・建設汚泥から再生した処理土 G	・図示 ・
・凍上抑制層	・再生クラッシャラン G　・クラッシャラン ・切込み砂利 ・砂（標準仕様書表21.2.2による） ・	・図示 ・
・フィルター層	・川砂、海砂、良質な山砂（75μmふるい通過量6%以下） ・	・図示 ・

（凍上抑制層に用いる材料に砂を用いる場合の粒度試験 ）・行う　・行わない

訂正	月　日	事　項	

株式会社ユニバァサル設計
UNIVERSAL DESIGN OFFICE INC.

事務所登録	東京本部一級建築士事務所 一級建築士事務所 東京都知事知事登録 第22736号	工事名称	仮称芳野市民センター新築工事
設計者	一級建築士　登録第362390号　星野　康二	法適合確認結果等	作成　2025年2月17日　承認

図面名称　特記仕様書(5)
縮尺　A2:NS　A3:NS
部長　課長　担当　製図
設計No.
図面No.　04-05

・路床安定処理
安定処理の方法　・安定処理工法　・置き換え工法
添加材料による安定処理
種類　・普通ポルトランドセメント　・高炉セメントＢ種 G
・フライアッシュセメントＢ種
・生石灰（・特号　・1号）　・消石灰（・特号　・1号）
添加量　・　100kg/m³（目標CBR　・3以上　・　）

・不織布（ジオテキスタイル）
単位面積質量　・60g/㎡以上　・
厚さ(mm)　・0.5～1.0　・
引張強さ　・98N/5cm（10kgf/5cm）以上　・
透水係数　・1.5×10⁻¹cm/sec以上　・

試験
砂の粒度試験　・行う　・行わない
路床土の支持力比（ＣＢＲ）試験　・行う（　2　箇所）　・行わない
現場ＣＢＲ試験　・行う（　2　箇所）　・行わない
安定処理土のＣＢＲ試験　・行う　・行わない
路床締固めの度の試験　・行う（　箇所）　・行わない
六価クロム溶出試験　・行う　・行わない

2 路盤

路盤及び厚さ　・図示　・　(22.2.2、3)(表22.3.1)
路盤材料（標準仕様書 表22.3.1による種別）

種別	
砕石	・クラッシャラン
	・粒度調整砕石
再生材	**・再生クラッシャラン G**
	・再生粒度調整砕石 G
・クラッシャラン鉄鋼スラグ G	
・粒度調整鉄鋼スラグ G	
・水硬性粒度調整鉄鋼スラグ G	

3 アスファルト舗装

アスファルト舗装の構成及び厚さ　※図示　・　(22.4.2～4、6)(表22.4.1、4)
材料及び種類
アスファルト　・再生アスファルト G
（標準仕様書 表22.4.1による種類：　・60～80　・80～100）
・ストレートアスファルト
骨材　・道路用砕石
・アスファルトコンクリート再生骨材 G
加熱アスファルト混合物等の種類
・密粒度アスファルト混合物（１３）（溶融スラグ入り）
・細粒度アスファルト混合物（１３）（溶融スラグ入り）
・密粒度アスファルト混合物（１３Ｆ）
試験
アスファルト混合物等の抽出試験　・行う　・行わない
舗装の平たん性
※通行の支障となる水たまりを生じない程度　・

4 コンクリート舗装

構成及び厚さ　(22.5.2～4)(表22.5.1～3)

舗装の種類	部位	構成	厚さ(mm)
コンクリート舗装	・車路、駐車場	※図示	**・図示**
	・歩行者用通路	※図示	※70　・図示

材料
コンクリート
※普通コンクリート　標準仕様書表22.5.1による　・
・以下による
コンクリートの種類　・
設計基準強度(N/mm²)　・
所定のスランプ(cm)　※8　・
粗骨材の最大寸法(mm)　・
早強ポルトランドセメント　・使用する　・使用しない
注入目地材料　※低弾性タイプ　・高弾性タイプ
目地
種類　※標準仕様書表22.5.3による　・
間隔　※標準仕様書表22.5.3による　・　5 m程度ごと
構造　※標準仕様書図22.5.1による　・図示
舗装の平たん性
※通行の支障となる水たまりを生じない程度　・

5 カラー舗装

・加熱系カラー舗装　(22.6.2～4)
構成及び厚さ　※図示　・
加熱系混合物の結合材
・アスファルト混合物
・石油樹脂系混合物　顔料の添加量（　　%）
添加材
着色骨材　（　　）
自然石　（　　）
・常温系カラー舗装
工法　**・ニート工法（配合その他：　　）**
・塗布工法（配合その他：　　）
着色部の下部　・アスファルト舗装　・コンクリート舗装
舗装の平たん性
※通行の支障となる水たまりを生じない程度　・

6 透水性アスファルト舗装

透水性舗装の構成及び厚さ　※図示　・　(22.7.2、3、6)
材料
骨材　・道路用砕石
・アスファルトコンクリート再生骨材 G
（標準仕様書 表22.4.1による種類：　・60～80　・80～100）
舗装の平たん性　※著しい不陸がないもの　・
試験
開粒度アスファルト混合物等の抽出試験　・行う　・行わない
・透水性コンクリート舗装　(22.5.2～4、6)
コンクリート舗装に対する基準値

項目	基準値
最大粒径　(mm)	13
空隙率　(%)	20以上
透水係数　(cm/s)	1×10⁻²以上
目地の間隔	版厚の20倍程度

構成、厚さはコンクリート舗装による
・不織布（ジオテキスタイル）
敷設位置　※フィルター層と路床の間の敷設　・図示

・透水性コンクリート平板舗装　(22.8.2、3)
透水性コンクリート平板舗装は、ブロック系舗装による

・透水性インターロッキングブロック舗装　(22.8.2、3)
透水性インターロッキングブロック舗装は、ブロック系舗装による

7 半たわみ性舗装

区分	種類	厚さ(mm)
表層	半たわみ性舗装用アスファルト混合物Ⅰ型(13)	40
基層	再生粗粒度アスファルト混合物(20)	40

試験
半たわみ性舗装用アスファルト混合物等の抽出試験　・行う　・行わない

材料
浸透用セメントミルクの標準的な性状

項目	性状	試験方法
フロー値(Pロート)秒	10～14	舗装調査・試験法便覧（C041）
圧縮強度(７日養生)　MPa	9.8～29.4	JIS R 5201
曲げ強度(７日養生)　MPa	2.0以上	舗装調査・試験法便覧（C042）

配合
半たわみ性舗装用アスファルト混合物の標準配合

ふるいの呼び名	ふるい通過質量百分率（%）
19.0　mm	100
13.2　mm	95～100
4.75　mm	10～ 35
2.36　mm	5～ 22
600　μm	**4～ 15**
300　μm	3～ 12
75　μm	1～ 6
アスファルト量（%）	3～ 4.5

半たわみ性舗装用アスファルト混合物のマーシャル安定度試験に対する基準値

項目	基準値
密度　(g/cm³)	1.9以上
安定度　(kN)	2.94以上
フロー値　(1/100cm)	20～40
空隙率　(%)	20～28
突固め回数（回）	50

施工
半たわみ性舗装用アスファルト混合物等の施工は、標準仕様書22.4.5による。
浸透用セメントミルクの施工は、(1)から(5)による。
(1) 浸透用セメントミルクの製造は、一般に移動ミキサによって行うが、工事規模が大きい場合には専用の移動式や固定式の混合プラントを用いることもある。
(2) 浸透用セメントミルクの施工は、一般に舗装体表面の温度が50℃程度以下になってから行う。その場合、舗装体にごみ、泥、水などが残っていないことを確認する。浸透作業は、一般に振動ローラ等により行う。
(3) セメントミルクが舗装表面に残っていると、路面のすべり抵抗値を低下させることがあるので、舗装表面の骨材の凹凸が現れる程度にセメントミルクをゴムレーキ等で除去する。特にすべり止め対策を必要とするところは、硅砂の使用及び余剰セメントミルクのよりいっそうの除去等、材料や施工法等で対処するか、場合によっては施工後ショットブラスト等で表面を粗くすることが必要である。
(4) 交通開放までの一般的な養生期間は、下表に示すとおりである。

セメントミルクの種類	養生期間
普通タイプ	約 3 日
早強タイプ	約 1 日
超速硬タイプ	約 3 時間

(5) 浸透用セメントミルクを注入する前に交通開放すると、骨材の剥奪や飛散、またはごみ、泥等による汚れが生じることがあるので、基本的には注入前に交通開放を行わないようにする。

締固め度　　標準仕様書22.4.2(2)による
舗装厚さの許容差　※標準仕様書 22.4.2(3) による
舗装の平たん性　※通行の支障となる水たまりを生じない程度

8 弾性舗装

弾性舗装（歩行者用通路）の構成及び厚さ　※図示　・

区分	種類	厚さ(mm)
表層	弾性舗装材	15～20
基層	再生密粒度アスファルト混合物（13）	30

加熱アスファルト混合物は、アスファルト舗装による

9 ブロック系舗装

・コンクリート平板舗装 G　(22.8.2、3)
※図示　・

種類	寸法(mm)	厚さ(mm)	目地材	備考
※普通平板（N） ・透水平板（P） ・保水性平板（M）	※300角 ・	※60 ・	※砂 ・モルタル	表面加工 ・研ぎ出し ・洗い出し ・たたき出し
敷砂層	砂 ・空練りﾓﾙﾀﾙ			

クッション材　※砂　・空練りモルタル

普通平板は G（再生材料を用いた舗装用ブロック）、
透水平板は G（透水性コンクリート）とする。

仕上り面の平たん性　※歩行に支障となる段差がないものとし、コンクリート平板間の段差は3mm以内とする。
・

・インターロッキングブロック舗装 G

種類	部位	形状寸法	厚さ(mm)	曲げ強度(N/mm²)	横断面勾配	目地材	備考
※普通ブロック（N） ・透水性ブロック（P） ・保水性ブロック（M）	車路、駐車場	・図示 ・	80	※5.0	2%	砂	色彩、表面加工 ・標準品 ・
※普通ブロック（N） ・透水性ブロック（P） ・保水性ブロック（M）	歩行者用通路	・図示 ・	60	※3.0	1.5～2%		

クッション材　※砂　・空練りモルタル
歩行者用通路に使用する普通ブロックは G（再生材料を用いた舗装用ブロック）、透水性ブロックは G（透水性コンクリート）とする。

仕上り面の平たん性　※歩行に支障となる段差がないものとし、ブロック間の段差は3mm以内とする。
・

区分	部位	厚さ(mm)	種類
敷砂層	・車路、駐車場	20	砂
	・歩行者用通路	30	
フィルター層		100	川砂、海砂又は良質な山砂（75μmふるい通過量6%以下）

・不織布（ジオテキスタイル）
敷設位置　※図示
・敷砂層と路盤の間に敷設　・フィルター層と路床の間に敷設
単位面積質量　・60g/㎡以上　・
厚さ(mm)　・0.5～1.0　・
引張強さ　・98N/5cm(10kgf/5cm)以上　・
透水係数　・1.5×10⁻¹cm/sec以上　・
舗装の割付（車路、駐車場）
・ヘリンボンボンド(45°)　・ヘリンボンボンド(90°)
仕上り面の平たん性　※走行、歩行に支障となる段差がないものとし、ブロック間の段差は3mm 以内とする。
・

・舗石舗装

種類	形状・寸法(mm)	厚さ(mm)	張り方	基層	基層の厚さ(mm)
・花こう岩 ・	・割石・図示 ・	・	・うろこ張り ・	・ｺﾝｸﾘｰﾄ版 ・ｱｽﾌｧﾙﾄ混合物	※70　・ ※70　・

クッション材　※砂　・空練りモルタル
仕上り面の平たん性　※歩行に支障となる段差がないものとし、舗石間の段差は3mm 以内とする。
・

10 砂利敷き

種別　(22.9.2)(表22.9.1)
・Ａ種（施工範囲：・図示　・通路　・　）
・Ｂ種（施工範囲：・図示　・建物周囲他　・　）

11 路面標示用塗料

路面標示用塗料は JIS K 5665 による。

種類	施工	適用	色	幅(mm)	塗布厚さ(mm)
・１種 G	常温	液状	・白	・150	・1.0
・２種 G	加熱		・	・100	・
※３種１号	溶融	粉体状			

G 低揮発性有機溶剤型の路面標示用水性塗料

23 植栽及び屋上緑化工事

1 植栽地の確認等

土壌の水素イオン濃度（pH）試験　・行う　・行わない　(23.1.3)
電気伝導度（EC）の試験　・行う　・行わない

2 植栽基盤の整備

(23.2.2)

植栽	工法	有効土層の厚さ(cm)	整備範囲	土壌改良材
・樹木	※Ａ種 ・Ｂ種 ・Ｃ種 ・Ｄ種	樹高12m以上 （※100　・120　・150） 樹高7m以上～12m未満 （※80　・100） 樹高3m以上～7m未満 （※60　・80） 樹高3m未満 （※50　・60）	・業張り部分 **・植栽帯部分** ・図示 ・	・適用する ・適用しない
※芝、地被類	※Ｂ種 ・	※20 ・	・植栽部分 ・図示 ・	・適用する ・適用しない

植栽基盤の排水設備　・設ける（※図示　・　）　・設けない

3 植込み用土

・現場発生土の良質土　・客土（畑土程度）　・　(23.2.3)

4 土壌改良材

(23.2.3)
種類及び指定量等
・バーク堆肥 G
施工箇所　※植栽範囲　・図示
使用量　植栽基盤面積１㎡あたり（・50L　・　）
・汚泥発酵肥料（下水汚泥コンポスト）G
施工箇所　※植栽範囲　・図示
使用量　植栽基盤面積１㎡あたり（・10L　・　）
材料
「金属等を含む産業廃棄物に係る判定基準を定める省令」の別表第一の基準に適合する原料を使用したもので、植害試験の調査の結果、害が認められないものとする。

5 樹木

樹種、寸法、株立数等　※図示　・　(23.3.2)

6 支柱

支柱材　※丸太（間伐材）G　・真竹　・　(23.3.2、3)
防腐処理方法　※加圧式防腐処理丸太材　・
形式　・図示　・竹布掛型

7 幹巻き用材料

材料　※幹巻き用テープ　・わら及びこも　・　(23.3.2)

8 芝

種類　※コウライシバ　・ノシバ　・　(23.4.2、3)
芝張りの工法
平地　※目地張り　・べた張り
法面　**・目地張り　※べた張り法面**

9 吹付けは種

(23.4.2)

種子の種類	発芽率	種子の量（g/㎡）	備考
※洋芝類（採取後２年以内）	※発芽率80%以上		
・コウライシバ			

10 地被類

(23.4.2)

樹種	コンテナ差	単位面積当たりのコンテナ数	芽立数
・	・	・	・

11 新植、移植樹木、芝等の枯補償

(23.3.4、6)(23.4.7)(23.5.5)
新植樹木（芝張り、吹付けは種及び地被類を含む）の枯補償の期間
※引渡しの日から１年　・無し　・
移植樹木の枯損処置を行う期間
※引渡しの日から１年　・無し　・

12 屋上緑化 G

植栽基盤及び材料　(23.5.2～4)
・屋上緑化システム
土壌層の厚さ　・図示　・
排水層　・軽量骨材（層の厚さ：　）　・板状成型品
植込み用土　※改良土　・人工軽量土
樹木、芝及び地被類の樹種又は種類、寸法、株立数等　※図示　・
見切り材、舗装材、排水孔、マルチング材等　※図示　・
支柱　・設置する（形式　・図示　・　）
かん水装置　・設置する（種類　・　）
工法
「屋根ふき材及び屋外に面する帳壁の風圧に対する構造耐力上の安全性を確かめるための構造計算の基準を定める件」（平成12年5月31日　建設省告示第1458号）に基づく風圧力に対応した工法
・図示による

13 その他

協議関係
「ふるさと埼玉の緑を守り育てる条例」に基づく「緑化完了報告書」を作成すること。

訂正	月　日	事　項		
	. .		.	
	. .		.	
	. .		.	

株式会社ユニバァサル設計
UNIVERSAL DESIGN OFFICE INC.

事務所登録	東京本部一級建築士事務所 一級建築士事務所 東京都知事登録 第22736号		
設計者	一級建築士　登録第362390号　星野　康二	法適合確認結果等	

工事名称：仮称芳野市民センター新築工事
作成：2025 年 2 月 17 日　承認
図面名称：特記仕様書(6)
部長　課長　担当　製図
縮尺：A2:NS A3:NS
設計No.
図面No.：04-06

一般共通事項

地　下

(1)配管ピット、トレンチ等は、床：RC直均し、壁・天井：RC(直仕上)とする。
(2)地盤面下の打継ぎ箇所には止水板（水膨張ゴム）を打ち込む。
(3)湧水ピットは、壁・天井ともコンクリート打ち放しC種とし、消火水槽、EVピット、雨水貯留槽、雑排水槽はB種とする。EVピットは床、壁をケイ酸質系塗布防水(1FLまで)とする。
(4)地中梁の人通口はφ600、通気管φ100、通水管φ150半割とし、人通口は硬質塩ビ管とする。
(5)床はコンクリート金ゴテ押えとする。
~~(6)地中壁、地下2階打継部、外周部すべてにH:1,000外防水を施す。~~
(7)地下汚水槽、雑排水槽他全ての水槽内部は、床・壁・梁をケイ酸質系塗布防水とする。

躯　体（仕上）

(1)RC打放し仕上げ面は、特記なき限り（外部ｔ=20,内部t=10,外部床t=10,
内部床ｔ=10）の打ち増しとする。
(2)RC打放し仕上げ面（内外部とも）の出隅部は、図面の表記に関わらず、
（・ピン角仕上げ◎面取り仕上げ）とする。（ボード下地、コーナーガードの表示のある部分を除く）
(3)RC打放し仕上げ面（内外部とも）の施工図は、型枠・セパレーター・誘発目地
・設備機器類等の割付を記入し、監督職員の承諾を受けるものとする。
(4)床スラブは、コテ仕上げの場合は特記なき限りｔ=10増打ちとする。
(5)コンクリート打放し（化粧打放シ）の施工に関する特記事項は下記とする。
※型枠の割付図及びコンクリート打設計画について監督員と十分に協議を行うこと。
A.合板型枠（ｔ=15）は、両面（小口共）ウレタン４回塗りを使用し、押さえ用
単管は角型を使用する事。
B.打放し面の出・入隅部の止水対策として、スポンジテープ押さえ等を考慮する事。
さらに、入隅部は型枠を45°カットし、型枠小口面が仕上げに現れない配慮をする事。
C.壁面のコンクリート打設は、縦目地@10m程度毎にラス金網で仕切りを設ける。
又、打継部の位置及び打設量は監督職員との協議の上決定する。
D.地上部の打放し作業に先立ち、２～３回程度の試打を行う。
~~E.施工後、充分な意匠上の結果が得られない（ジャンカ・コールドジョイント等）時は、~~
~~専用工法（吉田工法パーフェクトウェッシュ程度）にて補修するものとする。~~
F.仕上は、水性浸透性吸水防止材低汚染・超耐久型水性ふっ素樹脂カラークリヤー仕上。
エスケー化研㈱「セラミクリートＦ工法カラークリヤー仕上」同等品以上。
(6)かさ上げコンクリート,保護コンクリート：溶接金網6φ×100角入りとする。

内 外 装

~~(1)竪樋落とし口には、樋受石（PC既製品）を設置する。~~
(2)外部に露出している鉄部は、特記なき限り全て溶融亜鉛メッキ仕上げとする。
(3)屋上防水部分には、オーバーフローを必ず設ける。
(4)外部のモルタル塗りには防水モルタルを使用する。
(5)天井下地は特記なき限り、軽量鉄骨製とし、ロックウール工業会準拠の耐震グレードを
水平入力加速度1Gに考慮した吊ボルト振止め補強を行う。
(6)天井：ケイカル板は特記なき限り、Ｖカット突き付けとする。
(7)廻り縁は特記なき限り、塩ビ製とし、外部及びタイル・石使用部はアルミ製、和室は木製とする。
アルミ製は焼付塗装とする。
(8)室内仕上（壁紙及び塗装仕上）下地については、特記なき限り下記による。
A.床下地の略号RCはコンクリート直均し仕上を表す。
B.壁仕上のコンクリート打放しとは、B種打放しを示し、樹脂モルタルt=5薄塗り等にて補修とする。
コンクリート(直仕上)とは、C種打放し仕上を示す。コンクリート打放し面は、既製目地材にて
亀裂誘発目地を設け、縦目地はおよそ@３ｍ以内及び建具きわ、横目地は階高ごとexcept.
C.硬質ウレタンフォーム吹付部分の面については、GB-R t=12.5 GL工法とする。
吹付部分にGL工法を施す場合は、プライマー塗布を施す。
(9)塗装及び壁紙仕上の柱・壁の出隅には、特記なき限り床から天井までコーナービートを施す。
(10)照明ボックスには、防虫網付熱抜き穴を適宜設ける。
(11)造作家具の扉が壁面等と取り合う箇所には、戸当り（衝撃防止ゴム）を設ける。
(12)特記なき限り、全種類のビニル床シートは溶接工法とする。
(13)仕上の異なるものどうしが取合う壁の部分には、全てシリコンシーリングを施す。(W5×D5)
(14)防火区画を形成する防火戸（廊下部分のみ）及びシャッターは上階スラブ
よりRC垂れ壁を設けて取付けとする。（設備配管用に適宜開口補強を行う）
(15)ホルムアルデヒド及び総揮発性有機化合物を含む接着剤、建材は原則として使用しない。
「ホルムアルデヒド規制値及びガイドライン値CECAJ 「VOCガイドライン値 (WHO) 」に則すること。
(16)OAフロア上のNC仕上は、絶縁シートを施すこと。
(17)天井EP-G仕上のGB-R下地は、全面寒冷紗パテ処理を行うこと。
(18)内装材の仕様は、特記なき限りFx☆☆☆の製品を使用するものとする。
~~(19)フリーアクセス内部は、特記なき限りスラブ面へ防塵塗装を施す。~~
(20)PS、EPS等の床には、防塵塗装を施す。
(21)室内に設ける竪樋は、配管用鋼管グラスウール巻t=25防露巻きとする。
(22)室内グラスウールはt=25　見切縁は塩ビ製アングルL=25×25とする。
(23)鋼製床組は下地合板t=15 2枚貼とする。
(24)SUS巾木は特記なき限りt=1.5とする。
(25)柱、壁の出隅部分には、床から天井までコーナービートを施す。
(26)ビニル床シート、ビニル床タイルは特記なき限りノーワックス仕様とする。

内 外 装

(27)壁面下地がRCとLGS等で下地剛性が異なるものが取合う箇所は、仕上見切りと
して6mm以上の目地を設ける。
(28)床仕上材の異なる部分の見切りには、特記なき限りSUSフラットバー15×5HLとする。
(29)石こうボード張り　：特記なき限り、表面石こうボードはテーパーエッジとし、目地工法は
継目処理工法とする。
(30)けい酸カルシウム板張りは、特記なき限りすべて目透かし張りとする。
(31)化粧けい酸カルシウム板張りは、特記なき限りすべて目透かし張り、底目地タイプアルミ
ジョイナー工法とする。
(32)壁仕上が同じで下地が異なる見切り部分には，クラック防止処理をする。
フクピ㈱「樹脂製振動吸収性見切」同等品以上とする。
(33)ボード下地に手摺等を取り付ける場合は、荷重等に対し適切な下地補強を行う事とする。
(34)内壁の建具枠上部、壁面に#3600内外に差目地を設ける。

断　熱

(1)保護断熱防水を施す屋根を除き、屋根スラブには硬質ウレタンフォームt=40を吹付ける。
(2)ピットに接する床スラブの下面、ピロティ等の床スラブが下部が外部に面する
部分はポリスチレンフォーム3種b t=25を打ち込む。但し、駐車場、機械室を除く。
(3)外気に接する壁の内側には現場発泡硬質ウレタンフォーム t=40を吹付ける。
（各種機械室、PS,EPS,DS,EVシャフト共）
(4)直接土に接する床版の下面には t=0.15 ポリエチレンフィルムシート（重ね巾250mm以上）
敷き込みの上、ポリスチレンフォーム3種b t=25を敷き込む。梁型はGL-600まで共に立下げ。
（ただし、耐圧盤、ピット底盤の下面は除く）
(5)硬質ウレタンフォーム吹付部分にGL工法を施す場合は、プライマー塗布を施す。
(6)外部に接するスラブのインサート、天井吊ボルト当ての部分はウレタン発泡材を吹き付ける。
また上部インサート、天井吊ボルトは全て結露防止型とする。
(7)外部に面するサッシ廻りは、現場発泡ウレタン断熱材（W25×D70程度）吹付け（四周）とする。
~~(8)外部に面する金属パネルは、全てグライト(断熱・防音) t=5を施す。~~

下　地

(1)床組下地、シナ合板下地の木材には、防腐処理を施す。
(2)乾式の壁下地は、特記なき限りLGSとする。
(3)壁仕上げの下地構成は特記なき限り、仕上表による。
床下地は、特記なき限りコンクリート直均しとする。
(4)天井下地は特記なき限りLGSとする。
（天井懐が1500mm以上の場合、標準仕様書の規定による。）
(5)フリーアクセスフロアのパネルは、全体の60%以上をコンセント取り出し穴加工済み蓋付とする。
(6)直均し下地の場合で仕上の平坦さは3mに付き10mm以下とし、それを超える場合はセルフレリング材
にて補修を行う事とする。

点　検

(1)天井点検口は、特記なき限りアルミ既製品（目地タイプ）（450×450）とし、
表面仕上げ材は天井と同様とする。　裏面には使用目的を記入する。
(2)化粧床点検口は、特記なき限りSUS製規格品（600×600）とし、表面仕上げ材は床と
同様とする。蓋下部にはタラップを設ける。
(3)床点検口は、特記なき限り鋳鉄製防水防臭型マンホール（水槽名鋳出文字記入、施錠装置付）
とし、蓋下部にはタラップを設ける。
(4)壁点検口にSD点検口がない場合、樹脂製ワンタッチ開放タイプ300×300を設ける。

その他

※この工事は設計図書に従い施工するが、設計図書に明示されていない事項でも、
法令・機能・納まり上、当然必要なものは監督員の指示に従い施工する。
(1)外装ルーバーについては、予想される風圧力、変形、外気温の変化などによる変形及び摩擦音等の
発生が構造耐力上、容易に起こらないように検討し、監督職員と協議の上指示に従うこと。
(2)外部に面するガラリは、防鳥ネット付きとし、ダクト受けアングル付きとする。
(3)外装窓廻りの取り合い（サッシュ・ガラス・シール）と躯体との取り合い形状について、及び目隠し
ルーバー等の風切り音が著しく発生する恐れのあるものについては、外装分科会を設けて
専門知識を持つ責任者を定め施工者の責任においてまとめること。
(4)EPS及び点検口付のPS・DSを構成する壁（四方）はスラブまで立ち上げるものとする。
(5)建具はシックハウス規制対象外材料または、Fx☆☆☆☆を使用する。
(6)造作家具はシックハウス規制対象外材料または、F☆☆☆☆を使用する。
(7)天井裏等はシックハウス規制対象外材料または、F☆☆☆☆を使用する。
(8)使用する建築材料については、クロルピリホス、石綿を一切添加していないものとする。
(9)洗面・手洗い・流し・SK前等の水廻り室に利用する石膏ボード(下地含む)はGB-Sとする。
(10)靴摺等で梁が断面欠損しないよう、特記なき梁天端はFL-30とする。フロアヒンジの場合はFL-100
とする。
(11)横引き ドレインを設置する梁天端はFL-50とする。

外部仕上表

部位		仕様
屋根	屋根	カラーガルバリウム鋼板 t0.4 段付ハゼ定尺工法横葺き @182(発泡ポリエチレン t2.0裏貼り) 改質アスファルトルーフィング t1.0 M型金属タルキ @455 溶融亜鉛メッキ鋼板 t1.2 ビーズ発泡ポリスチレン断熱材1号 t40 改質アスファルトルーフィング t1.0 均しモルタル t10 金物：雪止めアングル@910、太陽光パネル専用金物
	軒裏	側面：コンクリート打放し補修の上、防水形複層塗材E 裏面：超低汚染型木目調シート建材
	軒樋	カラーガルバリウム鋼板 t0.5(両面塗装) プレス加工穴付き落ち葉除け一体型軒樋 樋受け金物 アルミ押出型材 ※陸屋根部：高耐候性特殊樹脂
	竪樋	アルミ製樋 φ89 バンドレス 埋設管メンテ用スライド管 ※陸屋根部：カラー硬質ポリ塩化ビニル管 VU50(養生管無し)
陸屋根（設備置き場）	防水	保護層：コンクリート直均し t120(φ6×100×100入り) 伸縮目地：塩ビ既製品(@3000以内) ポリプロピレン絶縁クロス 断熱材：A種押出法ポリスチレンフォーム保温板3種b t=40 両面スキン層付 防水層：アスファルト防水 加熱型改質アスファルト工法 下地：コンクリート直均し(躯体ふかし勾配 1/75以上)
	笠木	アルミ製既製品 W225
	樋	竪樋：カラー硬質ポリ塩化ビニル管 VU50 ドレン：横引きドレン 鋳鉄製 オーバーフロー管：ステンレス製 φ30丸管
	設備基礎	ウレタンゴム系塗膜防水 コンクリート直均し
庇	庇	アルミ製庇
	竪樋	アルミ製樋 φ89 バンドレス 埋設管メンテ用スライド管
外壁	外壁1	コンクリート打放し補修の上、防水形複層塗材E
	幅木	コンクリート打放補修、保護材塗布(耐候・低汚染型シリコン系塗料)
	外壁2	磁器質タイル(独立柱部4周共) 接着工法
	外壁3	ライムストーン調軽量シート建材
	見切	コンクリート打放し補修の上、DP
	目地1	構造スリット
	目地2	打継目地 W20×D15 PU-2
	目地3	伸縮目地 W20×D15 PU-2
	ルーバー	アルミ製ルーバー 木目化粧シート
	タラップ	SUS製胃かご付き 蓋付
	ベンドキャップ	SUS製指定色(設備工事)
ピロティ	軒天	アルミスパンドレル
屋外階段	階段	踏面・蹴込：モルタル金コテ押え、高強度ウレタン塗膜防水(防滑トップ仕上) 段鼻：ステンレスノンスリップ 側面・段裏：コンクリート打放補修、保護材塗布(耐候・低汚染型シリコン系塗料)
	手摺	ステンレス製
開口部	アルミ製窓	アルミサッシュ：BB-2種
	鋼製建具	鋼製フラッシュドア DP
	SUS製建具	カラーステンレス自動ドア 飛散防止フィルム、強化ガラス

外構（外構工事）		
	舗装1 車路	アスファルト舗装 一部耐重アスファルト舗装
	舗装2 アプローチ	防滑性磁器質タイル 300角
	舗装2 ピロティ	防滑性磁器質タイル 300角、点状ブロック
	舗装3 駐輪場 自家発周囲	コンクリート舗装、消火器ボックス SUS製
	排水・側溝	可変側溝:コンクリート製 蓋:コンクリート、スチール製グレーチング 溶融亜鉛メッキ 排水管:硬質塩ビ管、浸透トレンチ
	桝	コンクリート既製品 蓋:スチール製グレーチング 溶融亜鉛メッキ
	門扉	門扉：アルミ製門扉、片引扉、W6,000×H1,200
	門塀	コンクリート打放補修、撥水材塗布 H1,200
	塀 敷地西	コンクリート打放補修、撥水材塗布 H800
	フェンス 敷地北・東側	スチールメッシュフェンス+化粧CB H1,650
	フェンス 南側	スチールメッシュフェンス+RC塀 H800
	設備基礎	コンクリート直均し
	縁石	歩者境界線、敷地車道境界
	ライン引き	溶融ペイント巾=100、駐車場車室、走行方向、車線、停止線、止まれ
	車止め	Pca既製品(アンカー止め工法)
	駐車スペース	車椅子用・おもいやり駐車場スペース：水性特殊ウレタン樹脂系塗料 防滑仕上げ 消火器ボックス SUS製
	バリカー	ステンレス製、クサリ内蔵型、スプリング付、上下式、キャップなし
	雨水タンク	ステンレス製、200リットル、点検蓋用鍵付、給水バルブ付
	サイン	館銘板サイン等 ※詳細はサイン図による
植栽	植栽(植栽工事)	植栽計画図による

略記号・防火材料認定番号リスト

	略記号	表示事項	防火材料認定番号
床・壁・天井	RC( )	コンクリート( )内は打放し種別A・B・C	耐火:H12年告示第1399号各号 不燃:H12年告示第1400号1項1号
	M	モルタル	
	CB	コンクリートブロック積み	
	ALC	軽量気泡コンクリートパネル	耐火:H12年告示第1399号各号
	ECP	押出成形セメント板	
	S	鉄骨	
	LGS	軽量鉄骨	
	W	木(木製)	
壁工法	J工法	せっこうボード(テーパー付)の縦目処理工法	
	GL工法	せっこうボードのせっこう系直張り用接着材による直張り工法	
	乾式ふかし壁工法	スタッドS45×10 @455、303 薄型乾式軽量ふかし壁工法	
	木胴縁	木胴縁　タテ45×40、ヨコ45×24 @450	
塗料	SOP	合成樹脂調合ペイント塗り	
	EP	合成樹脂エマルションペイント塗り	
	EP-T	合成樹脂エマルションペイント模様塗料塗り	
	EP-G	つや有合成樹脂エマルションペイント塗り	
	AE	アクリル樹脂エナメル塗り	NM-8585,QM-9816
	FE	フタル酸樹脂エナメル塗り	
	2-FUE	常温乾燥形ふっ素樹脂エナメル塗り	
	2-UE	2液形ポリウレタンエナメル塗り	
	2-ASE	アクリルシリコン樹脂エナメル塗り	
	CL	クリヤラッカー塗り	
	UC	ウレタン樹脂ワニス塗り	
	OS	オイルステイン塗り	
	AC	アクリル樹脂ワニス塗り(ｱｸﾘﾙ樹脂ｸﾘﾔｰ塗り)	
	NAD	アクリル樹脂系非水分散形塗料塗り	
	XE	2液型エポキシエナメル塗り	
	PU	ポリウレタン塗り	
	LE	ラッカーエナメル塗り	
	A(BE)	アクリルエナメル塗料(焼付)	
	X(BE)	エポキシ系塗料(焼付)	
	F(BE)	ふっ素樹脂塗料(焼付)	
	DP(A)	耐候性塗料A種 常温乾燥形ふっ素樹脂塗料(1級)	
	DP(B)	耐候性塗料B種 アクリルシリコン樹脂塗料(2級)	

	略記号	表示事項	防火材料認定番号
壁・天井	GB-R	せっこうボード	t=9.5 QM-9828 t=12.5,15.0 NM-8612,NM-8619
	GB-R-H	普通硬質せっこうボード	t=9.5,12.5,15 NM-9645
	GB-NC	不燃積層せっこうボード(化粧無し：下地張り用)	NM-0441,NM-0296,NM-8613,NM-1864
	GB-NC(T)	化粧不燃積層せっこうボード(トラバーチン模様)	NM-0441
	GB-D	化粧せっこうボード	QM-9824
	GB-D(W)	化粧せっこうボード(木目)	NM-0127
	GB-S	シージングせっこうボード	t=9.5、12.5 QM-0898
	GB-S(NM)	シージングせっこうボード(不燃)	t=12.5 NM-9639
	GB-FG	曲面施工用繊維混入石膏板	t=12.5 NM-2967,NM-3267
	GB-F	強化せっこうボード	NM-8615
	GB-H	硬質せっこうボード	NM-9645
	GB-GR	ガラス繊維不織布入りせっこう板	NM-9354
	GB-P	角孔吸音用穴あきせっこうボード	NM-0879
	GB-L	せっこうラスボード	NM-8617
	FK	無石綿セメント付い酸カルシウム板	NM-2773
	FK-FJ	抗菌メラミン化粧板	NM-1699
	FK-D	化粧無石綿セメントけい酸カルシウム板	NM-0458
	FK-DK	抗菌性化粧無石綿セメントけい酸カルシウム板	
	FK-DW	天然木練付化粧無石綿セメントけい酸カルシウム板	
	FK-F	繊維強化無石綿セメントけい酸カルシウム板	
	FK-P	有孔無石綿セメントけい酸カルシウム板	NM-8578,NM-8064
	F(CB)	木毛セメント板	
	FC	塩ビシート	
	FC(D)	塩化ビニル樹脂フィルム張り	金属板 NM-0095 金属板以外 NM-0131
	KC	クロス(裂地)	NM-9750～9841(金属板を除く)
	VC	ビニルクロス	NM-9888～9954 (金属板、不燃せっこうﾎﾞｰﾄﾞを除く)
	GC	ベンキ下地用ガラスクロス	
	DR	ロックウール化粧吸音板(フラットタイプ)	NM-8599
	DR(凹凸)	ロックウール化粧吸音板(凹凸タイプ)	
	DR(軒天)	ロックウール化粧吸音板(軒天井用，ﾌﾗｯﾄﾀｲﾌﾟ)	
	DR(軒天凹凸)	ロックウール化粧吸音板(軒天井用：凹凸ﾀｲﾌﾟ)	
	XPF	押出法ポリスチレンフォーム断熱材	
	RW-G	ロックウールガラスクロス張り	
	GW-G	グラスウールガラスクロス張り	
	GWボード	グラスウールボード(64kg/m³　t25	NM-8610
	GWマット	グラスウールマット(32kg/m³)　t25	NM-8605

参考品番

名称	メーカー	品名・品種・品番		使用箇所	備考
アスファルト防水	田島ルーフィング株式会社	プライムアスエ法　AHPXM-060R	同等品以上	2階設備置き場	
磁器質タイル300角	株式会社LIXIL	ピアッァ　300角	同等品以上	1階床	
磁器質タイル300角	株式会社LIXIL	フェディーレ　300角	同等品以上	外部柱	
点字ブロック	株式会社LIXIL	視覚障がい者用床タイル　300角	同等品以上	1・2階床	
アルミサッシ	YKK AP 株式会社	エクシマ、システマ	同等品以上	外部建具	
防水扉	三和シャッター工業株式会社	Sタイトドア	同等品以上	事務室	
防音扉	三和シャッター工業株式会社	防音ガード T-3	同等品以上	2階講座室	
グリルシャッター	三和シャッター工業株式会社	サンオートハイリンク/バランスハイリンク	同等品以上	ロビー、事務室	
防塵塗装	株式会社エービーシー商会	タイトカラー	同等品以上	PS床	
難燃塗装	モケテックカメムラ	ファインクリスタルブルー	同等品以上	EV廻り壁	RM-0062(基材：ヒノキ材)
防汚性ビニル床シート	株式会社サンゲツ	消臭レストリューム	同等品以上		
タイルカーペット	株式会社サンゲツ	サンゲツNT700W	同等品以上		
ビニルクロス(不燃)	株式会社サンゲツ	フェイス(AA級)	同等品以上		
掲示クロス	株式会社サンゲツ	フェイス　サンフォーム・ベーシックⅡ	同等品以上		
移動間仕切り	コマニー株式会社	DP-60S	同等品以上	2階会議室・講座室	
ホワイトボード	日学株式会社	EL-12SY	同等品以上	事務室	
乾式二重床	ナカエ工業株式会社	AN3000-DP 床上げ50m	同等品以上		
床下点検口	ナカエ工業株式会社	ニューハッチ　NHBBS-600P	同等品以上		
洗面カウンター	TOTO株式会社	マーブライトカウンター ボウル一体タイプ　MK50	同等品以上	洗面台	水栓は設備工事
樹脂被膜手摺	TOTO株式会社	L型 φ34 出寸法120　T112CL10	同等品以上	トイレブース	
樹脂被膜手摺	TOTO株式会社	人工大理石カウンター用　T112CP5S	同等品以上	洗面カウンター	
樹脂被膜手摺	TOTO株式会社	小便器用　T112CU22	同等品以上	小便器	
ベビーシート	TOTO株式会社	縦型　YKA24S	同等品以上	HWC	
ベビーチェア	TOTO株式会社	平壁設置タイプ　YKA1SS	同等品以上	トイレブース、HWC	
カーテンレール	立川ブラインド株式会社	VR-Nα静音	同等品以上	更衣室等	
カーテンレール	TOSO	C型　アルミ製　ダブル	同等品以上	窓	
天井点検口	株式会社ダイケン	CMJ2型　目地タイプ 450角 600角	同等品以上		
ボード出隅コーナー補強	株式会社創建	亜鉛角コーナー28　01006	同等品以上		
屋外用消火器ボックス	モリタ宮田工業株式会社	ステンレス製10型消火器 1本用 ボックス BF101S	同等品以上	油庫、自家発、駐輪場	油庫、自家発：外構工事
ポスト	株式会社ナスタ	SUS製、前入前出　KS-MB805S-L	同等品以上		
自動ドア巻込防止機	杉田エース株式会社	自動ドア用安全ガード　241-714	同等品以上	エントランス	
竪樋メンテナンス用管	井上商事株式会社	埋設管メンテ用スライド管	同等品以上	竪樋	
モップ掛け	TOTO株式会社	モップ掛けパネル　UTR422S	同等品以上	SK	
小物収納	TOTO株式会社	小物収納パネル UTR421S	同等品以上	SK	
ルーバー	株式会社エービーシー商会	リグナム	同等品以上	外部ルーバー	
汚垂石	TOTO株式会社	ハイドロセラ・フロアPU	同等品以上	WC(男)	
ライニング天板	アイカ工業株式会社	メラミンポストフォーム	同等品以上	WC	
止水板	三和シャッター工業株式会社	脱着式防水　JP-WP-10	同等品以上	外部出入口	
防煙垂壁	三和シャッター工業株式会社	防煙スクリーンBSM4	同等品以上	1階	

訂正	月　日	事　項		

universal 株式会社ユニバァサル設計
UNIVERSAL DESIGN OFFICE INC.

事務所登録	東京本部一級建築士事務所 一級建築士事務所 東京都知事知事登録 第22736号		
設計者	一級建築士　登録第362390号　星野　康二	法適合確認結果等	

工事名称：仮称芳野市民センター新築工事
作成：2025 年 2 月 17 日　承認
部長　課長　担当　製図　設計No.

図面名称：一般共通事項・外部仕上表・参考品番
縮尺：A2:NS A3:NS
図面No.：05-01 確02

階	室名	居室	内装制限				排煙		床				幅木		壁		天井				備考 (電)：電気工事、(設)：設備工事	備品
			避難通路	火気使用	壁	天井	排煙	条件	FL	±0	下地	仕上	仕上	高さ	下地	仕上	下地	仕上	天井高	C/B BOX	廻縁	
ピット	乗用EVピット	-	-	-	-	-	-	-	図示	図示	コンクリート直均し	ケイ酸質系塗布防水(C-SUI工法)	-	-	コンクリート打放(B種)	ケイ酸質系塗布防水(C-SUI工法)	-	-	-	-	-	4周面：止水板	
	設備ピット	-	-	-	-	-	-	-	図示	図示	コンクリート直均し	ケイ酸質系塗布防水(C-SUI工法)	-	-	コンクリート打放(B種)	ケイ酸質系塗布防水(C-SUI工法)	-	XPF打込(3種b) t25	-	-	-	4周面：止水板、寸場：1,200×600×H600 防水モルタル仕上 t25	
1	風除室	非	-	-	-	-	告示②	防煙区画	±0	-60	コンクリート直均し 下地モルタル	防滑性磁器質タイル 300角 点状ブロック	磁器質タイル	60	LGS GB-R t12.5(FL900～) GB-R-H t12.5(FL～900)	ビニルクロス 掲示クロス	LGS GB-R t9.5	DR t9.0	2,800	-	塩ビ	防護柵、ピクチャーレール	
	エントランスホール	非	-	-	-	-	自然	-	±0	-60	コンクリート直均し 下地モルタル	防滑性磁器質タイル 300角 点状ブロック	磁器質タイル	60	LGS GB-R t12.5(FL900～) GB-R-H t12.5(FL～900)	ビニルクロス EV廻り：杉板節無(県産材) t12 羽目板縦張り、難燃塗装 梁型：化粧塩ビシート	LGS GB-R t9.5	DR t9.0	2,800	B	塩ビ	行事用案内板ホワイトボード、手摺、総合案内板、 ピクチャーレール ロールカーテン：遮光 W3,000×H2,800程度 1ヵ所(階段裏窓)	
	談話コーナー	居	-	-	-	-	自然	-	±0	-60	コンクリート直均し 下地モルタル	防滑性磁器質タイル 300角	磁器質タイル	60	LGS GB-R t12.5(FL900～) GB-R-H t12.5(FL～900)	ビニルクロス 掲示クロス 梁型：化粧塩ビシート 一部柱型：メラミン化粧板 t3.0	LGS GB-R t9.5	DR t9.0(黒) 杉(節無) 150×30 難燃塗装	2,800	B	塩ビ	手摺、ピクチャーレール、消火器ボックス(壁埋込型) ロールカーテン：遮光 W1,800×H2,800程度 3ヵ所	机、椅子・ソファー、自販機
	ロビー	居	-	-	-	-	自然	-	±0	-60	コンクリート直均し 下地モルタル	防滑性磁器質タイル 300角	磁器質タイル	60	LGS GB-R t12.5(FL900～) GB-R-H t12.5(FL～900)	ビニルクロス 掲示クロス 一部柱型：メラミン化粧板 t3.0	LGS GB-R t9.5	DR t9.0	2,800	B	塩ビ	手摺、展示架、ピクチャーレール、 ロールカーテン：遮光 W1,800×H1,600程度 3ヵ所、 遮光 W2,500×H1,600程度 1ヵ所	ロビーチェア
	事務室	居	-	-	-	-	自然	-	±0	-60	セルフレベリング t10 置き型OAフロア H40	タイルカーペット t6.5	ビニル幅木	60	LGS GB-R t9.5+12.5	ビニルクロス 一部柱型：メラミン化粧板 t3.0	LGS GB-R t9.5	DR t9.0	2,800	B	塩ビ	市民センター受付カウンター、公民館受付カウンター、書庫、 行事用ホワイトボード ロールカーテン：遮光 W2,200×H1,600程度 2ヵ所 遮光 W1,200×H1,700程度 1ヵ所 電話(電)、各種集中制御盤(電)、インターホン(電)	事務机、事務用椅子、書庫、コピー機・FAX、 住民基本台帳端末
	更衣室(男)	非	-	-	-	-	告示②	防煙区画	±0	±0	コンクリート直均し	タイルカーペット t6.5	ビニル幅木	60	LGS GB-R t12.5	ビニルクロス	LGS GB-R t9.5	DR t9.0	2,800	-	塩ビ	カーテンレール	ロッカー、カーテン
	更衣室(女)	非	-	-	-	-	告示②	防煙区画	±0	±0	コンクリート直均し	タイルカーペット t6.5	ビニル幅木	60	LGS GB-R t12.5	ビニルクロス	LGS GB-R t9.5	DR t9.0	2,800	B	塩ビ	カーテンレール、 ロールカーテン：遮光 W600×H1,200程度 1ヵ所	ロッカー、カーテン
	休憩室	居	-	-	-	-	自然	-	±0	±0	コンクリート直均し	ビニル床シート t2.0 ノンワックスタイプ	ビニル幅木	60	LGS GB-R t12.5 GW24K t50充填	ビニルクロス 一部化粧ケイカル板 t6.0	LGS GB-R t9.5 GW24K t100	DR t9.0	2,800	B	塩ビ	床下点検口(防水・防臭)、 ロールカーテン：遮光 W1,350×H1,600程度 1ヵ所	テーブル、椅子
	職員会議室	居	-	-	-	-	自然	-	±0	±0	コンクリート直均し	タイルカーペット t6.5	ビニル幅木	60	LGS GB-R t12.5 GW24K t50充填	ビニルクロス	LGS GB-R t9.5 GW24K t100	DR t9.0	2,800	B	塩ビ	ホワイトボード付書庫、 ロールカーテン：遮光 W1,650×H1,600程度 3ヵ所	会議用机、会議用椅子
	夜間受付	居 (無窓)	-	-	準不	準不	告示⑤	不燃	±0	±0	コンクリート直均し	ビニル床シート t2.0 ノンワックスタイプ	ビニル幅木	60	LGS GB-R t12.5	ビニルクロス(不燃)	LGS GB-R t9.5	DR t9.0	2,800	B	塩ビ	予約案内板ホワイトボード ロールカーテン：遮光 W2,350×H1,900程度 1ヵ所 外線通話可能な内線電話(電)	事務机、椅子
	予備室	居 (無窓)	-	-	準不	準不	告示⑤	不燃	±0	±0	コンクリート直均し	ビニル床シート t2.0 ノンワックスタイプ	ビニル幅木	60	LGS GB-R t12.5	ビニルクロス(不燃)	LGS GB-R t9.5	DR t9.0	2,800	-	塩ビ	カーテンレール	椅子、カーテン
	印刷室	非	-	-	-	-	告示②	防煙区画	±0	±0	コンクリート直均し 下地モルタル	ビニル床シート t2.0 ノンワックスタイプ	ビニル幅木	60	LGS GB-R t12.5	ビニルクロス	LGS	GB-D t9.5	2,800	-	塩ビ		コピー機、棚、作業台
	倉庫1	非	-	-	-	-	告示②	防煙区画	±0	±0	コンクリート直均し	ビニル床シート t2.0 ノンワックスタイプ	ビニル幅木	60	LGS GB-R t12.5(FL900～) GB-R-H t12.5(FL～900)	ビニルクロス	LGS	GB-D t9.5	2,800	-	塩ビ	収納棚	書庫
	倉庫2	非	-	-	-	-	告示②	防煙区画	±0	±0	コンクリート直均し	ビニル床シート t2.0 ノンワックスタイプ	ビニル幅木	60	LGS GB-R t12.5(FL900～) GB-R-H t12.5(FL～900)	ビニルクロス	LGS	GB-D t9.5	2,800	-	塩ビ	床下点検口(防水・防臭)	収納棚
	廊下1	非	-	-	-	-	自然	-	±0	±0	コンクリート直均し 下地モルタル	防滑性磁器質タイル 300角	磁器質タイル	60	LGS GB-R t12.5(FL900～) GB-R-H t12.5(FL～900)	ビニルクロス	LGS GB-R t9.5	DR t9.0	2,800	B	塩ビ	手摺、ピクチャーレール、AED収納付消火器ボックス(壁埋込型) ロールカーテン：遮光 W1,700×H1,700程度 1ヵ所	
2	EVホール・ロビー等	居	-	-	-	-	自然	-	±0	±0	コンクリート直均し	ビニル床シート t2.0 ノンワックスタイプ	ビニル幅木	60	LGS GB-R t12.5(FL900～) GB-R-H t12.5(FL～900)	ビニルクロス 掲示クロス EV廻り：杉板節無(県産材) t12 羽目板縦張り、難燃塗装	LGS GB-R t9.5	DR t9.0	2,800	-	塩ビ	手摺、ピクチャーレール	
	講座室1	居	-	-	-	-	自然	-	±0	±0	コンクリート直均し	ビニル床シート t2.0 ノンワックスタイプ	ビニル幅木	60	LGS GB-R t12.5+12.5 GW24K t100充填 GB-R-H t12.5(FL～900上張部)	ビニルクロス	LGS GB-R t9.5 GW24K t100	DR t9.0	2,800	C	塩ビ	スクリーン、スクリーンボックス、 ホワイトボード、ピクチャーレール、カーテンレール、 可動間仕切り(遮音性：54.0db(500Hz)程度)	会議用机、会議用椅子、カーテン
	講座室2	居	-	-	-	-	自然	-	±0	±0	コンクリート直均し	ビニル床シート t2.0 ノンワックスタイプ	ビニル幅木	60	LGS GB-R t12.5+12.5 GW24K t100充填 GB-R-H t12.5(FL～900上張部)	ビニルクロス	LGS GB-R t9.5 GW24K t100	DR t9.0	2,800	C	塩ビ	ピクチャーレール、カーテンレール	会議用机、会議用椅子、可動式ホワイトボード、 カーテン
	講座室3	居	-	-	-	-	自然	-	±0	±0	コンクリート直均し	ビニル床シート t2.0 ノンワックスタイプ	ビニル幅木	60	LGS GB-R t12.5+12.5 GW24K t100充填 GB-R-H t12.5(FL～900上張部)	ビニルクロス	LGS GB-R t9.5 GW24K t100	DR t9.0	2,800	C	塩ビ	壁面鏡、ピクチャーレール、カーテンレール、 可動間仕切り(遮音性：54.0db(500Hz)程度)	会議用机、会議用椅子、卓球台、講演台、 可動式ホワイトボード、カーテン
	講座室4	居	-	-	-	-	自然	-	±0	±0	コンクリート直均し	ビニル床シート t2.0 ノンワックスタイプ	ビニル幅木	60	LGS GB-R t12.5+12.5 GW24K t100充填 GB-R-H t12.5(FL～900上張部)	ビニルクロス	LGS GB-R t9.5 GW24K t100	DR t9.0	2,800	C	塩ビ	ピクチャーレール、カーテンレール	会議室用机、会議用椅子、可動式ホワイトボード、 カーテン
	給湯室	非	-	-	-	-	告示②	防煙区画	±0	±0	コンクリート直均し	ビニル床シート t2.0 ノンワックスタイプ	ビニル幅木	60	LGS GB-S t12.5	化粧ケイカル板 t6.0 下部・出隅部アルミアングル補強	LGS GB-R t9.5	DR t9.0	2,800	-	塩ビ	流し台(コンロ無し)、吊戸棚 電気温水器(設)	
	倉庫3	非	-	-	-	-	告示②	防煙区画	±0	±0	コンクリート直均し	ビニル床シート t2.0 ノンワックスタイプ	ビニル幅木	60	LGS GB-R t12.5(FL900～) GB-R-H t12.5(FL～900)	ビニルクロス	LGS	GB-D t9.5	2,800	-	塩ビ		収納棚
	廊下2	非	-	-	-	-	自然	-	±0	±0	コンクリート直均し	ビニル床シート t2.0 ノンワックスタイプ	ビニル幅木	60	LGS GB-R t12.5(FL900～) GB-R-H t12.5(FL～900)	ビニルクロス 掲示クロス	LGS GB-R t9.5	DR t9.0	2,800	B	塩ビ	手摺、ピクチャーレール、案内板、消火器ボックス(壁埋込型) ロールカーテン：遮光 W1,700×H1,700程度 1ヵ所	
各階共通	WC（男）	非	-	-	-	-	告示②	防煙区画	±0	±0	コンクリート直均し	防汚性ビニル床シート t2.0 ノンワックスタイプ	ビニル幅木	60	LGS GB-S t12.5 GW24K t50充填	化粧ケイカル板 t6.0 下部・出隅部アルミアングル補強	LGS GB-R t9.5 GW24K t100	DR t9.0	2,800	-	塩ビ	トイレブース、ライニング、洗面台、手摺、 姿見(600×1,800)、ベビーチェア、汚垂石 大便器(設)、小便器(設)、紙巻器(設)、化粧鏡(設)	
	WC（女）	非	-	-	-	-	告示②	防煙区画	±0	±0	コンクリート直均し	防汚性ビニル床シート t2.0 ノンワックスタイプ	ビニル幅木	60	LGS GB-S t12.5 GW24K t50充填	化粧ケイカル板 t6.0 下部・出隅部アルミアングル補強	LGS GB-R t9.5 GW24K t100	DR t9.0	2,800	-	塩ビ	トイレブース、ライニング、洗面台、手摺、 姿見(600×1,800)、ベビーチェア 大便器(設)、紙巻器(設)、化粧鏡(設)	サニタリーボックス
	SK	非	-	-	-	-	告示②	防煙区画	±0	±0	コンクリート直均し	防汚性ビニル床シート t2.0 ノンワックスタイプ	ビニル幅木	60	LGS GB-S t12.5 GW24K t50充填	化粧ケイカル板 t6.0 下部・出隅部アルミアングル補強	LGS GB-R t9.5 GW24K t100	DR t9.0	2,800	-	塩ビ	モップ掛けパネル、小物収納パネル SK(設)	
	HWC	非	-	-	-	-	告示②	防煙区画	±0	±0	コンクリート直均し	防汚性ビニル床シート t2.0 ノンワックスタイプ	ビニル幅木	60	LGS GB-S t12.5 GW24K t50充填	化粧ケイカル板 t6.0 下部・出隅部アルミアングル補強	LGS GB-R t9.5 GW24K t100	DR t9.0	2,800	-	塩ビ	ベビーチェア、ベビーシート トイレバック(設)、呼出ボタン(電)	
	階段	非	-	-	-	-	自然	-	±0	-60	コンクリート直均し	1階階段下の床 防滑性磁器質タイル 300角	ビニル幅木	60	LGS GB-R t12.5	ビニルクロス	LGS	2階階段上の天井 GB-D t9.5	2,800	-	塩ビ	案内板	
	PS	非	-	-	-	-	令126	-	±0	±0	コンクリート直均し	防塵塗装	-	-	-	LGS表し	-	-	直天	-	-			
	EPS	非	-	-	-	-	令126	-	±0	±0	コンクリート直均し	防塵塗装	-	-	-	LGS表し	-	-	直天	-	-			

内部の壁および天井は難燃材料以上とする。

訂正	月 日	事項		

universal 株式会社ユニバァサル設計
UNIVERSAL DESIGN OFFICE INC.

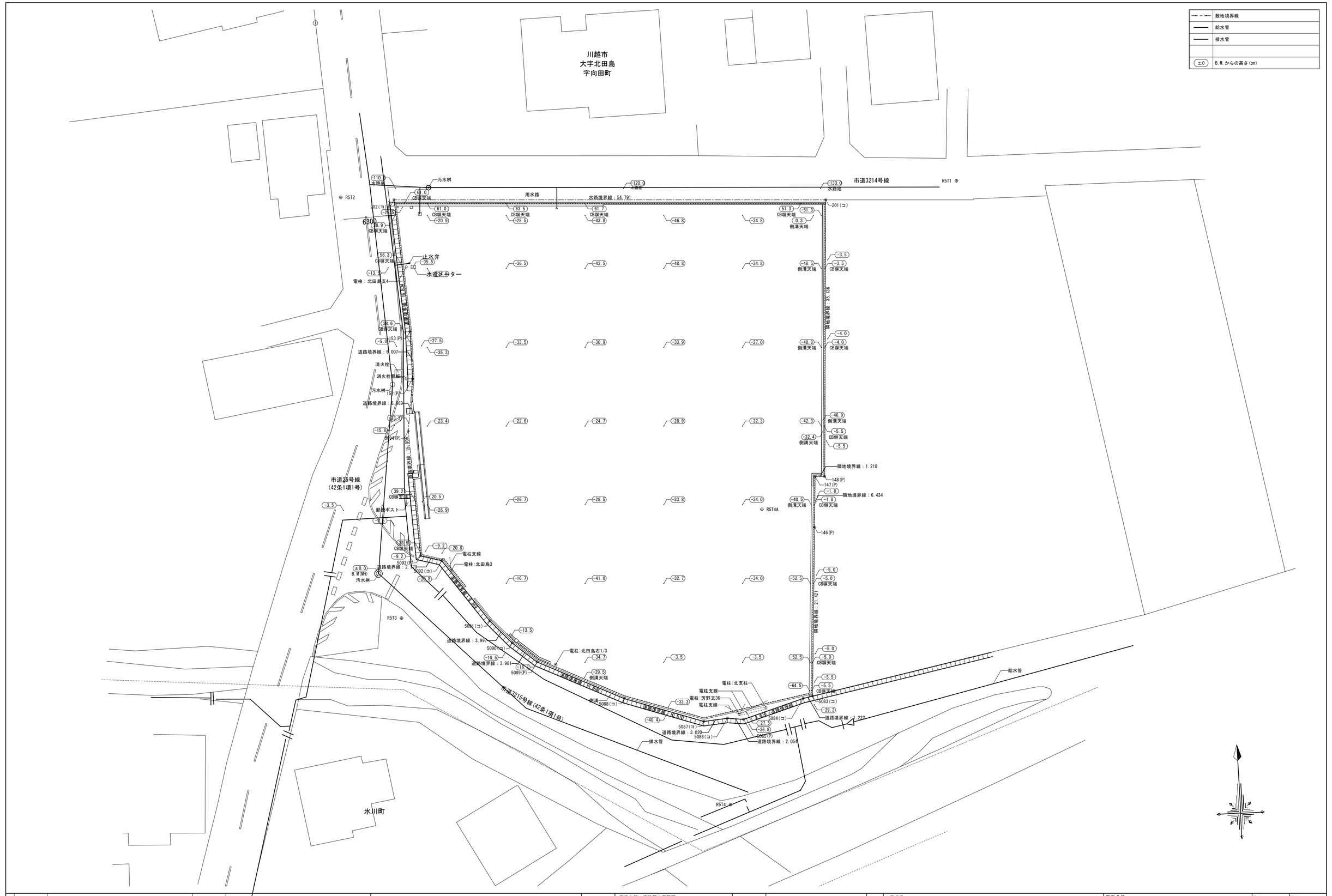
事務所登録	東京本部一級建築士事務所 一級建築士事務所 東京都知事登録 第22736号		
設計者	一級建築士 登録第362390号 星野 康二	法適合確認結果等	

工事名称	仮称芳野市民センター新築工事	図面名称	内部仕上表
作成	2025 年 2 月 17 日	承認	
部長	課長	担当	製図

縮尺 A2:NS A3:NS

図面No. 05-02 確03

設計No.



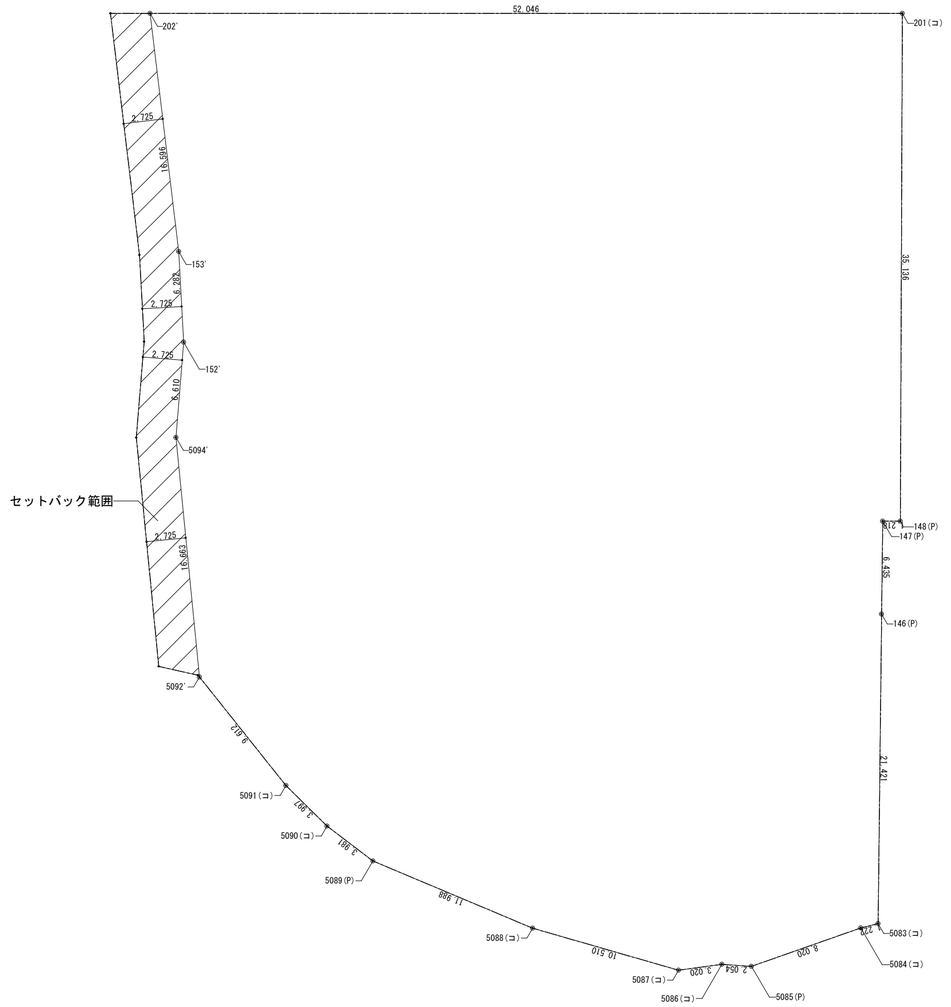
訂正	月 日	事 項		

株式会社ユニバァサル設計
UNIVERSAL DESIGN OFFICE INC.

事務所登録	東京本部一級建築士事務所 一級建築士事務所 東京都知事知事登録 第22736号		
設計者	一級建築士 登録第362390号 星野 康二	法適合確認結果等	

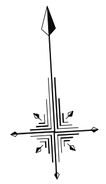
工事名称	仮称芳野市民センター新築工事	図面名称	現況図
作成	2025 年 2 月 17 日	承認	
部長	課長	担当	製図

縮尺	A2:1/300 A3:1/420	図面No. 06-01
設計No.		



座標面積計算表

座標点	Xn(m)	Yn(m)	(Xn+1 − Xn−1)・Yn
201(コ)	52.046	0.000	0.000000
148(P)	51.916	-35.136	47.378513
147(P)	50.698	-35.133	45.615229
146(P)	50.618	-41.568	13.617409
5083(コ)	50.370	-62.988	90.287037
5084(コ)	49.184	-63.282	553.932085
5085(P)	41.617	-65.940	634.132364
5086(コ)	39.567	-65.801	331.764434
5087(コ)	36.575	-66.208	866.864965
5088(コ)	26.474	-63.300	1339.019157
5089(P)	15.421	-58.656	834.176006
5090(コ)	12.253	-56.245	338.199365
5091(コ)	9.408	-53.436	472.219464
5092'	3.416	-45.921	349.803733
5094'	1.791	-29.337	31.899727
152'	2.329	-22.749	-4.493682
153'	1.988	-16.476	38.367870
202'	0.000	0.000	0.000000
敷地面積		倍 面 積	5,982.783675
2,991.39 ㎡		面　積	2,991.391838

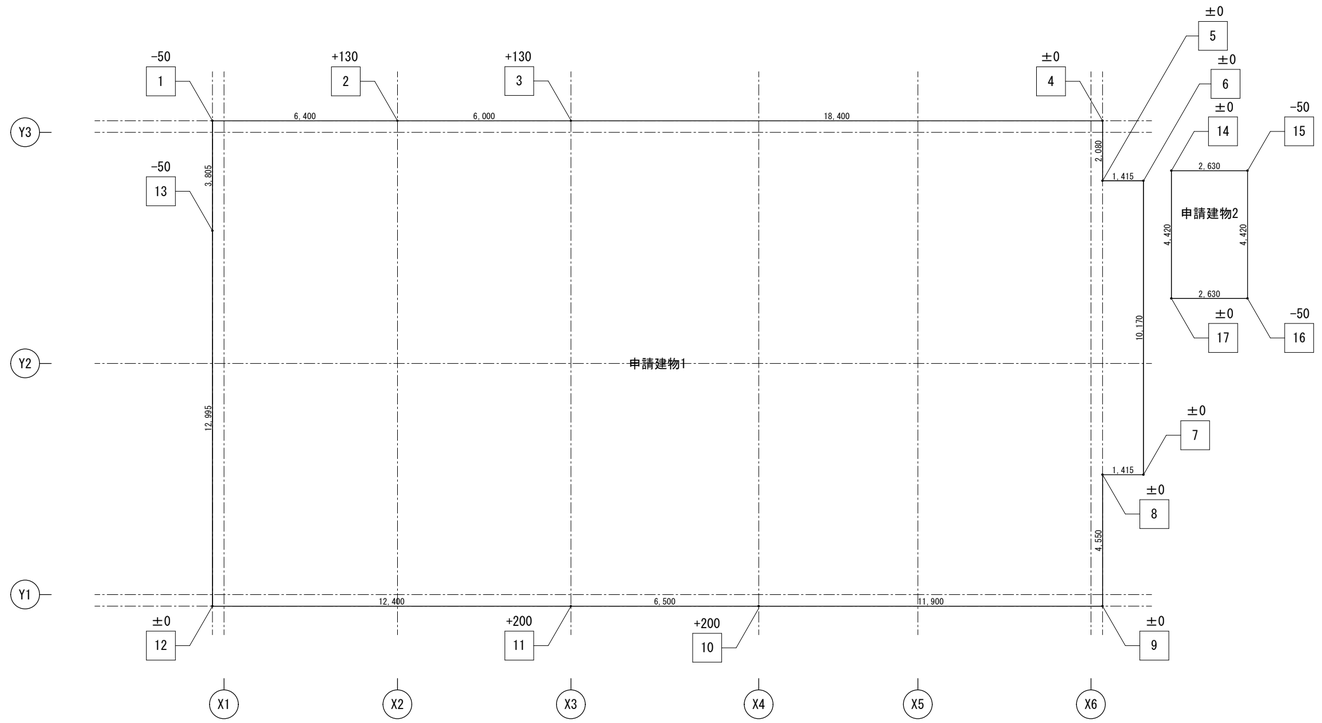


訂正	月　日	事　項		
	. .		. .	
	. .		. .	
	. .		. .	

株式会社ユニバァサル設計
UNIVERSAL DESIGN OFFICE INC.

事務所登録	東京本部一級建築士事務所 一級建築士事務所 東京都知事登録 第22736号		
設計者	一級建築士　登録第362390号　星野　康二	法適合確認結果等	

工事名称：仮称芳野市民センター新築工事
作成：2025 年 2 月 17 日
承認：
図面名称：敷地求積図
部長 ＿＿ 課長 ＿＿ 担当 ＿＿ 製図 ＿＿
縮尺：A2:1/300 A3:1/420
設計No.
図面No.：07-01 確04



申請建物1		
地点	計算式 地点間距離×(地点H1+地点H2)/2	見付面積 (㎡)
1 ～ 2	6.400 ×(-0.05 + 0.13)/ 2	0.25600
2 ～ 3	6.000 ×(0.13 + 0.13)/ 2	0.78000
3 ～ 4	18.400 ×(0.13 + 0.00)/ 2	1.19600
4 ～ 5	2.080 ×(0.00 + 0.00)/ 2	0.00000
5 ～ 6	1.415 ×(0.00 + 0.00)/ 2	0.00000
6 ～ 7	10.170 ×(0.00 + 0.00)/ 2	0.00000
7 ～ 8	1.415 ×(0.00 + 0.00)/ 2	0.00000
8 ～ 9	4.550 ×(0.00 + 0.00)/ 2	0.00000
9 ～ 10	11.900 ×(0.00 + 0.20)/ 2	1.19000
10 ～ 11	6.500 ×(0.20 + 0.20)/ 2	1.30000
11 ～ 12	12.400 ×(0.20 + 0.00)/ 2	1.24000
12 ～ 13	12.995 ×(0.00 + -0.05)/ 2	-0.32488
13 ～ 1	3.805 ×(-0.05 + -0.05)/ 2	-0.19025
合計	ΣL：地点間距離(m)	ΣS：見付面積(㎡)
	98.030	5.44688

計算式	平均地盤面
ΣS / ΣL	(m)
5.446 / 98.030	0.055

申請建物2		
地点	計算式 地点間距離×(地点H1+地点H2)/2	見付面積 (㎡)
14 ～ 15	2.630 ×(0.00 + -0.05)/ 2	-0.06575
15 ～ 16	4.420 ×(-0.05 + -0.05)/ 2	-0.22100
16 ～ 17	2.630 ×(-0.05 + 0.00)/ 2	-0.06575
17 ～ 14	4.420 ×(0.00 + 0.00)/ 2	0.00000
合計	ΣL：地点間距離(m)	ΣS：見付面積(㎡)
	14.100	-0.35250

計算式	平均地盤面
ΣS / ΣL	(m)
-0.352 / 14.100	-0.024

申請建物全体		
名称	地点間距離 (m)	見付面積 (㎡)
申請建物1	98.030	5.45
申請建物2	14.100	-0.35
合計	112.130	5.09

計算式	平均地盤面
ΣS / ΣL	(m)
5.094 / 112.130	0.045

訂正	月 日	事 項		

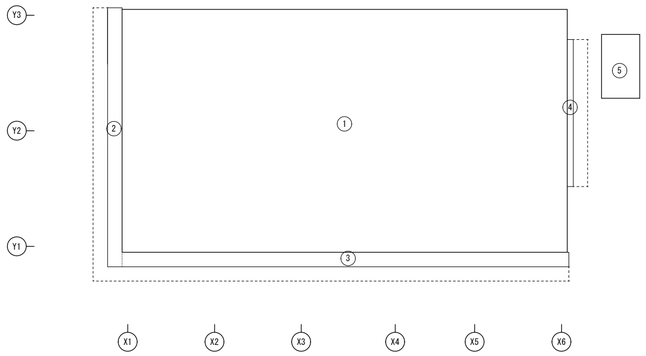
株式会社ユニバァサル設計
UNIVERSAL DESIGN OFFICE INC.

事務所登録	東京本部一級建築士事務所 一級建築士事務所 東京都知事知事登録 第22736号		
設計者	一級建築士 登録第362390号 星野 康二	法適合確認結果等	

工事名称	仮称芳野市民センター新築工事	図面名称	平均地盤面算定図	縮尺	A2:1/150 A3:1/210
作成	2025 年 2 月 17 日	承認		部長 課長 担当 製図	設計No.

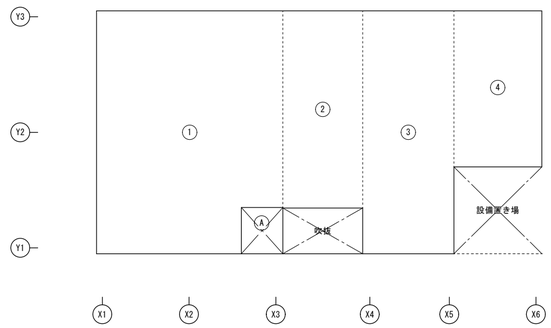
図面No. 07-02 確05

建築面積



建築面積				
	番号	計　算　式	計	
申請建物1	1	30.800 × 16.800	517.440000	
	2	1.000 × 17.915	17.915000	
	3	30.915 × 1.000	30.915000	
	4	0.415 × 10.170	4.220550	
				申請建物1
	小　計		570.490550	
	合　計		570.49 ㎡	
申請建物2	5	2.630 × 4.420	11.624600	申請建物2
	小　計		11.624600	
	合　計		11.62 ㎡	合　計

2階床面積



申請建物1						
2階床面積						
延べ面積				EVシャフト・吹抜　※容積対象外		
番号	計　算　式		計	番号	計　算　式	計
1	12.885 ×	16.800	216.468000	A	2.870 × 3.195	9.169650
2	5.530 ×	13.635	75.401550			
3	6.310 ×	16.800	106.008000			
4	6.075 ×	10.800	65.610000			
小　計			463.487550	小　計		9.169650

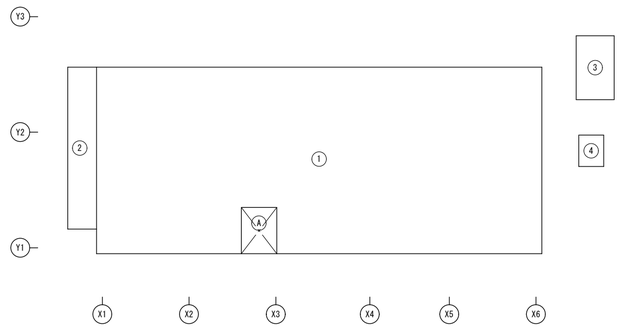
■延べ面積		
	463.487550	463.48 ㎡
■容積対象外面積		
EVシャフト	9.169650	9.16 ㎡
■容積対象面積		
延べ面積-容積対象外面積		454.32 ㎡

面積集計表

面積集計表					
建物番号	床面積				建築面積
	階	延床面積	容積対象外床面積 EVシャフト	容積対象面積	
申請建物1	2階	463.48 ㎡	9.16 ㎡	454.32 ㎡	
	1階	419.72 ㎡	7.82 ㎡	411.90 ㎡	
					570.49 ㎡
	小計	883.20 ㎡	16.98 ㎡	866.22 ㎡	
申請建物2	1階	11.62 ㎡	0 ㎡	11.62 ㎡	
					11.62 ㎡
	小計	11.62 ㎡	0.00 ㎡	11.62 ㎡	
申請建物3	1階	3.73 ㎡	0 ㎡	3.73 ㎡	
					3.73 ㎡
	小計	3.73 ㎡	0.00 ㎡	3.73 ㎡	
合　計		898.55 ㎡	16.98 ㎡	881.57 ㎡	585.84 ㎡

敷地面積	2,991.39 ㎡				
駐車場等緩和対象面積	-				
建築面積	585.84 ㎡	建ぺい率	585.84 / 2,991.39 ×100=	19.59 %	≦ 70.00%
容積対象面積	881.57 ㎡	容積率	881.57 / 2,991.39 ×100=	29.48 %	≦ 200.00%
延床面積	898.55 ㎡				

1階床面積



申請建物1						
1階床面積						
延べ面積				EVシャフト　※容積対象外		
番号	計　算　式		計	番号	計　算　式	計
1	30.800 ×	12.900	397.320000	A	2.450 × 3.195	7.827750
2	2.000 ×	11.200	22.400000			
小　計			419.720000	小　計		7.827750

■延べ面積		
	419.720000	419.72 ㎡
■容積対象外面積		
EVシャフト	7.827750	7.82 ㎡
■容積対象面積		
延べ面積-容積対象外面積		411.90 ㎡

申請建物2			
床面積			
延べ面積			
番号	計　算　式		計
3	2.630 ×	4.420	11.624600
小　計			11.624600
■延べ面積		11.624600	11.62 ㎡
■容積対象面積			11.62 ㎡

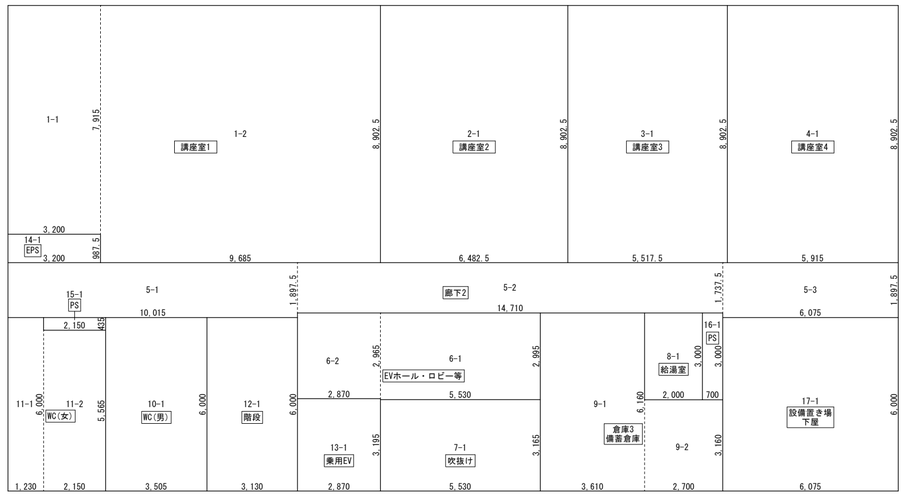
申請建物3			
床面積			
延べ面積			
番号	計　算　式		計
4	1.720 ×	2.170	3.732400
小　計			3.732400
■延べ面積		3.732400	3.73 ㎡
■容積対象面積			3.73 ㎡

訂正	月　日	事　項		
	. .		.	
	. .		.	
	. .		.	

株式会社ユニバァサル設計
UNIVERSAL DESIGN OFFICE INC.

事務所登録	東京本部一級建築士事務所 一級建築士事務所 東京都知事知事登録 第22736号		
設計者	一級建築士　登録第362390号　星野　康二	法適合確認結果等	

工事名称：仮称芳野市民センター新築工事
作成：2025 年 2 月 17 日　承認：
図面名称：法定面積表
部長　課長　担当　製図
縮尺：A2:1/300 A3:1/420
設計No.
図面No.：07-03 確06



2階平面図

2階各室面積

室名	No	計算式	面積(㎡)	用途区分	収容人員対象区分
講座室1	1 － 1	3.2000 × 7.9150 = 25.32800000	111.54871250	公民館	公民館
	1 － 2	9.6850 × 8.9025 = 86.22071250			
講座室2	2 － 1	6.4825 × 8.9025 = 57.71045625	57.71045625	公民館	公民館
講座室3	3 － 1	5.5175 × 8.9025 = 49.11954375	49.11954375	公民館	公民館
講座室4	4 － 1	5.9150 × 8.9025 = 52.65828750	52.65828750	公民館	公民館
廊下2	5 － 1	10.0150 × 1.8975 = 19.00346250	56.08940000	共用部	－
	5 － 2	14.7100 × 1.7375 = 25.55862500			
	5 － 3	6.0750 × 1.8975 = 11.52731250			
EVホール・ロビー等	6 － 1	5.5300 × 2.9950 = 16.56235000	25.07190000	共用部	共用部
	6 － 2	2.8700 × 2.9650 = 8.50955000			
吹抜け	7 － 1	5.5300 × 3.1650 = 17.50245000	17.50245000	－	－
給湯室	8 － 1	2.0000 × 3.0000 = 6.00000000	6.00000000	共用部	－
倉庫3	9 － 1	3.6100 × 6.1600 = 22.23760000	30.76960000	共用部	－
	9 － 2	2.7000 × 3.1600 = 8.53200000			
WC(男)	10 － 1	3.5050 × 6.0000 = 21.03000000	21.03000000	共用部	－
WC(女)	11 － 1	1.2300 × 6.0000 = 7.38000000	19.34475000	共用部	－
	11 － 2	2.1500 × 5.5650 = 11.96475000			
階段	12 － 1	3.1300 × 6.0000 = 18.78000000	18.78000000	共用部	－
乗用EV	13 － 1	2.8700 × 3.1950 = 9.16965000	9.16965000	共用部	－
EPS	14 － 1	3.2000 × 0.9875 = 3.16000000	3.16000000	共用部	－
PS	15 － 1	2.1500 × 0.4350 = 0.93525000	0.93525000	共用部	－
PS	16 － 1	0.7000 × 3.0000 = 2.10000000	2.10000000	共用部	－
設備置き場	17 － 1	6.0750 × 6.0000 = 36.45000000	36.45000000	－	－
		合計	517.4400000	－	
			517.44		

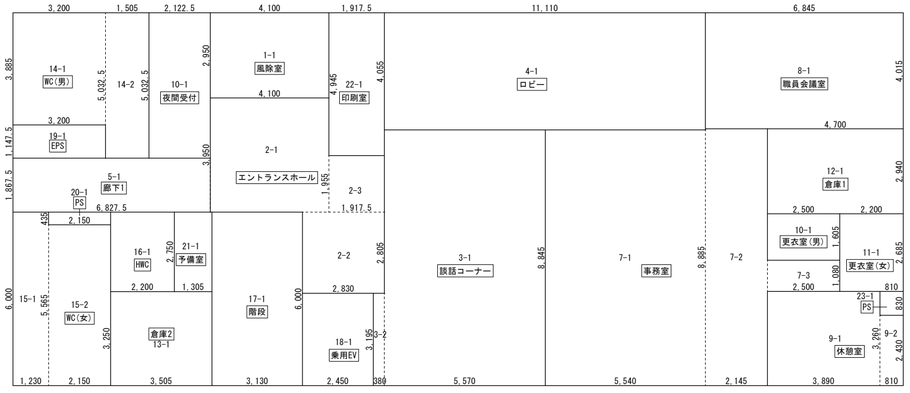
消防法収容人員算定

区分	面積(㎡)	除数	人員(人)
1階収容人員算定			
公民館	0.00000000	0.5	0
従業員	147.98328125	－	10
共用部(談話コーナー)	50.48075000	3	16
(ロビー)	45.05105000	3	15
		合計	41
2階収容人員算定			
公民館(講座室1)	111.54871250	0.5	223
(講座室2)	57.71045625	0.5	115
(講座室3)	49.11954375	0.5	98
(講座室4)	52.65828750	0.5	105
従業員	0.00000000	－	0
共用部(EVホール・ロビー等)	25.07190000	3	8
		合計	549
		全体合計収容人員	590

※本計画で公民館部分は舞台及び固定椅子は設置しない

消防法用途判定(面積按分)

用途	計算式	面積(㎡)	備考
用途別面積			
公民館	－	281.71848125	①
出張所	－	137.30180000	②
共用部	－	441.78726875	③
用途別合計面積		860.80755000	
		860.80	
按分面積			
公民館	①÷(①+②)	0.67232660	A
	①+(③×A)	578.74381381	
出張所	②÷(①+②)	0.32767340	B
	②+(③×B)	282.06373619	
按分合計面積		860.80755000	
		860.80	



1階平面図

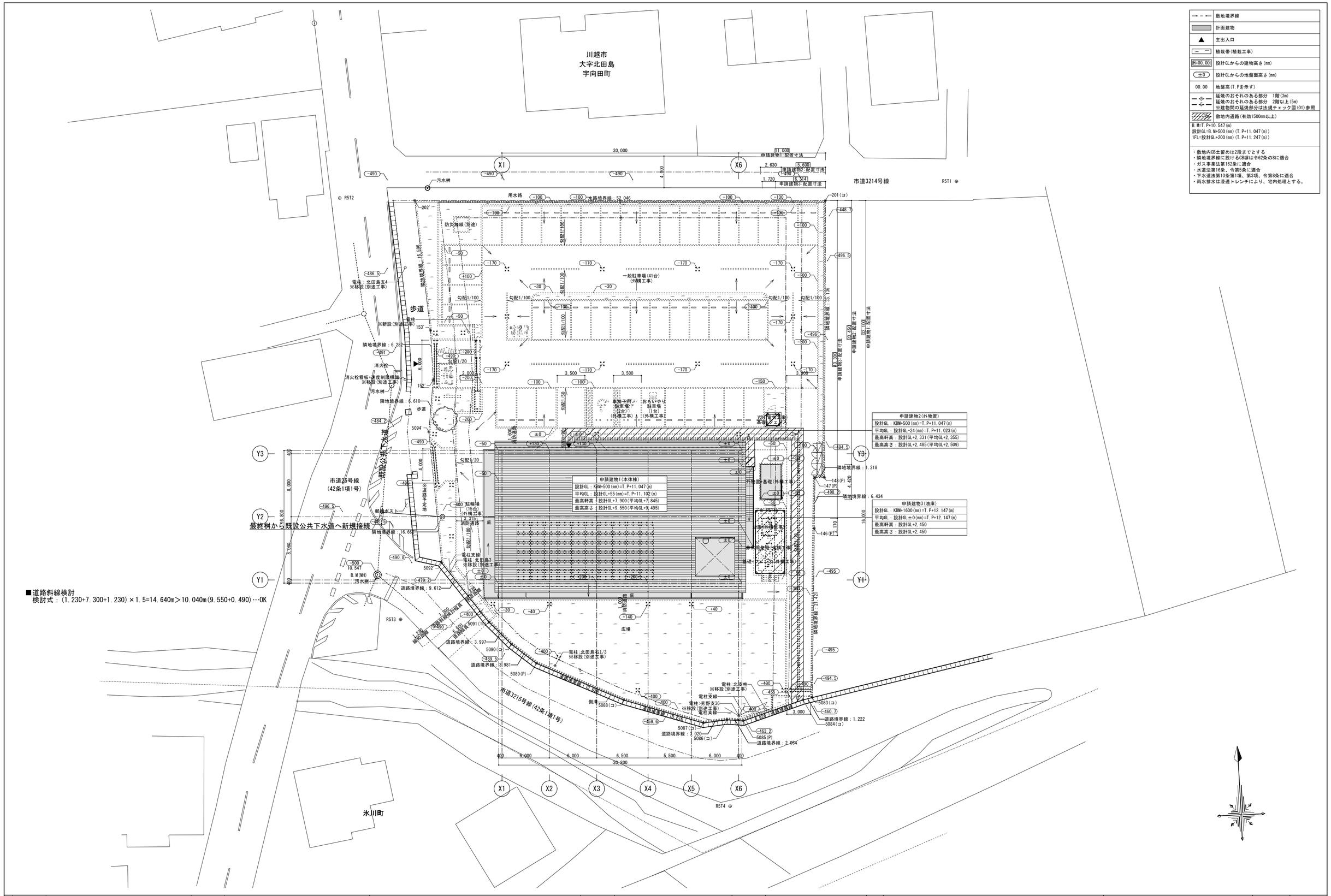
1階各室面積

室名	No	計算式	面積(㎡)	按分用途	収容人員対象区分
風除室	1 － 1	4.1000 × 2.9500 = 12.09500000	12.09500000	共用部	－
エントランスホール	1 － 1	4.1000 × 3.9500 = 16.19500000	27.88186250	共用部	－
	2 － 2	2.8300 × 2.8050 = 7.93815000			
	2 － 3	1.9175 × 1.9550 = 3.74871250			
談話コーナー	3 － 1	5.5700 × 8.8450 = 49.26665000	50.48075000	共用部	共用部
	3 － 2	0.3800 × 3.1950 = 1.21410000			
ロビー	4 － 1	11.1100 × 4.0550 = 45.05105000	45.05105000	共用部	共用部
廊下1	5 － 1	6.8275 × 1.8675 = 12.75035625	12.75035625	共用部	－
夜間受付	6 － 1	2.1225 × 5.0325 = 10.68148125	10.68148125	公民館	従業員
事務室	7 － 1	5.5400 × 8.8450 = 49.00130000	70.75962500	出張所	従業員
	7 － 2	2.1450 × 8.8850 = 19.05832500			
	7 － 3	2.5000 × 1.0800 = 2.70000000			
職員会議室	8 － 1	6.8450 × 4.0150 = 27.48267500	27.48267500	出張所	従業員
休憩室	9 － 1	3.8900 × 3.7600 = 12.68140000	14.64970000	出張所	従業員
	9 － 2	0.8100 × 2.4300 = 1.96830000			
更衣室(男)	10 － 1	2.5000 × 1.6050 = 4.01250000	4.01250000	出張所	従業員
更衣室(女)	11 － 1	2.2000 × 2.6850 = 5.90700000	5.90700000	出張所	従業員
倉庫1	12 － 1	4.7000 × 2.9400 = 13.81800000	13.81800000	出張所	従業員
倉庫2	13 － 1	2.5050 × 3.2500 = 11.39125000	11.39125000	共用部	－
WC(男)	14 － 1	3.2000 × 3.8850 = 12.43200000	20.00591250	共用部	－
	14 － 2	1.5050 × 5.0325 = 7.57391250			
WC(女)	15 － 1	1.2300 × 6.0000 = 7.38000000	19.34475000	共用部	－
	15 － 2	2.1500 × 5.5650 = 11.96475000			
HWC	16 － 1	2.2000 × 2.7500 = 6.05000000	6.05000000	共用部	－
階段	17 － 1	3.1300 × 6.0000 = 18.78000000	18.78000000	共用部	－
乗用EV	18 － 1	2.4500 × 3.1950 = 7.82775000	7.82775000	共用部	－
EPS	19 － 1	3.2000 × 1.1475 = 3.67200000	3.67200000	共用部	－
PS	20 － 1	2.1500 × 0.4350 = 0.93525000	0.93525000	共用部	－
予備室	21 － 1	1.3050 × 2.7500 = 3.58875000	3.58875000	共用部	－
印刷室	22 － 1	1.9175 × 4.9450 = 9.48203750	9.48203750	共用部	－
PS	23 － 1	0.8100 × 0.8300 = 0.67230000	0.67230000	出張所	従業員
		合計	397.32000000	－	
			397.32		

訂正	月 日	事 項			
	. .		.		
	. .		.		
	. .		.		

universal 株式会社ユニバァサル設計
UNIVERSAL DESIGN OFFICE INC.
事務所登録 東京本部一級建築士事務所 一級建築士事務所 東京都知事知事登録 第22736号
設計者 一級建築士 登録第362390号 星野 康二
法適合確認結果等

工事名称	芳野市民センター新築工事
図面名称	各室求積図
縮尺	A2:1/150 A3:1/210
図面No.	07-04 確07
作成	2025 年 2 月 17 日
承認	
部長 課長 担当 製図	
設計No.	



■道路斜線検討
検討式：(1.230+7.300+1.230)×1.5=14.640m＞10.040m(9.550+0.490)…OK

	敷地境界線
	計画建物
▲	主出入口
	植栽帯(植栽工事)
H=00.00	設計GLからの建物高さ(mm)
±0	設計GLからの地盤面高さ(mm)
00.00	地盤高(T.Pを示す)
	延焼のおそれのある部分　1階(3m) 延焼のおそれのある部分　2階以上(5m) ※建物間の延焼部分は法規チェック図(01)参照
	敷地内通路(有効1500mm以上)

B.M=T.P+10.547(m)
設計GL=B.M+500(mm)(T.P+11.047(m))
1FL=設計GL+200(mm)(T.P+11.247(m))

・敷地内CB土留めは2段までとする
・隣地境界線に設けるCB塀は令62条の8に適合
・ガス事業法第162条に適合
・水道法第16条、令第5条に適合
・下水道法第10条第1項、第3項、令第8条に適合
・雨水排水は浸透トレンチにより、宅内処理とする。

申請建物1(本体棟)	
設計GL	KBM+500(mm)=T.P+11.047(m)
平均GL	設計GL+55(mm)=T.P+11.102(m)
最高軒高	設計GL+7,900(平均GL+7,845)
最高高さ	設計GL+9,550(平均GL+9,495)

申請建物2(外物置)	
設計GL	KBM+500(mm)=T.P+11.047(m)
平均GL	設計GL-24(mm)=T.P+11.023(m)
最高軒高	設計GL+2,331(平均GL+2,355)
最高高さ	設計GL+2,485(平均GL+2,509)

申請建物3(油庫)	
設計GL	KBM+1600(mm)=T.P+12.147(m)
平均GL	設計GL±0(mm)=T.P+12.147(m)
最高軒高	設計GL+2,450
最高高さ	設計GL+2,450

訂正	月 日	事 項

株式会社ユニバァサル設計
UNIVERSAL DESIGN OFFICE INC.

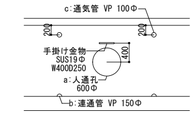
事務所登録	東京本部一級建築士事務所 一級建築士事務所 東京都知事知事登録 第22736号		
設計者	一級建築士　登録第362390号　星野　康二	法適合確認結果等	

工事名称	仮称芳野市民センター新築工事	図面名称	配置図
作成	2025 年 2 月 17 日	承認	
縮尺	A2:1/300 A3:1/420	図面No.	08-01 確08
部長	課長	担当	製図
設計No.			

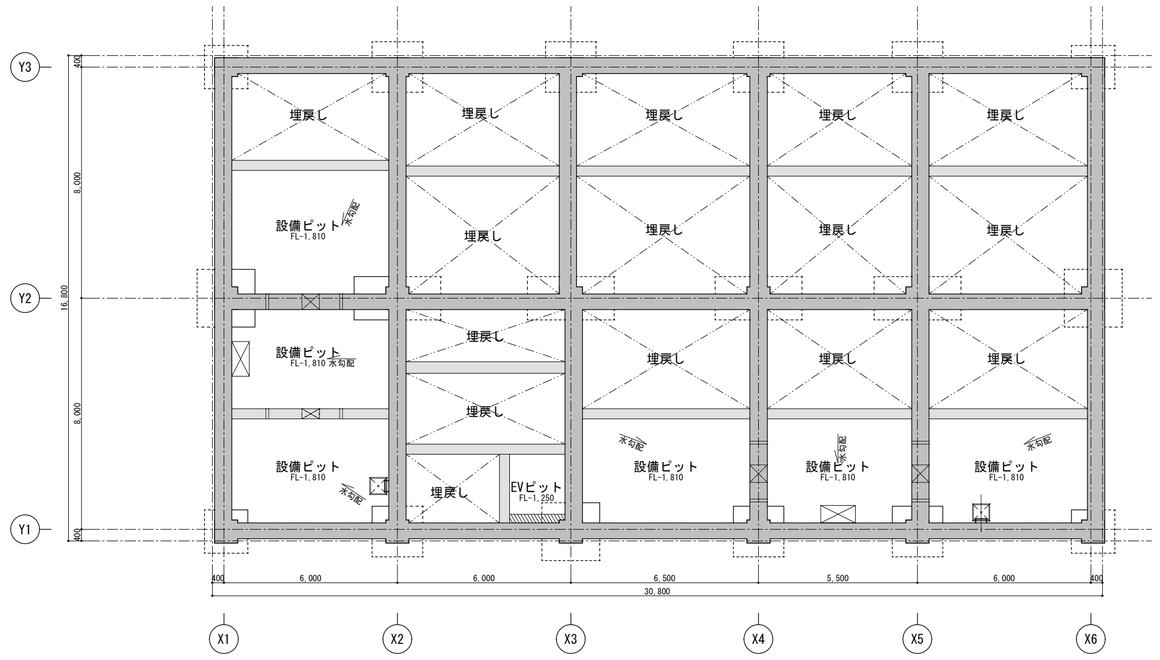
	人通孔600φ（手掛金物付）
	通気管及び連通管
	釜場 設備ピット　1200×600×H600
	上部防水防臭型床点検口600角 ※化粧蓋ロック、ハシゴ付

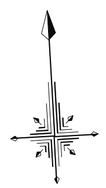
・床下：押出法ポリスチレンフォーム(3種b)t25
・設備ピット床、壁：ケイ酸質系塗布防水仕上(C-SUI工法)
・設備ピット天井：押出法ポリスチレンフォーム3種b t25
・EVピット床、壁：ケイ酸質系塗布防水仕上(C-SUI工法)

スリーブ基本断面



※特記なき限り人通孔は上図による
※小梁等のある場合はそれを避ける位置とする
※上部マンホールやタラップ等のある場合は
上記の基準に準じそれを避ける位置とする





訂正	月　日	事　項		
	. .		.	
	. .		.	
	. .		.	

株式会社ユニバァサル設計
UNIVERSAL DESIGN OFFICE INC.

事務所登録	東京本部一級建築士事務所 一級建築士事務所 東京都知事登録 第22736号		
設計者	一級建築士　登録第362390号　星野　康二	法適合確認結果等	

工事名称	仮称芳野市民センター新築工事	図面名称	ピット図	縮尺	A2:1/150 A3:1/210
作成	2025 年 2 月 17 日	承認		図面No.	08-02 確09
		部長	課長 担当	製図	設計No.

消	消火器ボックス壁全埋込型
㊞	消火器ボックス置き型
	床下点検口(600×600)

※消防用設備等について着工前に消防と協議すること。

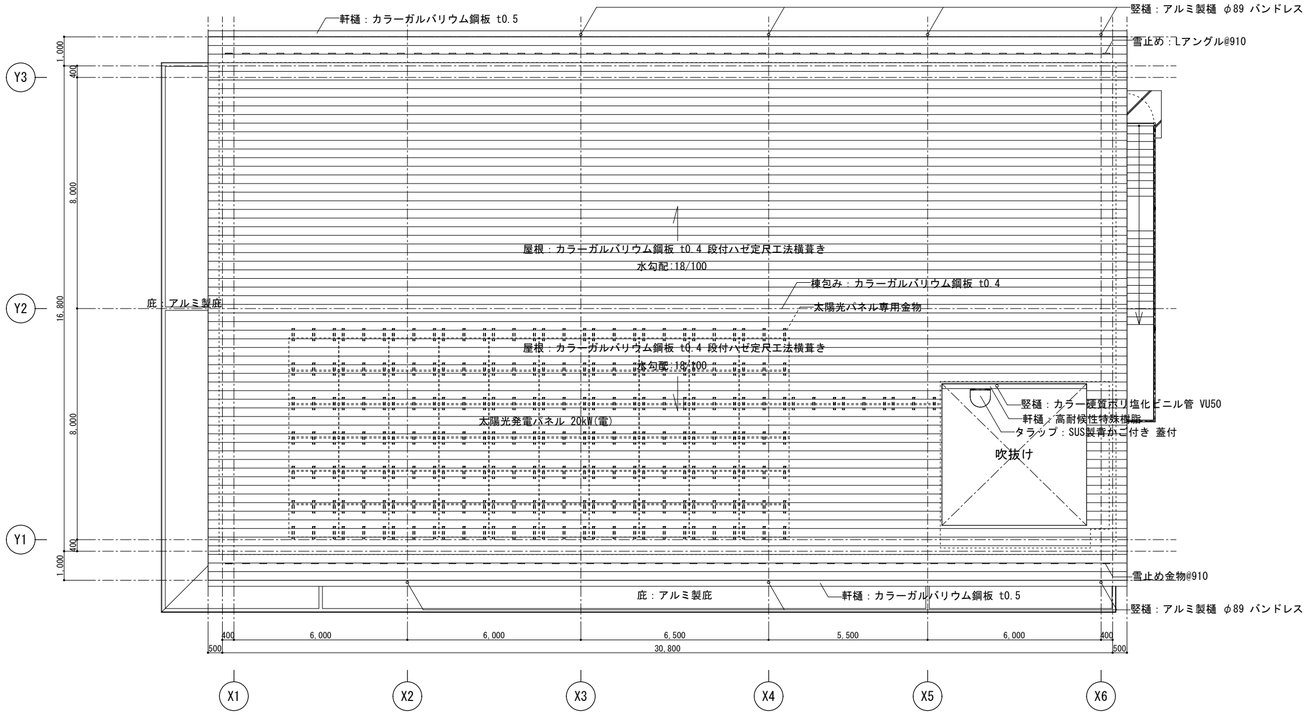
訂 / 正	月 日	事 項		

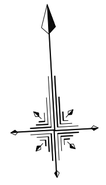
universal 株式会社ユニバァサル設計
UNIVERSAL DESIGN OFFICE INC.

事務所登録	東京本部一級建築士事務所 一級建築士事務所 東京都知事登録 第22736号		
設計者	一級建築士 登録第362390号 星野 康二	法適合確認結果等	

工事名称	仮称芳野市民センター新築工事	図面名称	平面図
作成	2025 年 2 月 17 日	承認	
部長	課長	担当	製図

縮尺	A2:1/150 A3:1/210
設計No.	
図面No.	08-03 確10





訂正	月 日	事 項		
	. .		.	
	. .		.	
	. .		.	

株式会社ユニバァサル設計
UNIVERSAL DESIGN OFFICE INC.

事務所登録	東京本部一級建築士事務所 一級建築士事務所 東京都知事登録 第22736号		
設計者	一級建築士 登録第362390号 星野 康二	法適合確認結果等	

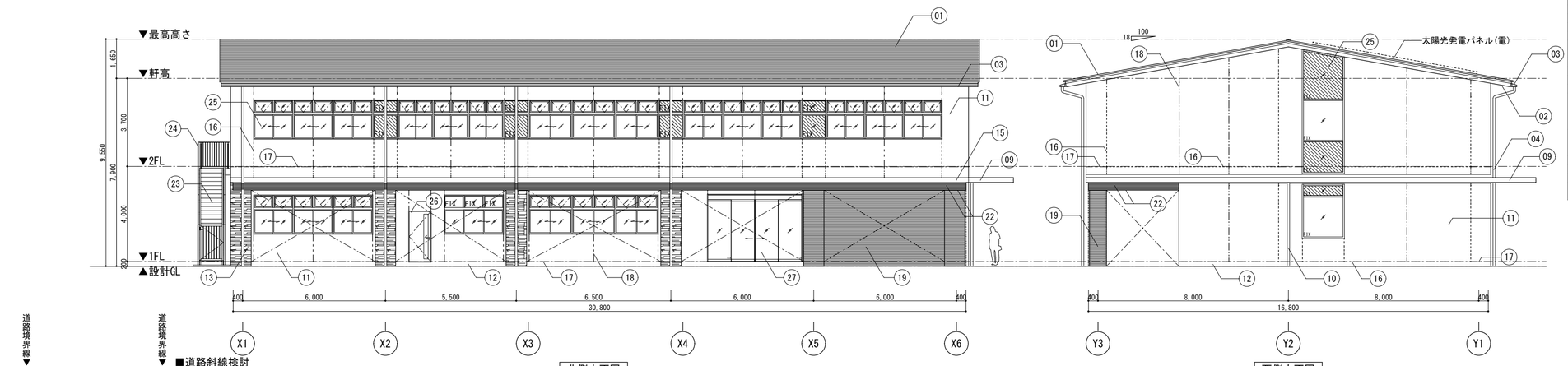
工事名称	仮称芳野市民センター新築工事	図面名称	屋根伏図
作成	2025 年 2 月 17 日	承認	
部長	課長	担当	製図

縮尺 A2:1/150 A3:1/210

設計No.

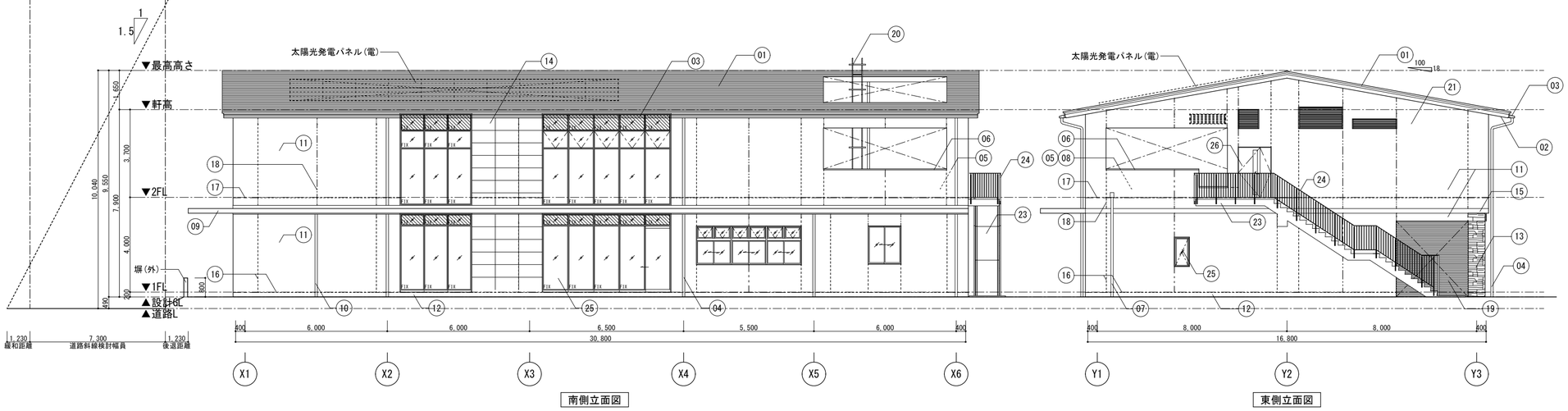
図面No. 08-04 確11

No.	部位		仕様
01	屋根	屋根	カラーガルバリウム鋼板 t0.4 段付ハゼ定尺工法横葺き #182(発泡ポリエチレン t2.0裏貼り) 改質アスファルトルーフィング t1.0 野地金属タルキ #455 溶融亜鉛メッキ鋼板 t1.2 ビーズ発泡ポリスチレン断熱材1号 t40 改質アスファルトルーフィング t1.0 防しもルタル t10 金物：雪止めアングル#910、太陽光パネル専用金物
02		軒裏	側面：コンクリート打放し補修の上、防水形複層塗材E 裏面：超低汚染型木目調シート建材
03		軒樋	カラーガルバリウム鋼板 t0.5(両面塗装) プレス加工穴付き落ち葉除けー体型軒樋 樋受け金物 アルミ押出型材 ※陸屋根部：高耐候性特殊樹脂
04		竪樋	アルミ製樋 φ89 バンドレス 埋設管メンテ用スライド管 ※陸屋根部：カラー硬質ポリ塩化ビニル管 VU50(養生管無し)
05	陸屋根・設備置き場	防水	保護層：コンクリート直均し t120(φ6×100×100入り) 伸縮目地：塩ビ既製品(#3000以内) ポリプロピレン繊維クロス 断熱材：A種押出法ポリスチレンフォーム保温板3種b t=40 両面スキン層付 防水層：アスファルト防水 加熱型改質アス塗膜防水工法 下地：コンクリート直均し(躯体ふかし勾配 1/75以上)
06		笠木	アルミ製既製品 W225
07		樋	竪樋：カラー硬質ポリ塩化ビニル管 VU50 ドレン：横引きドレン 鋳鉄製 オーバーフロー管：ステンレス製 φ30丸管
08		設備基礎	ウレタンゴム系塗膜防水 コンクリート直均し
09	庇	庇	アルミ製庇
10		竪樋	アルミ製樋 φ89 バンドレス 埋設管メンテ用スライド管
11	外壁	外壁1	コンクリート打放し補修の上、防水形複層塗材E ※設備置き場変型見上げ部は可とう形外装薄塗材E
12		幅木	コンクリート打放補修、保護材塗布(耐候・低汚染型シリコン系塗料)
13		外壁2	磁器質タイル(独立柱部4周共) 接着工法
14		外壁3	ライムストーン調軽量シート建材
15		見切	コンクリート打放し補修の上、DP
16		目地1 ----	構造スリット
17		目地2 --=-	打継目地 W20×D15 PU-2
18		目地3 --=-	伸縮目地 W20×D15 PU-2
19		ルーバー	アルミ製ルーバー 木目化粧シート
20		タラップ	SUS製背かご付き 塗付
21		ベンドキャップ	SUS製指定色(設備工事)
22	ピロティ	軒天	アルミスパンドレル
23	屋外階段	階段	踏面・蹴込：モルタル金コテ押え、高強度ウレタン塗膜防水(防滑トップ仕上) 段鼻：ステンレスノンスリップ 側面・段裏：コンクリート打放補修、保護材塗布(耐候・低汚染型シリコン系塗料)
24		手摺	ステンレス製
25	開口部	アルミ製窓	アルミサッシュ：BB-2種
26		鋼製建具	鋼製フラッシュドア DP
27		SUS製建具	カラーステンレス自動ドア 飛散防止フィルム、強化ガラス



北側立面図

西側立面図



南側立面図

東側立面図

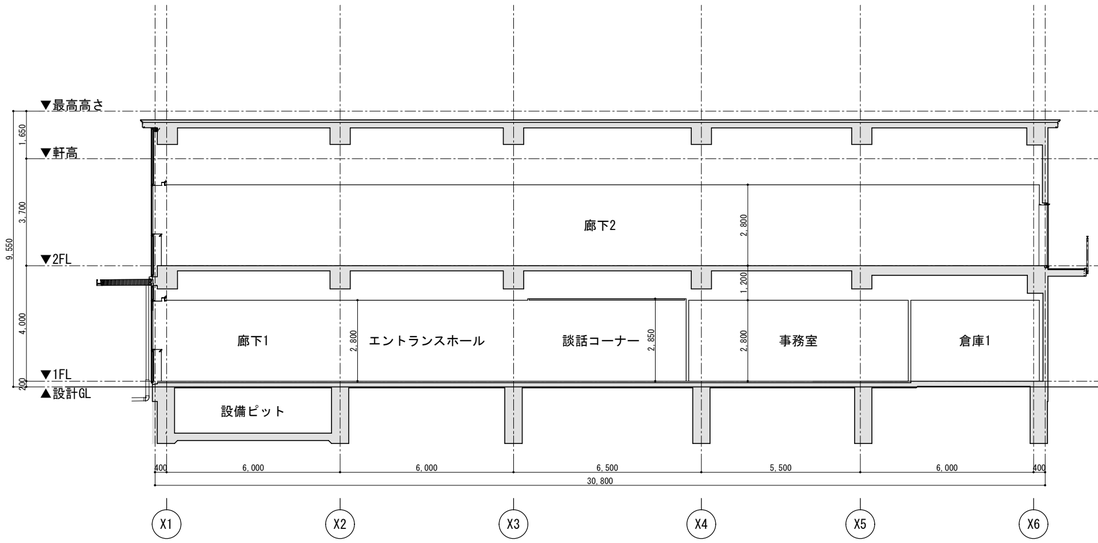
訂正	月 日	事項			
	. .		.		
	. .		.		

株式会社ユニバァサル設計
UNIVERSAL DESIGN OFFICE INC.

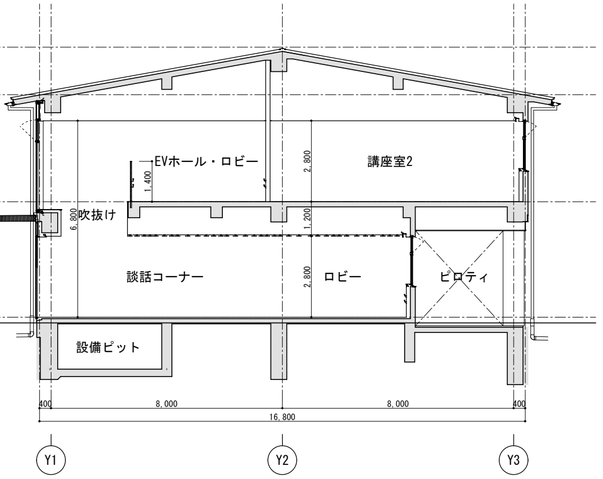
事務所登録	東京本部一級建築士事務所 一級建築士事務所 東京都知事登録 第22736号		
設計者	一級建築士 登録第362390号 星野 康二	法適合確認結果等	

工事名称	仮称芳野市民センター新築工事	図面名称	立面図
作成	2025 年 2 月 17 日	承認	
部長	課長	担当	製図

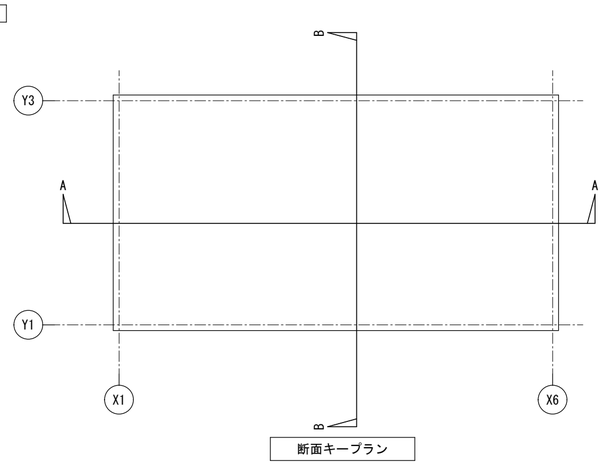
縮尺	A2:1/150 A3:1/210
設計No.	
図面No.	09-01 確12



A-A断面図



B-B断面図



断面キープラン

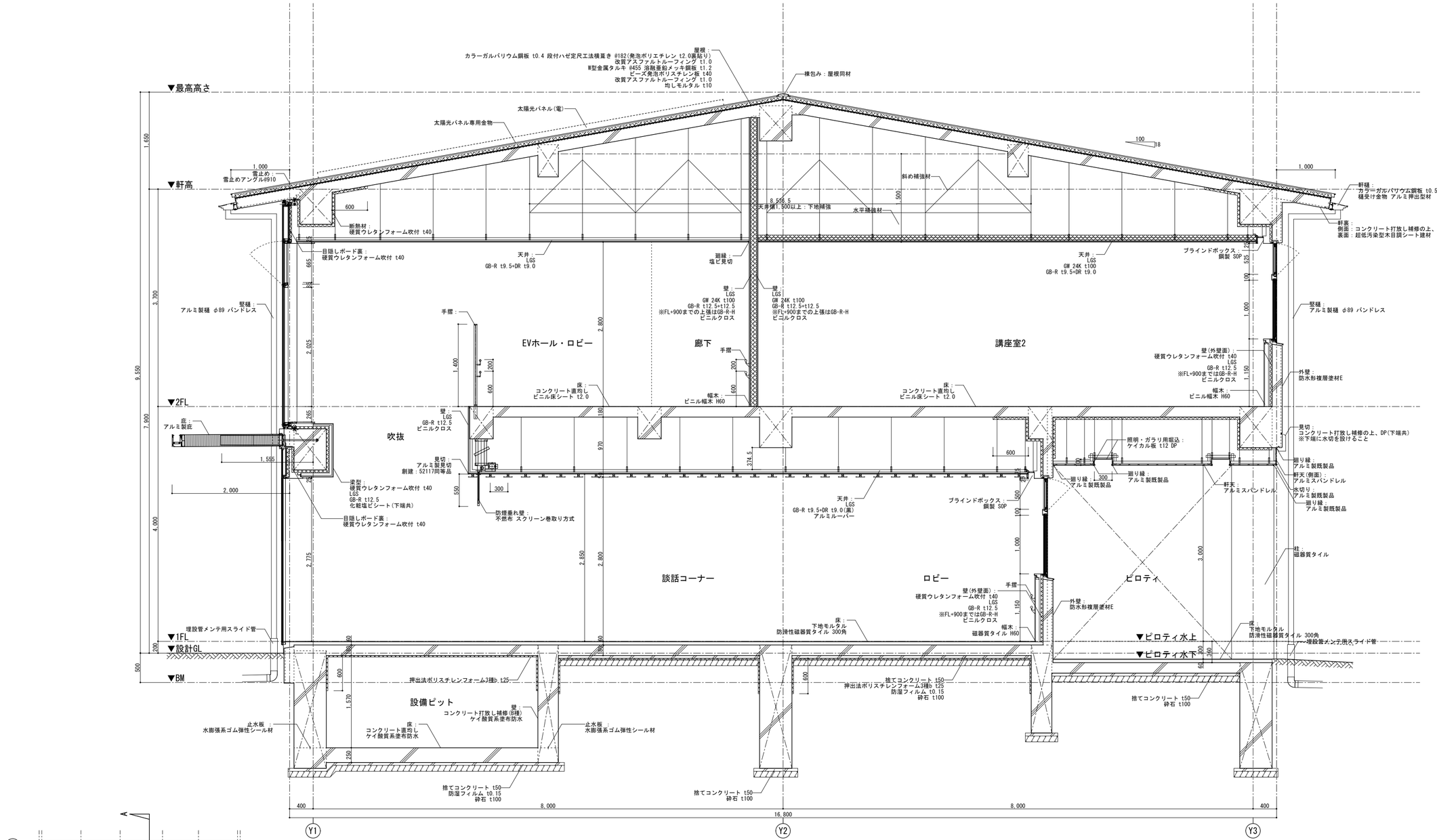
訂正	月　日	事　項		
	. .		. .	
	. .		. .	
	. .		. .	

株式会社ユニバァサル設計
UNIVERSAL DESIGN OFFICE INC.

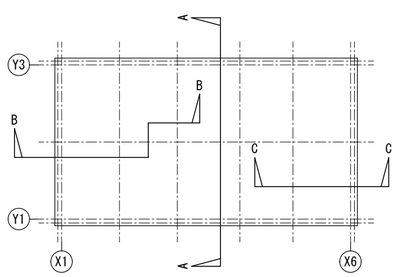
事務所登録	東京本部一級建築士事務所 一級建築士事務所 東京都知事知事登録 第22736号		
設計者	一級建築士　登録第362390号　星野　康二	法適合確認結果等	

工事名称	仮称芳野市民センター新築工事	図面名称	断面図
作成	2025 年　2 月　17 日	承認	
部長	課長	担当	製図

縮尺 A2:1/150 A3:1/210
設計No.
図面No. 09-02 確13



A-A矩計図



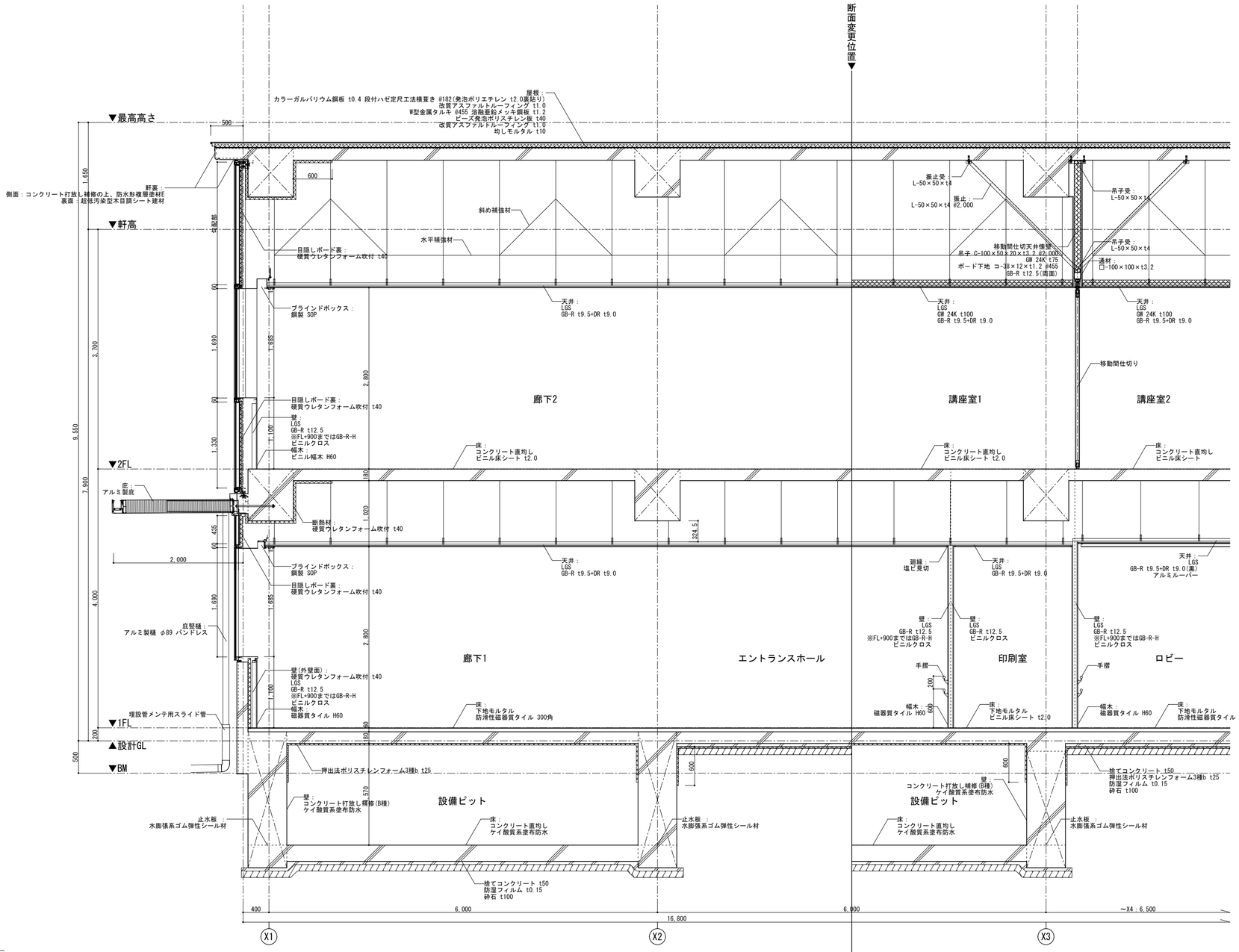
矩計図キープラン

訂正	月 日	事項		

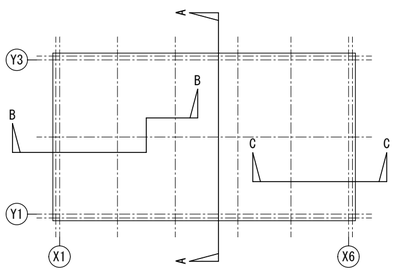
株式会社ユニバァサル設計
UNIVERSAL DESIGN OFFICE INC.

事務所登録	東京本部一級建築士事務所 一級建築士事務所 東京都知事知事登録 第22736号		
設計者	一級建築士 登録第362390号 星野 康二	法適合確認結果等	

工事名称	仮称芳野市民センター新築工事	図面名称	矩計図(1)
作成	2025 年 2 月 17 日	縮尺	A2:1/50 A3:1/70
承認		図面No.	09-03
部長	課長 担当 製図	設計No.	



B-B矩計図



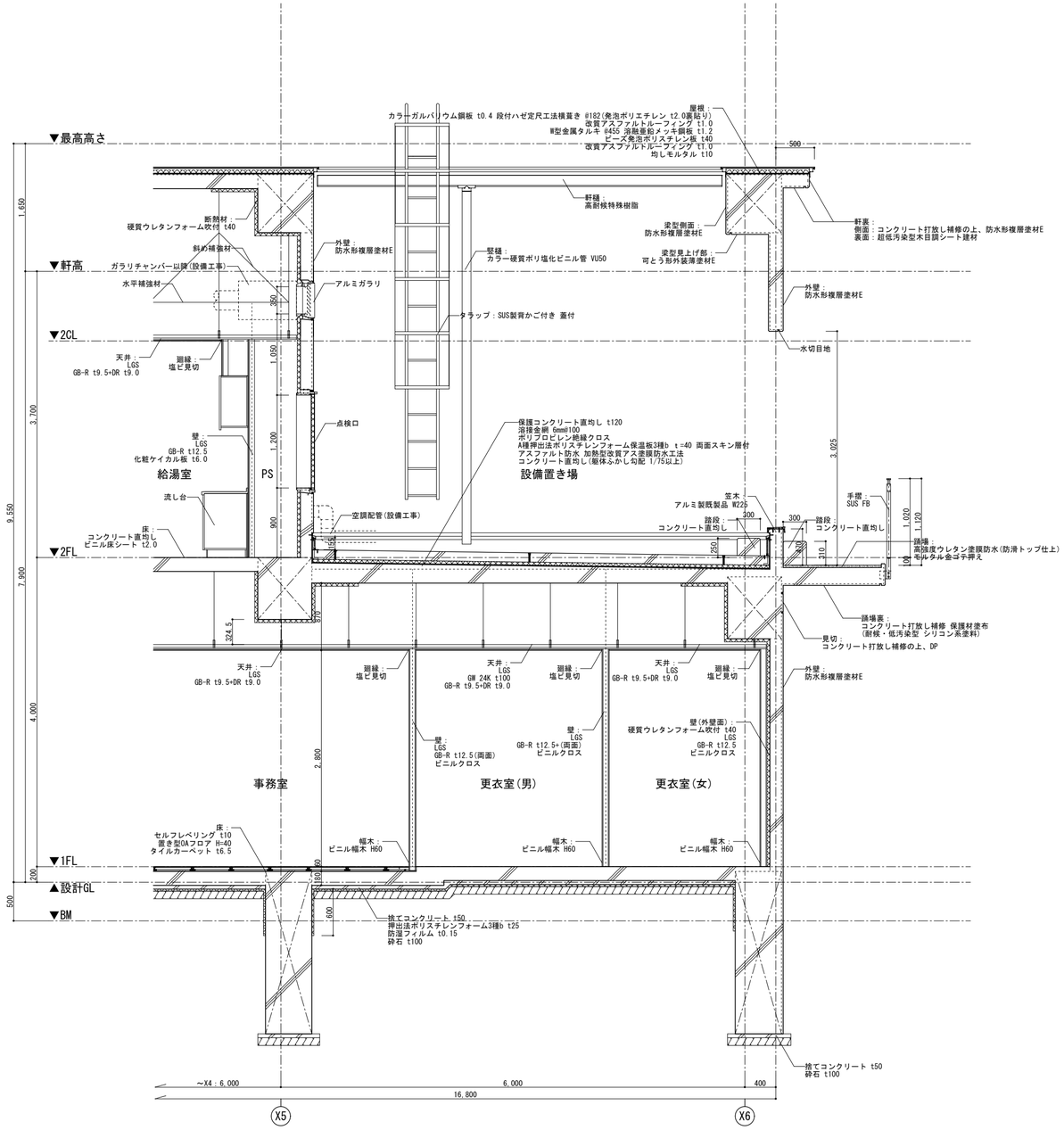
矩計図キープラン

訂正	月 日	事 項		

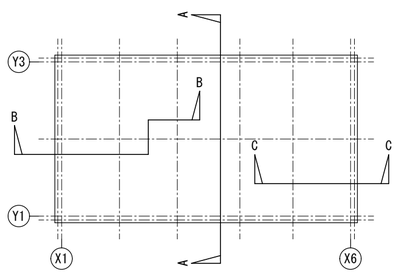
株式会社ユニバァサル設計
UNIVERSAL DESIGN OFFICE INC.

事務所登録	東京本部一級建築士事務所 一級建築士事務所 東京都知事登録 第22736号		
設計者	一級建築士 登録第362390号 星野 康二	法適合確認結果等	

工事名称	仮称芳野市民センター新築工事	図面名称	矩計図(2)
作成	2025 年 2 月 17 日	承認	
縮尺	A2:1/50 A3:1/70	図面No.	09-04
部長	課長 担当 製図	設計No.	



C-C矩計図



矩計図キープラン

月 日	事 項		
訂正			

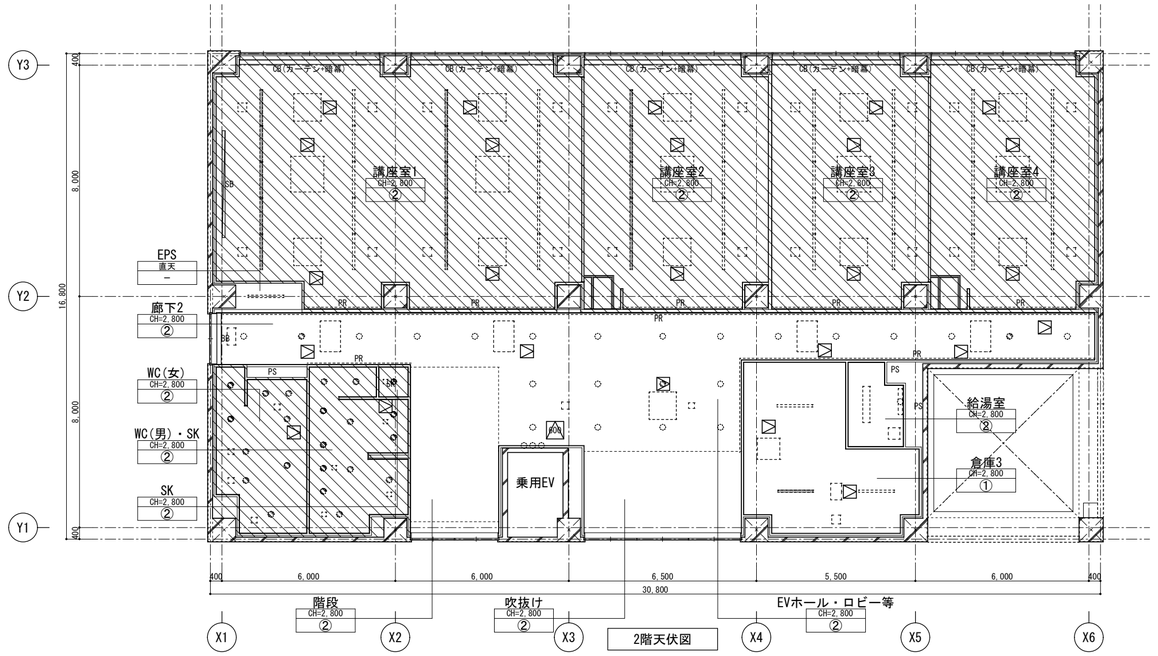
株式会社ユニバァサル設計
UNIVERSAL DESIGN OFFICE INC.

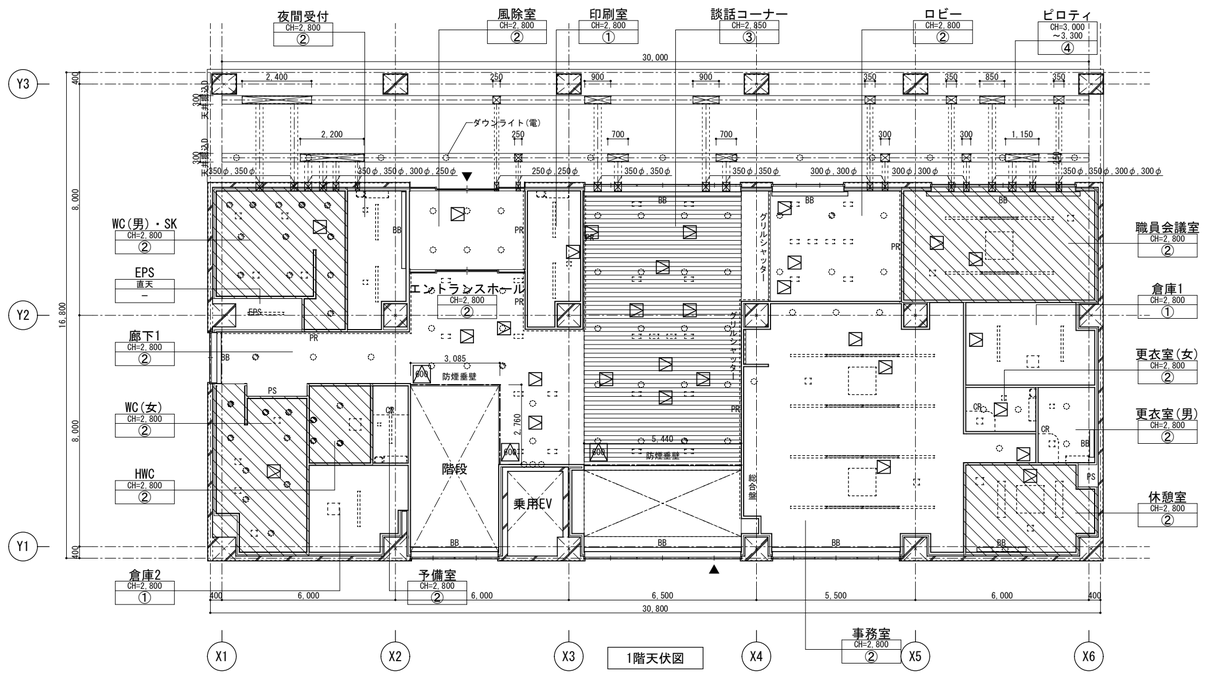
事務所登録	東京本部一級建築士事務所 一級建築士事務所 東京都知事知事登録 第22736号		
設計者	一級建築士 登録第362390号 星野 康二	法適合確認結果等	

工事名称	仮称芳野市民センター新築工事	図面名称	矩計図(3)
作成	2025 年 2 月 17 日	承認	
縮尺	A2:1/50 A3:1/70	図面No.	09-05
部長	課長	担当	製図
設計No.			

凡例	
	天井点検口 アルミ製450角(目地タイプ) ※開口補強共 53ヵ所
	天井点検口 アルミ製600角(目地タイプ) ※開口補強共 4ヵ所
	換気用グリル(防虫網付) 堀込部近似色 寸法：図示(ガラリ寸法) 開口補強共
	防煙垂壁 不燃布 スクリーン巻取り方式 11.3m(参考)
CB	カーテンボックス W180×H150 24.7m(参考)
BB	ブラインドボックス W120×H150 35.2m(参考)
SB	スクリーンボックス アルミ製 150×150×3,700 1ヵ所 スプリング巻上スクリーン 150インチ共
PR	ピクチャーレール 額縁用 フック2個/m共 102.2m(参考)
CR	カーテンレール 間仕切専用 吊式 4.4m(参考)
	天井裏 GW24K t100敷込み
	RC壁スリーブ(換気ダクト用) ※補強方法は構造図参照
	天井ルーバー
①	GB-D t9.5
②	DR t9.0
③	DR t9.0(黒) 杉(節無) 150×30 不燃塗装
④	アルミスパンドレル

天井開口補強(位置は電気図・機械図参照)
機械：W900×D900 15ヵ所
機械：W1,000×D650 4ヵ所
電気：W250×D1,250 78ヵ所





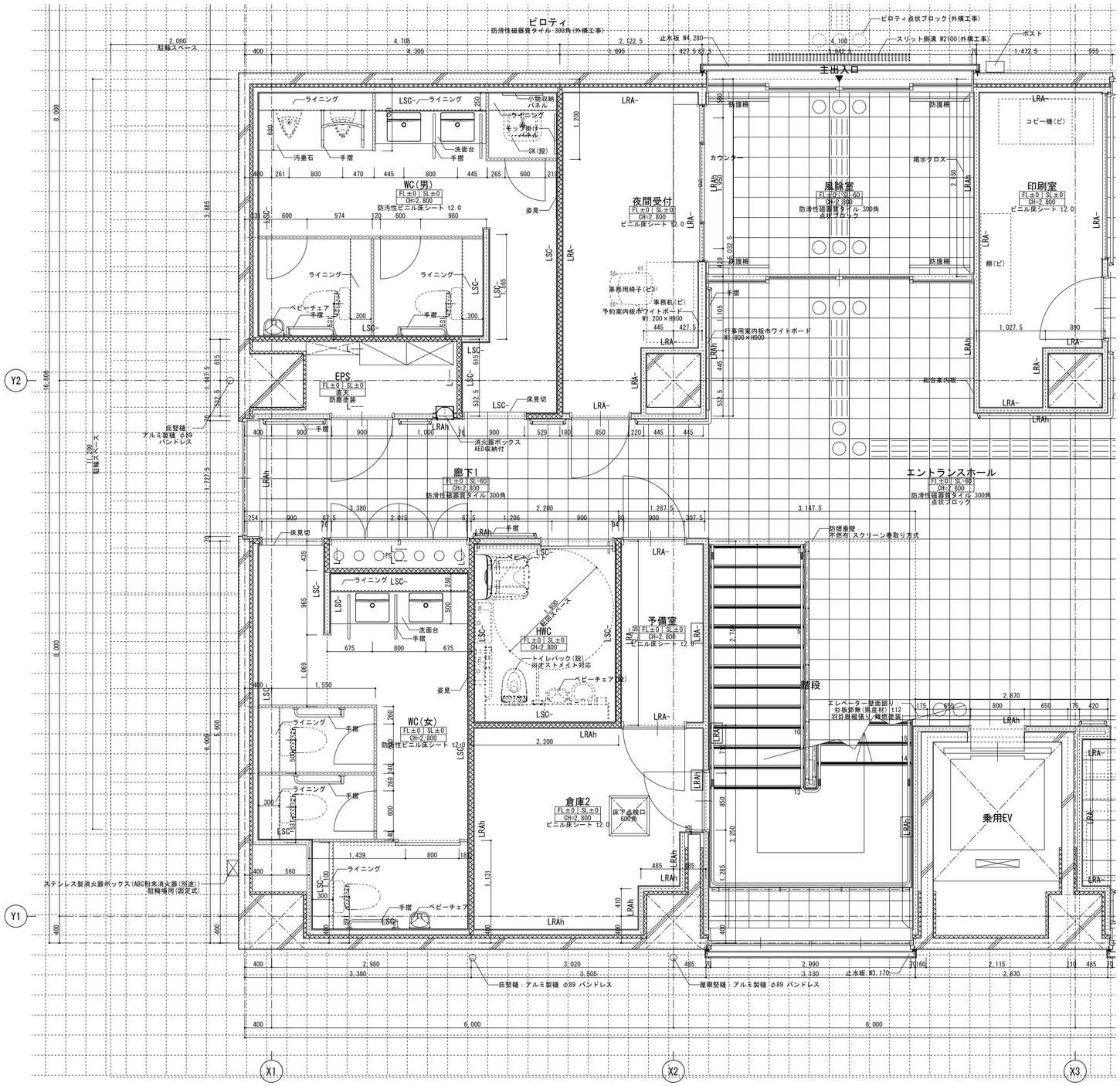
訂正	月 日	事 項			

株式会社ユニバァサル設計
UNIVERSAL DESIGN OFFICE INC.

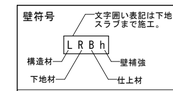
事務所登録	東京本部一級建築士事務所 一級建築士事務所 東京都知事知事登録 第22736号		
設計者	一級建築士 登録第362390号 屋野 康二	法適合確認結果等	

工事名称	仮称芳野市民センター新築工事	図面名称	天井伏図
作成	2025 年 2 月 17 日	承認	
部長	課長	担当	製図

縮尺	A2:1/150 A3:1/210	図面No. 10-01
設計No.		



壁符号



構造材

記号	構造	厚さ
L	LGS	65
L1	LGS	100

下地材

記号	構成	
R	GB-R t12.5	
R2	GB-R t12.5	GB-R t12.5
R2'	GB-R t9.5(下張)	GB-R t12.5(上張)
S	GB-S t12.5	
T	GB-R t12.5	ケイカル板 t6.0

仕上材

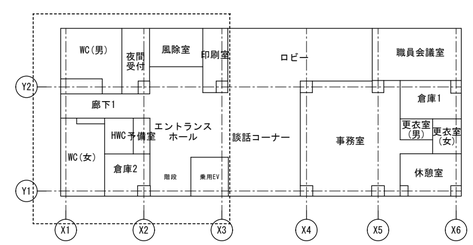
記号	構成
A	壁紙、張物
B	塗装、吹付
C	化粧ケイカル板 t6.0

壁補強

記号	構成
h	FL+900までのGB-R t12.5をGB-R-H t12.5とする ※GB-R 2枚張りの場合は上張り部をGB-R-Hとする

GW 24K充填

※掲示クロス下地は合板を上張りすること



1階平面詳細図キープラン

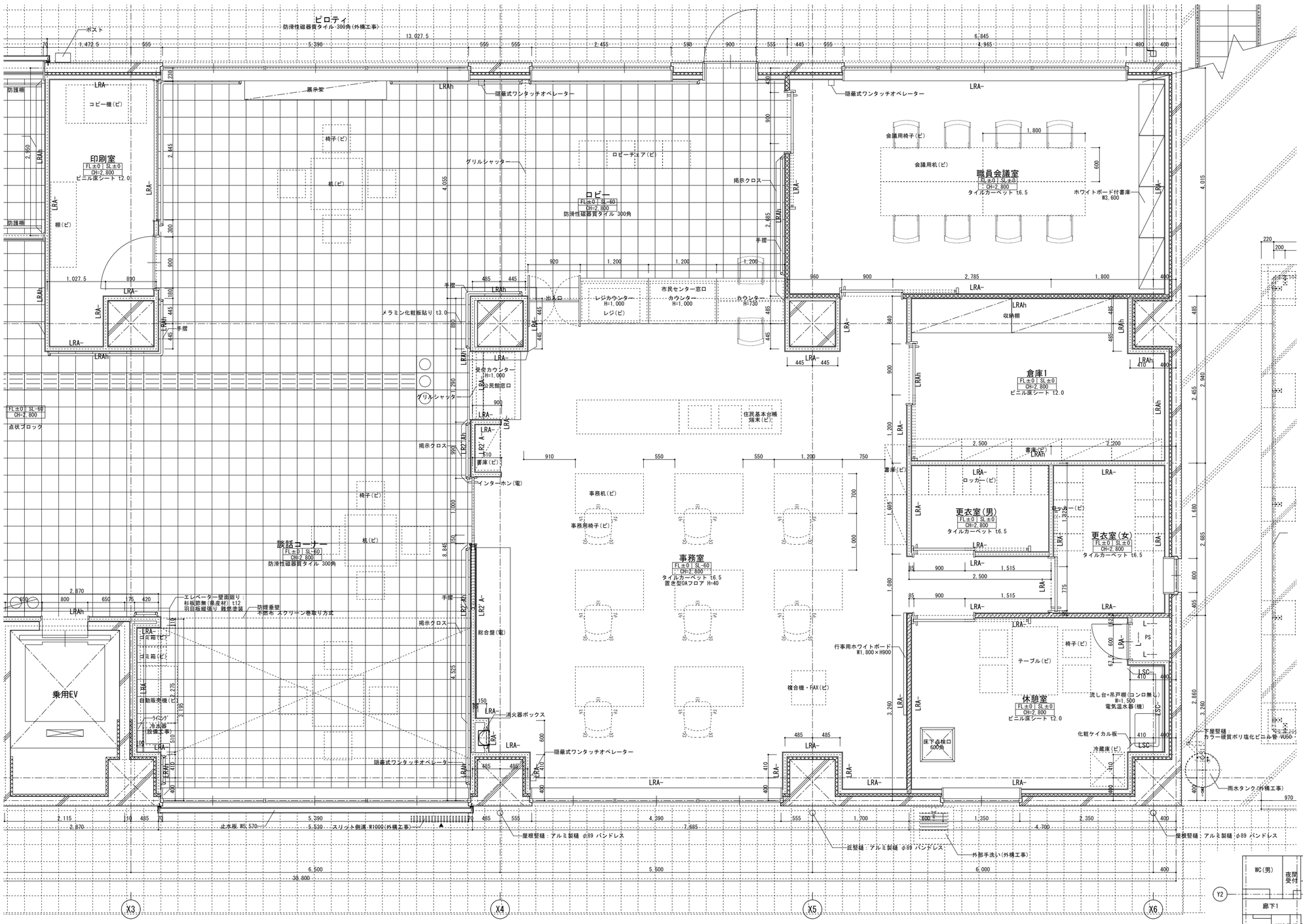
訂/正	月 日	事項		

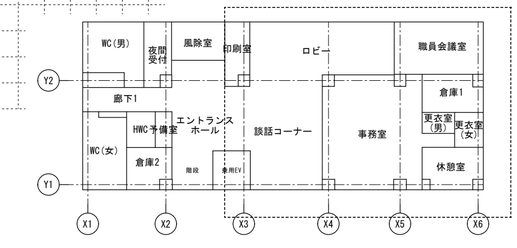
株式会社ユニバァサル設計
UNIVERSAL DESIGN OFFICE INC.

事務所登録	東京本部一級建築士事務所 一級建築士事務所 東京都知事知事登録 第22736号		
設計者	一級建築士 登録第362390号 星野 康二	法適合確認結果等	

工事名称	仮称芳野市民センター新築工事	図面名称	平面詳細図(1)	縮尺 A2:1/50 A3:1/70
作成	2025 年 2 月 17 日	承認	部長 課長 担当 製図	設計No.

図面No. 11-01 確14





1階平面詳細図キープラン

壁符号

文字囲い表記は下地・仕上をスラブまで施工。

L R B h

構造材 / 下地材 / 壁補強 / 仕上材

構造材

記号	構造	厚さ
L	LGS	65
L1	LGS	100

下地材

記号	構成	
R	GB-R t12.5	
R2	GB-R t12.5	GB-R t12.5
R2'	GB-R t9.5(下張)	GB-R t12.5(上張)
S	GB-S t12.5	
T	GB-R t12.5	ケイカル板 t6.0

仕上材

記号	構成
A	壁紙、張物
B	塗装、吹付
C	化粧ケイカル板 t6.0

壁補強

記号	構成
h	FL+900までのGB-R t12.5をGB-R-H t12.5とする ※GB-R 2枚張りの場合は上張り部をGB-R-Hとする
	GW 24K充填

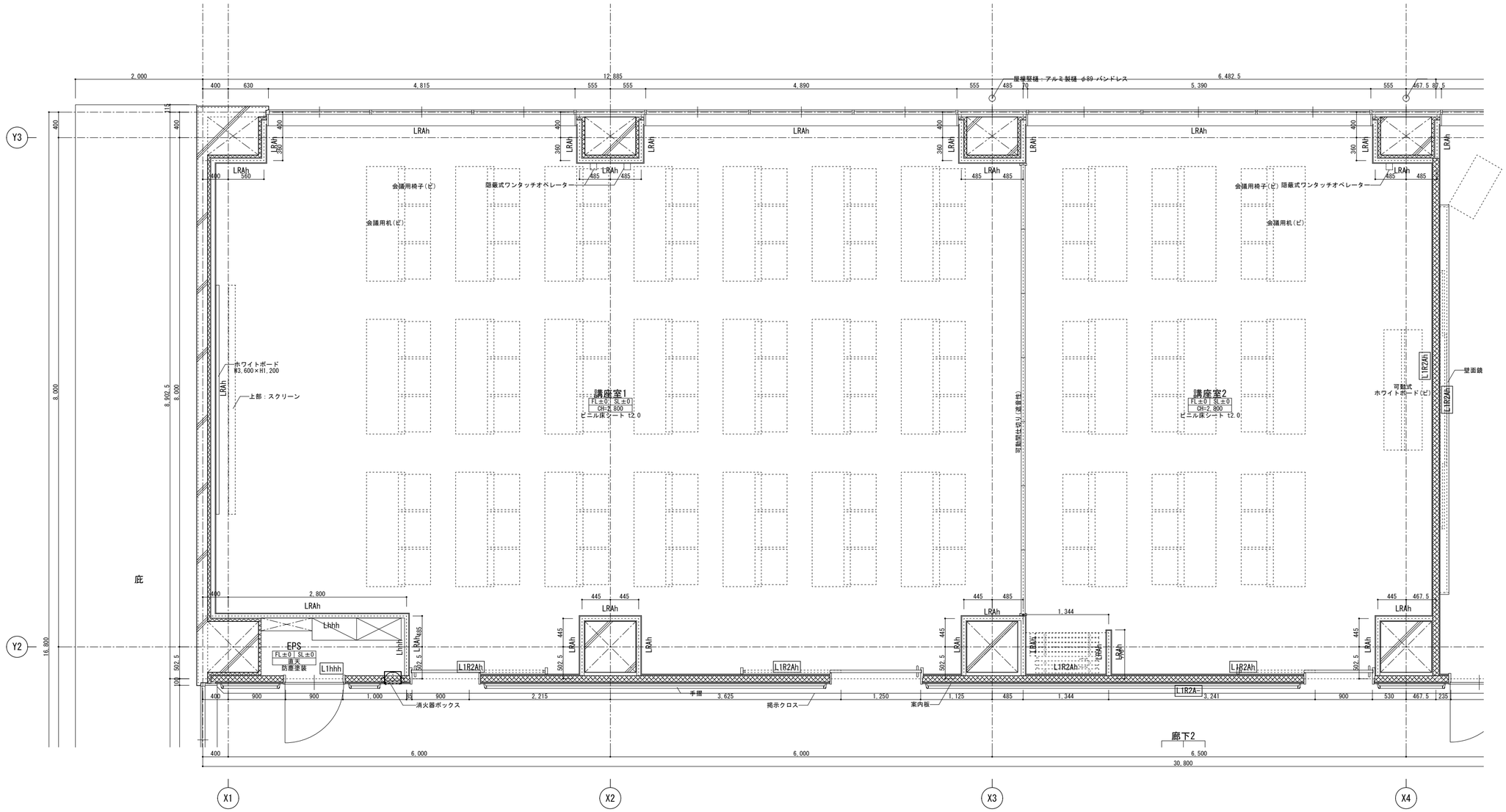
※掲示クロス下地は合板を上張りすること

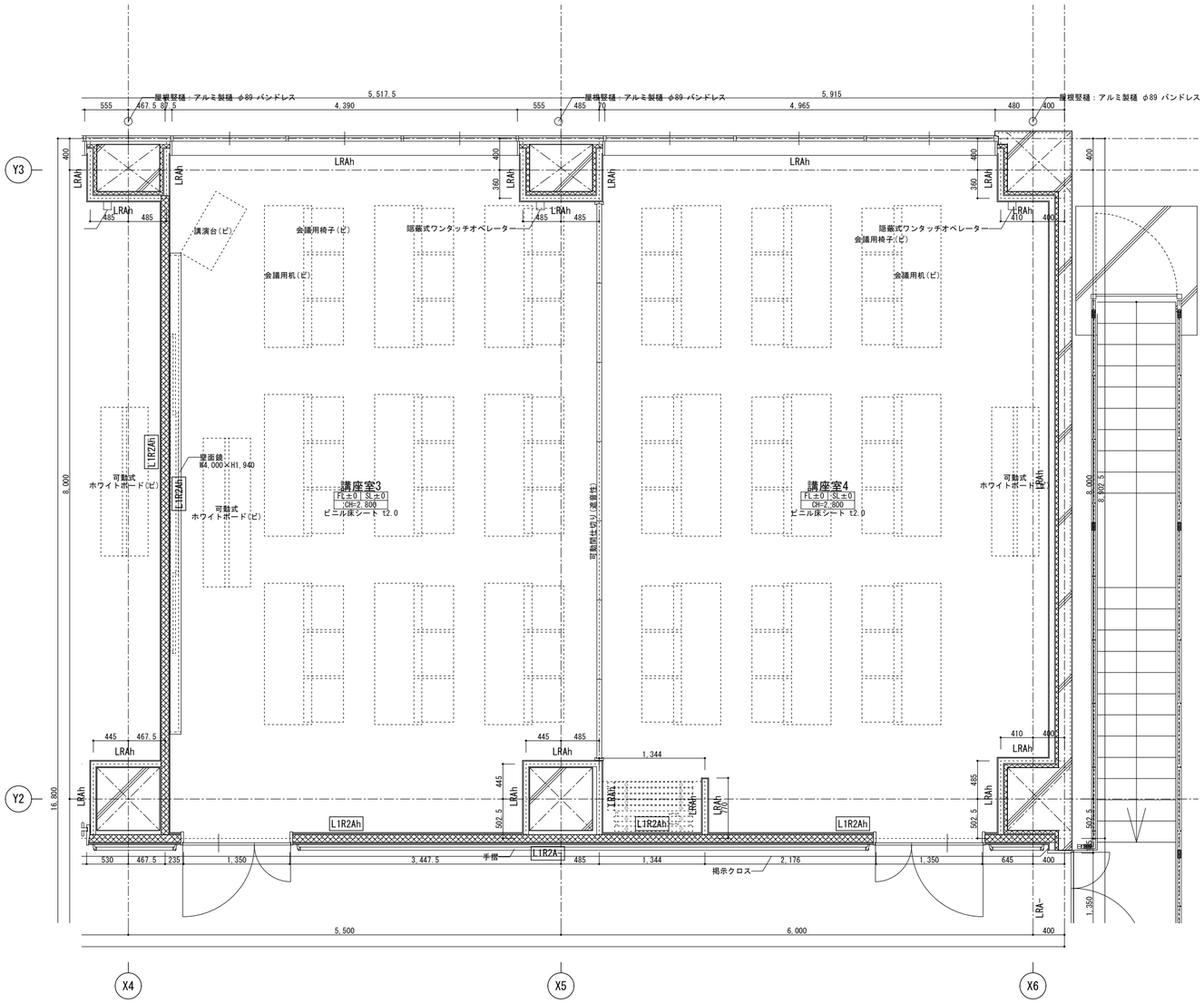
訂正	月 日	事項

株式会社ユニバァサル設計
UNIVERSAL DESIGN OFFICE INC.

事務所登録	東京本部一級建築士事務所 一級建築士事務所 東京都知事知事登録 第22736号		
設計者	一級建築士 登録第362390号 星野 康二	法適合確認結果等	

工事名称	仮称芳野市民センター新築工事	図面名称	平面詳細図(2)
作成	2025 年 2 月 17 日	承認	
縮尺	A2:1/50 A3:1/70	図面No.	11-02
部長	課長	担当	製図
設計No.			


Y3
Y2
Y1
X1
X2
X3
X4
2,000
400
630
4,815
555
555
12,885
4,890
555
485
70
6,482.5
5,390
555
467.5
87.5
715
400
8,000
8,802.5
16,800
502.5
100
LRAh
360
485
会議用椅子(ビ)
会議用机(ビ)
隠蔽式ワンタッチオペレーター
ホワイトボード
W3,600×H1,200
上部：スクリーン
講座室1
FL±0 SL±0
CH=2,800
ビニル床シート t2.0
講座室2
可動間仕切り(遮音性)
可動式
ホワイトボード(ビ)
L1R2Ah
壁面鏡
庇
2,800
Lhhh
EPS
重量
防塵塗装
L1hhh
L1hhh
L1hhh
L1hhh
L1hhh
L1hhh
L1R2Ah
L1R2A=
L1hhh
L1R2Ah
L1R2Ah
L1R2Ah



壁符号

文字囲い表記は下地・仕上をスラブまで施工。

L R B h

構造材 / 下地材 / 壁補強 / 仕上材

構造材

記号	構造	厚さ
L	LGS	65
L1	LGS	100

下地材

記号	構成	
R	GB-R t12.5	
R2	GB-R t12.5	GB-R t12.5
R2'	GB-R t9.5(下張)	GB-R t12.5(上張)
S	GB-S t12.5	
T	GB-R t12.5	ケイカル板 t6.0

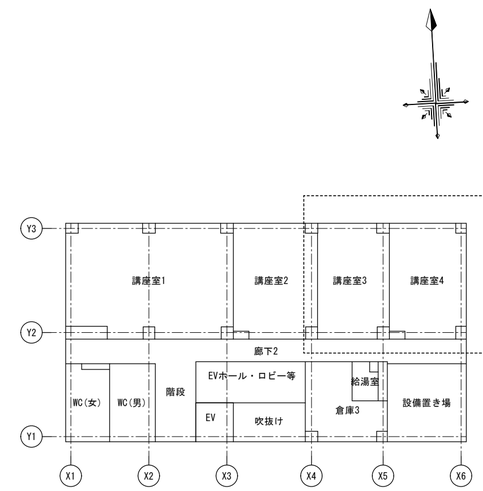
仕上材

記号	構成
A	壁紙、張物
B	塗装、吹付
C	化粧ケイカル板 t6.0

壁補強

記号	構成
h	FL+900までのGB-R t12.5をGB-R-H t12.5とする ※GB-R 2枚張りの場合は上張り部をGB-R-Hとする
	GW 24K充填

※掲示クロス下地は合板を上張りすること



2階平面詳細図キープラン

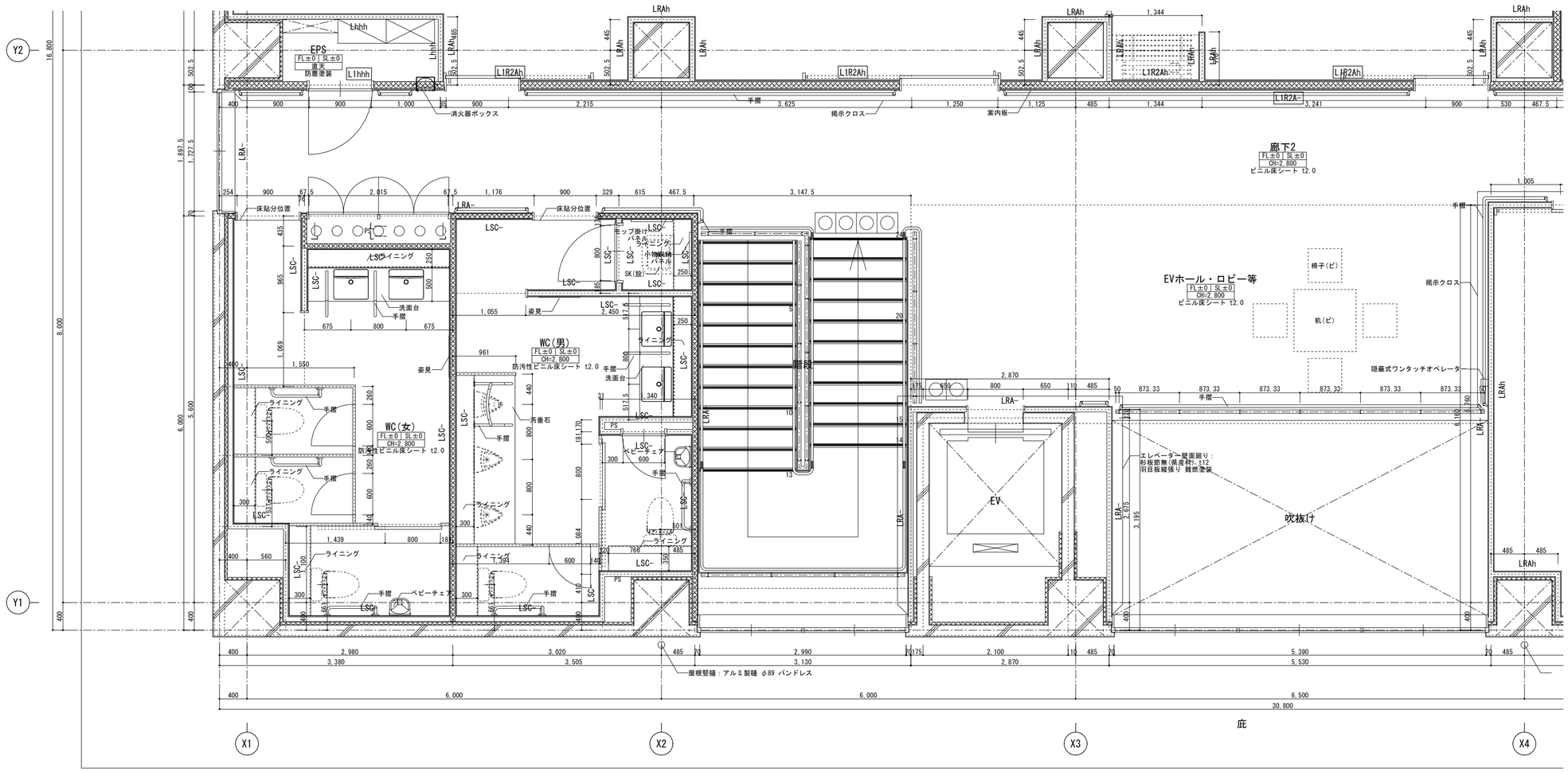
訂正	月 日	事項			
	. .		. .		
	. .		. .		
	. .		. .		

株式会社ユニバァサル設計
UNIVERSAL DESIGN OFFICE INC.

事務所登録	東京本部一級建築士事務所 一級建築士事務所 東京都知事知事登録 第22736号		
設計者	一級建築士 登録第362390号 星野 康二	法適合確認結果等	

工事名称	仮称芳野市民センター新築工事	図面名称	平面詳細図(4)
作成	2025 年 2 月 17 日	承認	
部長	課長	担当	製図

縮尺	A2:1/50 A3:1/70	図面No.	11-04
設計No.			



壁符号	文字囲い表記は下地・仕上をスラブまで施工。 L R B h　構造材／下地材／仕上材／壁補強

構造材		
記号	構造	厚さ
L	LGS	65
L1	LGS	100

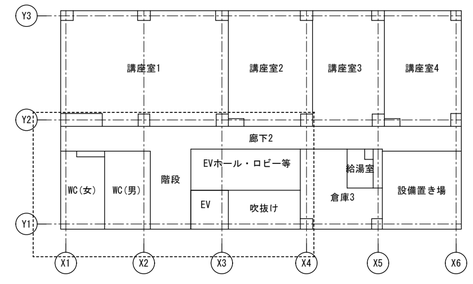
下地材		
記号	構成	
R	GB-R t12.5	
R2	GB-R t12.5	GB-R t12.5
R2'	GB-R t9.5(下張)	GB-R t12.5(上張)
S	GB-S t12.5	
T	GB-R t12.5	ケイカル板 t6.0

仕上材	
記号	構成
A	壁紙、張物
B	塗装、吹付
C	化粧ケイカル板 t6.0

壁補強	
記号	構成
h	FL+900までのGB-R t12.5をGB-R-H t12.5とする ※GB-R 2枚張りの場合は上張り部をGB-R-Hとする

GW 24K充填

※掲示クロス下地は合板を上張りすること



2階平面詳細図キープラン

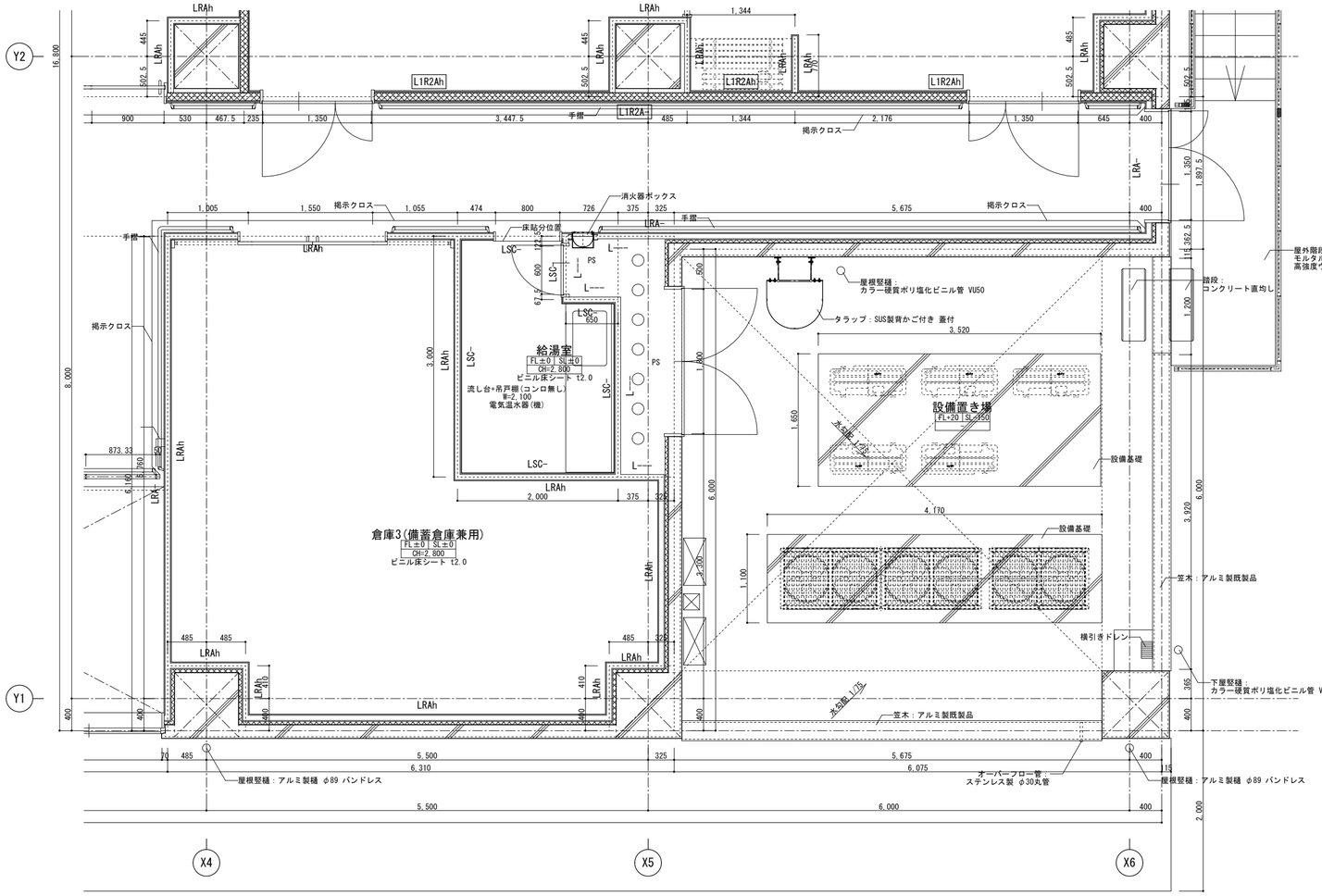
訂正	月 日	事項		

株式会社ユニバァサル設計
UNIVERSAL DESIGN OFFICE INC.

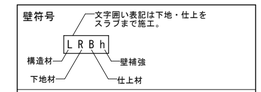
事務所登録	東京本部一級建築士事務所 一級建築士事務所 東京都知事知事登録 第22736号		
設計者	一級建築士　登録第362390号　星野　康二	法適合確認結果等	

工事名称	仮称芳野市民センター新築工事		
作成	2025 年 2 月 17 日	承認	

図面名称	平面詳細図(5)	縮尺	A2:1/50 A3:1/70	図面No.	11-05
部長	課長	担当	製図	設計No.	



壁符号



構造材

記号	構造	厚さ
L	LGS	65
L1	LGS	100

下地材

記号	構成	
R	GB-R t12.5	
R2	GB-R t12.5	GB-R t12.5
R2'	GB-R t9.5(下張)	GB-R t12.5(上張)
S	GB-S t12.5	
T	GB-R t12.5	ケイカル板 t6.0

仕上材

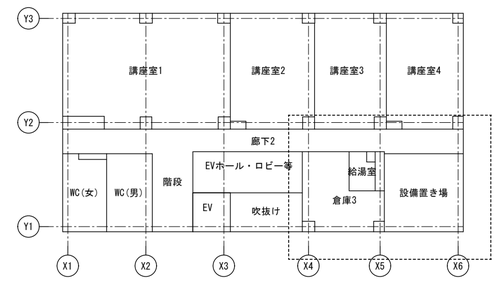
記号	構成
A	壁紙、張物
B	塗装、吹付
C	化粧ケイカル板 t6.0

壁補強

記号	構成
h	FL+900までのGB-R t12.5をGB-R-H t12.5とする ※GB-R 2枚張りの場合は上張り部をGB-R-Hとする

GW 24K充填

※掲示クロス下地は合板を上張りすること



2階平面詳細図キープラン

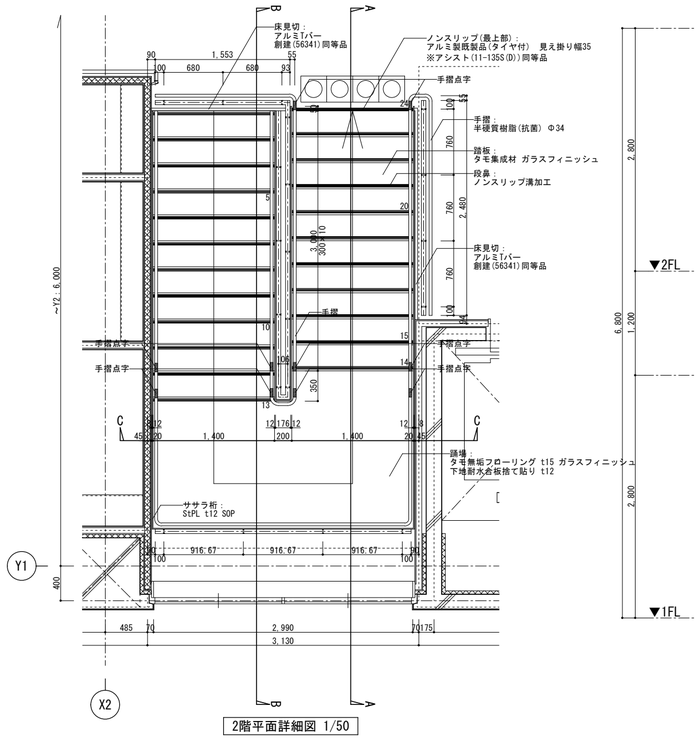
訂正	月 日	事項		
	. .		.	
	. .		.	
	. .		.	

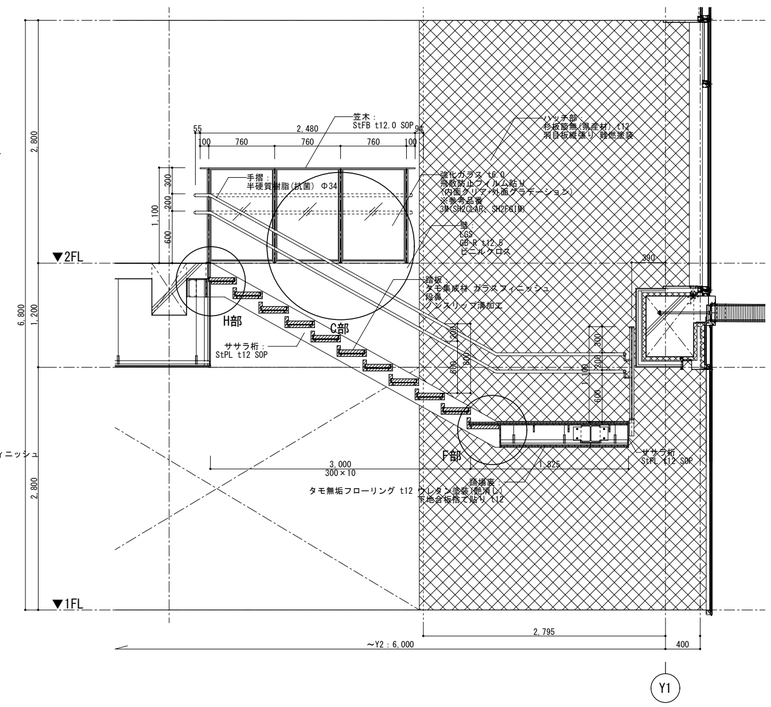
株式会社ユニバァサル設計
UNIVERSAL DESIGN OFFICE INC.

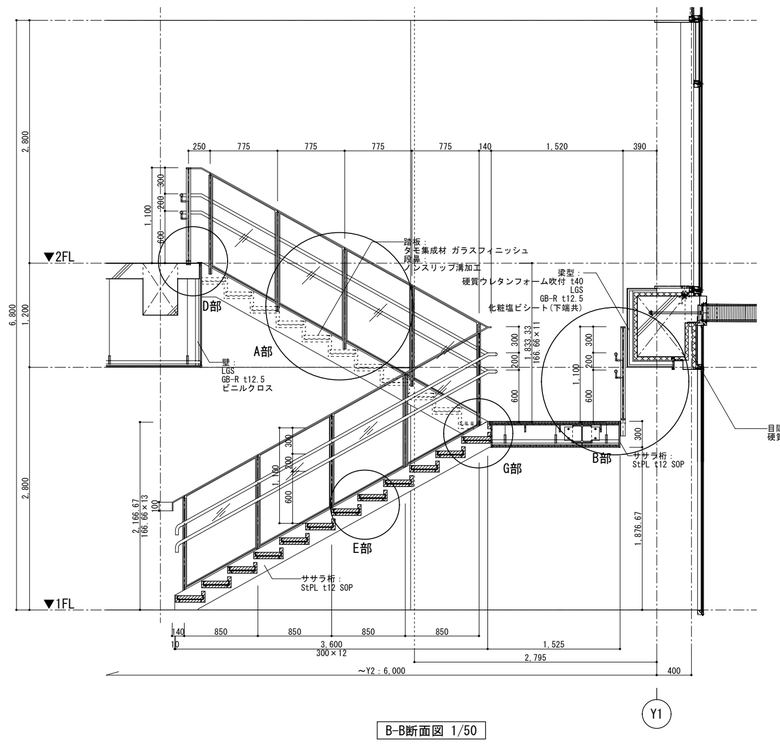
事務所登録	東京本部一級建築士事務所 一級建築士事務所 東京都知事知事登録 第22736号		
設計者	一級建築士 登録第362390号 星野 康二	法適合確認結果等	

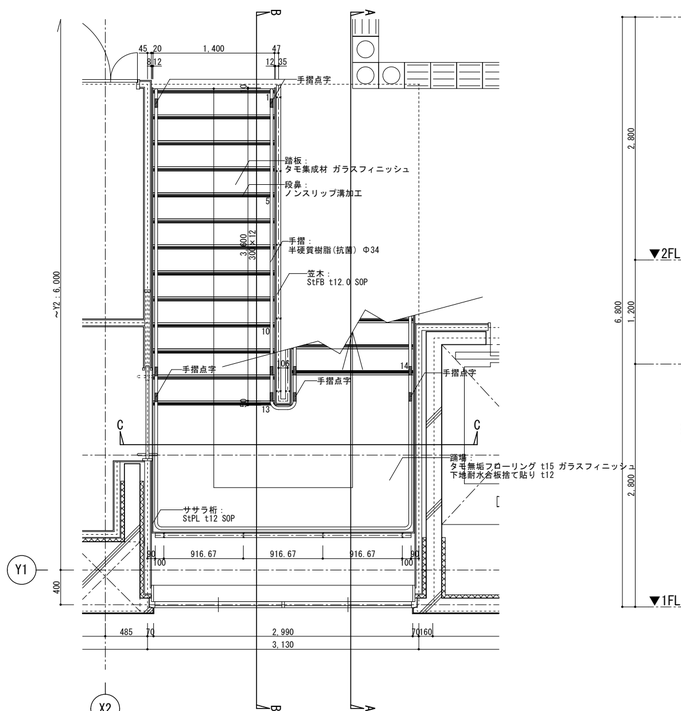
工事名称	仮称芳野市民センター新築工事	図面名称	平面詳細図(6)
作成	2025 年 2 月 17 日	承認	
部長	課長	担当	製図

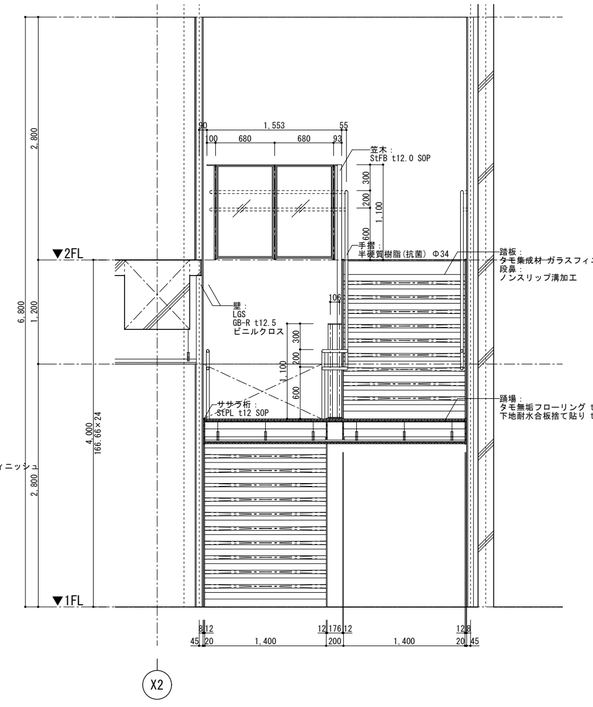
縮尺	A2:1/50 A3:1/70	図面No. 11-06
設計No.		

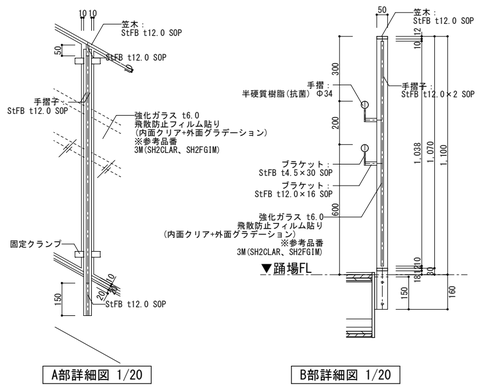


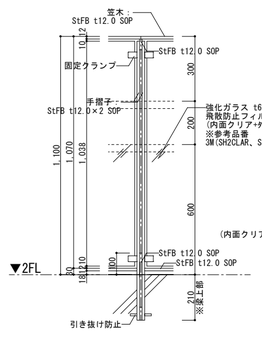


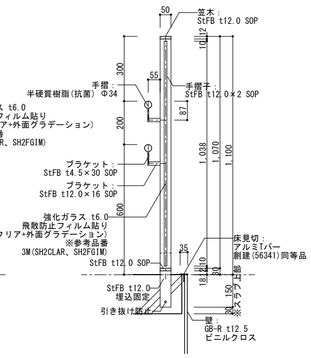


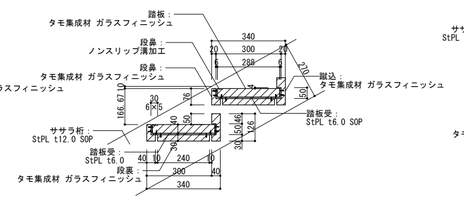


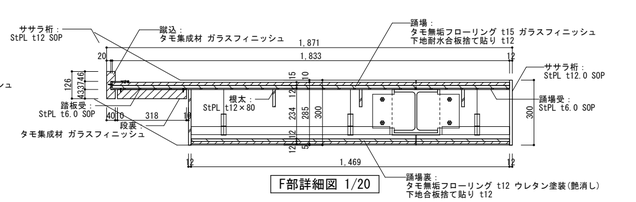


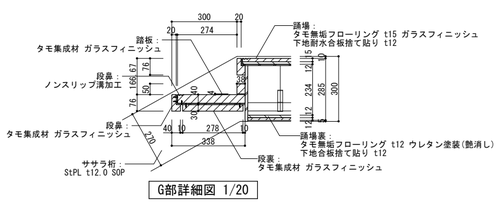


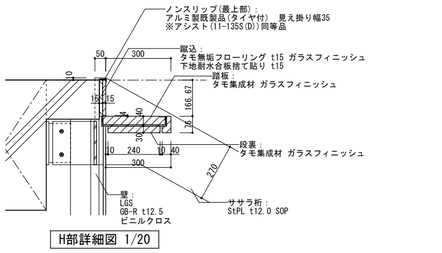












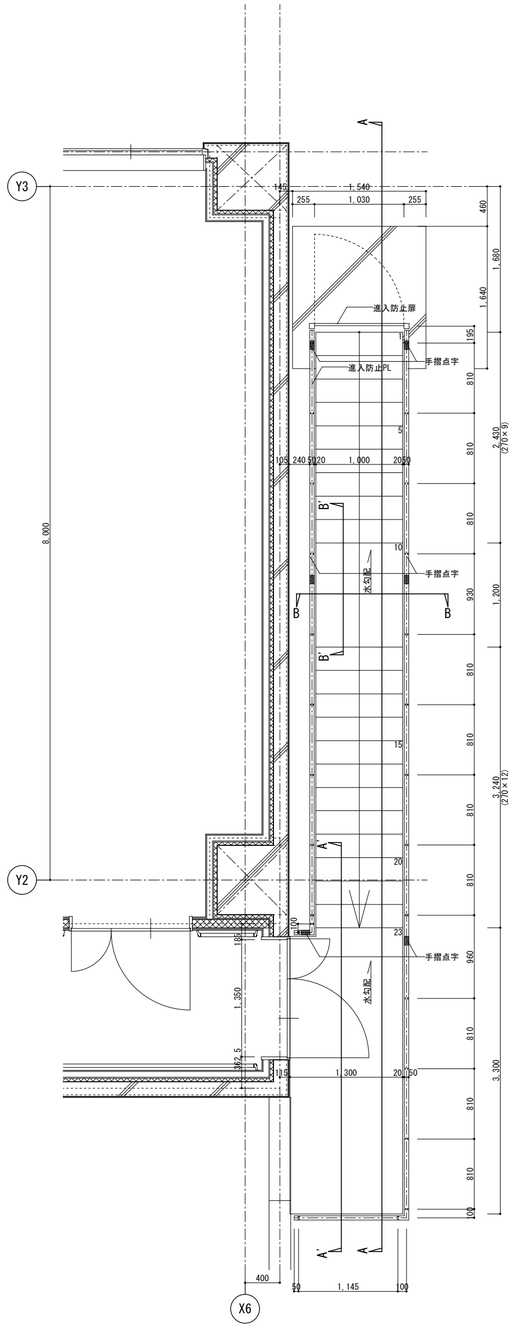
訂	月　日	事　項		
正				

株式会社ユニバァサル設計
UNIVERSAL DESIGN OFFICE INC.

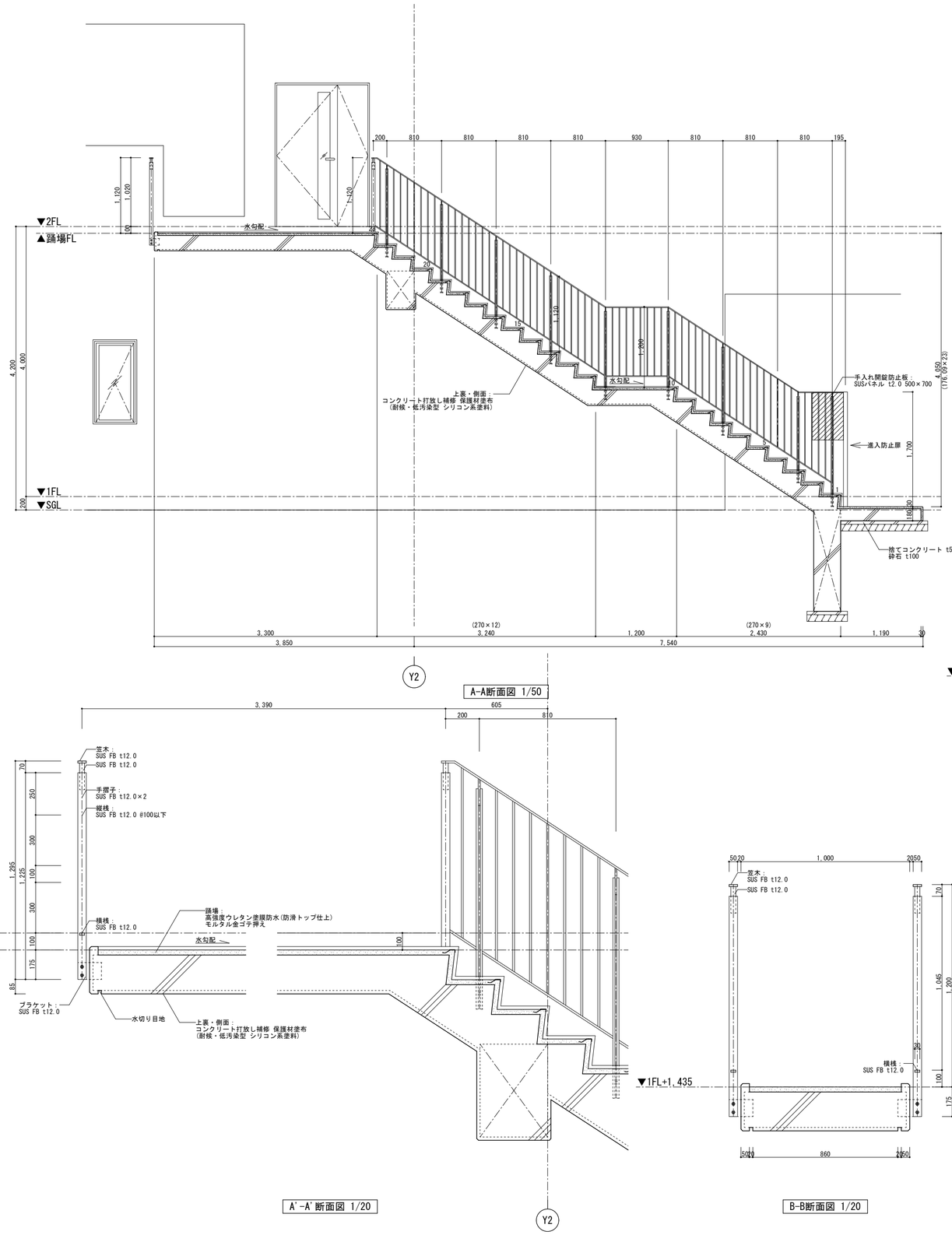
事務所登録	東京本部一級建築士事務所 一級建築士事務所 東京都知事登録 第22736号		
設計者	一級建築士　登録第362390号　星野　康二	法適合確認結果等	

工事名称：仮称芳野市民センター新築工事
作成：2025 年 2 月 17 日
承認：
部長　課長　担当　製図

図面名称：屋内階段詳細図
縮尺：A2:図示 A3:図示
設計No.
図面No.：11-07 確15

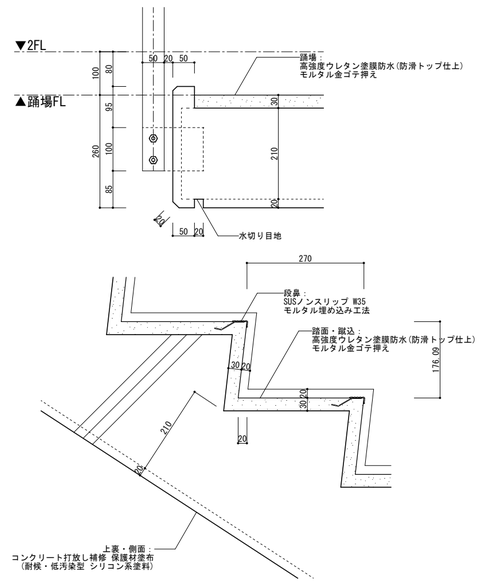


平面詳細図 1/50

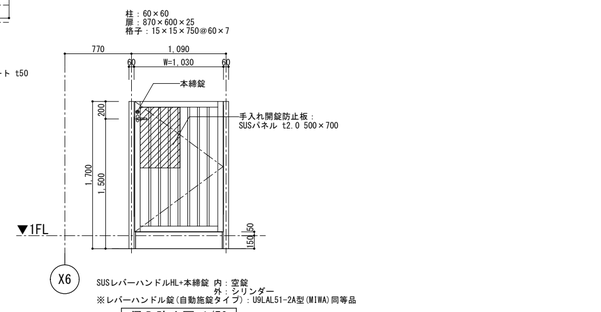


A-A断面図 1/50

A'-A'断面図 1/20



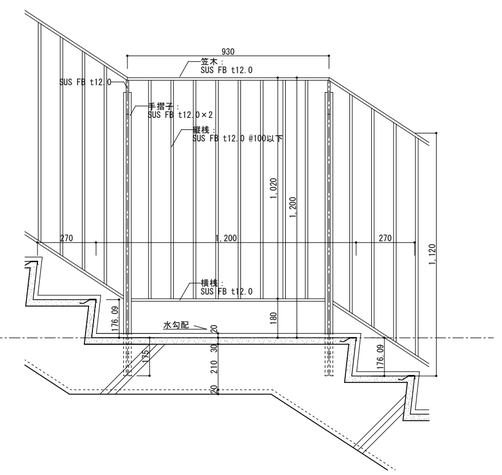
部分詳細図 1/10



SUSレバーハンドルHL+本締錠 内：空錠
外：シリンダー
※レバーハンドル錠(自動施錠タイプ)：U9LAL51-2A型(MIWA)同等品

侵入防止扉 1/50

B-B断面図 1/20



B'-B'断面図 1/20

※消防通路となる侵入防止門扉、階段、踊り場幅は有効幅1m以上を必ず確保すること。

訂正	月 日	事項		
	. .		.	
	. .		.	
	. .		.	

株式会社ユニバァサル設計
UNIVERSAL DESIGN OFFICE INC.

事務所登録	東京本部一級建築士事務所 一級建築士事務所 東京都知事知事登録 第22736号		
設計者	一級建築士 登録第362390号 屋野 康二	法適合確認結果等	

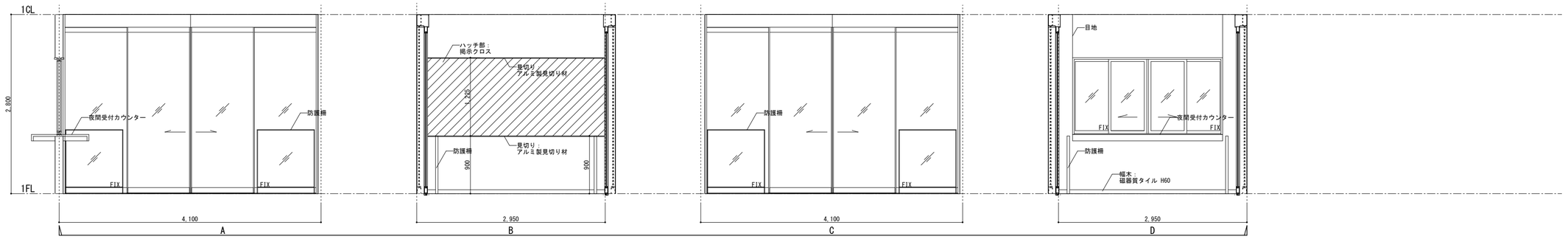
工事名称	仮称芳野市民センター新築工事	図面名称	屋外階段詳細図
作成	2025 年 2 月 17 日	承認	
部長	課長	担当	製図

縮尺 A2:図示 A3:図示

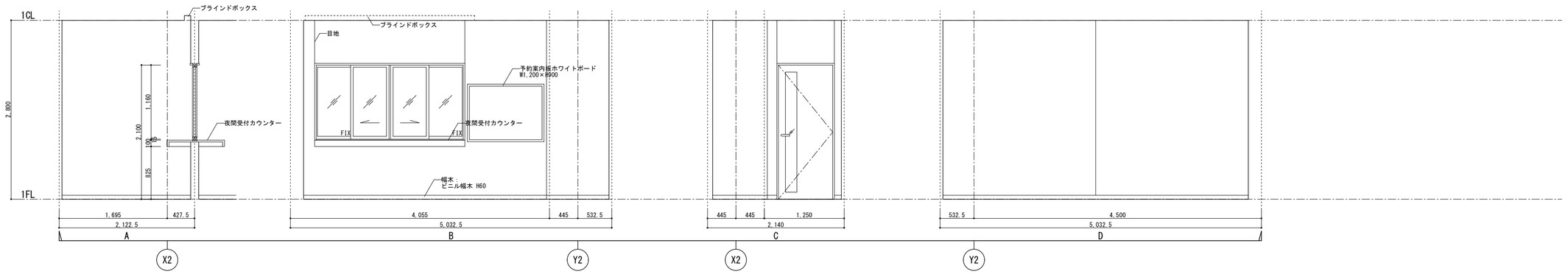
図面No. 11-08 確16

設計No.

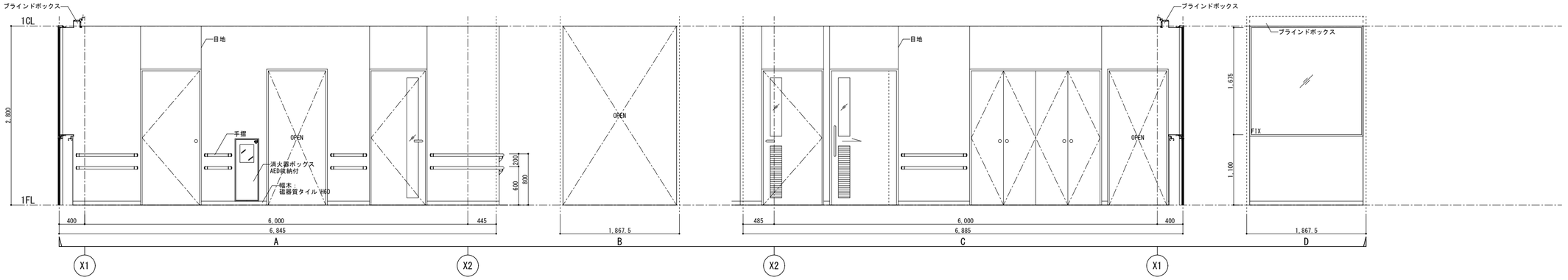
室名	風除室
天井仕上	DR t9.0
廻縁	塩ビ
壁仕上	ビニルクロス 掲示クロス
幅木	磁器質タイル
床仕上	防滑性磁器質タイル 300角 点状ブロック
備考	防護棚、ピクチャーレール



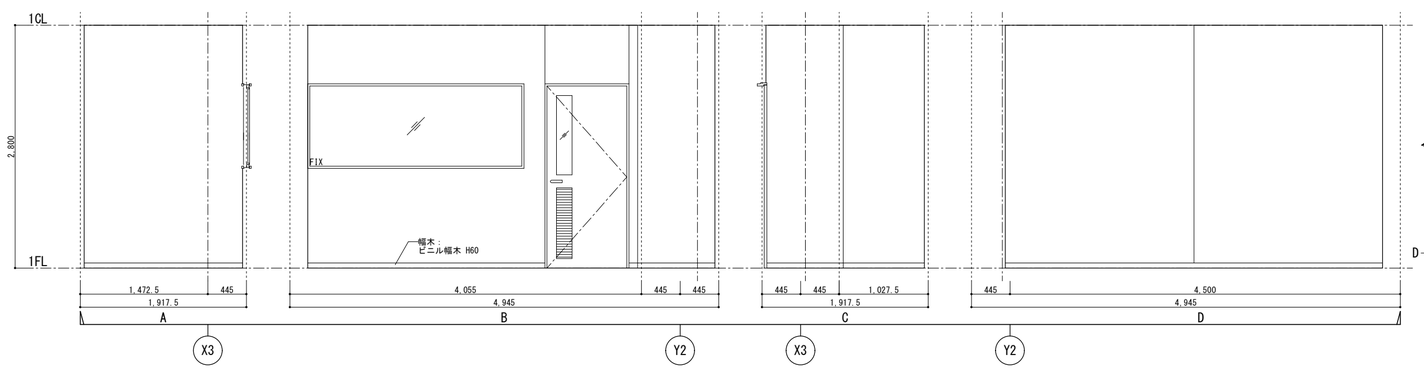
室名	夜間受付
天井仕上	DR t9.0
廻縁	塩ビ
壁仕上	ビニルクロス(不燃)
幅木	ビニル幅木
床仕上	ビニル床シート t2.0 ノンワックスタイプ
備考	予約案内板ホワイトボード ロールカーテン：遮光 W2,350×H1,900程度 1ヵ所 外線通話可能な内線電話(電)

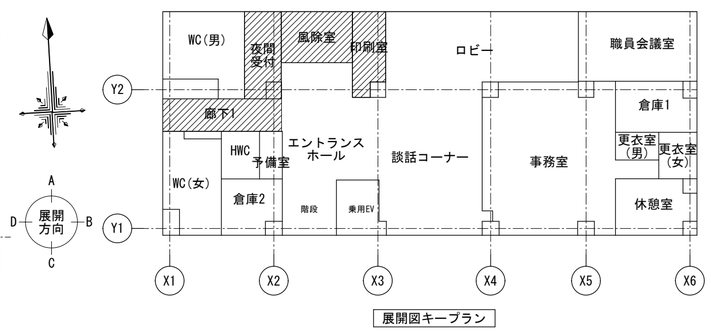


室名	廊下1
天井仕上	DR t9.0
廻縁	塩ビ
壁仕上	ビニルクロス
幅木	ビニル幅木
床仕上	ビニル床シート t2.0 ノンワックスタイプ
備考	手摺、ピクチャーレール、 ロールカーテン：遮光 W1,700×H1,700程度 1ヵ所



室名	印刷室
天井仕上	GB-D t9.5
廻縁	塩ビ
壁仕上	ビニルクロス
幅木	ビニル幅木
床仕上	ビニル床シート t2.0 ノンワックスタイプ
備考	





展開図キープラン

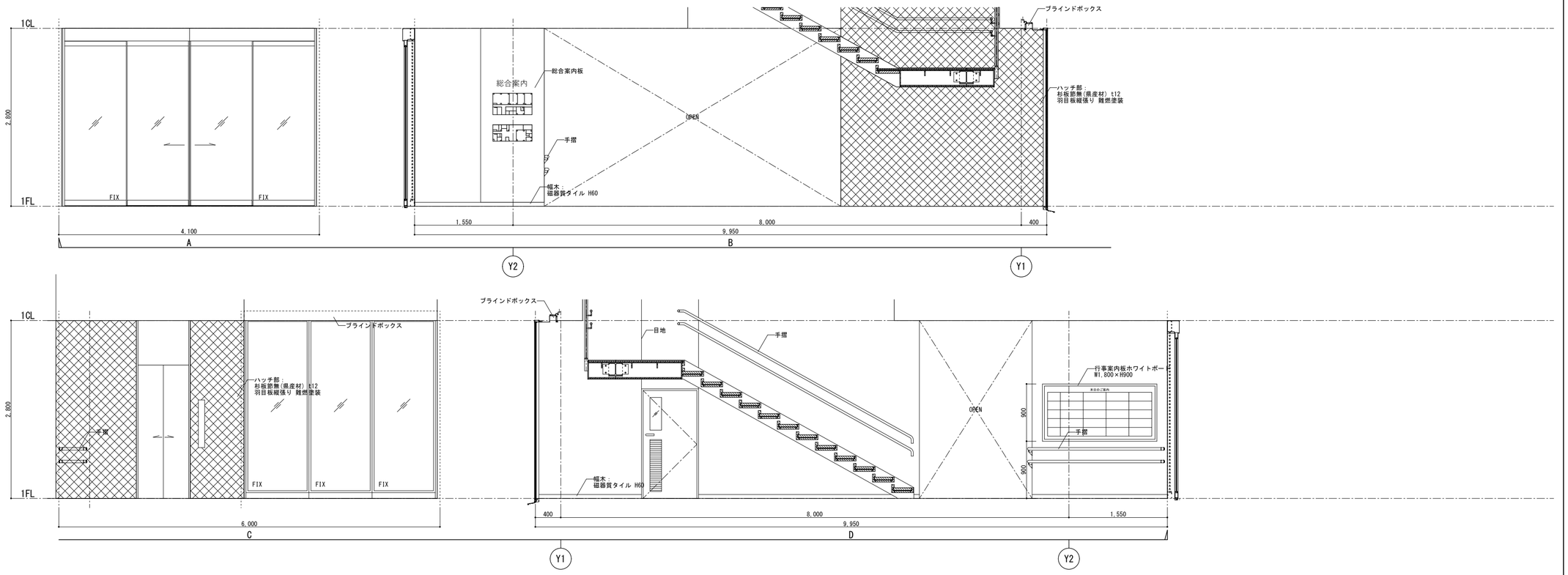
訂 正	月 日	事 項		

株式会社ユニバァサル設計
UNIVERSAL DESIGN OFFICE INC.

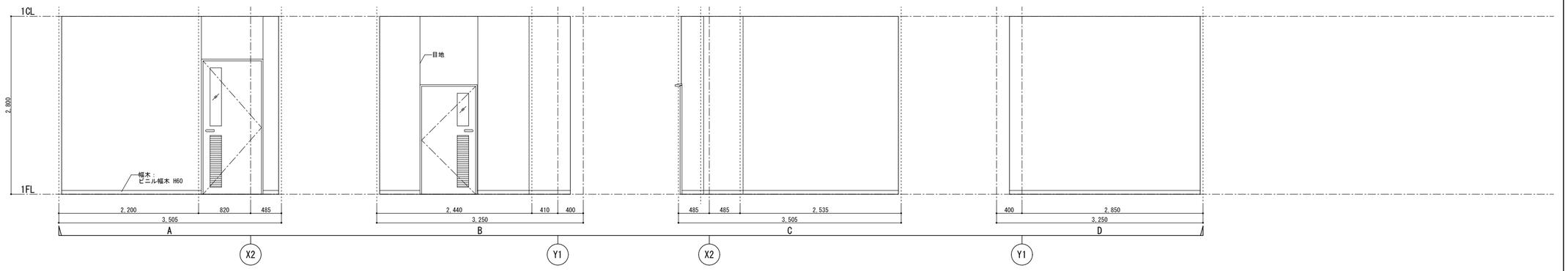
事務所登録	東京本部一級建築士事務所 一級建築士事務所 東京都知事知事登録 第22736号		
設計者	一級建築士 登録第362390号 星野 康二	法適合確認結果等	

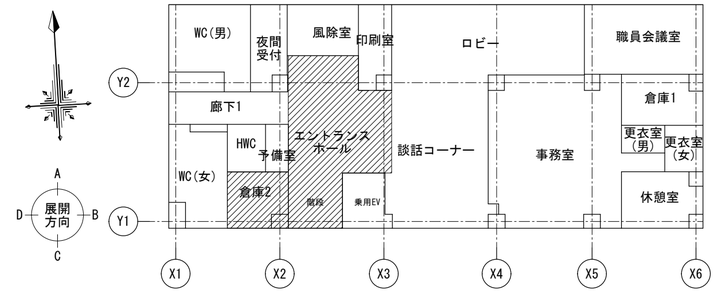
工事名称	仮称芳野市民センター新築工事	図面名称	展開図(1)	縮尺	A2:1/50 A3:1/70	図面No.	12-01
作成	2025 年 2 月 17 日	承認		部長 課長 担当 製図		設計No.	

室名	エントランスホール
天井仕上	DR t9.0
廻縁	塩ビ
壁仕上	ビニルクロス EV廻り：杉板節無(県産材) t12 羽目板縦張り 難燃塗装 梁型：化粧塩ビシート
幅木	磁器質タイル
床仕上	防滑性磁器質タイル 300角 点状ブロック
備考	行事用案内板ホワイトボード、手摺、総合案内板、 ピクチャーレール ロールカーテン：遮光 W3,000×H2,800程度 1ヵ所(階段裏窓)



室名	倉庫2
天井仕上	GB-D t9.5
廻縁	塩ビ
壁仕上	ビニルクロス
幅木	ビニル幅木
床仕上	ビニル床シート t2.0 ノンフタクスタイプ
備考	床下点検口(防水・防臭)





展開図キープラン

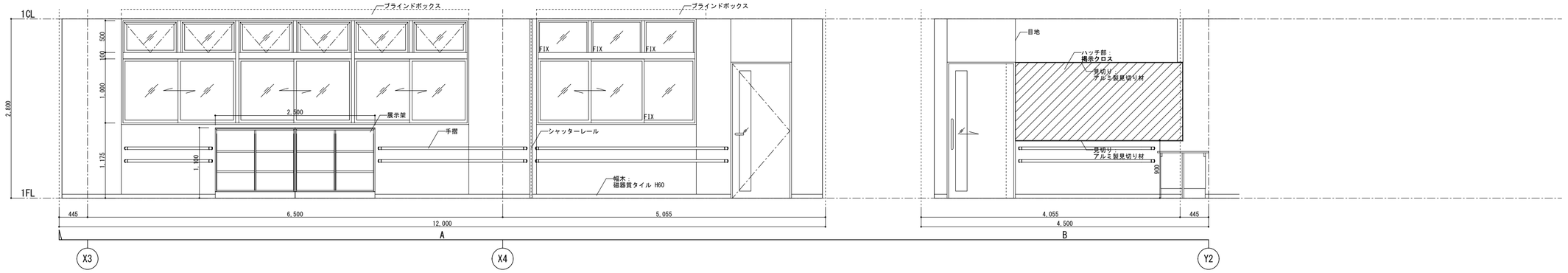
訂正	月 日	事項		

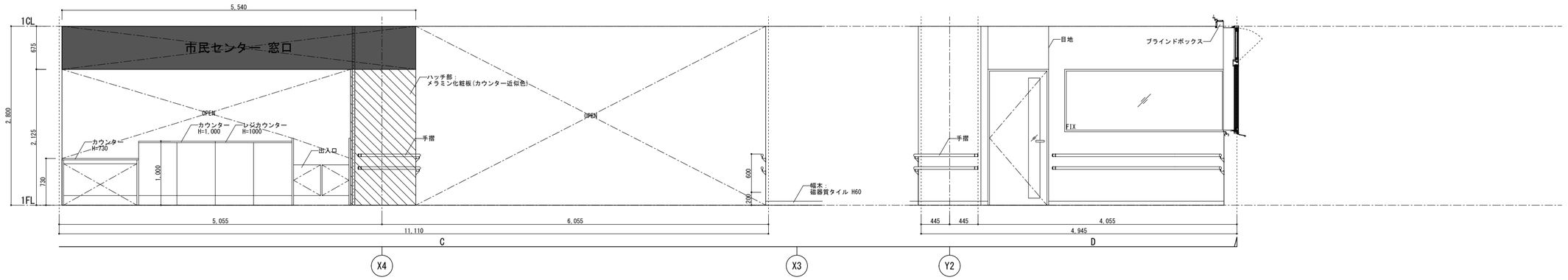
株式会社ユニバァサル設計
UNIVERSAL DESIGN OFFICE INC.

事務所登録	東京本部一級建築士事務所 一級建築士事務所 東京都知事登録 第22736号		
設計者	一級建築士 登録第362390号 屋野 康二	法適合確認結果等	

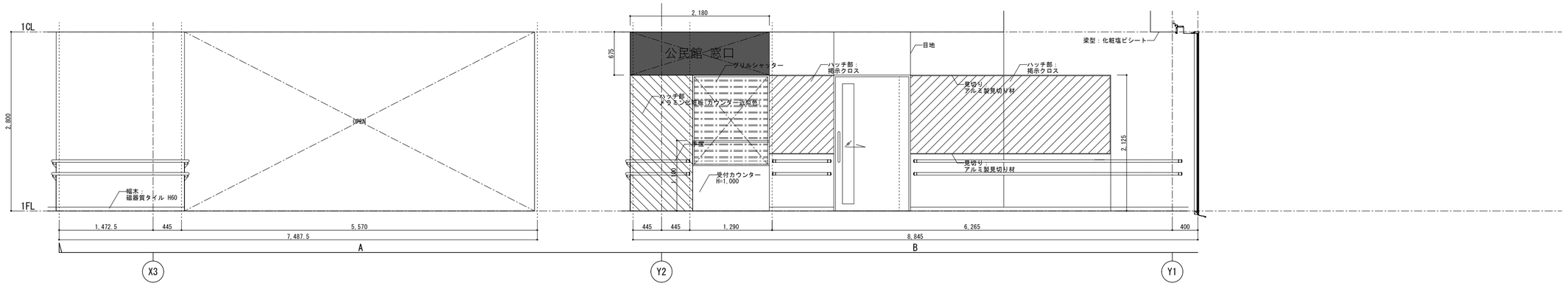
工事名称	仮称芳野市民センター新築工事	図面名称	展開図(2)	縮尺	A2:1/50 A3:1/70	図面No.	12-02
作成	2025 年 2 月 17 日	承認		部長 課長 担当 製図		設計No.	

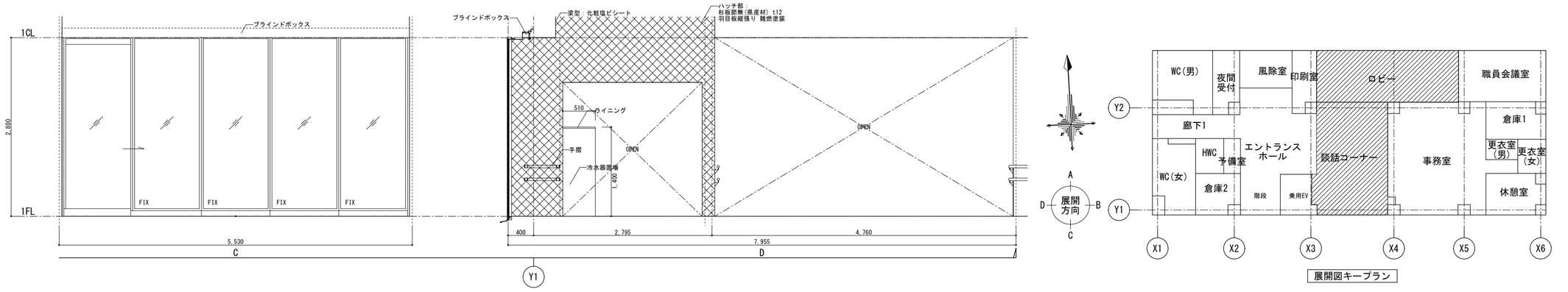
室名	ロビー
天井仕上	DR t9.0
廻縁	塩ビ
壁仕上	ビニルクロス 掲示クロス 一部柱型：メラミン化粧板 t3.0
幅木	磁器質タイル
床仕上	防滑性磁器質タイル 300角
備考	手摺、展示架、ピクチャーレール、 ロールカーテン：遮光 W1,800×H1,600程度 3ヵ所、 遮光 W2,500×H1,600程度 1ヵ所





室名	談話コーナー
天井仕上	DR t9.0(黒) 杉(節無) 150×30 不燃塗装
廻縁	塩ビ
壁仕上	ビニルクロス 掲示クロス 梁型：化粧塩ビシート 一部柱型：メラミン化粧板 t3.0
幅木	磁器質タイル
床仕上	防滑性磁器質タイル 300角
備考	手摺、ピクチャーレール ロールカーテン：遮光 W1,800×H2,800程度 3ヵ所





展開図キープラン

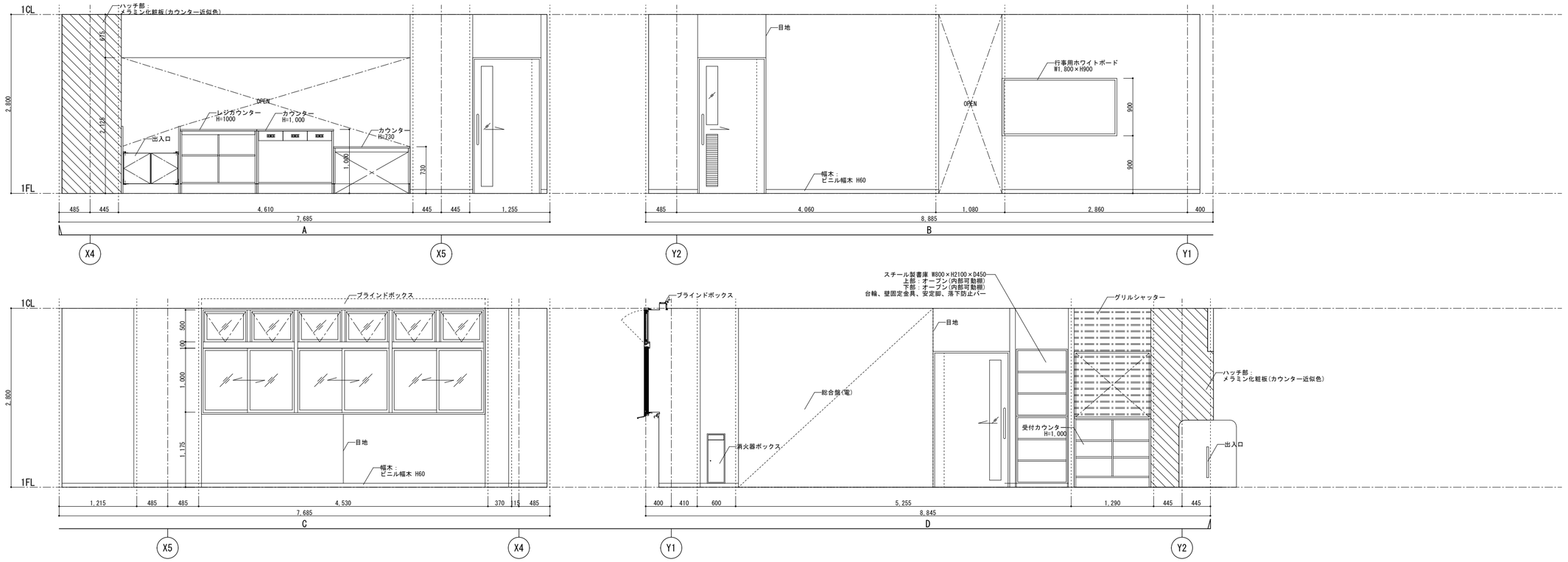
訂正	月 日	事 項		

株式会社ユニバァサル設計
UNIVERSAL DESIGN OFFICE INC.

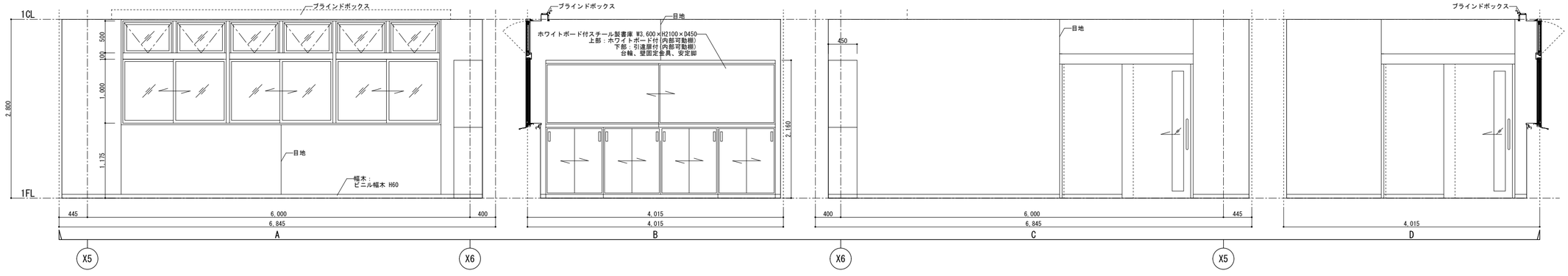
事務所登録	東京本部一級建築士事務所 一級建築士事務所 東京都知事登録 第22736号		
設計者	一級建築士 登録第362390号 星野 康二	法適合確認結果等	

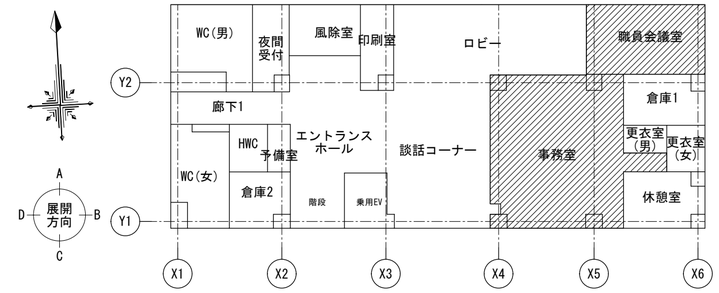
工事名称	仮称芳野市民センター新築工事	図面名称	展開図(3)
作成	2025 年 2 月 17 日	承認	
縮尺	A2:1/50 A3:1/70	図面No.	12-03
部長	課長	担当	製図
設計No.			

室名	事務室
天井仕上	DR t9.0
廻縁	塩ビ
壁仕上	ビニルクロス 一部柱型：メラミン化粧板 t3.0
幅木	ビニル幅木
床仕上	タイルカーペット t6.5
備考	市民センター受付カウンター、公民館受付カウンター、 行事用ホワイトボード ロールカーテン：遮光 W2,200×H1,600程度 2ヵ所 遮光 W1,200×H1,700程度 1ヵ所 電話(電)、各種集中制御盤(電)、インターホン(電)



室名	職員会議室
天井仕上	DR t9.0
廻縁	塩ビ
壁仕上	ビニルクロス
幅木	ビニル幅木
床仕上	タイルカーペット t6.5
備考	ホワイトボード付書庫、 ロールカーテン：遮光 W1,650×H1,600程度 3ヵ所





展開図キープラン

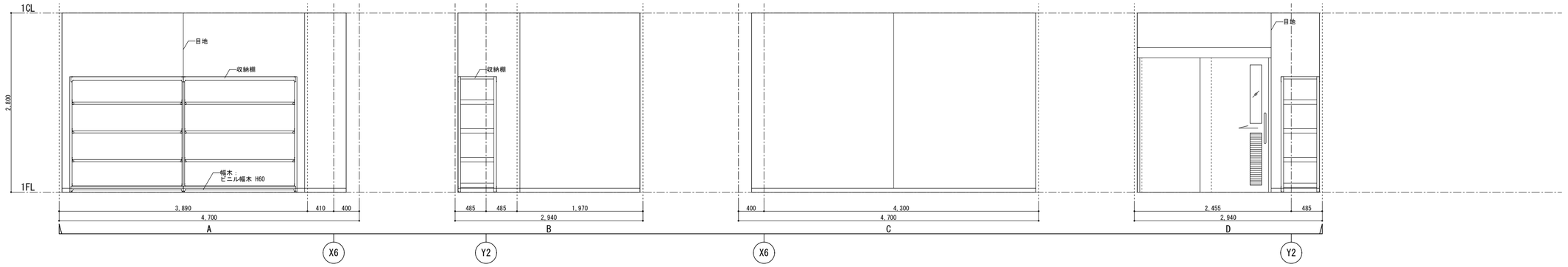
訂	月　日	事　　項		
正	. .		.	
	. .		.	

株式会社ユニバァサル設計
UNIVERSAL DESIGN OFFICE INC.

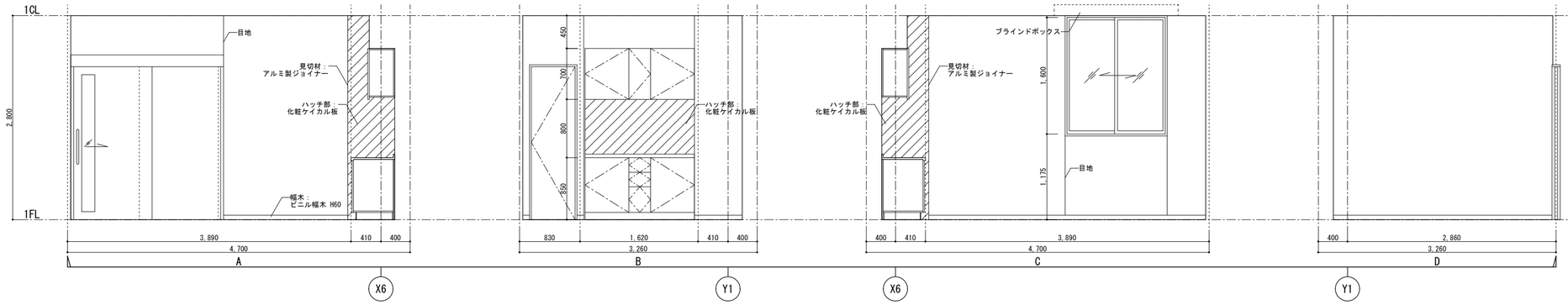
事務所登録	東京本部一級建築士事務所 一級建築士事務所 東京都知事登録 第22736号		
設計者	一級建築士　登録第362390号　星野　康二	法適合確認結果等	

工事名称	仮称芳野市民センター新築工事	図面名称	展開図(4)	縮尺	A2:1/50 A3:1/70	図面No.	12-04
作成	2025 年 2 月 17 日	承認		部長	課長	担当	製図	設計No.	

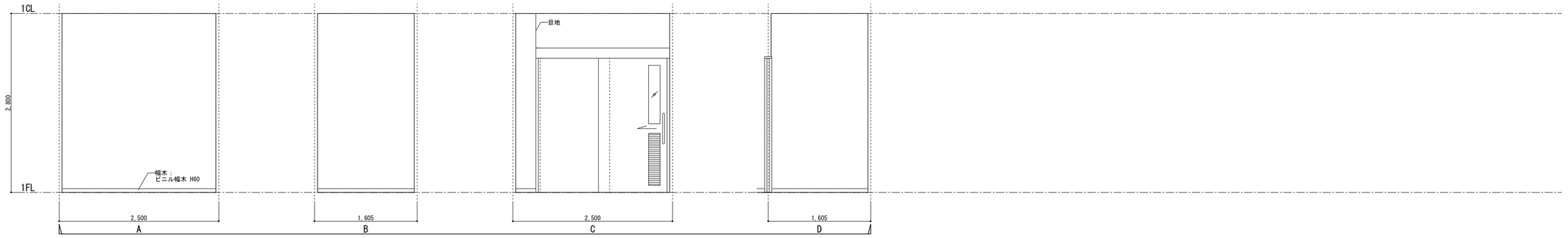
室名	倉庫1
天井仕上	GB-D t9.5
廻縁	塩ビ
壁仕上	ビニルクロス
幅木	ビニル幅木
床仕上	ビニル床シート t2.0 ノンワックスタイプ
備考	収納棚



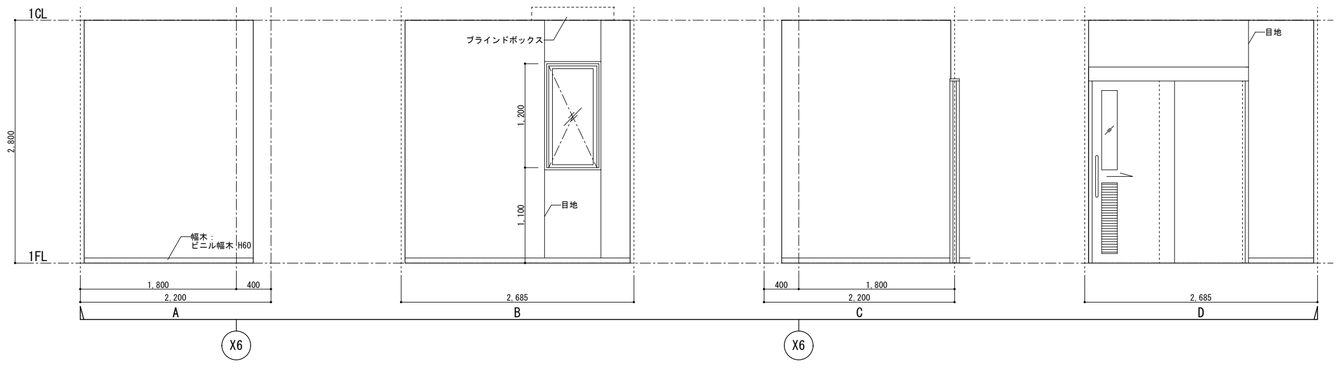
室名	休憩室
天井仕上	DR t9.0
廻縁	塩ビ
壁仕上	ビニルクロス 一部化粧ケイカル板 t6.0
幅木	ビニル幅木
床仕上	ビニル床シート t2.0 ノンワックスタイプ
備考	床下点検口(防水・防臭)、 ロールカーテン：遮光 W1,350×H1,600程度 1ヵ所

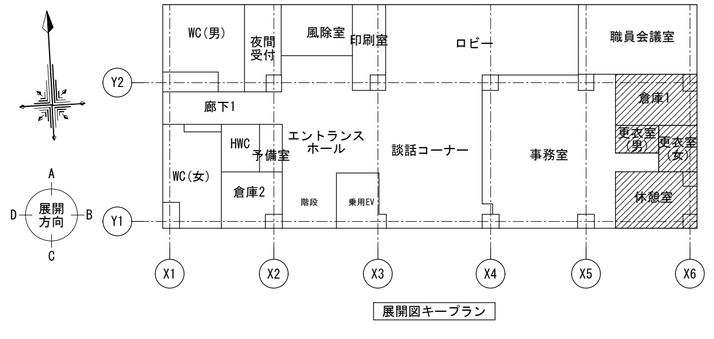


室名	更衣室(男)
天井仕上	DR t9.0
廻縁	塩ビ
壁仕上	ビニルクロス
幅木	ビニル幅木
床仕上	タイルカーペット t6.5
備考	カーテンレール



室名	更衣室(女)
天井仕上	DR t9.0
廻縁	塩ビ
壁仕上	ビニルクロス
幅木	ビニル幅木
床仕上	タイルカーペット t6.5
備考	カーテンレール、 ロールカーテン：遮光 W600×H1,200程度 1ヵ所





展開図キープラン

訂	月 日	事 項		
正	. .		.	
	. .		.	
	. .		.	

株式会社ユニバァサル設計
UNIVERSAL DESIGN OFFICE INC.

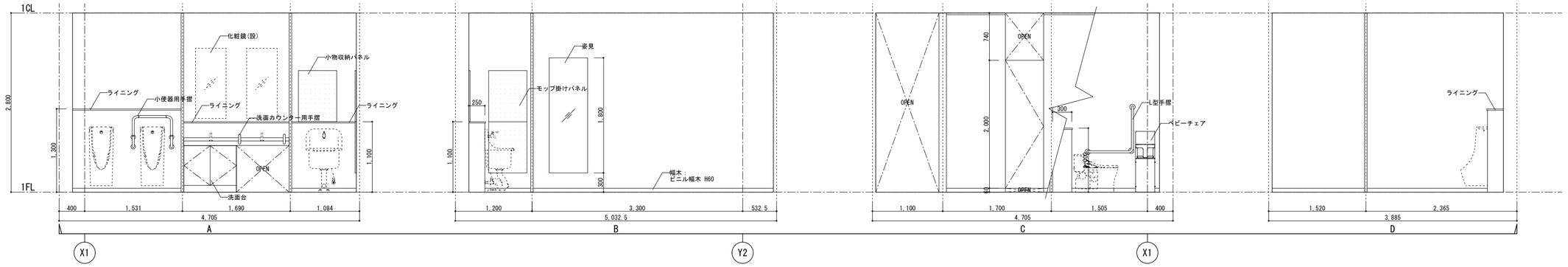
事務所登録	東京本部一級建築士事務所 一級建築士事務所 東京都知事登録 第22736号		
設計者	一級建築士 登録第362390号 星野 康二	法適合確認結果等	

工事名称	仮称芳野市民センター新築工事	図面名称	展開図(5)	縮尺	A2:1/50 A3:1/70	図面No.	12-05
作成	2025 年 2 月 17 日	承認		部長 課長 担当 製図		設計No.	

室名	WC（男）
天井仕上	DR t9.0
廻縁	塩ビ
壁仕上	化粧ケイカル板 t6.0 下部・出隅部アルミアングル補強
幅木	ビニル幅木
床仕上	防汚性ビニル床シート t2.0 ノンワックスタイプ
備考	トイレブース、ライニング、洗面台、手摺、 姿見(600×1,800)、ベビーチェア、汚垂石 大便器(設)、小便器(設)、紙巻器(設)、化粧鏡(設)

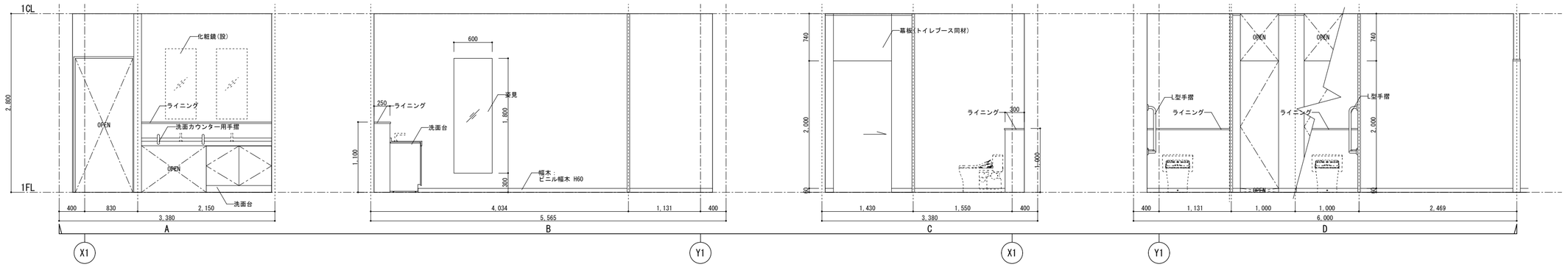
室名	SK
天井仕上	DR t9.0
廻縁	塩ビ
壁仕上	化粧ケイカル板 t6.0 下部・出隅部アルミアングル補強
幅木	ビニル幅木
床仕上	防汚性ビニル床シート t2.0 ノンワックスタイプ
備考	モップ掛けパネル、小物収納パネル SK(設)

※手摺、化粧鏡、姿見、紙巻器、モップかけ、モップパネル、将来用ハンドドライヤー、ベビーチェア等は下地補強を施すこと



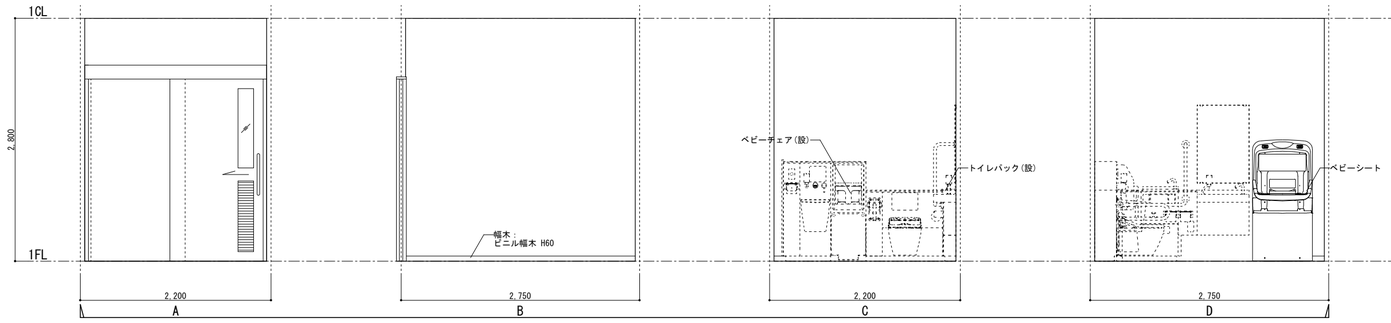
室名	WC（女）
天井仕上	DR t9.0
廻縁	塩ビ
壁仕上	化粧ケイカル板 t6.0 下部・出隅部アルミアングル補強
幅木	ビニル幅木
床仕上	防汚性ビニル床シート t2.0 ノンワックスタイプ
備考	トイレブース、ライニング、洗面台、手摺、 姿見(600×1,800)、ベビーチェア 大便器(設)、紙巻器(設)、化粧鏡(設)

※手摺、化粧鏡、姿見、紙巻器、将来用ハンドドライヤー、ベビーチェア等は下地補強を施すこと

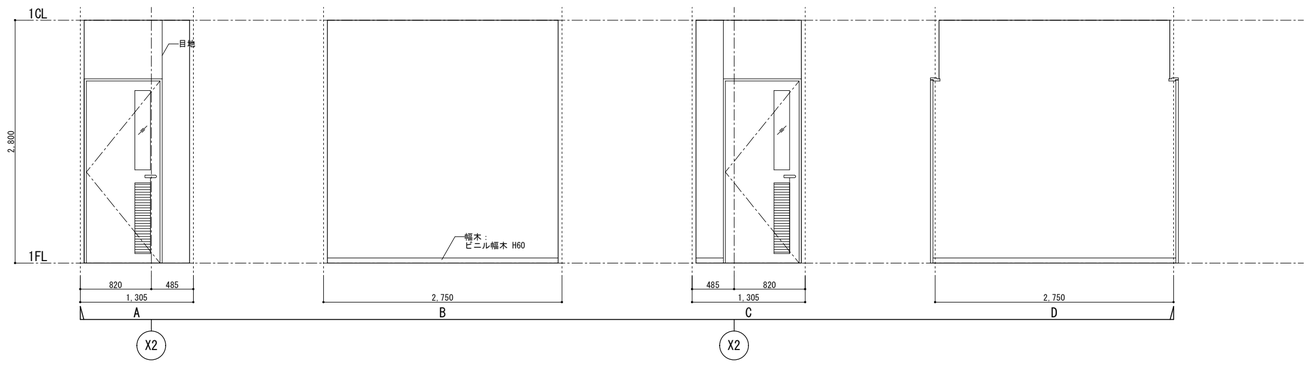


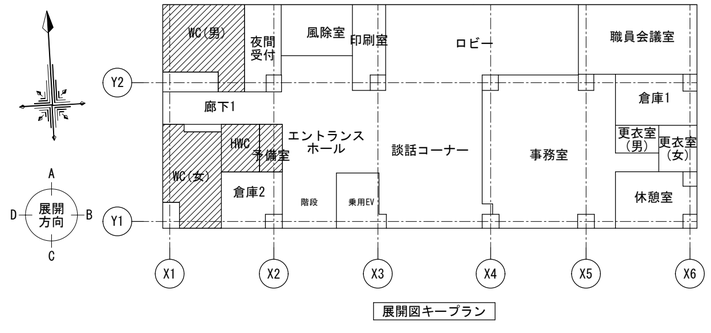
室名	HWC
天井仕上	DR t9.0
廻縁	塩ビ
壁仕上	化粧ケイカル板 t6.0 下部・出隅部アルミアングル補強
幅木	ビニル幅木
床仕上	防汚性ビニル床シート t2.0 ノンワックスタイプ
備考	ベビーシート トイレバック・ベビーチェア(設)、呼出ボタン(電)

※手摺、化粧鏡、紙巻器、将来用ハンドドライヤー、ベビーチェア、ベビーシート、トイレバック等は下地補強を施すこと



室名	予備室
天井仕上	DR t9.0
廻縁	塩ビ
壁仕上	ビニルクロス(不燃)
幅木	ビニル幅木
床仕上	ビニル床シート t2.0 ノンワックスタイプ
備考	カーテンレール





展開図キープラン

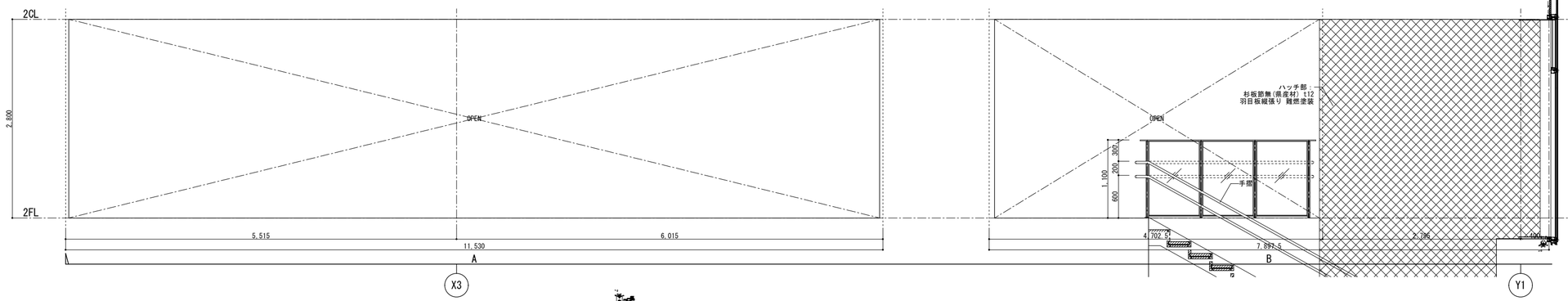
訂	月	日	事項		
正					

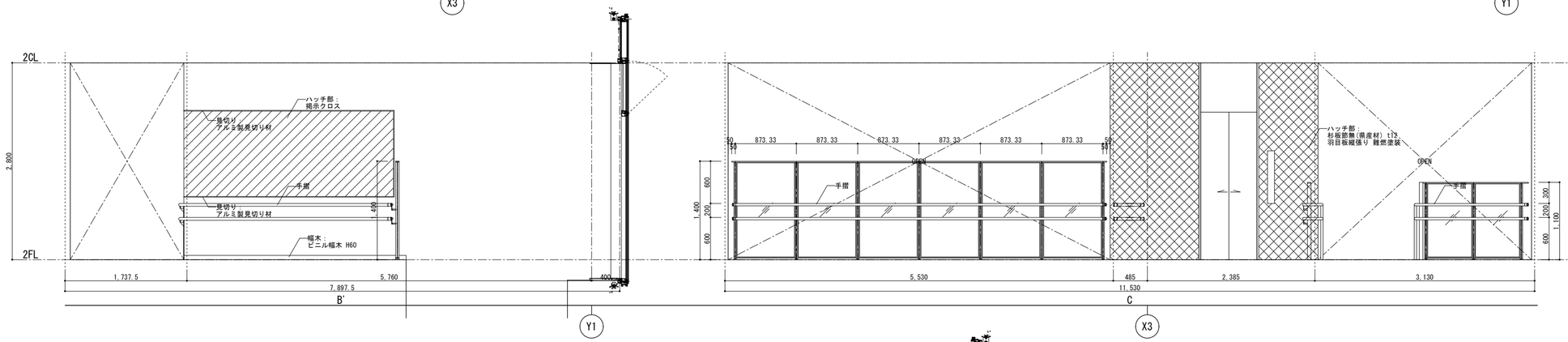
株式会社ユニバァサル設計
UNIVERSAL DESIGN OFFICE INC.

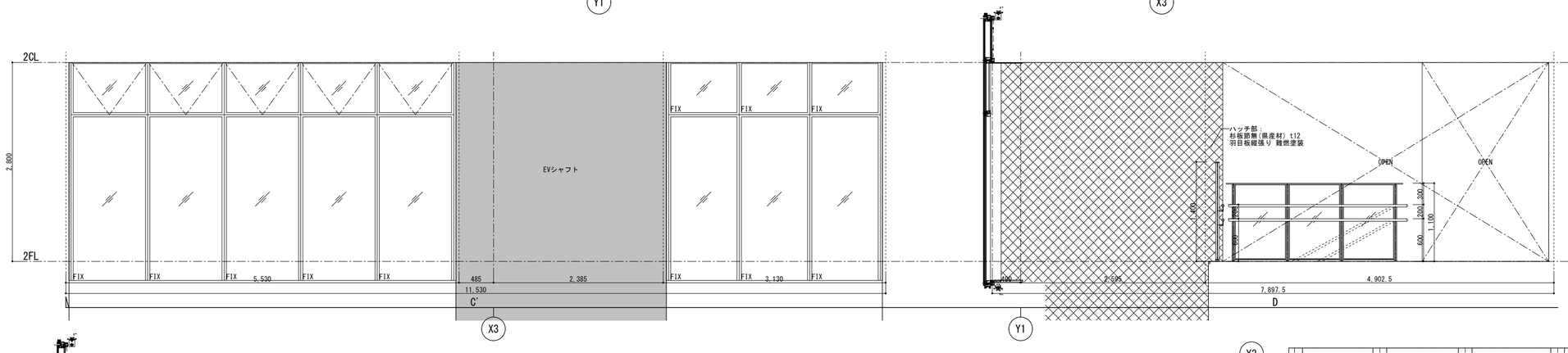
事務所登録	東京本部一級建築士事務所 一級建築士事務所 東京都知事知事登録 第22736号		
設計者	一級建築士 登録第362390号 屋野 康二	法適合確認結果等	

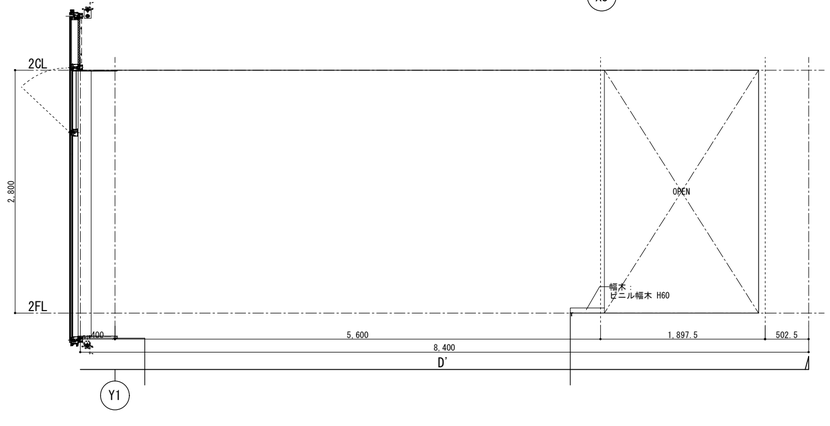
工事名称	仮称芳野市民センター新築工事	図面名称	展開図(6)	縮尺	A2:1/50 A3:1/70	図面No.	12-06
作成	2025 年 2 月 17 日	承認		部長 課長 担当 製図		設計No.	

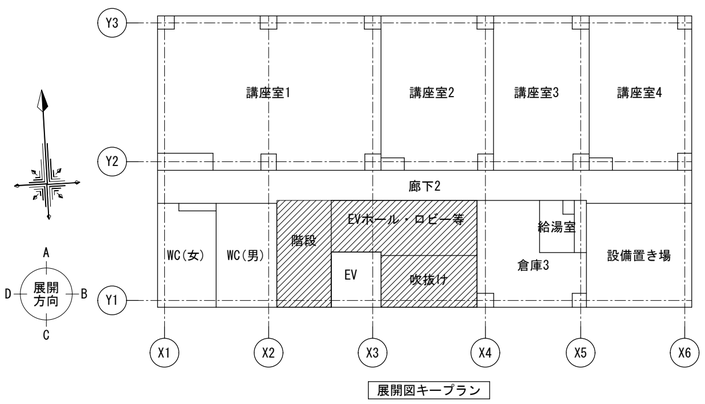
室名	EVホール・ロビー等
天井仕上	DR t9.0
廻縁	塩ビ
壁仕上	ビニルクロス 掲示クロス EV廻り：杉板節無(県産材) t12 羽目板縦張り 難燃塗装
幅木	ビニル幅木
床仕上	ビニル床シート t2.0 ノンワックスタイプ
備考	手摺、ピクチャーレール











展開図キープラン

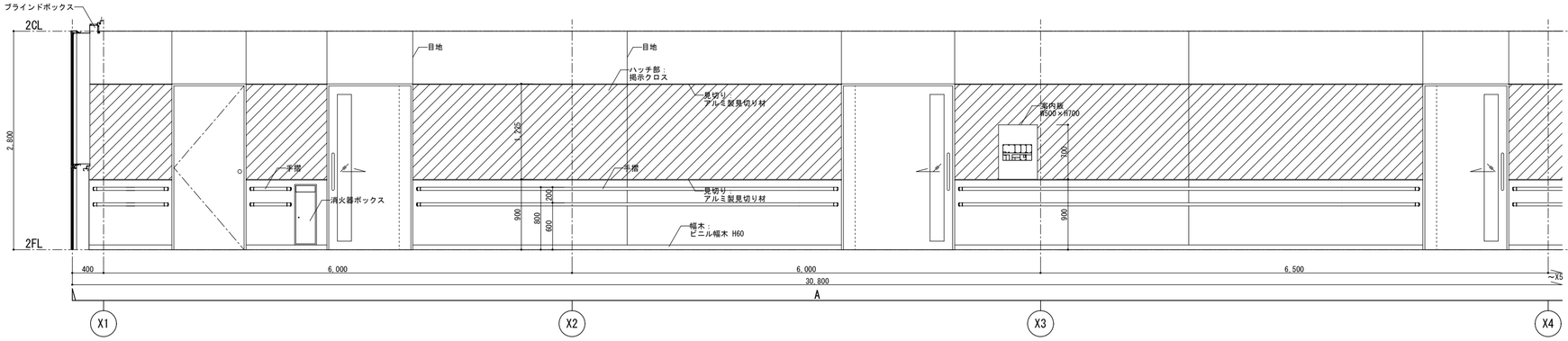
訂正	月 日	事 項		

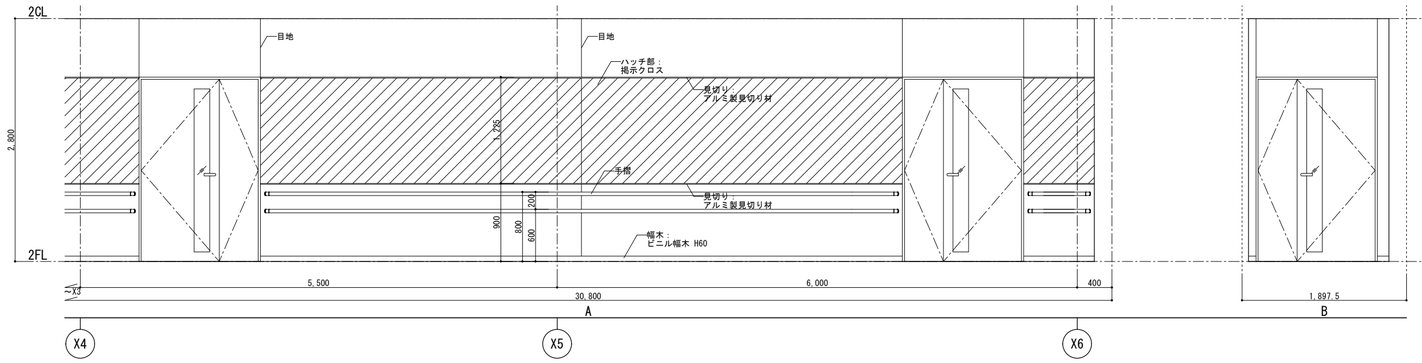
株式会社ユニバァサル設計
UNIVERSAL DESIGN OFFICE INC.

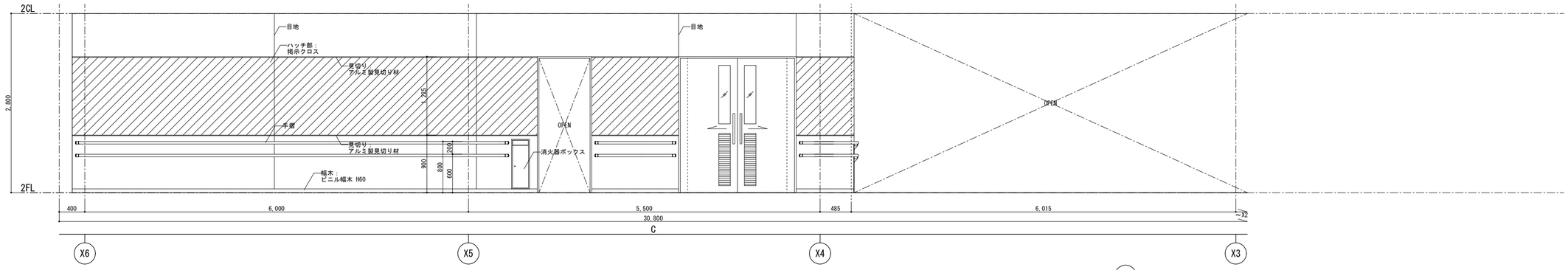
事務所登録	東京本部一級建築士事務所 一級建築士事務所 東京都知事登録 第22736号		
設計者	一級建築士 登録第362390号 星野 康二	法適合確認結果等	

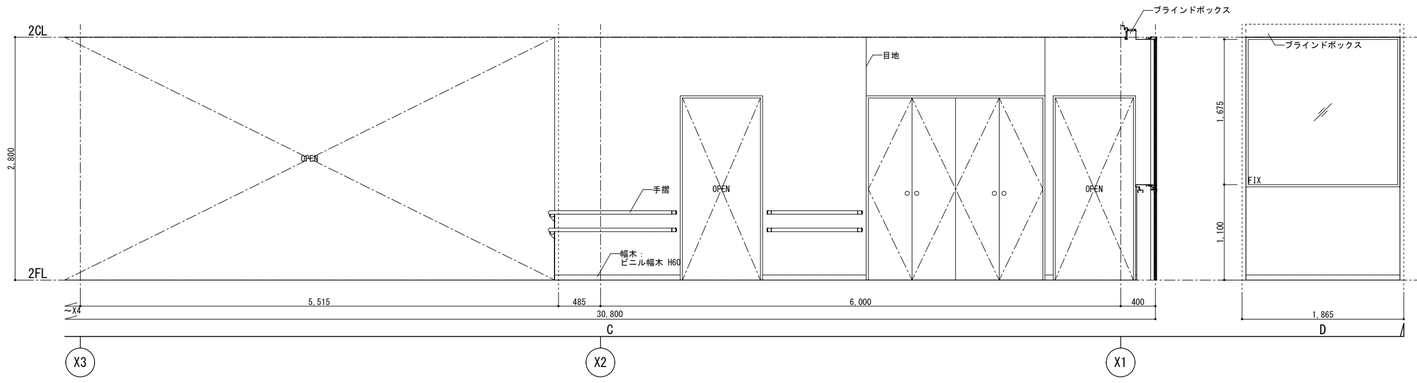
工事名称	仮称芳野市民センター新築工事	図面名称	展開図(7)
作成	2025 年 2 月 17 日	承認	
縮尺	A2:1/50 A3:1/70	図面No.	12-07
部長	課長	担当	製図
設計No.			

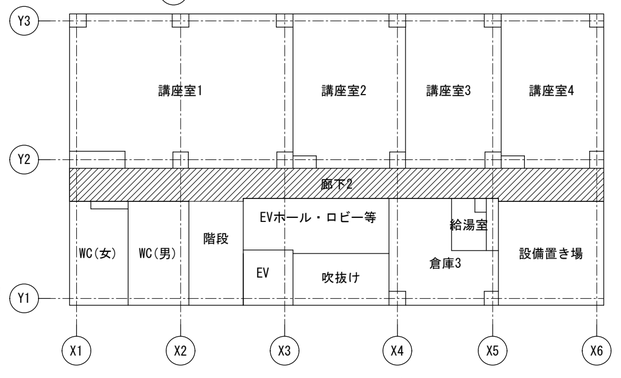
室名	廊下2
天井仕上	DR t9.0
廻縁	塩ビ
壁仕上	ビニルクロス 掲示クロス
幅木	ビニル幅木
床仕上	ビニル床シート t2.0 ノンワックスタイプ
備考	手摺、ピクチャーレール、案内板 ロールカーテン：遮光 W1,700×H1,700程度 1ヵ所











展開図キープラン

訂 正	月 日	事 項		

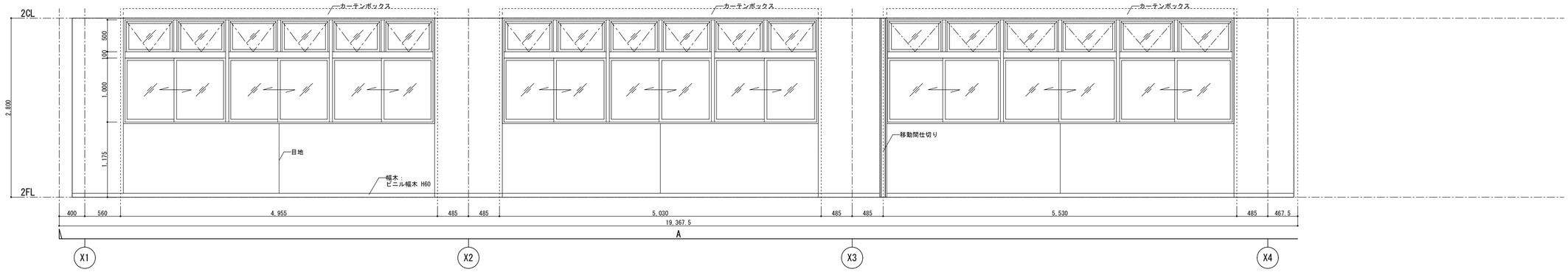
株式会社ユニバァサル設計
UNIVERSAL DESIGN OFFICE INC.

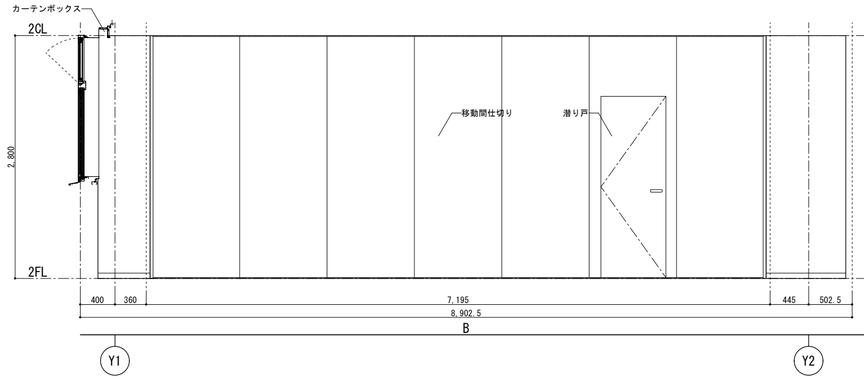
事務所登録	東京本部一級建築士事務所 一級建築士事務所 東京都知事知事登録 第22736号		
設計者	一級建築士 登録第362390号 屋野 康二	法適合確認結果等	

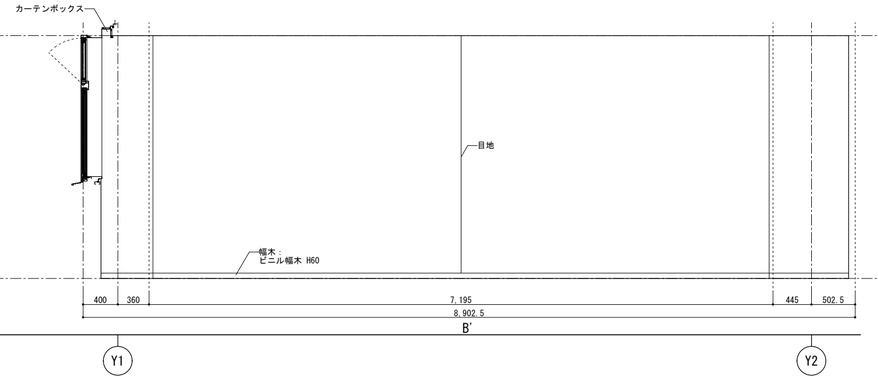
工事名称	仮称芳野市民センター新築工事	図面名称	展開図(8)
作成	2025 年 2 月 17 日	承認	
縮尺	A2:1/50 A3:1/70	図面No.	12-08
部長	課長	担当	製図
設計No.			

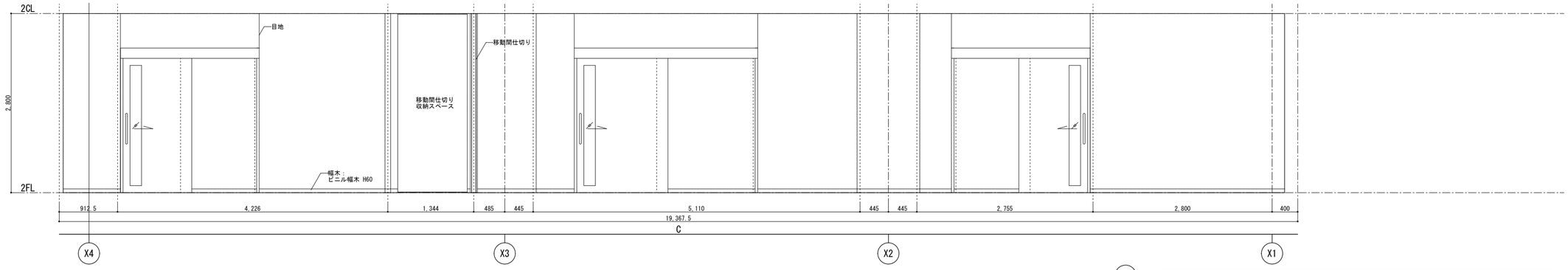
室名	講座室1
天井仕上	DR t9.0
廻縁	塩ビ
壁仕上	ビニルクロス
幅木	ビニル幅木
床仕上	ビニル床シート t2.0 ノンワックスタイプ
備考	スクリーン、スクリーンボックス、 ホワイトボード、ピクチャーレール、カーテンレール、 可動間仕切り(遮音性：54.0db(500Hz)程度)

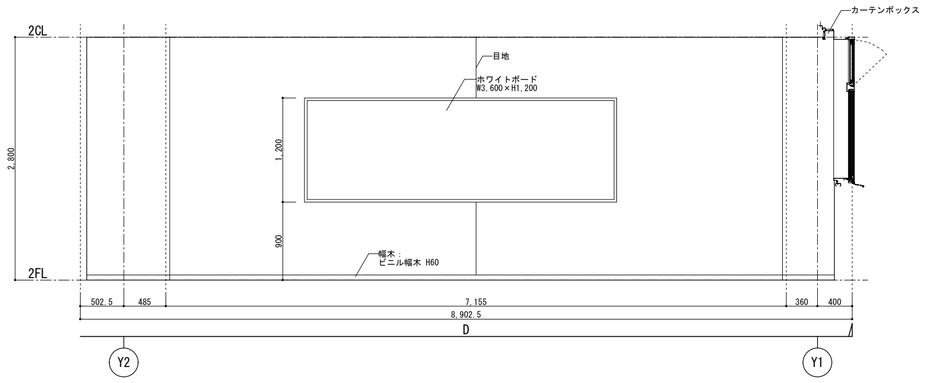
室名	講座室2
天井仕上	DR t9.0
廻縁	塩ビ
壁仕上	ビニルクロス
幅木	ビニル幅木
床仕上	ビニル床シート t2.0 ノンワックスタイプ
備考	ピクチャーレール、カーテンレール

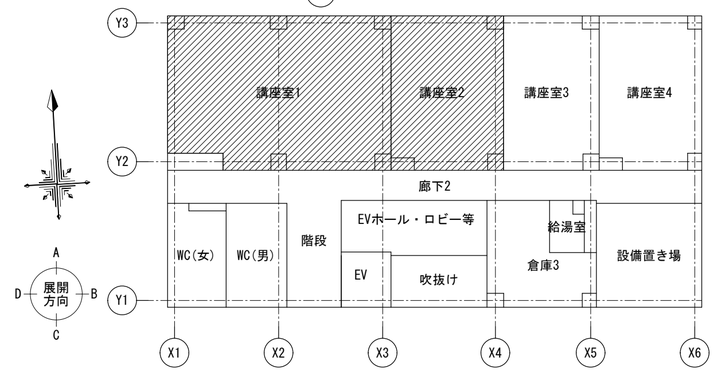












展開図キープラン

訂正	月 日	事項		

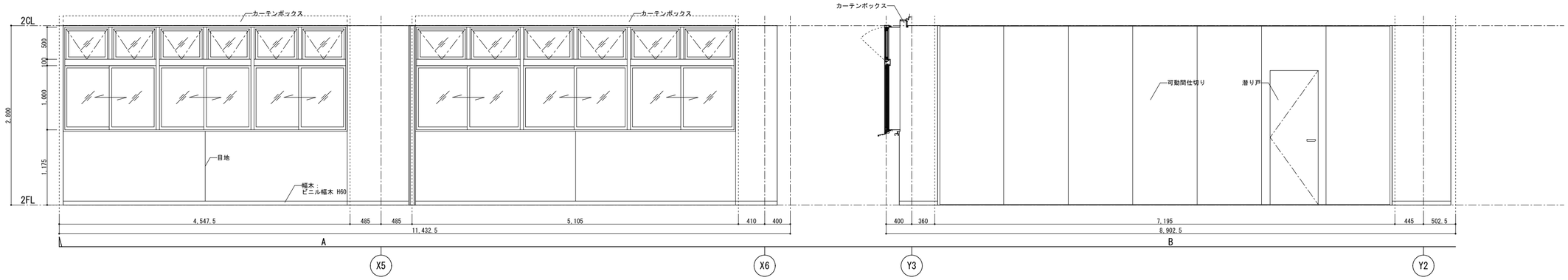
株式会社ユニバァサル設計
UNIVERSAL DESIGN OFFICE INC.

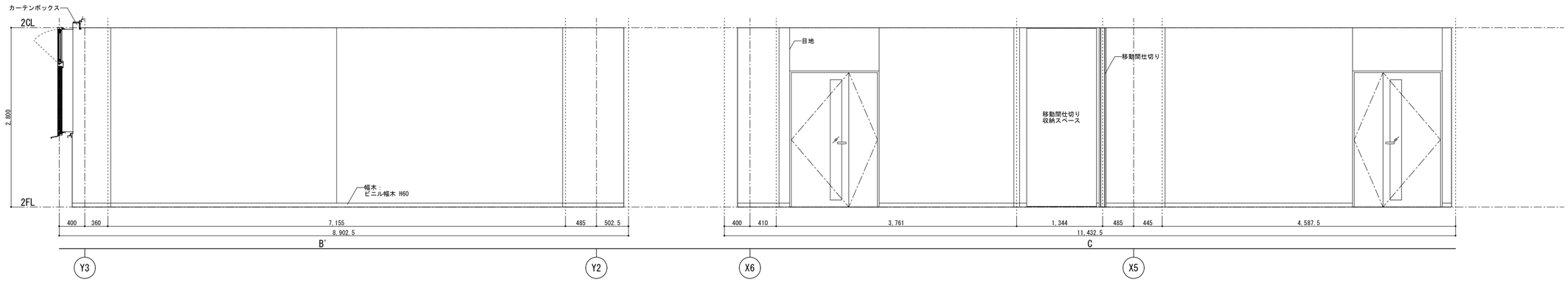
事務所登録	東京本部一級建築士事務所 一級建築士事務所 東京都知事登録 第22736号		
設計者	一級建築士 登録第362390号 屋野 康二	法適合確認結果等	

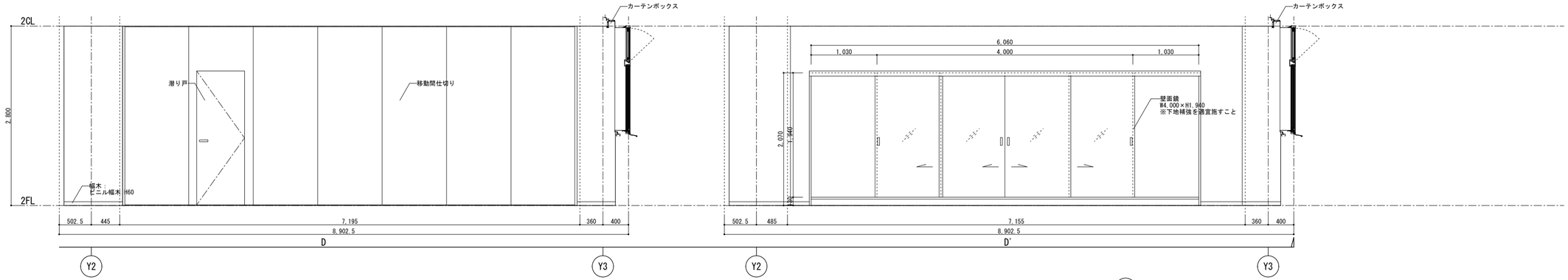
工事名称	仮称芳野市民センター新築工事	図面名称	展開図(9)	縮尺	A2:1/50 A3:1/70	図面No.	12-09
作成	2025 年 2 月 17 日	承認		部長 課長 担当 製図		設計No.	

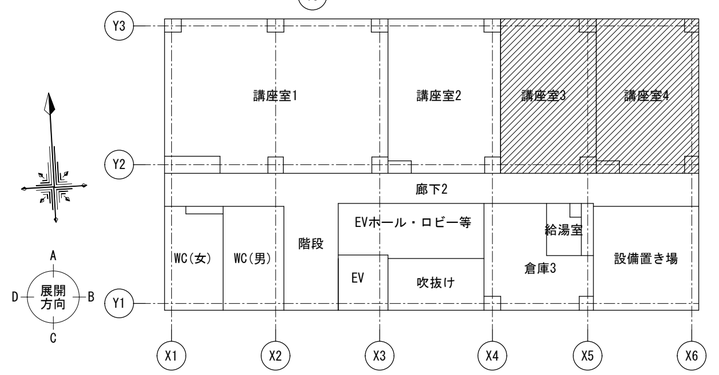
室名	講座室3
天井仕上	DR t9.0
廻縁	塩ビ
壁仕上	ビニルクロス
幅木	ビニル幅木
床仕上	ビニル床シート t2.0 ノンワックスタイプ
備考	壁面鏡、ピクチャーレール、カーテンレール、 可動間仕切り(遮音性：54.0db(500Hz)程度)

室名	講座室4
天井仕上	DR t9.0
廻縁	塩ビ
壁仕上	ビニルクロス
幅木	ビニル幅木
床仕上	ビニル床シート t2.0 ノンワックスタイプ
備考	ピクチャーレール、カーテンレール









展開図キープラン

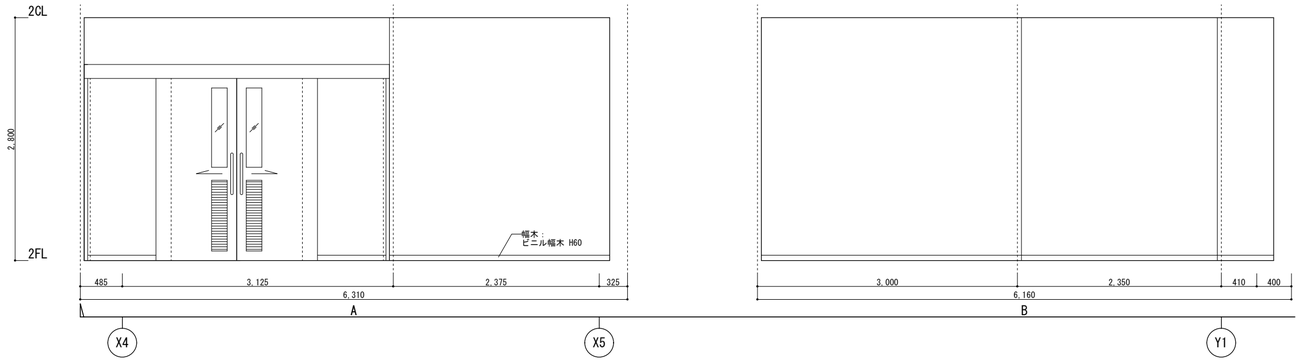
訂正	月　日	事　項		
	. .		. .	
	. .		. .	
	. .		. .	

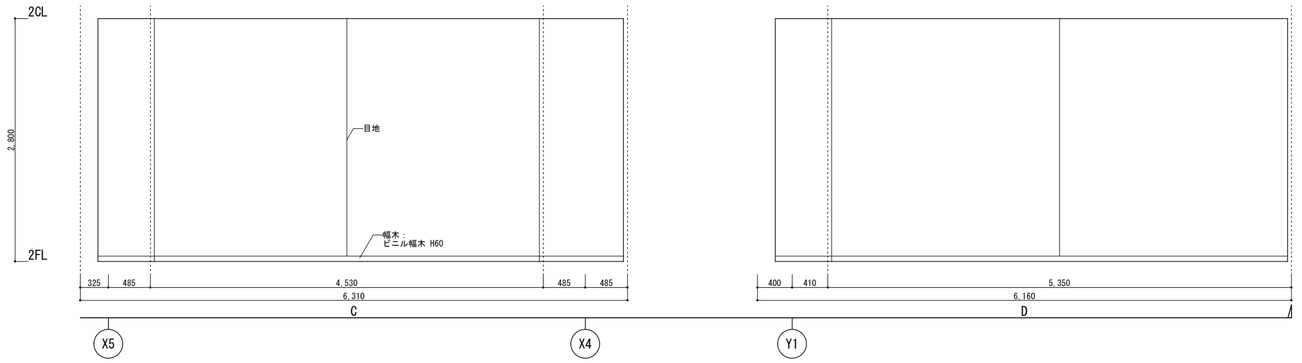
株式会社ユニバァサル設計
UNIVERSAL DESIGN OFFICE INC.

事務所登録	東京本部一級建築士事務所 一級建築士事務所 東京都知事登録 第22736号		
設計者	一級建築士　登録第362390号　星野　康二	法適合確認結果等	

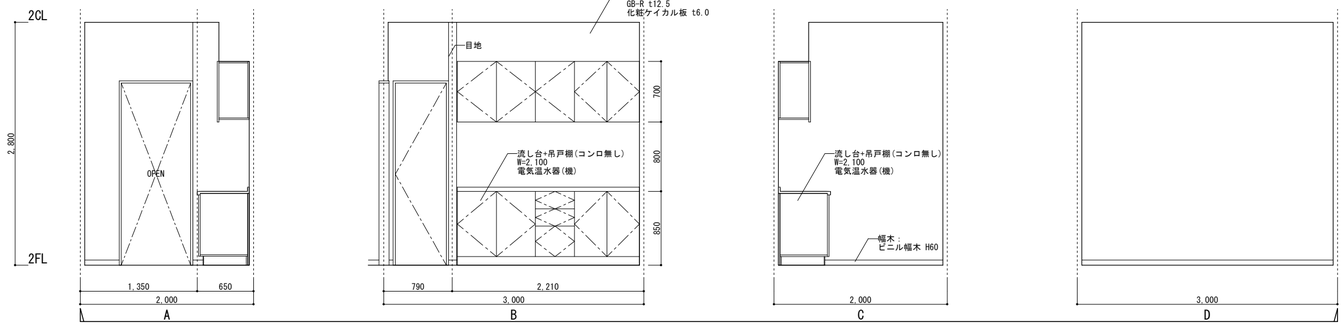
工事名称	仮称芳野市民センター新築工事	図面名称	展開図(10)	縮尺	A2:1/50 A3:1/70	図面No.	12-10
作成	2025 年 2 月 17 日	承認		部長	課長	担当	製図	設計No.	

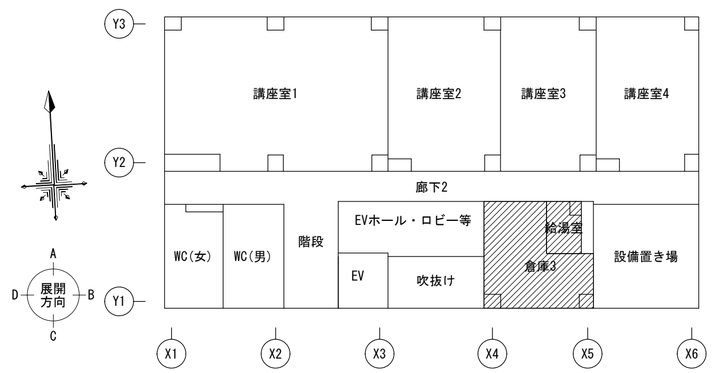
室名	倉庫3
天井仕上	GB-D t9.5
廻縁	塩ビ
壁仕上	ビニルクロス
幅木	ビニル幅木
床仕上	ビニル床シート t2.0 ノンワックスタイプ
備考	





室名	給湯室
天井仕上	DR t9.0
廻縁	塩ビ
壁仕上	化粧ケイカル板 t6.0 下部・出隅部アルミアングル補強
幅木	ビニル幅木
床仕上	ビニル床シート t2.0 ノンワックスタイプ
備考	流し台(コンロ無し)、吊戸棚 電気温水器(設)





展開図キープラン

訂正	月 日	事項		

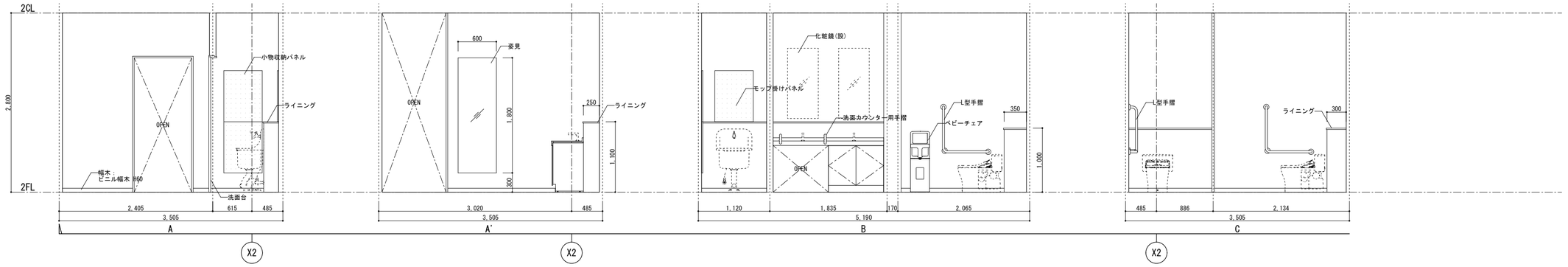
株式会社ユニバァサル設計
UNIVERSAL DESIGN OFFICE INC.
事務所登録 東京本部一級建築士事務所 一級建築士事務所 東京都知事知事登録 第22736号
設計者 一級建築士 登録第362390号 星野 康二
法適合確認結果等

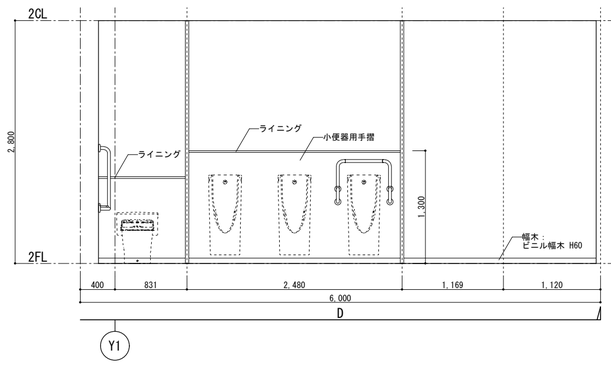
工事名称	仮称芳野市民センター新築工事	図面名称	展開図(11)	縮尺	A2:1/50 A3:1/70	図面No.	12-11
作成	2025 年 2 月 17 日	承認		部長 課長 担当 製図		設計No.	

室名	WC（男）
天井仕上	DR t9.0
廻縁	塩ビ
壁仕上	化粧ケイカル板 t6.0 下部・出隅部アルミアングル補強
幅木	ビニル幅木
床仕上	防汚性ビニル床シート t2.0 ノンワックスタイプ
備考	トイレブース、ライニング、洗面台、手摺、 姿見(600×1,800)、ベビーチェア、汚垂石 大便器(設)、小便器(設)、紙巻器(設)、化粧鏡(設)

室名	SK
天井仕上	DR t9.0
廻縁	塩ビ
壁仕上	化粧ケイカル板 t6.0 下部・出隅部アルミアングル補強
幅木	ビニル幅木
床仕上	防汚性ビニル床シート t2.0 ノンワックスタイプ
備考	モップ掛けパネル、小物収納パネル SK(設)

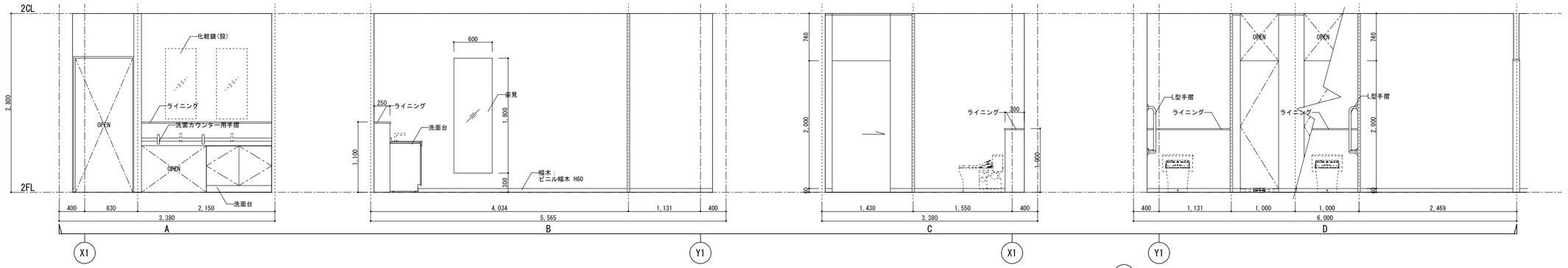
※手摺、化粧鏡、姿見、紙巻器、モップかけ、モップパネル、将来用ハンドドライヤー、ベビーチェア等は下地補強を施すこと

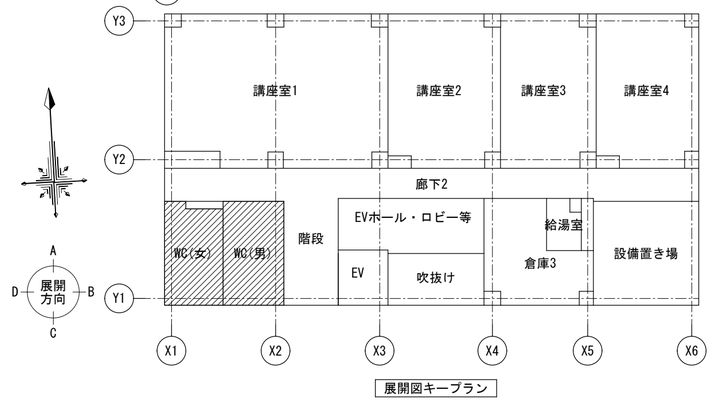




室名	WC（女）
天井仕上	DR t9.0
廻縁	塩ビ
壁仕上	化粧ケイカル板 t6.0 下部・出隅部アルミアングル補強
幅木	ビニル幅木
床仕上	防汚性ビニル床シート t2.0 ノンワックスタイプ
備考	トイレブース、ライニング、洗面台、手摺、 姿見(600×1,800)、ベビーチェア 大便器(設)、紙巻器(設)、化粧鏡(設)

※手摺、化粧鏡、姿見、紙巻器、将来用ハンドドライヤー、ベビーチェア等は下地補強を施すこと





展開図キープラン

訂正	月　日	事　項		
	. .		.	
	. .		.	
	. .		.	

株式会社ユニバァサル設計
UNIVERSAL DESIGN OFFICE INC.

事務所登録	東京本部一級建築士事務所 一級建築士事務所 東京都知事登録 第22736号		
設計者	一級建築士　登録第362390号　星野　康二	法適合確認結果等	

工事名称	仮称芳野市民センター新築工事	図面名称	展開図(12)	縮尺	A2:1/50 A3:1/70	図面No.	12-12
作成	2025 年 2 月 17 日	承認		部長 課長 担当 製図		設計No.	

■建具共通事項

共通

- 建具工事施工者との連名の施工要領書、性能書を提出し、監督員の承認を受ける。
- 製作図に有効排煙及び有効採光面積を記入し、建築基準法の基準を満たすか確認を行うこと。
- 外装窓周りの取り合い（サッシュ・ガラス・シール）については、外装分科会を設置し、専門知識を持つ責任者を定め施工者の責任においてまとめることとする。
- 全箇所についてガラス厚検討を行うこと。
- 外部シャッターはスラット及びレールの耐風性能書提出のこと。
- ガラスへのフィルム張りは枠内に飲み込むこと。
- 建具シーリング寸法は、特記なき限り15×10とする。
- 金物サンプルボードもしくは金物写真入サンプル表を、主要建具ごとに作成すること。（各サンプルも取り寄せる事。）
- 特記なき限り、建具共通事項を正とする。
- 合わせガラスの中間膜はポリビニルブチラーゼ(透明)とする。

扉

- 建具の見込み寸法は、建具の見付面より次の通りとする。
  2.5㎡以下:40mm、3.0㎡以下:45mm、5.0㎡:50mm
- くつずりは原則無しとする。（設ける場合は、仕上げ高さが異なる個所は①型又は②型とし、気密型はAT仕様、外部周りは④型とする）
- SD、LSDのガラリは鋼板製SOPとする。
- 簡易気密型、気密型の気密材取合い部はSUS鋼板ｔ＝1.5mmとする。
- SUS製ガード付扉：H1000以下の扉仕上をSUS製（片面）とする。枠はガード上端＋20mmまでSUS製の枠とし、同面溶接とする。
- 把手類は点検口及び埋込型防火戸を除き、両面取付とする。
- ドアクローザーは特記なき限りパラレル型とし、室内側に取付ける。
- フロアヒンジ、ヒンジクローザーは防火戸を除きストッパー付とする。
- 鋼製扉の枠は、防音型扉を除き緩衝ゴムφ１０（クリア）を仕上げ完了後に取り付ける。
- ピボットヒンジは特記無き限り持出吊型とする。
- 常時開放防火戸及び防火防煙シャッター等は特記無き限り煙感知連動式とする。
  またリミットスイッチ・電磁レリーズ等の作動装置まで建築工事とし、配管、配線工事は電気工事とする。
- 外部扉は特記なき限り簡易気密型とし、枠・くつずりとも水返し・クロロプレンゴム付とする。
- 外部ＳＤの枠は立上り100mmまでＳＵＳ製とし、同面溶接とする。また下枠勝ちを原則とする。
- 防火戸は３㎡を超える場合は子扉付きとし、同面収まり、下枠無しとする。
- 各階　屋内消火栓のある部屋から廊下に至る特定防火設備扉には、消防ホース通過孔扉W150×H150を設ける。
- ＬＳＤの戸尻縦小口包み板はＳＵＳ製とする。
- ＥＰＳ、ＰＳ、ＤＳの点検扉の取付け位置は巾木の上を原則とする。
- ＬＳＤ、ＬＨＤの化粧シート（ダイノックシート）は、原則工場貼りとする。
- 塩ビ鋼板貼扉については、特記なき限り袖も塩ビ鋼板貼とする。
- 引戸は全て指はさみ防止仕様とする。
- ハンガードアの吊戸は自閉式とし、全開時にストップする機構とする。（防火設備を除く）
- ハンガードアの点検口は、上端を引っ掛け式、両端をマグネット留めとし、丁板とビスを使用しない。
- 別途工事の電気錠設置に伴う建具加工は本工事とする。
- 換気経路上の建具はアンダーカットまたは、引き戸とし換気経路を確保する。
- 避難口誘導灯設置個所の建具内側は鍵等を用いず解錠できる構造とする。

窓

- 外部ＡＷ水切の出は壁面から20を標準とし、両端は10mm以上の立上りを付ける。
- 網戸の材質はステンレス製とする。
- 排煙装置は隠蔽型とし、最大で窓４枚ごとにオペレーターを設置する。（特記なき限り手動式）
- 排煙窓のクレセントと排煙オペレーターの操作レバーの高さは床から800mm以上1500mm以下とする。
- 排煙突出し・外倒し窓の開放は60°　一動作で開放とする。
- 開口制限装置表示のある引違い窓には、開口制限ストッパー（特記無き限り100mm、カギ付）を取り付ける。（障子組み込み型）
- 片開き窓、縦すべり出し窓、縦軸及び横軸回転窓は大型引寄せハンドルとする。
- 縦軸及び横軸回転窓、縦すべり出し窓は一時ストップ付（開口幅10cm未満）のアームストッパーを設ける。
- 連窓の連結部中間方立の視元の水仕舞（塞ぎ方）について検討図を作成し、監督員に提出する。
- ＡＷは全て指はさみ防止ストッパー付とする
- 方立上部のアンカー、上下ガラリ連窓の中間方立の収まりについて耐風圧強度を検討し、監督員に資料を提出する。
- 飛散防止フィルムは、以下の仕様を満たすものとする。
  ①基材がポリエチレンテレフタレート（PET）製
  ②多積層以外で、基材厚みが100μｍ以下
  ③内貼り用、外貼り用は問わない

ガラリ

- ガラリの必要面積は、計画風量及び設備設計者の指示する風速により算出して再確認し、施工図に反映する。
- 外部ガラリは全て開口率40%とし、水切板付きとする。
- 外部ガラリは全てSUS製防鳥網付とし、ダクト受アングルまで建築工事とする。
- Ｗ＝1500以上のガラリは方立を設ける。

性能の定義

- 「SAT」表記の建具は公共建築工事標準仕様書の「簡易気密型ドアセット」と同義の気密材を施す。
  性能値は、気密性A-3、水密性能W-1とし、その他性能は建具表による。
- 「AT」表記の建具は、枠の四周にシリコーンスポンジゴム等の気密材を施し、気密材に接する扉の四周は凸形状のステンレス、グレモンハンドル、戸内部にロックウールを充填する。
  性能値は、気密性能A-4、遮音性能T-2とし、その他性能は建具表による。

耐風圧性		気密性		水密性		遮音性		断熱性	
等級	等級との対応値（最高圧力）	等級	等級との対応値（気密等級線）	等級	等級との対応値（圧力差）	等級	等級との対応値（遮音等級線）	等級	等級との対応値（熱貫流等級値）
S-1	800Pa	A-1	A-1等級以上	W-1	100Pa	T-1	T-1等級以上	H-1	0.215㎡･K/W以上
S-2	1200Pa	A-2	A-2等級以上	W-2	150Pa	T-2	T-2等級以上	H-2	0.246㎡･K/W以上
S-3	1600Pa	A-3	A-3等級以上	W-3	250Pa	T-3	T-3等級以上	H-3	0.287㎡･K/W以上
S-4	2000Pa	A-4	A-4等級以上	W-4	350Pa	T-4	T-4等級以上	H-4	0.344㎡･K/W以上
S-5	2400Pa			W-5	500Pa			H-5	0.430㎡･K/W以上
S-6	2800Pa								
S-7	3600Pa								

【気密性】SAT：セミエアタイト、AT：エアタイト
【断熱性】GW：グラスウール

備考

■標準金物リスト

記号	用途	支持金物：オートヒンジ	オート丁番	丁番	ピボットヒンジ	ピボットヒンジ（点検口）	フロアヒンジ	ラバトリーヒンジ	ハンガーレール	錠前：空錠	円筒錠	インテグラル錠	箱錠	本締錠	平面ハンドル錠	グレモン錠	プッシュプル錠	サムラッチ錠	非常錠	引戸錠	引違い戸錠	表示錠	電気錠：電気錠	電気錠（カードキーロック）	電気錠（テンキーロック）	把手：握り玉	レバーハンドル	引手	押・引棒	ケースハンドル	平面ハンドル	据込み手掛け	プッシュプルハンドル	サムラッチハンドル	その他金物：ドアクローザ（露出型）	ドアクローザ（隠蔽型）	引き戸クローザ	戸当たり	自閉式	フランス落し（上下取付）	順位調整器（露出型）	順位調整器（隠蔽型）	ドアガード	ドアチェーン	附属金物	備考
A	外部に面する扉		○										○														○									○			○								SAT仕様とする。
B	一般片開扉				○								○														○									○			○								
C	一般親子/両開扉				○								○														○									○			○		○		○				子扉のドアクローザ（※付ける・付けない）
D	点検扉					○								○																○																	
E	収納型防火扉	○																													○														○	火報連動レリーズ
F	ＡＴ扉				○											○										○									○			○								子扉のドアクローザ（※付ける・付けない）
G	ＳＡＴ扉				○								○													○									○			○								グラスウールの充填・ドアクローザにより枠内気密ｺﾞﾑに締付け。
H	便所・給湯室扉				○						○																○								○			○								
I	バリアフリートイレ引戸									○										○	○						○									○			○	○	○					○	
J	引戸									○										○							○									○			○	○	○					○	

■略号・姿図

■建具形式

扉・戸		
SD	鋼製扉・戸	
LSD	鋼製軽量扉・戸	
StD	ステンレス製扉・戸	
AD	アルミ製扉・戸	
WD	木製扉・戸	
TD	強化ガラス扉・戸	
窓		
SW	鋼製窓	
StW	ステンレス製窓	
AW	アルミ製窓	
WW	木製窓	
ガラリ		
SG	鋼製ガラリ	
StG	ステンレス製ガラリ	
AG	アルミ製ガラリ	
WG	木製ガラリ	
PG	合成樹脂製ガラリ	
シャッター		
SS	シャッター	
SSH	シートシャッター	
OS	オーバースライダー	

■間仕切り

P	パーティション	
SLW	スライディングウォール	
その他		
Fu	襖	
Sy	障子	
Fr	鋼製枠	
SmW	防煙垂れ壁	

■仕　上

AL	無着色陽極酸化皮膜 塗装複合皮膜
AC	着色陽極酸化皮膜 塗装複合皮膜
HL	ヘアーライン
CHL	カラーヘアーライン
PHL	バイブレーション
HDG	溶融亜鉛メッキ
VS	強化ビニル鋼板
PW	ポリエステル化粧合板
MW	メラミン化粧合板
DS	化粧フィルム
MR	鏡面仕上
SOP	合成樹脂調合ペイント
FE	フタル酸樹脂エナメル
CL	クリヤラッカー
OS	オイルステイン
2-FUE	フッ素樹脂塗装
DP	耐候性塗装
BF	焼付塗装

■材　種

S	スチール
St	ステンレス
A	アルミ
W	木
P	合成樹脂

■ガラス

FL	フロートガラス
FG	型板ガラス
SG	すり板ガラス
FSG	フロストガラス
A	空気層
FWG	網入型板ガラス
PWG	網入磨き板ガラス
T	強化ガラス
FTG	型板強化ガラス
H	熱線吸収(ブルー)
G	熱線吸収(グレー)
B	熱線吸収(ブロンズ)
M	熱線反射ガラス
GB	ガラスブロック
Low-E	低放射ガラス
FG	耐熱強化ガラス
AL	アルミパネル(断熱)

■ガラス構成

S	単板
PG	複層ガラス
LG	合せガラス

■ガラス取付材

S	シーリング
G	グレイジングガスケット
Z	ジッパーガスケット

■網戸

PP	ポリプロピレン
PE	ポリエステル
GF	グラスファイバー
St	ステンレス

■錠前

AH	オートヒンジ
T	丁番
PH	ピボットヒンジ
PHT	ピボットヒンジ(点検口)
FH	フロアヒンジ
LH	ラバトリヒンジ
HR	ハンガーレール

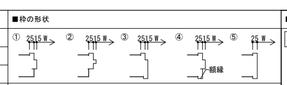
■クローザ

A1	露出　ストップ付
A2	露出　ストップ無
B1	隠蔽　ストップ付
B2	隠蔽　ストップ無

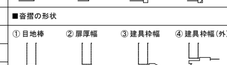
■電気錠

E	電気錠
ET	電気錠(テンキー式)
EC	電気錠(カードリーダ式)

■枠の形状

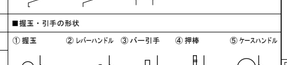


■召合の形状



■がらりの形状(特記無き限り開口率35%)

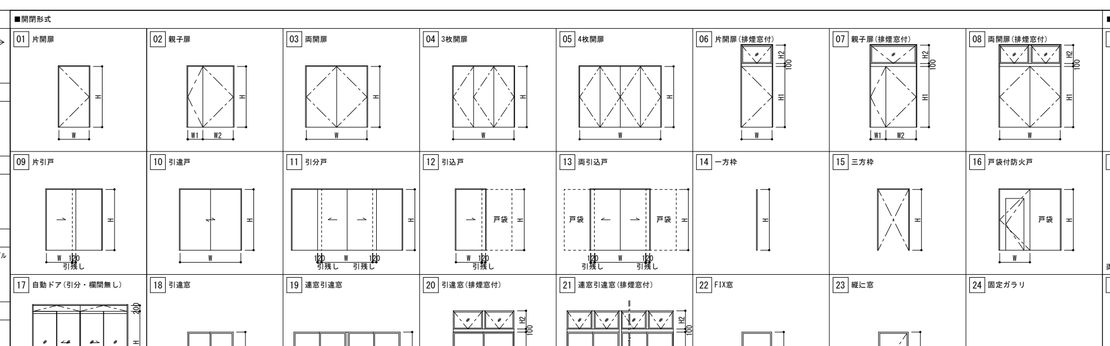
■握玉・引手の形状



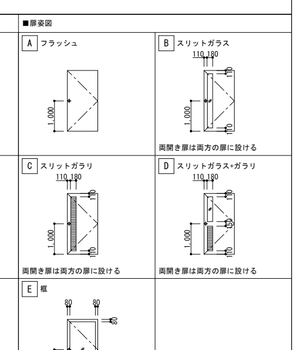
■錠の種類

■錠区分

■開閉形式



■扉姿図



訂正	月　日	事　項		
	. .		.	
	. .		.	
	. .		.	

株式会社ユニバァサル設計
UNIVERSAL DESIGN OFFICE INC.

事務所登録	東京本部一級建築士事務所 一級建築士事務所 東京都知事登録 第22736号		
設計者	一級建築士　登録第362390号　星野　康二	法適合確認結果等	

工事名称：仮称芳野市民センター新築工事
作成：2025 年 2 月 17 日
承認：
図面名称：建具共通事項
部長　課長　担当　製図
縮尺：A2:NS A3:NS
設計No.
図面No.：13-01 確17

凡例	
SD 01	…建具形式 …建具番号
※ 防	防：防火設備 ~~特：特定防火設備~~
※ E	~~E：電気錠~~ ~~ET：電気錠(テンキー式)~~ ~~EC：電気錠(カードリーダー式)~~
※ 消	消防無窓算定開口
シ サ	空：空錠 サ：サムターン 非：非常錠
シ：シリンダー錠 表：表示錠	
・OPH：排煙設備手動開放装置	

月 日	事 項		
訂			
正			

株式会社ユニバァサル設計
UNIVERSAL DESIGN OFFICE INC.

事務所登録	東京本部一級建築士事務所 一級建築士事務所 東京都知事登録 第22736号		
設計者	一級建築士 登録第362390号 星野 康二	法適合確認結果等	

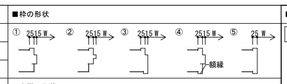
工事名称	仮称芳野市民センター新築工事	図面名称	建具キープラン
作成	2025 年 2 月 17 日	承認	
部長	課長 担当 製図	縮尺	A2:1/150 A2:1/210
設計No.		図面No.	13-02 確18

建具形式	建具番号	使用場所	数量	開閉形式		扉姿図		性能		内法寸法		扉・障子			枠				額縁			沓摺				皿板	ガラス				ガラリ						網戸			握玉・引手			錠				電源	持物支金	クローザ	特定防火	防火設備	常時閉鎖戸	煙感知器付	熱感知器付	ヒューズ付	遮煙性能付	備考
								気密	断熱遮音	W	H	厚	材種	仕上	形状	見込	材種	仕上	見込	材種	仕上	形状	見込	材種	仕上		構成	材種	厚	取付材	形状	材種	仕上	W	H	開口率	枠材種	枠仕上	網材種	形状	材種	仕上	種類	区分 外	区分 内	電気錠									
SD 消	01	1階ロビー	1	01	片開扉	B	スリットガラス	AT	－	900	2,100	40	S	DP	②	320	S	DP	－	－	－	④	90	St	HL	－	S	FTG	4	－	－	－	－	－	－	－	－	－	②	St	HL	④	シ	サ	－	－	PH	A1	－	－	－	－	－	－	－	付属金物一式、上部小庇(SUS製D100)、 防水性：Ws-5以上
SD	02	EPS (1、2階WC前廊下)	2	01	片開扉	A	フラッシュ	－	－	900	2,100	40	S	SOP	①	100	S	SOP	－	－	－	②	40	St	HL	－	－	－	－	－	－	－	－	－	－	－	－	－	⑤	St	HL	⑤	シ	空	－	－	PHT	A1	－	－	－	－	－	－	－	付属金物一式
SD	03	PS (1、2階WC前廊下)	2	05	4枚開扉	A	フラッシュ	－	－	2,015	2,100	40	S	SOP	①	100	S	SOP	－	－	－	②	40	St	HL	－	－	－	－	－	－	－	－	－	－	－	－	－	⑤	St	HL	⑤	シ	空	－	－	PHT	A1	－	－	－	－	－	－	－	付属金物一式
SD	04	PS (休憩室、給湯室、2階WC(男))	3	01	片開扉	A	フラッシュ	－	－	600	2,100	40	S	SOP	①	100	S	SOP	－	－	－	②	40	St	HL	－	－	－	－	－	－	－	－	－	－	－	－	－	⑤	St	HL	⑤	シ	空	－	－	PHT	A1	－	－	－	－	－	－	－	付属金物一式
SD	05	SK (1、2階WC)	2	01	片開扉	A	フラッシュ	－	－	800	2,100	40	S	SOP	②	120	S	SOP	－	－	－	－	－	－	－	－	－	－	－	－	－	－	－	－	－	－	－	－	⑤	St	HL	⑤	シ	空	－	－	PH	A1	－	－	－	－	－	－	－	付属金物一式
SD 消	06	2階廊下屋外階段	1	02	親子扉	B	スリットガラス	SAT	GW	W1:450 W2:900	2,100	40	S	DP	②	320	S	DP	－	－	－	g	90	St	HL	－	S	FWG	6.8	－	－	－	－	－	－	－	－	－	②	St	HL	④	シ	非	－	－	T	A1	－	○	－	－	－	－	－	付属金物一式、上部小庇(SUS製D100)、 扉内GW充填（80kg/m³）、サムターンカバー、フランス落とし
SD	07	2階設備置き場	1	03	両開扉	A	フラッシュ	SAT	GW	1,800	1,200	40	S	DP	②	240	S	DP	－	－	－	④	90	St	HL	－	－	－	－	－	－	－	－	－	－	－	－	－	⑤	St	HL	⑤	シ	空	－	－	T	A1	－	－	－	－	－	－	－	付属金物一式、上部小庇(SUS製D100)、 扉内GW充填（80kg/m³）
SD	08	2階講座室3･4	2	02	親子扉	B	スリットガラス	AT	RW	W1:450 W2:900	2,100	55	S	SOP	②	170	S	SOP	－	－	－	③	90	St	HL	－	S	T	12	－	－	－	－	－	－	－	－	－	②	St	HL	④	シ	サ	－	－	PH	A1	－	－	－	－	－	－	－	付属金物一式、、扉内GW充填（80kg/m³）、曇りフィルム ※フィルム参考品番：3M(SH2FGMR)

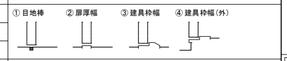
■略号・姿図

■建具形式		■開仕切り		■材　種		■ガラス構成		■網戸	
扉・戸		P	パーティション	S	スチール	S	単板	PP	ポリプロピレン
SD	鋼製扉・戸	SLW	スライディングウォール	St	ステンレス	PG	複層ガラス	PE	ポリエステル
LSD	鋼製軽量扉・戸	その他		A	アルミ	LG	合せガラス	GF	グラスファイバー
StD	ステンレス製扉・戸	Fu	襖	W	木			St	ステンレス
AD	アルミ製扉・戸	Sy	障子	P	合成樹脂	■ガラス			
WD	木製扉・戸	Fr	鋼製枠			FL	フロートガラス	■支持金物	
TD	強化ガラス扉・戸	SmW	防煙垂れ壁	■仕　上		FG	型板ガラス	AH	オートヒンジ
窓				AL	無着色陽極酸化皮膜 塗装複合皮膜	SG	すり板ガラス	AT	オート丁番
SW	鋼製窓			AC	着色陽極酸化皮膜 塗装複合皮膜	FSG	フロストガラス	T	丁番
StW	ステンレス製窓			HL	ヘアーライン	A	空気層	PH	ピボットヒンジ
AW	アルミ製窓			CHL	カラーヘアーライン	FWG	網入型板ガラス	PHT	ピボットヒンジ(点検口)
WW	木製窓			PHL	バイブレーション	PWG	網入磨き板ガラス	FH	フロアヒンジ
ガラリ				HDG	溶融亜鉛メッキ	T	強化ガラス	LH	ラバトリヒンジ
SG	鋼製ガラリ			VS	塩化ビニル鋼板	FTG	型板強化ガラス	HR	ハンガーレール
StG	ステンレス製ガラリ			PW	ポリエステル化粧合板	H	熱線吸収(ブルー)		
AG	アルミ製ガラリ			MW	メラミン化粧合板	G	熱線吸収(グレー)	■クローザ	
WG	木製ガラリ			DS	化粧フィルム	B	熱線吸収(ブロンズ)	A1	露出　ストップ付
PG	合成樹脂製ガラリ			MR	鏡面仕上	M	熱線反射ガラス	A2	露出　ストップ無
シャッター				SOP	合成樹脂調合ペイント	GB	ガラスブロック	B1	隠蔽　ストップ付
SS	シャッター			FE	フタル酸樹脂エナメル	Low-E	低放射ガラス	B2	隠蔽　ストップ無
SSH	シートシャッター			CL	クリヤラッカー	FG	耐熱強化ガラス		
OS	オーバースライダー			OS	オイルステイン	AL	アルミパネル(断熱)	■電気錠	
				2-FUE	フッ素樹脂塗装			E	電気錠
				DP	耐候性塗装	■ガラス取付材		ET	電気錠(テンキー式)
				BF	焼付塗装	S	シーリング	EC	電気錠(カードリーダ式)
						G	グレイジングガスケット		
						Z	ジッパーガスケット		

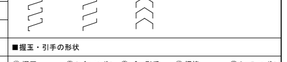
■枠の形状



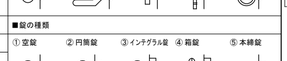
■沓摺の形状



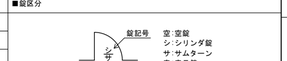
■がらりの形状(特記無き限り開口率35%)



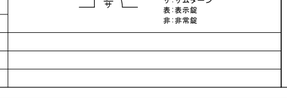
■握玉・引手の形状



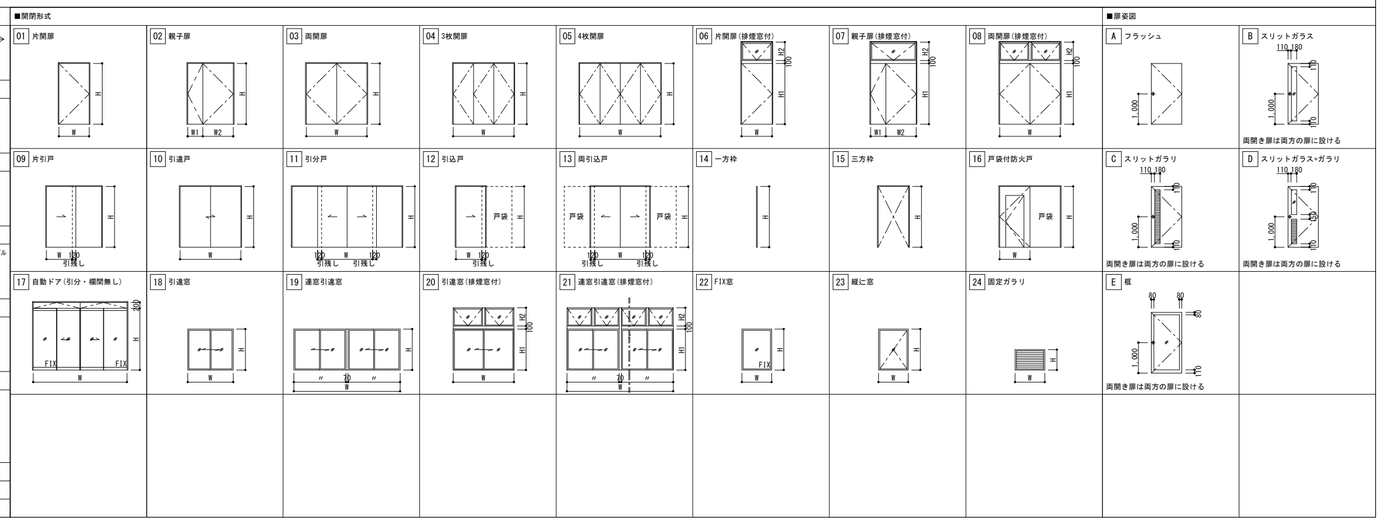
■錠の種類



■錠区分



■開閉形式



■扉姿図

訂正	月　日	事　項		
	. .		.	
	. .		.	
	. .		.	

株式会社ユニバァサル設計 UNIVERSAL DESIGN OFFICE INC.	事務所登録	東京本部一級建築士事務所 一級建築士事務所 東京都知事登録 第22736号			
	設計者	一級建築士　登録第362390号　星野　康二	法適合確認結果等		

工事名称	仮称芳野市民センター新築工事	図面名称	建具表(1)
作成	2025 年 2 月 17 日	承認	部長 課長 担当 製図
縮尺	A2:NS A3:NS	図面No.	13-03 確19
設計No.			

建具形式	建具番号	使用場所	数量	開閉形式		扉姿図		性能		内法寸法		扉・障子			枠				額縁			沓摺				皿板	ガラス				ガラリ						網戸			握玉・引手			錠				電源	持物支金	クローザ	特定防火	防火設備	常時閉鎖戸	煙感知器付	熱感知器付	ヒューズ付	遮煙性能付	備考
								気密	断熱遮音	W	H	厚	材種	仕上	形状	見込	材種	仕上	見込	材種	仕上	形状	見込	材種	仕上		構成	材種	厚	取付材	形状	材種	仕上	W	H	開口率	枠材種	枠仕上	網材種	形状	材種	仕上	種類	区分 外	区分 内	電気錠									
LSD	01	1階職員会議室	2	09	片引戸	B	スリットガラス	−	−	900	2,100	40	S	SOP	⑤	110	S	SOP	−	−	−	②	40	St	HL	−	S	FTG	4	−	−	−	−	−	−	−	−	−	−	−	−	③	St	HL	④	シ	サ	−	−	HR	B1	−	−	−	−	−	−	−	付属金物一式
																												−	−																								
																												−	−																								
LSD	02	1階事務室	1	12	引込戸	B	スリットガラス	−	−	1,000	2,100	40	S	SOP	⑤	130	S	SOP	−	−	−	②	40	St	HL	−	S	FTG	4	−	−	−	−	−	−	−	−	−	−	−	−	−	③	St	HL	④	シ	サ	−	−	HR	B1	−	−	−	−	−	−	−	付属金物一式
																												−	−																								
LSD	03	1階更衣室	2	09	片引戸	D	スリットガラス+ガラリ	−	−	800	2,100	40	S	SOP	⑤	110	S	SOP	−	−	−	②	40	St	HL	−	S	FTG	4	−	−	−	②	S	SOP	180	865	30	−	−	−	③	St	HL	④	シ	サ	−	−	HR	B1	−	−	−	−	−	−	−	付属金物一式
																												−	−																								
LSD	04	1階休憩室	1	09	片引戸	B	スリットガラス	−	−	900	2,100	40	S	SOP	⑤	110	S	SOP	−	−	−	②	40	St	HL	−	S	FTG	4	−	−	−	−	−	−	−	−	−	−	−	−	−	③	St	HL	④	シ	サ	−	−	HR	B1	−	−	−	−	−	−	−	付属金物一式
																												−	−																								
LSD	05	1階倉庫1	1	09	片引戸	D	スリットガラス+ガラリ	−	−	900	2,100	40	S	SOP	⑤	110	S	SOP	−	−	−	②	40	St	HL	−	S	FTG	4	−	−	−	②	S	SOP	180	865	30	−	−	−	③	St	HL	④	シ	サ	−	−	HR	B1	−	−	−	−	−	−	−	付属金物一式
																												−	−																								
LSD	06	印刷室	1	01	片開扉	D	スリットガラス+ガラリ	−	−	900	2,100	40	S	SOP	①	110	S	SOP	−	−	−	②	40	St	HL	−	S	FTG	4	−	−	−	②	S	SOP	180	865	30	−	−	−	②	St	HL	④	空	空	−	−	PH	A1	−	−	−	−	−	−	−	付属金物一式
																												−	−																								
LSD	07	予備室	2	01	片開扉	D	スリットガラス+ガラリ	−	−	900	2,100	40	S	SOP	①	110	S	SOP	−	−	−	②	40	St	HL	−	S	FTG	4	−	−	−	②	S	SOP	180	865	30	−	−	−	②	St	HL	④	シ	サ	−	−	PH	A1	−	−	−	−	−	−	−	付属金物一式
																												−	−																								
LSD	08	夜間受付	1	01	片開扉	B	スリットガラス	−	−	850	2,100	40	S	SOP	①	110	S	SOP	−	−	−	②	40	St	HL	−	S	FTG	4	−	−	−	−	−	−	−	−	−	−	−	−	−	②	St	HL	④	シ	サ	−	−	PH	A1	−	−	−	−	−	−	−	付属金物一式
																												−	−																								
LSD	09	HWC	1	09	片引戸	D	スリットガラス+ガラリ	−	−	900	2,100	40	S	SOP	⑤	120	S	SOP	−	−	−	②	40	St	HL	−	S	FTG	4	−	−	−	②	S	SOP	180	865	30	−	−	−	③	St	HL	④	表	サ	−	−	HR	B1	−	−	−	−	−	−	−	付属金物一式
																												−	−																								
LSD	10	1階倉庫2	1	01	片開扉	D	スリットガラス+ガラリ	−	−	850	1,700	40	S	SOP	①	110	S	SOP	−	−	−	②	40	St	HL	−	S	FTG	4	−	−	−	②	S	SOP	180	865	30	−	−	−	②	St	HL	④	シ	サ	−	−	PH	A1	−	−	−	−	−	−	−	付属金物一式
																												−	−																								
LSD	11	2階講座室1	1	09	片引戸	B	スリットガラス	−	−	1,250	2,100	40	S	SOP	⑤	170	S	SOP	−	−	−	②	40	St	HL	−	S	FTG	4	−	−	−	−	−	−	−	−	−	−	−	−	−	③	St	HL	④	シ	サ	−	−	HR	B1	−	−	−	−	−	−	−	付属金物一式
																												−	−																								
LSD	12	2階講座室1・2	2	09	片引戸	B	スリットガラス	−	−	900	2,100	40	S	SOP	⑤	170	S	SOP	−	−	−	②	40	St	HL	−	S	FTG	4	−	−	−	−	−	−	−	−	−	−	−	−	−	③	St	HL	④	シ	サ	−	−	HR	B1	−	−	−	−	−	−	−	付属金物一式
																												−	−																								
LSD	13	2階倉庫3	1	11	引分戸	D	スリットガラス+ガラリ	−	−	1,510	2,100	40	S	SOP	⑤	110	S	SOP	−	−	−	−	−	−	−	−	S	FTG	4	−	−	−	②	S	SOP	180	865	30	−	−	−	③	St	HL	④	シ	サ	−	−	HR	B1	−	−	−	−	−	−	−	付属金物一式
																												−	−																								

■略号・姿図

■建具形式

扉・戸		
SD	鋼製扉・戸	
LSD	鋼製軽量扉・戸	
StD	ステンレス製扉・戸	
AD	アルミ製扉・戸	
WD	木製扉・戸	
TD	強化ガラス扉・戸	
窓		
SW	鋼製窓	
StW	ステンレス製窓	
AW	アルミ製窓	
WW	木製窓	
ガラリ		
SG	鋼製ガラリ	
StG	ステンレス製ガラリ	
AG	アルミ製ガラリ	
WG	木製ガラリ	
PG	合成樹脂製ガラリ	
シャッター		
SS	シャッター	
SSH	シートシャッター	
OS	オーバースライダー	

■間仕切り

P	パーティション	
SLW	スライディングウォール	
その他		
Fu	襖	
Sy	障子	
Fr	鋼製枠	
SmW	防煙垂れ壁	

■仕　上

AL	無着色陽極酸化皮膜 塗装複合皮膜
AC	着色陽極酸化皮膜 塗装複合皮膜
HL	ヘアーライン
CHL	カラーヘアーライン
PHL	バイブレーション
HDG	溶融亜鉛メッキ
VS	塩化ビニル鋼板
PW	ポリエステル化粧合板
MW	メラミン化粧合板
DS	化粧フィルム
MR	鏡面仕上
SOP	合成樹脂調合ペイント
FE	フタル酸樹脂エナメル
CL	クリヤラッカー
OS	オイルステイン
2-FUE	フッ素樹脂塗装
DP	耐候性塗装
BF	焼付塗装

■材　種

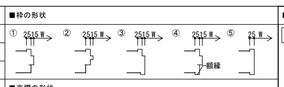
S	スチール
St	ステンレス
A	アルミ
W	木
P	合成樹脂

■ガラス構成

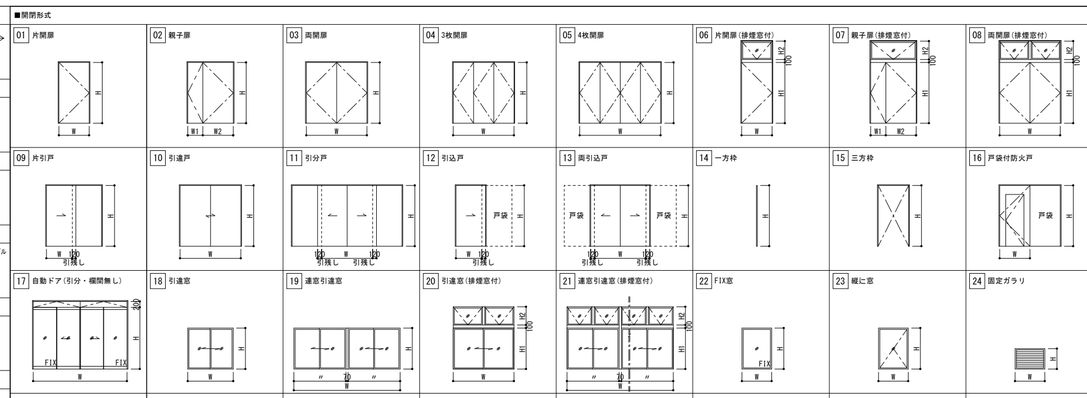
S	単板
PG	複層ガラス
LG	合せガラス
■ガラス	
FL	フロートガラス
FG	型板ガラス
SG	すり板ガラス
FSG	フロストガラス
A	空気層
FWG	網入型板ガラス
PWG	網入磨き板ガラス
T	強化ガラス
FTG	型板強化ガラス
H	熱線吸収(ブルー)
G	熱線吸収(グレー)
B	熱線吸収(ブロンズ)
M	熱線反射ガラス
GB	ガラスブロック
Low-E	低放射ガラス
FG	耐熱強化ガラス
AL	アルミパネル(断熱)
■ガラス取付材	
S	シーリング
G	グレイジングガスケット
Z	ジッパーガスケット

■網戸

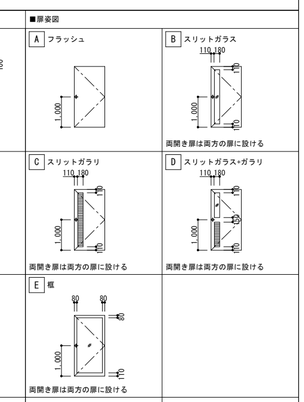
PP	ポリプロピレン
PE	ポリエステル
GF	グラスファイバー
St	ステンレス
■金物の形状	
■沓摺の形状	
■ガラリの形状(特記無き限り開口率35%)	
■握玉・引手の形状	
■クローザ	
A1	露出　ストップ付
A2	露出　ストップ無
B1	隠蔽　ストップ付
B2	隠蔽　ストップ無
■電気錠	
E	電気錠
ET	電気錠(テンキー式)
EC	電気錠(カードリーダ式)



■開閉形式



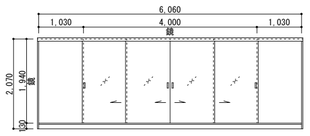
■扉姿図



| | | | | | | | | | | | | | | | | | | |

建具形式	建具番号	使用場所	数量	開閉形式		扉姿図		性能		内法寸法		扉・障子			枠				額縁			沓摺				皿板	ガラス			ガラリ						網戸			握玉・引手			錠				電源	持物支金	クローザ	特定防火	防火設備	常時閉鎖戸	煙感知器付	熱感知器付	ヒューズ付	遮煙性能付	備考
								気密	断熱遮音	W	H	厚	材種	仕上	形状	見込	材種	仕上	見込	材種	仕上	形状	見込	材種	仕上		構成	材種	厚	取付材	形状	材種	仕上	W	H	開口率	枠材種	枠仕上	網材種	形状	材種	仕上	種類	区分 外	区分 内	電気錠									
Fr	01	1階WC	2	15	三方枠	–	–	–	–	900	2,100	–	–	–	⑤	120	S	SOP	–	–	–	②	–	St	HL	–	–	–	–	–	–	–	–	–	–	–	–	–	–	–	–	–	–	–	–	–	–	–	–	–	–	–
Fr	02	2階WC、2階給湯室	3	15	三方枠	–	–	–	–	900	2,100	–	–	–	⑤	120	S	SOP	–	–	–	–	–	–	–	–	–	–	–	–	–	–	–	–	–	–	–	–	–	–	–	–	–	–	–	–	–	–	–	–	–	–	–
Fr	03	1、2階WC	4	14	一方枠	–	–	–	–	–	2,800	–	–	–	⑤	120	S	SOP	–	–	–	–	–	–	–	–	–	–	–	–	–	–	–	–	–	–	–	–	–	–	–	–	–	–	–	–	–	–	–	–	–	–	–
SSD	01	風除室(外部側)	1	17	自動ドア(引分・棚間無)	–	–	–	–	3,960	2,800	70	St	PHL	–	150	St	PHL	–	St	PHL	–	–	–	–	–	S	T	12		–	–	–	–	–	–	–	–	–	–	–	–	–	–	○	–	–	–	–	–	–	–	–	付属金物一式、衝突防止サイン φ30 @300(SUS両面)、 衝突防止ガード(内)、飛散防止フィルム、停電時手動開放、 安全センサー、オートドアシリンダー錠、 センサー個別スポット対応、開閉装置上部無目内蔵納まり、 スイッチ(電気工事)
SSD	02	風除室(内部)	1	17	自動ドア(引分・棚間無)	–	–	–	–	3,960	2,800	70	St	PHL	–	150	St	PHL	–	St	PHL	–	–	–	–	–	S	T	12		–	–	–	–	–	–	–	–	–	–	–	–	–	–	○	–	–	–	–	–	–	–	–	付属金物一式、衝突防止サイン φ30 @300(SUS両面)、 衝突防止ガード(内)、飛散防止フィルム、停電時手動開放、 安全センサー、オートドアシリンダー錠、 センサー個別スポット対応、開閉装置上部無目内蔵納まり、 スイッチ(電気工事)
SLW	01	2階講座室	2	–	移動間仕切り	–	–	–	GW	7,105	2,800	移動間仕切り詳細図参照																																									付属金物一式、遮音性能：54.0dB以上、潜り戸付
SS	01	1階ロビー	1	–	電動グリルシャッター	–	–	–	–	3,805	2,800	φ13	St	HL	レール	–	St	HL	–	–	–	–	–	–	–	–	–	–	–	–	–	–	–	–	–	–	–	–	–	–	–	–	–	○	–	–	–	–	–	–	–	–	付属金物一式、シャッターレール、天井内ケース、 スイッチボックス、上部グリル(H700)、下部スラット(カラー鋼板) 単相電源
SS	02	1階公民館受付	1	–	電動グリルシャッター	–	–	–	–	1,200	2,070	φ13	St	HL	レール	–	St	HL	–	–	–	–	–	–	–	–	–	–	–	–	–	–	–	–	–	–	–	–	–	–	–	–	○	–	–	–	–	–	–	–	–	付属金物一式、シャッターレール、天井内ケース、 スイッチボックス、上部グリル(H700)、下部スラット
WD	01	講座室3	1	–	4枚引分戸	A	フラッシュ	–	–	図示	図示	30	W	MW	–	–	W	SOP	–	–	–	–	–	–	–	–	–	–	–	–	–	–	–	–	–	–	–	–	–	–	–	–	–	–	–	–	–	–	–	–	付属金物一式、錠 t5(飛散防止フィルム)、引手、戸車、 フラットレール

WD
01



■略号・姿図

■建具形式		■開閉切り		■材　種		■ガラス構成		■網戸	
扉・戸		P	パーティション	S	スチール	S	単板	PP	ポリプロピレン
SD	鋼製扉・戸	SLW	スライディングウォール	St	ステンレス	PG	複層ガラス	PE	ポリエステル
LSD	鋼製軽量扉・戸	その他		A	アルミ	LG	合せガラス	GF	グラスファイバー
StD	ステンレス製扉・戸	Fu	襖	W	木			St	ステンレス
AD	アルミ製扉・戸	Sy	障子	P	合成樹脂	■ガラス			
WD	木製扉・戸	Fr	鋼製枠			FL	フロートガラス	■支持金物	
TD	強化ガラス扉・戸	SmW	防煙垂れ壁	■仕　上		FG	型板ガラス	AH	オートヒンジ
窓				AL	無着色陽極酸化皮膜 塗装複合皮膜	SG	すり板ガラス	AT	オート丁番
SW	鋼製窓			AC	着色陽極酸化皮膜 塗装複合皮膜	FSG	フロストガラス	T	丁番
StW	ステンレス製窓			HL	ヘアーライン	A	空気層	PH	ピボットヒンジ
AW	アルミ製窓			CHL	カラーヘアーライン	FWG	網入型板ガラス	PHT	ピボットヒンジ(点検口)
WW	木製窓			PHL	パイブレーション	PWG	網入磨き板ガラス	FH	フロアヒンジ
ガラリ				HDG	溶融亜鉛メッキ	T	強化ガラス	LH	ラバトリヒンジ
SG	鋼製ガラリ			VS	塩化ビニル鋼板	FTG	型板強化ガラス	HR	ハンガーレール
StG	ステンレス製ガラリ			PW	ポリエステル化粧合板	H	熱線吸収(ブルー)		
AG	アルミ製ガラリ			MW	メラミン化粧合板	G	熱線吸収(グレー)	■クローザ	
WG	木製ガラリ			DS	化粧フィルム	B	熱線吸収(ブロンズ)	A1	露出　ストップ付
PG	合成樹脂製ガラリ			MR	鏡面仕上	M	熱線反射ガラス	A2	露出　ストップ無
シャッター				SOP	合成樹脂調合ペイント	GB	ガラスブロック	B1	隠蔽　ストップ付
SS	シャッター			FE	フタル酸樹脂エナメル	Low-E	低放射ガラス	B2	隠蔽　ストップ無
SSH	シートシャッター			CL	クリヤラッカー	FG	耐熱強化ガラス		
OS	オーバースライダー			OS	オイルステイン	AL	アルミパネル(断熱)	■電気錠	
				2-FUE	フッ素樹脂塗装			E	電気錠
				DP	耐候性塗装	■ガラス取付材		ET	電気錠(テンキー式)
				BF	焼付塗装	S	シーリング	EC	電気錠(カードリーダ式)
						G	グレイジングガスケット		
						Z	ジッパーガスケット		

■枠の形状

■沓摺の形状

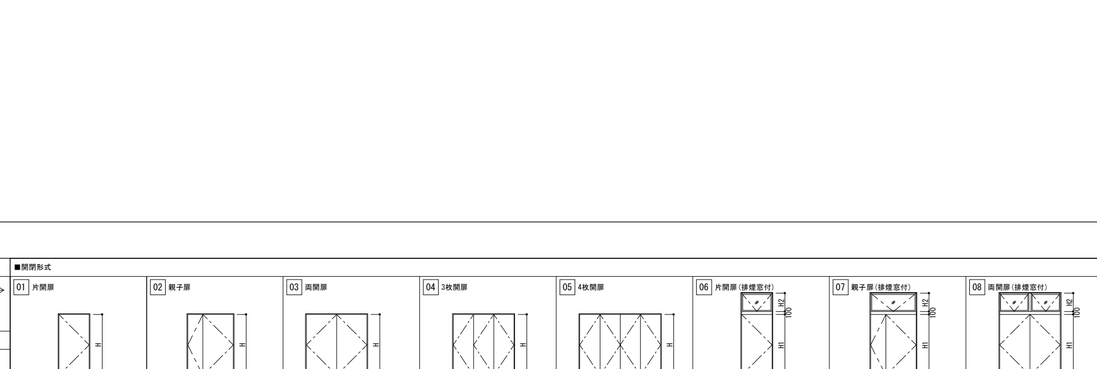
■がらりの形状(特記無き限り開口率35%)

■握玉・引手の形状

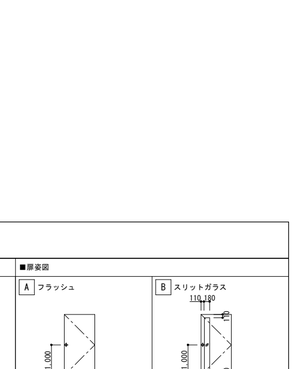
■錠の種類

■錠区分

■開閉形式



■扉姿図



訂正	月　日	事　項		
	. .		.	
	. .		.	
	. .		.	

株式会社ユニバァサル設計
UNIVERSAL DESIGN OFFICE INC.

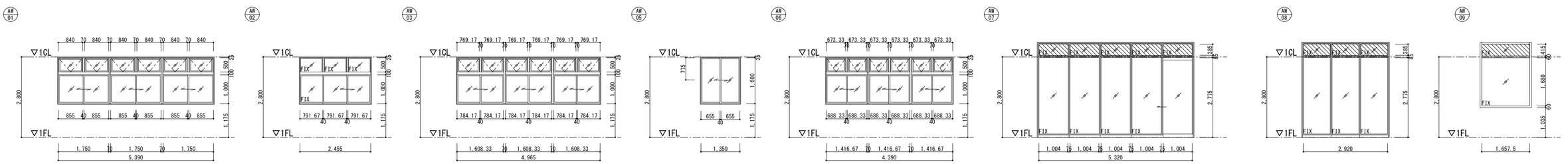
事務所登録　東京本部一級建築士事務所
一級建築士事務所 東京都知事知事登録 第22736号

設計者　一級建築士　登録第362390号　星野　康二

法適合確認結果等

工事名称	仮称芳野市民センター新築工事	図面名称	建具表(3)	縮尺	A2:NS A3:NS	図面No.	13-05 確21
作成	2025 年 2 月 17 日	承認		部長　課長　担当　製図		設計No.	

建具形式	建具番号	使用場所	数量	開閉形式		扉姿図		性能		内法寸法		扉・障子			枠				額縁			沓摺				皿板	ガラス			ガラリ				網戸			握玉・引手			錠					電源	持金物	クローザ	特定防火	防火設備	常時閉鎖戸	煙感知器付	熱感知器付	ヒューズ付	遮煙性能付	備考
								気密	断熱遮音	W	H	厚	材種	仕上	形状	見込	材種	仕上	見込	材種	仕上	形状	見込	材種	仕上		構成	材種	厚	取付材	形状	材種	仕上	W	H	開口率	枠材種	枠仕上	網材種	形状	材種	仕上	種類	区分 外	区分 内	電気錠									
AW 消	01	1階ロビー	1	21	連窓引違窓(排)	–	–	–	–	図示	図示	70	A	AC	–	–	–	–	190	S	SOP	–	–	–	–	○	PG	Low-E(断熱)	6	–	–	–	–	–	–	–	St	HL	St	–	–	–	–	–	–	–	–	–	–	–	–	–	3連窓、付属金物一式、隠蔽ワンタッチオペレーター クレセント、ブラインドボックス
																											A	12																								
																											T	4																								
AW	02	1階ロビー	1	–	引違+FIX窓	–	–	–	–	図示	図示	70	A	AC	–	–	–	–	190	S	SOP	–	–	–	–	○	PG	Low-E(断熱)	6	–	–	–	–	–	–	–	St	HL	St	–	–	–	–	–	–	–	–	–	–	–	–	–	3連窓、付属金物一式 クレセント、ブラインドボックス
																											A	12																								
																											T	4																								
AW 消	03	1階職員会議室	1	21	連窓引違窓(排)	–	–	–	–	図示	図示	70	A	AC	–	–	–	–	190	S	SOP	–	–	–	–	○	PG	Low-E(断熱)	6	–	–	–	–	–	–	–	St	HL	St	–	–	–	–	–	–	–	–	–	–	–	–	–	3連窓、付属金物一式、隠蔽ワンタッチオペレーター クレセント、ブラインドボックス
																											A	12																								
																											T	4																								
AW	04	1階更衣室(女)	1	23	縦辷窓	–	–	–	–	600	1,200	70	A	AC	–	–	–	–	190	S	SOP	–	–	–	–	○	PG	Low-E(断熱)	6	–	–	–	–	–	–	–	St	HL	St	–	–	–	–	–	–	–	–	–	–	–	–	–	付属金物一式 ハンドル、ブラインドボックス
																											A	12																								
																											FWG	6.8																								
AW	05	1階休憩室	1	18	引違窓	–	–	–	–	図示	図示	70	A	AC	–	–	–	–	190	S	SOP	–	–	–	–	○	PG	Low-E(断熱)	6	–	–	–	–	–	–	–	St	HL	St	–	–	–	–	○	–	–	–	–	–	–	–	–	付属金物一式 クレセント、ブラインドボックス
																											A	12																								
																											T	4																								
AW	06	1階事務室	1	21	連窓引違窓(排)	–	–	–	–	図示	図示	70	A	AC	–	–	–	–	190	S	SOP	–	–	–	–	○	PG	Low-E(遮熱)	6	–	–	–	–	–	–	–	St	HL	St	–	–	–	–	–	–	–	–	–	–	–	–	–	3連窓、付属金物一式、隠蔽ワンタッチオペレーター クレセント、ブラインドボックス
																											A	12																								
																											T	4																								
AW 消	07	1階談話コーナー	1	–	FIX窓 +片引戸	–	–	–	–	図示	図示	70	A	AC	–	–	–	–	270	S	SOP	–	–	–	–	○	PG	Low-E(遮熱)	6	–	–	–	–	–	–	–	–	–	–	–	–	–	④	シ	サ	–	–	–	–	–	–	–	–	付属金物一式、衝突防止サイン φ30 @300(SUS両面)、 ハッチ部ガラス裏面：ケイカル板t20 握りバー、ブラインドボックス
																											A	12																								
																											T	4																								
AW	08	1階階段	1	–	FIX窓 3連	–	–	–	–	図示	図示	70	A	AC	–	–	–	–	270	S	SOP	–	–	–	–	○	PG	Low-E(遮熱)	6	–	–	–	–	–	–	–	–	–	–	–	–	–	–	–	–	–	–	–	–	–	–	–	付属金物一式、衝突防止サイン φ30 @300(SUS両面)、 ハッチ部ガラス裏面：ケイカル板t20 ブラインドボックス
																											A	12																								
																											T	4																								
AW	09	1階西側廊下	1	–	FIX段窓	–	–	–	–	図示	図示	70	A	AC	–	–	–	–	270	S	SOP	–	–	–	–	○	PG	Low-E(遮熱)	6	–	–	–	–	–	–	–	–	–	–	–	–	–	–	–	–	–	–	–	–	–	–	–	付属金物一式 ハッチ部ガラス裏面：ケイカル板t20
																											A	12																								
																											T	4																								
AW	10	1階印刷室	1	22	FIX窓	–	–	–	–	2,445	950	70	A	AC	–	–	–	–	110	S	SOP	–	–	–	–	–	S	T	5																										付属金物一式
																											–	–	–	–	–	–	–	–	–	–	–	–	–	–	–	–	–	–	–	–	–	–	–	–	–	
																											–	–																								



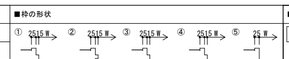
■略号・姿図

■建具形式		■間仕切り		■材　種		■ガラス構成		■網戸	
扉・戸		P	パーティション	S	スチール	S	単板	PP	ポリプロピレン
SD	鋼製扉・戸	SLW	スライディングウォール	St	ステンレス	PG	複層ガラス	PE	ポリエステル
LSD	鋼製軽量扉・戸	その他		A	アルミ	LG	合せガラス	GF	グラスファイバー
StD	ステンレス製扉・戸	Fu	襖	W	木			St	ステンレス
AD	アルミ製扉・戸	Sy	障子	P	合成樹脂	■ガラス			
WD	木製扉・戸	Fr	鋼製枠			FL	フロートガラス	■支持金物	
TD	強化ガラス扉・戸	SmW	防煙垂れ壁	■仕　上		FG	型板ガラス	AH	オートヒンジ
窓				AL	無着色陽極酸化皮膜 塗装複合皮膜	SG	すり板ガラス	AT	オート丁番
SW	鋼製窓			AC	着色陽極酸化皮膜 塗装複合皮膜	FSG	フロストガラス	T	丁番
StW	ステンレス製窓			HL	ヘアーライン	A	空気層	PH	ピボットヒンジ
AW	アルミ製窓			CHL	カラーヘアーライン	FWG	網入型板ガラス	PHT	ピボットヒンジ(点検口)
WW	木製窓			PHL	パイブレーション	PWG	網入磨き板ガラス	FH	フロアヒンジ
ガラリ				HDG	溶融亜鉛メッキ	T	強化ガラス	LH	ラバトリヒンジ
SG	鋼製ガラリ			VS	塩化ビニル鋼板	FTG	型板強化ガラス	HR	ハンガーレール
StG	ステンレス製ガラリ			PW	ポリエステル化粧合板	H	熱線吸収(ブルー)		
AG	アルミ製ガラリ			MW	メラミン化粧合板	G	熱線吸収(グレー)	■クローザ	
WG	木製ガラリ			DS	化粧フィルム	B	熱線吸収(ブロンズ)	A1	露出　ストップ付
PG	合成樹脂製ガラリ			MR	鏡面仕上	M	熱線反射ガラス	A2	露出　ストップ無
シャッター				SOP	合成樹脂調合ペイント	GB	ガラスブロック	B1	隠蔽　ストップ付
SS	シャッター			FE	フタル酸樹脂エナメル	Low-E	低放射ガラス	B2	隠蔽　ストップ無
SSH	シートシャッター			CL	クリヤラッカー	FG	耐熱強化ガラス		
OS	オーバースライダー			OS	オイルステイン	AL	アルミパネル(断熱)	■電気錠	
				2-FUE	フッ素樹脂塗装			E	電気錠
				DP	耐候性塗装	■ガラス取付材		ET	電気錠(テンキー式)
				BF	焼付塗装	S	シーリング	EC	電気錠(カードリーダ式)
						G	グレイジングガスケット		
						Z	ジッパーガスケット		

■枠の形状

■沓摺の形状

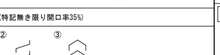
■がらりの形状(特記無き限り開口率35%)



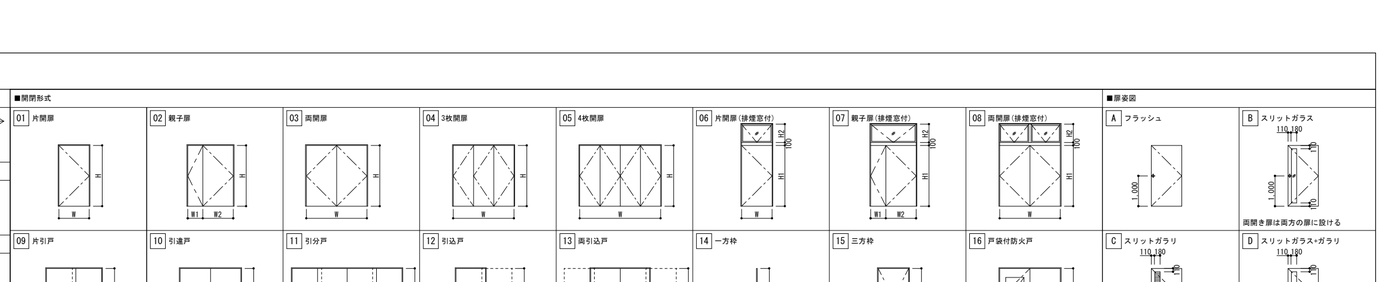
■握玉・引手の形状

■錠の種類

■錠区分



■開閉形式



■扉姿図

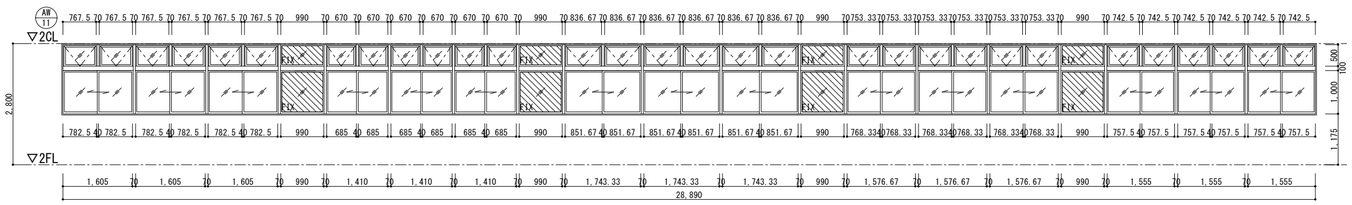
BT	月	日	事　項		
正					

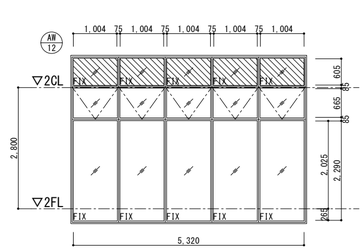
株式会社ユニバァサル設計
UNIVERSAL DESIGN OFFICE INC.

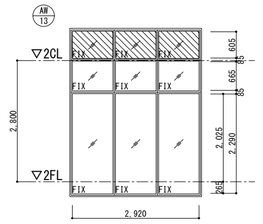
事務所登録	東京本部一級建築士事務所 一級建築士事務所 東京都知事登録 第22736号		
設計者	一級建築士　登録第362390号　星野　康二	法適合確認結果等	

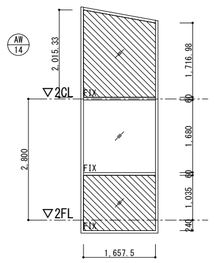
工事名称	仮称芳野市民センター新築工事	図面名称	建具表(4)	縮尺	A2:NS A3:NS	図面No.	13-06 確22
作成	2025 年 2 月 17 日	承認		部長　課長　担当　製図		設計No.	

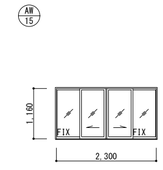
建具形式	建具番号	使用場所	数量	開閉形式		扉姿図		性能		内法寸法		扉・障子			枠				額縁			沓摺				皿板	ガラス			ガラリ					網戸			握玉・引手			錠											備考
								気密	断熱遮音	W	H	厚	材種	仕上	形状	見込	材種	仕上	見込	材種	仕上	形状	見込	材種	仕上		構成	材種	厚	取付材	形状	材種	仕上	W	H	開口率	枠材種	枠仕上	網材種	形状	材種	仕上	種類	区分 外	区分 内	電気錠	電源	持物支金	クローザ	特定防火	防火設備	常時閉鎖戸	煙感知器付	熱感知器付	ヒューズ付	遮煙性能付	
AW消	11	2階講座室	1	－	連窓引違窓(排)	－	－	－	－	図示	図示	70	A	AC	－	－	－	－	190	S	SOP	－	－	－	－	○	PG	Low-E(断熱)	6	－	－	－	－	－	－	－	St	HL	St	－	－	－	－	－	－	－	－	－	－	－	－	－	－	付属金物一式、隠蔵ワンタッチオペレーター クレセント、ブラインドボックス ハッチ部ガラス裏面：ケイカル板t20
																											A	12																									
																											T	4																									
AW	12	2階吹抜け	1	－	連窓FIX窓(排)5連	－	－	－	－	図示	図示	70	A	AC	－	－	－	－	300	S	SOP	－	－	－	－	○	PG	Low-E(遮熱)	6	－	－	－	－	－	－	－	－	－	－	－	－	－	－	－	－	－	－	－	－	－	－	－	付属金物一式、隠蔵ワンタッチオペレーター ハッチ部ガラス裏面：ケイカル板t20
																											A	12																									
																											T	4																									
AW	13	2階階段	1	－	連窓FIX窓3連	－	－	－	－	図示	図示	70	A	AC	－	－	－	－	300	S	SOP	－	－	－	－	○	PG	Low-E(遮熱)	6	－	－	－	－	－	－	－	－	－	－	－	－	－	－	－	－	－	－	－	－	－	－	－	付属金物一式、隠蔵ワンタッチオペレーター ハッチ部ガラス裏面：ケイカル板t20
																											A	12																									
																											T	4																									
AW消	14	2階西側廊下	1	－	FIX段窓	－	－	－	－	図示	図示	70	A	AC	－	－	－	－	270	S	SOP	－	－	－	－	○	PG	Low-E(遮熱)	6	－	－	－	－	－	－	－	－	－	－	－	－	－	－	－	－	－	－	－	－	－	－	－	付属金物一式 ハッチ部ガラス裏面：ケイカル板t20
																											A	12																									
																											T	4																									
AW	15	夜間受付	1	－	引分窓	－	－	－	－	図示	図示	70	A	AC	－	－	－	－	110	S	SOP	－	－	－	－	－	S	T	5	－	－	－	－	－	－	－	－	－	－	－	－	－	－	－	－	－	－	－	－	－	－	－	－	クレセント、付属金物一式
																											－	－																									
																											－	－																									
AG	01	2階東側外壁	1	24	固定ガラリ	－	－	－	－	1,850(ガラリW)	350(ガラリH)	－	－	－	－	－	－	－	－	－	－	－	－	－	－	○	－	－			②	A	AC	－	－	40	－	－	－	－	－	－	－	－	－	－	－	－	－	○	－	－	－	－	－	付属金物一式、チャンバー取付金物、SUS製防鳥網付、FD付(設備工事)
AG	02	2階東側外壁	1	24	固定ガラリ	－	－	－	－	1850(ガラリW)	850(ガラリH)	－	－	－	－	－	－	－	－	－	－	－	－	－	－	○	－	－			②	A	AC	－	－	40	－	－	－	－	－	－	－	－	－	－	－	－	－	○	－	－	－	－	－	付属金物一式、チャンバー取付金物、SUS製防鳥網付、FD付(設備工事)
AG	03	2階東側外壁	1	24	固定ガラリ	－	－	－	－	850(ガラリW)	750(ガラリH)	－	－	－	－	－	－	－	－	－	－	－	－	－	－	○	－	－			②	A	AC	－	－	40	－	－	－	－	－	－	－	－	－	－	－	－	－	○	－	－	－	－	－	付属金物一式、チャンバー取付金物、SUS製防鳥網付、FD付(設備工事)
AG	04	2階設備置き場外壁	1	24	固定ガラリ	－	－	－	－	1,500(ガラリW)	350(ガラリH)	－	－	－	－	－	－	－	－	－	－	－	－	－	－	○	－	－			②	A	AC	－	－	40	－	－	－	－	－	－	－	－	－	－	－	－	－	－	－	－	－	－	－	付属金物一式、チャンバー取付金物、SUS製防鳥網付











■略号・姿図

■建具形式		■開仕切り		■材　種		■ガラス構成		■網戸	
扉・戸		P	パーティション	S	スチール	S	単板	PP	ポリプロピレン
SD	鋼製扉・戸	SLW	スライディングウォール	St	ステンレス	PG	複層ガラス	PE	ポリエステル
LSD	鋼製軽量扉・戸	その他		A	アルミ	LG	合せガラス	GF	グラスファイバー
StD	ステンレス製扉・戸	Fu	襖	W	木			St	ステンレス
AD	アルミ製扉・戸	Sy	障子	P	合成樹脂	■ガラス			
WD	木製扉・戸	Fr	鋼製枠			FL	フロートガラス	■支持金物	
TD	強化ガラス扉・戸	SmW	防煙垂れ壁	■仕　上		FG	型板ガラス	AH	オートヒンジ
窓				AL	無着色陽極酸化皮膜 塗装複合皮膜	SG	すり板ガラス	AT	オート丁番
SW	鋼製窓			AC	着色陽極酸化皮膜 塗装複合皮膜	FSG	フロスト型板ガラス	T	丁番
StW	ステンレス製窓			HL	ヘアーライン	A	空気層	PH	ピボットヒンジ
AW	アルミ製窓			CHL	カラーヘアーライン	FWG	網入型板ガラス	PHT	ピボットヒンジ(点検口)
WW	木製窓			PHL	パイブレーション	PWG	網入磨き板ガラス	FH	フロアヒンジ
ガラリ				HDG	溶融亜鉛メッキ	T	強化ガラス	LH	ラバトリヒンジ
SG	鋼製ガラリ			VS	塩化ビニル鋼板	FTG	型板強化ガラス	HR	ハンガーレール
StG	ステンレス製ガラリ			PW	ポリエステル化粧合板	H	熱線吸収(ブルー)		
AG	アルミ製ガラリ			MW	メラミン化粧合板	G	熱線吸収(グレー)	■クローザ	
WG	木製ガラリ			DS	化粧フィルム	B	熱線吸収(ブロンズ)	A1	露出　ストップ付
PG	合成樹脂製ガラリ			MR	鏡面仕上	M	熱線反射ガラス	A2	露出　ストップ無
シャッター				SOP	合成樹脂調合ペイント	GB	ガラスブロック	B1	隠蔽　ストップ付
SS	シャッター			FE	フタル酸樹脂エナメル	Low-E	低放射ガラス	B2	隠蔽　ストップ無
SSH	シートシャッター			CL	クリヤラッカー	FG	耐熱強化ガラス		
OS	オーバースライダー			OS	オイルステイン	AL	アルミパネル(断熱)	■電気錠	
				2-FUE	フッ素樹脂塗装			E	電気錠
				DP	耐候性塗装	■ガラス取付材		ET	電気錠(テンキー式)
				BF	焼付塗装	S	シーリング	EC	電気錠(カードリーダ式)
						G	グレイジングガスケット		
						Z	ジッパーガスケット		

■枠の形状

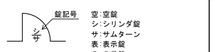
■沓摺の形状

■がらりの形状(特記無き限り開口率35%)

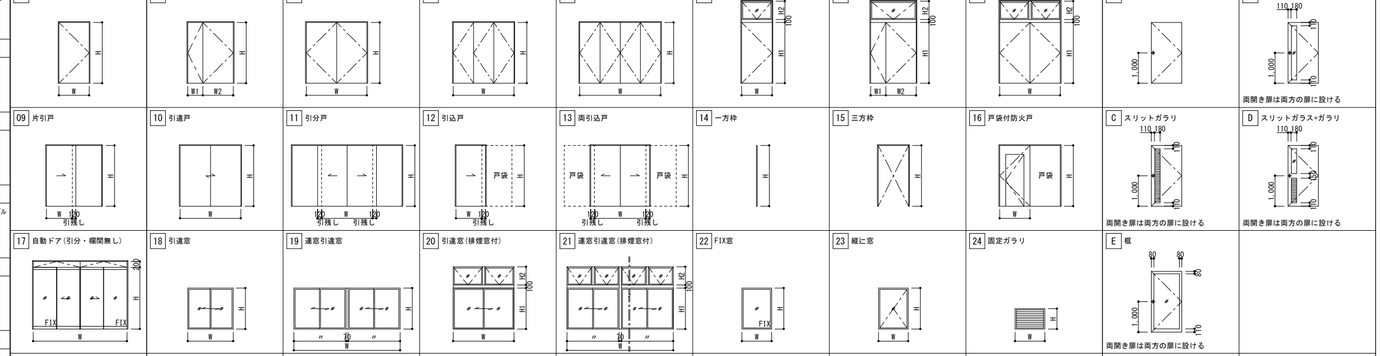
■握玉・引手の形状

■錠の種類

■錠区分



■開閉形式



■扉姿図

訂正	月　日	事　項		
	. .		.	
	. .		.	
	. .		.	

株式会社ユニバァサル設計
UNIVERSAL DESIGN OFFICE INC.

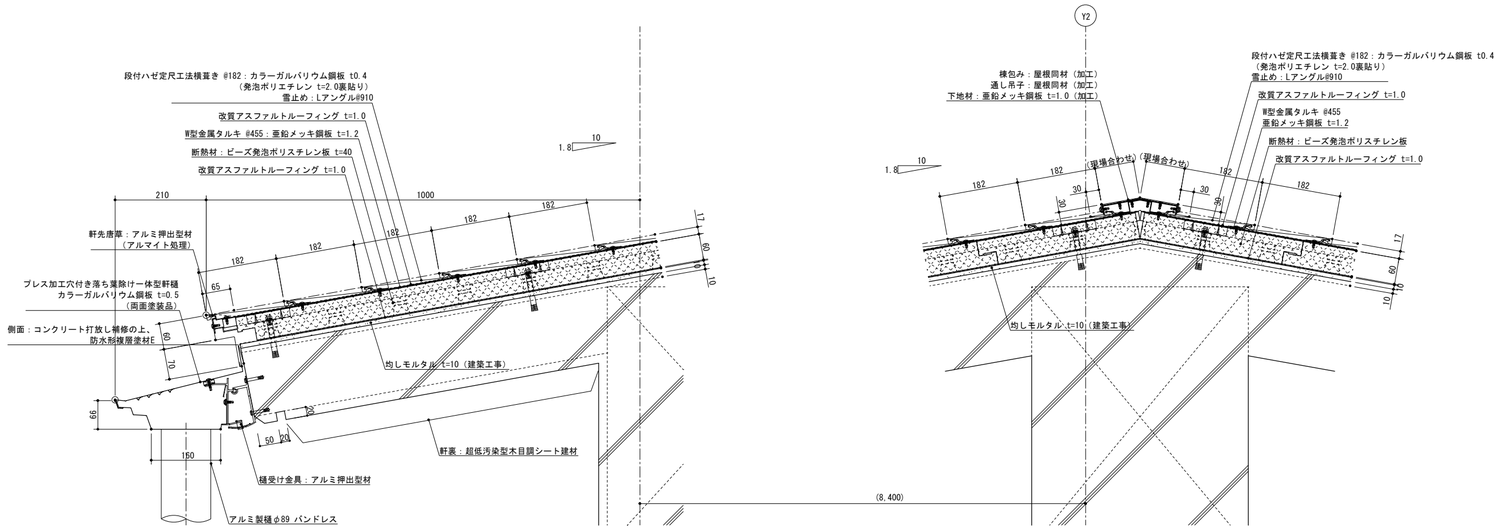
事務所登録	東京本部一級建築士事務所 一級建築士事務所 東京都知事登録 第22736号		
設計者	一級建築士　登録第362390号　星野　康二	法適合確認結果等	

工事名称	仮称芳野市民センター新築工事	図面名称	建具表(5)
作成	2025 年 2 月 17 日	承認	
部長	課長	担当	製図

縮尺	A2:NS A3:NS	図面No. 13-07 確23
設計No.		

軒先・棟

S=1/10

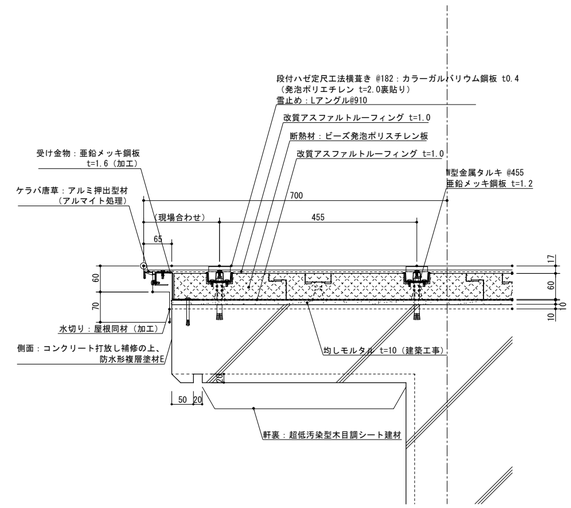


軒先

棟

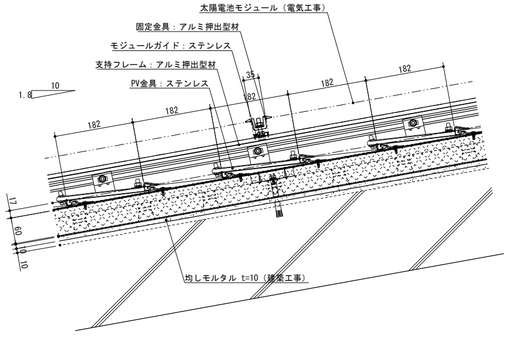
ケラバ

S=1/10



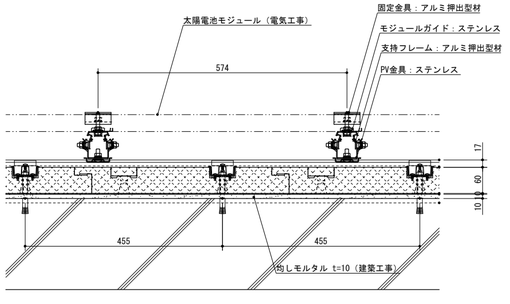
太陽電池モジュール取り合い断面図（流れ方向）

S=1/10



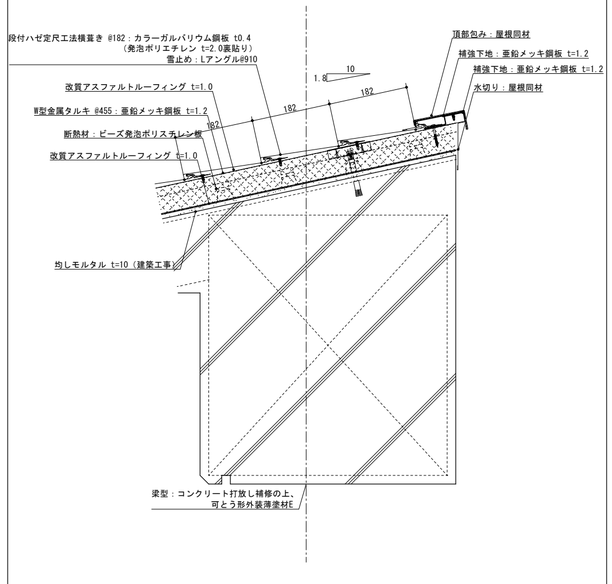
太陽電池モジュール取り合い断面図（桁行方向）

S=1/10



頂部(2階設備置き場)

S=1/10



訂	月 日	事 項		
正	. .		.	
	. .		.	

株式会社ユニバァサル設計
UNIVERSAL DESIGN OFFICE INC.

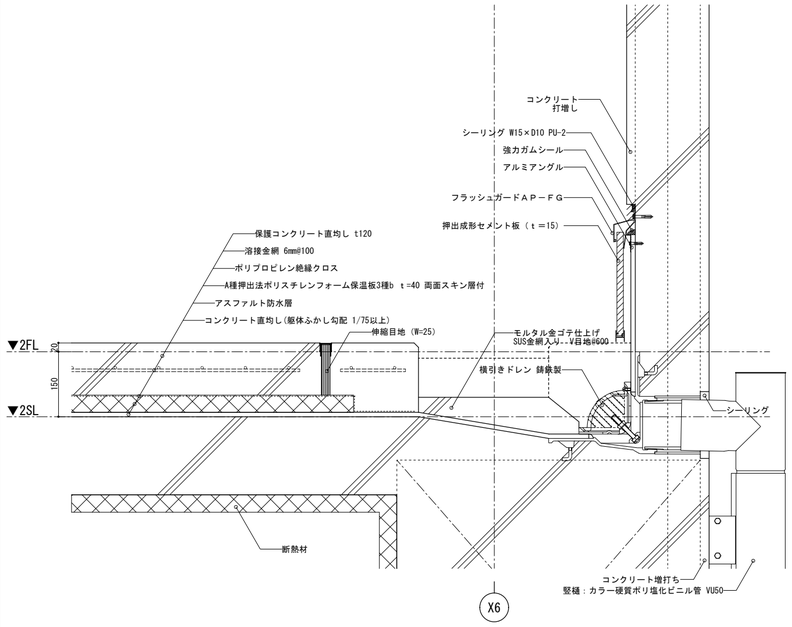
事務所登録	東京本部一級建築士事務所 一級建築士事務所 東京都知事登録 第22736号		
設計者	一級建築士 登録第362390号 星野 康二	法適合確認結果等	

工事名称	仮称芳野市民センター新築工事	図面名称	各部詳細図(1)
作成	2025 年 2 月 17 日	承認	
部長	課長	担当	製図

縮尺	A2:図示
設計No.	
図面No.	14-01

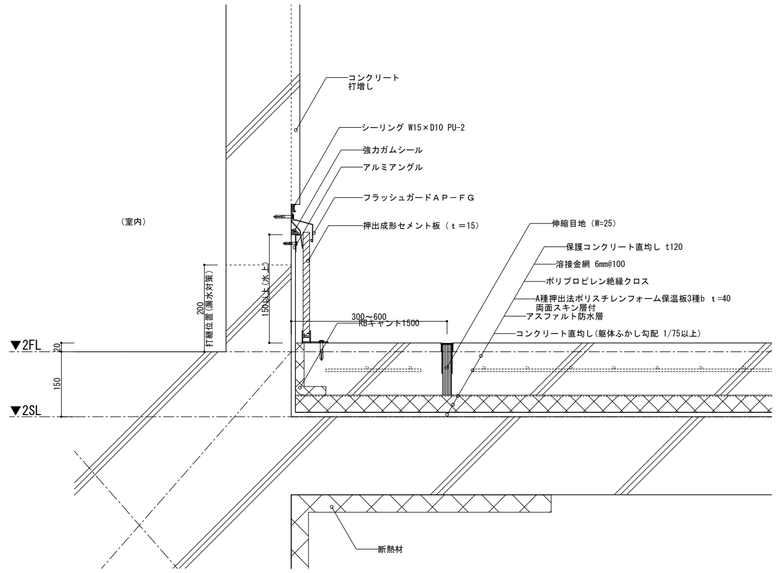
設備置場　横引きドレン　S=1/10

アスファルト防水 加熱型改質アス塗膜防水工法



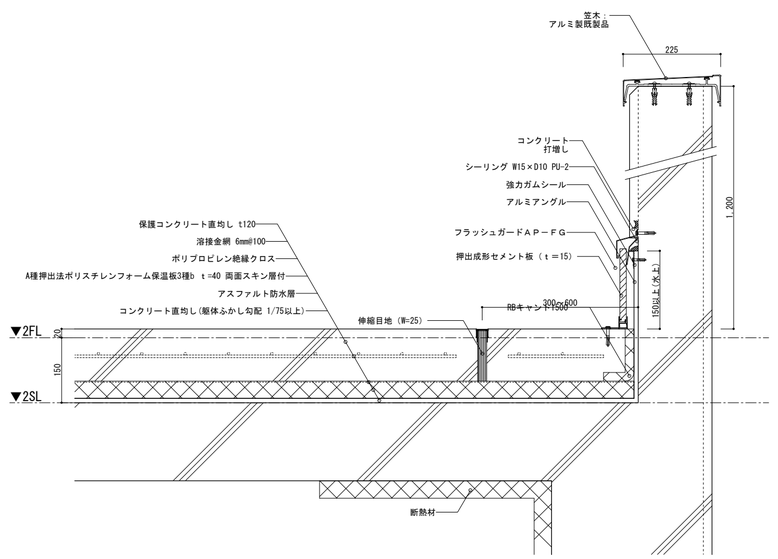
設備置場　防水(立上り)　S=1/10

アスファルト防水 加熱型改質アス塗膜防水工法



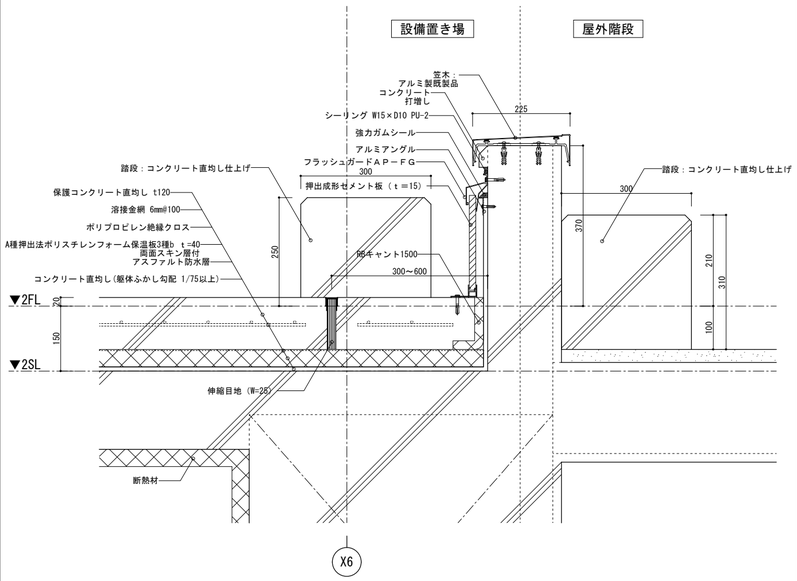
設備置場　防水(腰壁)　S=1/10

アスファルト防水 加熱型改質アス塗膜防水工法



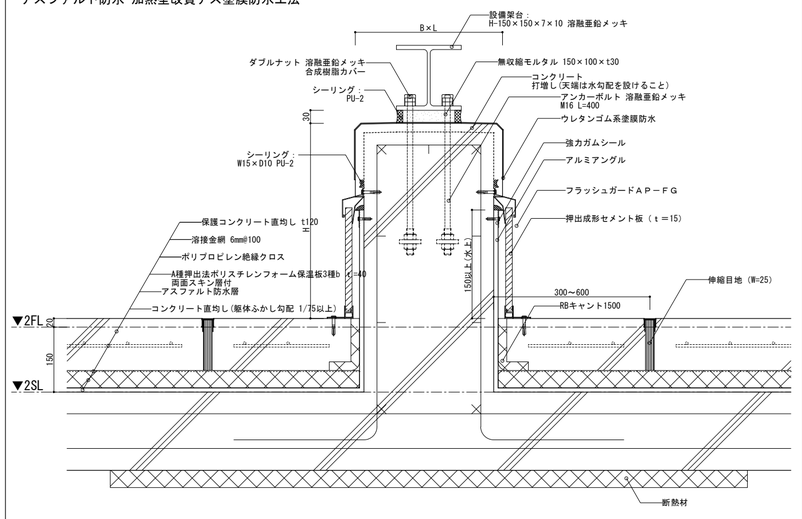
設備置場　またぎ　S=1/10

アスファルト防水 加熱型改質アス塗膜防水工法



設備架台　S=1/10

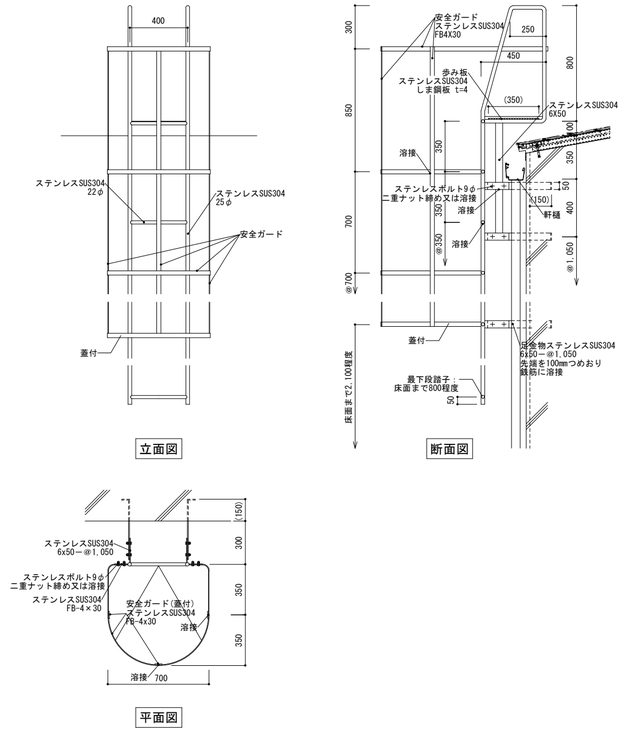
アスファルト防水 加熱型改質アス塗膜防水工法



※配筋は構造図(S-26)参照

場所	基礎				設備架台		備考
	B	L	H	カ所	L	カ所	
2階設備置場室外機(1)	1100	4170	150	1	4170	2	
2階設備置場室外機(2)	1650	3520	150	1	3520	2	
					2500	2	

タラップ　S=1/30

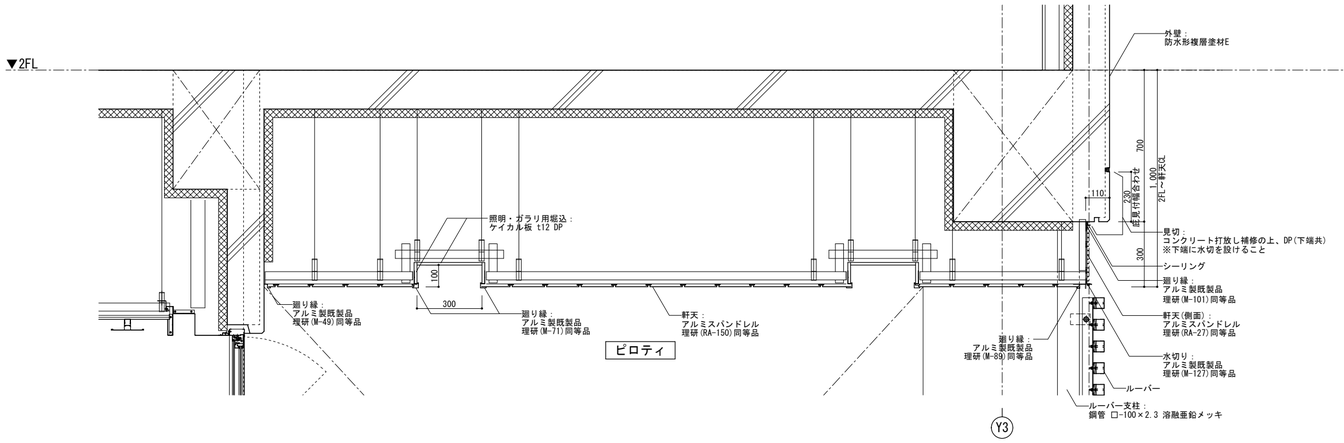


月　日	事　項
訂	
正	

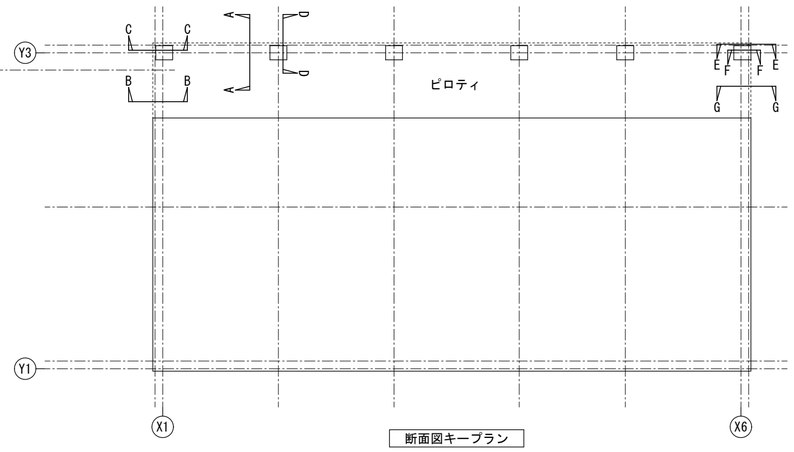
株式会社ユニバァサル設計
UNIVERSAL DESIGN OFFICE INC.

事務所登録	東京本部一級建築士事務所 一級建築士事務所 東京都知事知事登録 第22736号	
設計者	一級建築士　登録第362390号　星野　康二	法適合確認結果等

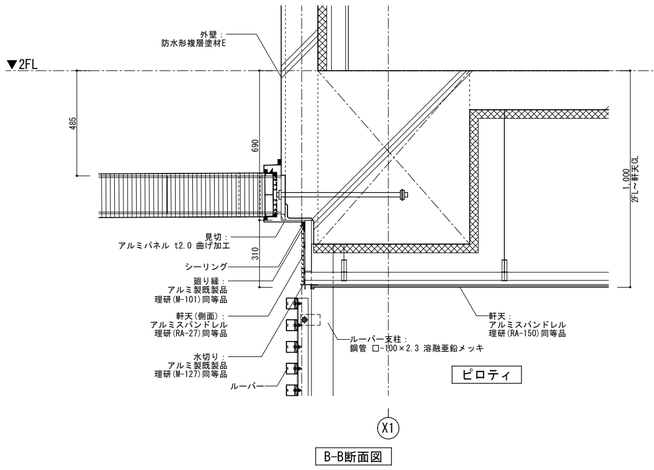
工事名称	仮称芳野市民センター新築工事	図面名称	各部詳細図(2)
作成	2025 年 2 月 17 日	縮尺	A2:図示
承認		部長　課長　担当　製図	図面No. 14-02
			設計No.



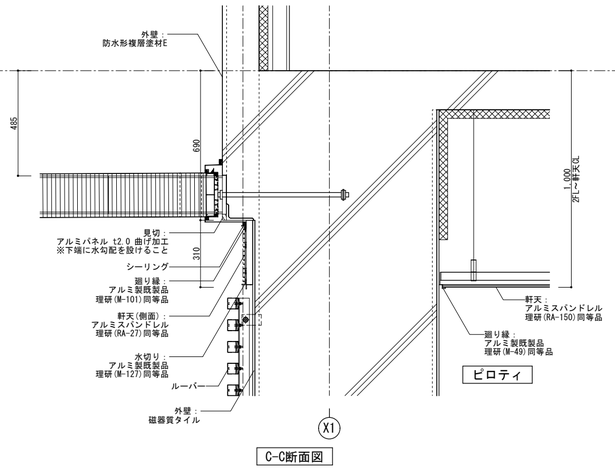
A-A断面図



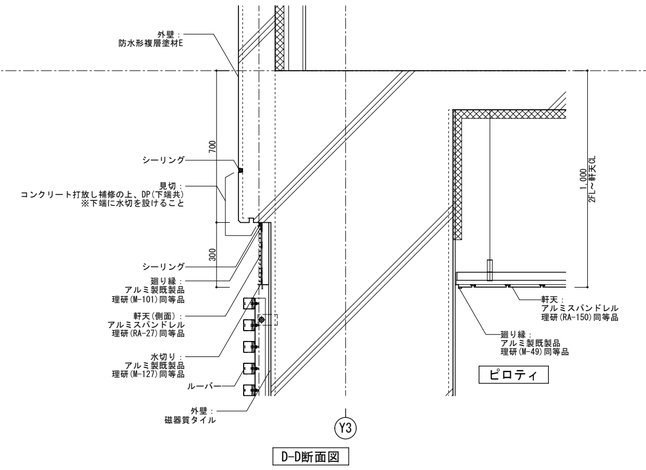
断面図キープラン



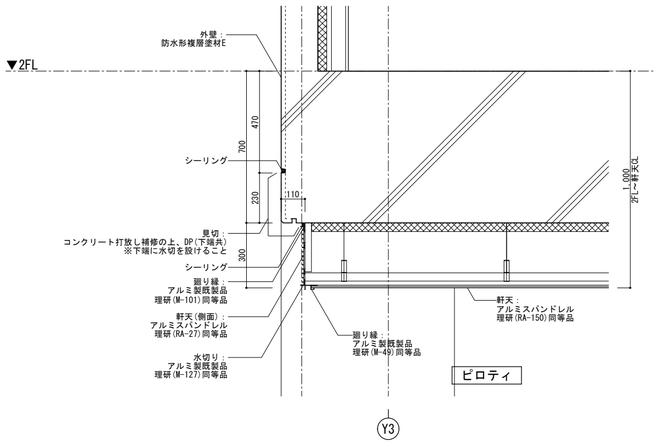
B-B断面図



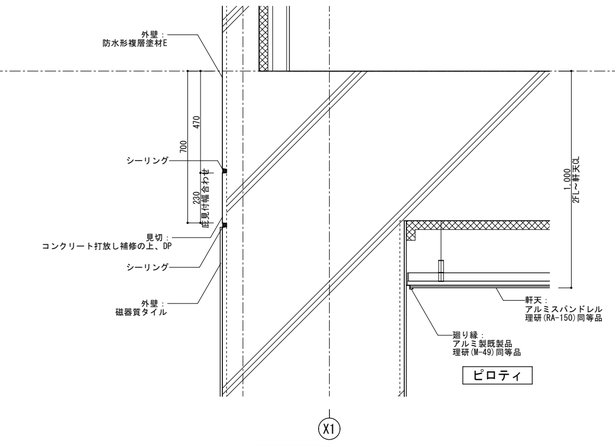
C-C断面図



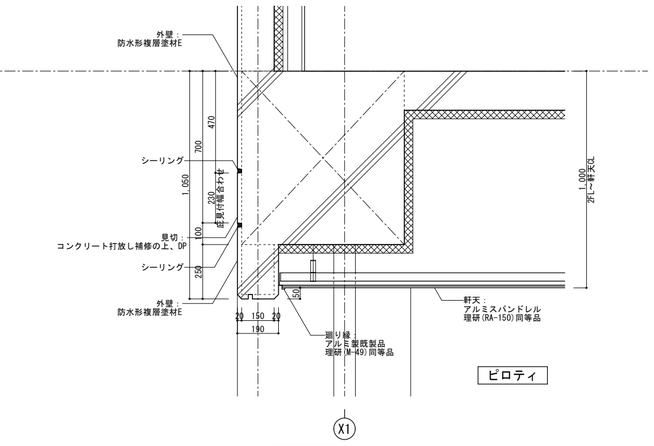
D-D断面図



E-E断面図



F-F断面図



G-G断面図

訂正	月 日	事 項		

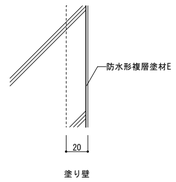
株式会社ユニバァサル設計
UNIVERSAL DESIGN OFFICE INC.

事務所登録	東京本部一級建築士事務所 一級建築士事務所 東京都知事知事登録 第22736号		
設計者	一級建築士 登録第362390号 星野 康二	法適合確認結果等	

工事名称	仮称芳野市民センター新築工事	図面名称	各部詳細図(3)
作成	2025 年 2 月 17 日	承認	
部長	課長	担当	製図
縮尺	A2:1/20 A3:1/28	設計No.	
図面No.	14-03		

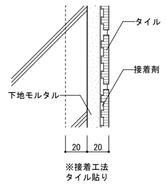
外壁一般部

S=1/4



塗り壁

防水形複層塗材E



※接着工法
タイル貼り

磁器質タイル

訂正	月 日	事項		
	. .		. .	
	. .		. .	
	. .		. .	

株式会社ユニバァサル設計
UNIVERSAL DESIGN OFFICE INC.

事務所登録: 東京本部一級建築士事務所 一級建築士事務所 東京都知事知事登録 第22736号
設計者: 一級建築士 登録第362390号 星野 康二

法適合確認結果等

工事名称: 仮称芳野市民センター新築工事

作成: 2025 年 2 月 17 日

承認

図面名称: 各部詳細図(5)

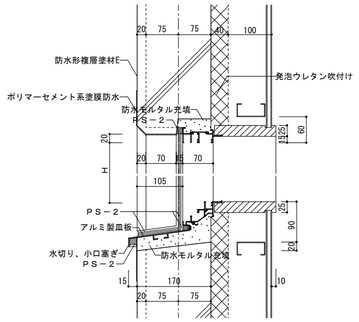
部長 課長 担当 製図

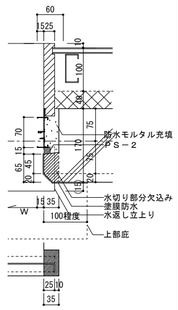
縮尺: A2:図示 A3:図示

設計No.

図面No.: 14-04

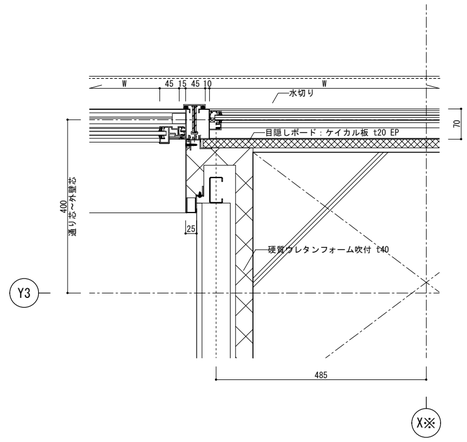
外部AW　防水形複層塗材E　S=1/10



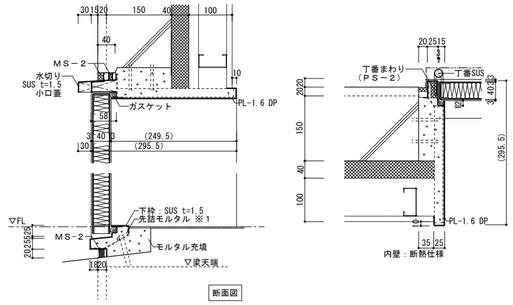


水切端部断面

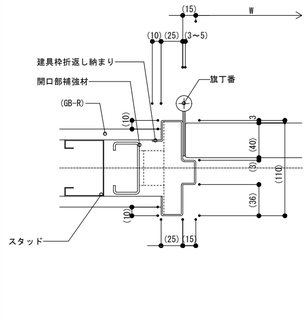
外部　AW2階北側AW柱取り合い部　S=1/10

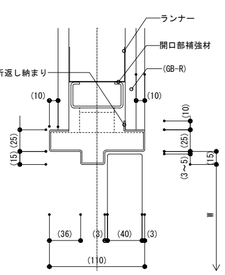


外部鋼製建具　S=1/10

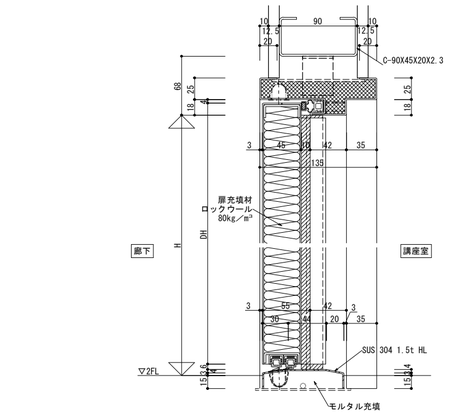


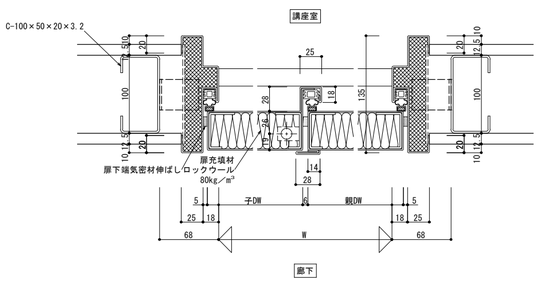
内部鋼製建具　S=1/5



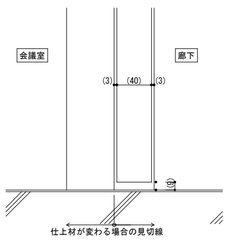


内部鋼製建具(防音)　S=1/5

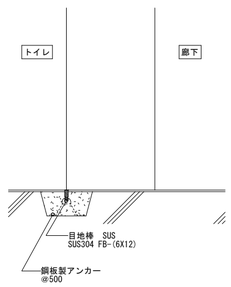




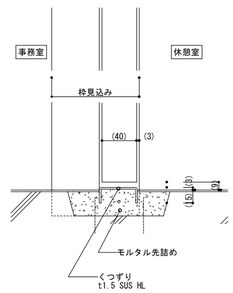
沓摺(見切りなし)　S=1/5



沓摺(目地棒)　S=1/5



沓摺　S=1/5



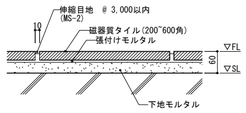
訂正	月　日	事　項		

株式会社ユニバァサル設計
UNIVERSAL DESIGN OFFICE INC.

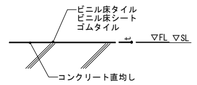
事務所登録	東京本部一級建築士事務所 一級建築士事務所 東京都知事登録 第22736号		
設計者	一級建築士　登録第362390号　星野　康二	法適合確認結果等	

工事名称：仮称芳野市民センター新築工事
作成：2025 年 2 月 17 日
承認：
図面名称：各部詳細図(6)
部長　課長　担当　製図
縮尺：A2:図示 A3:図示
設計No.
図面No.：14-05

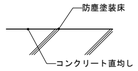
内部床　S=1/10



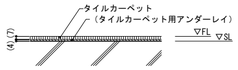
磁器質タイル



塩ビシート

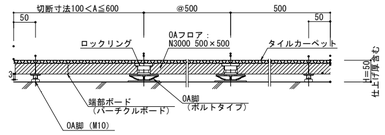


直均し+防塵
※PS・EPS

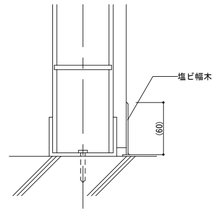


タイルカーペット

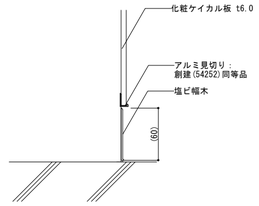
内部床　OA+タイルカーペット　S=1/10



内部床　塩ビ幅木　S=1/5

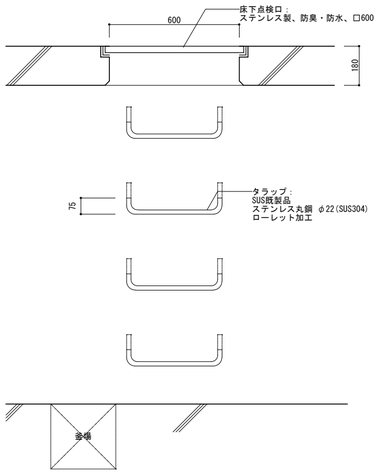


ビニルクロス部

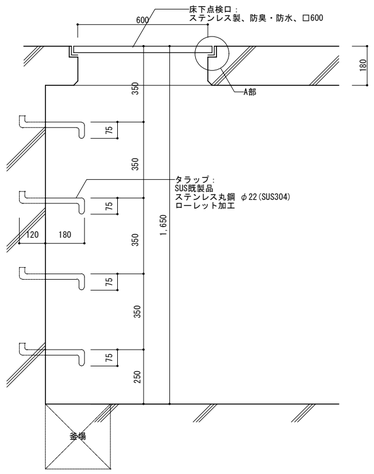


化粧ケイカル板部

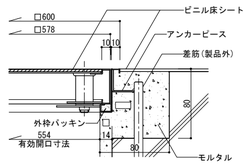
床下点検口・ピットタラップ　S=図示



正面図 1/20



断面図 1/20



A部詳細図 1/5

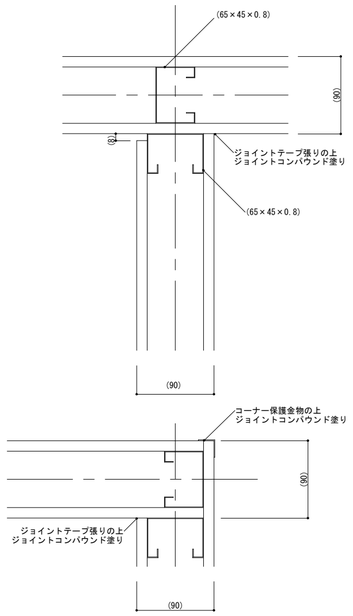
訂正	月　日	事　項		

株式会社ユニバァサル設計
UNIVERSAL DESIGN OFFICE INC.

事務所登録	東京本部一級建築士事務所 一級建築士事務所 東京都知事登録 第22736号		
設計者	一級建築士　登録第362390号　星野　康二	法適合確認結果等	

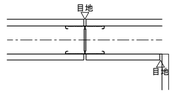
工事名称	仮称芳野市民センター新築工事	図面名称	各部詳細図(6)
作成	2025 年 2 月 17 日	縮尺	A2:図示 A3:図示
承認		図面No.	14-06
部長	課長	担当	製図
設計No.			

内壁(T、L取り合い)　S=1/5

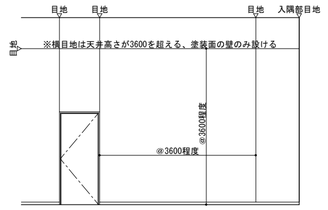


ボードひび割れ対策　S=図示

※目地材は、クロス部分はフクビクロスフリーJF3N同等品
※対象部：ビニルクロス施工壁面

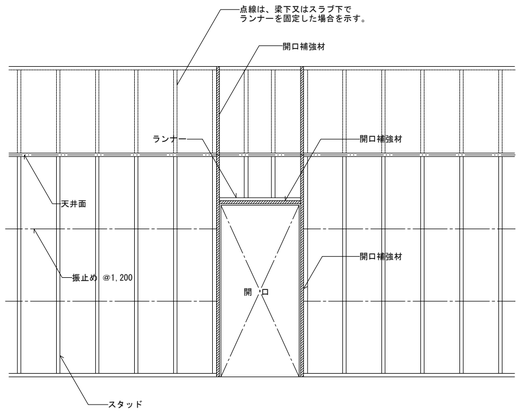


目地部詳細図 1/10

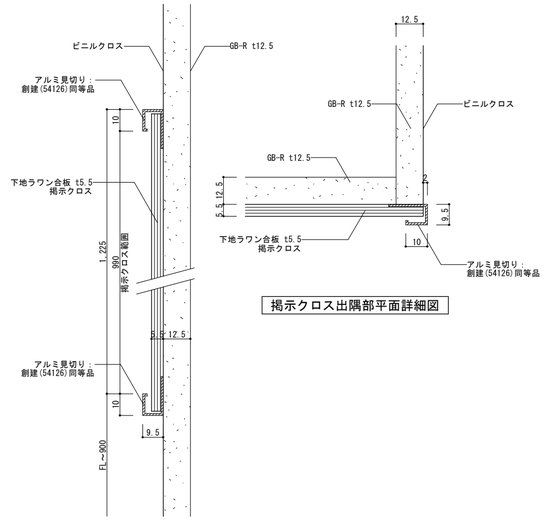


姿図 1/100

軽量鉄骨間仕切壁開口補強　S=1/50



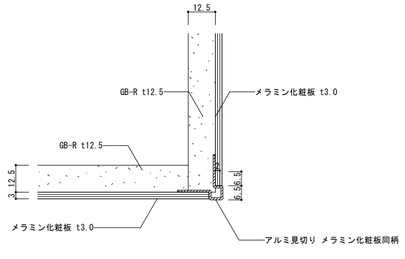
掲示クロス見切り　S=1/2



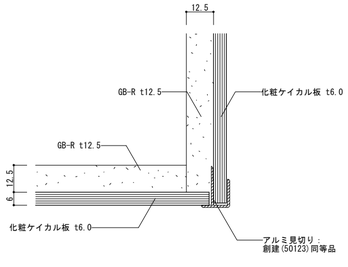
掲示クロス断面図

掲示クロス出隅部平面詳細図

メラミン化粧板張り出隅部　S=1/2



化粧ケイカル板張り出隅部　S=1/2



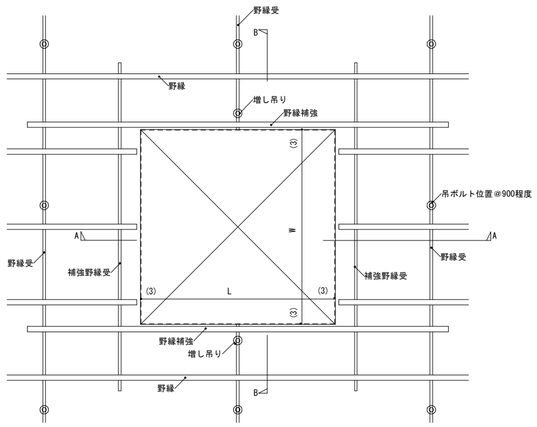
訂/正	月　日	事　項		
	. .		.	
	. .		.	

株式会社ユニバァサル設計
UNIVERSAL DESIGN OFFICE INC.

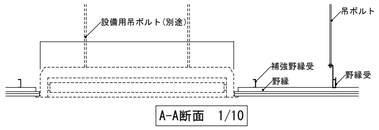
事務所登録	東京本部一級建築士事務所 一級建築士事務所 東京都知事登録 第22736号		
設計者	一級建築士　登録第362390号　星野　康二	法適合確認結果等	

工事名称	仮称芳野市民センター新築工事	図面名称	各部詳細図(7)
作成	2025 年 2 月 17 日	縮尺	A2:図示 A3:図示
承認		部長 ＿＿ 課長 ＿＿ 担当 ＿＿ 製図 ＿＿	設計No.
		図面No.	14-07

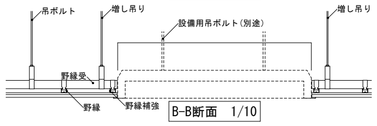
天井開口補強　S=1/20



伏　図　1/20

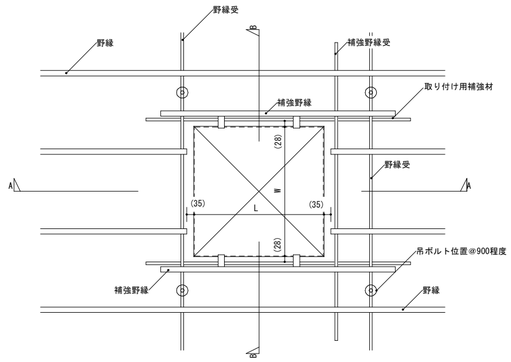


A-A断面　1/10

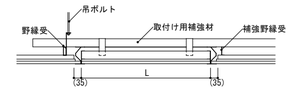


B-B断面　1/10

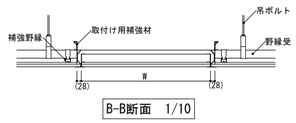
天井点検口補強　S=1/20



伏　図　1/20

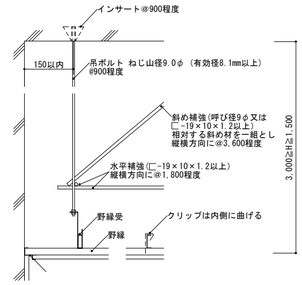


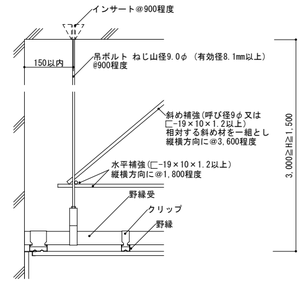
A-A断面　1/10



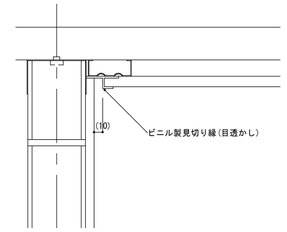
B-B断面　1/10

天井下地補強1500～3000　S=1/20

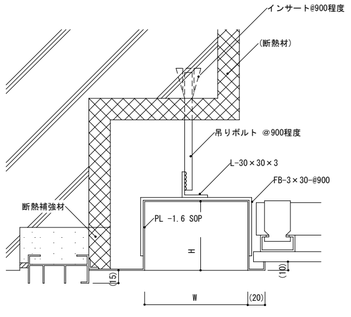




廻り縁　S=1/5

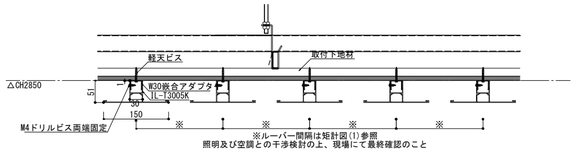


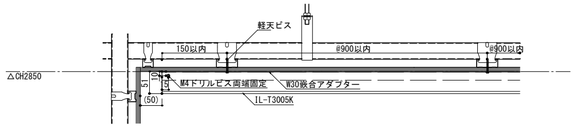
ブラインドボックス・カーテンボックス　S=1/5



種類	W	H	備考
カーテンボックス	180	150	
ブラインドボックス	120	150	

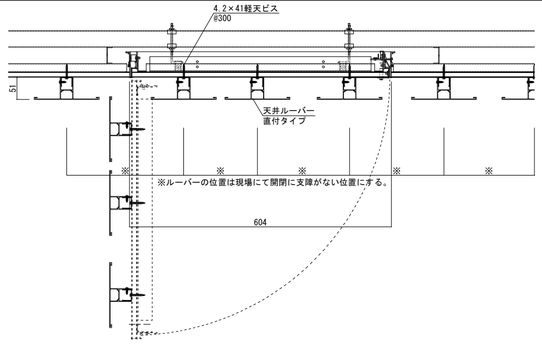
天井ルーバー　S=1/10

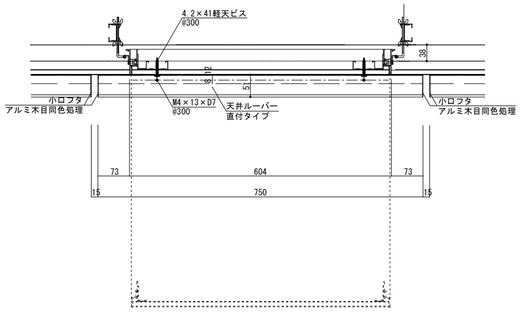




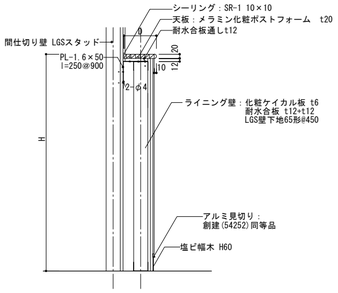
「株式会社エービーシー商会 IL-T3005K」同等品以上

天井ルーバー点検口　S=1/10



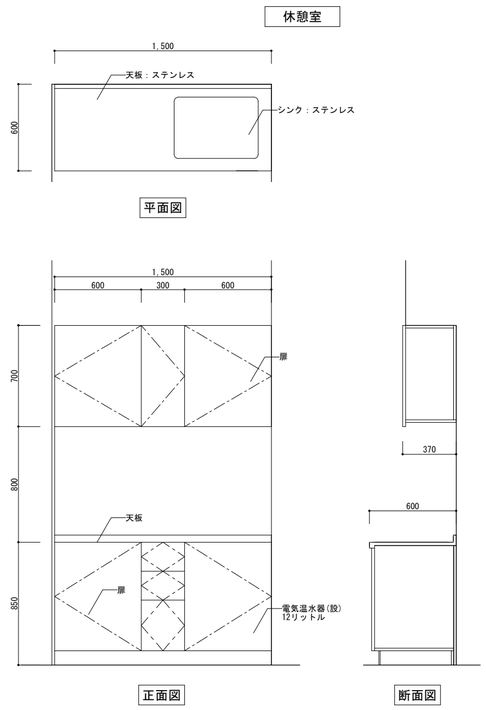

4.2×41軽天ビス
@300
51
50
50
50

ライニング　S=1/20



部位	H	D	備考
大便器	1,000	300	壁排水はD350
小便器	1,300	250	
手洗器	1,100	250	
SK	1,100	250	

流し台　S=1/30



キッチン仕様書（タカラスタンダード：ＡＰＳＫ同等品）

品名		仕様
天板	材質	ステンレス エンボス仕上
	シンク	ステンレス 裏面防音防滴カバー付
		ステンレス 裏面防音防滴カバー付
	部品	排水トラップ(設備工事)
		ＶＰ４０用アダプター 排水蓋（φ５０）
下台	扉	メラミン化粧板扉 左右１，５Ｒ
		＜表＞（　　）目方向（サンプル帳通り）
		＜裏＞単色：白系
		引手（レール引手）色（シルバー）
	本体	ラミネート化粧板
		スライド丁番 本体バッキン付
		台輪：オレフィン巻き材
	底板	ラミネート化粧板
	部品	引出（ローラーコックスレール）（本体樹脂製）
		包丁差し
		網棚
吊戸棚	扉	扉：下台と同じ
		引手：扉伸ばし仕様（引手なし）
	本体	ラミネート化粧板
		スライド丁番 本体バッキン付
	部品	棚板：オレフィン巻き材
	ラッチ	安全ラッチ付（Ｈ型）
照明器具		（電気工事）
水栓		シングルレバー式混合水栓

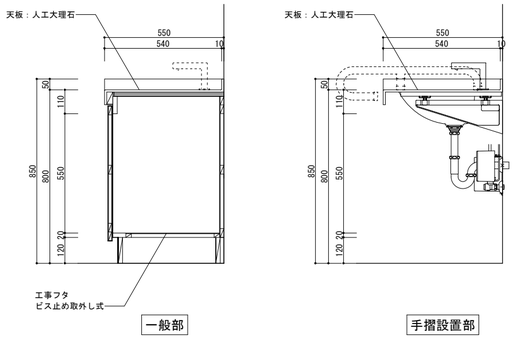
＜注＞配線・配管のビス打抜き防止のため商品取付面への配管・配線工事を
しないよう注意願います。

※吊戸棚は落下防止の為、天井吊金物を仕様し取付すること。

場所	間口	シンク	梁	個数
休憩室	1500	右	なし	1
給湯室	2100	左	なし	1

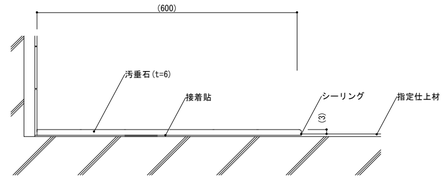
洗面台　S=1/20

仕　様	
天板	人工大理石 t10(ホワイト)
本体主材	樹脂コート化粧パーティクルボード 木口：樹脂シート t1.0貼
背板	樹脂コート化粧MDF貼
開戸	メラミン化粧板貼　木口：シート貼 スライド丁番(キャッチ付)、シリンダー錠
台輪	ポリ合板貼

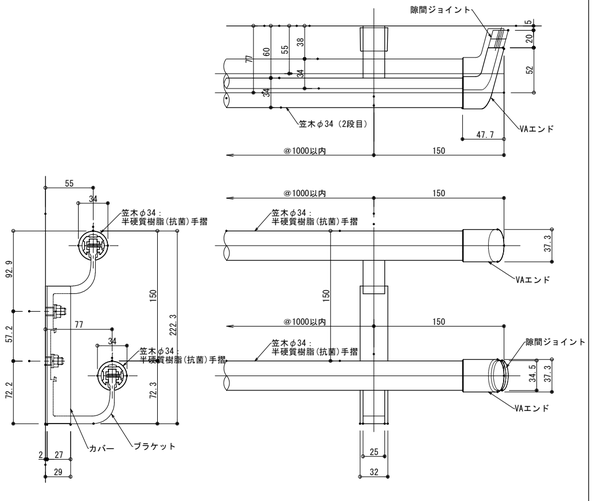


※姿図は展開図による。

汚垂石　S=1/10

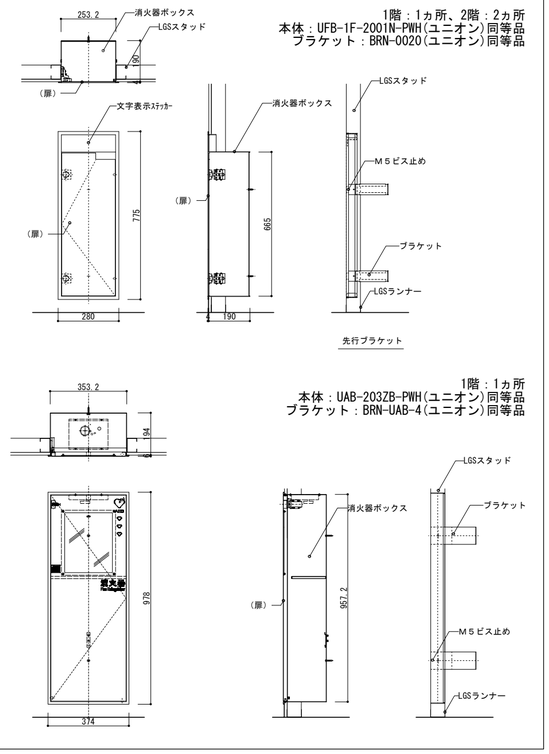


壁手摺　S=1/5



※下地がボードの場合は、コンパネ補強など適宜下地補強を見込むこと
「ナカエ工業株式会社 AFS-5577ブラケット」同等品

消火器ボックス　S=1/20



1階：1ヵ所、2階：2ヵ所
本体：UFB-1F-2001N-PWH(ユニオン)同等品
ブラケット：BRN-0020(ユニオン)同等品

1階：1ヵ所
本体：UAB-203ZB-PWH(ユニオン)同等品
ブラケット：BRN-UAB-4(ユニオン)同等品

訂 正	月　日	事　項		
	. .		.	
	. .		.	
	. .		.	

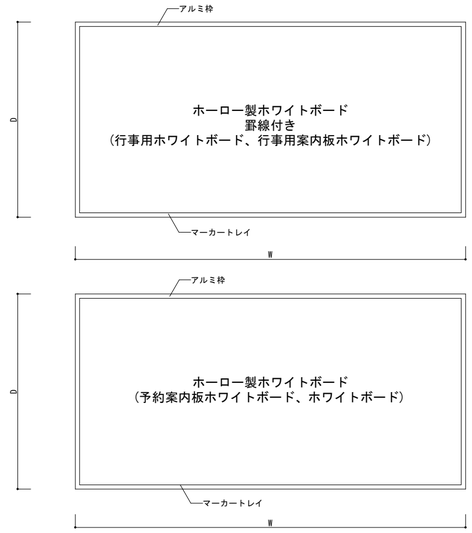
universal 株式会社ユニバァサル設計
UNIVERSAL DESIGN OFFICE INC.

事務所登録	東京本部一級建築士事務所 一級建築士事務所 東京都知事知事登録 第22736号		
設計者	一級建築士　登録第362390号　星野　康二	法適合確認結果等	

工事名称	仮称芳野市民センター新築工事	図面名称	各部詳細図(9)
作成	2025 年　2 月　17 日	承認	
部長	課長	担当	製図

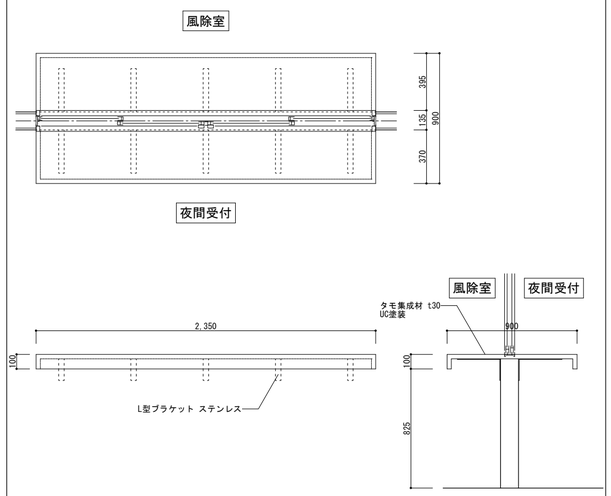
縮尺 A2:図示 A3:図示　設計No.　図面No. 14-09

ホワイトボード　S=1/20

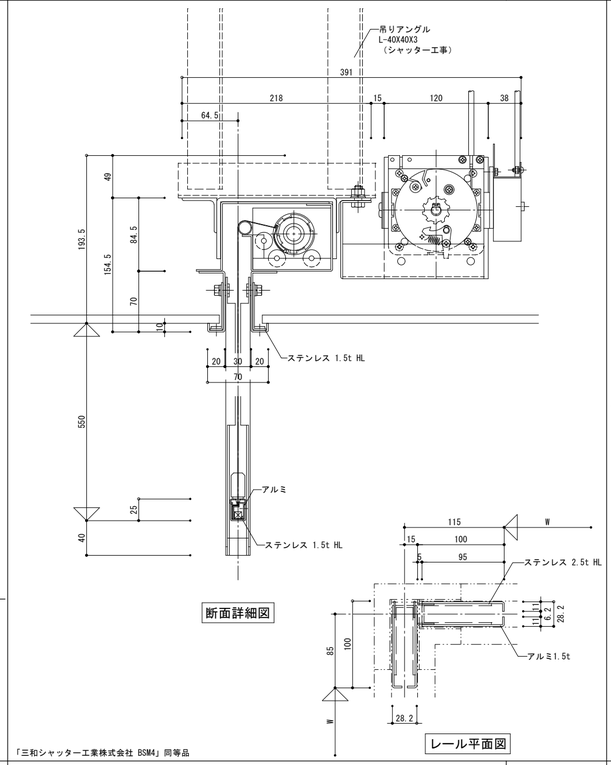


室名	W	H	備考
夜間受付	1,200	900	予約案内板ホワイトボード
エントランスホール	1,800	900	行事用案内板ホワイトボード
事務室	1,800	900	行事用ホワイトボード
講座室1	3,600	1,200	ホワイトボード

夜間受付カウンター　S=1/30

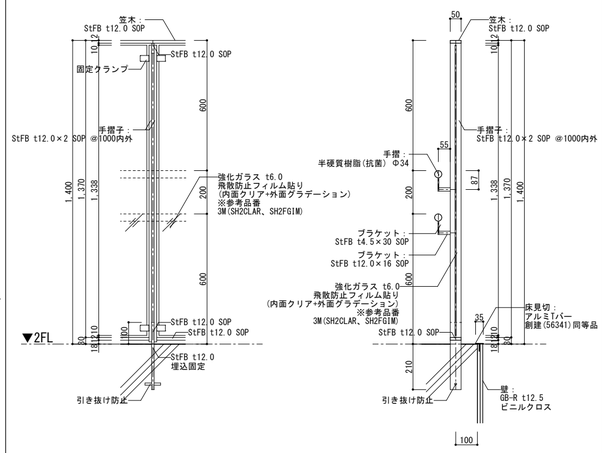


防煙垂れ壁　S=1/5

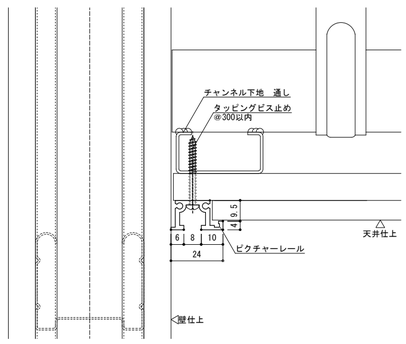


「三和シャッター工業株式会社 BSM4」同等品

吹き抜け手摺　S=1/20

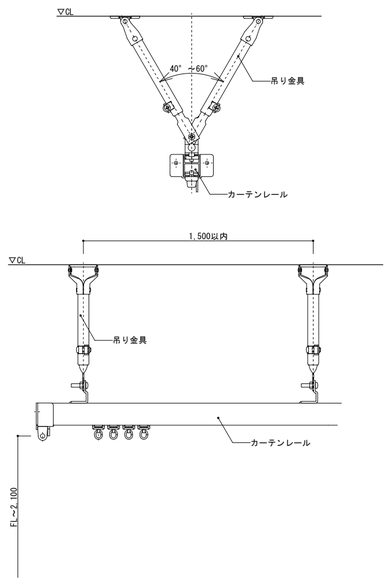


ピクチャーレール　S=1/2



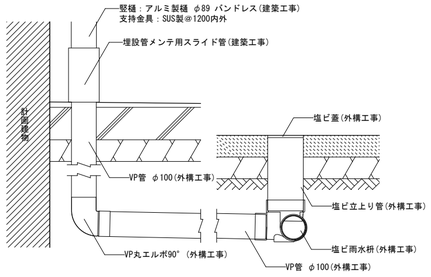
タキヤ株式会社　ピクチャーレールC-2D（耐荷重30kg）同等品以上

天付カーテンレール　S=1/5



タチカワブラインド　VR-Nα静音同等品以上

竪樋から雨水枡への接続断面詳細図　S=1/20



訂正	月 日	事 項		

株式会社ユニバァサル設計
UNIVERSAL DESIGN OFFICE INC.

事務所登録	東京本部一級建築士事務所 一級建築士事務所 東京都知事知事登録 第22736号		
設計者	一級建築士 登録第362390号 星野 康二	法適合確認結果等	

工事名称	仮称芳野市民センター新築工事	図面名称	各部詳細図(10)
作成	2025 年 2 月 17 日	承認	
縮尺	A2:図示 A3:図示	図面No.	14-10
部長	課長	担当	製図
設計No.			

仕　様

アルミニウム建築構造協議会
接着ハニカムパネル設計・製作指針にて制作のこと
アルミニウム建築構造製作認定工場1類製作工場とする。

【仕様】
ハニカムパネル厚さ＝204t
面板材料：AL2t
表面処理：フッ素樹脂焼付塗装
耐火性は不要

【耐風圧性能】
庇高さ＝3.52m　　建物平均高さ=9.55m
再現期間＝100年
基準風速＝32m/sec　粗度区分＝Ⅲ
風速＝基準風速32m/secx風速倍率1.07＝34.38m/sec
吹き上げ風圧力=-1775.1N/㎡
吹き下げ風圧力=658.4N/㎡

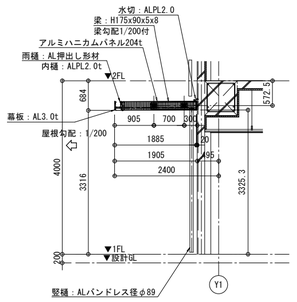
【積雪深さ】
30cm（600N/㎡）

【排水能力】
降雨強度＝144mm/h

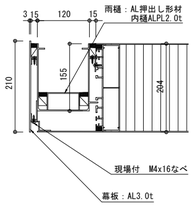
【防水仕様】
ハニカムパネル支持部：SUS製防水ボルト
ハニカムパネル目地部：シリコーンゴム製防水ゴム（シール接着）
軒樋目地部　　：シリコンゴム製（シール接着）
※シール劣化を放置しますとアルミハニカムパネル製品に不具合が発生する事があります。
定期的なメンテナンスをお願いします。

【鉄骨メンバー】
鉄骨メンバーにつきましては、構造設計者様によるご決定をお願いいたします。

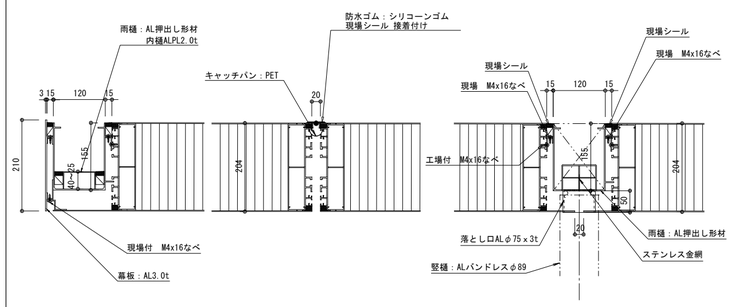
基本矩計図S=1/100



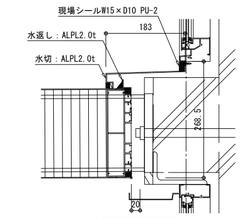
周辺材妻端部断面詳細図　S=1/10



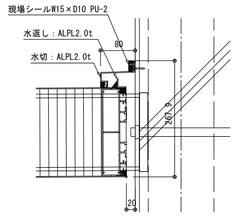
長辺基本断面詳細図　S=1/10



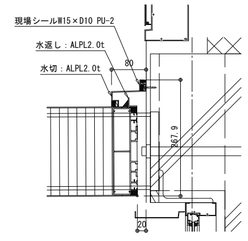
水切り納まり詳細図　S=1/10



A断面図

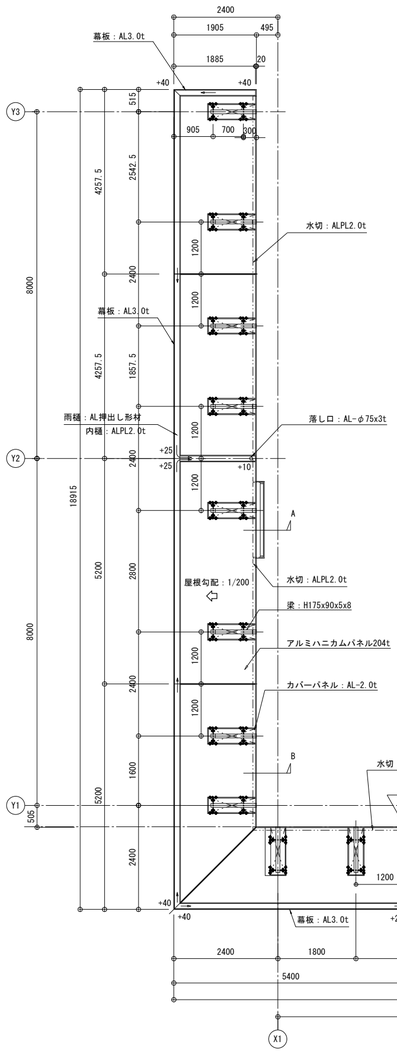


B断面図

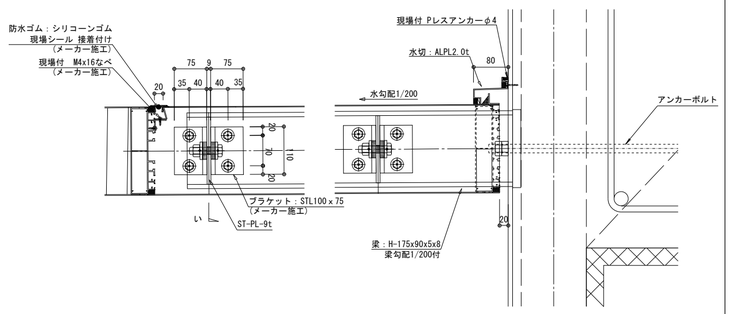


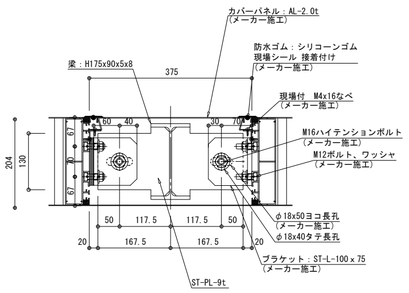
C断面図

平面図S=1/100



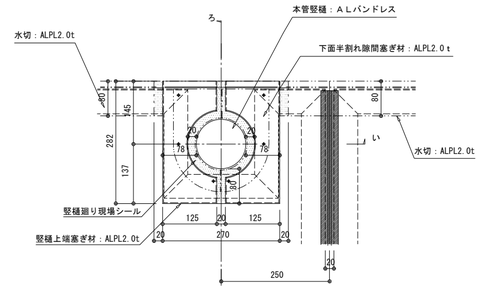
ファスナー部断面詳細図S=1/10

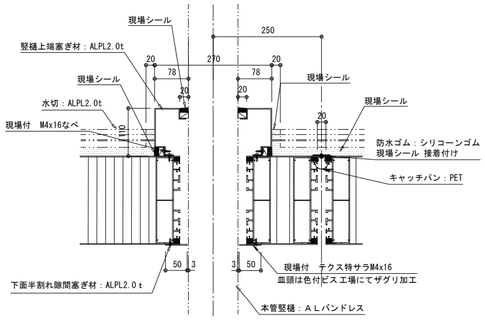




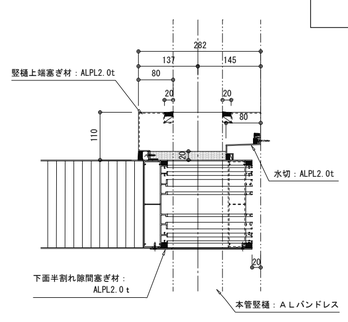
い断面図

本管竪樋貫通部平面詳細図　S=1/10





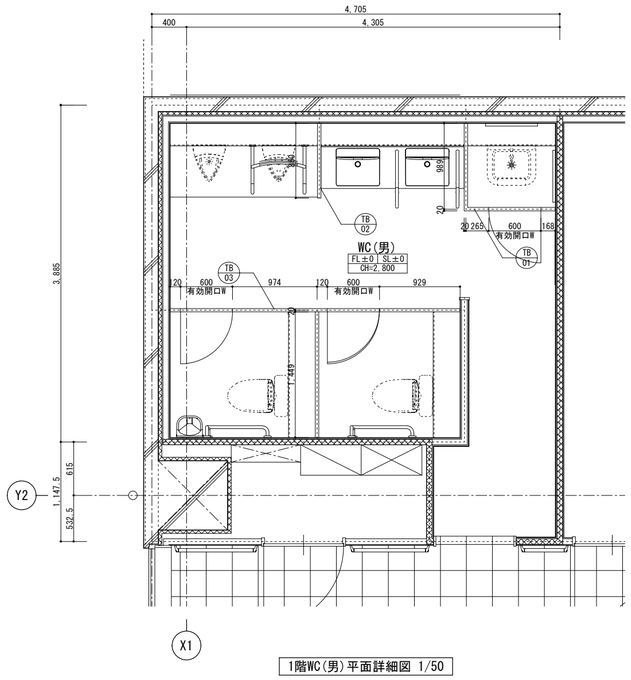
い断面図 S=1/10



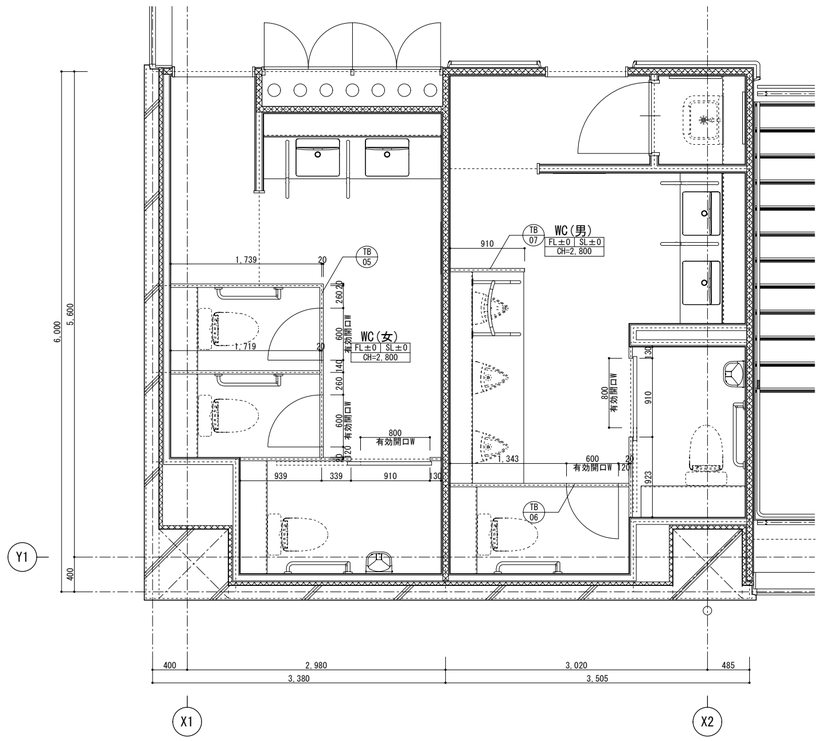
ろ断面図 S=1/10

訂正	月　日	事　項										

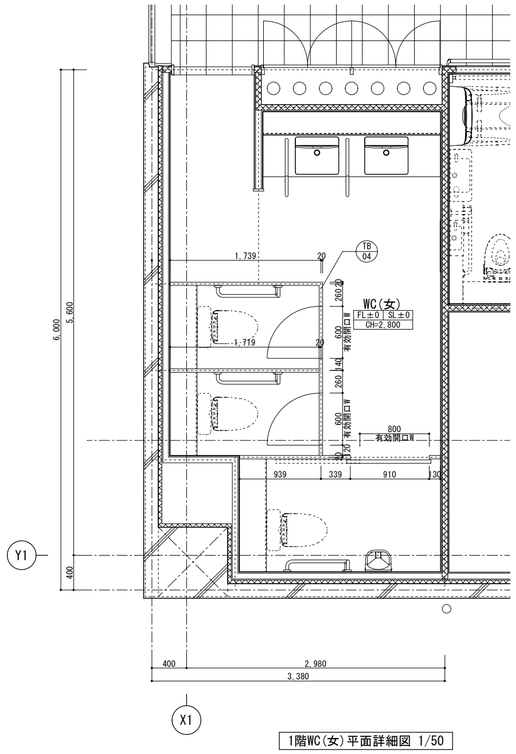
株式会社ユニバァサル設計 UNIVERSAL DESIGN OFFICE INC.	事務所登録	東京本部一級建築士事務所 一級建築士事務所 東京都知事登録 第22736号			工事名称	仮称芳野市民センター新築工事	図面名称	庇詳細図（参考図）	縮尺 A2:図示 A3:図示	図面No.
	設計者	一級建築士　登録第362390号　星野　康二	法適合確認結果等		作成 2025 年 2 月 17 日	承認	部長 課長 担当 製図		設計No.	14-11



1階WC(男)平面詳細図 1/50



2階WC平面詳細図 1/50



1階WC(女)平面詳細図 1/50

仕様

表面材・木口	化粧鋼板
枠材	溶融亜鉛メッキ鋼板SGCC
芯材	ペーパーコア
脚金物（巾木・床レール）	SUS304 HL
天井レール・壁レール	SGCC　焼付塗装
グレビティヒンジ	SUS304

「三和シャッター工業株式会社　KT40-N 天井取付納まり」同等品

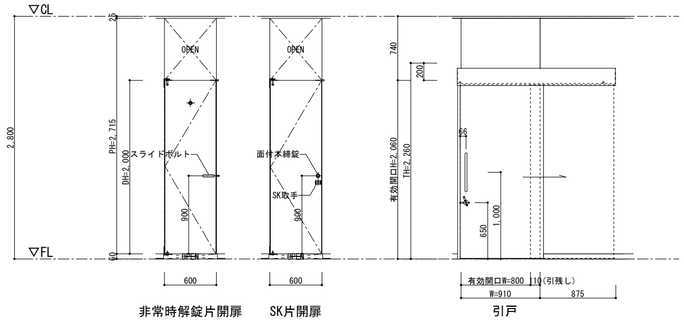
訂正	月　日	事　項		

株式会社ユニバァサル設計
UNIVERSAL DESIGN OFFICE INC.

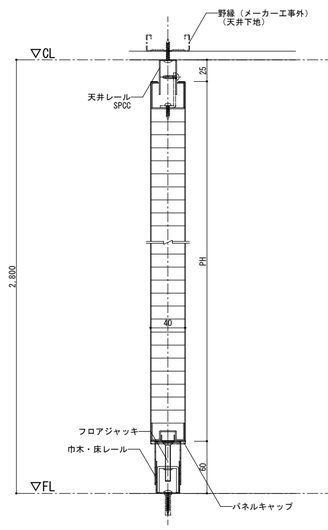
事務所登録	東京本部一級建築士事務所 一級建築士事務所 東京都知事知事登録 第22736号		
設計者	一級建築士　登録第362390号　星野　康二	法適合確認結果等	

工事名称	仮称芳野市民センター新築工事	図面名称	トイレブース詳細図(1)(参考図)
作成	2025 年　2 月　17 日	承認	
部長	課長	担当	製図

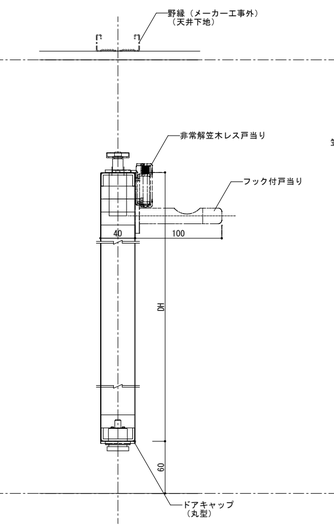
縮尺	A2:図示 A3:図示	図面No. 14-12
設計No.		



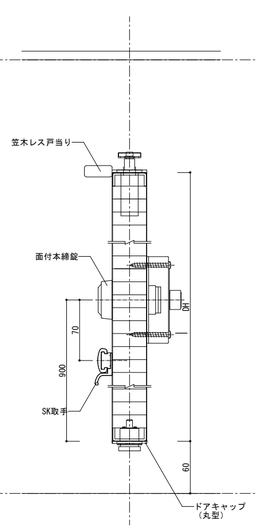
トイレブースドア姿図 1/50



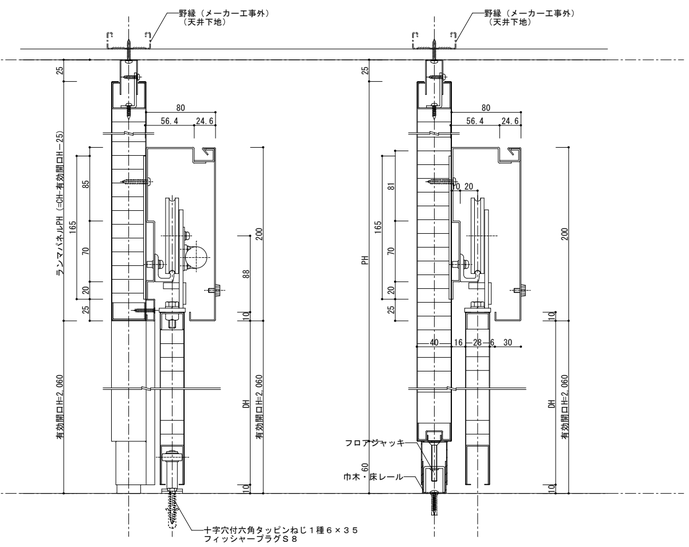
パネル部断面詳細図 1/5



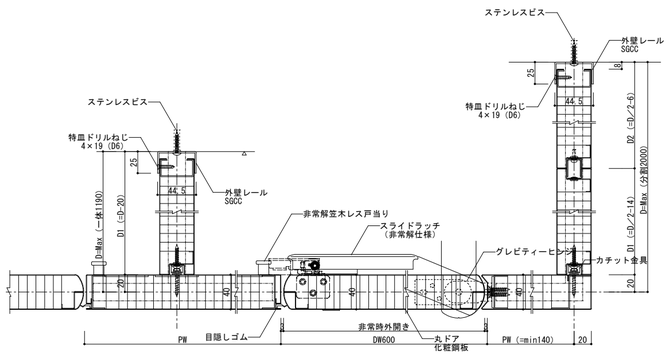
非常時解錠片開扉断面詳細図 1/5



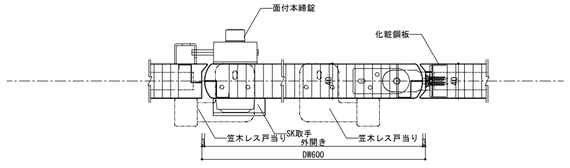
SK片開扉断面詳細図 1/5



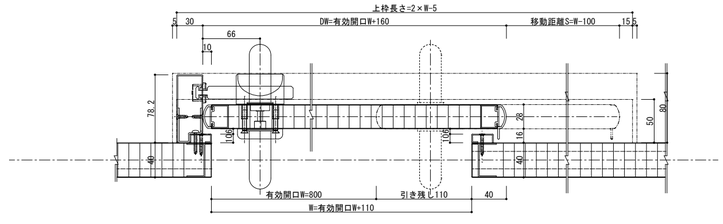
引戸断面詳細図 1/5



一般パネル部・非常時開放片開扉平面詳細図 1/5



SK片開扉平面詳細図 1/5



引戸平面詳細図 1/5

訂正	月　日	事　項		

株式会社ユニバァサル設計
UNIVERSAL DESIGN OFFICE INC.

事務所登録	東京本部一級建築士事務所 一級建築士事務所 東京都知事登録 第22736号		
設計者	一級建築士　登録第362390号　星野　康二	法適合確認結果等	

工事名称：仮称芳野市民センター新築工事

作成：2025 年 2 月 17 日　承認：

図面名称：トイレブース詳細図(2)(参考図)

縮尺：A2:図示 A3:図示

部長＿＿ 課長＿＿ 担当＿＿ 製図＿＿

設計No.

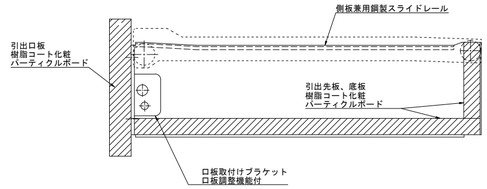
図面No. 14-13

木製家具標準仕様　『特記無き場合は下記の仕様とする』

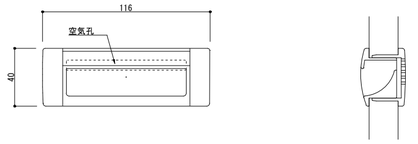
地球環境問題（リサイクル、温暖化等）に配慮し、かつ室内におけるホルムアルデヒドの気中濃度を下げる事に
主眼を置き、各種有機溶剤や可塑剤等の有害物質についてもその残留、放散を極力抑制する為に以下の仕様とする。

樹脂コート化粧パーティクルボード（ECOボードプラス）	ホルムアルデヒド放散量「0.04mg/l」以下とする。 マテリアルリサイクル可能品（メラミン樹脂含浸の低圧メラミン等は使用不可） 「JIS A 5908」適合品の国内生産品とする。 表面材：単色は防汚機能を有するメラミンコート、木目柄は天然木の質感を持つ高意匠ウレタンコート
樹脂コート化粧MDF（NEOボードプラス）	JIS-F☆☆☆☆適合品 MDFは国産木材の使用比率70%以上とし、「間伐材マーク」、「木づかいサイクルマーク」取得品とする 「JIS A 5905」適合品の国内生産品とする。 表面材：単色は防汚機能を有するメラミンコート、木目柄は天然木の質感を持つ高意匠ウレタンコート
ポリエステル化粧合板	JAS-F☆☆☆☆適合品
各種合板	JAS-F☆☆☆☆適合品
接着剤	厚生労働省のＶＯＣ指定13物質を含んでいないものを使用する。　F☆☆☆☆適合品
本体	主材：樹脂コート化粧MDFフラッシュ（NEOボードプラス）
木口	本体見掛り：非塩ビ化粧樹脂シートｔ1.0貼 本体見隠れ：非塩ビ化粧樹脂シートｔ0.45貼
引出	口板：樹脂コート化粧パーティクルボードｔ20（ECOボードプラス）、木口：非塩ビ化粧樹脂シートt0.45貼 底板、先板：樹脂コート化粧パーティクルボード 側板兼用鋼製スライドレール、口板取付けブラケット（調整機能付）
可動式棚板	樹脂コート化粧MDFフラッシュ（NEOボードプラス） 棚板底面にずれ止めのダボジャクリを施すこと。 ※W600以上の棚板は強度を考慮し、パーティクルボードの使用は不可とする。 　また、フラッシュ芯材にもパーティクルボードの使用は不可とする。
台輪	ポリエステル化粧合板貼　　下地：ランバーコア合板ｔ15（四方組） ※家具側板を床に接地させる前巾木のみは不可とする。 ※壁面固定の家具は不陸調整の上、台輪化粧材「後貼」とする。
共　通	※「日本家具保証協会」認定企業の生産製品、及び監理製品とする。 ※施工承認時に製作家具のカタログを提出し、監督員へ商品説明をおこなうこと。 ※製作家具本体は国内生産品とする。

本体、棚板　木口仕上 詳細図　S=1/3

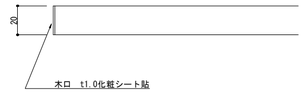


引手 詳細図　S=1/3

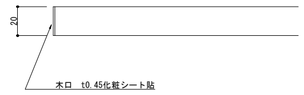


引出 詳細図（側板兼用鋼製スライドレール仕様）　S=1/3

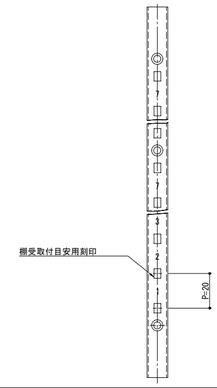
標準本体見え掛り



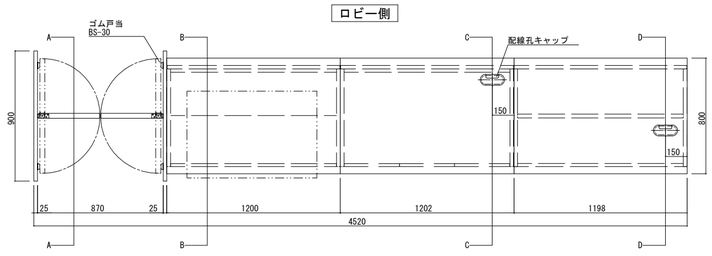
標準本体見隠れ

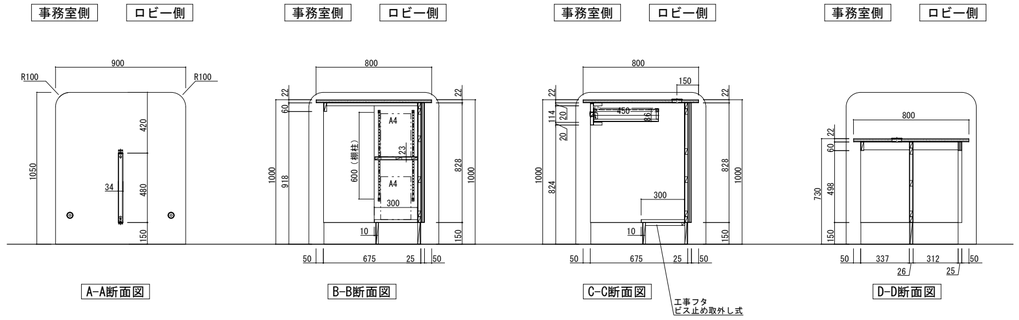


書架等　ステンレス棚柱詳細図　S=1/3

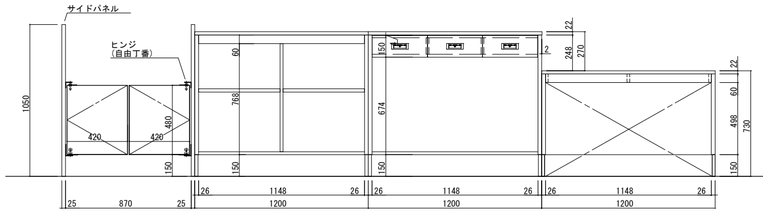


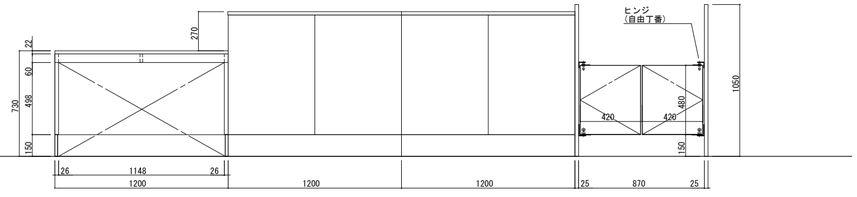
F-1　1階　ロビー・事務室　カウンター　1カ所　S=1/30





品名	カウンター	品番	CM-1UD.ZZ　同等品
仕　様			
天 板	メラミン化粧板貼 （下地パーティクルボード　裏面バッカー貼） 木口:ABSエッジt2.0mm貼		
本体主材	メラミン化粧板フラッシュ（内部：樹脂コート化粧MDF貼） 木口:樹脂シートt1.0mm貼		
引 出	口板：樹脂コート化粧パーティクルボード　木口：シート貼 底板、先板：樹脂コート化粧パーティクルボード 側板兼用鋼製スライドレール、樹脂製空気孔付堀込引手		
ｻｲﾄﾞﾊﾟﾈﾙ	メラミン化粧板貼（下地合板）、木口：シート貼		
ｽｲﾝｸﾞﾄﾞｱ	メラミン化粧板貼（下地合板）、木口：シート貼 木口：シート貼、ヒンジ（自由丁番）		
台 輪	ポリ合板貼		
附 属 品			
配線孔キャップ	S165-76型（クリーム）	2	





訂正	月　日	事　項		

株式会社ユニバァサル設計
UNIVERSAL DESIGN OFFICE INC.

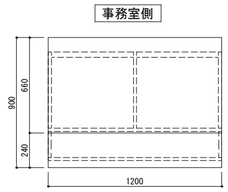
事務所登録	東京本部一級建築士事務所 一級建築士事務所 東京都知事登録 第22736号		
設計者	一級建築士　登録第362390号　星野　康二	法適合確認結果等	

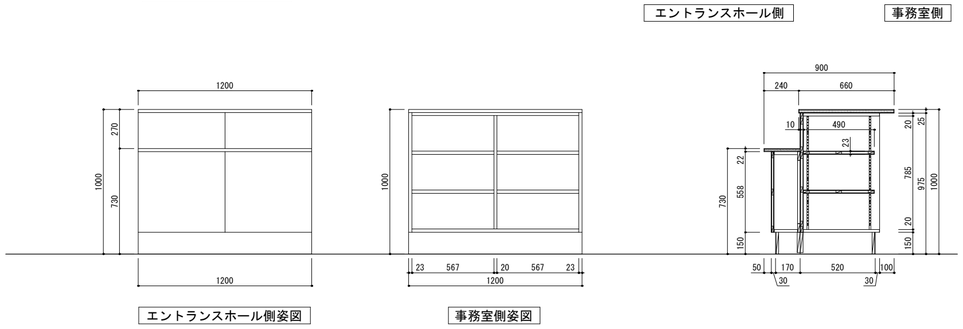
工事名称：仮称芳野市民センター新築工事
作成：2025 年 2 月 17 日
承認：
図面名称：家具詳細図(1)
縮尺：A2:図示 A3:図示
部長　課長　担当　製図　設計No.
図面No.：14-14

F-2　1階　エントランスホール・事務室　受付カウンター　1カ所　S=1/30

品名	受付カウンター	品番	CM-1UB.ZZ　同等品

仕様	
天板	メラミン化粧板貼 (下地パーティクルボード　裏面バッカー貼) 木口:ABSエッジt2.0mm貼
本体主材	メラミン化粧板フラッシュ（内部：樹脂コート化粧MDF貼） 一部 樹脂コート化粧パーティクルボード 木口：樹脂シートｔ1.0mm貼
棚板	樹脂コート化粧MDFフラッシュ　木口：樹脂シートｔ1.0mm貼 ステンレス面付棚柱、ステンレス棚受(可動ピッチ20mm)
台輪	ポリ合板貼

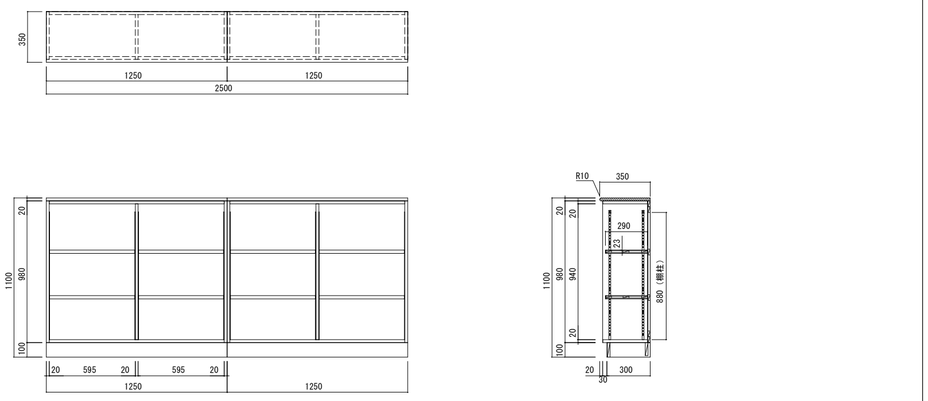




F-3　1階　ロビー　展示架　1カ所　S=1/30

品名	展示架	品番	NBP-356S.ZZ　同等品

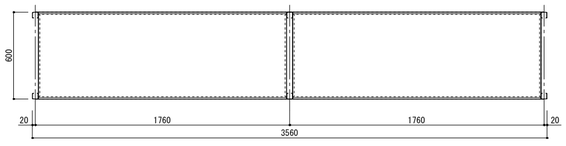
仕様	
展示台	樹脂コート化粧MDFフラッシュ 木口：メラミン化粧板貼
本体主材	樹脂コート化粧MDFフラッシュ 木口：樹脂シートｔ1.0mm貼
背板	樹脂コート化粧MDF貼
棚板	樹脂コート化粧MDFフラッシュ　木口：樹脂シートｔ1.0mm貼 ステンレス面付棚柱、ステンレス棚受(可動ピッチ20mm)
台輪	ポリ合板貼

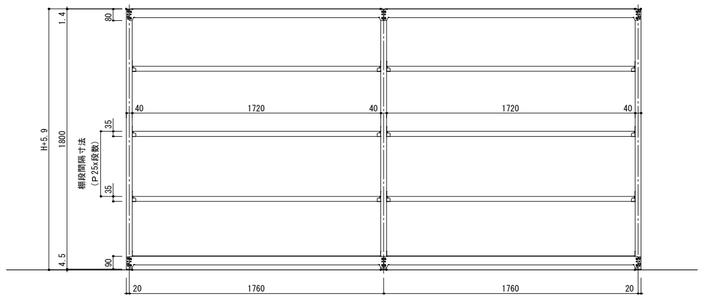


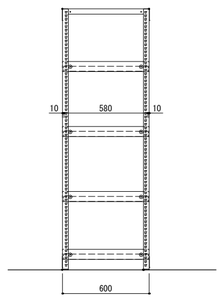
F-4　1階　倉庫1　軽中量ラック　1カ所　S=1/30

品名	軽中量ラック	品番	NS6660-5K　同等品

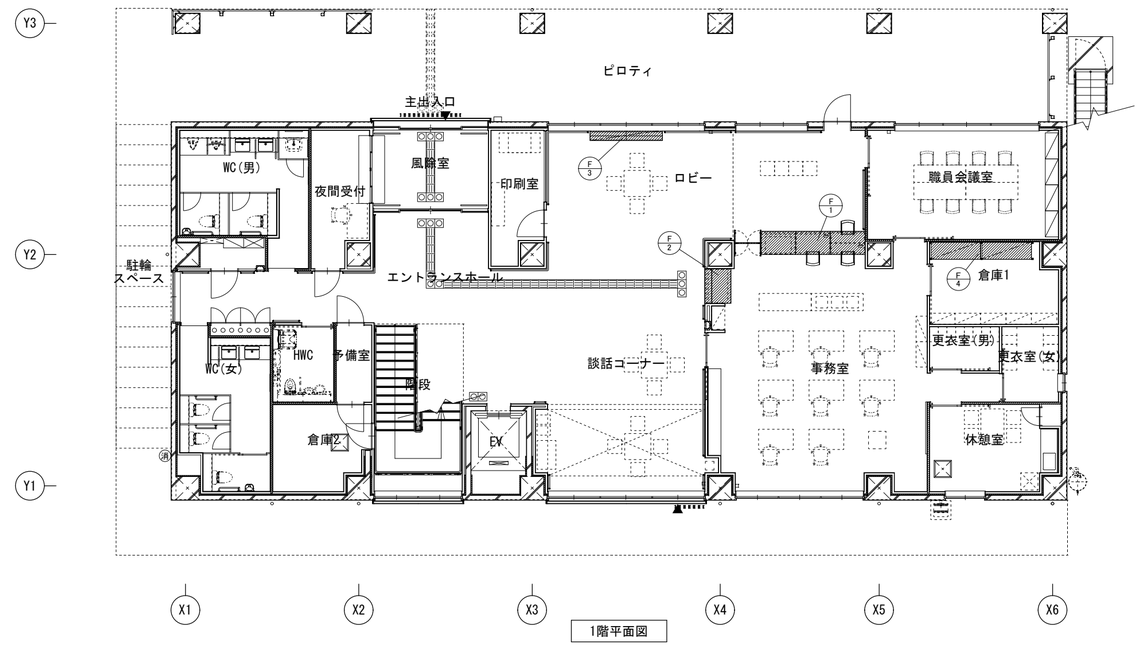
仕様	
本体主材	スチール製 粉体塗装仕上げ(サングレー色) ボルトレスラック
ベースプレート	樹脂製（ブラック）
整理棚	棚板最大積載質量：等分布荷重200kg/段 棚一連最大積載質量：棚一連当り1500kg/連







キープラン　S=1/150



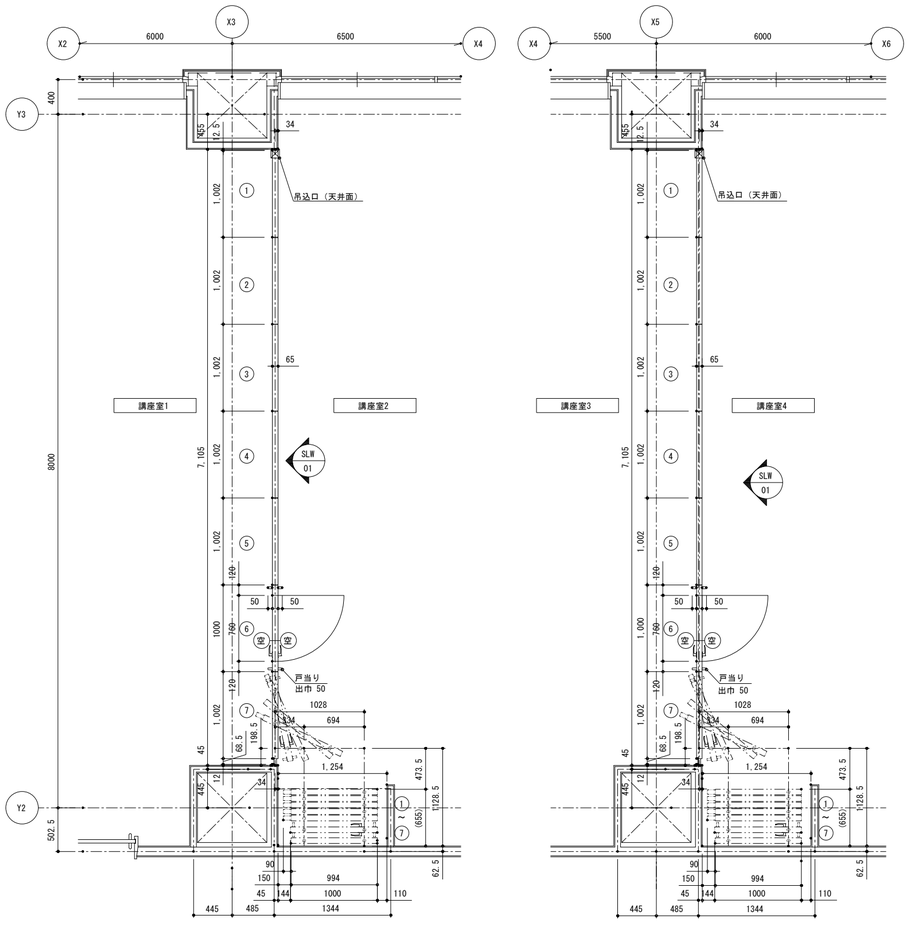
訂正	月　日	事　項		

universal 株式会社ユニバァサル設計
UNIVERSAL DESIGN OFFICE INC.

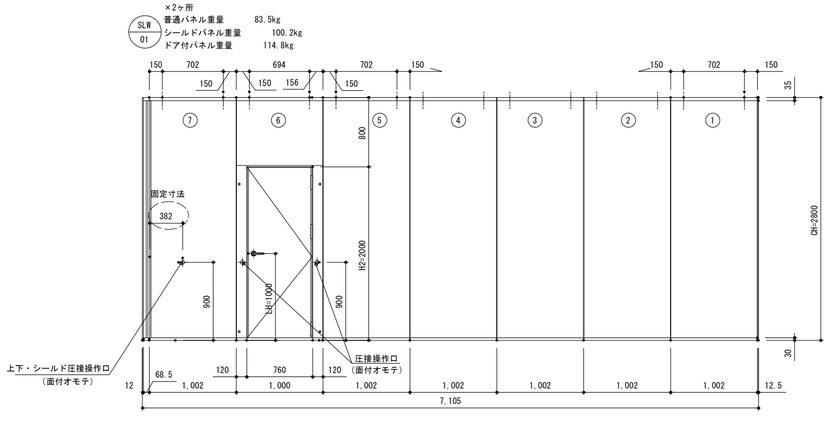
事務所登録	東京本部一級建築士事務所 一級建築士事務所 東京都知事登録 第22736号	法適合確認結果等	
設計者	一級建築士　登録第362390号　星野　康二		

工事名称	仮称芳野市民センター新築工事	図面名称	家具詳細図(2)	縮尺	A2:1/30 A3:1/15	図面No.	14-15
作成	2025 年　2 月　17 日	承認		部長　課長　担当　製図		設計No.	

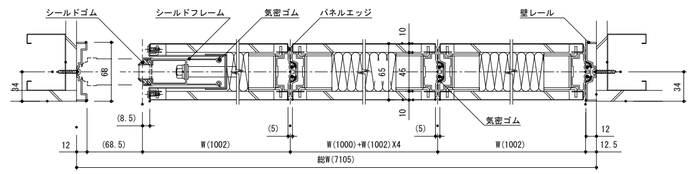
平面図 S=1/50

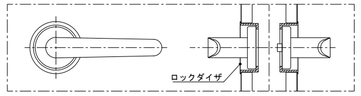


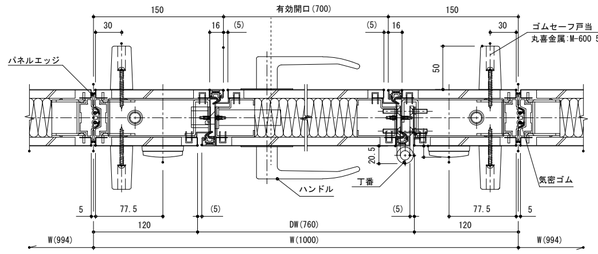
展開図 S=1/50

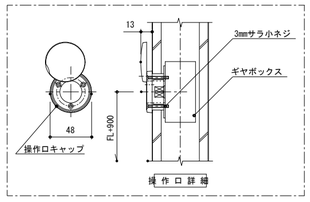


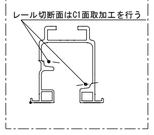
詳細図 S=1/5

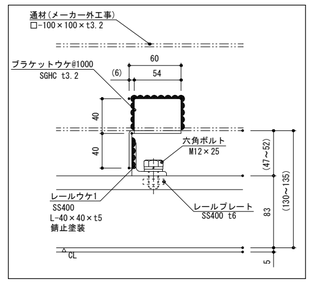


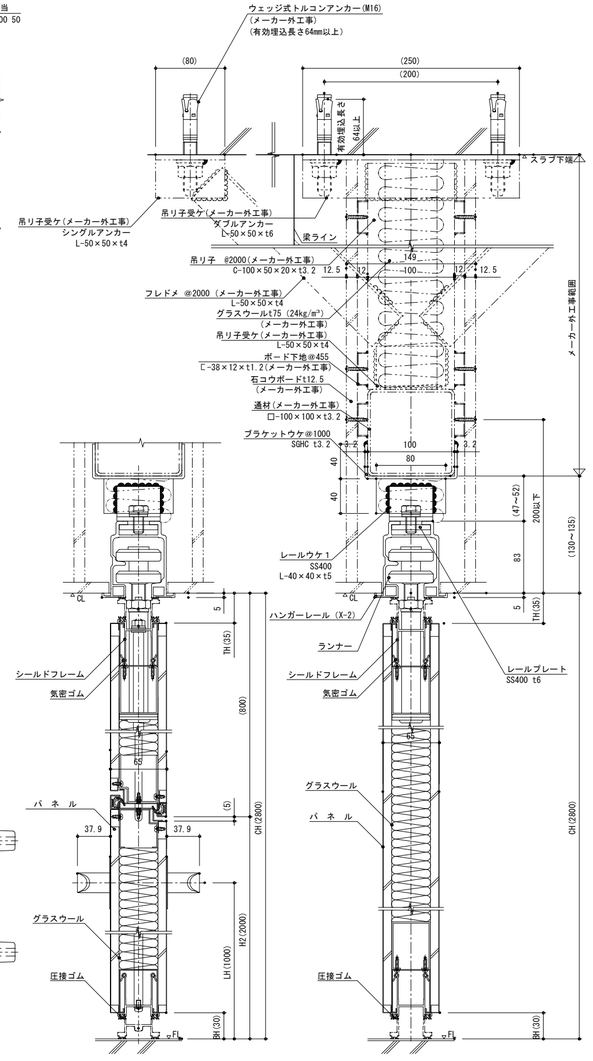


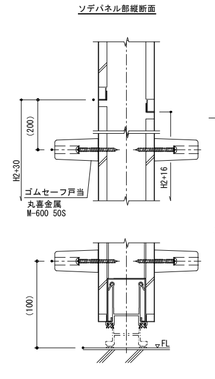












薄型遮音スライディングウォール

パネル	表面材		溶融亜鉛めっき鋼板（SGCC）t0.6mm（焼付塗装仕上）
	裏打材		石膏ボード（不燃） t9.5mm
	枠 材		溶融亜鉛めっき鋼板（SGCC）t1.6mm
	充填材		グラスウール（32kg／m³）t40mm
ドアパネル	表面材		溶融亜鉛めっき鋼板（SGCC）t0.6mm（焼付塗装仕上）
	裏打材		石こうボード t9.5mm
	枠 材		溶融亜鉛めっき鋼板（SGCC）t1.0mm
	充填材		グラスウール（32kg／m³）t40mm
シールドフレーム パネルエッジ 壁レール			アルミニウム合金押出形材（A6063S-T5）
気密ゴム			合成ゴム（EPDM） 塩化ビニール（PVC）
圧接ゴム			オレフィン樹脂（TPE）
吊レール			アルミニウム合金押出形材（A6063S-T5）
ランナー			ポリアセタール樹脂（ラジアルベアリング内蔵）
金 物	天井 床シールド		ワンタッチ圧接装置
	サイドシールド		回転ハンドル式圧接装置
	ド ア	丁 番	ステンレス製
		ロック	レバーハンドル
遮音性能	パネル性能：500Hz時 54.0dB減衰（パネル単体）		
	ドアパネル性能：500Hz時 30.4dB減衰		
備考	パネル現地組立方式 エッジレス仕様		
特記	コマニー（株）DP-60S同等品		

訂 正	月 日	事 項		
	. .		.	
	. .		.	
	. .		.	

株式会社ユニバァサル設計
UNIVERSAL DESIGN OFFICE INC.

事務所登録	東京本部一級建築士事務所 一級建築士事務所 東京都知事知事登録 第22736号		
設計者	一級建築士 登録第362390号 星野 康二	法適合確認結果等	

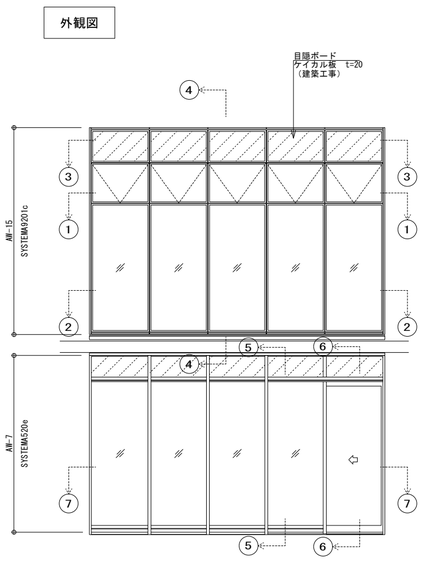
工事名称	仮称芳野市民センター新築工事	図面名称	移動間仕切詳細図（参考図）
作成	2025 年 2 月 17 日	承認	
部長	課長	担当	製図

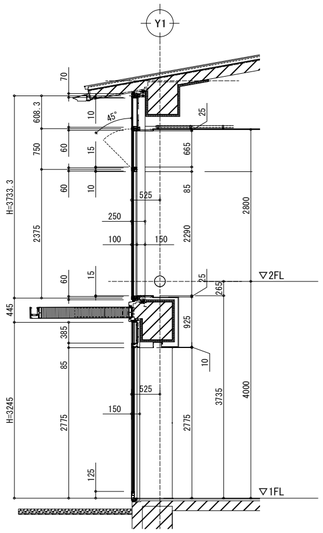
縮尺	A2:図示 A3:図示	図面No. 14-16
設計No.		

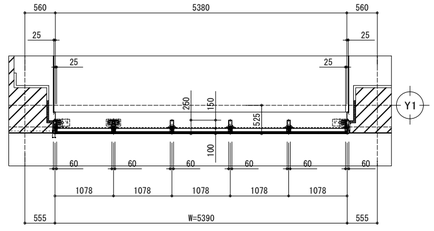
AW-7　FIX・片引きドア　　AW-12　FIX・外倒し窓

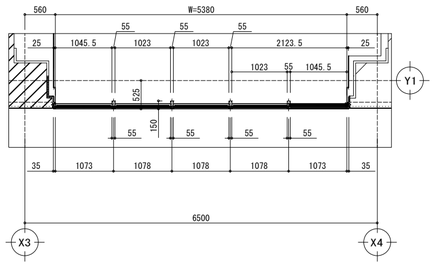
S=1/80

外観図









■製品特徴

・製品名：SYSTEMA9201c　同等品

・性能値

・耐風圧　S－4（2000Ｐａ）

・気　密　Ａ－４（２等級）

・水　密　1500 Pa

■製品特徴

・製品名：SYSTEMA520e　同等品

・性能値

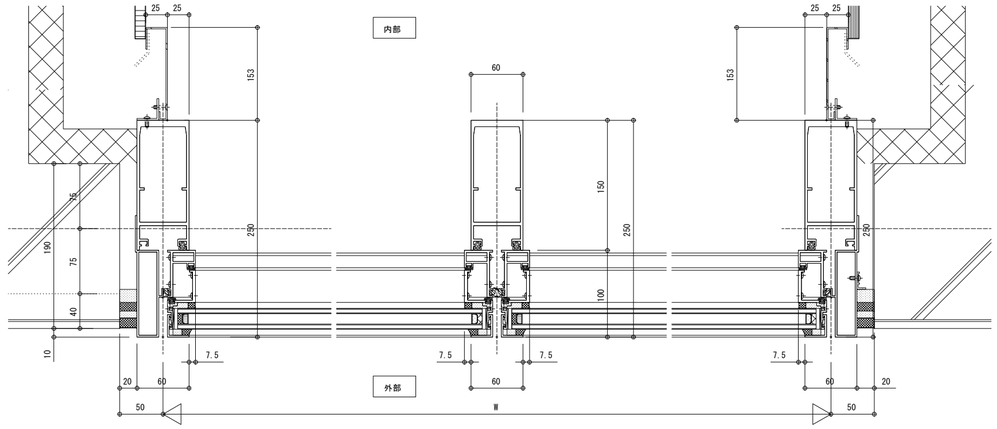
・耐風圧　S－2（1200Ｐａ）

・気　密　－

・水　密　－

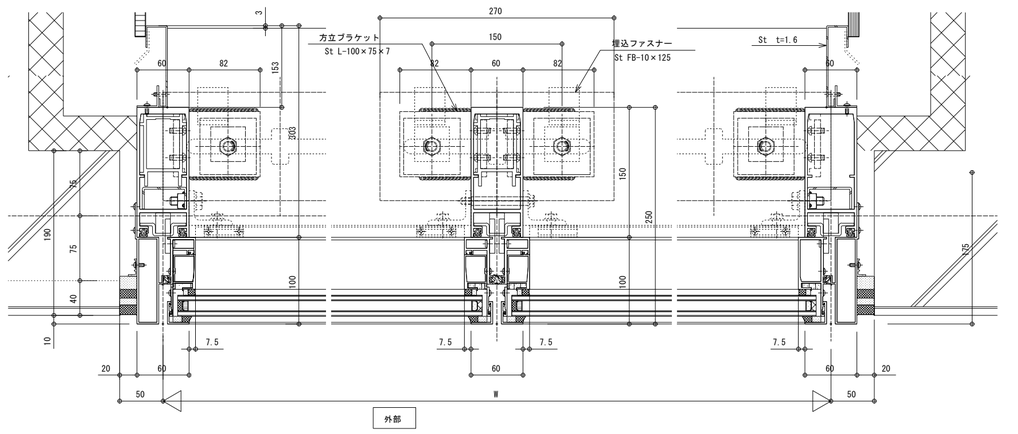
①－①断面図

S=1/5



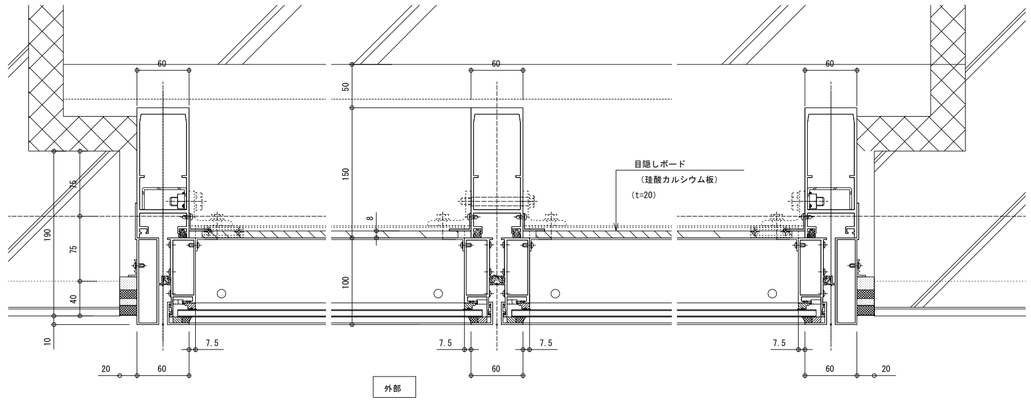
②－②断面図

S=1/5



③－③断面図

S=1/5



訂正	月　日	事　項		

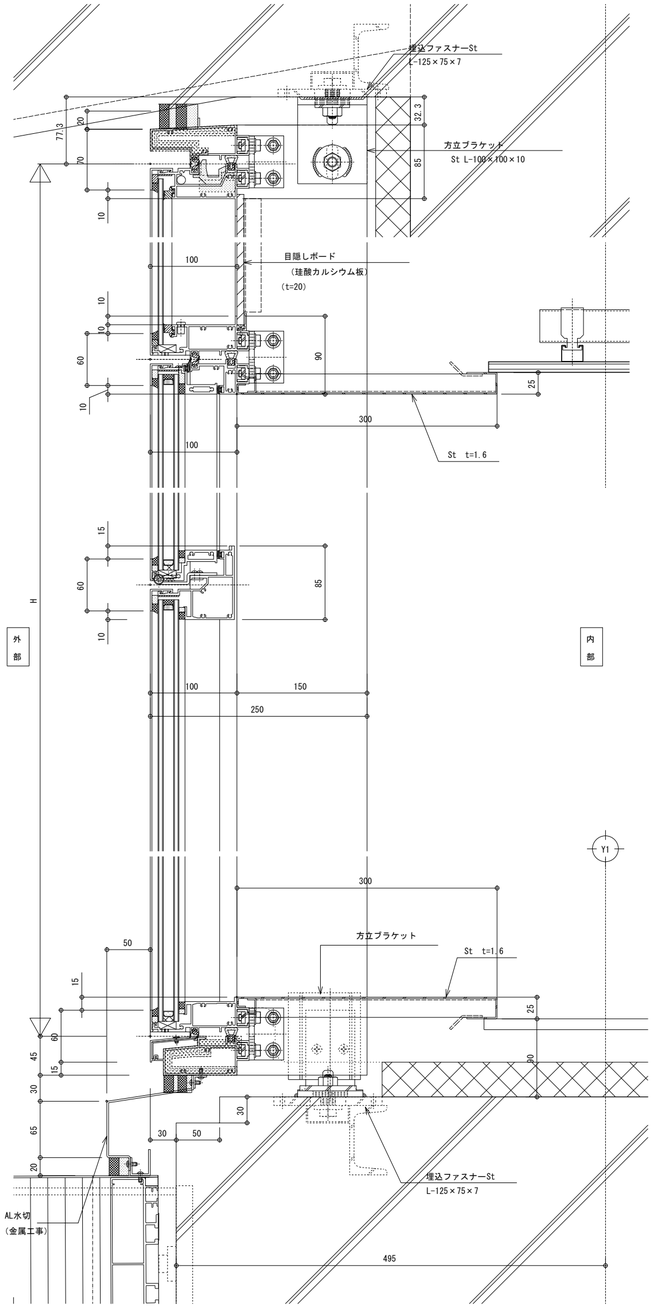
universal 株式会社ユニバァサル設計
UNIVERSAL DESIGN OFFICE INC.

事務所登録	東京本部一級建築士事務所 一級建築士事務所 東京都知事知事登録 第22736号		
設計者	一級建築士　登録第362390号　星野　康二	法適合確認結果等	

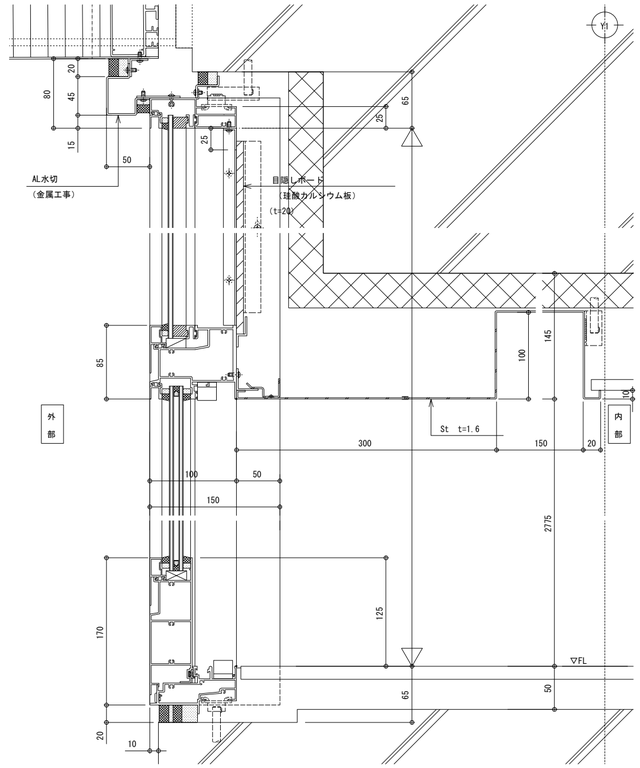
工事名称	仮称芳野市民センター新築工事	図面名称	カーテンウォール詳細図(1)(参考図)
作成	2025 年　2 月　17 日	承認	
部長	課長	担当	製図

縮尺	A2:図示 A3:図示	図面No. 14-17
設計No.		

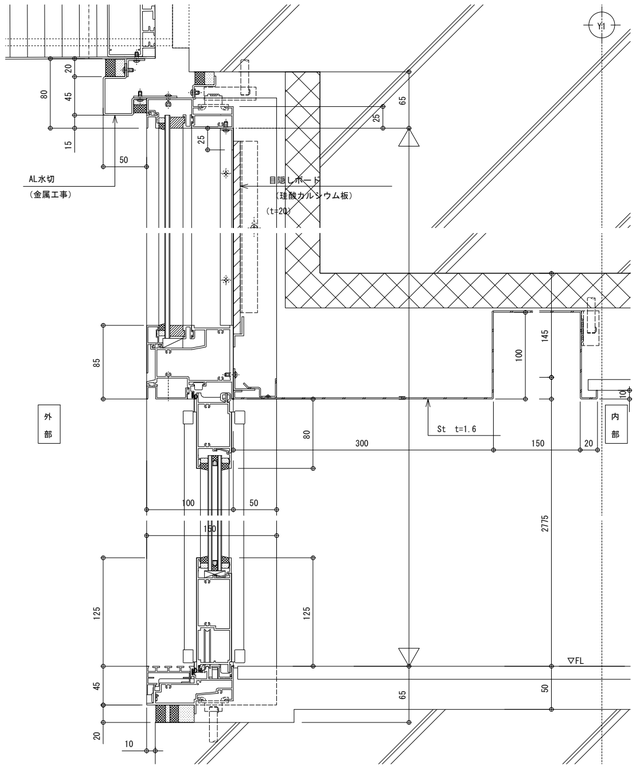
④－④断面図　S=1/5



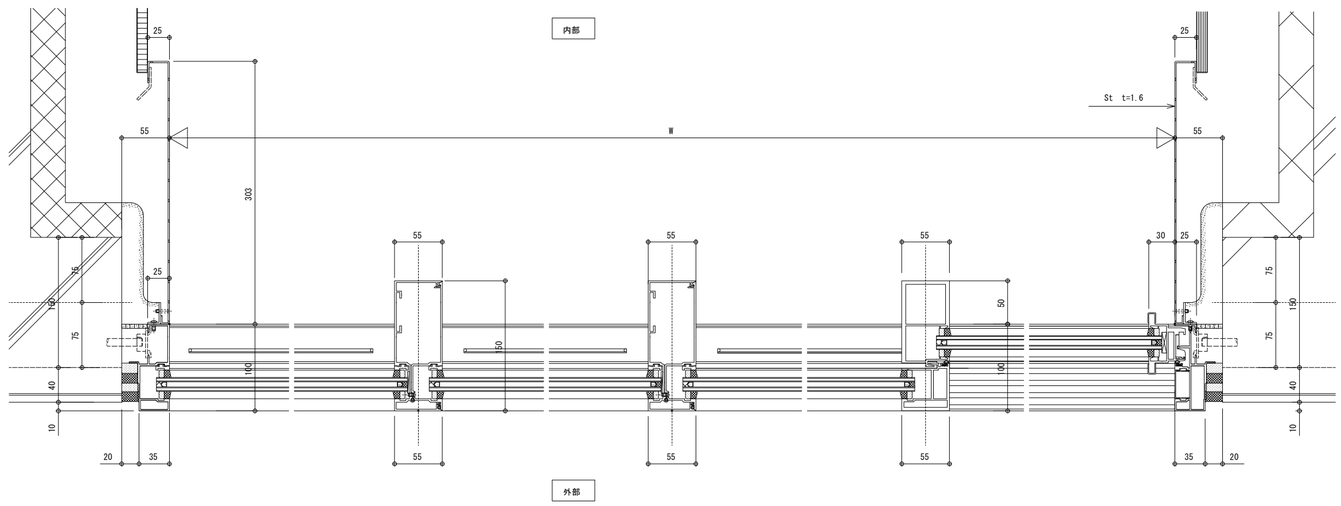
⑤－⑤断面図　S=1/5



⑥－⑥断面図　S=1/5



⑦－⑦断面図　S=1/5



訂	月　日	事　項		
正				

株式会社ユニバァサル設計
UNIVERSAL DESIGN OFFICE INC.

事務所登録	東京本部一級建築士事務所 一級建築士事務所 東京都知事登録 第22736号		
設計者	一級建築士　登録第362390号　星野　康二	法適合確認結果等	

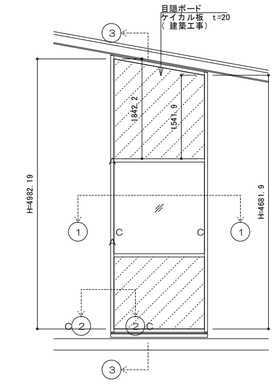
工事名称	仮称芳野市民センター新築工事	図面名称	カーテンウォール詳細図(2)(参考図)
作成	2025 年 2 月 17 日	承認	
部長	課長	担当	製図

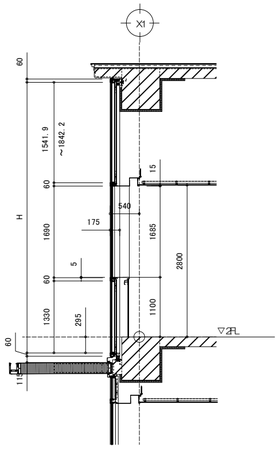
縮尺　A2:図示　A3:図示
設計No.
図面No.　14-18

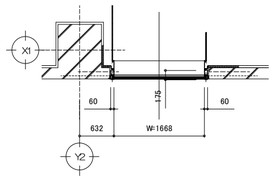
AW-14　FIX

S=1/80

外観図



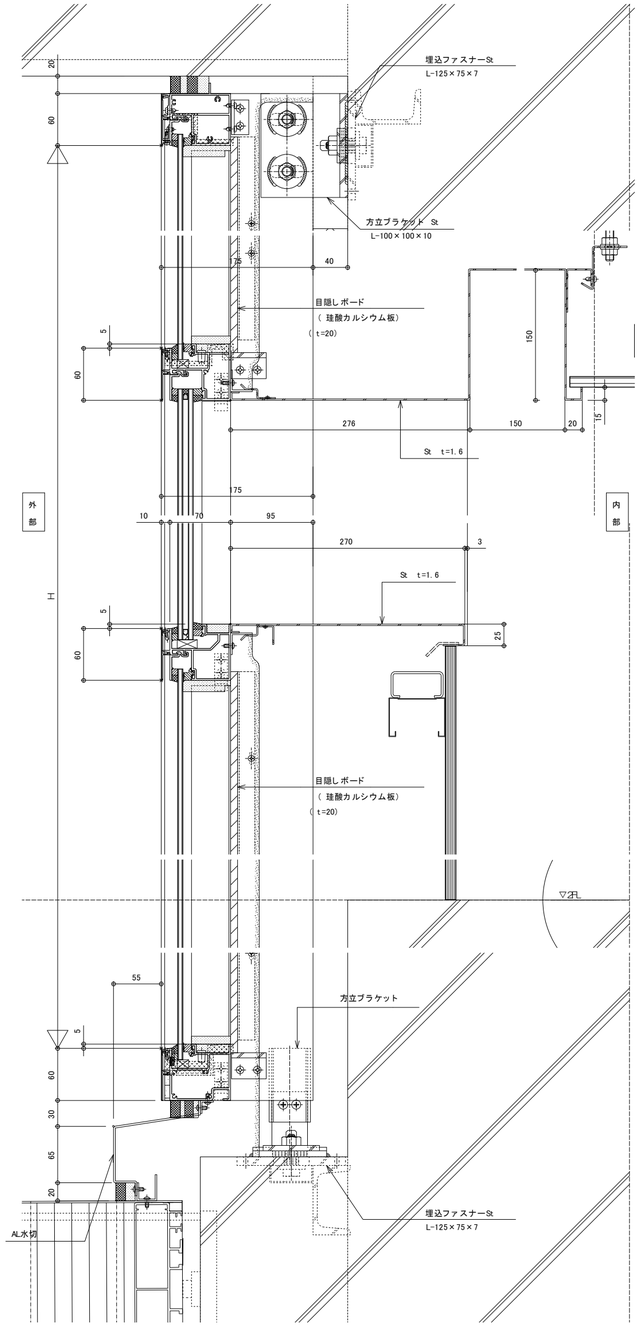




■製品特徴
・製品名：EXIMA91c　同等品
・性能値
・耐風圧　S-4（2000Ｐａ）
・気　密　A-4（2等級）
・水　密　1000 Pa

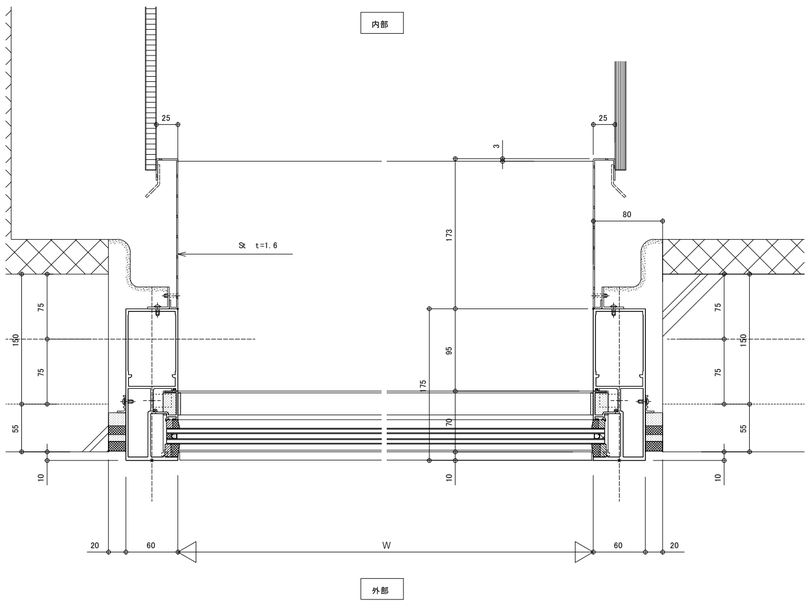
③－③断面図

S=1/5



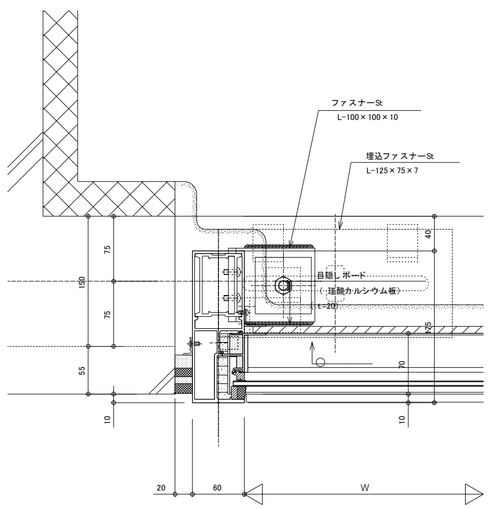
①－①断面図

S=1/5



②－②断面図

S=1/5



訂正	月　日	事　項		

株式会社ユニバァサル設計
UNIVERSAL DESIGN OFFICE INC.

事務所登録	東京本部一級建築士事務所 一級建築士事務所 東京都知事登録 第22736号		
設計者	一級建築士　登録第362390号　星野　康二	法適合確認結果等	

工事名称　仮称芳野市民センター新築工事

作成　2025 年　2 月　17 日　　承認

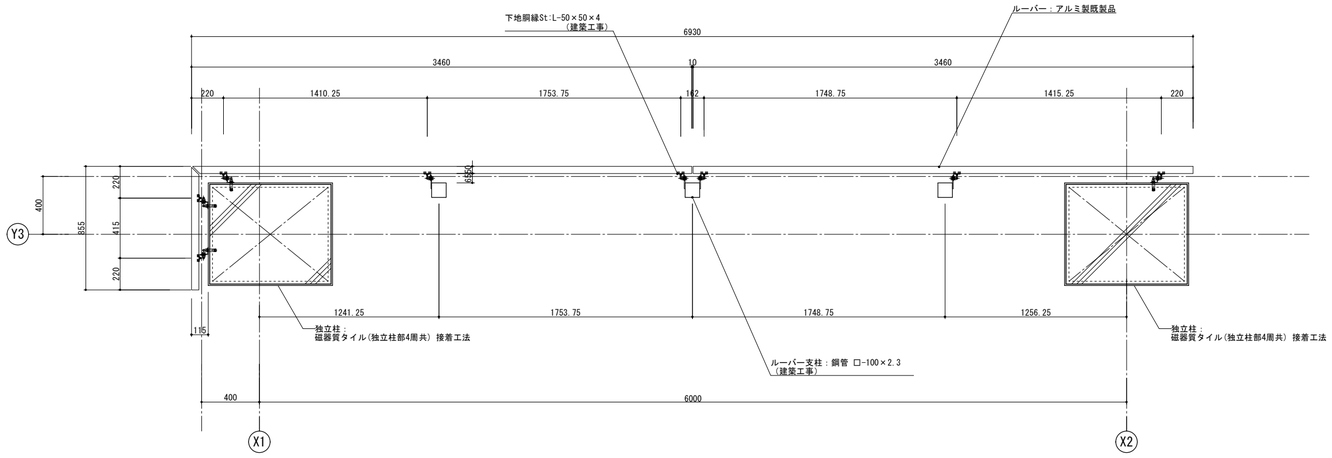
図面名称　カーテンウォール詳細図(3)(参考図)

縮尺　A2:図示　A3:図示

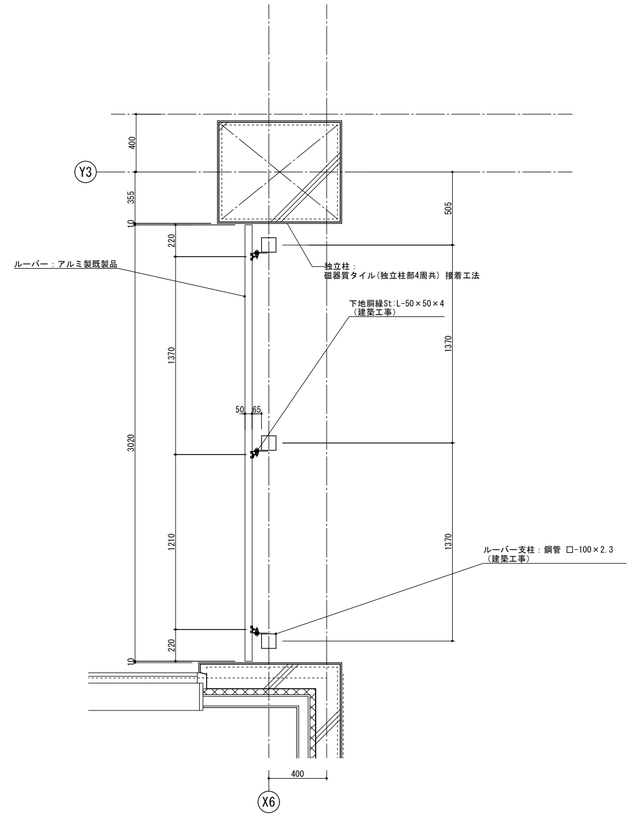
部長　課長　担当　製図

設計No.

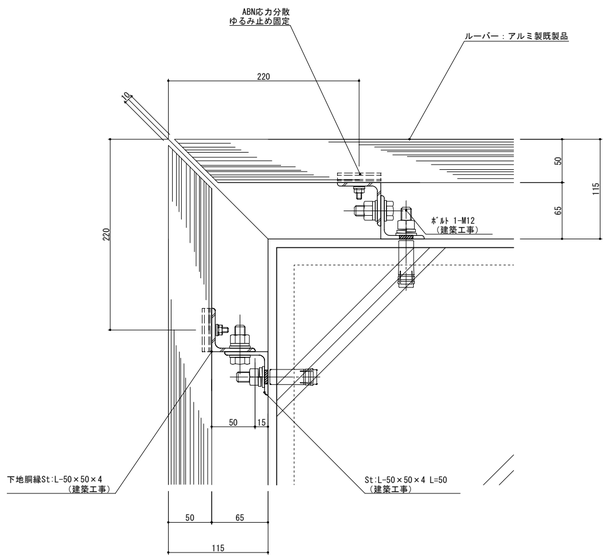
図面No.　14-19



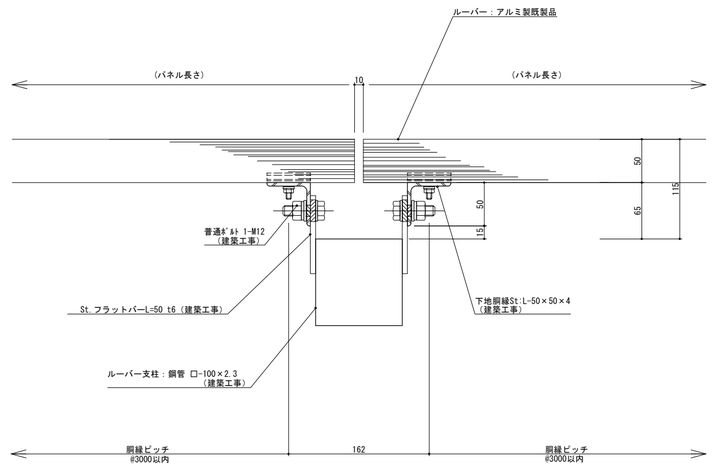
平面図-1 S=1/30



平面図-2 S=1/30



コーナー部詳細図 S=1/5

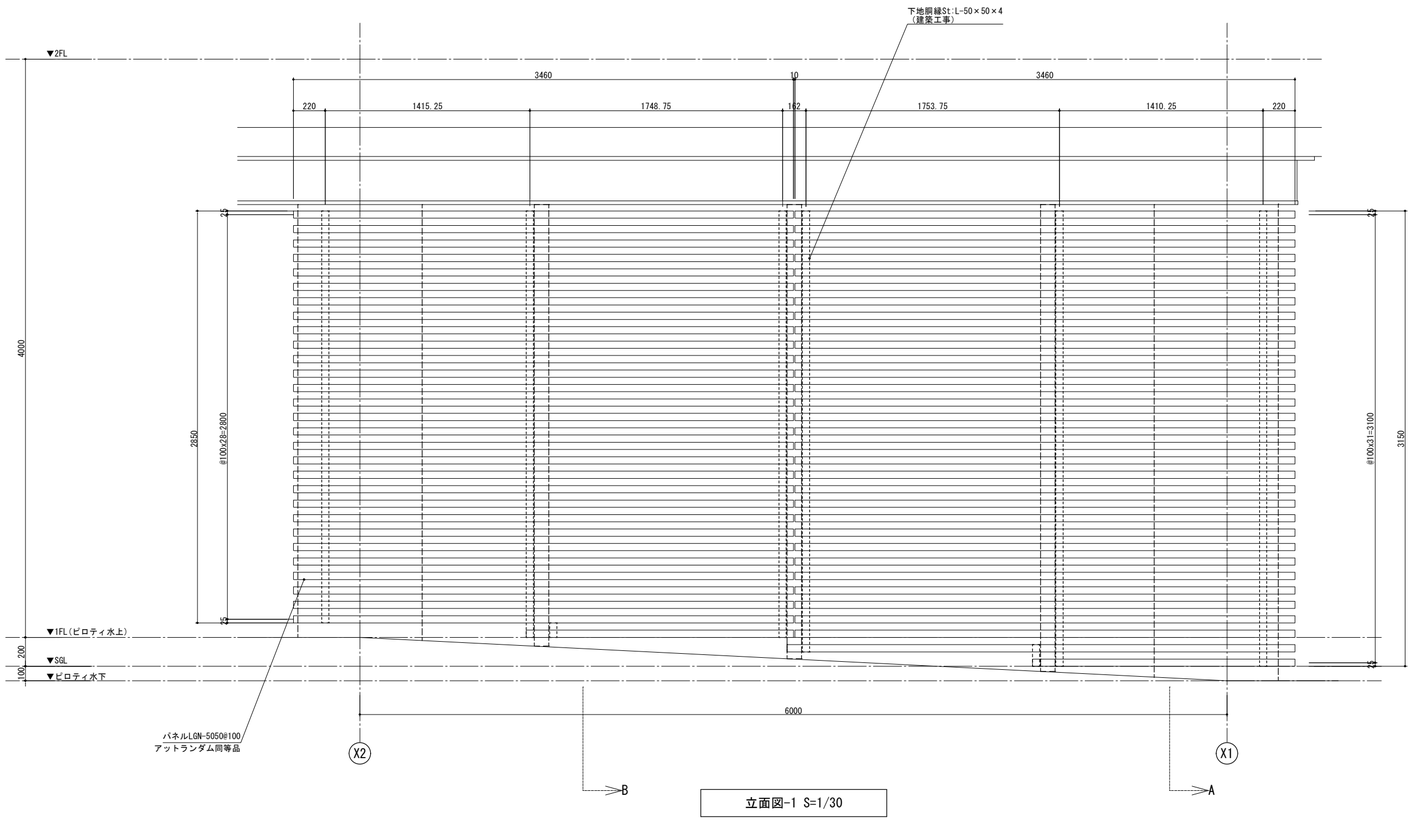


ジョイント部詳細図 S=1/5

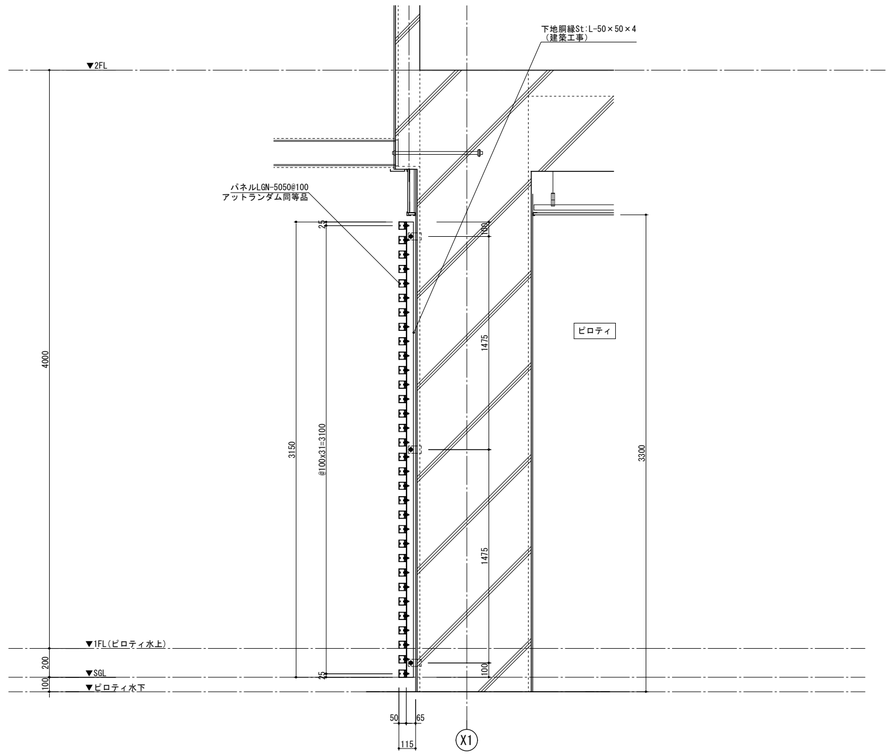
【共通】
鉄部は溶融亜鉛メッキ仕上げとする。

訂正	月 日	事項			事務所登録	東京本部一級建築士事務所 一級建築士事務所 東京都知事知事登録 第22736号			工事名称	仮称芳野市民センター新築工事	図面名称	ルーバー詳細図(1)	縮尺	A2:図示 A3:図示	図面No.
					設計者	一級建築士 登録第362390号 星野 康二	法適合確認結果等		作成	2025 年 2 月 17 日	承認	部長 課長 担当 製図	設計No.		14-20

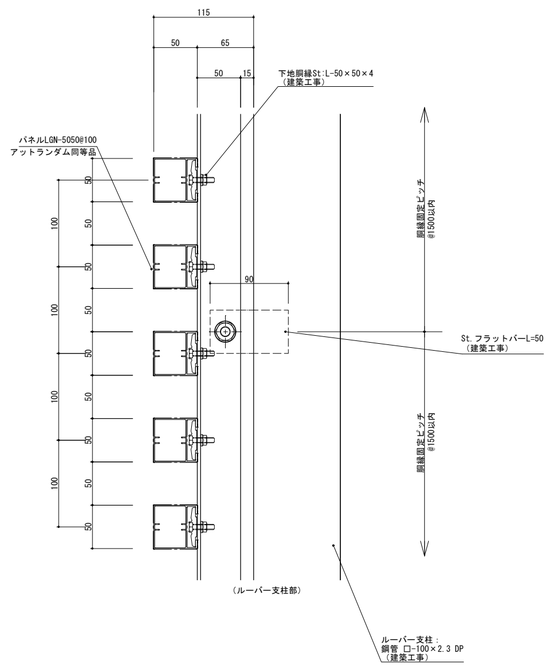
株式会社ユニバァサル設計
UNIVERSAL DESIGN OFFICE INC.

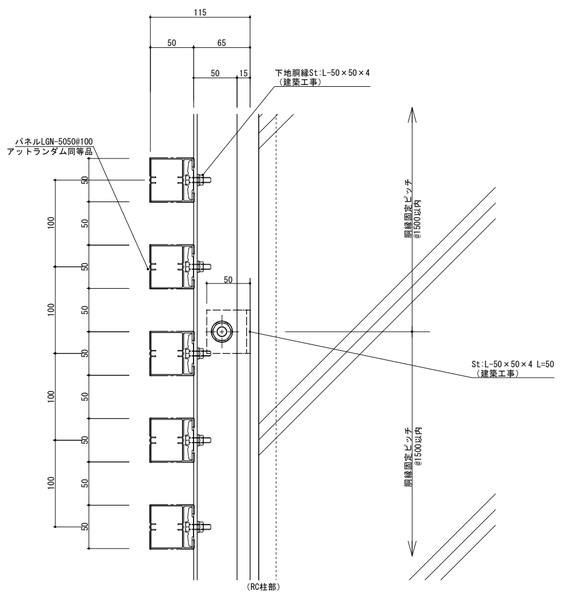


立面図-1 S=1/30

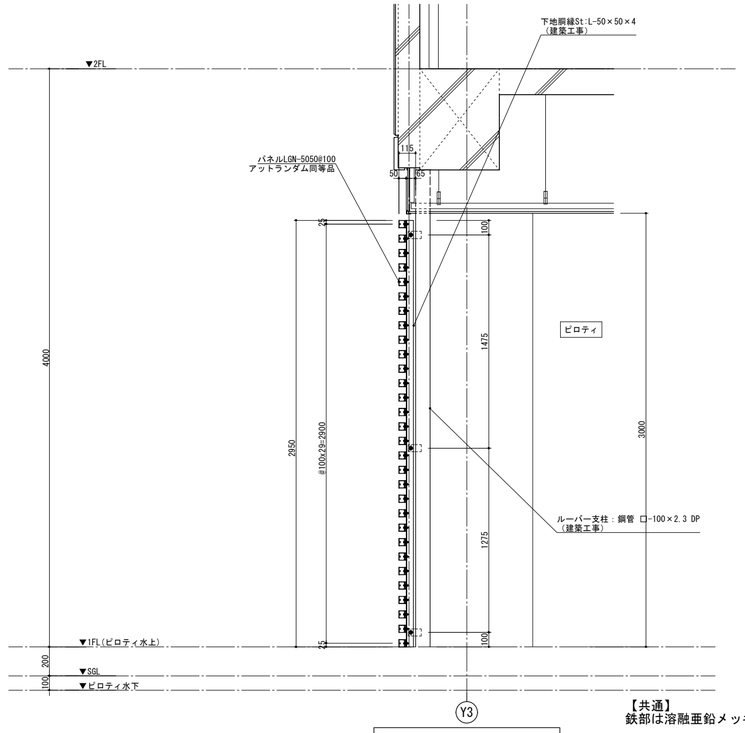


A 断面図 S=1/30





断面詳細図 S=1/5



B 断面図 S=1/30

【共通】
鉄部は溶融亜鉛メッキ仕上げとする。

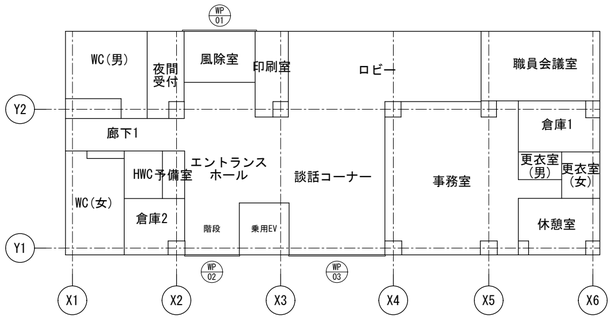
訂正	月 日	事項		

株式会社ユニバァサル設計
UNIVERSAL DESIGN OFFICE INC.

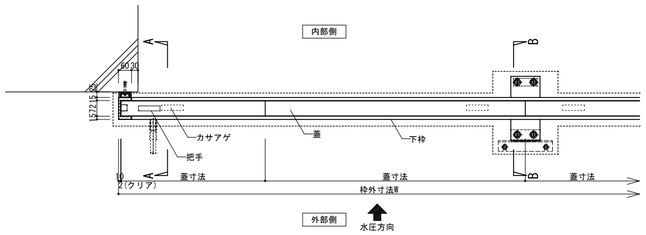
事務所登録	東京本部一級建築士事務所 一級建築士事務所 東京都知事知事登録 第22736号		
設計者	一級建築士 登録第362390号 星野 康二	法適合確認結果等	

工事名称	仮称芳野市民センター新築工事	図面名称	ルーバー詳細図(2)
作成	2025 年 2 月 17 日	承認	
部長	課長	担当	製図

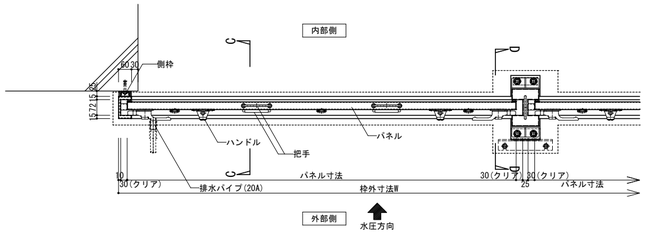
縮尺	A2:図示 A3:図示	図面No. 14-21
設計No.		



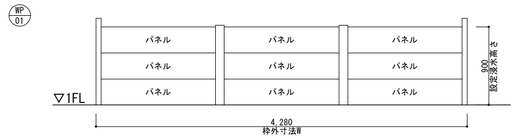
止水板キープラン

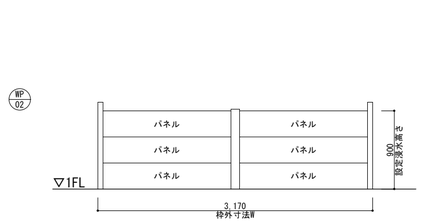


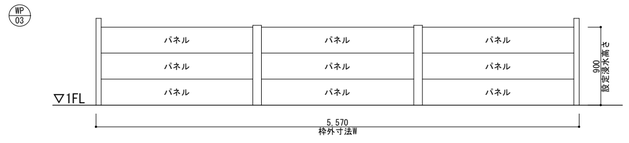
止水板(平常時)平面図　S=1/20



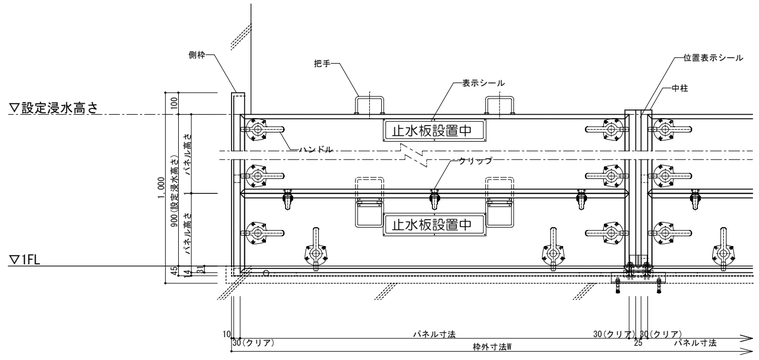
止水板(装着時)平面図　S=1/20



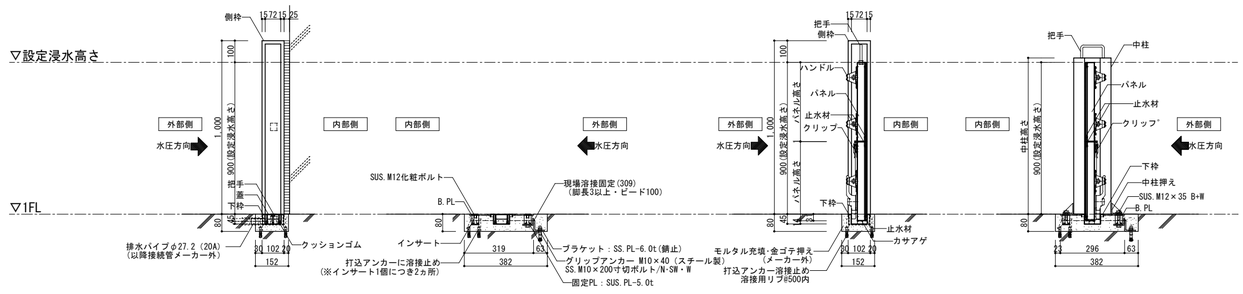




止水板 姿図　S=1/50



止水板 正面姿図　S=1/20



A－A　断面詳細図　S=1/20

B－B　断面詳細図　S=1/20

C－C　断面詳細図　S=1/20

D－D　断面詳細図　S=1/20

■仕様

パネル	中空アルミ合金押出形材(A6063S-T5)
パネル重量	t32：18.6kg/㎡
ハンドル	亜鉛合金(ZDC2)
止水材	RRゴム、EPDM
側枠	SUS304
中柱	SUS304
下枠	SUS304
下枠FB	SUS304
蓋	SUS304(仕上げ材：タイル)
製品収納器具	ステンレス製縦置き収納箱
	WP01：W1,440×H1,650×D580
	WP02：W1,110×H1,830×D580
	WP03：W1,440×H2,080×D580

■性能

浸水防止性能	Ws-6相当
側枠設置形式	露出型

三和シヤッター：脱着式防水(JP-WP-10)同等品

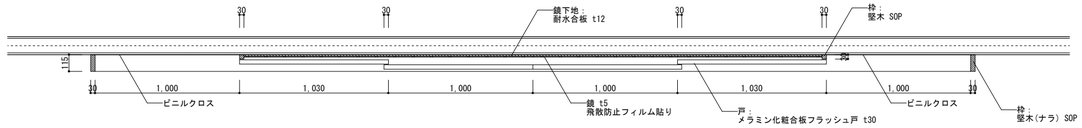
訂正	月　日	事　項		

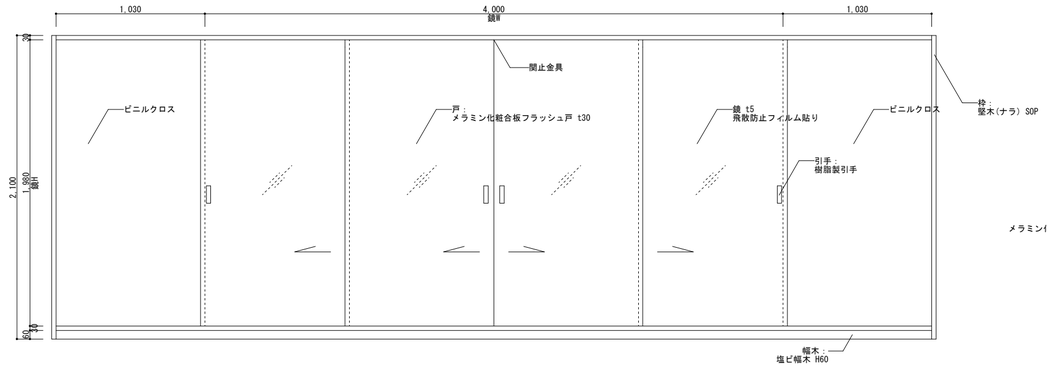
株式会社ユニバァサル設計
UNIVERSAL DESIGN OFFICE INC.
事務所登録　東京本部一級建築士事務所
一級建築士事務所 東京都知事知事登録 第22736号
設計者　一級建築士　登録第362390号　屋野　康二
法適合確認結果等

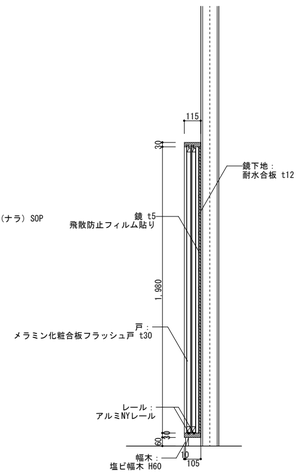
工事名称	仮称芳野市民センター新築工事
図面名称	止水板詳細図
縮尺	A2：図示 A3：図示
図面No.	14-22
作成	2025 年 2 月 17 日
承認	
部長	課長　担当　製図
設計No.	

壁面鏡詳細図

S=1/30







訂	月　日	事　項		
	. .		.	
正	. .		.	
	. .		.	

株式会社ユニバァサル設計
UNIVERSAL DESIGN OFFICE INC.

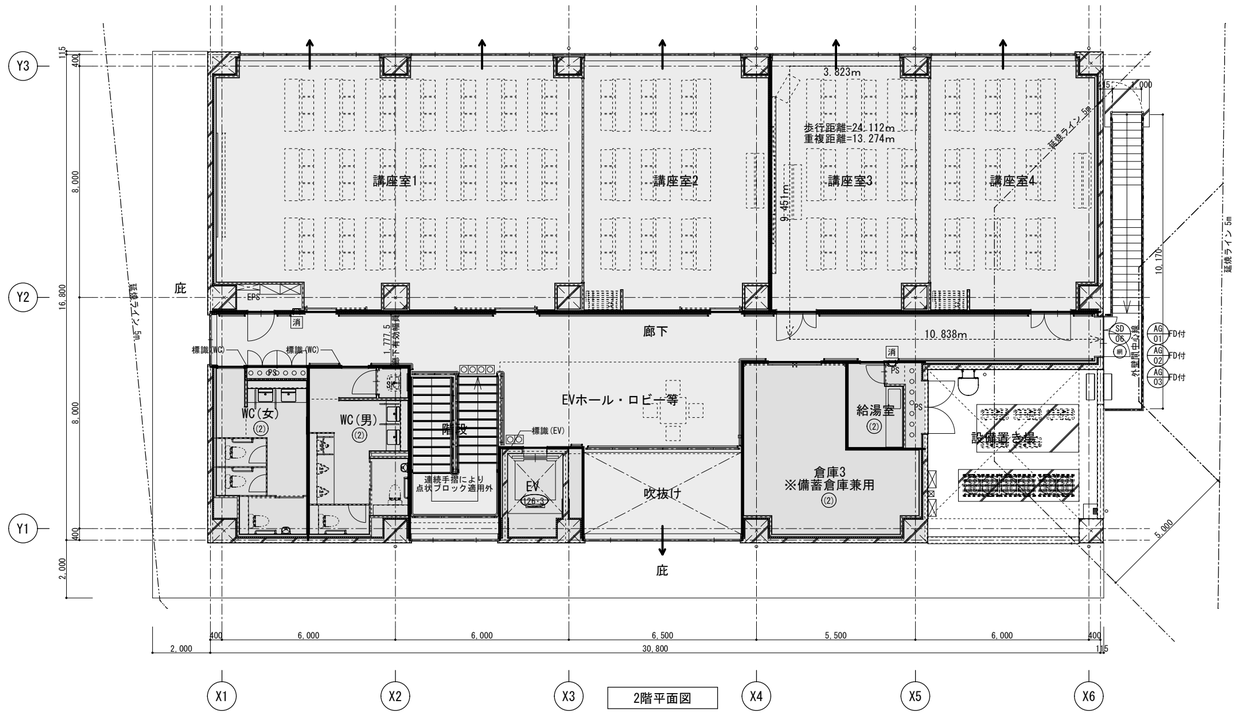
事務所登録	東京本部一級建築士事務所 一級建築士事務所 東京都知事登録 第22736号		
設計者	一級建築士　登録第362390号　星野　康二	法適合確認結果等	

工事名称	仮称芳野市民センター新築工事	図面名称	壁面鏡詳細図
作成	2025 年 2 月 17 日	承認	
部長	課長	担当	製図

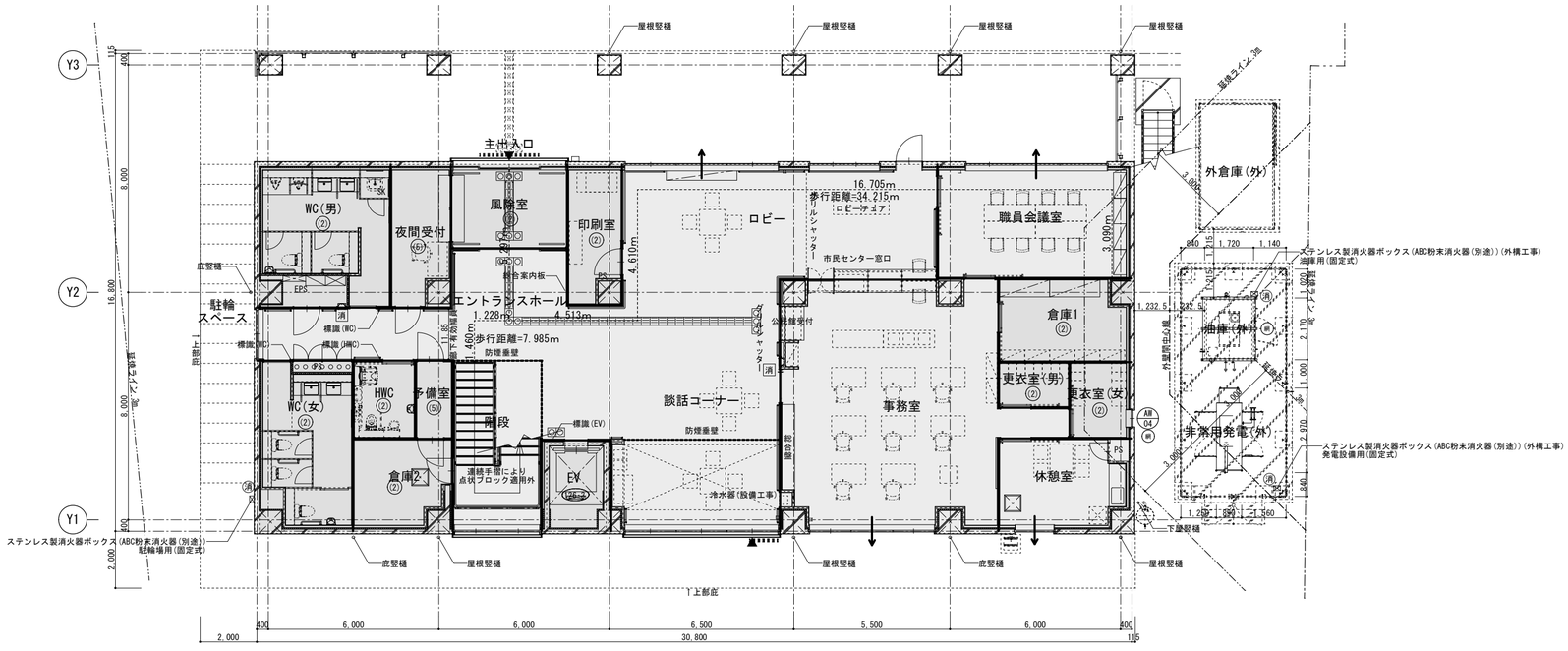
縮尺 A2:図示 A3:図示

設計No.

図面No. 14-23



2階平面図



1階平面図

凡例

	面積区画(兼防煙区画) ※各階床も区画とする
	竪穴区画(兼面積区画兼防煙区画)
	異種用途区画(兼防煙区画)
	防煙区画(間仕切り壁)
	防煙区画(垂れ壁)(特記なき限り下り壁H=500)
常時閉鎖式 特1	特定防火設備(令第112条19項1号) 告示1369号・2563号による構造
常時閉鎖式 特2	特定防火設備(令第112条19項2号) 告示1369号, 2564号による構造　遮煙性能付
常時閉鎖式 防1	防火設備(令第112条19項1号) 告示1360号, 2563号による構造
常時閉鎖式 防2	防火設備(令第112条19項2号) 告示1360号, 2564号による構造　遮煙性能付
常時閉鎖式 特	特定防火設備(令第112条19項2号) EV扉　大臣認定による構造　遮煙性能付
随時閉鎖式(煙感知器連動) 特1	特定防火設備(令第112条19項1号) 告示1369号・2563号による構造
随時閉鎖式(煙感知器連動) 特2	特定防火設備(令第112条19項2号) 告示1369号, 2564号による構造　遮煙性能付
随時閉鎖式(煙感知器連動) SS1	特定防火設備(令第112条19項1号)　シャッター 告示1369号, 2563号による構造
随時閉鎖式(煙感知器連動) SS2	特定防火設備(令第112条19項1号)　シャッター 告示1369号, 2564号による構造　遮煙性能付
随時閉鎖式(煙感知器連動) 防1	防火設備(令第112条19項1号) 告示1360号, 2563号による構造
随時閉鎖式(煙感知器連動) 防2	防火設備(令第112条19項2号) 告示1360号, 2564号による構造　遮煙性能付
網	防火設備(法第2条9号の2ロ) 網入りガラス同等以上
特記なき扉	不燃扉以上とする
	消防法上の不燃区画
消	消火器ボックス置き型
消	消火器ボックス壁全埋込型
	屋内消火栓設備
▼	非常用進入口または代替進入口(令126条の6) W750XH1200以上、下端の高さFL+1200以下
	非常用進入口のバルコニー(令126条の7) W4000×D1000
火報	火災報知連動開錠
	自然排煙
→	自然排煙位置
ハ	H12年建告1436号第四号ハ (危険物貯蔵場・自動車車庫・通信機械室・機械工場等+消火設備)
⑪	H12年建告1436号第四号へ(1) (室/住上準不燃・屋外以外に面する開放、避難通路面防火設備)
⑫	H12年建告1436号第四号へ(2) (室/100㎡以下防煙区画)
③	H12年建告1436号第四号へ(3) (居室/住上準不燃・50㎡以下防火区画及び防火設備)
④	H12年建告1436号第四号へ(4) (居室/住上準不燃・100㎡以下防火区画又は防火設備)
⑤	H12年建告1436号第四号へ(5) (居室/床面積100㎡以下・下地仕上共不燃)
水	H12年建告1436号第四号ホ (3)ロ(室/居室/住上準不燃・100㎡以下防火区画及び防火設備)
26-1	建築基準法施行令第126条の2第1項1号 (建法別表1(い)(二)/床面積100㎡以下・共同住宅200㎡以下)
126-3	建築基準法施行令第126条の2第1項3号 (階段部分、昇降機の昇降路の部分等)

特記事項

- 階段部分、昇降路部分、ELVホールは令126条の2第1項3号により排煙免除とする。
- 延焼ラインにかかる部分で100Φを超える給排気スリーブはFD付とし、外部は金属製ベントキャップ(指定色)とする。
- PS・EPS・MDは水平区画とする。
- W　×H　は開口寸法を示す。
- 防煙区画を構成する開口部上部の下がり壁は500以上かつ排煙有効ライン以上または300以上+常閉不燃戸とする。
- 開放廊下は法24条第六号ただし書きの「その他これら防煙区画を構成する開口部上部の下がり壁は500以上に類するもの」として取り扱い、延焼のおそれのある部分を生じないものとする。
- 外倉庫は付属建物で不燃のため、建物間の延焼ラインは発生しない。
- 屋内階段：蹴上167mm、踏面300mm、幅1,400、踊場1,400
- 屋外階段：蹴上171mm、踏面270mm、幅1,000、踊場1,200
- 内装、小屋裏に用いる材料はすべてF☆☆☆☆とする。
- 換気回数0.3回以上を確保する。
- 防火区画に接する外壁部分は幅900以上の部分を準耐火・耐火構造の壁、又は外壁面から500以上突出した準耐火・耐火構造のひさし、床、袖壁を設ける。
- コンロ廻りは準不燃材とする。

消防法関連

- カーテン・ロールスクリーン・じゅうたん等は防炎品を使用する。
- 内部の壁および天井は難燃材料以上とする。
- 消火器仕様：ABC10型粉末消火器、8cm以上×24cm以上、赤下地白文字「消火器」の標識を設置すること。
- 本計画において火気及びガス使用はない。

訂正 月	日	事項

株式会社ユニバァサル設計
UNIVERSAL DESIGN OFFICE INC.

事務所登録	東京本部一級建築士事務所 一級建築士事務所 東京都知事知事登録 第22736号	工事名称	仮称芳野市民センター新築工事
設計者	一級建築士　登録第362390号　星野　康二	作成	2025 年 2 月 17 日
法適合確認結果等		承認	

図面名称	法規チェック図(1)	縮尺	A2:1/150 A3:1/210
部長	課長	担当	製図
図面No.	15-01 確24	設計No.	

■採光・換気計算表

階数	部屋名	床面積(A)㎡	居室判定	建具記号	採光計算(A/20)									換気計算(A/20)						
					係数	必要面積㎡	有効幅m	有効高さm	補正係数(d×h)10-1	箇所	有効面積㎡	合計面積	判定	必要面積㎡	有効幅m	有効高さm	箇所	有効面積㎡	合計面積	判定
1	風除室	12.10	非居室	－	－	－	－	－	－	－	－	－	－	－	－	－	－	－	－	－
	エントランスホール	27.88	非居室	－	－	－	－	－	－	－	－	－	－	－	－	－	－	－	－	－
	談話コーナー ロビー	95.53	居室	AW01	0.05	4.7765	1.750	1.000	3.000	3	15.750	15.750	OK	機械換気						
	事務室	70.76	居室	AW06	0.05	3.53795	1.417	1.000	3.000	3	12.750	12.750	OK	3.538	0.688	1.000	3	2.065	4.085	OK
															0.673	0.500	6	2.020		
	更衣室(男)	4.01	非居室	－	－	－	－	－	－	－	－	－	－	－	－	－	－	－	－	－
	更衣室(女)	5.91	非居室	－	－	－	－	－	－	－	－	－	－	－	－	－	－	－	－	－
	休憩室	14.65	居室	AW05	0.05	0.73245	1.350	1.600	3.000	1	6.480	6.480	OK	0.732	0.655	1.600	1	1.048	1.048	OK
	職員会議室	27.48	居室	AW03	0.05	1.3741	1.608	1.000	3.000	3	14.475	14.475	OK	1.374	0.784	1.000	3	2.353	2.353	OK
	夜間受付	10.68	居室	－	非常用照明設置（令第126条の4）									機械換気						
	予備室	3.59	居室	－	非常用照明設置（令第126条の4）									機械換気						
	印刷室	8.82	非居室	－	－	－	－	－	－	－	－	－	－	－	－	－	－	－	－	－
	倉庫1	13.82	非居室	－	－	－	－	－	－	－	－	－	－	－	－	－	－	－	－	－
	倉庫2	11.39	非居室	－	－	－	－	－	－	－	－	－	－	－	－	－	－	－	－	－
	廊下1	12.75	非居室	－	－	－	－	－	－	－	－	－	－	－	－	－	－	－	－	－
	WC（男）	20.01	非居室	－	－	－	－	－	－	－	－	－	－	－	－	－	－	－	－	－
	WC（女）	19.34	非居室	－	－	－	－	－	－	－	－	－	－	－	－	－	－	－	－	－
	HWC	6.05	非居室	－	－	－	－	－	－	－	－	－	－	－	－	－	－	－	－	－
2	EVホール・ロビー等	25.07	居室	AW12	0.05	1.25355	5.320	2.025	3.000	1	32.319	32.319	OK	1.254	1.004	0.665	5	3.338	3.338	OK
	講座室1	111.55	居室	AW11	0.05	5.5774	1.555	1.000	3.000	3	13.995	13.995	OK	5.577	0.758	1.000	3	2.273	9.065	OK
															0.743	0.500	6	2.228		
															0.768	1.000	3	2.305		
															0.753	0.500	6	2.260		
	講座室2	57.71	居室	AW11	0.05	2.8855	1.743	1.000	3.000	3	15.690	15.690	OK	2.886	0.852	1.000	3	2.555	5.065	OK
															0.837	0.500	6	2.510		
	講座室3	49.12	居室	AW11	0.05	2.45595	1.410	1.000	3.000	3	12.690	12.690	OK	2.456	0.685	1.000	3	2.055	4.065	OK
															0.670	0.500	6	2.010		
	講座室4	52.66	居室	AW11	0.05	2.6329	1.605	1.000	3.000	3	14.445	14.445	OK	2.633	0.783	1.000	3	2.348	3.499	OK
															0.768	0.500	3	1.151		
	給湯室	6.00	非居室	－	－	－	－	－	－	－	－	－	－	－	－	－	－	－	－	－
	倉庫3	30.77	非居室	－	－	－	－	－	－	－	－	－	－	－	－	－	－	－	－	－
	廊下2	56.09	非居室	－	－	－	－	－	－	－	－	－	－	－	－	－	－	－	－	－
	WC（男）	21.03	非居室	－	－	－	－	－	－	－	－	－	－	－	－	－	－	－	－	－
	WC（女）	19.34	非居室	－	－	－	－	－	－	－	－	－	－	－	－	－	－	－	－	－

■排煙計算表

階数	区画記号	床面積(A)㎡	建具記号	排煙計算(A/50)						
				必要面積㎡	有効幅m	有効高さm	箇所	有効面積㎡	合計面積	判定
1	風除室	12.10	－	0.242	※H12年建告1436号第四号ヘ(2)適用により免除					
	エントランスホール 廊下1 談話コーナー ロビー	118.66	AW01	2.373	0.840	0.500	6	2.520	2.520	OK
	事務室	70.76	AW06	1.415	0.673	0.500	6	2.020	2.020	OK
	更衣室(男)	4.01	－	0.080	※H12年建告1436号第四号ヘ(2)適用により免除					
	更衣室(女)	5.91	AW04	0.118	※H12年建告1436号第四号ヘ(2)適用により免除					
	休憩室	14.65	AW05	0.293	0.655	0.775	1	0.508	0.508	OK
	職員会議室	27.48	AW03	0.550	0.769	0.500	6	2.308	2.308	OK
	夜間受付	10.68	－	0.214	※H12年建告1436号第四号ヘ(5)適用により免除					
	予備室	3.59	－	0.072	※H12年建告1436号第四号ヘ(5)適用により免除					
	印刷室	8.82	－	0.176	※H12年建告1436号第四号ヘ(2)適用により免除					
	倉庫1	13.82	－	0.276	※H12年建告1436号第四号ヘ(2)適用により免除					
	倉庫2	11.39	－	0.228	※H12年建告1436号第四号ヘ(2)適用により免除					
	WC(男)	20.01	－	0.400	※H12年建告1436号第四号ヘ(2)適用により免除					
	WC(女)	19.34	－	0.387	※H12年建告1436号第四号ヘ(2)適用により免除					
	HWC	6.05	－	0.121	※H12年建告1436号第四号ヘ(2)適用により免除					
	PS	0.94	－	0.019	※令第126条の2第1項第3号適用により免除					
	PS	0.66	－	0.013	※令第126条の2第1項第3号適用により免除					
	PS	0.67	－	0.013	※令第126条の2第1項第3号適用により免除					
	EPS	3.67	－	0.073	※令第126条の2第1項第3号適用により免除					
2	EVホール・ロビー等 廊下2 吹抜け 階段	136.22	AW12	2.724	1.004	0.665	5	3.338	3.338	OK
	講座室1	111.55	AW11	2.231	0.743	0.500	6	2.228	4.487	OK
					0.753	0.500	6	2.260		
	講座室2	57.71	AW11	1.154	0.837	0.500	6	2.510	2.510	OK
	講座室3	49.12	AW11	0.982	0.670	0.500	6	2.010	2.010	OK
	講座室4	52.66	AW11	1.053	0.768	0.500	6	2.303	2.303	OK
	給湯室	6.00	－	0.120	※H12年建告1436号第四号ヘ(2)適用により免除					
	倉庫3	30.77	－	0.615	※H12年建告1436号第四号ヘ(2)適用により免除					
	WC(男)	21.03	－	0.421	※H12年建告1436号第四号ヘ(2)適用により免除					
	WC(女)	19.34	－	0.387	※H12年建告1436号第四号ヘ(2)適用により免除					
	PS	0.94	－	0.019	※令第126条の2第1項第3号適用により免除					
	PS	2.10	－	0.042	※令第126条の2第1項第3号適用により免除					
	EPS	3.16	－	0.063	※令第126条の2第1項第3号適用により免除					

■消防無窓階の算定表

階	1						
各階床面積A(㎡)	419.72						
必要開口面積(㎡) A/30	13.99						
開口部面積(㎡)	建具記号	建具種別	FL+	ガラス種別	有効幅W(m)	有効高さH(m)	箇所数	有効面積(㎡)
	AW01	連窓引違い窓+外倒し排煙窓	1.175	複層ガラス(Low-E6＋A12＋T4)	0.85500	1.00000	3	2.56
	AW03	連窓引違い窓+外倒し排煙窓	1.175	複層ガラス(Low-E6＋A12＋T4)	0.78417	1.00000	3	2.35
	AW07	FIX窓+引戸	0	複層ガラス(Low-E6＋A12＋T4)	1.00400	2.81000	4	11.28
	SD01	片開扉	0	型板強化ガラス(FTG4)	0.90000	2.10000	1	1.89
	合計							18.08
判定	OK							

階	2						
各階床面積A(㎡)	463.48						
必要開口面積(㎡) A/30	15.45						
開口部面積(㎡)	建具記号	建具種別	FL+	ガラス種別	有効幅W(m)	有効高さH(m)	箇所数	有効面積(㎡)
	SD6	親子扉	0	網入型板ガラス(FWG6.8)	0.90000	2.10000	1	1.89
	AW11	連装引違い窓+外倒し排煙窓	1.175	複層ガラス(Low-E6＋A12＋T4)	0.75750	1.00000	3	2.27
					0.76833	1.00000	3	2.30
					0.85167	1.00000	3	2.55
					0.68500	1.00000	3	2.05
					0.78250	1.00000	3	2.34
	AW14	FIX段窓	1.095	複層ガラス(Low-E6＋A12＋T4)	1.65750	1.68000	1	2.78
	合計							16.18
判定	OK							

■耐火構造一覧

屋　根	外壁(耐力壁)	柱	梁
30分耐火構造	1時間耐火構造	1時間耐火構造	1時間耐火構造
H12建告1399第5	H12建告1399第1	H12建告1399第2	H12建告1399第4
鉄筋コンクリート造	ラーメン造・延焼ライン外のため 該当箇所無し	鉄筋コンクリート造	鉄筋コンクリート造
床	**階　段**	**間仕切壁(耐力壁)**	**軒裏**
1時間耐火構造	30分耐火構造	1時間耐火	－
H12建告1399第3	H12告示1399号第6	H12建告1399第1	－
鉄筋コンクリート造	鉄造	該当箇所無し	耐火構造のため 対象外

訂正	月　日	事　項		
	. .		. .	
	. .		. .	
	. .		. .	

株式会社ユニバァサル設計
UNIVERSAL DESIGN OFFICE INC.

事務所登録	東京本部一級建築士事務所 一級建築士事務所 東京都知事登録 第22736号		
設計者	一級建築士　登録第362390号　星野　康二	法適合確認結果等	

工事名称	仮称芳野市民センター新築工事	図面名称	法規チェック図(2)	縮尺	A2:NS A3:NS	図面No.	15-02
作成	2025 年 2 月 17 日	承認	部長　課長　担当　製図	設計No.			確25

エレベーター仕様

基本仕様	号機名	NO. 1
	型式	機械室レス標準型エレベーター
	用途	乗用兼車いす用
	定格積載質量/定員	750kg/11人乗
	定格速度	45m/min
	運転方式	乗合全自動方式（乗り捨て方式）
	制御方式	インバータ制御方式（マイコン制御）
	停止階	2箇所（1.2 階）
	かご寸法	間口1400mm　奥行1350mm　天井高さ2250mm
	出入口寸法	幅800mm　高さ2100mm
	戸型式	2枚戸中央開き
	電動機	AC 3.5kW
	動力用電源	AC 3φ 200V 50Hz
	照明用電源	AC 1φ 100V 50Hz
	連絡装置 設置場所	同時通話式インターホン 設置場所：1階事務室,1階エレベーターホール
	監視装置	リモートメンテナンスインターフェース付 （リモートメンテナンスを提供するためには、別途保守契約をしていただく必要があります）
管制運転	地震	有り（P波およびS波感知）（リスタート機能付）
	火災	有り（火報と連動した接点による自動式）
	停電	有り
	自家発	無し
乗場仕様	三方枠	1,2階大枠 鋼板塗装仕上（5分ツヤ）
	乗場戸	1,2階鋼板塗装仕上（5分ツヤ）
	幕板	1,2階鋼板塗装仕上（5分ツヤ）
	敷居	1,2階硬質アルミ
	ホールランタン	1,2階無し
	インジケーター	1,2階縦型デジタル表示 カバー：ステンレスヘアライン仕上
	ホールボタン	1,2階抗菌凸文字ボタン（φ45）（ＳＩＡＡ認証） インジケーターに組込
かご仕様	天井	デラックスタイプ（天井照明色：白色）
	前側板	ステンレスヘアライン仕上
	側板	化粧鋼板
	戸	化粧鋼板
	出入口上部	化粧鋼板
	床	樹脂タイル（2T）
	幅木	化粧鋼板（アルミナムシルバー）
	敷居	硬質アルミ
	操作盤 ボタン	抗菌凸文字ボタン（φ33）（ＳＩＡＡ認証）
	操作盤 カバー	ステンレスヘアライン仕上
	インジケーター	カラー液晶表示（背景色：白）操作盤に組込
	車いす用操作盤 ボタン	抗菌凸文字ボタン（φ33）（ＳＩＡＡ認証）
	車いす用操作盤 カバー	ステンレスヘアライン仕上
	気くばり操作盤 ボタン	無し
	気くばり操作盤 カバー	無し
	鏡	ステンレス製
	ハンドレール	ステンレスパイプ：ステンレスヘアライン仕上
監視盤		無し
耐震クラス		A14

特記仕様

	NO. 1
	昇降機技術基準の解説 2016年版対応
	音声案内装置（福祉のまちづくり条例対応）付
	遮煙性能付乗場戸（大臣認定品）（火災、停電付）（1,2階）
	点字注意銘板付（横型）
	車いす仕様付
	視覚障がい者仕様付（全ての操作盤と乗場ボタンに点字銘板付）
	壁埋込形インターホンボックス付（ステンレスヘアライン仕上）（1個）
	インターホン親機増し（1個）
	運転休止スイッチ（1階に取付）
	インジケーターに全階休止灯付
	かご戸大型防犯窓付（段差なし　あみ入り合わせガラス6.8T+3T）
	乗場戸大型防犯窓付（段差なし　あみ入り合わせガラス6.8T+3T）（1,2階）
	フェッシャプレート付
	車いす呼び戸開き時間延長
	一般呼び戸開き時間延長
	発音式ボタン（かご）
	非常放送用スピーカー付（かご天井上）
	かご戸袋引き込まれ低減機能付
	かご側板保護マット（高さ：床面から1800mm）付
	かご床マット付
	警報ブザーをかご上に取付
	非常ボタン連動　無電圧接点支給
	煙感知器点検扉用ドアスイッチ付
	公共建築工事標準仕様書適用
	4mレール使用
	ステンレス材一式：ＳＵＳ３０４
	レールサイズアップ
	多光軸ドアセンサー
	乗り場側利用者検知機能付
	空気清浄機能付（イオン発生機能同等品）
	レールブラケット各階床下固定
	ピット冠水時退避運転（基本仕様）
	-V-

工事区分

号機名　NO. 1

	項目	工事名	本工事 A	本工事 ELV	別途工事 E	別途工事 M
昇降路	1	昇降路の築造と誤差修正工事 1) 壁または囲いは隙間なきものとする 2) 昇降路の壁又は囲い及び出入口の戸は、任意の5cm²の面にこれと直角な方向の300Nの力が昇降路外から作用した場合において15mmを超える変形や塑性変形が発生しないこと 3) コンクリート厚さは150mm以上とする 4) コンクリート基準圧縮強度 21N/mm²以上とする	○			
	2	各階出入口床の敷居取り付け用かき込み または敷居受け持ち出し工事	○			
	3	各階出入口まわり壁の穴あけ工事 （出入口、ホールボタン、インジケータ、ホールモニターなど）	○			
	4	エレベーター据付後の出入口壁 および床その他建築仕上及び補修工事	○			
	5	三方枠、インジケータなどと壁間の防火区画処理	○			
	6	三方枠、インジケータなどと壁間のすきま塞ぎ工事 （ふさぎ板またはラス材）		○		
	7	ピット内防水仕上工事（ピット仕上面の水平度は1/200以下）	○			
	8	並設されたエレベーターの最下階が異なる場合の ピット間仕切り工事（H=1800以上）	○			
	9	オーバーヘッド・ピット寸法が図面と異なる場合の はつり・埋め戻し工事	○			
	10	ピット点検用タラップまたは梯子の設置工事		○		
	11	ピット点検用コンセント設置工事（1ヶ/台）			○	
	12	インターホンならびにその他の機器（放送（一般・非常） 自家発商用電源識別接点・火災時管制用接点・防犯カメラ等）用 配管、配線工事（配線サイズ、本数は電気設備欄による）			○	
	13	昇降路内の受電制御盤への動力電源、照明用電源および アース線の引き込みならびにつなぎ込み工事 （配線サイズ、本数は電気設備欄による）			○	
	14	監視盤がある場合の監視盤用配管配線工事 （監視盤配置場所より昇降路最下階の制御盤位置まで引き込み）			○	
	15	昇降路頂部の煙感知器の設置工事（昇降路外部から保守点検可能な構造） （点検扉は、厚さ1.5mm以上の鉄板製）			○	
	16	昇降路頂部の煙感知器点検扉ELV連動停止スイッチ取付		○		
	17	リモートメンテナンス用として電話中継盤から 昇降路までの配管（最小直径25mm）、配線工事 （配線サイズ、本数は電気設備欄による）			○	
	18	昇降路出入口側内壁（敷居下および出入口上部）とかご前端が 125mm以上離れる場合のフェッシャプレート取付用下地設置工事	○			
	19	昇降路出入口側内壁（敷居下および出入口上部）とかご前端 が125mm以上離れる場合のフェッシャプレート設置工事		○		
	20	昇降路内配管工事に伴う区画貫通部の耐火処理工事			○	
	21	昇降路頂部への吊りフックの設置工事	○			
	22	昇降路内への中間ビーム設置工事（コンクリート階）		○		
	23	PC構造に於けるインサート埋め込み工事またはプレート設置工事	○			
	24	不停止階の昇降路救出口扉の設置工事（施行令129条の7の1による）	○			
	25	かごドレン式クーラー設置時のピット排水管工事	○			
その他	1	エレベーター部品搬入経路の確保 （必要に応じてコンクリートの穴あけおよび埋め戻し工事）	○			
	2	エレベーター重量部品搬入の際の仮設揚重機の貸与	○			
	3	エレベーター据付工事員現場詰所および材料置場の確保	○			
	4	エレベーター据付工事用電力の供給（動力用および照明用電源）	○			
	5	エレベーター運転調整用電力の供給 （動力用および照明用電源ともに本設電源配管経路で引き込み）	○			
	6	医療機器、放送用機器、コンピューター機器などの 電源とエレベーター動力用電源およびアース線の系統分離工事			○	
	7	昇降路と居室が隣接する場合の居室側防音および防振工事	○			
	8	昇降路内建築工事仮設床（水平養生）用の 金網・デッキプレートなどの撤去工事	○			
	9	エレベーター着工前の各階出入り口開口部の塞ぎ材支給および施工	○			
	10	出入口が直接外気と接する乗場における雨水よけ工事 （庇、水切り等）	○			
	11	昇降路内仮設足場の設置および解体工事	○			
	12	エレベーター承認図と躯体が異なる場合の手直し	○			
	13	昇降路がガラスの場合の養生施工および塗装工事	○			
	14	ALC継目の補修、セパボルトの撤去	○			

労基法適用（本設用）：　有（設置届・設置報告）・　無

標準型エレベーターの荷役制限について

・軽台車などで荷物を運搬する場合には、250kg以下/回。

遮煙性能付乗場戸設置上の条件

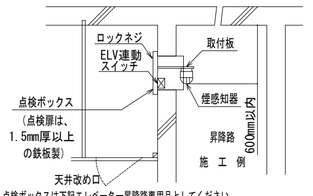
・遮煙性能付乗場戸を設置するためには、自動火災報知設備が必要です。
　設置義務の無い建物であっても、必ず設けてください。
・自動火災報知設備の設置義務の無い建物の場合には、遮煙性能付乗場戸設置階の
　エレベーターホールに必ず煙感知器などの火災感知器設置し、
　火災感知信号を自動火災警報盤を介してエレベーター制御盤に供給してください。

特定防火設備：防犯窓ガラス設置不可（防犯あみ入りガラス窓付きの場合は防火設備となります）

電気設備

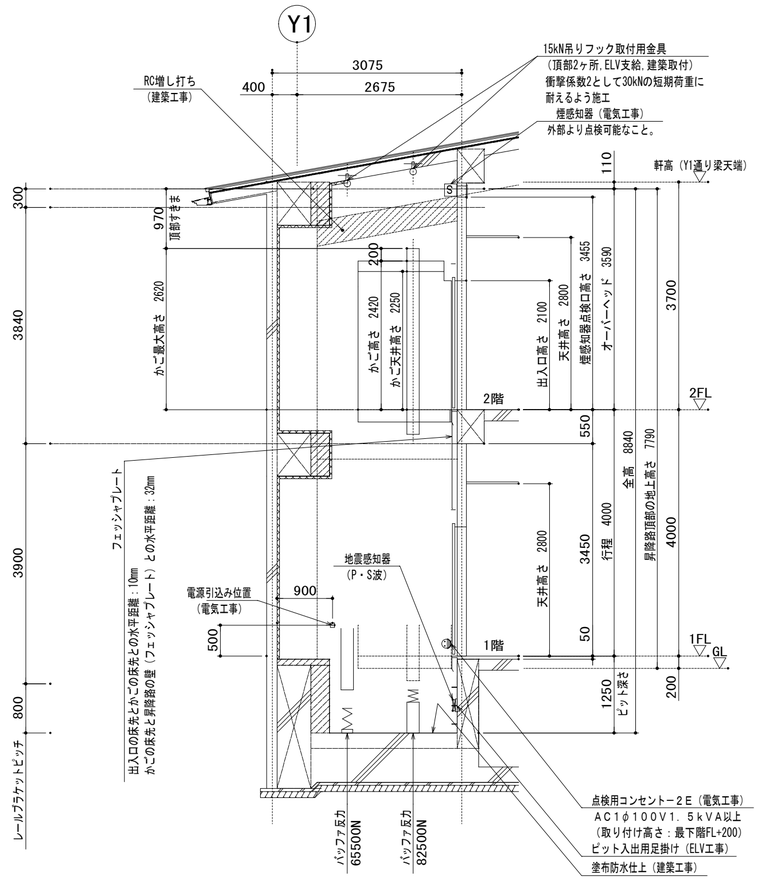
号機名	NO. 1			
動力用電源	AC 3φ 200V 50Hz 14mm²×1回路（CV）/台			
	線サイズ（mm²）	8	14	22
	最大引込距離（m）	79	137	211
	ＭＣＢ容量	30A/台		
	トランス容量	4kVA/台		
	起動KVA	13kVA/台		
照明用電源	AC 1φ 100V 50Hz 5.5mm²×1回路/台			
アース線	2mm²（D種）/台			
インターホン用配管配線	FCPEV0.9-5P/台（200mまで）			
リモートメンテナンス用配管配線（電話線）	CPEV0.9-1P, 配管サイズφ25/台（MDF～昇降路間）			
ピット点検用コンセント	AC100V 1.5kVA以上×1個/台 （最下階FL+200の出入口付近に設置）			
インターホン連動用の無電圧ａ接点支給及び配管配線	印加電圧DC48V　接点容量0.1A以下			
火災報知信号無電圧ａ接点支給及び配管配線	印加電圧DC24V　接点容量1A以上/台			
非常放送用スピーカー用配管配線	HP1.2-2C/台			
注意事項	上記の配管配線はエレベーター制御盤から各設備ならびに機器の設置場所まで引込み 上記の配管配線はエレベーターの着工前までに本設配線で引込み			

煙感知器施工例



点検ボックスは下記エレベーター昇降路専用品としてください。
・ホーチキ　(KUS-1C)
・能美防災　(FXS J001A-HU)
・ニッタン　(NID-T-G)
・パナソニック（BV95351+BV95381H）
（点検扉を開いた場合はエレベーターは停止します。）

・煙感知器取付高さがかご天井高さ+1700mmを超える場合は当社技術員にご相談ください。
・エレベーター出入口側に煙感知器を設置する場合はかご出入口機器と干渉する恐れがあるので事前にご相談ください。



NO.1 昇降路断面図（1：100）

訂正	月　日	事　項		

株式会社ユニバァサル設計
UNIVERSAL DESIGN OFFICE INC.

事務所登録	東京本部一級建築士事務所 一級建築士事務所 東京都知事知事登録 第22736号		
設計者	一級建築士　登録第362390号　星野　康二	法適合確認結果等	

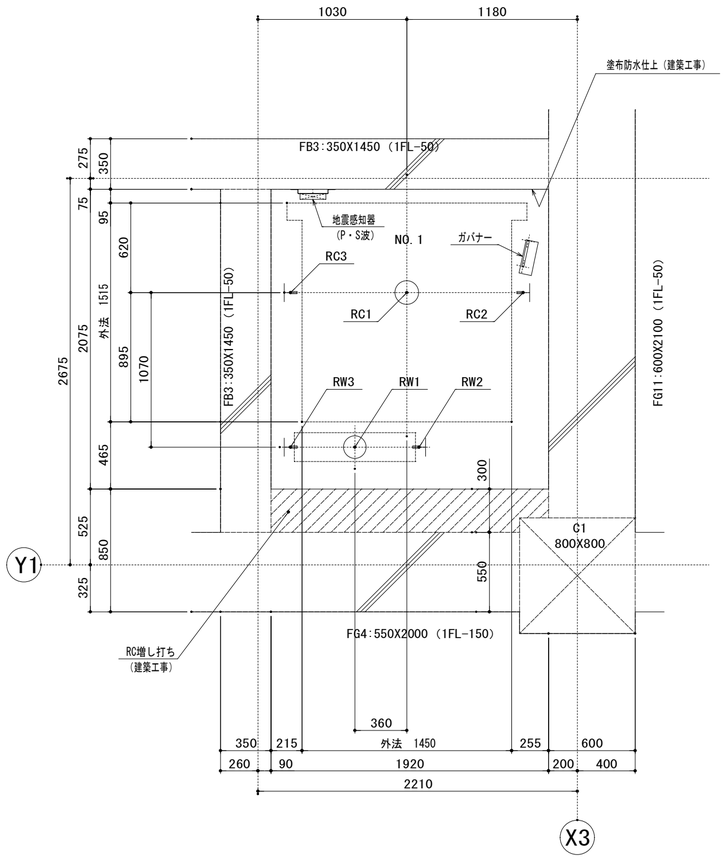
工事名称	仮称芳野市民センター新築工事	図面名称	昇降機詳細図(1)
作成	2025 年 2 月 17 日	承認	
縮尺	A2:NS A3:NS	図面No.	21-01 確26
部長	課長	担当	製図
設計No.			

耐震クラス：A１４

ガイドレール 部分荷重（N）	かご側		ウェート側	
	ＰＸ	ＰＹ	ＰＸ	ＰＹ
NO.１	4400	2500	6750	3400

注）　上記荷重により柱及びはりのたわみは
５mm以下になるよう部材を設計下さい

地震時建物に掛る荷重

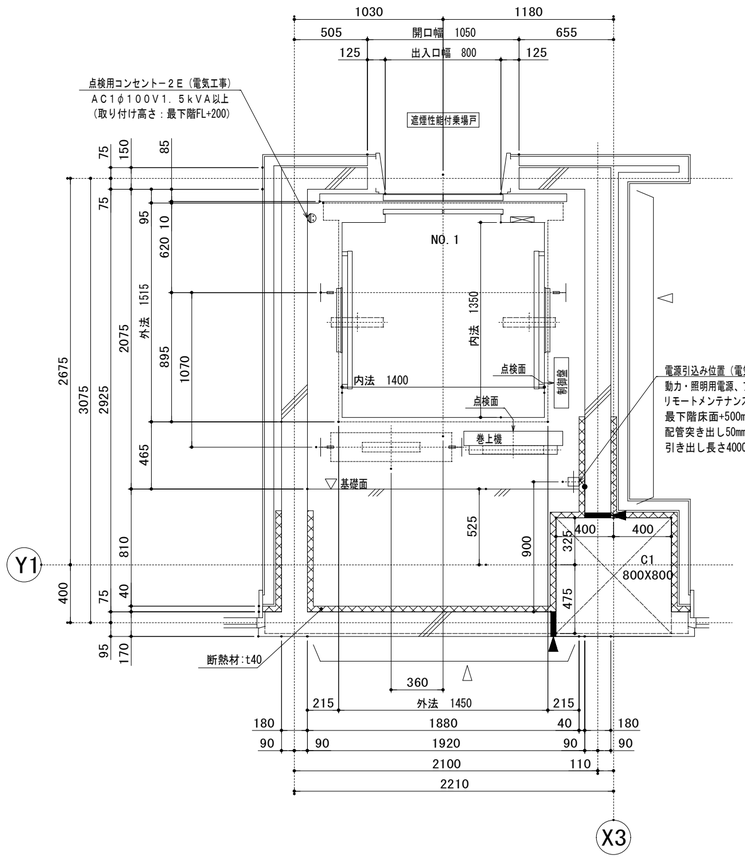


ピット平面図（1：40）

ピット反力値（N）

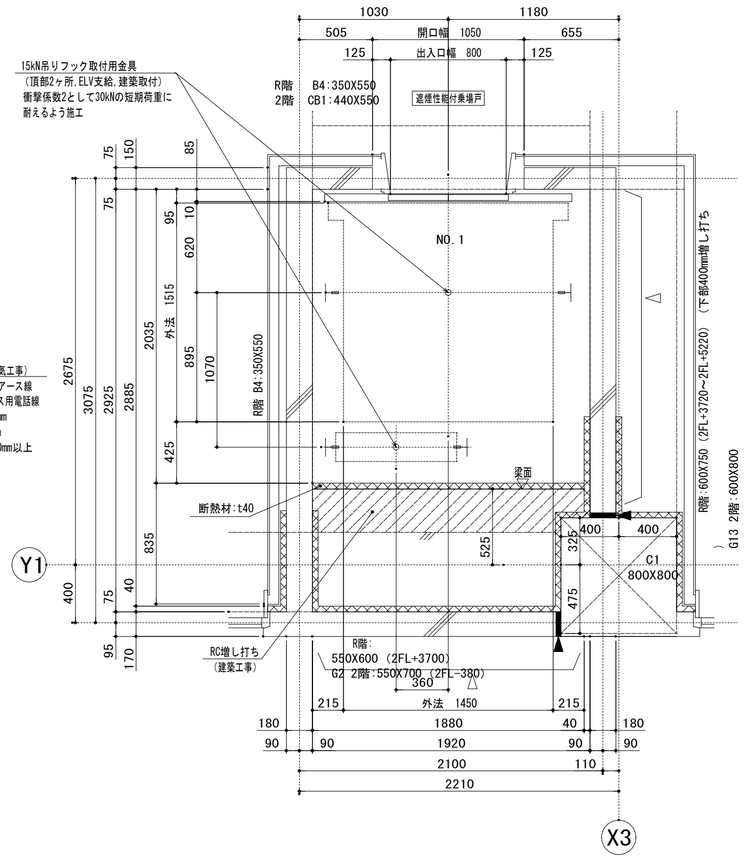
	短期荷重		長期荷重			
号機名	RC1	RW1	RC2	RC3	RW2	RW3
NO.１	82500	65500	22000	22000	42500	15500

コンクリート厚さは150mm以上とする
設計基準強度21N/mm²以上とする



1階 昇降路平面図（1：40）

▼ 鉛直スリット
▽ 水平スリット



2階 昇降路平面図（1：40）

▼ 鉛直スリット
▽ 水平スリット

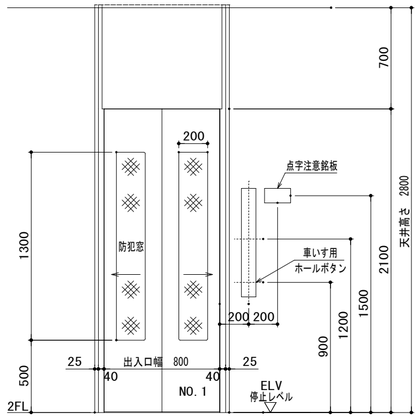
訂正	月　日	事　項		

株式会社ユニバァサル設計
UNIVERSAL DESIGN OFFICE INC.

事務所登録	東京本部一級建築士事務所 一級建築士事務所 東京都知事登録 第22736号		
設計者	一級建築士　登録第362390号　星野　康二	法適合確認結果等	

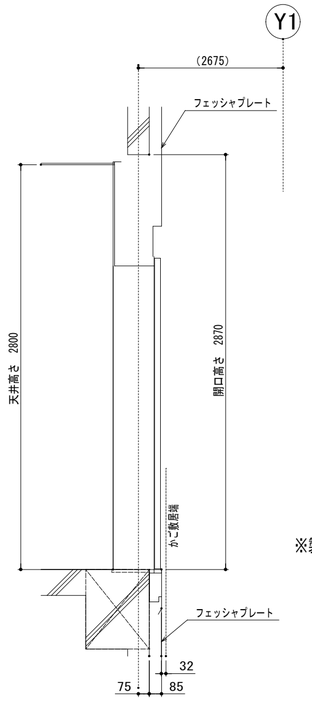
工事名称	仮称芳野市民センター新築工事	図面名称	昇降機詳細図(2)
作成	2025 年 2 月 17 日	承認	
部長	課長	担当	製図

縮尺	A2:1/30 A3:1/42	図面No.
設計No.		21-02 確27



※点字注意銘板位置は監督員と協議の上、決定すること

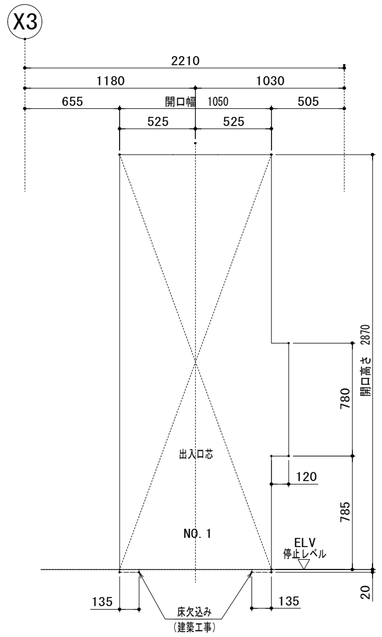
2階 出入口正面及断面図（1：40）



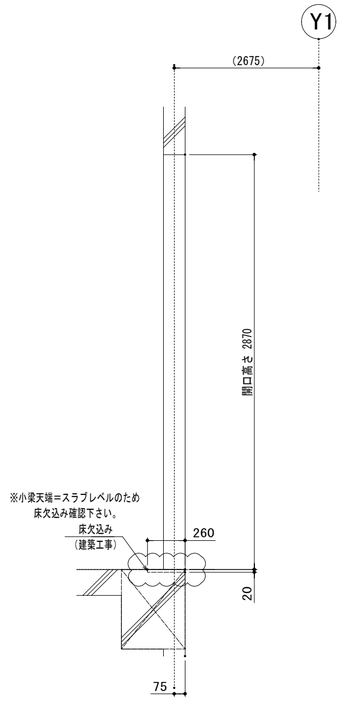
国土交通大臣認定仕様
防火設備

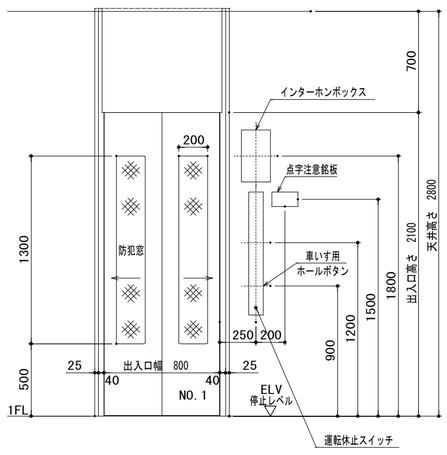
遮煙性能を有する
網入り板ガラス入り
鋼製引き戸

※製品に貼付けするシールです。



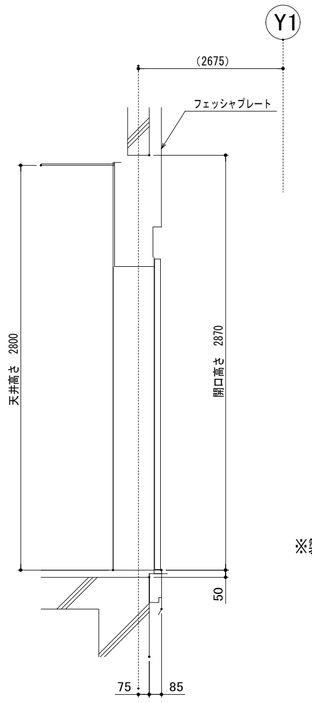
2階 出入口穴明図（1：40）





※インターホンボックスおよび点字注意銘板位置は監督員と協議の上、決定すること

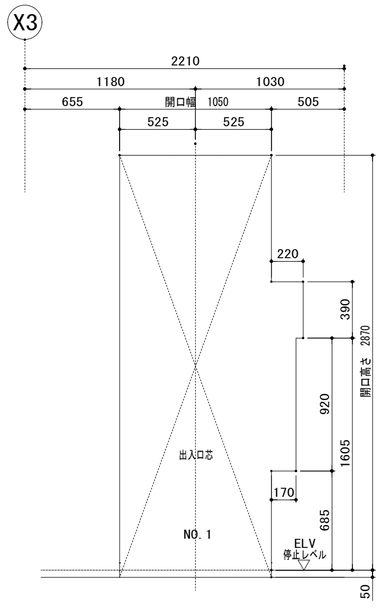
1階 出入口正面及断面図（1：40）



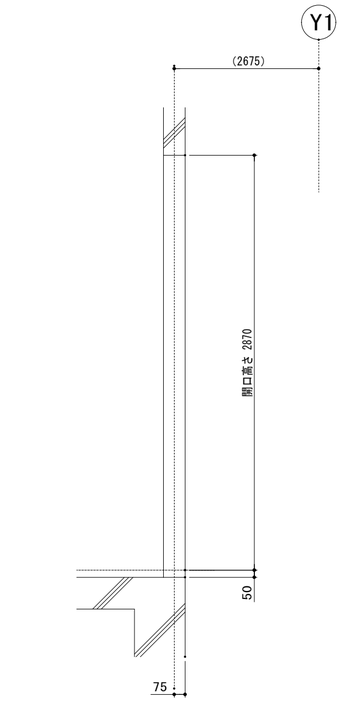
国土交通大臣認定仕様
防火設備

遮煙性能を有する
網入り板ガラス入り
鋼製引き戸

※製品に貼付けするシールです。



1階 出入口穴明図（1：40）



訂正	月　日	事　項		
	. .		.	
	. .		.	
	. .		.	

universal 株式会社ユニバァサル設計
UNIVERSAL DESIGN OFFICE INC.

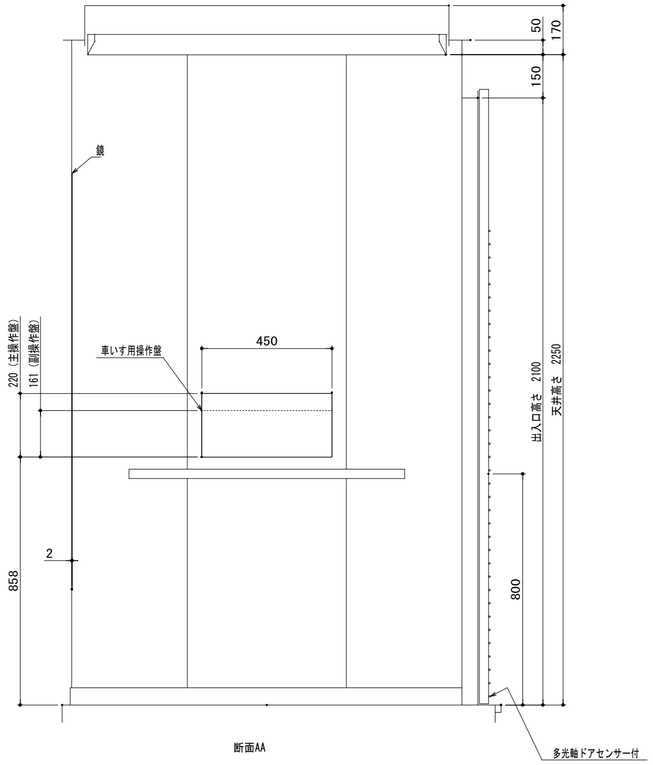
事務所登録	東京本部一級建築士事務所 一級建築士事務所 東京都知事登録 第22736号		
設計者	一級建築士　登録第362390号　星野　康二	法適合確認結果等	

工事名称	仮称芳野市民センター新築工事	図面名称	昇降機詳細図(3)
作成	2025 年 2 月 17 日	承認	
部長	課長	担当	製図

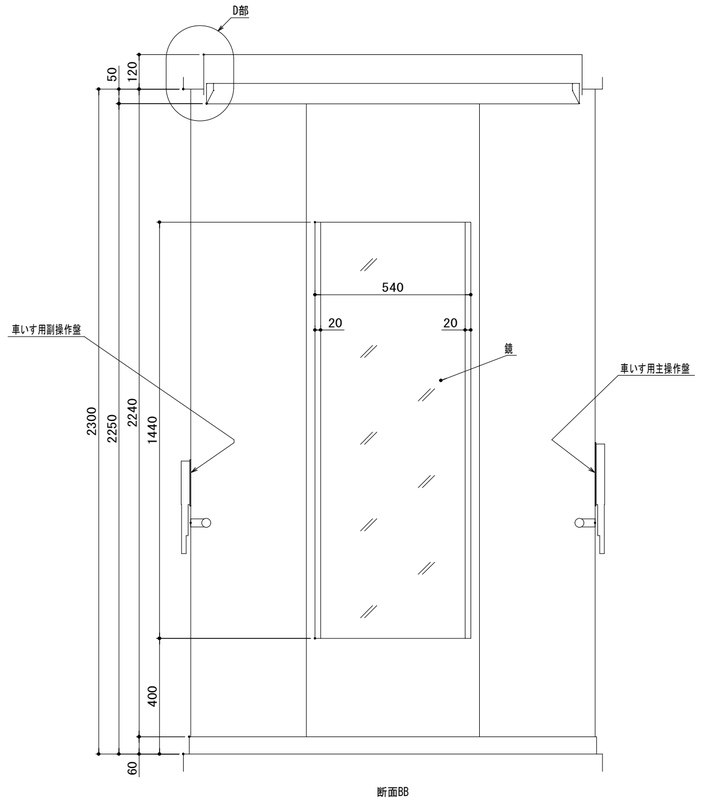
縮尺 A2：1/30 A3：1/42

設計No.

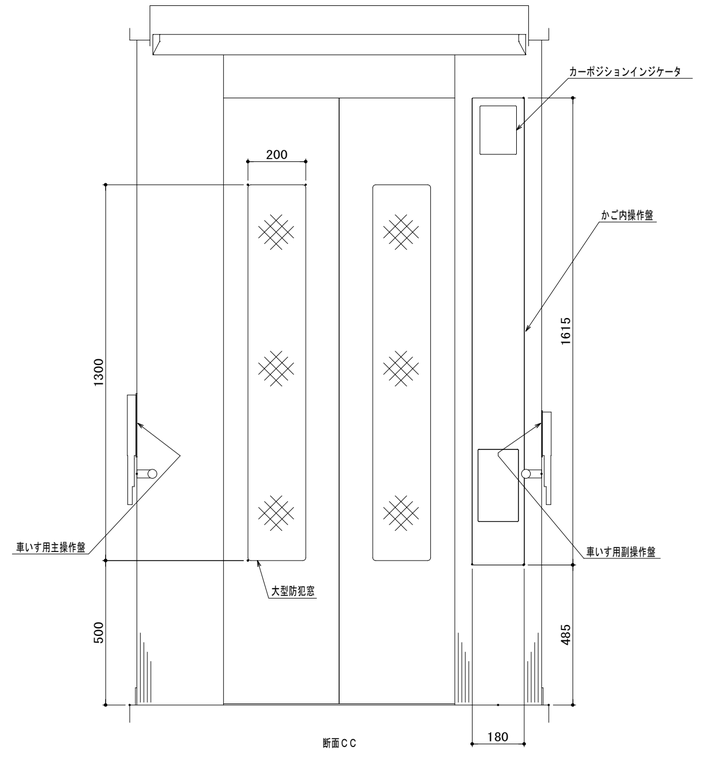
図面No. 21-03 確28



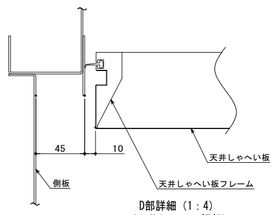
断面AA



断面BB

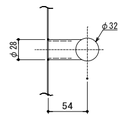


断面CC

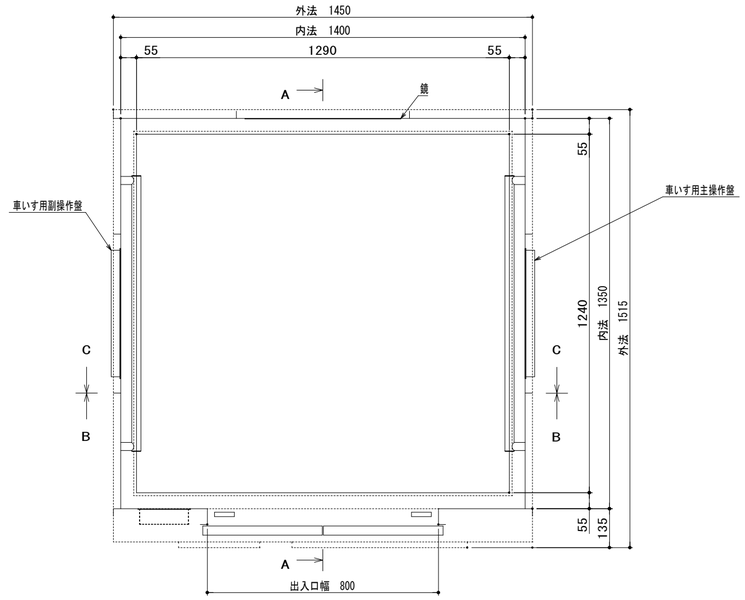


D部詳細（1：4）
（天井しゃへい板部）

側板コーナー及び中間継目詳細（1：4）



ハンドレール取付部詳細（1：6）



品 名	仕 様
前側板	ステンレスヘアライン仕上
出入口上部枠	化粧鋼板
幅 木	化粧鋼板（アルミナムシルバー）
側板，戸	化粧鋼板
天井しゃへい板	特殊フッ素樹脂フィルムガラスクロス
照 明	LED（天井照明色：白色）
停電灯	LED
換 気	ファン
床	樹脂タイル（2T）
敷 居	硬質アルミ
鏡	ステンレス鏡面（両脇ヘアライン仕上）
ハンドレール	ステンレスパイプ（ヘアライン仕上）
大型防犯窓	段差なし　あみ入り合わせガラス6.8T+3T
光電装置	多光軸ドアセンサー付
付属品	車いす仕様付，視覚障がい者仕様付
	乗り場側利用者検知機能付，かご戸袋引き込まれ低減機能付
	空気清浄機能付（イオン発生機能同等品），音声案内装置付
	非常放送用スピーカー付
	かご側板保護マット（高さ：床面から1800mm）付
	かご床マット付

縮尺　A2=1：15、A3=1:21

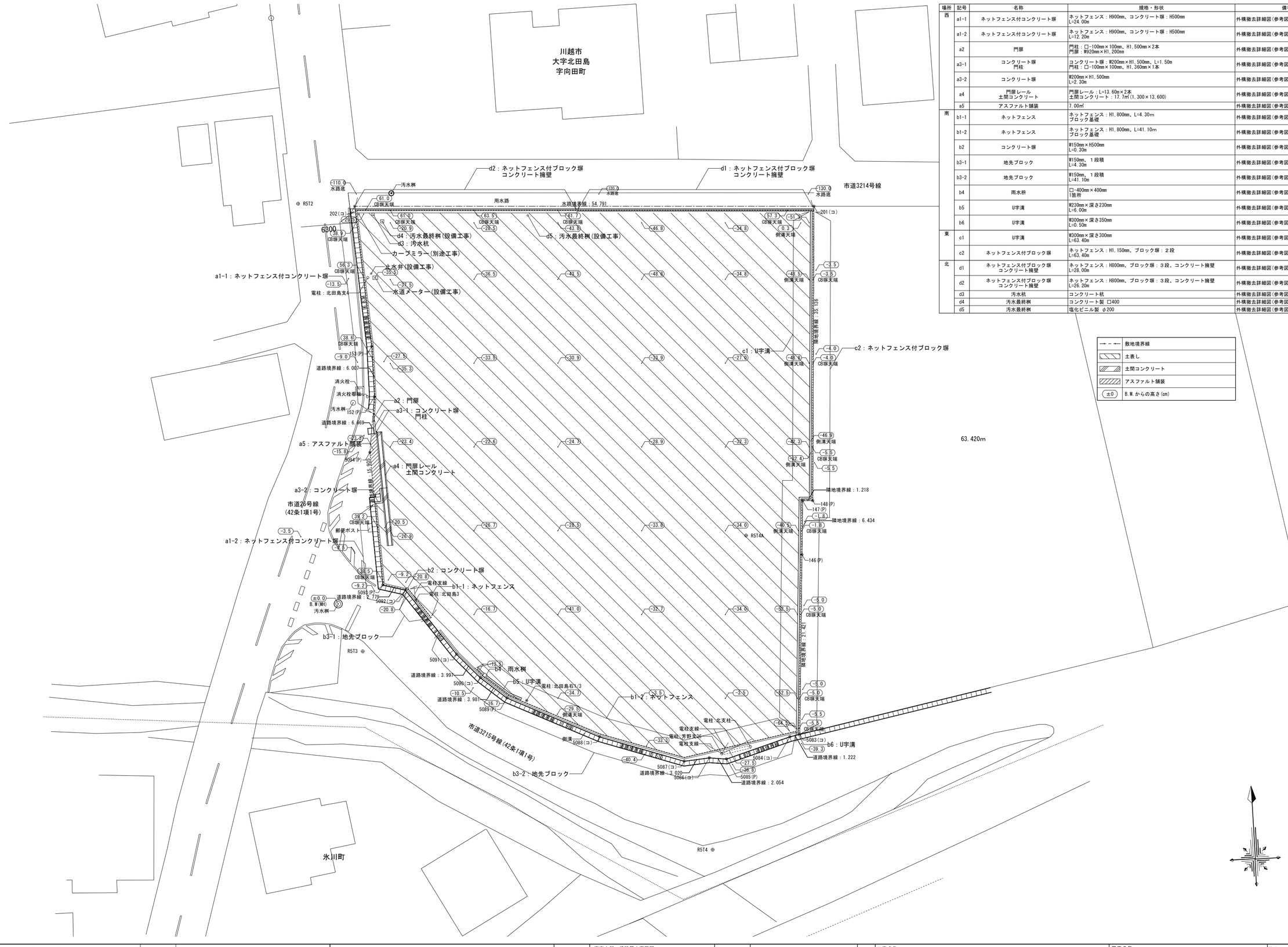
訂正	月 日	事 項		

株式会社ユニバァサル設計
UNIVERSAL DESIGN OFFICE INC.

事務所登録	東京本部一級建築士事務所 一級建築士事務所 東京都知事知事登録 第22736号		
設計者	一級建築士　登録第362390号　星野　康二	法適合確認結果等	

工事名称	仮称芳野市民センター新築工事	図面名称	昇降機詳細図(4)
作成	2025 年 2 月 17 日	承認	

縮尺	A2:図示 A3:図示	図面No. 21-04 確29
部長 ＿＿ 課長 ＿＿ 担当 ＿＿ 製図 ＿＿	設計No.	



場所	記号	名称	規格・形状	備考
西	a1-1	ネットフェンス付コンクリート塀	ネットフェンス：H900mm、コンクリート塀：H500mm L=24.00m	外構撤去詳細図(参考図)(1) 参照
	a1-2	ネットフェンス付コンクリート塀	ネットフェンス：H900mm、コンクリート塀：H500mm L=12.20m	外構撤去詳細図(参考図)(1) 参照
	a2	門扉	門柱：□-100mm×100mm、H1,500mm×2本 門扉：W920mm×H1,200mm	外構撤去詳細図(参考図)(1) 参照
	a3-1	コンクリート塀 門柱	コンクリート塀：W200mm×H1,500mm、L=1.50m 門柱：□-100mm×100mm、H1,360mm×1本	外構撤去詳細図(参考図)(1) 参照
	a3-2	コンクリート塀	W200mm×H1,500mm L=2.90m	外構撤去詳細図(参考図)(1) 参照
	a4	門扉レール 土間コンクリート	門扉レール：L=13.60m×2本 土間コンクリート：17.7㎡(1,300×13,600)	外構撤去詳細図(参考図)(1) 参照
	a5	アスファルト舗装	7.00㎡	外構撤去詳細図(参考図)(1) 参照
南	b1-1	ネットフェンス	ネットフェンス：H1,800mm、L=4.30m ブロック基礎	外構撤去詳細図(参考図)(1) 参照
	b1-2	ネットフェンス	ネットフェンス：H1,800mm、L=41.10m ブロック基礎	外構撤去詳細図(参考図)(1) 参照
	b2	コンクリート塀	W150mm×H500mm L=0.30m	外構撤去詳細図(参考図)(1) 参照
	b3-1	地先ブロック	W150mm、1段積 L=4.30m	外構撤去詳細図(参考図)(1) 参照
	b3-2	地先ブロック	W150mm、1段積 L=41.10m	外構撤去詳細図(参考図)(1) 参照
	b4	雨水桝	□-400mm×400mm 1箇所	外構撤去詳細図(参考図)(2) 参照
	b5	U字溝	W230mm×深さ230mm L=6.00m	外構撤去詳細図(参考図)(2) 参照
	b6	U字溝	W300mm×深さ350mm L=0.50m	外構撤去詳細図(参考図)(2) 参照
東	c1	U字溝	W300mm×深さ300mm L=63.40m	外構撤去詳細図(参考図)(2) 参照
	c2	ネットフェンス付ブロック塀	ネットフェンス：H1,150mm、ブロック塀：２段 L=63.40m	外構撤去詳細図(参考図)(2) 参照
北	d1	ネットフェンス付ブロック塀 コンクリート擁壁	ネットフェンス：H800mm、ブロック塀：３段、コンクリート擁壁 L=28.00m	外構撤去詳細図(参考図)(2) 参照
	d2	ネットフェンス付ブロック塀 コンクリート擁壁	ネットフェンス：H800mm、ブロック塀：３段、コンクリート擁壁 L=26.20m	外構撤去詳細図(参考図)(2) 参照
	d3	汚水桝	コンクリート桝	外構撤去詳細図(参考図)(2) 参照
	d4	汚水最終桝	コンクリート製 □400	外構撤去詳細図(参考図)(2) 参照
	d5	汚水最終桝	塩化ビニル製 φ200	外構撤去詳細図(参考図)(2) 参照

敷地境界線	
土表し	
土間コンクリート	
アスファルト舗装	
±0	B.M.からの高さ(cm)

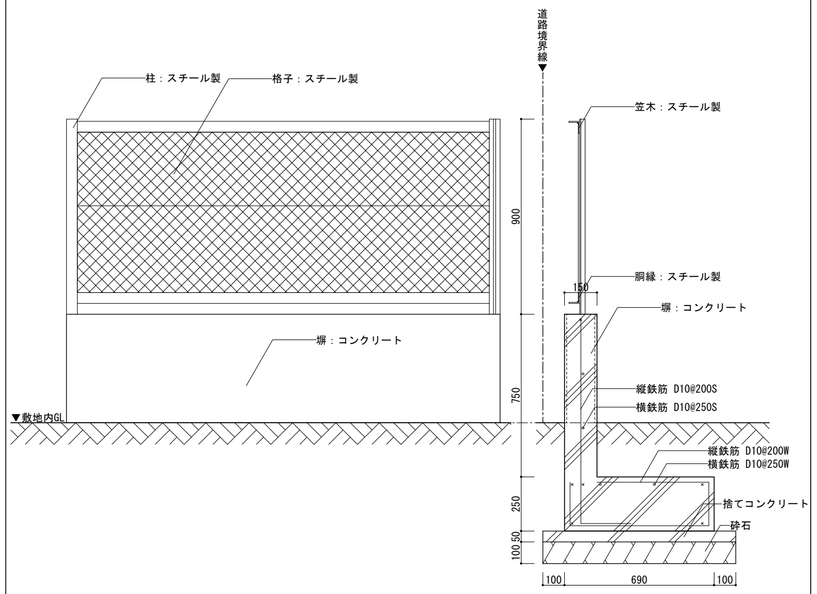
訂正	月 日	事 項		
	. .		. .	
	. .		. .	
	. .		. .	

株式会社ユニバァサル設計
UNIVERSAL DESIGN OFFICE INC.

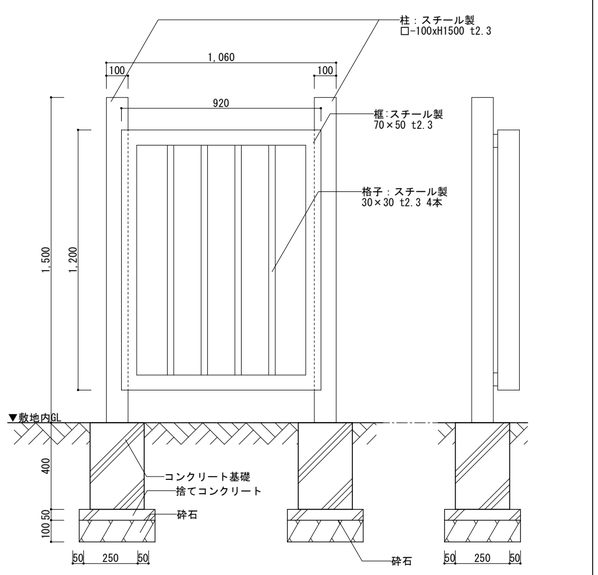
事務所登録	東京本部一級建築士事務所 一級建築士事務所 東京都知事登録 第22736号			
設計者	一級建築士 登録第362390号 星野 康二	法適合確認結果等		

工事名称	仮称芳野市民センター新築工事	図面名称	外構撤去配置図	縮尺	A2:1/300 A3:1/420
作成	2025 年 2 月 17 日	承認		図面No.	22-01
部長	課長	担当	製図	設計No.	

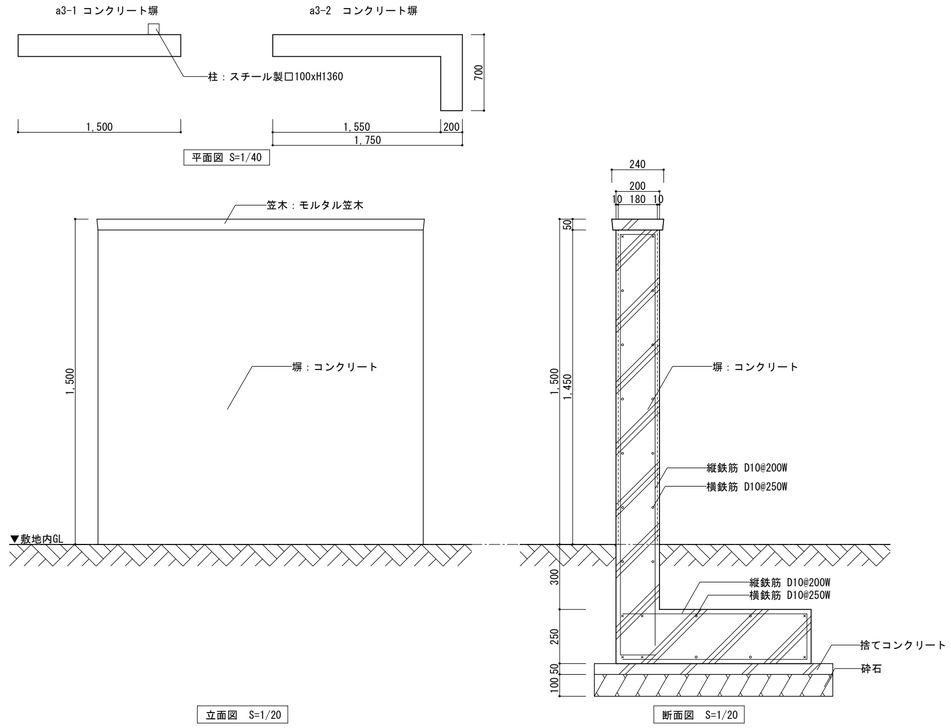
a1	ネットフェンス付コンクリート塀	S=1/20



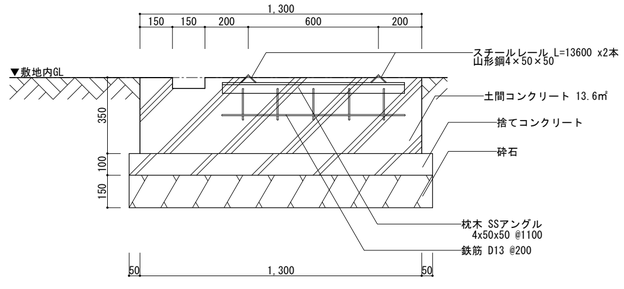
a2	門扉	S=1/20



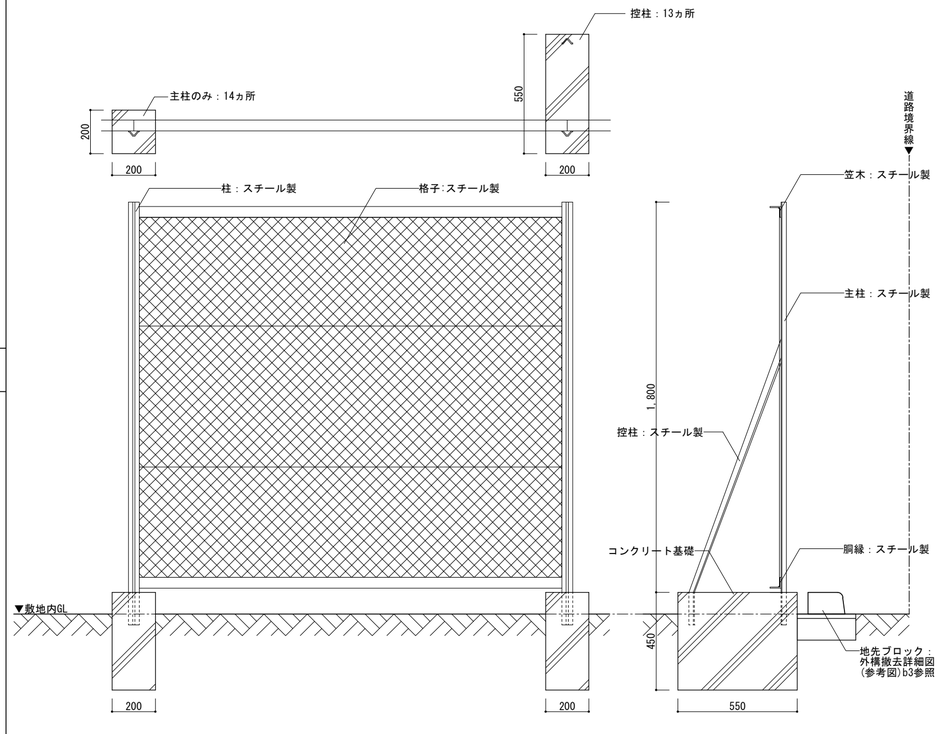
a3	コンクリート塀 門柱	S=図示



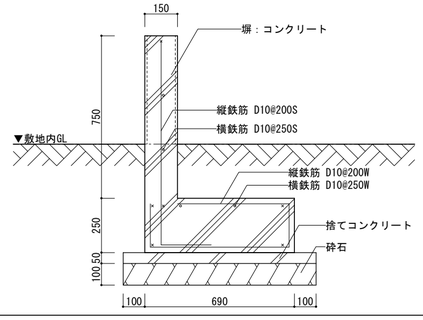
a4	門扉レール 土間コンクリート	S=1/20



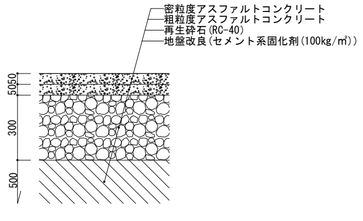
b1	ネットフェンス	S=1/20



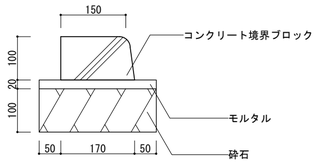
b2	コンクリート塀	S=1/20



a5	アスファルト舗装	S=1/20



b3	地先ブロック	S=1/10



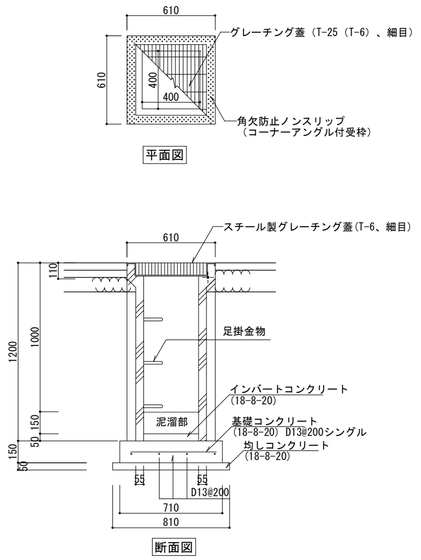
訂正	月 日	事 項		

株式会社ユニバァサル設計
UNIVERSAL DESIGN OFFICE INC.

事務所登録	東京本部一級建築士事務所 一級建築士事務所 東京都知事知事登録 第22736号		
設計者	一級建築士 登録第362390号 星野 康二	法適合確認結果等	

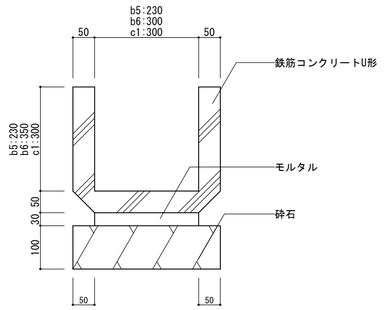
工事名称	仮称芳野市民センター新築工事	図面名称	外構撤去詳細図(参考図)(1)
作成	2025 年 2 月 17 日	承認	
縮尺	A2:図示	図面No.	22-02
部長	課長	担当	製図
設計No.			

b4 雨水桝 S=1/30

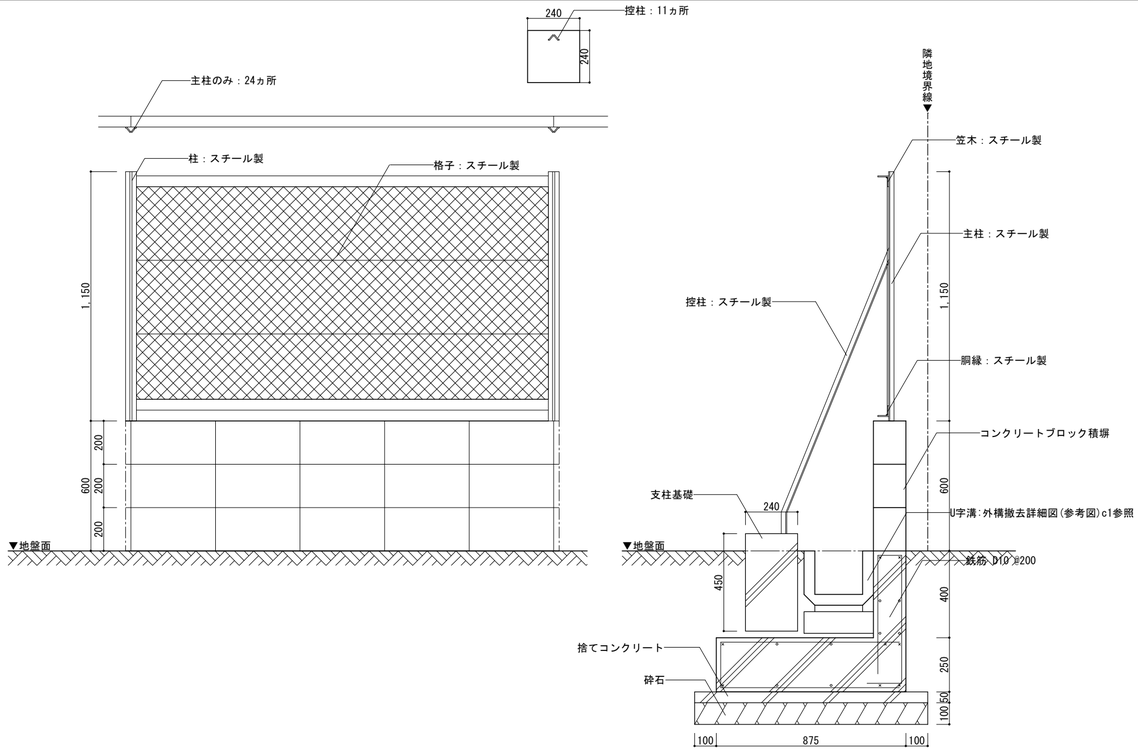


b5・C1 U字溝 S=1/10

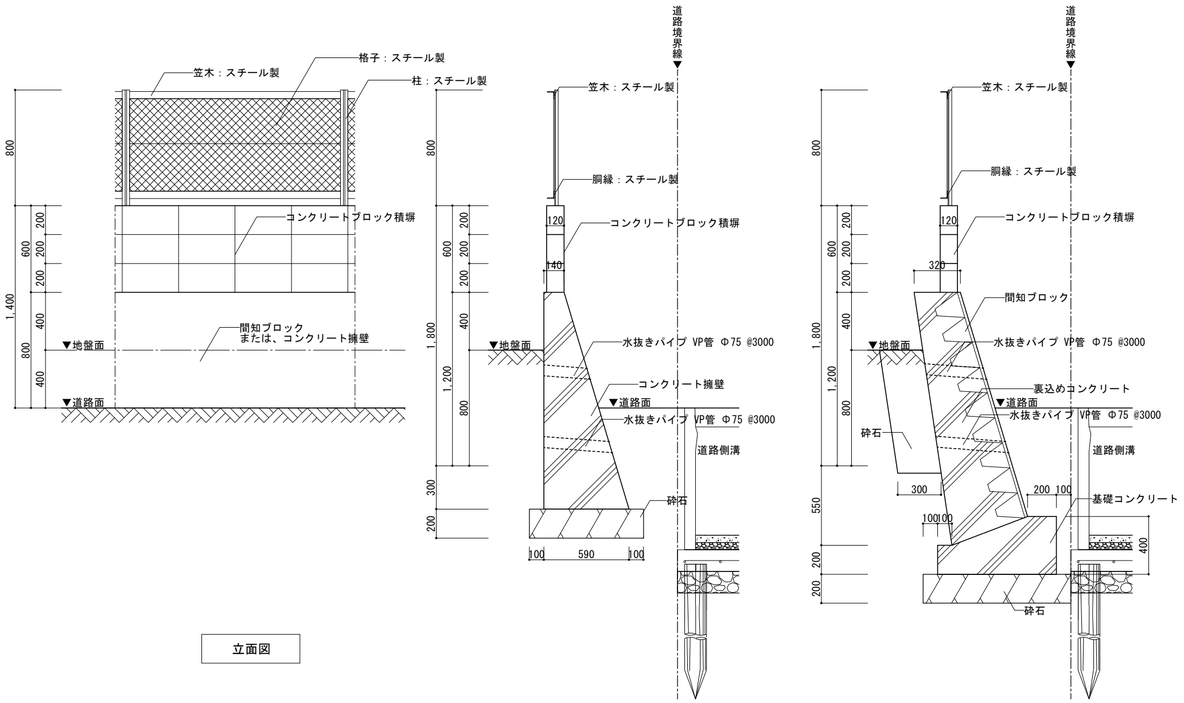
※基礎部は既存図がなく目視できないため、
建築工事標準詳細図を参照した図面とする。



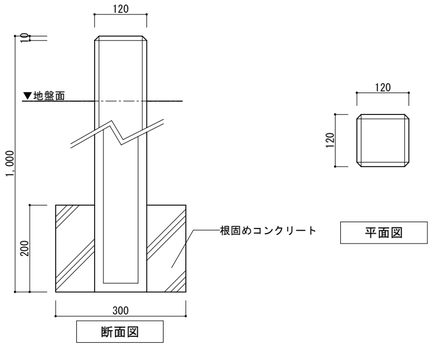
c2 ネットフェンス付ブロック塀 S=1/20



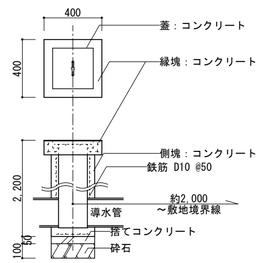
d1・d2 ネットフェンス付ブロック塀 コンクリート擁壁 S=1/30



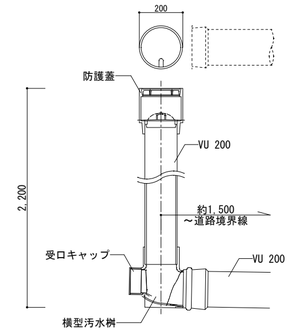
d3 汚水杭 S=1/10



d4 汚水最終桝(設備工事) S=1/20



d5 汚水最終桝(設備工事) S=1/20



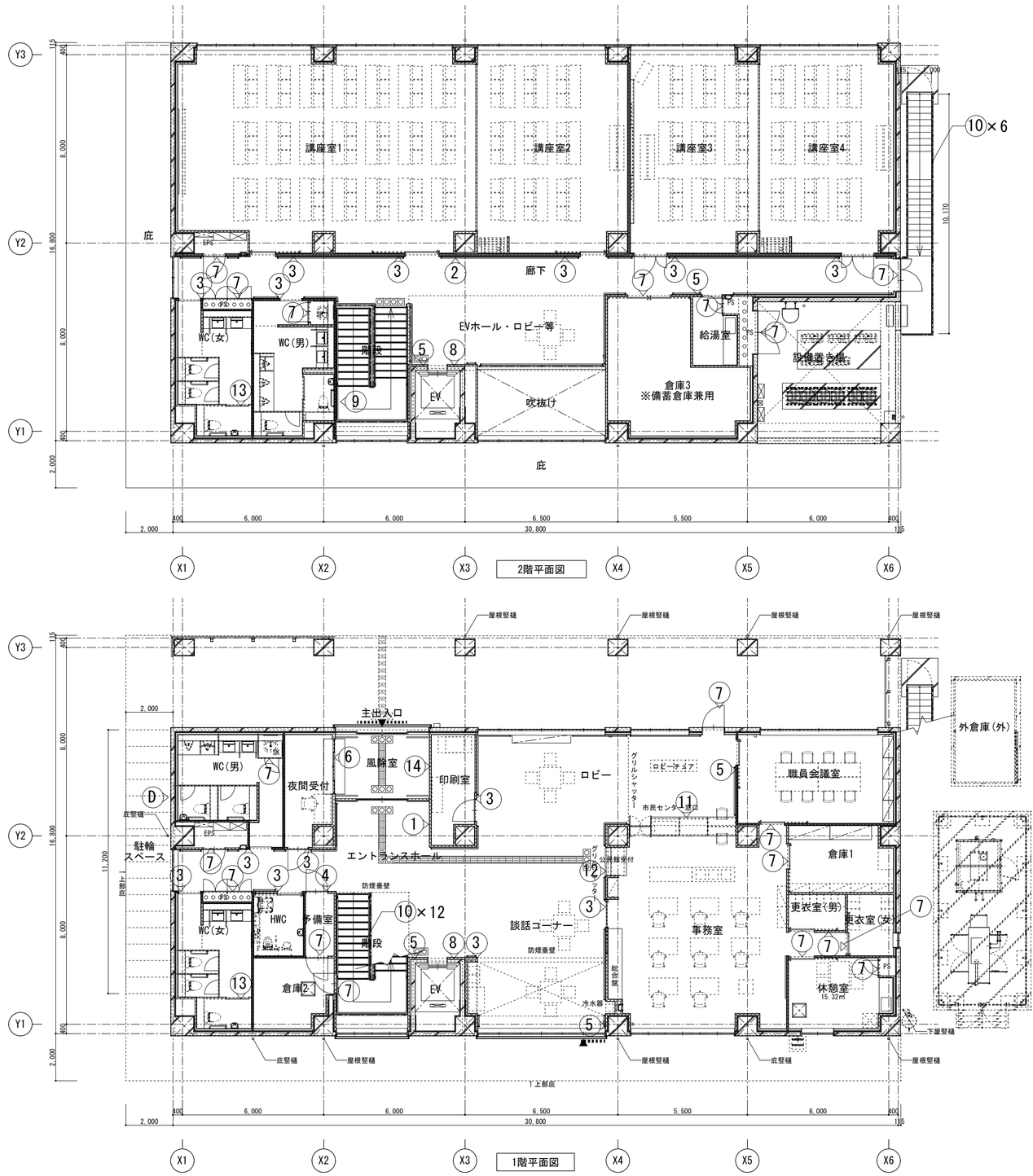
訂正	月 日	事項		

株式会社ユニバァサル設計
UNIVERSAL DESIGN OFFICE INC.

事務所登録	東京本部一級建築士事務所 一級建築士事務所 東京都知事登録 第22736号	法適合確認結果等	
設計者	一級建築士 登録第362390号 星野 康二		

工事名称	仮称芳野市民センター新築工事	図面名称	外構撤去詳細図(参考図)(2)
作成	2025 年 2 月 17 日	承認	
部長	課長	担当	製図

縮尺	A2:図示	図面No. 22-03
設計No.		



訂正	月　日	事　項		

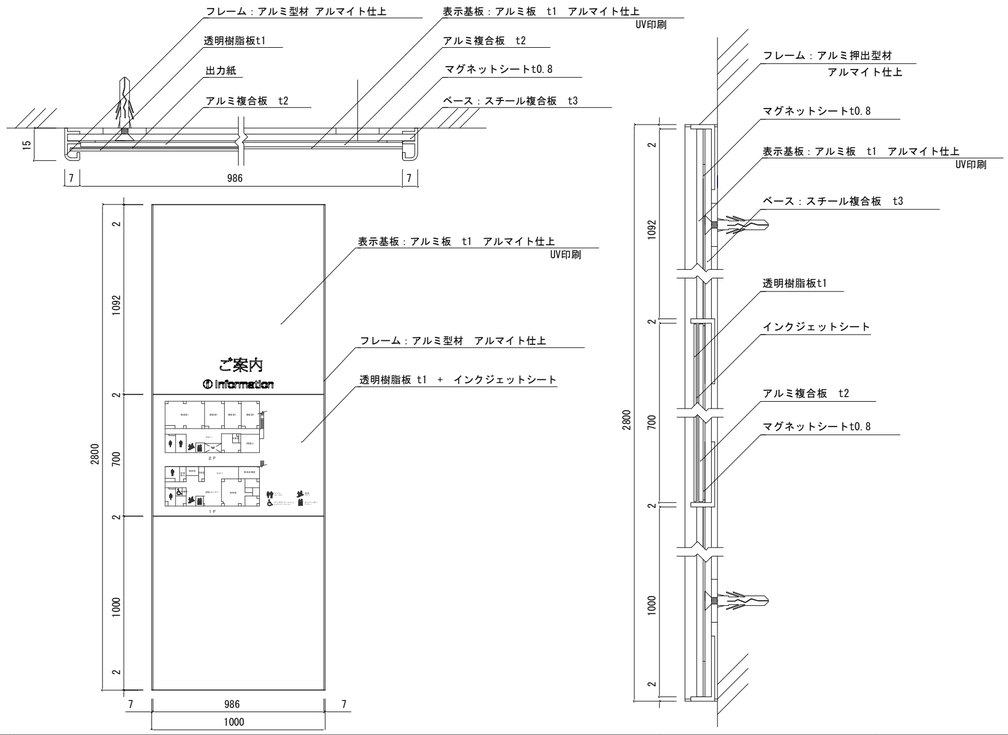
事務所登録	東京本部一級建築士事務所 一級建築士事務所 東京都知事登録 第22736号		
設計者	一級建築士　登録第362390号　星野　康二	法適合確認結果等	

株式会社ユニバァサル設計
UNIVERSAL DESIGN OFFICE INC.

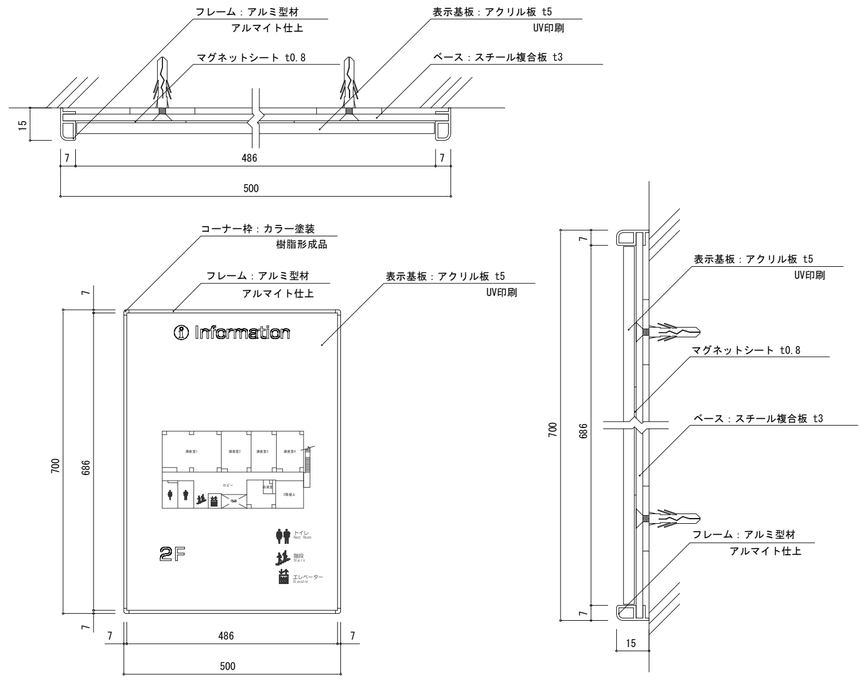
工事名称	仮称芳野市民センター新築工事	図面名称	サインキープラン
作成	2025 年　2 月　17 日	承認	
部長	課長	担当	製図

縮尺	A2:1/150 A2:1/210	図面No.	41-01
設計No.			

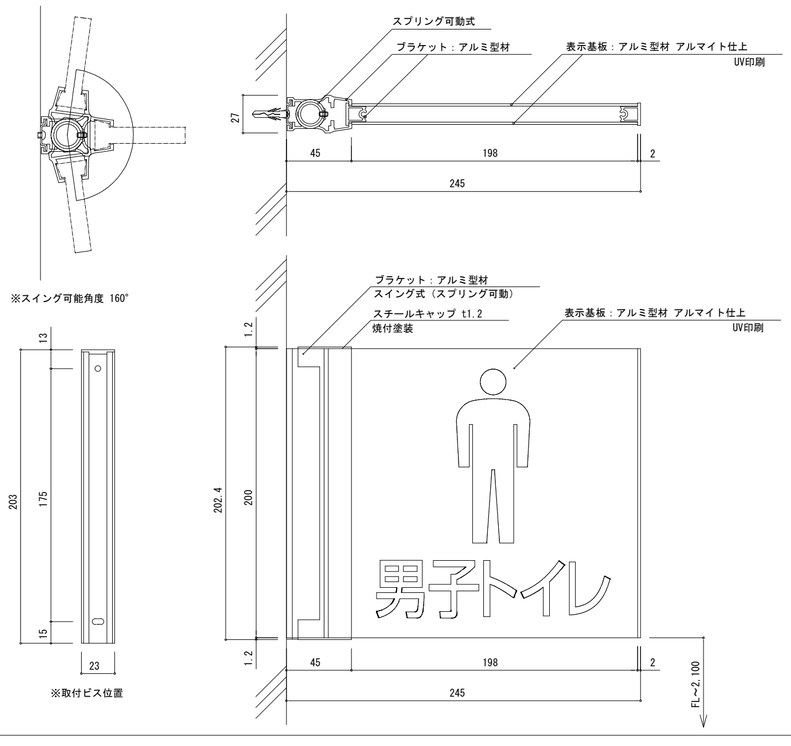
1	総合案内板	縮尺	1:2,1:25	数量	1



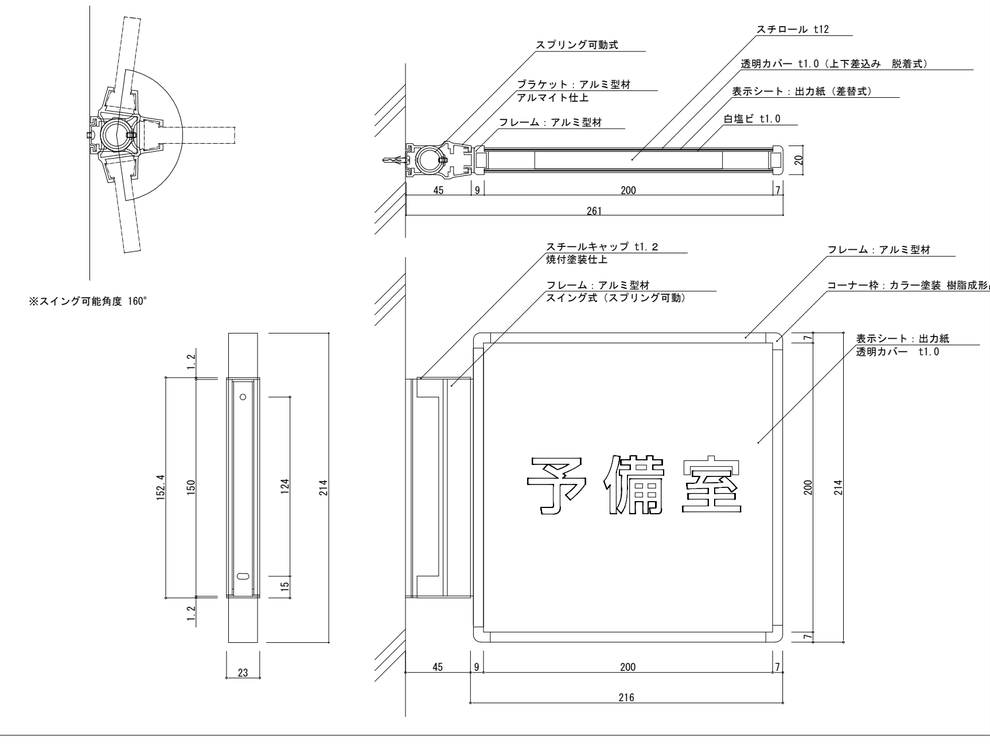
2	案内板	縮尺	1:2,1:10	数量	1



3	突出サイン	縮尺	1:3	数量	14

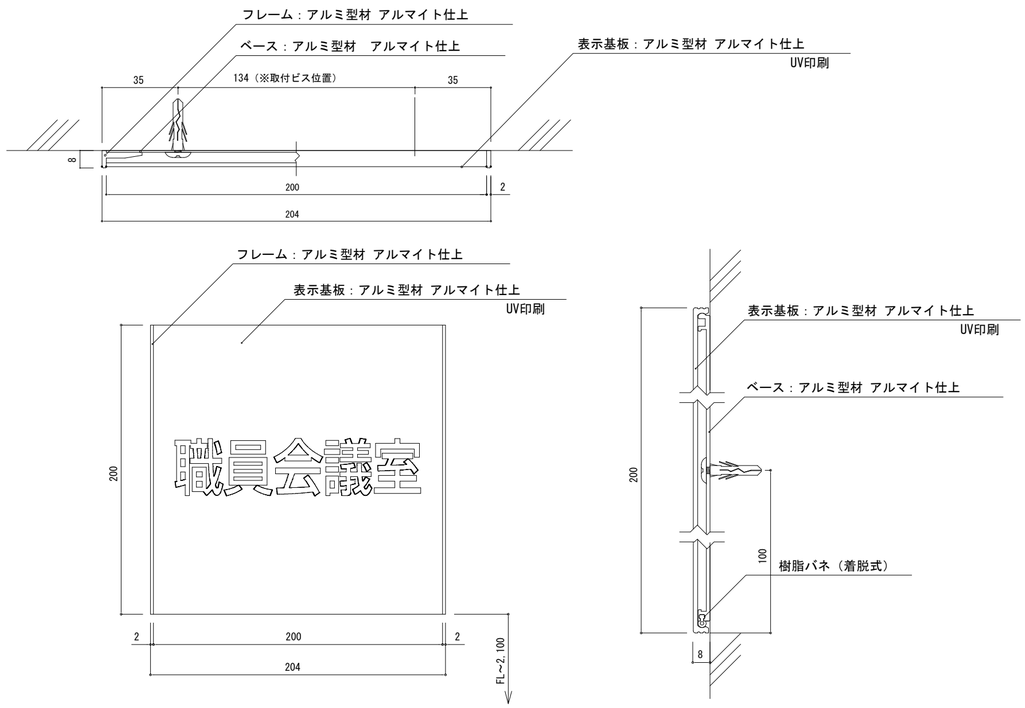


4	突出サイン(予備室)	縮尺	1:3	数量	1

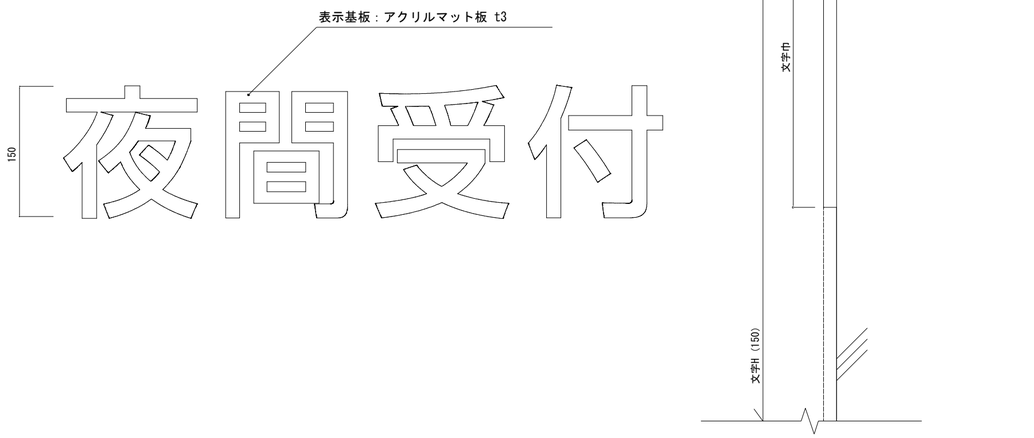


訂	月 日	事 項			株式会社ユニバァサル設計 UNIVERSAL DESIGN OFFICE INC.	事務所登録	東京本部一級建築士事務所 一級建築士事務所 東京都知事登録 第22736号			工事名称	仮称芳野市民センター新築工事	図面名称	サイン詳細図(1)	縮尺	A2:図示	図面No.
正						設計者	一級建築士 登録第362390号 星野 康二	法適合確認結果等		作成	2025 年 2 月 17 日	承認	部長 課長 担当 製図	設計No.		41-02

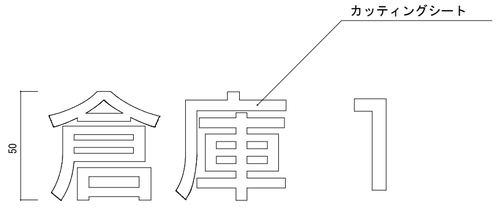
5	平付サイン	縮尺 1:2, 1:3	数量 5



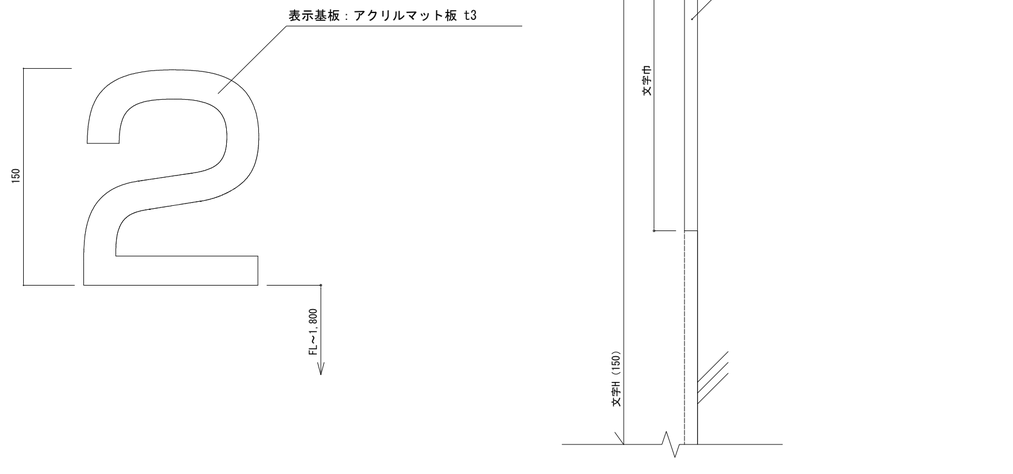
6	アクリル切文字	縮尺 1:2, 1:5	数量 1



7	カッティングシート	縮尺 1:2	数量 19



8	階数表示（当階）	縮尺 1:2, 1:3	数量 2

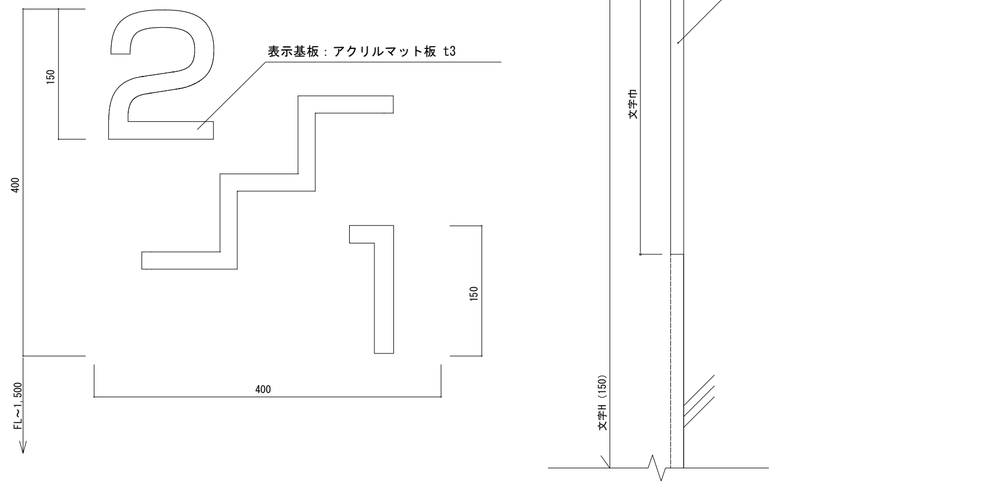


訂 正	月 日	事 項		
	. .		.	
	. .		.	
	. .		.	

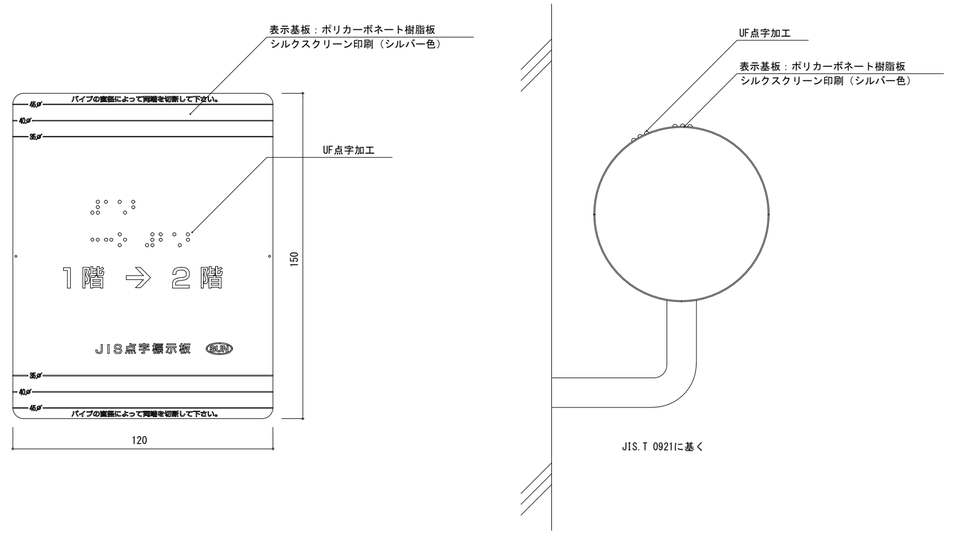
株式会社ユニバァサル設計
UNIVERSAL DESIGN OFFICE INC.

事務所登録	東京本部一級建築士事務所 一級建築士事務所 東京都知事知事登録 第22736号			工事名称	仮称芳野市民センター新築工事	図面名称	サイン詳細図(2)	縮尺 A2:図示	図面No. 41-03
設計者	一級建築士　登録第362390号　星野　康二	法適合確認結果等		作成	2025 年 2 月 17 日	承認	部長 ＿＿ 課長 ＿＿ 担当 ＿＿ 製図 ＿＿	設計No.	

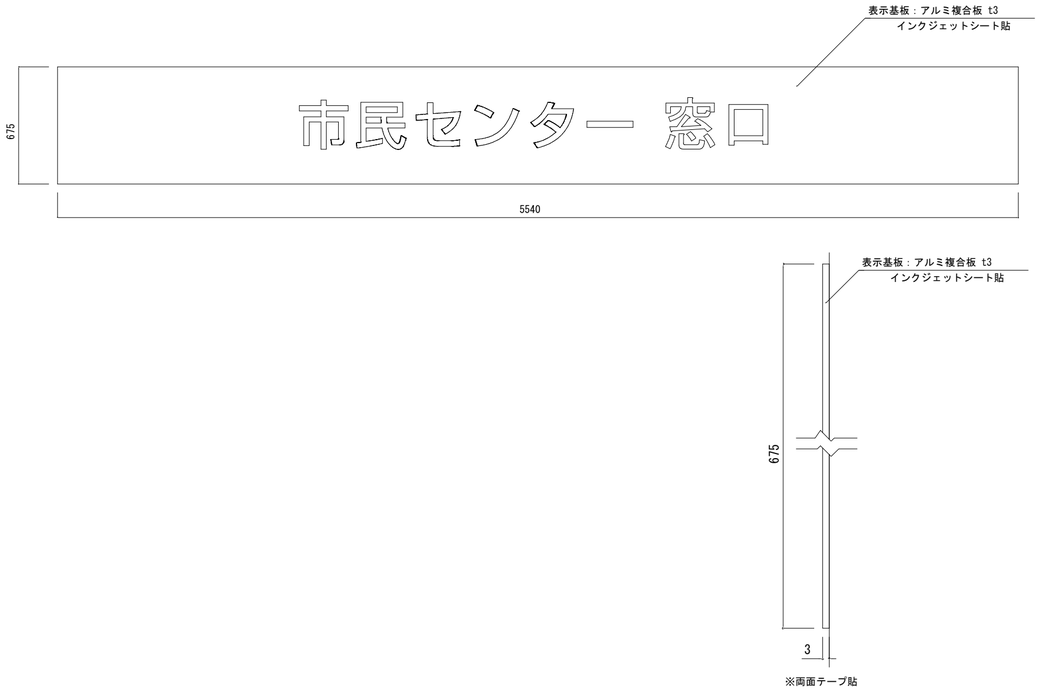
9	階数表示（踊場）	縮尺	1:2,1:5	数量	1



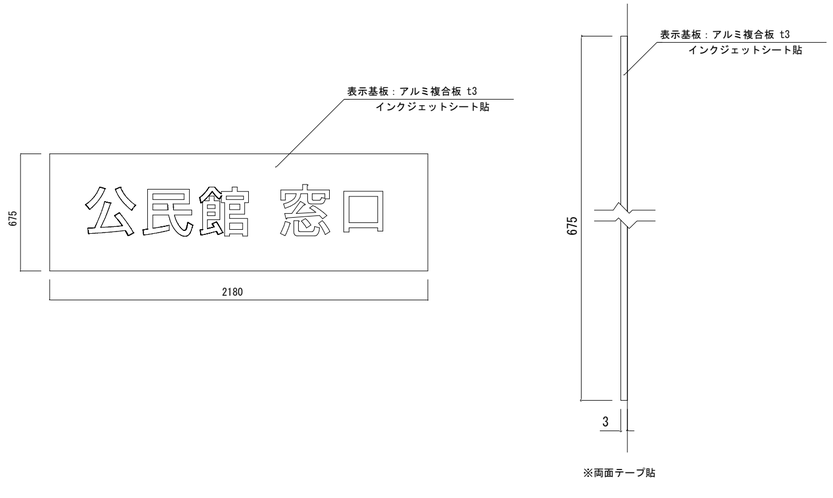
10	階段手摺点字	縮尺	1:2	18(内部：12、外部：6)



11	市民センター受付サイン	縮尺	1:2,1:25	数量	1



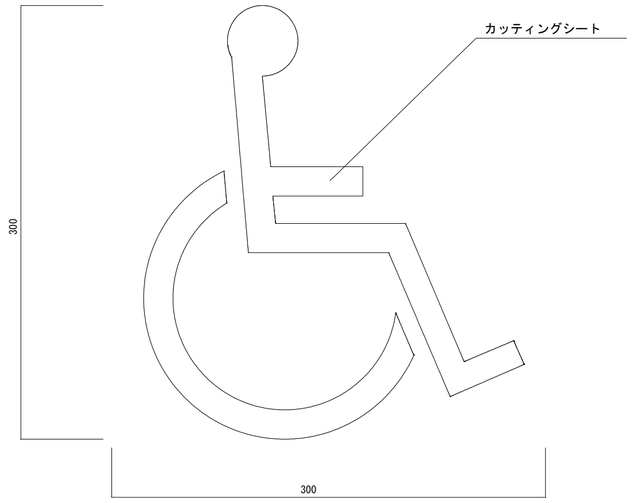
12	公民館受付サイン	縮尺	1:2,1:25	数量	1



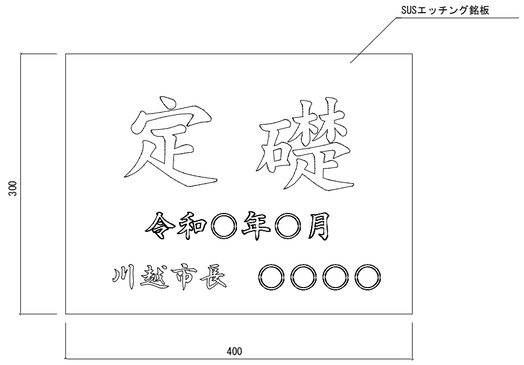
訂正	月 日	事 項			事務所登録	東京本部一級建築士事務所 一級建築士事務所 東京都知事登録 第22736号			工事名称	仮称芳野市民センター新築工事	図面名称	サイン詳細図(3)	縮尺	A2:図示	図面No.	41-04
	. .				設計者	一級建築士 登録第362390号 星野 康二	法適合確認結果等		作成	2025 年 2 月 17 日	承認		部長	課長	担当	製図	設計No.

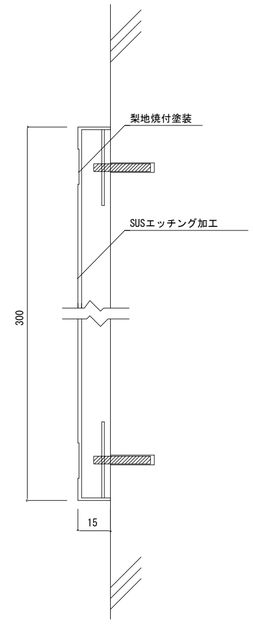
株式会社ユニバァサル設計
UNIVERSAL DESIGN OFFICE INC.

13	バリアフリートイレサイン	縮尺 1:3	数量 2

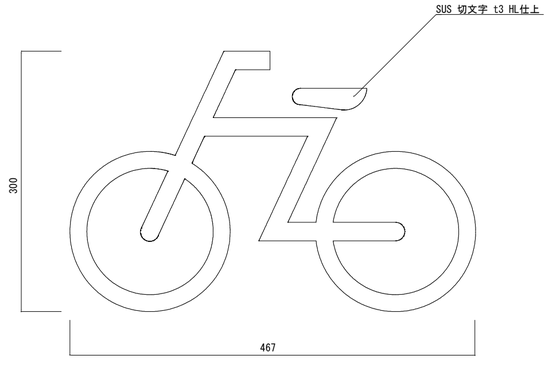


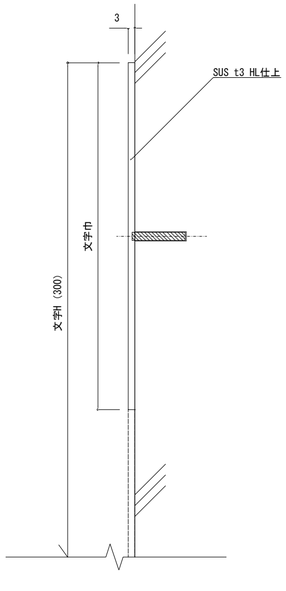
14	定礎サイン	縮尺 1:2,1:5	数量 1





D	駐輪場サイン	縮尺 1:2,1:5	数量 1





■サイン特記仕様

[1]使用材料
- a．木材　　：ＶＯＣ商品（ホルムアルデヒド基準Ｆ☆☆☆☆対応）
- b．アルミ　　：ＪＩＳ－Ｈ４１００　Ａ－６０６３　Ｓ－Ｔ５（アルミ押出型材）
- c．アクリル　：ＪＩＳ－Ｋ－６７１８－１（キャスト板），ＪＩＳ－Ｋ－６７１８－２（押出板）
- d．ステンレス　：ＪＩＳ－Ｇ４３０５　ＳＵＳ３０４、ＨＬ仕上

[2]フォント
- a．書体については、丸ゴシックは「スーラＤＢ」、角ゴシックは「新ゴＭ」を基準とする。
  ※ただし、係員より特定の書体の指示があった場合にはこの限りではない。

[3]ピクトグラム
- a．図柄については、原稿を作成し係員の承認を受けること。

[4]ユニバーサルデザイン
- a．ピクトグラム表示や点字サインの導入を推奨する。
- b．多様な色覚に対応した配色や明度差を理解しているＣＵＤ賛助会員による製作を推奨する。

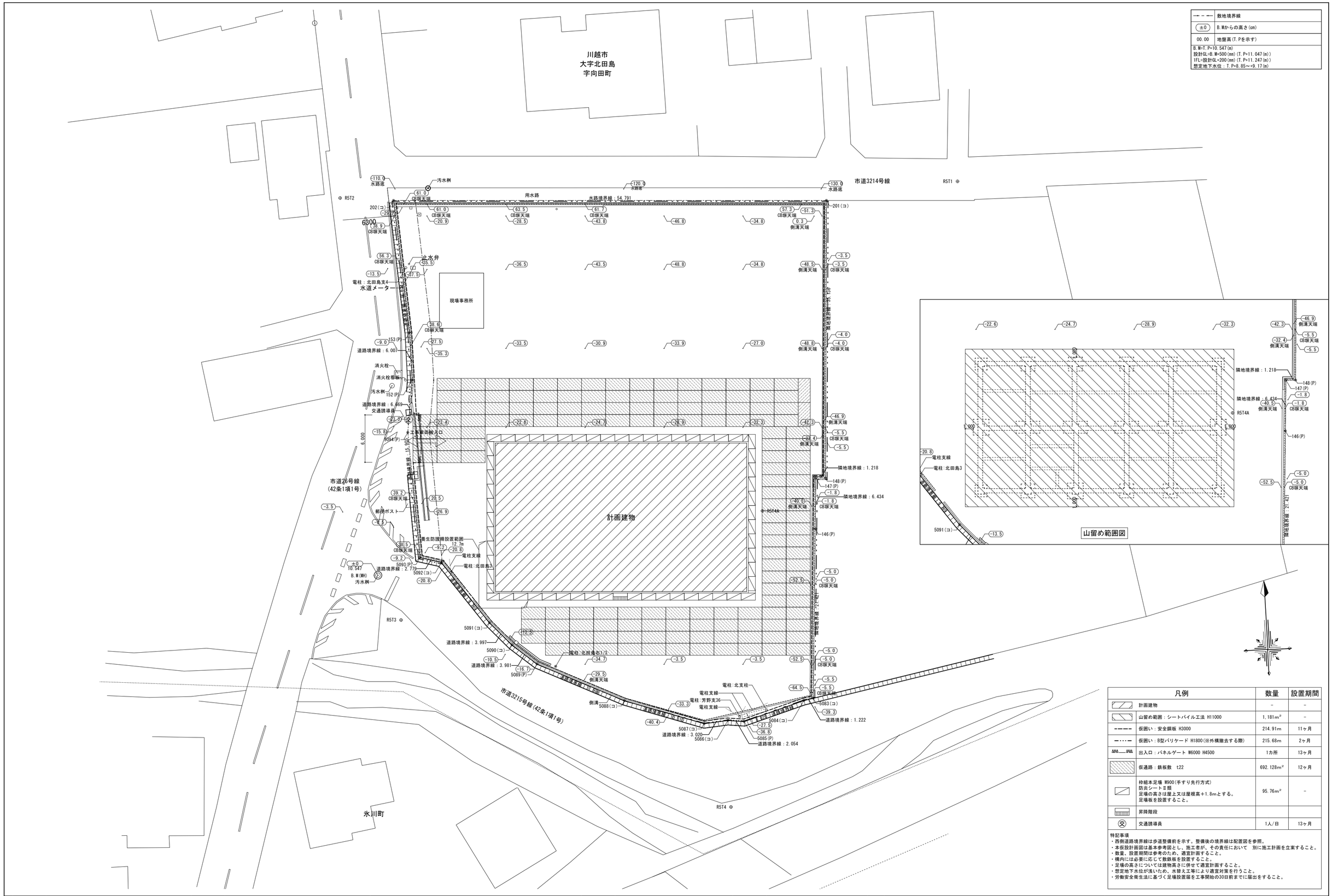
[5]取付位置・方法
- a．取付位置については、視認性を考慮し係員と協議の上決定する。
- b．取付方法については、取付位置の下地などを考慮し適切な方法で取り付けを行うこと。
- c．障害者用サインについては、自治体福祉要綱に基づき、係員と協議の上決定する。

[6]その他
- a．室名札については、部屋の移動・名称変更に対応できるよう脱着式を基本とする。
  又、室名札脱着の際には　スライドロック機構、専用吸盤などを利用し
  商品の損傷等がなくスムーズに脱着できる仕様を推奨する。
- b．サイン計画については、当施設の他工事と充分に調整協議をすること。

訂正	月 日	事 項		
	. .		. .	
	. .		. .	
	. .		. .	

株式会社ユニバァサル設計
UNIVERSAL DESIGN OFFICE INC.

事務所登録	東京本部一級建築士事務所 一級建築士事務所 東京都知事登録 第22736号			工事名称	仮称芳野市民センター新築工事	図面名称	サイン詳細図(4)	縮尺	A2:図示	図面No.
設計者	一級建築士　登録第362390号　星野　康二	法適合確認結果等		作成	2025 年 2 月 17 日	承認		部長	課長	担当	製図	設計No.	41-05



―・―・―	敷地境界線
±0	B.Mからの高さ(cm)
00.00	地盤高(T.Pを示す)

B.M=T.P+10.547(m)
設計GL=B.M+500(mm)(T.P+11.047(m))
1FL=設計GL+200(mm)(T.P+11.247(m))
想定地下水位：T.P+8.85～+9.17(m)

凡例		数量	設置期間
	計画建物	-	-
	山留め範囲：シートパイル工法 H11000	1,181m²	-
	仮囲い：安全鋼板 H3000	214.91m	11ヶ月
	仮囲い：B型バリケード H1800(※外構撤去する際)	215.68m	2ヶ月
	出入口：パネルゲート W6000 H4500	1カ所	13ヶ月
	仮通路：鉄板敷 t22	692.128m²	12ヶ月
	枠組本足場 W900(手すり先行方式) 防炎シートⅡ類 足場の高さは屋上又は屋根高+1.8mとする。 足場板を設置すること。	95.76m²	-
	昇降階段		
交	交通誘導員	1人/日	13ヶ月

特記事項
・西側道路境界線は歩道整備前を示す。整備後の境界線は配置図を参照。
・本仮設計画図は基本参考図とし、施工者が、その責任において　別に施工計画を立案すること。
・数量、設置期間は参考のため、適宜計画すること。
・構内には必要に応じて敷鉄板を設置すること。
・足場の高さについては建物高さに併せて適宜計画すること。
・想定地下水位が浅いため、水替え工等により適宜対策を行うこと。
・労働安全衛生法に基づく足場設置届を工事開始の30日前までに届出をすること。

訂正	月 日	事 項

株式会社ユニバァサル設計
UNIVERSAL DESIGN OFFICE INC.

事務所登録	東京本部一級建築士事務所 一級建築士事務所 東京都知事知事登録 第22736号		
設計者	一級建築士 登録第362390号 星野 康二	法適合確認結果等	

工事名称	仮称芳野市民センター新築工事	図面名称	仮設計画図(参考図)
作成	2025 年 2 月 17 日	承認	
縮尺	A2:1/300 A3:1/420	図面No.	51-01
部長	課長	担当	製図
設計No.			

工事名	仮称芳野市民センター新築工事

特記仕様書（構造関係）

Ⅰ　建物概要

1．主要用途　集会所（公民館、出張所）

2．工事場所　埼玉県川越市大字北田島１４４番地１

3．棟名称及び構造・階数等

本体　棟　ＲＣ　造　２階建て（地下　ー階・ＰＨ　ー階）

建築面積　570.49　㎡

延べ面積　883.20　㎡

床面積　１階　419.72　㎡

２階　463.48　㎡

階　㎡

階　㎡

階　㎡

建物高さ　9.495　m　軒高さ　7.845　m

工事種別　⊙新築　・増築　・改築　・移転

増築計画　・有り　⊙無し

構造種別　地上　ＲＣ　造　地下（基礎）　ＲＣ　造

架構型式　Ｘ方向　純ラーメン　構造

Ｙ方向　純ラーメン　構造

耐震構造方式　⊙耐震構造　・免震構造　・制振構造

耐震安全性の分類　・Ⅰ類（I=1.50）⊙Ⅱ類（I=1.25）・Ⅲ類（I=1.00）

4．構造計算条件

a　耐震設計条件

地震荷重	建物一次固有周期		（　0.187　）秒
	地盤種別		第　（　2　）　種地盤
	地域係数		Z=　1.0
計算ルート	Ｘ方向		※ 許容応力度計算　（ルート　　）
			・その他
			⊙ 保有水平耐力計算　（ルート　３　）
	Ｙ方向		※ 許容応力度計算　（ルート　　）
			・その他
			⊙ 保有水平耐力計算　（ルート　３　）
設計層間変形角	Ｘ方向	一次設計	1/200
		二次設計	1/100
	Ｙ方向	一次設計	1/200
		二次設計	1/100

b　耐風設計条件

基準風速　（V0）	（　32　）　m／秒
地表面粗度区分	・Ⅰ　・Ⅱ　⊙Ⅲ　・Ⅳ

c　耐積雪設計条件

建設地の標高	（　10　）　m　程度
多雪区域の指定	・有り　⊙無し
設計垂直積雪量	（　30　）　cm

5．地盤調査資料

調査内容	・サウンディング　（※ 標準貫入試験　・　）
	⊙ 土質試験　⊙ 孔内水平載荷試験　・平板載荷試験
	・
	・
調査位置 ボーリング柱状図	構造図　（　S-10　図）　による
液状化対策の検討	・有り　⊙無し

Ⅱ　建築工事仕様

（1）質問回答書、本特記仕様書及び図面に記載されていない事項は、すべて~~「埼玉県建築工事特別共通仕様書」~~及び国土交通大臣官房官庁営繕部監修「公共建築工事標準仕様書（建築工事編）（令和４年版）」（以下、「標準仕様書」という。）による。
なお、新たな版が出版され、当該基準によりがたい場合は、監督員と協議し、適用する基準等を決定する。
（2）標準仕様書で「特記がなければ、」以下に具体的な材料・工法・検査方法等を明示している場合において、それらが関係法令等（条例を含む）と異なる場合には、具体的な対応策について監督員と協議すること。
（3）特記仕様書の表記
1）項目は、番号に⊙印の付いたものを適用する。
2）特記事項は、⊙印の付いたものを適用する。⊙印の付かない場合は、※印の付いたものを適用する。
⊙印と ※印の付いた場合は、共に適用する。⊙印と ※の場合は、⊙のみを適用する。
~~3）特記事項に記載の（　．　．）内の表示番号は、埼玉県建築工事特別共通仕様書の当該項目、当該図表を示す。~~
4）特記事項に記載の（　．　．）内の表示番号は、標準仕様書の当該項目、当該図表を示す。
5）製造所名は、五十音順とし「株式会社」等の記載は省略する。また（　）内は製品名を示す。
~~6）⊙は「特定調達物品等」を表す。~~
7）注は標準仕様書記載事項で、注意すべきものを示す。

章	項目	特記事項

4 地業工事

① 支持地盤等

⊙杭基礎　(4.2.1)(4.3.4、5)(4.5.5、6)
支持地盤の位置及び種類（基礎ぐいの先端の位置含む）
⊙図示による（ S-10～12 ）　・

・直接基礎
支持地盤の位置及び種類（基礎底部の位置含む）
・図示による（　　）　・
試験掘り（根切り底の状態の確認等）　(3.2.1)
・行う（位置等　・図示による（　　）・　　）

長期設計支持力度　・（　　）kN/㎡

・地盤の載荷試験　（　　）箇所　(4.2.4)
載荷試験の方法
・地盤工学会基準JGS 1521による　・
試験の位置、載荷荷重
※図示による（　　）　・

・液状化対策
工法、施工範囲、仕様及び計測、試験等　※図示

② 既製コンクリート杭地業

種類　(4.3.3)
⊙遠心力高強度プレストレストコンクリート杭（PHC杭）
・プレストレスト鉄筋コンクリート杭（PRC杭）
⊙外殻鋼管付きコンクリート杭（SC杭）
SC杭の鋼管材料　・SKK400　⊙SKK490
・

寸法、継手、性能等　（種別：種類、性能及び曲げ強度区分）　(4.2.2)(4.3.3)

		種類	コンクリート強度(N/mm²)	鋼管厚(mm)	杭径(mm)	杭長(m)	継手数	セット数	長期設計支持力(kN/本)	備考
試験杭	上杭									
	中杭									
	下杭									
本杭	上杭									
	中杭									
	下杭									

杭リストによる

杭先端部形状　(4.3.3)
⊙開放形　・半開放形　・閉そく形　・

施工方法　※ 大臣認定工法：Hyper-ストレート工法
・セメントミルク工法　(4.2.2)(4.3.1、4)
試験杭の位置　・図示による（　　）　・
掘削深さ　・図示による（　　）　・
杭の支持層への根入れ深さ
・図示による（　　）　・
杭の精度
水平方向の位置ずれ寸法　・杭径の1/4かつ100mm以下　・
杭の傾斜　・1/100以内　・
根固め液及び杭周固定液の管理試験
※標準仕様書4.3.4(6)(ｺ)による　・
・特定埋込杭工法　(4.2.2)(4.3.1、5)
・H13国土交通省告示第1113号第6 による地盤の許容支持力式でα=250を採用できる工法
・H13国土交通省告示第1113号第6 による地盤の許容支持力式の内α、β、γが下記の値を採用できる工法
α=（　　）、β=（　　）、γ=（　　）
工法
・プレボーリング拡大根固め工法
・中堀り拡大根固め工法
・
杭周固定液　⊙使用する　・使用しない
試験杭の位置　⊙図示による（S-13　　）　・
杭の支持層への根入れ深さ
⊙図示による（S-10～12）　・
杭の精度
水平方向の位置ずれ寸法
※評定等の評価内容による　・杭径の1/4かつ100mm以下　・
杭の傾斜
※評定等の評価内容による　・1/100以内　・

杭の継手の工法　(4.3.3、6)(7.2.5)
・アーク溶接継手
溶接材料
・標準仕様書7.2.5(1)、(2)による　・図示による（　　）
・
⊙機械式継手（継手部に接続金具を用いた方式のもの）
工法　※評定等を受けた工法　（トリプルプレートジョイント）
検査　※評定等により定められた項目　・
施工　※評定等をされた施工管理基準による　・

杭頭の処理　(4.3.8)
・処理する
処理方法（切断にともなう補強方法含む）
・図示による（　　）　・
杭頭の中詰め材料
⊙基礎のコンクリートと同調合のもの（フーチング下端まで中詰め）

3 鋼杭地業

材料、寸法、継手等　(4.4.2、3、5)

		種類	厚さ(mm)	杭径(mm)	杭長(m)	継手数	セット数	長期設計支持力(kN/本)	備考
試験杭	上杭								
	中杭								
	下杭								
本杭	上杭								
	中杭								
	下杭								

特定埋込杭工法　(4.2.2)(4.3.1、5)
・H13国土交通省告示第1113号第6 による地盤の許容支持力式でα=250を採用できる工法
・H13国土交通省告示第1113号第6 による地盤の許容支持力式の内α、β、γが下記の値を採用できる工法
α=（　　）、β=（　　）、γ=（　　）
工法
・中堀り拡大根固め工法
・
試験杭の位置　・図示による（　　）　・
杭の精度
水平方向の位置ずれ寸法
※評定等の評価内容による　・杭径の1/4かつ100mm以下　・
杭の傾斜
※評定等の評価内容による　・1/100以内　・

杭の継手の工法　(4.4.3、5)(7.2.5)
・溶接継手
形状
・JIS A 5525 による　・
溶接材料
・標準仕様書7.2.5(1)、(2)による　・図示による（　　）
・

・機械式継手（継手部に接続金具を用いた方式のもの）
工法　※評定等を受けた工法　・
検査　※評定等により定められた項目　・
施工　※評定等をされた施工管理基準による　・

杭頭の処理　(4.3.8)(4.4.6)
・処理する
処理方法（切断にともなう補強方法含む）
・図示による（　　）　・
杭頭の中詰め材料　(4.3.8)
・基礎のコンクリートと同調合のもの　・

4 場所打ちコンクリート杭地業

工法　(4.5.1、4～6)
・アースドリル工法　（安定液　・使用する　・使用しない）
・リバース工法
・オールケーシング工法　（孔内の水張り　・行う　・行わない）
・場所打ち鋼管コンクリート杭工法
鋼管巻き材料　・SKK400　・SKK490　・
鋼管径・板厚・長さ　※図示による（　　）　・

併用する工法
・拡底杭工法（安定液　・使用する　・使用しない）

材料その他　(4.2.2)(4.5.4)
寸法等

	軸径(mm)	拡底径(mm)	杭長(m)	セット数	長期設計支持力(kN/本)	備考
試験杭						
本杭						

鉄筋の種類

種類の記号	呼び径(mm)	備考
・SD295		
・SD345		
・		

帯筋
・図示による（構造関係共通図（配筋標準図）6.2帯筋(2)⑥(ロ)）
・
鉄筋の最小かぶり厚さ
・100mm　・
鉄筋かごの補強
・図示による（　　）　・
組み立てた鉄筋の節ごとの継手
※重ね継手（重ね継手の長さ：標準仕様書 表5.3.2による）
・図示による（　　）　・
主筋の基礎底盤への定着長さ
・図示による（　　）　・
セメントの種類
※高炉セメントB種 G　・
コンクリートの設計基準強度　・（　　）N/mm　・
コンクリートの種別
・A種　・B種　・評定等の内容による
スランプ
・18cm　・21cm
構造体強度補正値
・3N/mm²　・評定等の内容による　・

試験杭の位置　・図示による（　　）　・
杭の支持層への根入れ深さ
・図示による（　　）　・
杭の精度
水平方向の位置ずれ
・評定等の内容による　・杭径の1/4かつ100mm以下　・
杭の傾斜
・評定等の内容による　・1/100以内　・
孔壁の保持状況（孔壁測定）
測定箇所　・試験杭（　）箇所及び本杭（　）箇所　・
測定方法　・超音波測定器　・

⑤ 砂利地業

材料　⊙再生クラッシャラン G　⊙切込砂利又は切込砕石　・　(4.6.2、3)
施工範囲　⊙基礎下、基礎梁下、土間コンクリート下、土に接するスラブ下
・図示による（　　）　・
厚さ　※60mm　⊙ 100mm

6 砂地業

材料　・シルト　(4.6.2、3)
・有機物等の混入しない締固めに適した山砂、川砂又は砕砂
・
施工範囲　・図示による（　　）　・
厚さ　※60mm　・

⑦ 捨コンクリート地業

材料　※普通コンクリート　・　(4.6.4)(6.14.1～3)
設計基準強度　※18N/mm²　・
スランプ　※15cm又は18cm　・
施工範囲　⊙基礎下、基礎梁下、土に接するスラブ下
・図示による（　　）　・
厚さ　※50mm（※平たん仕上げ　・　　）　・

⑧ 床下防湿層

材料　(4.6.2、5)
⊙ポリエチレンフィルム厚さ0.15mm以上　・
施工範囲
⊙建物内の土間スラブ及び土間コンクリート下（ピット下を除く）
・

9 地盤改良工法

種類及び施工方法等　・図示による（　　）　・外構図による

六価クロム溶出試験　・行う

5 鉄筋工事

① 鉄筋

鉄筋の種類　(5.2.1)

種類の記号	呼び径(mm)	備考
⊙SD295	※ D16以下	
⊙SD345	※ D19以上　⊙ D19～D25	
⊙SD390	⊙ D29以上	
・		

② 溶接金網

形状等　(5.2.2)

種類	種類の記号	網目の形状、寸法、鉄線の経(mm)	使用部位
⊙溶接金網		ワイヤーメッシュ 6φ-100x100	保護コンクリート
・鉄筋格子			

③ 鉄筋の継手

鉄筋の継手方法等　(5.3.4)

部位	継手方法	呼び径(mm)
柱、梁の主筋	⊙ガス圧接　・機械式継手　・溶接継手	※ D19以上
耐力壁の鉄筋	・重ね継手　・	
基礎、耐圧スラブ、土圧壁	⊙重ね継手　・ガス圧接	
その他の鉄筋（雑壁等）	⊙重ね継手　・	

継手位置
⊙図示による（構造関係共通図（配筋標準図）5.1、6.1、7.1、7.3、8.1）
基礎梁主筋の継手位置　・図5.2　⊙図5.3　・図5.4
・図示による（　　）　・
柱及び梁の重ね継手の長さ
・図示による（　　）　・
耐力壁の鉄筋の重ね継手の長さ
※図示による（構造関係共通図（配筋標準図）3(1)(ｳ)）
・図示による（　　）　・
柱及び梁の主筋で隣り合う継手を同一箇所に設ける部分の位置及び施工方法等
・図示による（　　）　・

④ 鉄筋の定着

鉄筋の定着長さ
⊙図示による（S-03～06、部材リスト）

機械式定着工法
運用場所
・図示による（　　）　・
種類
・摩擦圧接接合　・螺合グラウト固定
・飯合グラウト固定　・
工法
※第三者機関の評定等を取得している工法とする
必要定着長さ
※評定等の評価内容による
補強筋形状
※評定等の評価内容による
かぶり厚さ
※評定等の評価内容による
品質確認
※評定等の評価内容による
検査
※評定等の評価内容による

鉄筋の余長の長さ
構造関係共通図（配筋標準図）による。これによらない箇所は図示による。

⑤ 鉄筋のかぶり厚さ及び間隔（溶接金網含む）

最小かぶり厚さ（目地底から算出を行う）
※図示による（構造関係共通図（配筋標準図）4(1)表4.1）
・図示による（　　）　・

柱及び梁の主筋にD29以上の使用
⊙あり　適用箇所（ 大梁　　）
主筋のかぶり厚さを径の1.5倍以上確保する
耐久性上不利な部分（塩害等を受けるおそれのある部分等）
・あり　適用箇所（　　）
・最小かぶり厚さに加える厚さ　（　　）mm
・

⑥ 各部配筋

※図示による

⑦ ガス圧接

圧接完了後の圧接部の試験
外観試験
※行う（全ての圧接部）
抜取試験
※超音波探傷試験（試験方法　標準仕様書5.4.10(ｲ)(a)による）
・引張試験
試験方法　※標準仕様書5.4.10(ｲ)(b)による
・

8 機械式継手

適用箇所
・図示による（　　）　・
H12建告第1463号に適合する性能
・A級　・
種類
・ねじ式鉄筋継手
充填方式
・無機グラウト方式　・有機グラウト方式　・
・端部ねじ加工継手
・モルタル充填式継手
・
工法
※第三者機関の評定等を取得している工法
鉄筋相互のあき
※評定等の評価内容による
品質の確認
※評定等の評価内容による
検査
※評定等の評価内容による
施工完了後の継手部の試験
・外観試験
試験対象　※全数
試験項目
・評定等の評価内容による　・
試験方法
・評定等の評価内容による　・
・超音波測定試験
試験対象
・抜取り
ロット
・１組の作業班が１日に行った継手箇所で、最大200箇所程度とする
・
試験の箇所数
・１ロットに対して（　　）箇所
・全数
試験項目　※挿入長さ
試験方法
※JIS Z 3064（鉄筋コンクリート用機械式継手の鉄筋挿入長さの超音波測定方法及び判定基準）による
不合格となった場合の措置
・

9 溶接継手

適用箇所
・図示による（　　）　・
H12建告第1463号に適合する性能
・A級　・
溶接継手の工法
・図示による（　　）　・
鉄筋相互のあき
・標準仕様書5.3.5(4)による
・評定等の評価内容による
・図示による（　　）
施工完了後の溶接部の試験
・外観試験
試験対象　※全数
試験項目
・評定等の評価内容による　・
試験方法
・評定等の評価内容による　・
・超音波測定試験
試験対象
・抜取り
ロット
・１組の作業班が１日に行った溶接箇所で、最大200箇所程度とする
・
試験の箇所数
・１ロットに対して（　　）箇所
・全数
試験項目　※内部欠陥の検出
試験方法
※JIS Z 3063（鉄筋コンクリート用異形棒鋼溶接部の超音波測定方法及び判定基準）による
不合格となった場合の措置
・

訂正	月　日	事項	

株式会社ユニバァサル設計
UNIVERSAL DESIGN OFFICE INC.

事務所登録	一級建築士事務所東京都知事登録　第22736号	設計者	一級建築士大臣登録　第339311号 構造一級建築士大臣登録　第　9542号　益子 拡

工事名称	仮称芳野市民センター新築工事	図面名称	特記仕様書（構造関係・その１）	縮尺	NO SCALE	図面No.
作成	2025 年　2 月　17 日	承認	部長　課長　担当　製図	設計No.		S-01

6 コンクリート工事

① コンクリートの種類等

類別 (6.2.1)
- ※Ⅰ類（JIS A 5308 への適合を認証されたコンクリート）
- Ⅱ類（JIS A 5308 に適合したコンクリート）

普通コンクリート (6.2.1～6.2.4)

設計基準強度 (N/mm²)	気乾単位容積質量 (t/m³)	スランプ	適用箇所
○24	2.3程度	・15又は18 ○18	設備基礎、外構基礎 他
○33	2.3程度	○21	柱、梁、壁、床版、基礎 他
・	・	・	
○21	2.3程度	○15	土間コンクリート
・	・	・	

構造体強度補正値(S) (6.3.2)
- ※標準仕様書 表6.3.2による
  - 補正値S＝3（2月18日～7月3日、9月15日～12月5日）【参考】
  - S＝6（12月6日～2月17日、7月4日～9月14日）【参考】
- ○ 配合計画書による

② セメント

種類 (6.3.1)
- ※普通ポルトランドセメント、高炉セメントA種、シリカセメントA種又はフライアッシュセメントA種
  - 適用箇所（※下記以外全て ・ ）
  - 普通ポルトランドセメントの品質は、JIS R 5210 に示された規定の他、水和熱が7日目で 352J/g以下、かつ28日目で 402J/g以下のものとする。
- ・高炉セメントB種 G
  - 適用箇所（・1FL より下部（立上り部含む） ・ ）
- ・フライアッシュセメントB種 G
  - 適用箇所（・ ）
  - ・

③ 骨材

アルカリシリカ反応性による区分 (6.3.1)
- ※A ・B（コンクリート中のアルカリ総量が 3.0 kg/m³ 以下）

④ 混和材料

○混和剤 (6.3.1)
- 混和剤の種類
  - ※標準仕様書6.3.1(4)(a)による ・

○混和材
- 混和材の種類
  - ※標準仕様書6.3.1(4)(b)による ・

⑤ 打継ぎの位置、ひび割れ誘発目地、打継ぎ目地

打継ぎの位置 (6.6.4)
- 梁及びスラブ
  - ※スパンの中央又は端から1/4の付近
  - ・図示による（ ） ・
- 柱及び壁
  - ※スラブ、壁梁又は基礎の上端
  - ・図示による（ ） ・

目地の寸法 (6.6.4)(6.8.1)(9.7.3)
- ○標準仕様書 9.7.3(1)(ｱ)による ・
- ※ひび割れ誘発目地、打継目地の深さ寸法は、躯体外側の打増し部で処理する
- ・図示による（ ） ・

ひび割れ誘発目地の位置、形状、寸法 (6.8.1)
- ○図示による（ 意匠図 ） ・

6 湿潤養生

湿潤養生の期間 (6.7.2)
- ・セメントの種類が普通エコセメントの場合 （ ）日
  - ※図示による（ ）

⑦ コンクリートの仕上り

合板せき板を用いるコンクリートの打放し仕上げ (6.2.5)(6.8.2)

種別	適用箇所
・A種	
○ B種	外壁、外部独立柱、腰壁、ピット、基礎梁外周露出部、屋根軒裏
○ C種	上記以外

コンクリートの仕上りの平たんさ

種別	適用箇所
○ a種	外壁、外部独立柱、腰壁、ピット、基礎梁外周露出部、屋根軒裏、保護コンクリート、床（1階タイル貼箇所以外）
・b種	
○ c種	上記以外

⑧ 打増し厚さ（打放し仕上げ部）

打増し厚さ (6.8.1)
- ○打放し仕上げの打増し厚さ(外部に面する部分に限る)
  - ○20mm ・
- ・打放し仕上げの打増し厚さ(内部に面する部分に限る)
  - ・10mm ・20mm ・
- ○外装タイル後張り面の打増し処理
  - ○20mm ・

打増し範囲
- ○図示による（ 意匠図 ） ・

⑨ 型枠

せき板の材料及び厚さ (6.8.2)
- ○合板（※12mm ・ ） G
  - コンクリート打設時の充填性の確認のため、型枠の一部に透明型枠等を使用する場合は、強度、変形等について、事前に監督員と協議する。
- ・断熱材を兼用した型枠の使用
  - 適用箇所 ・図示による（ ） ・
- ・MCR工法用シートの使用
  - 適用箇所 ・図示による（ ） ・
  - 打増し厚さ ・20mm ・
  - 打増し範囲 ・図示による（ ） ・

スリーブの材種・規格等
- ○図示による（ 設備図 ） ・

存置期間及び取外し (6.8.4)
- ※標準仕様書6.8.4による
- ・普通エコセメントの場合（※図示による（ ） ・ ）

10 軽量コンクリート

適用箇所 (6.10.1、2)
- ・図示による（ ） ・

種類
- ・1種 ・2種

気乾単位容積質量
- ・標準仕様書 表6.10.1による ・

スランプ
- ※21cm ・

⑪ 寒中コンクリート

適用期間（ 1月 1日～ 2月18日）【参考 S=6】 (6.11.1、2)

構造体強度補正値(S)を積算温度を基に定める場合
- ・図示による（ ）、S＝（ ）・

(6.12.2)

⑫ 暑中コンクリート

適用期間（ 7月 4日～ 9月14日）【参考】

構造体強度補正値(S)
- ※6N/mm² ・図示による（ ）、S＝（ ）・

13 マスコンクリート

適用箇所 (6.13.1、2)
- ・図示による（ ） ・

セメントの種類
- ・普通ﾎﾟﾙﾄﾗﾝﾄﾞｾﾒﾝﾄ ・中庸熱ﾎﾟﾙﾄﾗﾝﾄﾞｾﾒﾝﾄ ・低熱ﾎﾟﾙﾄﾗﾝﾄﾞｾﾒﾝﾄ
- ・高炉セメントB種 ・ﾌﾗｲｱｯｼｭｾﾒﾝﾄB種 ・シリカセメント

混和材料の適用
- ・あり（・標準仕様書6.13.2(2)(ｱ)による ・標準仕様書6.13.2(2)(ｲ)による ・ ）
- スランプ
  - ※15cm ・
- 構造体強度補正値(S)
  - ※標準仕様書表6.13.1による ・

⑭ 無筋コンクリート

コンクリートの種類 (6.14.1)
- ※普通コンクリート ・

セメントの種類
- ※普通ポルトランドセメント、高炉セメントA種、シリカセメントA種又はフライアッシュセメントA種
- ・高炉セメントB種 G
- ・フライアッシュセメントB種 G

設計基準強度 ※18 (N/mm²) ・
スランプ ※15cm又は18cm ・
適用箇所
- ※標準仕様書6.14.1(4)による箇所 ・図示による（ ）

15 コンクリートの単位水量測定

実施要領
(1)単位水量の測定は、150m³に1回以上及び荷下し時に品質の異常が認められた時に実施する。
(2)単位水量の上限値は、標準仕様書6.3.2(4)(c)による。
(3)単位水量の管理目標値は次の通りとして、施工する。
1)測定した単位水量が、計画調合書の設計値(以下、「設計値」という。)±15kg/m³の範囲にある場合はそのまま施工する。
2)測定した単位水量が、設計値±15を超え±20kg/m³ の範囲にある場合は、水量変動の原因を調査するとともに生コン製造者に改善を指示し、その運搬車の生コンは打設する。その後、設計値±15kg/m³ 以内で安定するまで、運搬車の３台毎に１回、単位水量の測定を行う。
3)設計値±20kg/m³ を超える場合は、生コンを打込まずに持ち帰らせ、水量変動の原因を調査するとともに生コン製造者に改善を指示しなければならない。その後の全運搬車の測定を行い設計値±20kg/m³ 以内であることを確認する。更に、設計値±15kg以内で安定するまで、運搬車の３台毎に１回、単位水量の測定を行う。
4)3)の不合格生コンを確実に持ち帰ったことを確認する。
(4)単位水量管理についての記録を書面(計画調合書、製造管理記録、打込み時の外気温、コンクリート温度等)と写真により提出する。
(5)単位水量の測定方法は、高周波誘電加熱乾燥法(電子レンジ法)、ｴｱﾒｰﾀ法又は静電容量測定法による。また、試験機関は該当コンクリート製造所以外の機関とする。

7 鉄骨工事

※ 鉄骨工事は鉄骨階段等のため、該当箇所のみ適用とし、必要に応じて監督員と協議すること。

① 鉄骨製作工場

鉄骨製作工場の加工能力 (7.1.3)
建築基準法第77条の56に基づき国土交通大臣から性能評価機関として認定を受けた(株)日本鉄骨評価センター及び(株)全国鉄骨評価機構(旧(社)全国鉄構工業協会)の「鉄骨製作工場の性能評価基準」により評価を受け、国土交通大臣から認定を受けた工場、又は同等以上の能力のある工場
評価の区分
- ※（ R ）グレード ・指定しない
- ○ 監督員の承諾する工場とする（標準仕様書7.1.1以外の適用範囲に限る）

2 施工管理技術者

配置する (7.1.3、4)

③ 鋼材

種類等 (7.2.1)

種類の記号	適用箇所（主要な部分）	規格
SS400	鉄骨階段 他	○JIS規格による ・
SN400C	BPL	○JIS規格による ・
SSC400	ルーバー受け材 他	○JIS規格による ・
		・JIS規格による ・

溶接亜鉛めっき工法の適用箇所
- ・

④ 高力ボルト

ボルトの種類 (7.2.2)
- ○トルシア形高力ボルト ・JIS形高力ボルト
- ・溶融亜鉛めっき高力ボルト
- ・

ボルトのねじの呼び ○図示による（ 詳細図 ） ・

ボルトの縁端距離、ボルト間隔、ゲージ等 (7.3.2)
- ○図示による（構造関係共通図(鉄骨標準図)1-1 縁端距離及びボルト間隔）
- ・

摩擦面の処理方法等 (7.4.2)(7.12.5)
溶融亜鉛めっき以外
- ※標準仕様書7.4.2(1)による ・

溶融亜鉛めっき面
- ・ブラスト処理（表面粗度50μm Rz以上）
- ・ブラスト処理以外の特別な処理方法
  - ・図示による（ ） ・

すべり試験
- ・行う（※すべり係数試験 ・すべり耐力試験）
  - 試験の方法等 ・図示による（ ） ・

⑤ 普通ボルト

ボルト及びナットの材料 (7.2.3)(7.5.2)
- ○標準仕様書 表7.2.3(JIS附属書品)又は次による
  - ボルトの規格は JIS B 1180 とする。
  - （ボルトの種類は、呼び径六角ボルト又は全ねじ六角ボルトとし、材料は鋼とする。ボルトの強度区分は、4.6又は4.8とする。なお、呼び径六角ボルトの軸径の最大寸法は、ボルトの径の値以下とする。ナットの規格は、JIS B 1181とする。ナットの種類は、六角ナット-Cとし、材料は鋼とする。）

ボルトのねじの呼び ○図示による（ 詳細図 ） ・
座金 ※ JIS B 1256 による ・
戻り止め ※二重ナット ○スプリングワッシャー
ボルトの縁端距離、ボルト間隔、ゲージ等 (7.3.2)
- ・図示による（構造関係共通図(鉄骨標準図)1-1 縁端距離及びボルト間隔）
- ・

⑥ アンカーボルト

○構造用アンカーボルト（JIS B 1220） (7.2.4)(7.10.3)
- 種類 ・ABR400 ・ABR490 ○SS400

・建方用アンカーボルト（JIS G 3101）
- 種類 ・SS400 ・
- アンカーボルト及びナットのねじの公差域クラス及び仕上げの程度
  - ※標準仕様書 表7.2.3による ・

ボルトの縁端距離、ボルト間隔、ゲージ等 (7.3.2)
- ○図示による（構造関係共通図(鉄骨標準図)1-1 縁端距離及びボルト間隔）
- ・

⑦ 溶接材料

溶接材料 (7.2.5)
- ○標準仕様書7.2.5(1)、(2)による
- ・標準仕様書7.2.5(1)、(2)以外の溶接材料
  - 材料及び使用箇所 ○図示による（ 詳細図 ） ・

8 ターンバックル

種類 (7.2.6)
- 建築用ターンバックル
  - ※羽子板ボルト ・
- 建築用ターンバックル胴
  - ※割枠式 ・

ねじの呼び
- ・図示による（ ） ・

9 床構造用のデッキプレート

材質、形状及び寸法 (7.2.7)(7.7.8)

	適用箇所	材質・形状・寸法	備考
・デッキプレート単独の構法			
・デッキプレートとコンクリートとの合成スラブとする構法			

開口部補強要領（補強筋の定着長さ等を含む）
- ・図示による（ ） ・

鉄骨部材への溶接方法
- ・図示による（ ） ・

耐火認定
- ・あり（耐火時間 ・図示による（ ） ・ ）

10 スタッド

頭付きスタッド（JIS B 1198）の種類等 (7.2.8)(7.7.6)

呼び名	呼び長さ（mm）	適用箇所
・16		
・19		
・22		

スタッド溶接完了後、外観試験及び打撃曲げ試験を行う。

11 柱底均しモルタル

無収縮モルタルとする場合の材料、調合等 (7.2.9)
- ※標準仕様書7.2.9(2)(ｱ)から(ｲ)による ・

⑫ 製作精度

鉄骨の製作精度は、JASS 6 付則6.鉄骨精度検査基準に加えて、次による。 (7.3.3)
- 通しダイヤフラムの突合せ継手の食い違いの寸法
  - ※H12建告第1464号第二号イ(2)による ・
- アンダーカットの寸法
  - ※H12建告第1464号第二号イ(3)による ・
- 食い違い・仕口のずれの検査方法及び補強方法
  - ○「突合わせ継手の食い違い仕口のずれの検査・補強マニュアル」による
  - ・

13 溶接技能者の技量付加試験

試験の要領 (7.6.3)
- ・図示による（ ） ・

⑭ 溶接接合

開先の形状 (7.6.4)
- ○図示による（構造関係共通図（鉄骨標準図）1-2 溶接継手の種類別開先標準）
- ・

エンドタブの切除する部分 (7.6.7)
- 切断する場所 ・図示による（ ） ・
- 切断範囲
  - ・エンドタブ、裏当て金等は、梁フランジ等の端から 5mm 以上残して直線上に切断する。なお、切断線が交差する場合は、交差部をアール状に加工する。
  - ・
- 切断面の仕上げ
  - ・標準仕様書7.6.7(1)(ｶ)(b)②による ・

完全溶込み溶接
板厚が異なる場合の突合せ継手
- 低応力高サイクル疲労を受ける部位
  - ・図示による（ ） ・

スカラップの形状
- ・図示による（構造関係共通図（鉄骨標準図）1-4(4)改良型スカラップ）
- ・

15 入熱、パス間温度の管理

適用箇所
- ・図示による（ ）
- ・柱、梁、ブレースのフランジ端部の完全溶け込み溶接部

⑯ 溶接部の試験

H12建告第1464号第二号に関する外観試験方法等 (7.6.12)
- ○「突合せ継手の食い違い仕口のずれの検査・補強マニュアル」3.5.2 受入検査による
  - ・抜き取り検査①
  - ※抜き取り検査②
  - ・

JASS 6 付則6［鉄骨精度検査基準］の付表3「溶接」に関する確認方法等
- ○JASS 6 10.4［受入検査］e.溶接部の外観検査の抜取箇所は、超音波探傷試験の試験箇所と同一とする。外観試験の不合格箇所は、すべて標準仕様書7.6.13による補修を行い、再試験する。
- ・

完全溶込み溶接部の超音波探傷試験
- ○工場溶接の場合
  - AQQL(%) ※4.0 ・2.5

節				
検査水準				

- ・全数 ・
- ○工事現場溶接の場合
  - ※全数 ・

⑰ 錆止め塗装

塗装の範囲 (7.8.2)
- 耐火被覆材の接着する面
  - ・図示による（ ） ・
- 耐火被覆材の接着する面以外
  - ※標準仕様書7.8.2(1)(ｱ)～(ｳ)以外の範囲
  - ・図示による（ ） ・

塗料の種別 (7.8.4)
- ○鉄鋼面の錆止め塗料
  - 屋外
    - ○標準仕様書 表18.3.1 A種 ・
  - 屋内
    - ○標準仕様書 表18.3.1（A）種 ・
- ・亜鉛めっき鋼面の錆止め塗料
  - ・標準仕様書 表18.3.2（ ）種 ・
- ・鉄骨鉄筋コンクリート造の鋼製スリーブの内面（鉄骨に溶接されたものに限る）
  - ・標準仕様書 表18.3.1 A種 ・
- ・耐火被覆材の接着する面へ塗装する場合の錆止め塗料
  - ・標準仕様書 表18.3.1（ ）種 ・標準仕様書 表18.3.2（ ）種
  - ・

18 耐火被覆

種類、材料、工法等 (7.9.2～8)

種類	材料・工法	性能（耐火時間）	適用箇所（部位・部分）
・耐火材吹付け	・乾式吹付ﾛｯｸｳｰﾙ		
	・湿式ロックウール		
	・半乾式吹付ﾛｯｸｳｰﾙ		
	・		
	・		
・耐火板張り	・繊維混入けい酸カルシウム板		
	・		
・耐火材巻付け	・高断熱ロックウール		
	・		
・ラス張りモルタル塗り	―		
・耐火塗料			

材料及び工法は、建築基準法に基づき定められたもの又は認定を受けたものとする

⑮ 建方精度

※JASS6 付則6［鉄骨精度検査基準］付表5［工事現場］による (7.10.2)

⑳ アンカーボルト等の設置

構造用アンカーボルトの形状及び寸法 (7.10.3)
- ○図示による（ 詳細図 ） ・

構造用アンカーフレームの形状及び寸法
- ・図示による（ ） ・

建方(及び付属鉄骨)用アンカーボルトの保持及び埋込み工法(標準仕様書 表7.10.1)
種別 ・A種 ・B種

柱底均しモルタルの厚さ及び工法の種別(標準仕様書 表7.10.2)
- 厚さ ・
- 種別 ※A種 ・B種

21 溶融亜鉛めっき（基礎、主要構造部及びその他構造耐力上主要な部分に限る。）

種別等 (7.12.4)(表14.2.2)

亜鉛めっきの種別	材料	適用部位
・A種	最小板厚6.0mm以上の形鋼、鋼板	
・B種	最小板厚3.2mm以上、6.0mm未満の形鋼、鋼板	
・C種	普通ボルト・ナット類、アンカーボルト類 最小板厚2.3mm以上、3.2mm未満の形鋼、鋼板	

外観検査 ※行う ・行わない

22 梁貫通孔の補強

補強形式
- ・図示による（構造関係共通図(鉄骨標準図)1-6）
- ・

適用箇所
- ※図示による（ ） ・

構造関係共通図（配筋標準図）

総則

1．適用範囲
（1）本構造関係共通図は鉄筋コンクリート及び鉄骨鉄筋コンクリート造等における鉄筋の加工、組立の一般的な標準図とする。
（2）本構造関係共通図以外については、設計図及び監督員の指示による。

2．用語の定義
（1）設計図とは、建築構造図のうち特記仕様書（構造関係）、構造関係共通図以外の図面をいう。
（2）異形鉄筋の径（本文、図、表において「d」で示す。）は、呼び名に用いた数値とする。
（3）長さ、厚さの単位は、特記なき限りmmとする。

3．優先順位
（1）設計図書の図面のうち配筋方法に相違がある場合の優先順位は以下のとおりとする。
1．特記仕様書（構造関係）
2．図面 ─ 2-1　設計図
　　└ 2-2　構造関係共通図（配筋標準図）
3．**国土交通省大臣官房官庁営繕部監修「公共建築工事標準仕様書（建築工事編）（令和４年版）」**

4．記号
図面で使用する記号等は、表A～表Dを標準とする。

表A　異形鉄筋の断面表示記号

区分＼径	D10	D13	D16	D19	D22	D25	D29	D32
建築	●	×	∅	●	○	⊙	⊗	◎

表B　各階伏図における記号

記号	説明	記号	説明
S※	スラブの配筋種別		杭の位置
	スラブ厚さ		試験杭の位置
	階段の配筋種別		打増しの範囲
DO	土間コンクリート		スラブ開口
	コンクリートブロック壁（CB壁）		ボーリング位置
	梁・スラブの上がり下がりの範囲	（土　）	FLからの上がり下がり
EW○○ EKW○○ ERW○○	耐力壁の種別 片持ちスラブ形階段を受け、かつ耐力壁の種別 土圧を受け、かつ耐力壁の種別	W○○ KW○○	一般壁の種別 片持ちスラブ形階段を受け、かつ一般壁の種別

表C　梁貫通孔記号

区分＼径	50	75	100	125	150	175	200	225	250	275	300	325	350	375	400
建　築															

表D　スリーブ材質の凡例

管　名	鋼　管	溶融亜鉛めっき鋼版	硬質塩化ビニル管（薄肉管）	つば付き鋼管（黒管）
記号（建築用）	SP（白管）	GA	VU	RS

※建築用以外のスリーブ材質は各工事による。

1 鉄筋の加工

鉄筋の折曲げ内法直径は、表1.1を標準とする。

表1.1　鉄筋の折曲げ内法直径

折曲げ角度	折曲げ図（余長）	折曲げ内法直径(D) SD295A SD295B、SD345 D16 以下	SD295A SD295B、SD345 D19 ～ D38	SD390 D19 ～ D38
180°	4d 以上	3d 以上	4d 以上	5d 以上
135°	6d 以上			
90°	8d 以上			
135°及び90°（幅止め筋）	4d 以上 / 4d 以上			

1．片持ちスラブ先端、壁筋の自由端側の先端で90°フックまたは135°フックを用いる場合は、余長は 4d 以上とする。
2．90°未満の折曲げの内法直径は特記による。

2 異形鉄筋の末端部

次の部分に使用する異形鉄筋の末端部にはフックを付ける。
（1）柱及び梁（基礎梁を除く）の出隅部

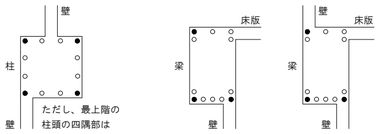


図2.1 末端部にフックを必要とする出隅部の鉄筋（ ● 印）

（2）煙突の鉄筋（壁の一部となる場合を含む）
（3）杭基礎のベース筋
（4）帯筋、あばら筋及び幅止め筋

3 継手及び定着

（1）鉄筋の重ね継手
（ア）径が異なる鉄筋の重ね継手の長さは、細い鉄筋の径による。
（イ）柱及び梁主筋並びに耐力壁を除く鉄筋の重ね継手の長さは、表3.1による。

表3.1　鉄筋の重ね継手の長さ

鉄筋の種類	コンクリートの設計基準強度 Fc（N/mm²）	L_1（フックなし）	L_{1h}（フックあり）
SD295	18	45d	35d
	21	40d	30d
	24，27	35d	25d
	30，33，36	35d	25d
SD345	18	50d	35d
	21	45d	30d
	24，27	40d	30d
	30，33，36	35d	25d
SD390	21	50d	35d
	24，27	45d	35d
	30，33，36	40d	30d

（注）1．L_1，L_{1h}：フックなし重ね継手の長さ及びフックあり重ね継手の長さ。
2．フックありの場合のL_{1h}は、図3.1に示すようにフック部分 ℓ を含まない。
3．軽量コンクリートの場合は、表の値に 5d を加えたものとする。

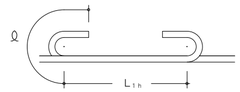


図3.1　フックありの場合の重ね継手の長さ

（ウ）耐力壁の鉄筋の重ね継手の長さは、フックありなしにかかわらず
40d以上（軽量コンクリートの場合は 50d 以上）と表3.1の重ね継手の長さのうちいずれか大きい値とする。
（エ）隣り合う継手の位置は、表3.2による。
ただし、スラブ筋で D16 以下の場合及び壁筋の場合は除く。

表3.2　隣り合う継手の位置

重ね継手	フックありの場合	L_{1h} / L_{1h} / a / a＝0.5L_{1h} / L_{1h} a L_{1h} / a≧0.5L_{1h}
	フックなしの場合	L_1 / L_1 / a / a＝0.5L_1 / L_1 a L_1 / a≧0.5L_1
ガス圧接継手 溶接継手	－	ガス圧接継手・溶接継手 / a / a≧400mm
機械式継手	－	カップラー / b / a / a≧400mm、かつ、a≧(h+40)mm

（2）鉄筋の定着
（ア）鉄筋の定着の長さは、表3.3及び図3.2による。

表3.3　鉄筋の定着の長さ

鉄筋の種類	コンクリートの設計基準強度 Fc（N/mm²）	直線定着の長さ L_1	L_2	L_3 小梁	L_3 スラブ	フックあり定着の長さ L_{1h}	L_{2h}	L_{3h} 小梁	L_{3h} スラブ
SD295	18	45d	40d	20d (25d以上)	10d かつ 150mm 以上 (25d以上)	35d	30d	10d	－
	21	40d	35d			30d	25d		
	24，27	35d	30d			25d	20d		
	30，33，36	35d	30d			25d	20d		
SD345	18	50d	40d			35d	30d		
	21	45d	35d			30d	25d		
	24，27	40d	35d			30d	25d		
	30，33，36	35d	30d			25d	20d		
SD390	21	50d	40d			35d	30d		
	24，27	45d	40d			35d	30d		
	30，33，36	40d	35d			30d	25d		

（注）1．L_1，L_{1h}：2．から4．まで以外の直線定着の長さ及びフックあり定着の長さ。
2．L_2，L_{2h}：割裂破壊のおそれのない箇所への直線定着の長さ及びフックあり定着の長さ。
3．L_3：小梁及びスラブの下端筋の直線定着の長さ。ただし、基礎耐圧スラブ及びこれを受ける小梁は除く。
なお、（　）は片持小梁及び片持スラブの場合を示す。
4．L_{3h}：小梁の下端筋のフックあり定着の長さ。
5．フックあり定着の場合は、図3.2に示すようにフック部分 ℓ を含まない。また、中間部での折曲げは行わない。
6．軽量コンクリートの場合は、表の値に 5d を加えたものとする。

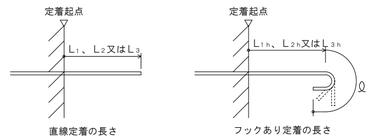
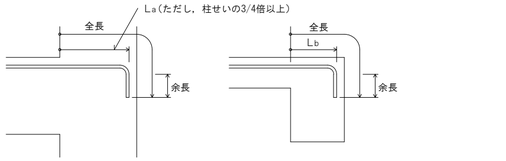


図3.2　直線定着の長さ及びフックあり定着の長さ

（イ）梁主筋の柱内折曲げ定着又は小梁及びスラブの上端筋の梁内折曲げ定着の方法は、図3.3により、次の(a)、(b)及び(c)をすべて満足するものとする。
（a）全長は表3.3に示す直線定着の長さ以上
（b）余長は 8d 以上
（c）仕口面から鉄筋外面までの投影定着長さLa及びLbは表3.4に示す長さとする。
ただし、梁主筋の柱内定着においては、原則として、柱せいの3/4倍以上とする。



梁主筋の柱内折曲げ定着の投影定着長さ　　小梁及びスラブの上端筋の梁内折曲げ定着の投影定着長さ

図3.3　折曲げ定着の方法

表3.4　鉄筋の投影定着の長さ

鉄筋の種類	コンクリートの設計基準強度 Fc（N/mm²）	L_a	L_b
SD295	18	20d	15d
	21	15d	15d
	24，27	15d	15d
	30，33，36	15d	15d
SD345	18	20d	20d
	21	20d	20d
	24，27	20d	15d
	30，33，36	15d	15d
SD390	21	20d	20d
	24，27	20d	20d
	30，33，36	20d	15d

（注）1．L_a：梁主筋の柱内折曲げ定着の投影定着長さ。
（基礎梁、片持ち梁及び片持ちスラブを含む。）
2．L_b：小梁及びスラブの上端筋の梁内折曲げ定着の投影定着長さ。
（片持ち小梁及び片持ちスラブを除く。）
3．軽量コンクリートの場合は、表の値に５ｄを加えたものとする。

（ウ）溶接金網の継手及び定着は、図3.4による。
なお、L_1 は表3.1に、L_2 及びL_3 は表3.3による。

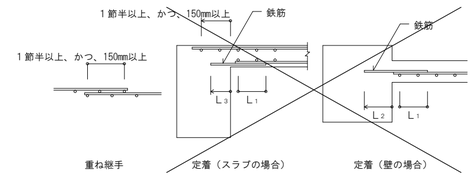


図3.4　溶接金網の継手及び定着

（4）スパイラル筋の継手及び定着は、図3.5による

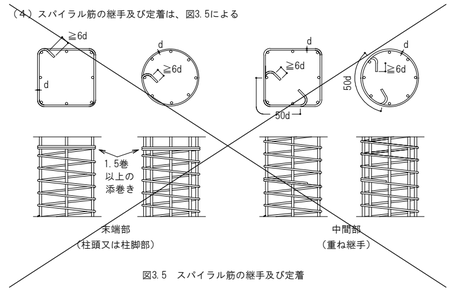


図3.5　スパイラル筋の継手及び定着

4 鉄筋の最小かぶり厚さ及び間隔

（1）鉄筋及び溶接金網の最小かぶり厚さは、表4.1による。
ただし、柱及び梁の主筋に D29 以上を使用する場合は、主筋のかぶり厚さを径の1.5倍以上確保するように最小かぶり厚さを定める。

表4.1　鉄筋及び溶接金網の最小かぶり厚さ

構造部分の種別				最小かぶり厚さ(mm)
土に接しない部分	スラブ，耐力壁以外の壁	仕上げあり		20
		仕上げなし		30
	柱，梁，耐力壁	屋内	仕上げあり	30
			仕上げなし	30
		屋外	仕上げあり	30
			仕上げなし	40
	擁壁，耐圧スラブ			40
土に接する部分	柱，梁，スラブ，壁			*40
	基礎，擁壁，耐圧スラブ			*60
煙突等高熱を受ける部分				60

（注）1．この表は、普通コンクリートに適用し、軽量コンクリートには適用しない。
また、塩害を受けるおそれのある部分等耐久性上不利な箇所には適用しない。
2．「仕上げあり」とは、モルタル塗り等の仕上げのあるものとし、鉄筋の耐久性上有効でない仕上げ（仕上塗材、塗装等）のものを除く。
3．スラブ、梁、基礎及び擁壁で、直接土に接する部分のかぶり厚さには、捨コンクリートの厚さを含まない。
4．杭基礎の場合の基礎下端筋のかぶり厚さは、杭天端からとする。

（2）柱、梁等の鉄筋の加工に用いるかぶり厚さは、最小かぶり厚さに10mmを加えた数値を標準とする。
（3）鉄筋組立後のかぶり厚さは、最小かぶり厚さ以上とする。
（4）鉄筋相互のあきは図4.1により、次の値のうち最大のもの以上とする。
（ア）粗骨材の最大寸法の1.25倍
（イ）25mm
（ウ）隣り合う鉄筋の径（呼び名の数値）の平均の1.5倍

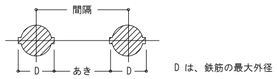


図4.1　鉄筋相互のあき及び間隔

（5）鉄骨鉄筋コンクリート造の場合、主筋と平行する鉄骨とのあきは、（4）による。
（6）貫通孔に接する鉄筋のかぶり厚さは、最小かぶり厚さ以上とする。

5.1　基礎梁

（1）一般事項
（ア）梁筋は、連続端で柱に接する梁筋が同数の時は柱をまたいで引き通すものとし、鉄筋の本数が異なる場合には、図5.1のように反対側の梁に定着する。外端部や隅部では、折り曲げて定着する。
（イ）梁筋を柱内に定着する場合は、7.1(2)(ｴ)による。

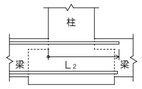
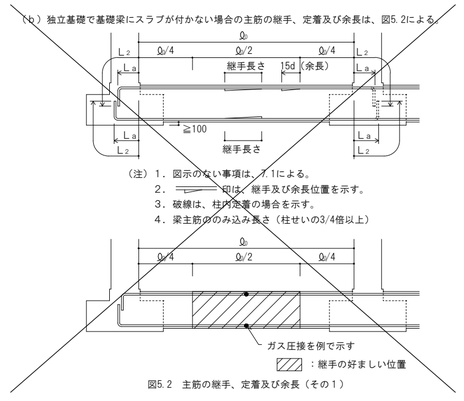


図5.1　梁筋の基礎梁内への定着

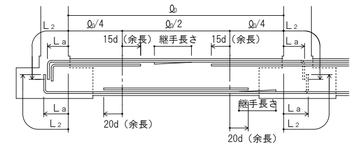
（b）独立基礎で基礎梁にスラブが付かない場合の主筋の継手、定着及び余長は、図5.2による。



（注）1．図示のない事項は、7.1による。
2．＝＝＝印は、継手及び余長位置を示す。
3．破線は、柱内定着の場合を示す。
4．梁主筋ののみ込み長さ（柱せいの3/4倍以上）

図5.2　主筋の継手、定着及び余長（その１）

（3）独立基礎で基礎梁にスラブが付く場合の主筋の継手、定着及び余長は、図5.3による。
ただし、耐圧スラブが付く場合は、(4)による。



（注）1．図示のない事項は、7.1による。
2．＝＝＝印は、継手及び余長位置を示す。
3．破線は、柱内定着の場合を示す。
4．梁主筋ののみ込み長さ（柱せいの3/4倍以上）

訂正	月　日	事　項	

株式会社ユニバァサル設計
UNIVERSAL DESIGN OFFICE INC.
事務所登録　一級建築士事務所東京都知事登録　第22736号
設計者　一級建築士大臣登録　第339311号　構造一級建築士大臣登録　第 9542号　益子 拡

工事名称　仮称芳野市民センター新築工事
作成　2025 年 2 月 17 日　承認
図面名称　構造関係共通図（配筋標準図・その１）
部長　課長　担当　製図
縮尺　NO SCALE
設計No.
図面No.　S-03

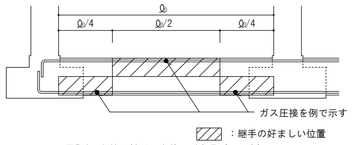
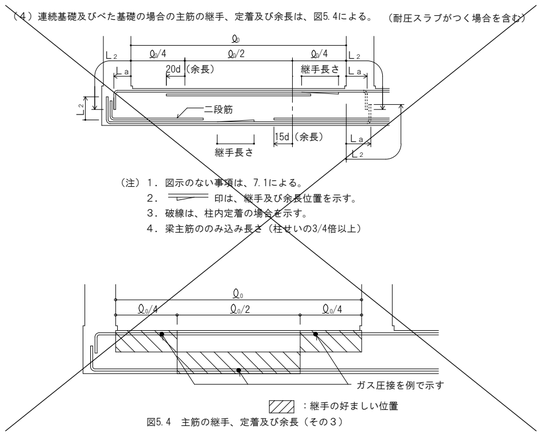


図5.3　主筋の継手、定着及び余長（その２）

（４）連続基礎及びべた基礎の場合の主筋の継手、定着及び余長は、図5.4による。　（耐圧スラブがつく場合を含む）



（注）１．図示のない事項は、7.1による。
　　２．　　印は、継手及び余長位置を示す。
　　３．破線は、柱内定着の場合を示す。
　　４．梁主筋ののみ込み長さ（柱せいの3/4倍以上）

図5.4　主筋の継手、定着及び余長（その３）

5.2　基礎梁のあばら筋等

（１）一般事項
　（ア）あばら筋の径および間隔は、設計図による。
　（イ）あばら筋組立の形及びフックの位置は、7.2(2)による。
　　また、副あばら筋組立の形及びフックの位置は7.2(3)による。
　　ただし、梁の上下端にスラブが付く場合で、かつ、梁せいが1.5m以上の場合は、図5.5による
　　ことができる。

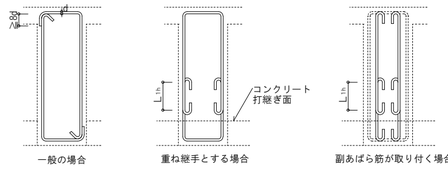
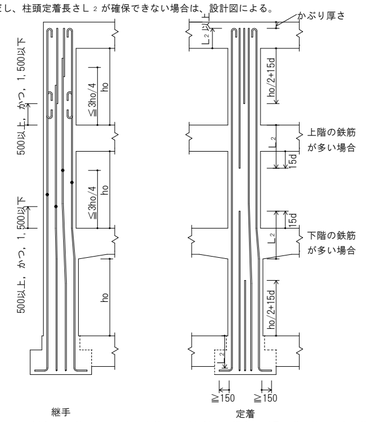


図5.5　あばら筋組立の形及びフックの位置

（２）腹筋及び幅止め筋は、7.2による。ただし、梁せいが1.5m以上の場合は設計図による。
（３）あばら筋の割付けは、7.2(4)による。

6.1　柱

（１）一般事項
　（ア）継手中心位置は、梁上端から500mm以上、1,500mm以下、かつ、3ho/4（hoは柱の内法高さ）以下とする。
　（イ）継手、定着及び余長は、図6.1による。
　　ただし、柱頭定着長さL2が確保できない場合は、設計図による。



（注）１．柱の四隅にある主筋で、重ね継手の場合及び最上階の柱頭にある場合には、フックを付ける。
　　２．隣り合う継手の位置は、表3.2［隣り合う継手の位置］による。
　　３．継手及び定着は、すべての階に適用できる。

図6.1　柱主筋の継手、定着及び余長

（２）柱打増し部
　（ア）打増し部分に、壁、梁及びスラブ等がとりつく場合は、壁、梁及びスラブ筋等の定着長さには、
　　打増し部分を含まない。
　（イ）土に接する柱周囲の打増しは図6.2による。

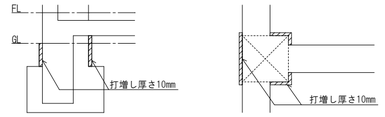
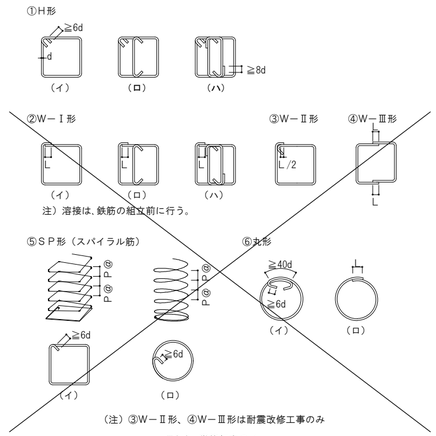


図6.2　柱打増し部

6.2　帯筋

（１）帯筋の種類及び間隔は、設計図による。
（２）帯筋組立の形は図6.3により、適用は構造図による。構造図に記載がなければ次による。
　（ア）形は、図6.3①とする。
　　ただし、H形の135°曲げのフックが困難な場合は、W－Ⅰ形とする。
　（イ）溶接する場合の溶接長さLは、両面重ねアーク溶接の場合は 5d 以上、片面重ねアーク溶接の場合は10d 以上とする。
　（ウ）ＳＰ形において、柱頭及び柱脚の端部は1.5巻以上の添巻き行う。

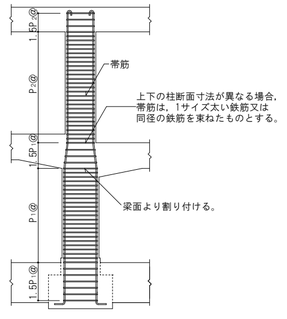


注）溶接は、鉄筋の組立前に行う。

（注）③W－Ⅱ形、④W－Ⅲ形は耐震改修工事のみ

図6.3　帯筋組立の形

（３）フック及び継手の位置は交互とする。
（４）帯筋の割付けは図6.4とし、それ以外の場合は設計図による。



（注）１．柱に取り付く梁に段差がある場合、帯筋の間隔を1.5P @または1.5P @と
　　する範囲は、その柱に取り付くすべての梁を考慮して適用する。
　　２．図中のP1@　、P2@は、特記された帯筋の間隔を示す。

図6.4　帯筋の割付け

7.1　大梁

（１）一般事項
　（ア）梁の上がり下がりは FLを基準とした寸法値とする。
　（イ）地中梁下の砂利地業厚及び捨てコンクリート地業厚は設計図による。
　（ウ）打増し部分に、スラブ、壁、梁筋等が取り付く場合は、スラブ、壁、梁筋等の定着長さには、打増し部分を含まない。

（２）大梁主筋の継手及び定着の一般事項
　（ア）継手中心位置は、次による。
　　上端筋：中央 ℓ0/2以内
　　下端筋：柱面より梁せい（D）以上離し、ℓ0/4を加えた範囲以内
　（イ）継手中央部の位置、定着長さ及び余長は図7.3及び図7.4による。
　（ウ）梁筋は、連続端で柱に接する梁の主筋が、同数の時は柱をまたいで引き通すものとし、鉄筋の
　　本数が異なる場合には、図7.1のように反対側の梁に定着する。外端部や隅部では、折り曲げて定着する。

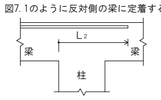


図7.1　梁主筋の梁内定着

（エ）梁主筋を柱内に折り曲げて定着する場合は次による。
　　なお、定着の方法は3(2)(イ)による。
　　上端筋：曲げ降ろす
　　下端筋（一般）：原則、曲げ上げる。
　　下端筋（ハンチ付き）：原則、曲げ上げる。
（オ）梁にハンチをつける場合、その傾斜は設計図による。
（カ）段違い梁は、図7.2による。

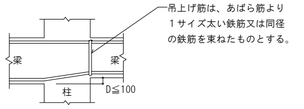
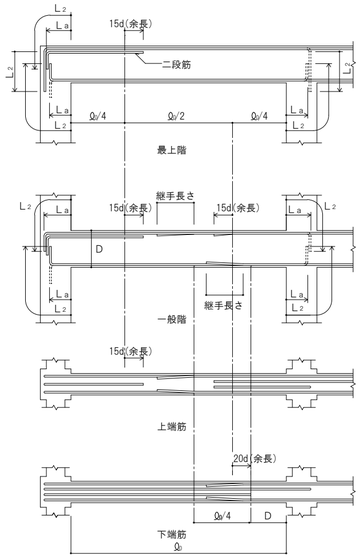


図7.2　段違い梁

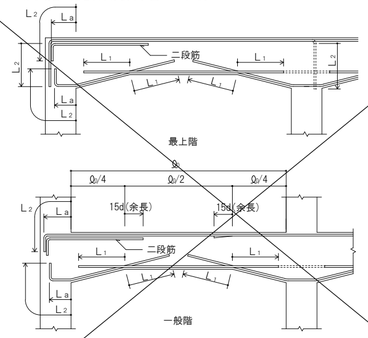
（３）ハンチのない場合の重ね継手、定着及び余長は、図7.3による。



（注）１．梁主筋の重ね継手が、梁の出隅及び下端の両端にある場合（基礎梁を除く）には、フックを付ける。
　　２．　　印は、継手及び余長を示す。
　　３．破線は、柱内定着の場合を示す。
　　４．梁主筋ののみ込み長さ（柱せいの3/4倍以上）

図7.3　大梁の重ね継手、定着及び余長

（４）ハンチのある場合の定着及び余長は、図7.4による。



（注）１．梁主筋の重ね継手が、梁の出隅及び下端の両端にある場合（基礎梁を除く）には、フックを付ける。
　　２．　　印は、継手及び余長を示す。
　　３．梁内定着の端部下端筋が接近するときは、　　のように引き通すことができる。
　　４．破線は、柱内定着を示す。
　　５．梁主筋ののみ込み長さ（柱せいの3/4倍以上）

図7.4　ハンチのある大梁の定着及び余長

7.2　あばら筋等

（１）あばら筋、腹筋及び幅止め筋の一般事項
　（ア）あばら筋の種類、径及び間隔は、設計図による。
　（イ）腹筋に継手を設ける場合の継手長さは、150mm程度とし、定着長さは図7.6による。
　　ただし、腹筋を計算上考慮している場合の継手長さ、定着長さは設計図による。
　（ウ）幅止め筋及び受け用幅止め筋は、D10-1,000@程度とする。

（２）あばら筋組立の形及びフックの位置
　（ア）形は、図7.5.1 ① とする。
　　ただし、L形梁の場合は、② または ③、T形梁の場合は ② ～ ④ とすることができる。

（イ）フックの位置
　（ａ）①の場合は交互とする。
　（ｂ）②の場合　L形ではスラブの付く側、T形では交互とする。
　（ｃ）③の場合は床版の付く側を 90°折曲げとする。

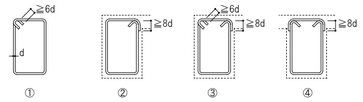


図7.5.1　あばら筋組立の形

（３）副あばら筋組立の形及びフックの位置
　（ア）形は、図7.5.2 ⑤ または ⑥ とする。
　　ただし、L形梁またはT形梁の場合は ⑦ とすることができる。

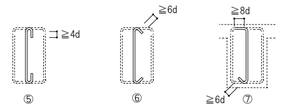
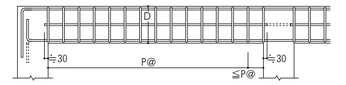


図7.5.2　副あばら筋組立の形

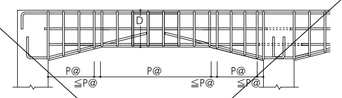
（４）あばら筋の割付け
　（ア）間隔が一様でハンチのない場合は、図7.6による。



（注）１．あばら筋は、柱面の位置から割り付ける。
　　２．図中のP@は、特記されたあばら筋の間隔を示す。

図7.6　あばら筋の割付け（その１）

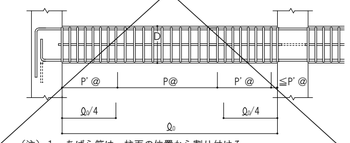
（イ）間隔が一様でハンチのある場合は、図7.7による。



（注）１．あばら筋は、柱面の位置から割り付ける。
　　２．図中のP@は、特記されたあばら筋の間隔を示す。

図7.7　あばら筋の割付け（その２）

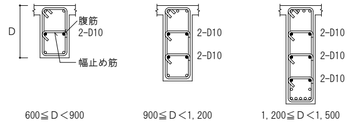
（ウ）梁の端部で間隔の異なる場合は、図7.8による。



（注）１．あばら筋は、柱面の位置から割り付ける。
　　２．図中のP@、P'@は、特記されたあばら筋の間隔を示す。

図7.8　あばら筋の割付け（その３）

（５）腹筋及び幅止め筋
　一般の梁は、図7.9による。

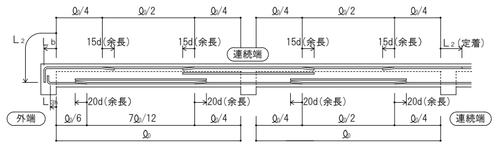


１．腹筋に継手を設ける場合の継手長さは、150mm程度とする。
２．幅止め筋及び受け用幅止め筋は、D10-1,000@程度とする。

図7.9　腹筋および幅止め筋

7.3　小梁

（１）小梁主筋の継手、定着及び余長
　連続小梁の場合は、図7.10による。



（注）１．図示のない事項は、5.1及び7.1に準ずる。
　　２．　　印は、余長位置を示す。

図7.10　小梁主筋の継手、定着及び余長（その１）

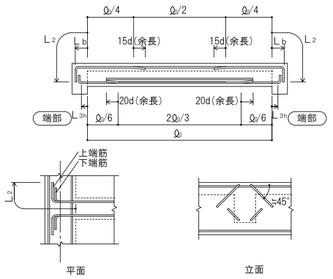
訂正	月　日	事　項	

株式会社ユニバァサル設計
UNIVERSAL DESIGN OFFICE INC.

事務所登録	一級建築士事務所東京都知事登録　第22736号	設計者	一級建築士大臣登録　第339311号 構造一級建築士大臣登録　第　9542号　益子 拡

工事名称	仮称芳野市民センター新築工事	図面名称	構造関係共通図（配筋標準図・その２）	縮尺	NO SCALE	図面No.
作成	2025 年　2 月　17 日	承認		部長 ＿＿ 課長 ＿＿ 担当 ＿＿ 製図 ＿＿	設計No.	S-04

（2）単独小梁の場合は、図7.11による。



直交する梁へ斜めに定着する場合

（注）1．図示のない事項は、5.1及び7.1に準ずる。
2．＝＝＝ 印は、余長位置を示す。

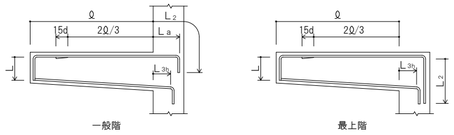
図7.11　小梁主筋の継手、定着及び余長（その２）

（3）あばら筋は、7.2による。

7.4　片持梁

（1）片持梁主筋の定着及び余長

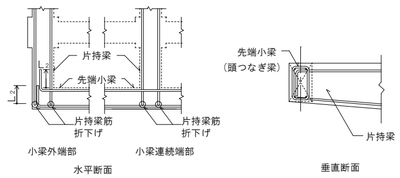
（ア）先端に小梁のない場合は、図7.12による。



（注）1．図示のない事項は、7.1による。
2．＝＝＝ 印は、余長位置を示す。
3．先端の折曲げの長さLは、梁せいからかぶり厚さを除いた長さとする。

図7.12　片持梁主筋の定着及び余長

（イ）先端に小梁がある場合は、図7.13による。



（注）1．図示のない場合は、（ア）による。
2．先端小梁終端部の主筋は、片持梁内に水平定着する。
3．先端小梁の連続端は、片持梁の先端を貫通する通し筋としてよい。

図7.13　片持梁主筋の定着

（2）あばら筋は、7.2による。

8.1　壁

（1）一般事項

（ア）一般壁筋の重ね継手の長さはL_1とし、耐力壁筋の重ね継手長さは特記による。
また定着の長さはL_2とし、鉄筋の継手位置は、柱・梁部以外とする。

（イ）幅止め筋は、縦横ともD10-1,000@程度とする。

（ウ）打増し部分に、壁及びスラブ等が取り付く場合は、壁及びスラブ筋等の定着長さには打増し 部分は含まない。

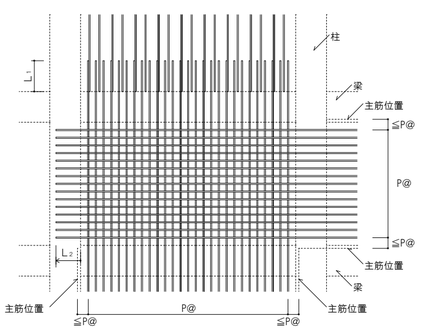


図8.1　壁の配筋

（注）図中のP@は、特記された壁筋の間隔を示す。

（2）壁の配筋は表8.1により、種別は設計図による。

表8.1　壁の配筋

種別	縦筋及び横筋	断面図　(mm)
W12	D10-200#シングル	120
W15A	D10-150#シングル	150
W15B	D10-100#シングル	
W18A	D10-200#ダブル	180
W18B	D10-150#ダブル	
W20A	D10-200#ダブル	200
W20B	D10-150#ダブル	

（注）壁筋の配筋順序は、規定しない。

（3）片持スラブ形階段を受ける壁の配筋は表8.2により、種別は設計図による。

表8.2　片持スラブ形階段を受ける壁の配筋

種別	縦筋及び横筋		断面図　(mm)	階段の配筋種別(表10.1)
KW1	縦筋	D13-200#ダブル	180	KA1
	横筋	D10-200#ダブル		KA3
KW2	縦筋	D13-150#ダブル	200	KA2
	横筋	D10-200#ダブル		KA4

（注）縦筋は、横筋の外側に配筋する。

（4）土圧を受ける壁の配筋は、設計図による。

（5）壁の交差部及び端部の配筋は、図8.2による。

図8.2　壁の交差部及び端部の配筋

8.2　一般壁の補強

（1）壁開口部の補強

（ア）耐力壁を除く壁開口部の補強筋は、A形は表8.3、B形は表8.4とし、適用は構造図による。
なお、耐力壁の補強筋は、構造図による。

表8.3　壁開口部補強筋（A形）

壁の種別	補強筋	
	縦横	斜め
W12，W15	1-D13	1-D13
W18，W20	2-D13	2-D13

表8.4　壁開口部補強筋（B形）

壁の種別	補強筋	
	縦横	斜め
W12，W15	2-D13	1-D13
W18，W20	4-D13	2-D13

（イ）壁開口部補強の定着長さは、図8.3による。

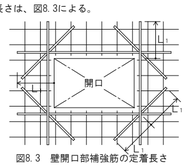


図8.3　壁開口部補強筋の定着長さ

（2）コンセントボックス等を壁に埋め込む場合の補強は、設計図による。

9.1　スラブ

（1）スラブ及び土間コンクリートの上がり下がりは、FLを基準とした寸法値とする。
（2）土間スラブ下の砂利地業厚及び捨てコンクリート厚は設計図による。
（3）土間コンクリート補強筋(DO)の配筋及びコンクリート厚さは設計図による。
（4）スラブの配筋（S形配筋）は表9.1及び図9.1により、配筋種別及びスラブ厚さは、設計図による。

表9.1　S形配筋

配筋種別	短辺方向（主筋）全域	長辺方向（配力筋）全域
S 1	D13-100#	D13-100#
S 2	同　上	D13-150#
S 3	同　上	D10, D13-150#
S 4	D13-150#	D13-150#
S 5	同　上	D10, D13-150#
S 6	同　上	D10-150#
S 7	D10, D13-150#	D10, D13-150#

配筋種別	短辺方向（主筋）全域	長辺方向（配力筋）全域
S 8	D10, D13-150#	D10-150#
S 9	同　上	D10-200#
S10	D10, D13-200#	D10, D13-200#
S11	同　上	D10-200#
S12	同　上	D10-250#
S13	D10-200#	D10-200#
S14	同　上	D10-250#

（注）上端筋，下端筋とも同一配筋とする。

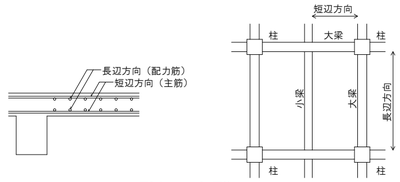


図9.1　スラブの配筋

（5）配筋の割付けは、中央から行い、端部は定められた間隔以下とする。
（6）原則として引き通し、鉄筋の重ね継手長さはL_1とする。
（7）定着長さ及び受け筋は、図9.2による。
ただし、引き通すことができない場合は、図9.3により梁内に定着する。

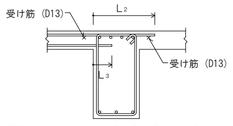
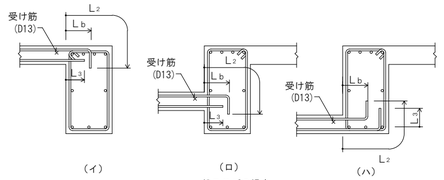
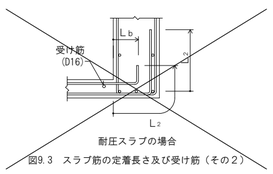


図9.2　スラブ筋の定着長さ及び受け筋（その１）



一般スラブの場合



耐圧スラブの場合

図9.3　スラブ筋の定着長さ及び受け筋（その２）

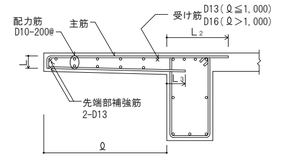
9.2　片持スラブ

片持スラブは、プレキャストコンクリート部材又は現場打ちコンクリート部材とする。
プレキャストコンクリート部材とする場合の躯体への接続方法は、設計図による。
片持スラブの配筋は、次による。
（1）片持スラブの配筋（CS形配筋）は、表9.2並びに図9.4及び図9.5により、配筋種別及びスラブ厚さは、設計図による。

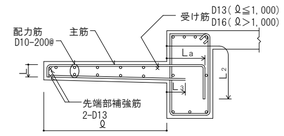
表9.2　CS形配筋

配筋種別		主筋
CS1	上	D13-100#
	下	D13-200#
CS2	上	D13-150#
	下	D13-300#
CS3	上	D10, D13-150#
	下	D10, D13-300#
CS4	上	D10, D13-200#
	下	D10-200#

配筋種別		主筋
CS5	上	D10-200#
	下	D10-400#
CS6	上	D10, D13-200#
	下	——
CS7	上	D10-200#
	下	——



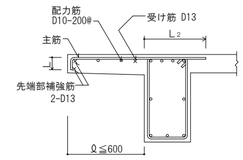
（段差なし）



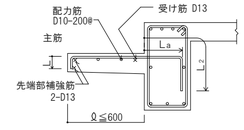
（段差あり）

（注）1．先端の折り曲げ長さLは、スラブ厚さよりかぶり厚さを除いた長さとする。

図9.4　片持スラブの配筋（ CS11 からCS15 ）



（段差なし）



（段差あり）

（注）1．先端の折り曲げ長さLは、スラブ厚さよりかぶり厚さを除いた長さとする。

図9.5　片持スラブの配筋（CS16及びCS17）

（2）先端に壁が付く場合の配筋は、図9.6による。

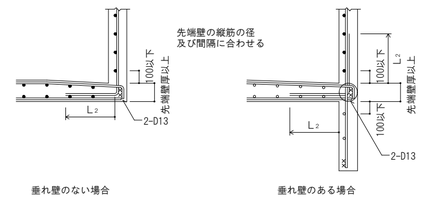
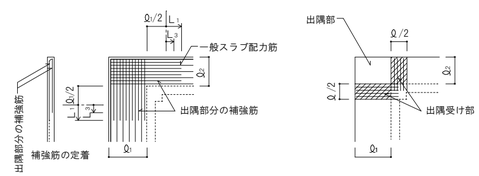


図9.6　先端に壁が付く場合の配筋

（3）出隅部
（ア）出隅部の補強筋は設計図により、配筋方法は、図9.7による。
（イ）出隅受け部分（図9.7の斜線部分）の補強筋は設計図による。



(注) $Q_1 \geqq Q_2$とする

出隅部分補強配筋

(注)1. $Q_1 \geqq Q_2$とする
2. 出隅受け部配筋は柱又は梁にL_1定着する。

出隅受け部配筋

図9.7　片持ちスラブ出隅部の補強配筋

| 訂 | 月　日 | 事　項 | | |

9.3　スラブ等の補強

（１）スラブ開口部の補強

スラブ開口部の補強方法は、設計図による。設計図になければ、(ア)(イ)による。

（ア）スラブ開口の最大径が700mm以下の場合は、図9.8により開口によって切られる鉄筋と同量の鉄筋で周囲を補強し、隅角部に斜め方向に2-D13（ Ω = 2L₁ ）シングルを上下筋の内側に配筋する。

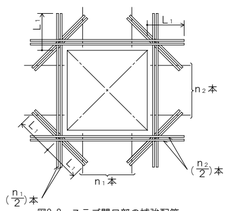
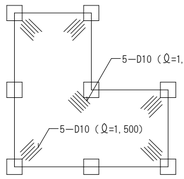


図9.8　スラブ開口部の補強配筋

（イ）スラブ開口の最大径が両方向の配筋間隔以下で、鉄筋を緩やかに曲げることにより、開口部を避けて配筋できる場合は、補強を省略することができる。

（２）屋根スラブの補強

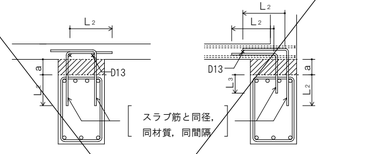
屋根スラブの出隅及び入隅部分には、図9.9により、補強筋を上端筋の下側に配置する。



（３）土間スラブの打継ぎ補強

基礎梁とスラブを一体打ちとしないで、打継ぎを設ける場合の補強は図9.10による。

ただし、土間スラブとは、土に接するスラブで S形の配筋によるものをいう。

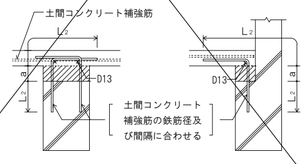


（注）a≦300の場合

図9.10　打継ぎ補強配筋

（４）土間コンクリートの補強

土間コンクリートの補強筋は、設計図による。なお、基礎梁との接合部は、図9.11による。



（注）a≦300の場合

図9.11　土間コンクリートと基礎梁との接合部配筋

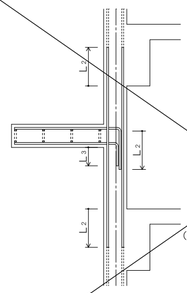
10.1　片持スラブ形階段

片持スラブ形階段の配筋は、表10.1及び図10.1により、寸法及び配筋種別は、設計図による。

表10.1　片持スラブ形階段の配筋

t：スラブ厚さ

配筋種別	KA1	KA2
配筋図	D13 D13 D10-300# D10-300# t	2-D13 D13 D10-300# D10-300# t
配筋種別	KA3	KA4
配筋図	D10-300# t t D13 D13	D10-300# t t D13 2-D13



（注）１．壁配筋は、8.1(3)による。
２．階段主筋は、壁の中心線を越えてから縦に下ろす。
３．スラブ配力筋の継手及び定着の長さは、表3.3［鉄筋の定着の長さ］の L ₃ とする。

図10.1　片持スラブ形階段配筋の定着

10.2　二辺固定スラブ形階段

二辺固定スラブ形階段は、プレキャストコンクリート部材又は現場打ちコンクリート部材とする。

プレキャストコンクリート部材とする場合の躯体への接続方法は設計図による。

二辺固定スラブ形階段の配筋は表10.2並びに図10.2及び図10.3により、寸法及び配筋種別は、設計図による。

表10.2　二辺固定スラブ形配筋

配筋種別	上端筋、下端筋とも（全域）
KB1	D13-200#
KB2	D13-150#
KB3	D13-100#
KB4	D13, D16-150#
KB5	D16-150#
KB6	D16-125#
KB7	D16-100#

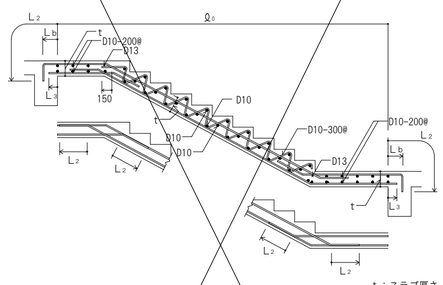
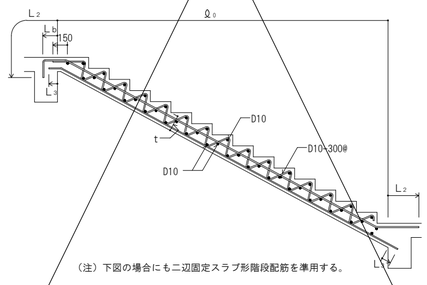


図10.2　二辺固定スラブ形階段配筋（その１）



（注）下図の場合にも二辺固定スラブ形階段配筋を準用する。

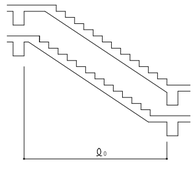


図10.3　二辺固定スラブ形階段配筋（その２）

11.1　梁貫通孔　※ 原則として既製品を採用すること。施工前に計算書を提出し、監督員の承認を得ること。

（１）梁貫通孔は、次による。

（ア）　梁貫通孔補強筋の名称等は、図11.1による。

（イ）　孔の径は、梁せいの1/3以下とする。

（ウ）　孔の上下方向の位置は、梁せい中心付近とし、梁中央部下端は梁下端よりD/3（ Dは梁せい）の範囲には設けてはならない。

（エ）　孔は、柱面から原則として、1.5D 以上離す。ただし、基礎梁及び壁付帯梁は除く。

（オ）　孔が並列する場合の中心間隔は、孔の径の平均値の 3倍以上とする。

（カ）　縦筋及び上下縦筋は、あばら筋の形に配筋する。

（キ）　補強筋は、主筋の内側とする。また、鉄筋の定着長さは、図11.2による。

（ク）　孔の径が梁せいの1/10以下、かつ、150mm未満のものは、鉄筋を緩やかに曲げることにより、開口部を避けて配筋でき、かつ、設計図に特記された場合において、補強を省略することができる。

（ケ）　溶接金網の余長は、1格子以上とし、突出しは10mm以上とする。

（コ）　溶接金網の貫通孔部分には、鉄筋 1-13φのリング筋を取り付ける。
なお、リング筋は、溶接金網に 4箇所以上溶接する。

（サ）　溶接金網の割付け始点は、横筋ではあばら筋の下側とし、縦筋では貫通孔の中心とする。

（シ）　他の開孔を設けない範囲は、図11.3による。

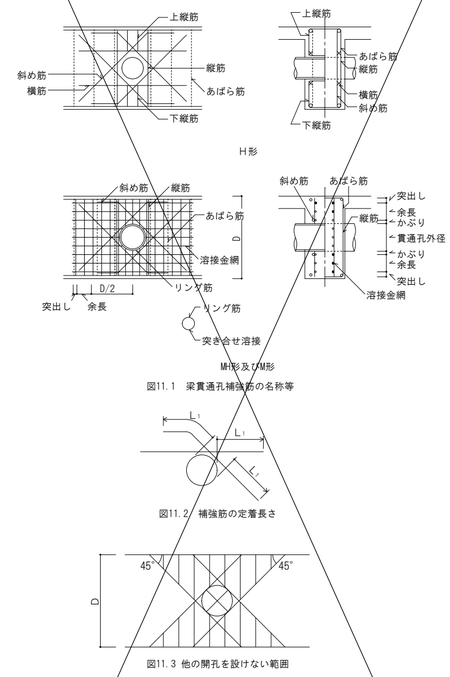


図11.1　梁貫通孔補強筋の名称等

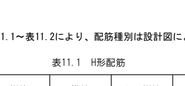


図11.2　補強筋の定着長さ

図11.3 他の開孔を設けない範囲

（２）梁貫通孔の補強形式は表11.1～表11.2により、配筋種別は設計図による。

表11.1　H形配筋

配筋種別	斜め筋	縦筋	横筋	上下縦筋	配筋図
H1	2-2-D13	なし	なし	なし	
H2		2-2-D13			
H3	4-2-D13	2-2-D13	2-2-D13	2-2-D13	
H4	4-2-D16				
H5	4-2-D16	4-2-D13	2-2-D13	3-2-D13	
H6	4-2-D19				
H7	4-2-D22				

（注） ┈┈┈┈ は、一般部分のあばら筋を示す。

表11.2　MH形配筋

配筋種別	斜め筋	縦筋	溶接金網	配筋図
MH1	2-2-D13	なし	なし	
MH2		2-2-D13		
MH3	2-2-D13	2-2-D13	2-6φ-100#	
MH4	4-2-D13			
MH5	4-2-D16			
MH6	4-2-D16	4-2-D13	2-6φ-100#	
MH7	4-2-D19			

（注） ┈┈┈┈ は、一般部分のあばら筋を示す。

11.2　コンクリートブロック帳壁との取合い

（１）控壁は、次による。

（ア）控壁の配置は、設計図による。

（イ）配筋は、図11.4による。

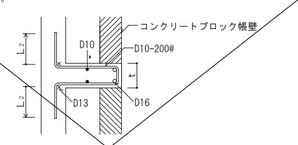


図11.4　控壁の配筋（水平、垂直とも）

（２）帳壁が土間コンクリート上に設置される場合の補強は、図11.5による。

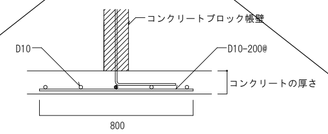


図11.5　壁付き土間コンクリートの補強配筋

11.3　パラペット

パラペットの先端補強筋は図11.6により、コンクリート厚さ及び配筋は構造図による。

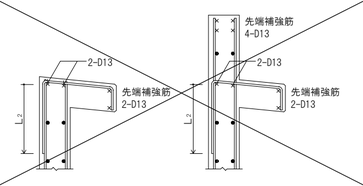


図11.6　パラペットの先端補強筋

12　擁壁

宅地造成等規制区域外での高さ2m以下の擁壁の鉄筋の定着長さは図12により、コンクリートの厚さ及び配筋は構造図による。

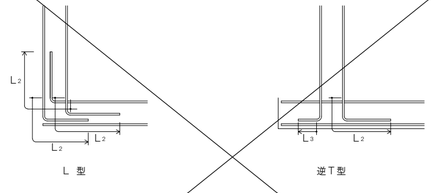


図12　擁壁の鉄筋の定着長さ

訂正	月　日	事　項		事務所登録	一級建築士事務所東京都知事登録　第22736号	設計者	一級建築士大臣登録　第339311号 構造一級建築士大臣登録　第　9542号　益子 拡	工事名称	仮称芳野市民センター新築工事	図面名称	構造関係共通図（配筋標準図・その４）	縮尺	NO SCALE	図面No.
								作成	2025 年　2 月　17 日	承認		部長	課長	担当	製図	設計No.	S-06

株式会社ユニバァサル設計
UNIVERSAL DESIGN OFFICE INC.

構造関係共通図（鉄骨標準図）

総則

1．適用範囲
（1）本構造関係共通図は鉄骨及び鉄骨鉄筋コンクリート造等における鉄骨の加工、組立の一般的な基準とする。
（2）本構造関係共通図以外については、設計図及び監督員の指示による。

2．用語の定義
（1）設計図とは、建築構造図のうち特記仕様書（構造関係）、構造関係共通図以外の図面をいう。
（2）長さ、厚さの単位は、特記なき限りmmとする。

3．優先順位
（1）設計図書間で配筋方法に相違がある場合の優先順位は以下のとおりとする。
1．特記仕様書（構造関係）
2．図面 ─ 2-1　設計図
　　└ 2-2　構造関係共通図（鉄骨標準図）
3．国土交通省大臣官房官庁営繕部監修「公共建築工事標準仕様書（建築工事編）（令和４年版）」

4．記号等
図面で使用する記号等は、表A～D、図Aを標準とする。

表A　高力ボルト径の記号

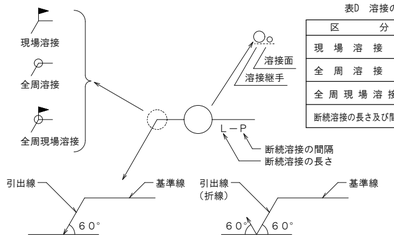
区分＼径	M12	M16	M20	M22	M24
高力ボルト（F10T、S10T）	●	●	●	●	●
溶融亜鉛めっき高力ボルト（F8T相当）	／	｜	＋	✳	✳

表B　普通ボルト径の記号

区分＼径	M12	M16	M20	M22	M24
普通ボルト	○	⦶	⊕	⊛	※

表C　溶接継手及び溶接面の分類別記号

分類			記号
溶接継手	完全溶込み溶接	突合わせ継手	B
		T型継手	T
		かど継手	L
	隅肉溶接		F
	部分溶込み溶接		P
	重ねアーク溶接（フレア溶接）		FL
溶接面	片面溶接		1
	両面溶接		2



表D　溶接の補助記号

区分	補助記号
現場溶接	⚑
全周溶接	○
全周現場溶接	⚑
断続溶接の長さ及び間隔	L－P

※特記無き限り、完全溶込溶接の溶接方法・溶接面は適切な溶接方法等による。

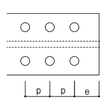
図A　溶接記号の記載例

1-1 縁端距離及びボルト間隔

（1）縁端距離及びボルト間隔
縁端距離及びボルト間隔は、表1.1による。ただし、引張材の接合部分において、せん断力を受けるボルトが応力方向に３本以上並ばない場合の縁端距離は、構造図による。構造図になければ、ボルト軸径の2.5倍以上とする。
また、アンカーボルトの縁端距離は構造図による。

表1.1　縁端距離及びボルト間隔　（単位mm）

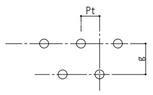
ねじの呼び	縁端距離 e	ボルト間隔 p
M12 M16 M20 M22	40	60
M24	45	70



（2）千鳥打ちのゲージ及びボルト間隔
千鳥打ちのゲージ及びボルト間隔は、表1.2による。

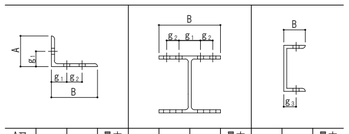
表1.2　千鳥のゲージ及びボルト間隔　（単位mm）

ゲージ g	千鳥打ちのボルト間隔 Pt ねじの呼び M12, M16, M20, M22	M24
35	50	65
40	45	60
45	40	55
50	35	50
55	25	45
60	-	40



（3）形鋼のゲージ及びボルトの最大軸径
形鋼のゲージ及びボルトの最大軸径は、表1.3による。

表1.3　形鋼のゲージ及びボルトの最大軸径　（単位mm）



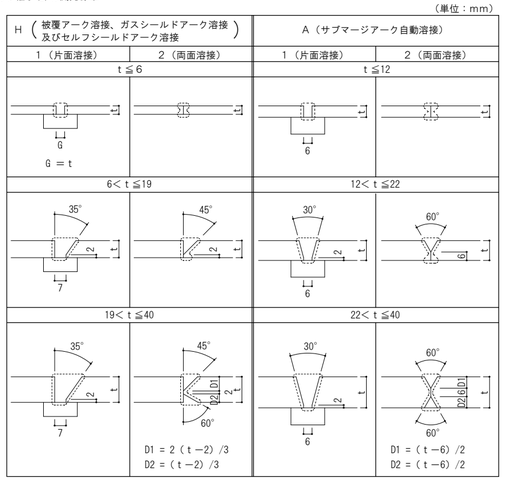
A又はB	g_1	g_2	最大軸径	B	g_1	g_2	最大軸径	B	g_3	最大軸径
45	25		12	100	56		16	50	30	12
50	28		16	125	75		16	65	35	20
60	35		16	150	90		22	70	40	20
65	35		20	175	105		22	75	40	22
70	40		20	200	120		24	80	45	22
75	40		22	250	150		24	90	50	24
80	45		22	300	150	40※1	24	100	55	24
90	50		24	350	140	70	24			
100	55		24	400	140	90	24			
125	50	35	24							
130	50	40	24							
150	55	55	24							
175	60	70	24							
200	60	90	24							

※1　千鳥打ちとした場合

1-2 溶接継手の種類別開先標準

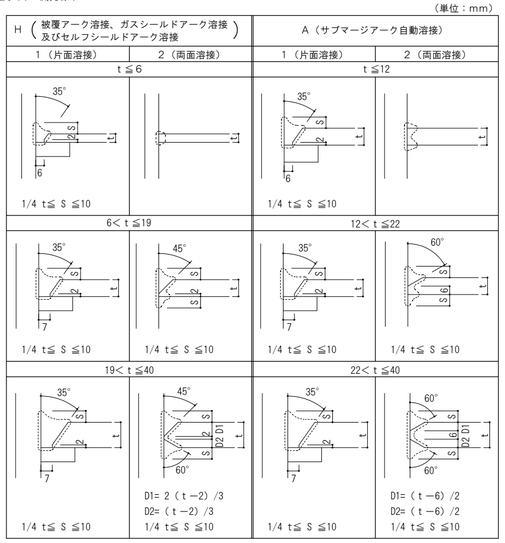
突合わせ継手(B)の開先標準

（単位：mm）


H（被覆アーク溶接、ガスシールドアーク溶接及びセルフシールドアーク溶接）
A（サブマージアーク自動溶接）
1（片面溶接）　2（両面溶接）　1（片面溶接）　2（両面溶接）
t≦6　t≦12
G = t
6＜t≦19　12＜t≦22
19＜t≦40　22＜t≦40
D1 = 2（t－2）/3
D2 =（t－2）/3
D1 =（t－6）/2
D2 =（t－6）/2

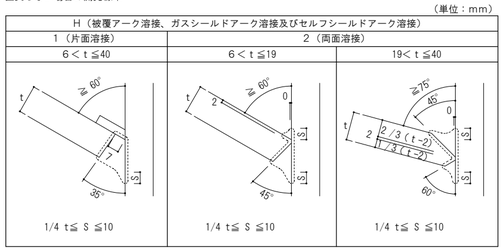
T型継手(T)の開先標準

（単位：mm）


H（被覆アーク溶接、ガスシールドアーク溶接及びセルフシールドアーク溶接）
A（サブマージアーク自動溶接）
1（片面溶接）　2（両面溶接）　1（片面溶接）　2（両面溶接）
t≦6　t≦12
1/4 t≦ S ≦10
6＜t≦19　12＜t≦22
19＜t≦40　22＜t≦40
D1= 2（t－2）/3
D2=（t－2）/3
D1=（t－6）/2
D2=（t－6）/2

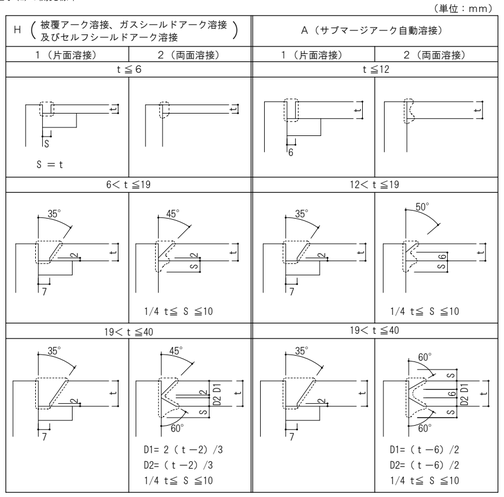
部材が直交しない場合の開先標準

（単位：mm）


H（被覆アーク溶接、ガスシールドアーク溶接及びセルフシールドアーク溶接）
1（片面溶接）　2（両面溶接）
6＜t≦40　6＜t≦19　19＜t≦40
1/4 t≦ S ≦10

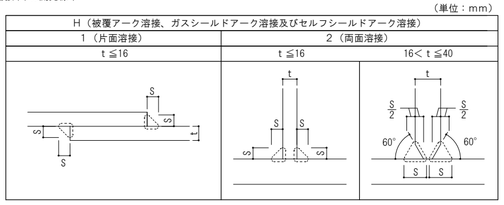
かど継手(L)の開先標準

（単位：mm）


H（被覆アーク溶接、ガスシールドアーク溶接及びセルフシールドアーク溶接）
A（サブマージアーク自動溶接）
1（片面溶接）　2（両面溶接）　1（片面溶接）　2（両面溶接）
t≦6　t≦12
S = t
6＜t≦19　12＜t≦19
1/4 t≦ S ≦10
19＜t≦40　19＜t≦40
D1= 2（t－2）/3
D2=（t－2）/3
1/4 t≦ S ≦10
D1=（t－6）/2
D2=（t－6）/2
1/4 t≦ S ≦10

隅肉溶接(F)の開先標準

（単位：mm）


H（被覆アーク溶接、ガスシールドアーク溶接及びセルフシールドアーク溶接）
1（片面溶接）　2（両面溶接）
t≦16　t≦16　16＜t≦40

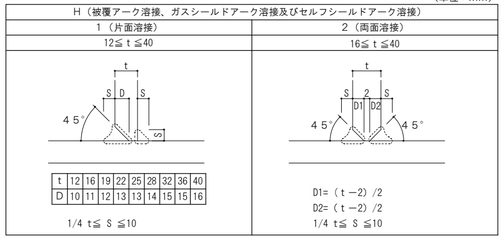
隅肉溶接のサイズ

（単位：mm）

t	4	5	6	7	8	9	10	11	12	13	14	15	16	19	22	25	28	32	36	40
s	3	4	5	5	6	7	8	8	9	10	10	11	12	11	13	15	17	19	21	24

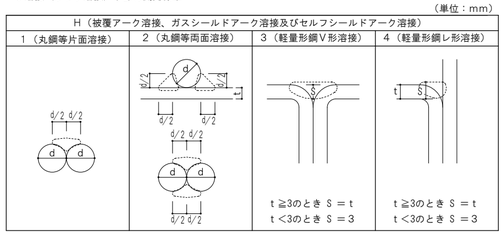
部分溶込み溶接(P)の開先標準

（単位：mm）


H（被覆アーク溶接、ガスシールドアーク溶接及びセルフシールドアーク溶接）
1（片面溶接）　2（両面溶接）
12≦t≦40　16≦t≦40
t 12 16 19 22 25 28 32 36 40
D 10 11 12 13 13 14 15 15 16
1/4 t≦ S ≦10
D1=（t－2）/2
D2=（t－2）/2
1/4 t≦ S ≦10

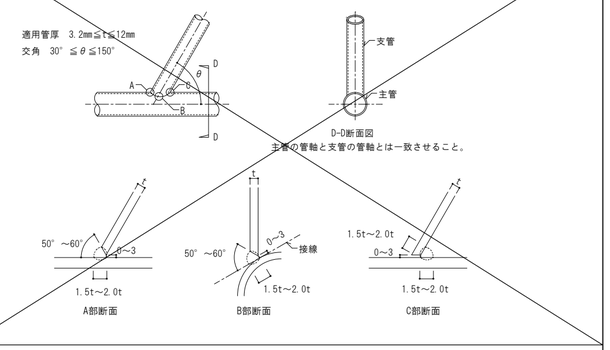
重ねアーク溶接（フレア溶接）(FL)の開先標準

（単位：mm）


H（被覆アーク溶接、ガスシールドアーク溶接及びセルフシールドアーク溶接）
1（丸鋼等片面溶接）　2（丸鋼等両面溶接）　3（軽量形鋼V形溶接）　4（軽量形鋼レ形溶接）
t≧3のとき S = t
t＜3のとき S = 3
t≧3のとき S = t
t＜3のとき S = 3

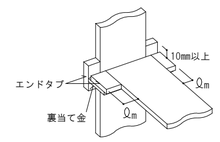
1-3 鋼管分岐継手詳細

自動機械により開先加工を行う場合はこの限りではない。　（単位：mm）


適用管厚　3.2mm≦t≦12mm
交角　30°≦θ≦150°
支管
主管
D-D断面図
主管の管軸と支管の管軸とは一致させること。
50°～60°
0～3
1.5t～2.0t
A部断面
50°～60°
0～3
接線
1.5t～2.0t
B部断面
1.5t～2.0t
0～3
1.5t～2.0t
C部断面

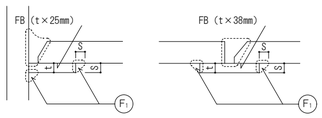
1-4 鉄骨溶接施工

（1）エンドタブ・裏当て金の鋼材の種別及び引張強さによる区分は、母材と同等とする。
（2）エンドタブ
エンドタブの形状は母材と同厚・同開先のものとする。



溶接方法	Qm
手溶接	35以上
半自動溶接	38以上
自動溶接	70以上

（3）裏当て金
（ア）裏当て金の組み立て溶接は、接合部に影響を与えないように、エンドタブの位置又は梁フランジ幅の1/4の位置に行い、梁フランジ両端から10mm以内の位置には行ってはならない。
（イ）完全溶込み溶接の片面溶接に用いる裏当て金は原則としてフランジの内側に設置する。



裏当て金の厚さ　（単位：mm）

溶接方法	t
手溶接	6以上
半自動溶接	9以上
自動溶接	12以上

溶接のサイズ　（単位：mm）

裏当て金の厚さ	S
t≦9	5
t＞9	9

訂正	月　日	事　項	

株式会社ユニバァサル設計
UNIVERSAL DESIGN OFFICE INC.

事務所登録	一級建築士事務所東京都知事登録　第22736号	設計者	一級建築士大臣登録　第339311号 構造一級建築士大臣登録　第　9542号　益子 拡

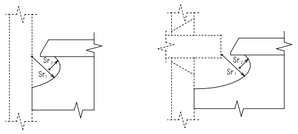
工事名称	仮称芳野市民センター新築工事	図面名称	構造関係共通図（鉄骨標準図・その１）	縮尺	NO SCALE	図面No.
作成	2025 年 2 月 17 日	承認	部長 ＿＿ 課長 ＿＿ 担当 ＿＿ 製図 ＿＿	設計No.		S-07

（4）スカラップ

改良型スカラップ

（ア）スカラップ半径Sr₁ は35㎜とする。Sr₂ は10㎜とする。

（イ）スカラップ円弧の曲線は、フランジに滑らかに接するように加工し、複合円は滑らかに仕上げる。

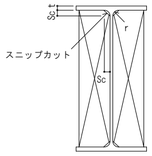


従来型スカラップ

スカラップ半径Srは35㎜とする。

（5）スニップカット

（ア）スニップカット部は溶接により埋めるものとする。

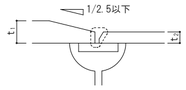


（イ）スニップカットの寸法は、下表による。ただし、既製形鋼のスニップカットについては、Sc=r＋2により求めるものとする。

t	6	9	12	16以上
Sc	10	12	14	15

（6）溶接部分の段差

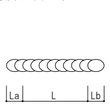
完全溶込み溶接を行う部分の板厚の差による段違いが10㎜を超える場合、又は低応力高サイクル疲労を受ける場合



1-5 重ねアーク溶接（フレア溶接）を行う場合の溶接長さ

鉄筋又は軽量形鋼に重ねアーク溶接（フレア溶接）を行う場合の溶接長さ（L）は、ビードの始点（La）及びクレーター（Lb）を除いた部分の長さとする。

L：片面フレア溶接の場合　１０ｄ
　両面フレア溶接の場合　　５ｄ
La及びLbは１ｄ（軽量形鋼については１Ｓ）以上
　ｄ：異形鉄筋の呼び名に用いた数値
　Ｓ：溶接のサイズ



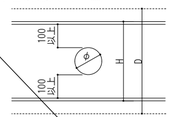
1-6 梁貫通孔補強

（1）鉄骨造及び鉄骨鉄筋コンクリート造の鉄骨梁ウェブ部材に貫通孔を設ける場合は、次による。

（ア）貫通孔の内径寸法は、鉄骨せいの1/2以下かつ鉄筋コンクリート梁せいの1/3以下とする。

（イ）貫通孔間隔は、両側の貫通孔径の平均値の、鉄骨造で 2倍以上、鉄骨鉄筋コンクリート造で 3倍以上確保する。

梁貫通孔の位置の限度（単位：mm）



H ：鉄骨せい
D ：はりせい
φ：貫通孔内径寸法
（φ≦H/2かつφ≦D/3）

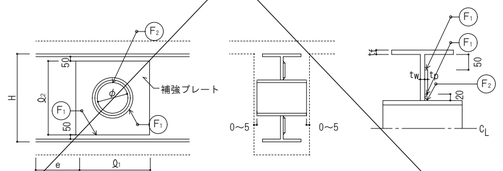
（2）貫通孔の補強方法は、構造図による。

補強プレート法及び補強トラス法の溶接等は、以下による。

補強プレート法

（ア）補強プレートが16㎜以上となる場合は、必要な長さの1/2以上の補強プレートをウェブ両面から溶接する。

（イ）補強プレートは丸型としても良い。上下フランジとのあき50㎜については施工性を考慮して小さくすることもできる。

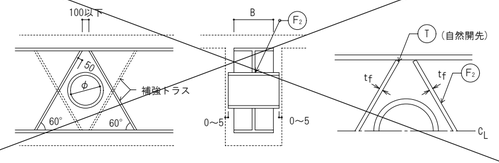


Ωtは3φまたは Ω₂のうち小さい方とする。（e≧ H とする）

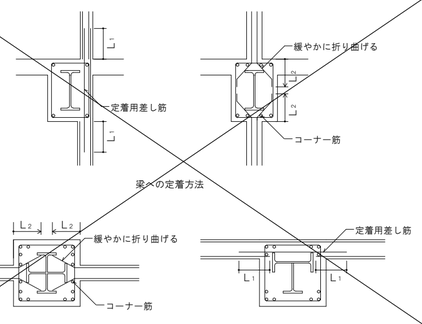
e：材端と補強プレートの間隔

補強トラス法

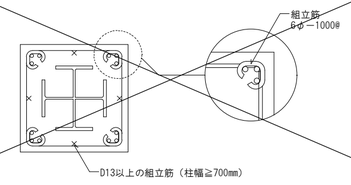
スリーブの取付けは、全周隅肉溶接とする。



1-7 壁筋の周辺部材への定着

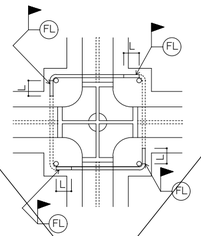


1-8 柱組立筋



1-9 仕口部内の帯筋の加工及び組立

片面溶接の溶接長さ（L）は、鉄筋の呼び名の数値の10倍以上とする。ただし、溶接によらない場合は135°曲げフックとする。



1-10 鉄筋貫通孔の径及び位置

（a）鉄筋貫通孔の径

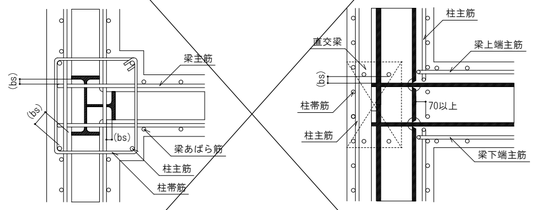
鉄筋の貫通孔径の最大値は、下表による。

（単位：mm）

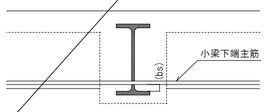
鉄筋の呼び名	D10	D13	D16	D19	D22	D25	D29	D32
鉄筋貫通孔の径	21	24	28	31	35	38	43	46

（b）鉄筋貫通孔の位置

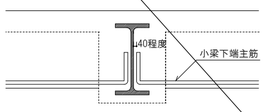
鉄骨フランジには、鉄筋貫通孔を設けないものとする。



小梁下端主筋が貫通する場合



小梁下端主筋が貫通しない場合（単位：mm）



(bs)：主筋と平行する鉄骨とのあき

1-11 広幅平鋼の取り扱いについて

（a）BH材のフランジ及びフランジに使用する外側スプライスプレートは、PL表記であっても FB又はPLとする。

（b）BH材のフランジ及びフランジに使用する外側スプライスプレートの適用幅及び厚さは下表による。

幅＼厚さ	6	9	12	16	19	22	25	28	32	36	40
100	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○
125	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○
150	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○
175	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	
200	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○
250	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○
300		○	○	○	○	○	○	○	○	○	○
350		○	○	○	○	○	○	○	○	○	○
400		○	○	○	○	○	○	○	○	○	○
450					○	○	○	○	○	○	○
500					○	○	○	○	○	○	○

1-12 普通ボルト接合

もや、胴縁類の取付け用ボルトを普通ボルト接合とする場合は、二重ナットとする。

1-13 その他

（a）フィラープレートの材質

フィラープレートを使用する場合、材質はSS400とする。

訂正	月　日	事　項		

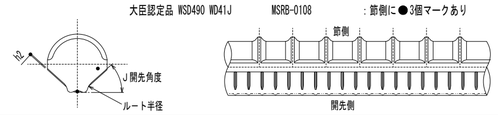
universal 株式会社ユニバァサル設計
UNIVERSAL DESIGN OFFICE INC.

事務所登録	一級建築士事務所東京都知事登録　第22736号	設計者	一級建築士大臣登録　第339311号 構造一級建築士大臣登録　第　9542号　益子 紘

工事名称	仮称芳野市民センター新築工事	図面名称	構造関係共通図（鉄骨標準図・その2）	縮尺	NO SCALE	図面No.	S-08
作成	2025 年　2 月　17 日	承認		部長　課長　担当　製図		設計No.	

1．使用材料　　大臣認定の適用範囲：SC杭、鋼管杭および外殻鋼管場所打ちコンクリート杭の杭頭鋼管

開先付き異形棒鋼 NewJ-BAR
- 大臣認定品 WSD390 WD32J、WD35J、WD38J　MSRB-0118：節側に●2個マークあり
- 大臣認定品 WSD490 WD32J、WD35J、WD38J　MSRB-0120：節側に●3個マークあり
- 大臣認定品 WSD490 WD41J　※ MSRB-0129、MSRB-0119：節側に●3個マークあり
- 大臣認定品 WSD490 WD41J　MSRB-0108　：節側に●3個マークあり

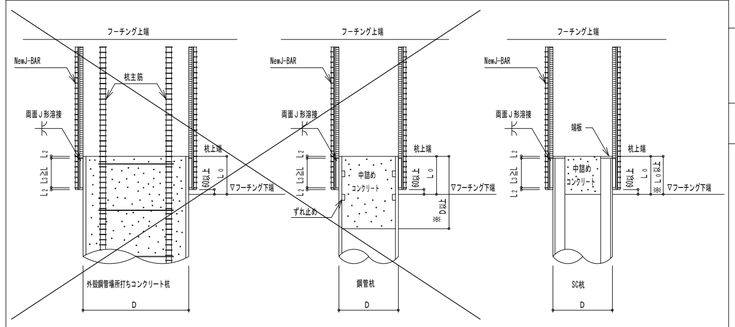


※MSRB-0129、MSRB-0119の場合
上記2認定番号を併記願います。

呼び名	種類の記号	J開先角度	J開先ルート半径	J開先　d部高さ（h2）
WD32J	WSD390（SD390相当）、WSD490（SD490相当）	42.5±2.5°	9.0±2.0	0.7±0.2
WD35J、WD38J	WSD390（SD390相当）、WSD490（SD490相当）	42.5±2.5°	9.0±2.0	0.8±0.2
WD41J	WSD490（SD490相当）	42.5±2.5°	9.0±2.0	0.9±0.2

中詰めコンクリート　フーチングコンクリートと同じ基準強度

2．杭頭部の標準納まり



製品長＝定着長+L+20mm

L　：必要溶接長さ
L0：最小埋込み深さ
L2：施工誤差吸収用空き10mm以下
L3：実際に施工された溶接長（≧L）

※　中詰めコンクリート深さは設計者により決められる、図は参考例である。
　　中詰め部に補強筋を入れる場合はその定着長により決める。

溶接細目	形式：部分溶込み溶接　開先形状：J形開先				
	杭の鋼材材質 ＼ NewJ-BAR		400N／mm²級	490N／mm²級以上	備考
鋼材材質に応じた杭鋼管等の適用板厚	WSD390	WD32J	8mm以上	6mm以上	
		WD35J	9mm以上	7mm以上	
		WD38J	10mm以上	8mm以上	
	WSD490	WD32J	8mm以上	8mm以上	
		WD35J	9mm以上		
		WD38J	10mm以上		
		WD41J	11mm以上	9mm以上	
杭頭の最小埋込み深さ L0（mm）	WSD390	WD32J	220（210）	220（210）	溶接下端にエンドタブを付ける場合は（）内数値とすることができる。 なお、外殻鋼管場所打ちコンクリート杭もこれに準ずる。
		WD35J	240（230）	240（230）	
		WD38J	240（230）	240（230）	
	WSD490	WD32J	260（250）	230（220）	
		WD35J	280（270）	260（250）	
		WD38J	280（270）	260（250）	
		WD41J	300（290）	270（260）	
NewJ-BARの製品長（mm）	WSD390	WD32J	1280（35d）	1280（35d）	（）内は付着部を示す、長さは自在に設定できる、但し付着部は下記とする。 WSD390：35d以上 WSD490：42d以上 本表に示す製品長は定着長が標準の場合を示し、基礎コンクリートの設計基準強度に応じた長さの調整ができる。
		WD35J	1410（35d）	1410（35d）	
		WD38J	1510（35d）	1510（35d）	
	WSD490	WD32J	1550（42d）	1520（42d）	
		WD35J	1690（42d）	1670（42d）	
		WD38J	1820（42d）	1800（42d）	
		WD41J	1970（42d）	1940（42d）	

基礎コンクリート強度Fcに対するNewJ-BARの直線定着	Fc21	Fc24	Fc27	Fc30	Fc33	Fc36	Fc39
WSD390	35d	33d	31d	30d	29d	28d	26d
WSD490	——	41d	39d	38d	36d	35d	33d

標準定着長はWSD390ではFc21、WSD490ではFc24を用いてRC規準17条定着（17.2）式から計算した長さであるが、基礎コンクリート強度Fcがこれより大きい場合は下記表の数値を限界値として定着長を標準定着長より短くすることができる。
但し余裕度の設定は設計者判断で行う。　　下記表以外のFcに対しても同様に行うことができる。

3．溶接方法、溶接材料及び溶接技能者

施工に関しては、指定評価機関に確認された施工要領書の抜粋であり、準拠願います。
その内容よりも性能が上回る事項の場合は、設計者判断にて採用可能とします。

溶接材料は原則的に以下の表に示された規格以上のものの内、全姿勢の溶接に適する溶接材料を使用することし、適正な保管場所に吸湿しないように保管する。

		CO2半自動溶接			被覆アーク溶接			
鋼管または鉄骨等の材質	鋼管または鉄骨等のF値	JIS Z 3312 軟鋼及び高張力鋼用マグ溶接ソリッドワイヤ	JIS Z 3313 軟鋼、高張力鋼及び低温用アーク溶接フラックス入りワイヤ　注1	溶接技能者	鋼管または鉄骨等の材質	鋼管または鉄骨等のF値	JIS Z 3211 軟鋼、高張力鋼及び低温用鋼用被覆アーク溶接棒	溶接技能者
400	235	YGW11、YGW12	T49XT1-1CA-XXX T49JXT1-1CA-XXX	・JIS Z 3841に合格した有資格者とする。資格は、立向姿勢 SA（SN）-2V（2P） SA（SN）-3V（3P）以上とする。 または ・AW検定　現場溶接資格　　類以 Ⅲ 上とする。	400	235	E4916	・JIS Z 3801に合格した有資格者とする。資格は、立向姿勢 A（N）-2V（2P） A（N）-3V（3P）以上とする。 または ・AW検定　現場溶接資格 Ⅲ 類以上とする。
490	325				490	325		
520	355	YGW18	T55XT1-1CA-XXX		520	355	E5516	
540	375				540	375		
550	385				550	385		
570	400	G57A1UCXX、G57A1CXX	T59XT1-1CA-XXX T59JXT1-1CA-XXX		570	400	E5716	
590（SA440）	440	G59A1UCXX、G59JA1UCXX G59A1CXX、G59JA1CXX			590（SA440）	440	E5916	

注記
（注1）JIS Z 3313：2009の規格について、Xは衝撃試験温度の記号、XXXは溶着金属の化学成分の記号であり、ここではいずれも指定はない。
（注2）WSD490にフラックス入りワイヤを使用する場合、拡散性水素量の規定値が5ml／100g以下のものを使用することが望ましい。
（注3）WSD490に被覆アーク溶接棒を使用する場合、拡散性水素量の規定値が5ml／100g以下のものを使用することが望ましい。

4．溶接施工

気象条件等	溶接周辺部が次のいずれかの場合は、溶接を行わない、また作業空間は、足場が堅固で十分な広さがあり、かつ溶接作業に支障をきたす鉄筋等がない状態とする。ただし、適切な防護措置（雨風対策、予熱など）を施し、監督者の了解を得た場合はこの限りではない。 1）雨天：小雨以上のとき、（降雪時を含む）は原則として溶接は行わない。また降雨・降雪後で溶接部の材片間に水分が残っている場合及び鋼板に結露が生ずる場合には、これらをガス炎などで除去し母材表面に水分が残っていないことを確認してから溶接を行う。 2）強風：被服アーク溶接では風速10m／s以上のとき、CO2半自動溶接では風速2m／s以上のときは、原則として溶接を行はない。 （「鉄骨工事技術指針・工場現場施工編」ー般社団法人日本建築学会　推奨値） 3）低気温：気温が−5℃以下のときは原則として溶接を行わない。ただし、溶接部より100mmの範囲の母材部分を、40℃以上、かつ結露が十分防止しうる温度まで加熱して溶接する場合はこの限りではない。加熱方法及び鋼種、板厚に対する標準予熱温度に関しては、「鉄骨工事技術指針・工事現場施工編」ー般社団法人日本建築学会に準ずる。
溶接施工管理者	溶接施工管理者は、溶接に関する十分な知識と経験を有し、本工事施工要領書および関連書類の内容を十分理解しているものとする。この溶接施工管理者は、本工事の溶接作業責任者とする。
溶接機器	1）CO2半自動溶接では、電源部分のほかワイヤ送給装置、溶接ヘッドまたは溶接トーチ、シールドガス用の圧力調整器、制御装置などは、実際の作業に適した性能を有するものとする。 2）アーク溶接では、使用される溶接材料に対して十分な電気容量を持ち、適正な電流を供給できるものとする。
取付け位置のマーキング	1）NewJ-BARの配列設計または均等配置等の取り付け個所の確認 2）杭1本当たりの取付本数の確認
鋼管表面及び開先内の清掃	作業所にて、鋼管の溶接面をグラインダー等で清掃する。 1）溶接に悪影響を及ぼす、水分、スラグ、ごみ、さび、油、塗料、はがれやすいミルスケール、およびその他溶接に支障となるものを除去する。ただし、ワイヤブラシが付でも取れないミルスケールなどの薄層は、溶接に支障のないかぎりは除去しなくてもよい。 2）鋼管ソイルセメント杭に杭頭溶接補強筋を溶接する場合は、溶接部の鋼管外面の突起（鋼管成形溶接の余盛等）を溶接作業に支障ない程度（NewJ-BAR溶接部のルート間隔が3mm未満となるよう）に、あらかじめ削除する。
NewJ-BARのセッティング	組立溶接に際してNewJ-BARを左右の倒れに注意して鋼管にルート間隔G≦3mmになるように固定する。
スポット溶接	組立溶接に先立ち、位置決めを目的としてスポット溶接を行うことがある。スポット溶接を実施する場合には、スポット溶接後長時間放置しないでその上に組立溶接を重ねる。
組立溶接	組立溶接はショートビードにならないように溶接長が40mm以上になるように溶接する。組立溶接は、左右のねじれが無く鋼管に隙間無く固定させるため、杭に向かって左上、右下、左下、右上の順にたすき掛けで溶接する。
本溶接の層数など	CO2半自動溶接：2層以上盛ることを原則とする。 被覆アーク溶接：初層3.2φ、上層4φで使い分けて、3~4層以上盛る。

5．検査

溶接の検査は、原則として外観目視検査とするが、特に監理者の指示のある場合は、その指示に従うこととする。検査で以下の点を確認し、不具合がある場合は補修を行う。検査の結果は施工要領書の「杭頭補強筋溶接施工検査チェックシート」に記録する。

1）のど厚寸法（h）：NewJ-BARリブ表面から0.0mm≦h≦6.0mm　直角スケール等を「溶接要領図」に示すNewJ-BARリブ表面に直角にあて、溶接部外端が内側になる場合は、のど厚不足であるため、スラグを取り除き溶着金属を補充する。

2）余盛寸法の誤差（h）：NewJ-BARリブ表面から0.0mm≦h≦6.0mm　余盛が過大である場合には、該当箇所をグラインダー等で削り、補修する。

3）溶接部およびその周辺のアンダーカット（e）：e≦0.5mm　規定値0.5mmを超えるアンダーカットは該当箇所をグラインダー等で削り、溶着金属を補修する。

4）ビードの不整、ピットおよびオーバーラップ　断面欠損を伴わない著しい不良（ビートの不整、ピット及びオーバーラップ）は、該当箇所をグラインダー等で削り、補修する。
ビードの不整の基準値：凸凹は溶接長またはビード幅25mmの範囲で4mm以下、ビード幅の不整は溶接長150mmの範囲で7mm以下
ピットの基準値：溶接長300mm当たり2箇所以下、ただしピットの大きさが1mm以下のものは、3個を1個として計算する。
オーバーラップの基準値：著しいものがあってはならない。

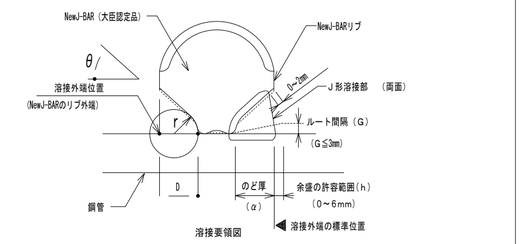
5）割れ：割れが発生している場合には、溶接部分を完全に削り取り、再溶接する。

6．NewJ-BARの配列

鉄筋の最小間隔は「鉄筋コンクリート造配筋指針・同解説（社）日本建築学会」等の規定（2.7d以上）とするが、溶接作業の施工性、基礎配筋などを考慮することによりそれ相応の間隔を確保する必要がある。一般的な溶接作業の施工性を考慮した最小芯々距離を例として示す。なお基礎梁主筋や柱主筋等と干渉しないためには十分な間隔の検討が必要となる。

配筋用参考値　WD32J：120mm以上、WD35J：125mm以上、WD38J：130mm以上、WD41J:135mm以上
（※注記：上記は配筋施工を保証した数値ではありません、事前に他の鉄筋等と干渉しないことを確認することが前提です。）
溶接作業用最小値　WD32J：100mm、WD35J：105mm、WD38J：110mm、WD41J:120mm

本溶接



溶接要領図

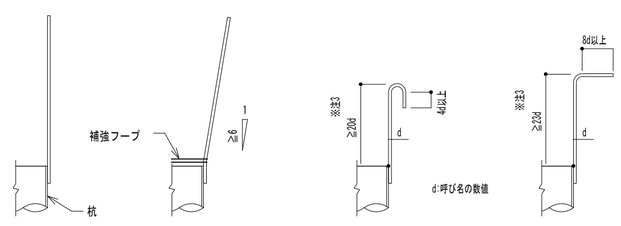
杭の鋼材材質 ＼ NewJ-BAR		400N／mm²級	490N／mm²級以上
WSD390	WD32J	140mm以上	140mm以上
	WD35J	160mm以上	160mm以上
	WD38J		
WSD490	WD32J	180mm以上	150mm以上
	WD35J	200mm以上	180mm以上
	WD38J		
	WD41J	220mm以上	190mm以上

必要溶接長さ（L）
有効溶接長+有効のど厚×2

余盛（h）
（余盛位置マークまで溶接）
NewJ-BARのリブ表面からの許容範囲（h）
0mm≦h≦6mm

有効のど厚（α）	開先深さ（D）	D≧α
WD32J　α=10mm WD35J　α=10.5mm WD38J　α=12.5mm WD41J　α=13.0mm		

7. NewJ-BARの定着形式



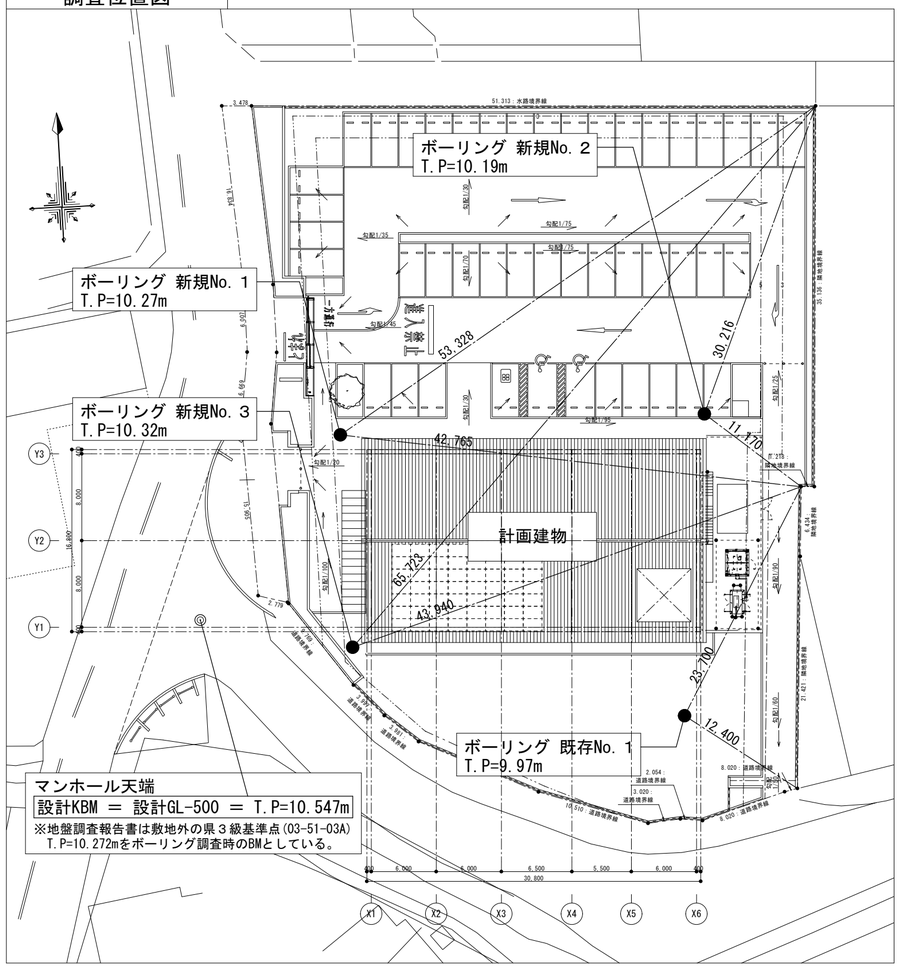
a）直線定着　b）杭頭折り曲げ　c）WSD390頭部フック　d）WSD490頭部90°フック

d:呼び名の数値

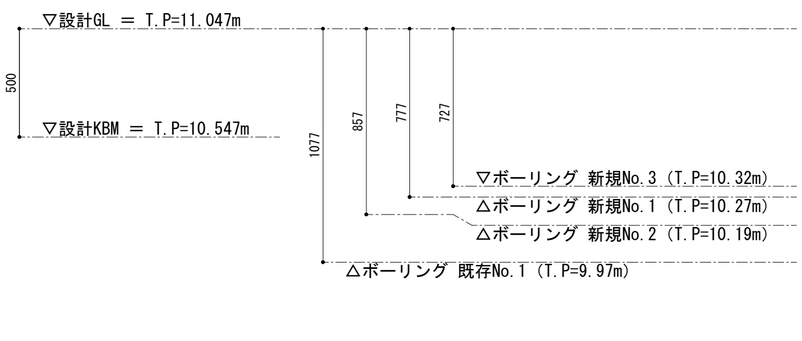
※注1 NewJ-BARの折り曲げ加工は原則としてNewJ-BAR溶接前に工場加工とする。
※注2 必要定着長さ及び標準フック仕様はRC規準またはJASS5鉄筋コンクリート工事等を参照。
※注3 上図フック付き投影定着長さはWSD390ではFc21、WSD490ではFC24を用いてRC規準17条定着（17.2）式から計算した限界値であり、柱と基礎梁との接合部形成のため余裕度の設定は設計者判断で行う。

| 訂正 | 月　日 | 事　項 | | | |

調査位置図



孔口標高レベル



ボーリング 既存No. 1

ボーリング柱状図

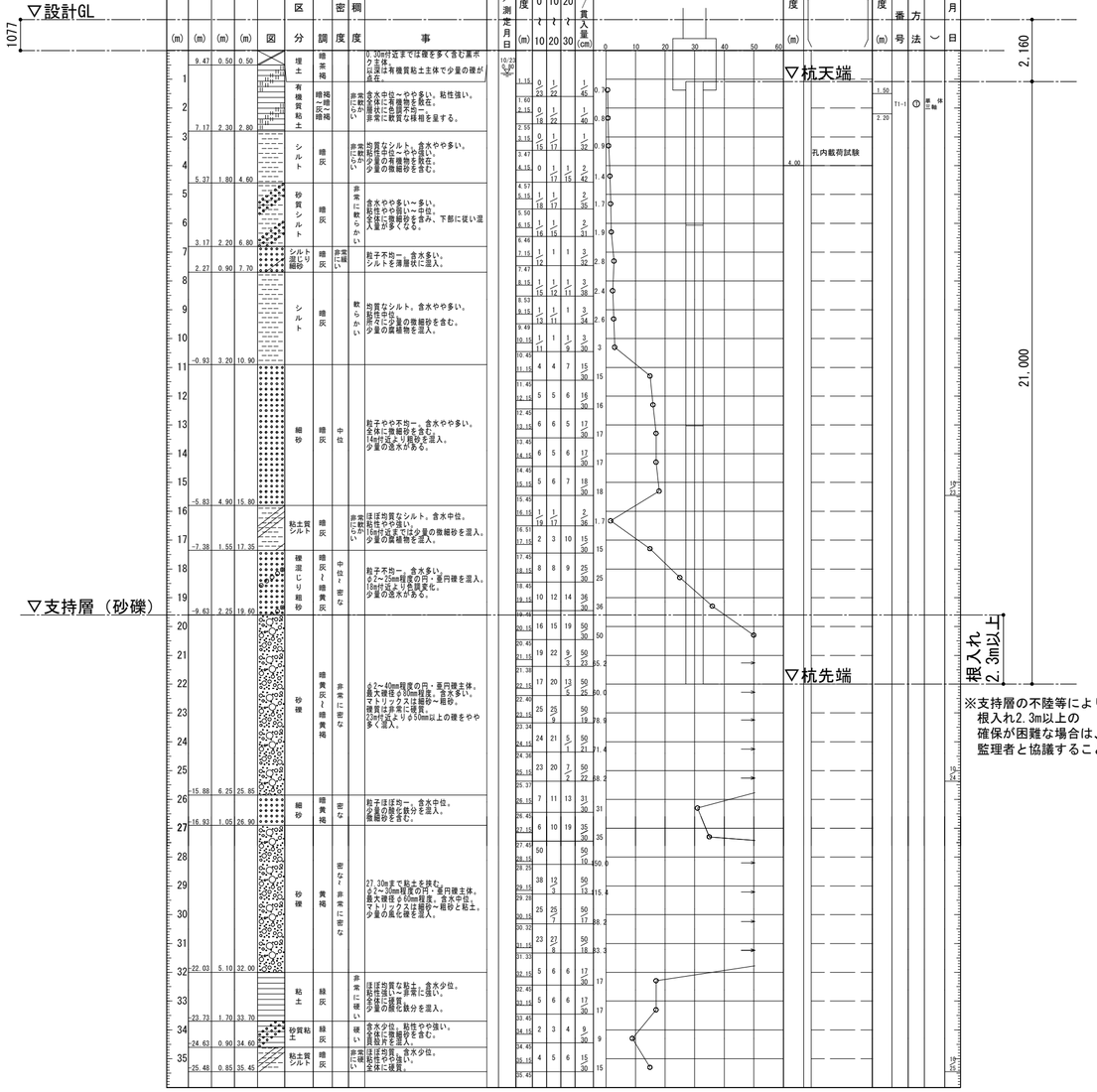
調査名　川越市芳野市民センター建設予定地地質調査業務委託

事業・工事名

ボーリングNo

シートNo

ボーリング名	No. 1	調査位置	川越市大字北田島144番1			北緯	35° 55′ 53.57″
発注機関	川越市　建設部　建築住宅課			調査期間	令和 5年 10月 23日 ～ 5年 10月 26日	東経	139° 30′ 1.22″
調査業者名	株式会社エイトプランニング 電話（049-225-2988）	主任技師	矢島豊久	現場代理人	矢島豊久	コア鑑定者	西山慎吾	ボーリング責任者	西山慎吾
孔口標高	TP= 9.97m	角度	180 上 90° 下 0°	方向	北 0° 東 90° 南 180° 西 270°	地盤勾配	水平0° 鉛直90°	使用機種	試錐機	SD-3A	ハンマー落下用具	半自動落下
総掘進長	35.45m								エンジン	SSA50CG	ポンプ	V5-P



標尺 (m)	標高 (m)	層厚 (m)	深度 (m)	柱状図	土質区分	色調	相対密度	相対稠度	記事
	9.47	0.50	0.50		埋土	暗茶褐			0.30m付近までは礫を多く含む黒ボク主体。 以深は有機質粘土主体で少量の礫が点在。
	7.17	2.30	2.80		有機質粘土	暗灰褐～暗灰	非常に軟らかい		含水中位～やや多い。粘性強い。 含水状態に色調不均一。 非常に軟弱な様相を呈する。
	5.37	1.80	4.60		シルト	暗灰	非常に軟らかい		均質なシルト。含水やや多い。 粘性中位～やや強い。 少量の有機物を散在。 少量の微細砂を含む。
	3.17	2.20	6.80		砂質シルト	暗灰	非常に軟らかい		含水やや多い～多い。 粘性やや弱い～中位。 含水状態に微細砂を含み、下部に従い混入量が多くなる。
	2.27	0.90	7.70		シルト混り細砂	暗灰	非常に緩い		粒子不均一　含水多い。 シルトを薄層に混入。
	-0.93	3.20	10.90		シルト	暗灰		軟らかい	均質なシルト。含水やや多い。 粘性中位。 含水状態に少量の微細砂を含む。 少量の黒褐物を混入。
	-5.83	4.90	15.80		細砂	暗灰	中位		粒子やや不均一　含水やや多い。 全体に微細砂を含む。 1φ付近より粗砂を混入。 少量の透水がある。
	-7.38	1.55	17.35		粘土質シルト	暗灰		非常に軟らかい	従い均質なシルト。含水中位。 粘性やや強い。 1φ付近までは少量の微細砂を混入。 少量の黒褐物を混入。
	-9.63	2.25	19.60		礫混じり細砂	暗灰～暗黄灰	中位～密な		粒子不均一　含水多い。 2～25mm程度の円・亜円礫を混入。 1φ付近より色調変化。 少量の透水がある。
	-15.88	6.25	25.85		砂礫	暗黄灰～暗黄褐	非常に密な		2～40mm程度の円・亜円礫主体。 最大礫径φ80mm程度。含水多い。 マトリックスは細砂～粗砂。 礫質は非常に硬質。 2φ付近より5φ50mm以上の礫をやや多く混入。
	-16.93	1.05	26.90		細砂	暗黄褐	密な		粒子径均一。含水中位。 少量の礫と粘分を混入。 礫細砂を含む。
	-22.03	5.10	32.00		砂礫	黄褐	密な～非常に密な		27.30mまで粘土を挟む。 2～30mm程度の円・亜円礫主体。 最大礫径φ80mm程度。含水中位。 マトリックスは細砂～粗砂と粘土。 少量の風化礫を混入。
	-23.73	1.70	33.70		粘土	緑灰	非常に硬い		従い均質な粘土。含水少位。 粘性強い。非常に強い。 全体の礫質。 少量の礫と粘分を混入。
	-24.63	0.90	34.60		砂質粘土	緑灰	硬い		含水中位。粘性やや強い。 全体に微細砂を含む。 貝殻片を混入。
	-25.48	0.85	35.45		粘土質シルト	暗灰	非常に硬い		非常に従い均質。含水少位。 粘性やや強い。 全体に硬質。

深度 (m)	10cmごとの打撃回数 0～10	10～20	20～30	打撃回数・貫入量 (cm)	N値
1.15	0 23	1 22	1 45	0.70	
1.60 2.15	0 18	1 22	1 40	0.80	
2.55 3.15	0 15	1 17	1 32	0.90	
3.47 4.15	0	1 17	1 15	2 42	1.4
4.57 5.15	1 18	1 17	2 35	1.7	
5.50 6.15	1 16	1 15	2 31	1.9	
6.46 7.15	1 12	1 1	3 32	2.8	
7.47 8.15	1 15	1 12	1 11	3 38	2.4
8.53 9.15	1 12	1 11	1 3	3 34	2.6
9.49 10.15	1 11	1 1	1 5	3 30	3
10.43 11.15	4 4	7		15 30	15
11.40 12.15	5 5	6		16 30	16
12.45 13.15	6 6	5		17 30	17
13.45 14.15	6 5	6		17 30	17
14.45 15.15	5 6	7		18 30	18
15.45 16.15	1 19	1 17		2 36	1.7
16.51 17.15	2 3	10		15 30	15
17.45 18.15	8 8	9		25 30	25
18.45 19.15	10 12	14		36 30	36
19.45 20.15	16 15	19		50 30	50
20.45 21.15	19 22	9 5		50 23	55.2
21.38 22.15	17 20	13 5		50 25	50.0
22.40 23.15	25 25	5		50 19	78.9
23.34 24.15	24 21	5 1		50 21	71.4
24.36 25.15	23 20	1 2		50 22	68.2
25.37 26.15	7 11	13		31 30	31
26.45 27.15	6 10	19		35 30	35
27.40 28.15	50			50 10	50.0
28.35 29.15	38	13 3		50 13	15.4
29.28 30.15	25	25 7		50 17	68.2
30.32 31.15	23	27 8		50 18	53.3
31.33 32.15	5 6	6		17 30	17
32.45 33.15	5 6	6		17 30	17
33.45 34.15	2 3	4		9 30	9
34.45 35.15	4 5	6		15 30	15

原位置試験

深度 (m)	試験名および結果
4.00	孔内載荷試験

試料採取

深度 (m)	試料番号	採取方法
1.50	T1-1	① 塩ビ三軸
2.20		

孔内水位(m)／測定月日	掘進月日
10/26 いず	

月　日	事　項

株式会社ユニバァサル設計
UNIVERSAL DESIGN OFFICE INC.

事務所登録	一級建築士事務所東京都知事登録　第22736号	設計者	一級建築士大臣登録　第339311号 構造一級建築士大臣登録　第　9542号　益子 拡

工事名称	仮称芳野市民センター新築工事	図面名称	ボーリング柱状図（１）	縮尺	NO SCALE	図面No.
作成 2025 年 2 月 17 日	承認	部長 課長 担当 製図		設計No.		S－１０

ボーリング 新規No. 1

ボーリング柱状図

調　査　名　川越市芳野市民センター建設予定地地質調査業務委託

事業・工事名

ボーリングNo.

ボーリング名	No. 1	調査位置	川越市大字北田島144番地1	北緯	35° 55′ 54.13″
発注機関	川越市　建設部　建築住宅課	調査期間	令和 6年 8月 8日 ～ 6年 8月 14日	東経	139° 30′ 0.02″
調査業者名	ホープ測量設計株式会社 電話（049-244-6803）	主任技師	瀧澤　慶次	現場代理人	田中　君男　コア鑑定者　田中　君男
孔口標高	T.P. +10.27m	角度	180° 上 90° 下 0° 0°	方向	北 0° 270° 90° 西 180° 南
総掘進長	27.45m	地盤勾配	水平 0° 鉛直 90° 0°	使用機種	試錐機 FUSO KR-100　ハンマー落下用具 半自動落下装置　エンジン YANMAR TF90E　ポンプ FUSO V6-D

標尺 (m)	標高 (m)	層厚 (m)	深度 (m)	柱状図	土質区分	色調	相対密度	相対稠度	記事
	9.77	0.50	0.50		埋土	暗褐			ローム質土が主体の粘性土。 硬やガラを混じる。
1					シルト	暗灰		軟らかい	粘性やや強い。 繊維質な腐植物をややタく混入する。 2.0m以深、腐植物の混入少なくなる。
2	7.52	2.25	2.75						
3	6.52	1.00	3.75		細砂	暗灰	中ぐらい		砂の粒子不均一で中砂を混じる。 少量のシルト分を混入する。 含水中位。
4	5.52	1.00	4.75		中砂	暗灰	中ぐらい		砂の粒子不均一で細砂～小礫を混じる。シルト分の混入少ない。含水やや多い。
5					細砂	暗灰	緩い～中ぐらい		砂の粒子比較的均一。 5.0m付近、粒子細かくシルト分を不規則に混入する。 7.0m以深、粒子不均一となり、中砂を混じる。 7.90～8.25m間、シルト層を挟在する。
6									
7									
8	1.47	4.05	8.80						
9					シルト	暗灰		軟らかい～中位	粘性中位。 9.0m付近、炭化した腐植物の混入が多く、有機質である。 10.0m付近、所々腐植物を混入する。 11.0m以深、比較的均質となる。
10									
11	-1.38	2.85	11.65						
12					細砂	暗灰	中ぐらい		砂の粒子比較的均一である。 少量のシルト分を混入する。 含水中位。 14.0m付近、シルト層を挟む。 15.0m以深、砂の粒子不均一となり、細砂～小礫を混じる。
13									
14									
15	-5.48	4.10	15.75						
16					粘土質シルト	暗灰		軟らかい	粘性やや強い。 所々、有機物を混入する。 17.0m付近、少量の砂を混じる。
17									
18	-8.03	2.55	18.30						
19	-9.03	1.00	19.30		細砂	暗灰			砂の粒子細かく均一である。 シルト分の混入が多い。 含水中位。
20	-10.03	1.00	20.30		砂礫	褐灰			礫はφ2～30mm程度の亜円礫～亜角礫を主体とする。礫間は細砂～粗砂主体。含水中位。
21	-10.53	0.50	20.80		細砂	褐灰			粒子不均一で小礫を混じる。
22					砂礫	暗褐灰～茶褐灰			礫はφ2～30mm程度の亜円礫～亜角礫を主体とする。 礫間は細砂～粗砂を主体とする。 所々、φ60mm～φ80mm程度の礫を混じる。 含水中位。 23.0m付近より、茶褐灰色となり、少量の粘土分を不規則に混入する。 27.0m付近、礫径細かく、含水やや多い。
23									
24									
25									
26									
27	-17.18	6.65	27.45						

孔内水位(m)／測定月日

標準貫入試験

深度 (m)	10cm ごとの打撃回数 0～10	10～20	20～30	打撃回数／貫入量 (cm)
1.15	1/30			1/30
1.45 2.15	1/18	1/14		2/32
2.47 3.15	3	3	5	11/30
3.45 4.15	5	5	4	14/30
4.45 5.15	3	3	2	8/30
5.45 6.15	3	3	4	10/30
6.45 7.15	3	4	5	12/30
7.45 8.15	2	5	6	13/30
8.45 9.15	1	2	1	4/30
9.45 10.15	1	1	1	3/30
10.45 11.15	2	2	2	6/30
11.45 12.15	4	5	4	13/30
12.45 13.15	4	3	4	11/30
13.45 14.15	4	3	7	14/30
14.45 15.15	6	7	10	23/30
15.45 16.15	1	1	1	3/30
16.45 17.15	1	2	1	4/30
17.45 18.15	3	5	4	12/30
18.45 19.15	2	3	11	16/30
19.45 20.15	12	13	13	38/30
20.45 21.15	14	22	24/8	60/28
21.45 22.15	24	15	12	51/30
22.45 23.15	15	20	19	54/30
23.45 24.15	21	19	12	52/30
24.45 25.45	23	21	16/8	60/28
25.45 26.15	15	23	15	53/30
26.45 27.15	19	20	15	54/30
27.45				

N 値

原位置試験

深度 (m)	試験名および結果
2.30	孔内水平載荷試験

試料採取

深度 (m)	試料番号	採取方法	室内試験（ ）	掘進月日
1.00	T-1	○	密度活軸	
1.80				
3.15	P-1	○	粒度	
3.45 4.15	P-2	○	粒度	
4.45 5.15	P-3	○	粒度	
5.45 6.15	P-4	○	粒度	
6.45 7.15	P-5	○	粒度	
7.45 8.15	P-6	○	粒度	
8.45				
12.15	P-7	○	粒度	
12.45 13.15	P-8	○	粒度	
13.45 14.15	P-9	○	粒度	
14.45 15.15	P-10	○	粒度	
15.45				
18.30 18.45	P-11	○	粒度	

▽設計GL　777

▽支持層（砂礫）

▽杭天端

▽杭先端

2,160

21,000

根入れ 2.3m以上

※支持層の不陸等により根入れ2.3m以上の確保が困難な場合は、監理者と協議すること。

ボーリング 新規No. 2

ボーリング柱状図

調　査　名　川越市芳野市民センター建設予定地地質調査業務委託

事業・工事名

ボーリングNo.

ボーリング名	No. 2	調査位置	川越市大字北田島144番地1	北緯	35° 55′ 54.16″
発注機関	川越市　建設部　建築住宅課	調査期間	令和 6年 8月 21日 ～ 6年 8月 26日	東経	139° 30′ 1.39″
調査業者名	ホープ測量設計株式会社 電話（049-244-6803）	主任技師	瀧澤　慶次	現場代理人	田中　君男　コア鑑定者　田中　君男
孔口標高	T.P. +10.19m	角度	180° 上 90° 下 0° 0°	方向	北 0° 270° 90° 西 180° 南
総掘進長	29.45m	地盤勾配	水平 0° 鉛直 90° 0°	使用機種	試錐機 FUSO KR-100　ハンマー落下用具 半自動落下装置　エンジン YANMAR TF90E　ポンプ FUSO V6-D

標尺 (m)	標高 (m)	層厚 (m)	深度 (m)	柱状図	土質区分	色調	相対密度	相対稠度	記事
	9.79	0.40	0.40		埋土	暗褐			ローム質土が主体の粘性土。 硬やガラを混じる。
1					シルト	暗灰		軟らかい	粘性やや強い。 所々、繊維質な腐植物を混入する。 3.0m付近、粘性強い。
2									
3	6.44	3.35	3.75						
4					砂混じりシルト	暗灰		軟らかい	粘性中位。 全体的に細砂を混入し、部分的に砂質状を呈す。 腐植物を点在する。 比較的均質である。
5	4.39	2.05	5.80						
6					細砂	暗灰	緩い		砂の粒子細かく均一である。 シルト分を不規則にやや多く混じる。含水中位。
7	3.49	0.90	6.70		砂混じりシルト	暗灰		軟らかい	粘性中位。 全体的に細砂を混入し、砂質状を呈す。
8	2.44	1.05	7.75						
9					細砂	暗灰	中ぐらい		砂の粒子不均一であり、中砂を混じる。 少量のシルト分を不規則に混じる。 含水中位。
10	0.49	1.95	9.70						
11	-1.36	1.85	11.55		有機質シルト	暗灰		軟らかい	粘性中位。 炭化した腐植物の混入が多く有機質である。 11.0m付近、有機物を多く混入する。
12					シルト混じり細砂	暗灰	中ぐらい		砂の粒子比較的均一である。 シルトを不規則に挟在する。 含水中位。
13	-3.41	2.05	13.60						
14					砂混じりシルト	暗灰		中位	粘性中位。 細砂を不規則に多く混入し、砂質状を呈す。
15	-5.61	2.20	15.80						
16	-6.41	0.80	16.60		細砂	暗灰	中ぐらい		比較的均一である。 少量のシルトを混じる。 含水中位。
17	-7.51	1.10	17.70		シルト	暗灰		中位	粘性中位。 砂をレンズ状に挟む。 炭化物を点在する。
18					細砂	暗灰	中ぐらい		砂の粒子不均一で、少量の中砂を混じる。 シルト分を不規則に混入する。 含水中位。 18.15～18.25m間シルト層を挟む。
19	-9.36	1.85	19.55						
20					砂礫	暗灰～褐灰	中ぐらい～非常に密な		礫はφ2～30mm程度の亜円礫～亜角礫を主体とする。 礫間は細砂～粗砂を主体とする。 少量の粘土分を混入する。 含水中位。 所々、φ60～80mmの礫を混じる。 21.0m以深、褐灰色となる。 24.0m付近より、粘土分を不規則に混入し、含水やや多くなる。 24.60m付近、φ80mm程度のチャート礫を点在する。
21									
22									
23									
24									
25	-15.16	5.80	25.35						
26	-15.51	0.35	25.70		粘土	茶褐灰			粘性中位。砂分を混じる。
27	-16.61	1.10	26.80		シルト質細砂	褐灰	密な		砂の粒子細かく均一。 シルトを不規則に混入あるいは挟在する。含水中位。
28					硬質シルト	暗灰～青灰	硬い～非常に硬い		粘性中位。 全体的に細砂の混入が多く砂質状を呈す。 少量のスコリアおよび浮石を混入する。雲母片を点在する。 28.0m以深、青灰色となる。
29	-18.61	2.00	28.80						
	-19.26	0.65	29.45		砂礫	褐灰	非常に密な		φ2～30mmの亜円礫～亜角礫主体。 礫間は不均一な砂主体。含水中位。

孔内水位(m)／測定月日

標準貫入試験

深度 (m)	10cm ごとの打撃回数 0～10	10～20	20～30	打撃回数／貫入量 (cm)
1.15	1/32			1/32
1.47 2.15	1/35			1/35
2.50 3.15	1/30			1/30
3.45 4.15	1/20	1/15		2/35
4.50 5.15	1/20	1		2/30
5.45 6.15	2	2	2	6/30
6.45 7.15	1/20	1		2/30
7.45 8.15	5	6	9	20/30
8.45 9.15	10	10	8	28/30
9.45 10.15	1	1	1	3/30
10.45 11.15	1	2	1	4/30
11.45 12.15	6	8	12	26/30
12.45 13.15	5	6	10	21/30
13.45 14.15	1	2	1	4/30
14.45 15.15	1	2	2	5/30
15.45 16.15	6	9	8	23/30
16.45 17.15	1	2	1	4/30
17.45 18.15	6	5	8	19/30
18.45 19.15	6	7	7	20/30
19.45 20.15	9	7	7	23/30
20.45 21.15	21	18	14	53/30
21.45 22.15	16	17	18	51/30
22.45 23.15	39	21/6		60/16
23.31 24.15	15	17	19	51/30
24.45 25.15	24	18	10	52/30
25.45 26.15	9	10	13	32/30
26.45 27.15	3	4	6	13/30
27.45 28.15	6	9	10	25/30
28.45 29.15	19	20	21	60/30
29.45				

N 値

原位置試験

深度 (m)	試験名および結果
2.50	孔内水平載荷試験

試料採取

深度 (m)	試料番号	採取方法	室内試験（ ）	掘進月日
1.00	T-1	○	密度活軸	
1.80				

▽設計GL　857

▽支持層（砂礫）

▽杭天端

▽杭先端

2,160

21,000

根入れ 2.3m以上

※支持層の不陸等により根入れ2.3m以上の確保が困難な場合は、監理者と協議すること。

訂正	月日	事項		

株式会社ユニバァサル設計
UNIVERSAL DESIGN OFFICE INC.

事務所登録	一級建築士事務所東京都知事登録　第22736号	設計者	一級建築士大臣登録　第339311号 構造一級建築士大臣登録　第 9542号　益子 拡

工事名称	仮称芳野市民センター新築工事	図面名称	ボーリング柱状図（2）	縮尺	NO SCALE	図面No.
作成	2025 年 2 月 17 日	部長 ＿＿ 課長 ＿＿ 担当 ＿＿ 製図 ＿＿		設計No.		S-11

ボーリング 新規No. 3

ボーリング柱状図

調　査　名　川越市芳野市民センター建設予定地地質調査業務委託

事業・工事名

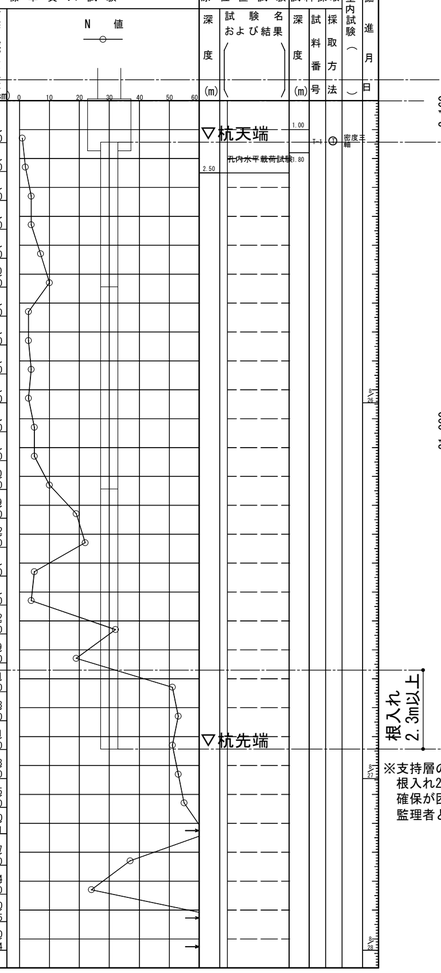
ボーリングNo.

シート No.

ボーリング名	No. 3	調査位置	川越市大字北田島144番地1	北緯	35° 55′ 53.69″
発注機関	川越市　建設部　建築住宅課	調査期間	令和 6年 8月 26日 ～ 6年 8月 29日	東経	139° 30′ 0.00″
調査業者名	ホープ測量設計株式会社 電話（049-244-6803）	主任技師	瀧澤　慶次	現場代理人	田中　君男
				口ア鑑定者	田中　君男
				ボリング責任者	赤岩　佑亮
孔口標高	T.P. +10.32m	角度	180° 上 90° 下 0° 0°	方向	北 0° 270° 90° 西 東 180° 南
地盤勾配	水平 0° 鉛直 90° 0°	使用機種	試錐機	FUSO KR-100	ハンマー落下用具	半自動落下装置
			エンジン	YANMAR TF90E	ポンプ	FUSO V6-D
総掘進長	29.39m				

標尺 (m)	標高 (m)	層厚 (m)	深度 (m)	柱状図	土質区分	色調	相対密度	相対稠度	記事
	9.92	0.40	0.40		埋土	暗褐			ローム質土が主体の粘性土。 硬やガラの混入が多い。
1	8.42	1.50	1.90		シルト	暗灰		軟らかい	粘性やや強い。 茶褐色を混じる。 少量の腐植物を混入する。
2	6.72	1.70	3.60		砂混じりシルト	暗灰		軟らかい	粘性中位。 細砂を不規則に多く混入する。 2.0m付近、繊維質な腐植物をやや多く混入する。 3.0m以深、砂の混入が多くなる。
4	3.57	3.15	6.75		細砂	暗灰	緩い		砂の粒子細かく均一である。 シルト 分を不規則にやや多く混入する。 含水中位。 6.0m以深、砂の粒子細くなり、細砂が主体である。
7	1.52	2.05	8.80		砂混じりシルト	暗灰		軟らかい	粘性中位。 微細砂を多く混入し、砂質状を呈す。 8.0m以深、砂の混入が少なくなる。
9	-0.33	1.85	10.65		有機質シルト	暗灰		軟らかい	粘性中位。 炭化した腐植物を多く混入し、有機質である。 黒灰色を多く混じる。
11	-1.43	1.10	11.75		シルト	暗灰		中位	粘性中位。 所々、繊維質な腐植物を混入する。
12	-5.48	4.05	15.80		細砂	暗灰	緩い～中ぐらい		砂の粒子比較的均一である。 シルト 分を不規則に混入する。 含水中位。 14.0m以深、シルト 分の混入が少なくなる。
16	-7.53	2.05	17.85		砂混じりシルト	暗灰		中位	粘性中位。 所々、砂を混入する。 比較的均質である。 有機物を点在する。
18	-8.23	0.70	18.55		砂礫	暗灰	密な		φ2～30mm程度の亜円礫～亜角礫が主体。礫間は細砂主体。 シルト 分少ない。含水中位。
19	-9.38	1.15	19.70		細砂	暗灰	ぐらい		粒子不均一で中砂を混じる。 小礫を点在する。浮石を混じる。
20	-16.18	6.80	26.50		砂礫	暗灰～暗褐灰	非常に密な～密な		礫はφ2～30mm程度の亜円礫～亜角礫が主体。 礫間は粒子不均一な砂が主体である。 シルト 分の混入少ない。 層上部は細礫が主体である。 含水中位。 所々、φ60～80mm程度の礫が混じる。 21.0m以深、褐灰色となり、φ30mm程度の礫の混入が多くなる。 25.0m以深、暗褐灰色となる。
27	-17.93	1.75	28.25		硬質シルト	暗灰		非常に硬い	粘性やや強い。 砂を不規則に混じる。 小礫を点在する。 少量のスコリアを混入する。
29	-19.07	1.14	29.39		粘土混じり砂礫	黄褐灰	非常に密な		φ2～30mm程度の亜円礫～亜角礫が主体。礫間は粘土混じり砂が主体で、層上部は粘土分多い。 含水中位。

孔内水位(m)／測定月日	深度 (m)	10cmごとの打撃回数 0～10	10～20	20～30	打撃回数／貫入量 (cm)
8/26	1.15	1/30			1/30
	1.45 2.15	1/15	1/15		2/30
	2.45 3.15	1	2	1	4/30
	3.45 4.15	1	1	2	4/30
	4.45 5.15	2	2	3	7/30
	5.45 6.15	3	3	4	10/30
	6.45 7.15	1	1	1	3/30
	7.45 8.15	1	1	1	3/30
	8.45 9.15	1	2	1	4/30
	9.45 10.15	1	1	1	3/30
	10.45 11.15	1	2	2	5/30
	11.45 12.15	1	2	2	5/30
	12.45 13.15	3	3	4	10/30
	13.45 14.15	4	6	9	19/30
	14.45 15.15	6	7	9	22/30
	15.45 16.15	2	1	2	5/30
	16.45 17.15	2	1	1	4/30
	17.45 18.15	12	10	10	32/30
	18.45 19.15	4	7	8	19/30
	19.45 20.15	25	17	9	51/30
	20.45 21.15	20	18	15	53/30
	21.45 22.15	24	13	14	51/30
	22.45 23.15	18	15	20	53/30
	23.45 24.15	16	14	25	55/30
	24.45 25.15	28	30	2/1	60/21
	25.36 26.15	12	10	15	37/30
	26.45 27.15	5	12	7	24/30
	27.45 28.15	7	29	24/5	60/25
	28.40 29.15	18	27	15/4	60/24
	29.39				



原位置試験 深度 (m)	試験名および結果
2.50	孔内水平載荷試験

試料採取 深度 (m)	試料番号	採取方法	室内試験（ ）	掘進月日
1.00	1-1	○	密度三軸	
0.80				

▽設計GL　727

▽支持層（砂礫）

▽杭天端

▽杭先端

2,160

21,000

根入れ 2.3m以上

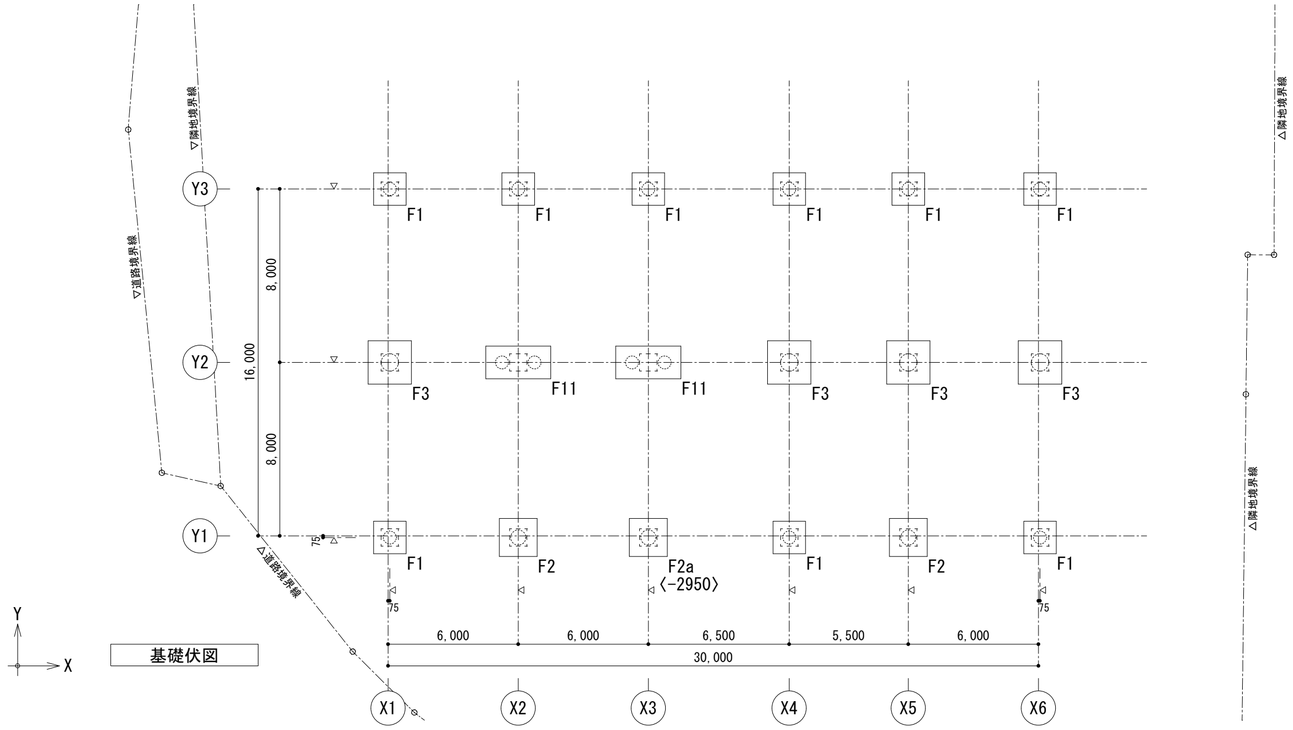
※支持層の不陸等により根入れ2.3m以上の確保が困難な場合は、監理者と協議すること。

訂正	月日	事項

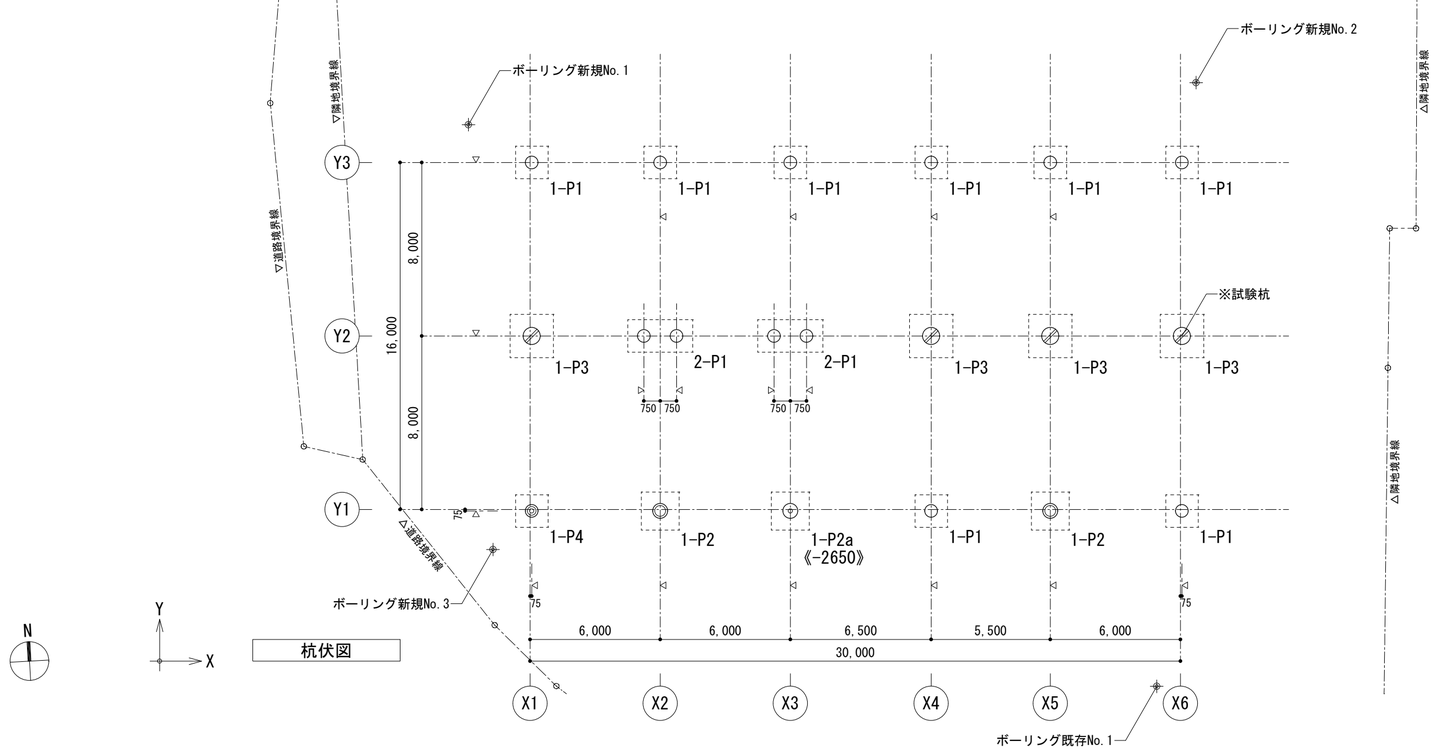
株式会社ユニバァサル設計
UNIVERSAL DESIGN OFFICE INC.

事務所登録	一級建築士事務所東京都知事登録　第22736号	設計者	一級建築士大臣登録　第339311号 構造一級建築士大臣登録　第　9542号　益子 拡

工事名称	仮称芳野市民センター新築工事	図面名称	ボーリング柱状図（3）	縮尺	NO SCALE	図面No.
作成	2025 年 2 月 17 日	部長	課長	担当	製図	設計No.
承認						S-12



基礎伏図



杭伏図

共通事項

特記なき限り下記とする。

＜杭・基礎伏図＞

1) 杭天端 = 設計GL-2160
　・《　》内の数値は設計GLからの杭天端を示す。
2) フーチング下端 = 設計GL-2460
　・〈　〉内の数値は設計GLからのフーチング下端を示す。
3) ・　▽　は杭芯・基礎芯を示す。
4) 「※試験杭」（1ヶ所）は本杭にて行うものとする。

杭明細

杭仕様
- 杭種類　ー　既製コンクリート杭
- 工　法　ー　Hyper-ストレート工法
- 杭先端　ー　設計GL-23.16～-23.65m以深
- 支持層　ー　砂礫層

注意事項
- 杭施工前に敷地内にて試掘を行い、地盤性状の確認をするとともに、根固め部の未固結試料を採取し、強度試験を行うこと。
- 試験杭を実施し、支持層を確認すること。
- 支持層深度が想定と異なる場合は、監理者に報告し、対応を協議すること。
- 杭の現場継手は、無溶接継手の認定工法とする。（トリプルプレートジョイント）
- 支持層（砂礫層）の出現すぐはN値が低い地盤が確認されることから、安全のため根入れ2.3m以上を確保すること。困難な場合は監理者と協議すること。
- 施工後は杭芯位置を計測し、監理者に報告すること。また、必要に応じて基礎・基礎梁等の補強を行うこと。

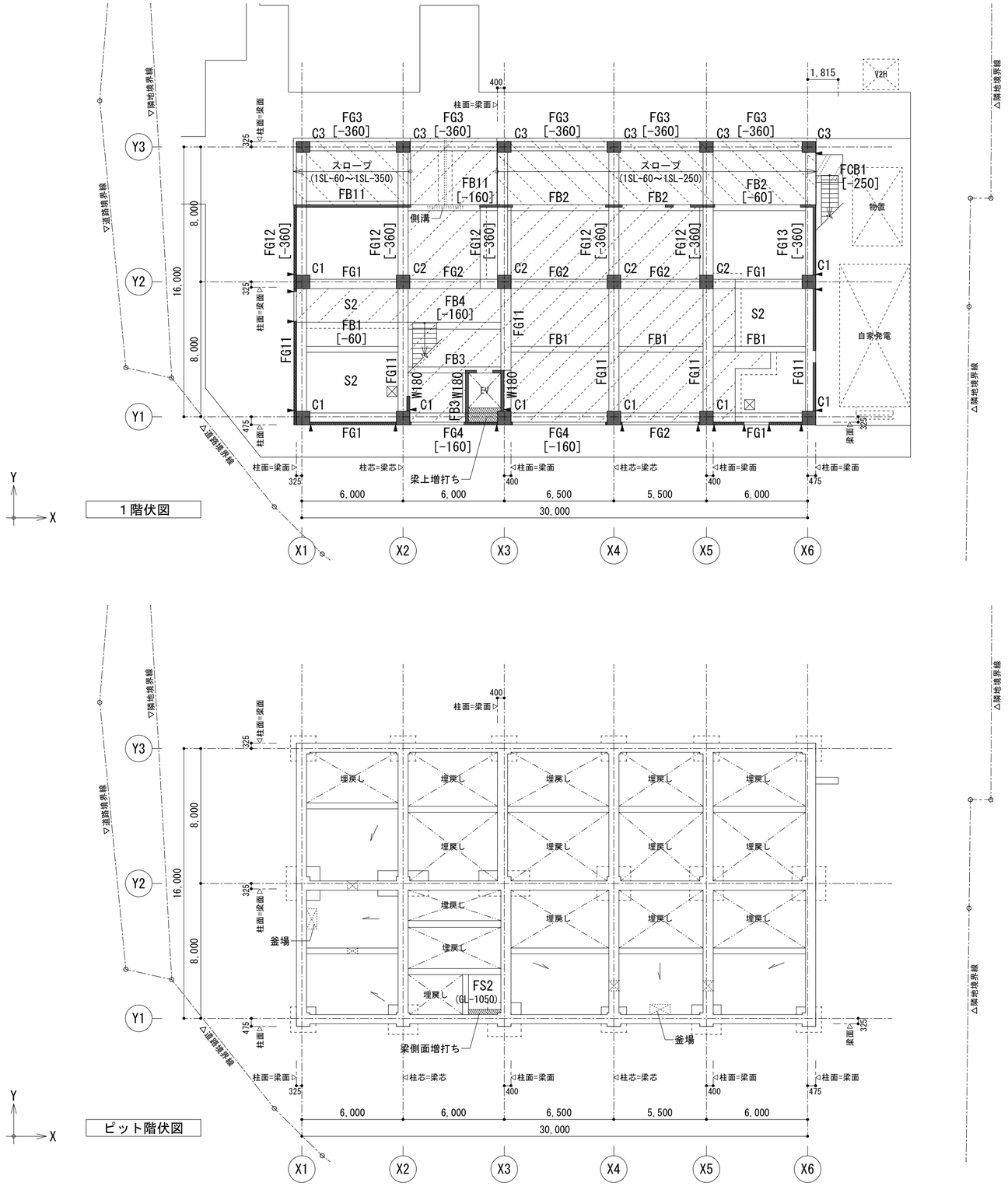
符号	杭記号	杭径 - 杭種	杭全長(m)	杭本数	長期許容支持力(kN/本)
P1	○	φ600 - SC	21.0	12	1733
P2	◎	φ700 - SC	21.0	2	2275
P2a	⊙	φ700 - SC	21.0	1	2342
P3	⊘	φ800 - SC	21.0	4	2889
P4	◎	φ600 - SC	21.0	1	1733
			合計	20	

訂正	月 日	事 項

株式会社ユニバァサル設計
UNIVERSAL DESIGN OFFICE INC.

事務所登録	一級建築士事務所東京都知事登録 第22736号	設計者	一級建築士大臣登録 第339311号 構造一級建築士大臣登録 第 9542号 益子 拡

工事名称	仮称芳野市民センター新築工事	図面名称	伏図（1）	縮尺	A2:1/200	図面No.	S-13
作成	2025 年 2 月 17 日	承認		部長 ＿ 課長 ＿ 担当 ＿ 製図 ＿		設計No.	



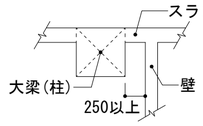
1階伏図

共通事項

特記なき限り下記とする。

＜1階伏図＞

1) 1SL = 設計GL+200 = 1FL±0
2) 基礎梁天端 = 1SL-60
   ・小梁天端レベルはスラブ天端とする。
   ・[ ] 内の数値は1SLからの基礎梁・小梁天端を示す。
3) スラブ天端 = 1SL±0
   ・スラブ符号は S1 とする。
   ・ は主筋方向を示す。
   ・ は段差スラブ補強位置を示す。
   ・ は床位置 1SL-60 を示す。
   ・ は床位置 1SL-60～1SL-250(-350) を示す。
   ・スラブ下げ範囲の詳細は意匠図による。
   ・ は土間スラブ（t=150）を示す。
   ※建物外周部の土間スラブは外構工事とする。
4) 壁符号は W150 とする。
   ・ は構造スリット（鉛直）を示す。
5) スラブ・梁天端のレベル差は、梁上増打ちとする。
   ・ は柱側面増打ちを示す。
   ・ は梁側面増打ちを示す。
6) 同一部材で屋内外となる梁・スラブ・壁は全て屋外としてかぶり厚を確保すること。
7) ☒ は床開口を示す。（寸法は意匠図による）
8) 柱及び梁において、クリアランス250mm以上を確保できる箇所は増打ちをせずに箱抜きとすること。



9) エレベーター・階段の詳細は各部詳細図による。

ピット階伏図

共通事項

特記なき限り下記とする。

＜ピット階伏図＞

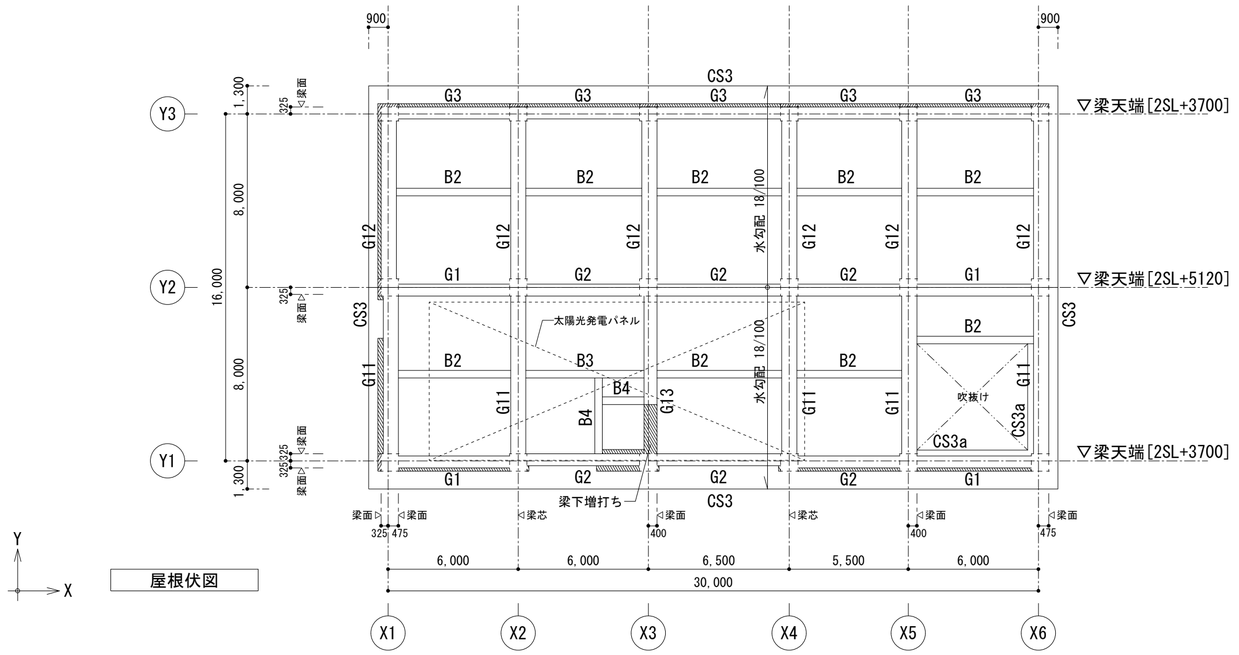
1) 基礎梁下端 = 設計GL-1960
2) ピットスラブ天端 = 設計GL-1610 とする。
   ・ピットスラブ符号は FS1 とする。
   ・( ) 内の数値は設計GLからのスラブ天端を示す。
3) スラブ・梁天端のレベル差は、梁上増打ちとする。
4) ☒ は人通孔 600φ を示す。

訂正	月 日	事項		

株式会社ユニバァサル設計
UNIVERSAL DESIGN OFFICE INC.

事務所登録	一級建築士事務所東京都知事登録 第22736号	設計者	一級建築士大臣登録 第339311号 構造一級建築士大臣登録 第 9542号 益子 拡

工事名称	仮称芳野市民センター新築工事	図面名称	伏図（2）	縮尺	A2:1/200	図面No.	S-14
作成	2025 年 2 月 17 日	承認		部長 課長 担当 製図		設計No.	



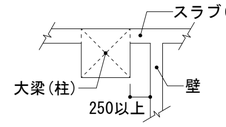
屋根伏図

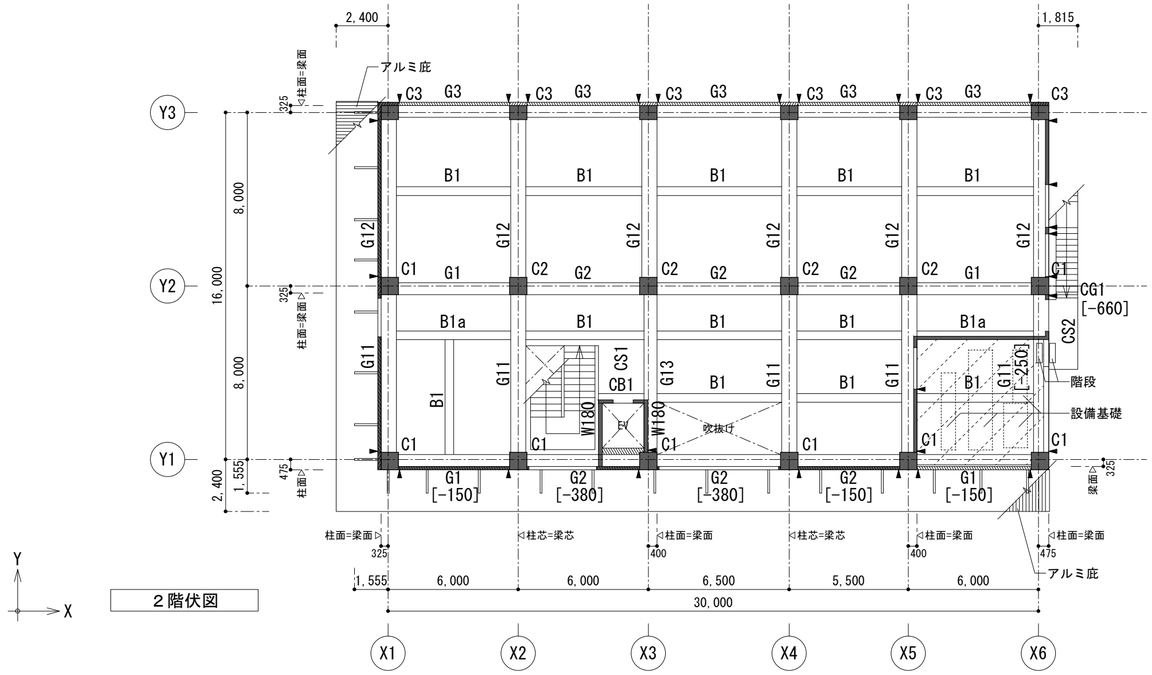
共通事項

特記なき限り下記とする。

＜屋根伏図＞

1) RSL = 2FL+3720(水下)～2FL+5220(水上)
2) 大梁天端 = RSL-20(水下)～RSL-100(水上)
   ・小梁天端レベルはスラブ天端とする。
   ・[ ] 内の数値は2SLからの大梁・小梁天端を示す。
3) スラブ天端(躯体) = RSL-10 (スラブ躯体上10㎜ふかし)
   ・スラブ符号は S3 とする。
   ・ ⇋ は主筋方向を示す。
4) スラブ・梁天端のレベル差は、梁上増打ちとする。
   ・ ▨ は柱側面増打ちを示す。
   ・ ▨ は梁側面増打ちを示す。
5) 同一部材で屋内外となる梁・スラブ・壁は全て屋外とし てかぶり厚を確保すること。
6) 柱及び梁において、クリアランス250㎜以上を確保できる 箇所は増打ちをせずに箱抜きとすること。





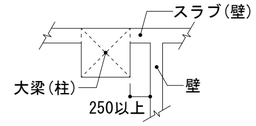
２階伏図

共通事項

特記なき限り下記とする。

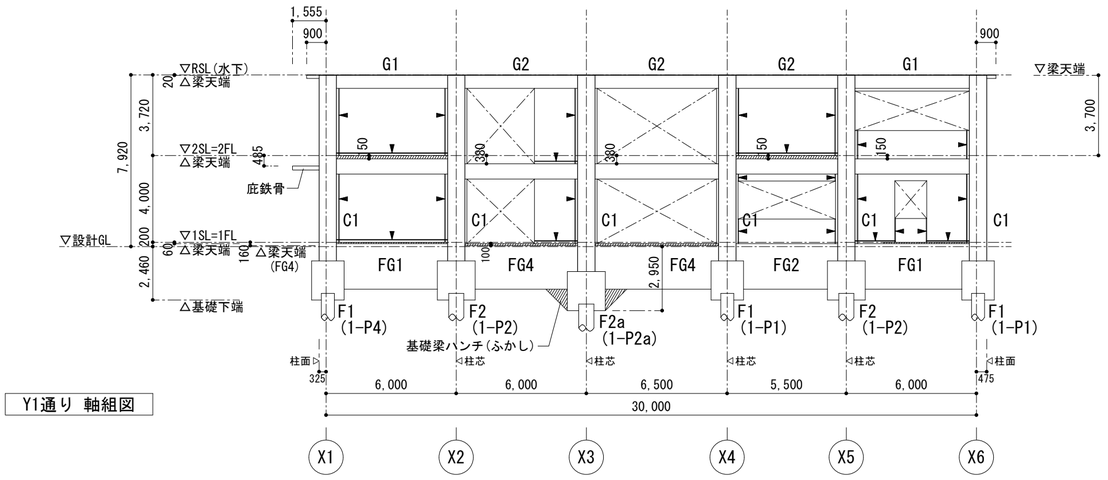
＜２階伏図＞

1) 2SL = 2FL±0
2) 大梁天端 = 2SL±0
   ・小梁天端レベルはスラブ天端とする。
   ・[ ] 内の数値は2SLからの大梁・小梁天端を示す。
3) スラブ天端 = 2SL±0
   ・スラブ符号は S1 とする。
   ・ ⇋ は主筋方向を示す。
   ・ ▨ は床位置 2SL-150 を示す。
4) 壁符号は W150 とする。
   ・ ▲ は構造スリット（鉛直）を示す。
5) スラブ・梁天端のレベル差は、梁上増打ちとする。
   ・ ▨ は柱側面増打ちを示す。
   ・ ▨ は梁側面増打ちを示す。
6) 同一部材で屋内外となる梁・スラブ・壁は全て屋外とし てかぶり厚を確保すること。
7) 柱及び梁において、クリアランス250㎜以上を確保できる 箇所は増打ちをせずに箱抜きとすること。

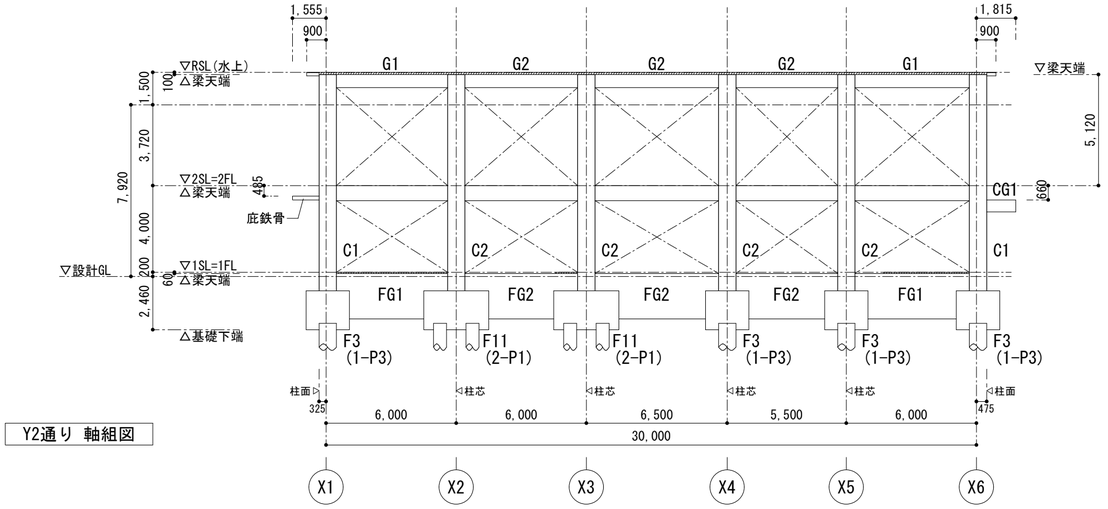


8) エレベーター・階段・庇の詳細は各部詳細図による。

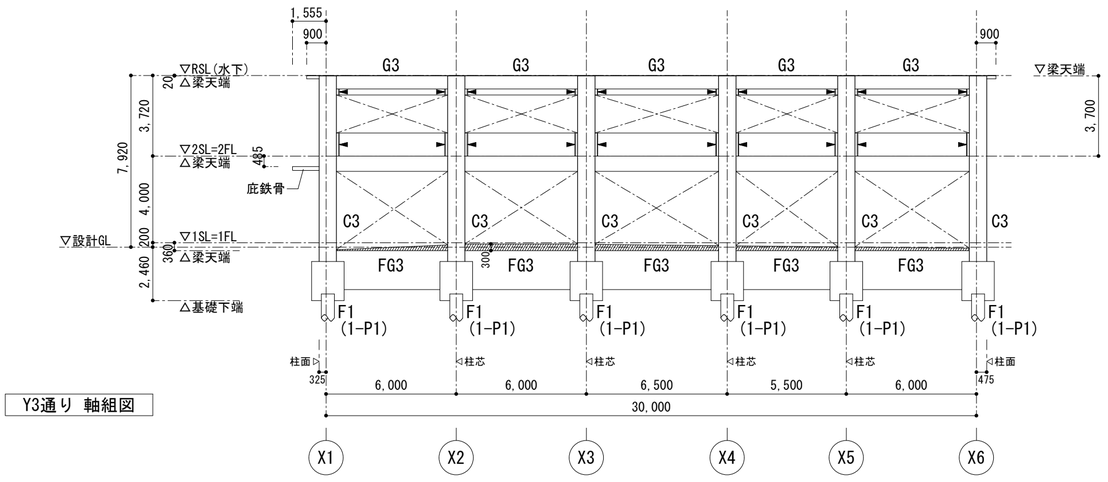
訂正	月 日	事 項		株式会社ユニバァサル設計 UNIVERSAL DESIGN OFFICE INC.	事務所登録	一級建築士事務所東京都知事登録 第22736号	設計者	一級建築士大臣登録 第339311号 構造一級建築士大臣登録 第 9542号 益子 拡	工事名称	仮称芳野市民センター新築工事	図面名称	伏図（３）	縮尺	A2:1/200	図面No.	S-１５
									作成	2025 年 2 月 17 日	承認		部長	課長	担当	製図	設計No.	



Y1通り 軸組図



Y2通り 軸組図



Y3通り 軸組図

共通事項

特記なき限り下記とする。

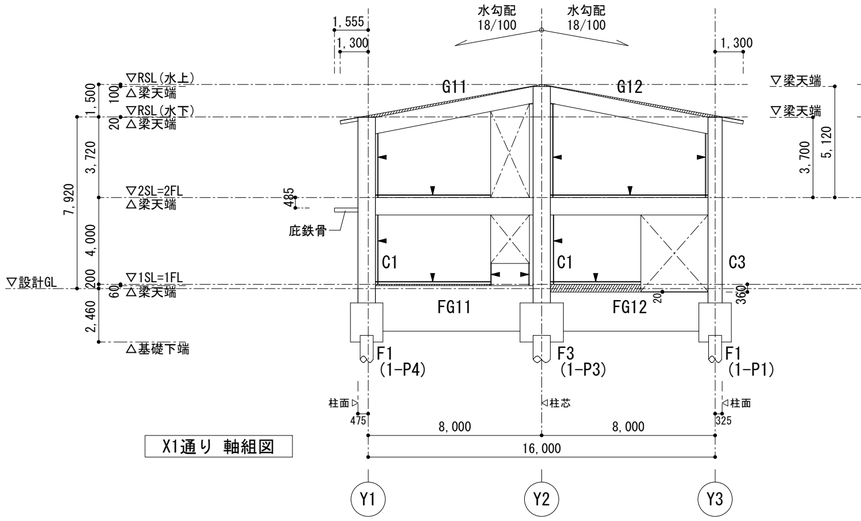
1) 柱符号は下階にならう。
2) 梁符号は上階にならう。
3) 壁符号は W150 とする。
4) ▼ は構造スリットを示す。
5) ▨ 梁上・柱上増打ち（ふかし）を示す。
6) コンクリート強度は Fc=33 とする。

訂正	月 日	事 項		

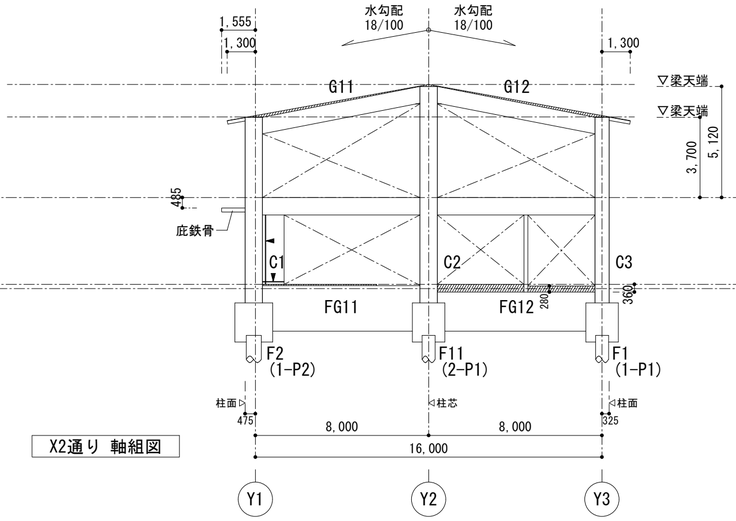
株式会社ユニバァサル設計
UNIVERSAL DESIGN OFFICE INC.

事務所登録	一級建築士事務所東京都知事登録 第22736号	設計者	一級建築士大臣登録 第339311号 構造一級建築士大臣登録 第 9542号 益子 拡

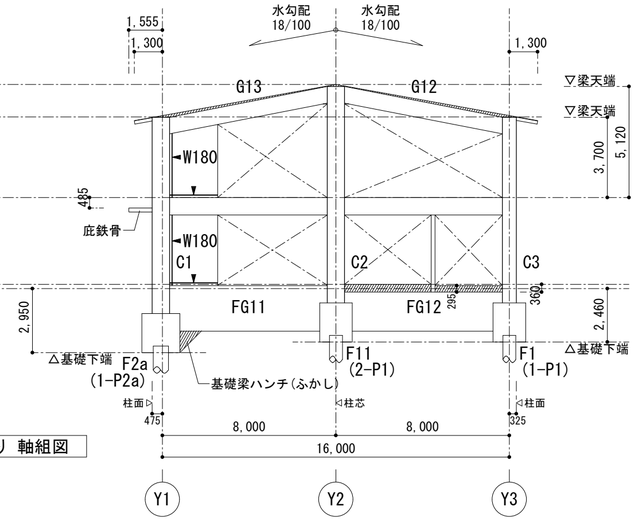
工事名称	仮称芳野市民センター新築工事	図面名称	軸組図（1）	縮尺	A2:1/200	図面No.
作成 2025 年 2 月 17 日	承認	部長	課長 担当 製図	設計No.		S-16



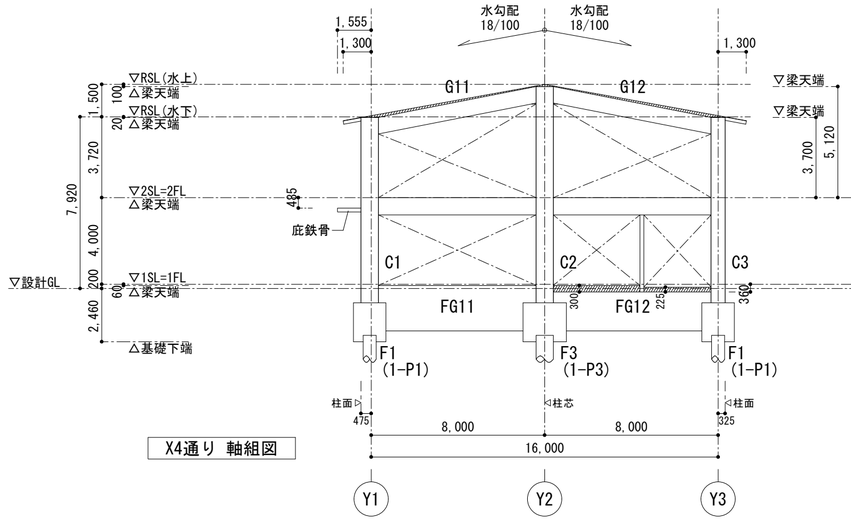
X1通り 軸組図



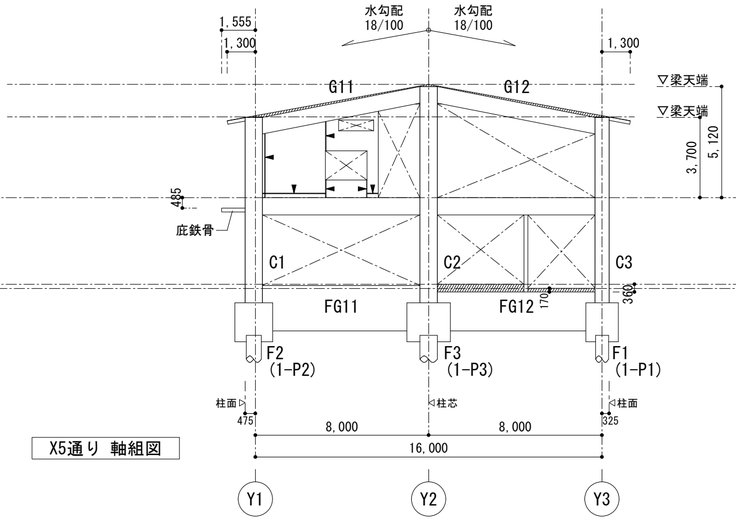
X2通り 軸組図



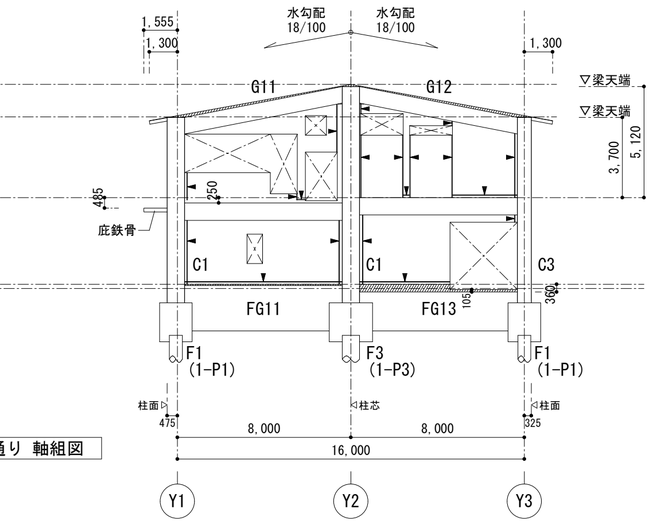
X3通り 軸組図



X4通り 軸組図



X5通り 軸組図



X6通り 軸組図

共通事項

特記なき限り下記とする。

1) 柱符号は下階にならう。
2) 梁符号は上階にならう。
3) 壁符号は W150 とする。
4) ▼ は構造スリットを示す。
5) ▨ 梁上・柱上増打ち（ふかし）を示す。
6) コンクリート強度は Fc=33 とする。

訂正	月 日	事 項														

株式会社ユニバァサル設計
UNIVERSAL DESIGN OFFICE INC.

事務所登録	一級建築士事務所東京都知事登録 第22736号	設計者	一級建築士大臣登録 第339311号 構造一級建築士大臣登録 第 9542号 益子 拡	工事名称	仮称芳野市民センター新築工事	図面名称	軸組図（2）	縮尺	A2:1/200	図面No.	S-17
				作成	2025 年 2 月 17 日	承認	部長 課長 担当 製図	設計No.			

杭リスト

符　号	杭径（mm）	杭種別		杭長（m）	杭全長（m）	杭本数	杭継手	杭頭補強筋 NewJ-BAR（WSD390）			
								本数	溶接長	定着長	製品長
P1	600φ	上杭	105HiSC t12(SSK490)	5.0	21.0	12本	TPJ継手	10-WD38J	160mm 以上	1260mm 以上	1440mm
		中杭	105PHC B	7.0							
		下杭	105PHC A	9.0							
P2，P2a	700φ	上杭	105HiSC t12(SSK490)	5.0	21.0	2本，1本	TPJ継手	12-WD38J	160mm 以上	1260mm 以上	1440mm
		中杭	105PHC B	7.0							
		下杭	105PHC A	9.0							
P3	800φ	上杭	105HiSC t12(SSK490)	5.0	21.0	4本	TPJ継手	14-WD38J	160mm 以上	1260mm 以上	1440mm
		中杭	105PHC A	7.0							
		下杭	105PHC A	9.0							
P4	600φ	上杭	105HiSC t12(SSK490)	5.0	21.0	1本	TPJ継手	10-WD38J	160mm 以上	1260mm 以上	1440mm
		中杭	105PHC B	7.0							
		下杭	105PHC B	9.0							
					合計	20本					

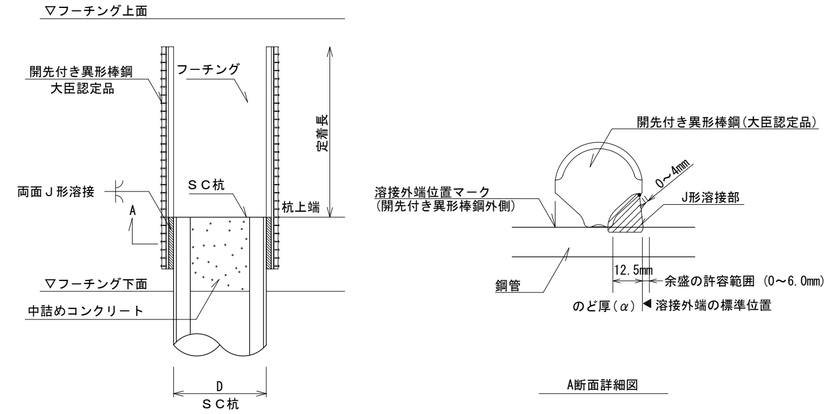
※TPJ継手：無溶接トリプルプレートジョイント

共通事項

特記無き限り下記とする。

1) 杭工法　Hyper-ストレート工法とする。（大臣認定番号 TACP-0405）
2) 杭継手　無溶接継手トリプルプレートジョイントとする。（BCJ評定-FD0183-08）
3) 支持層（砂礫層）の出現すぐはN値が低い地盤が確認されることから、安全のため根入れ2.3m以上を確保すること。困難な場合は監理者と協議すること。
4) 施工後は、杭芯位置を計測し監理者に報告すること。
5) 杭施工前に敷地内にて試掘を行い地盤性状の確認をすると共に、根固め部の未固結試料を採取し、強度試験を行うこと。

杭頭補強標準詳細図（ＮｅｗＪ-ＢＡＲ）



基礎リスト

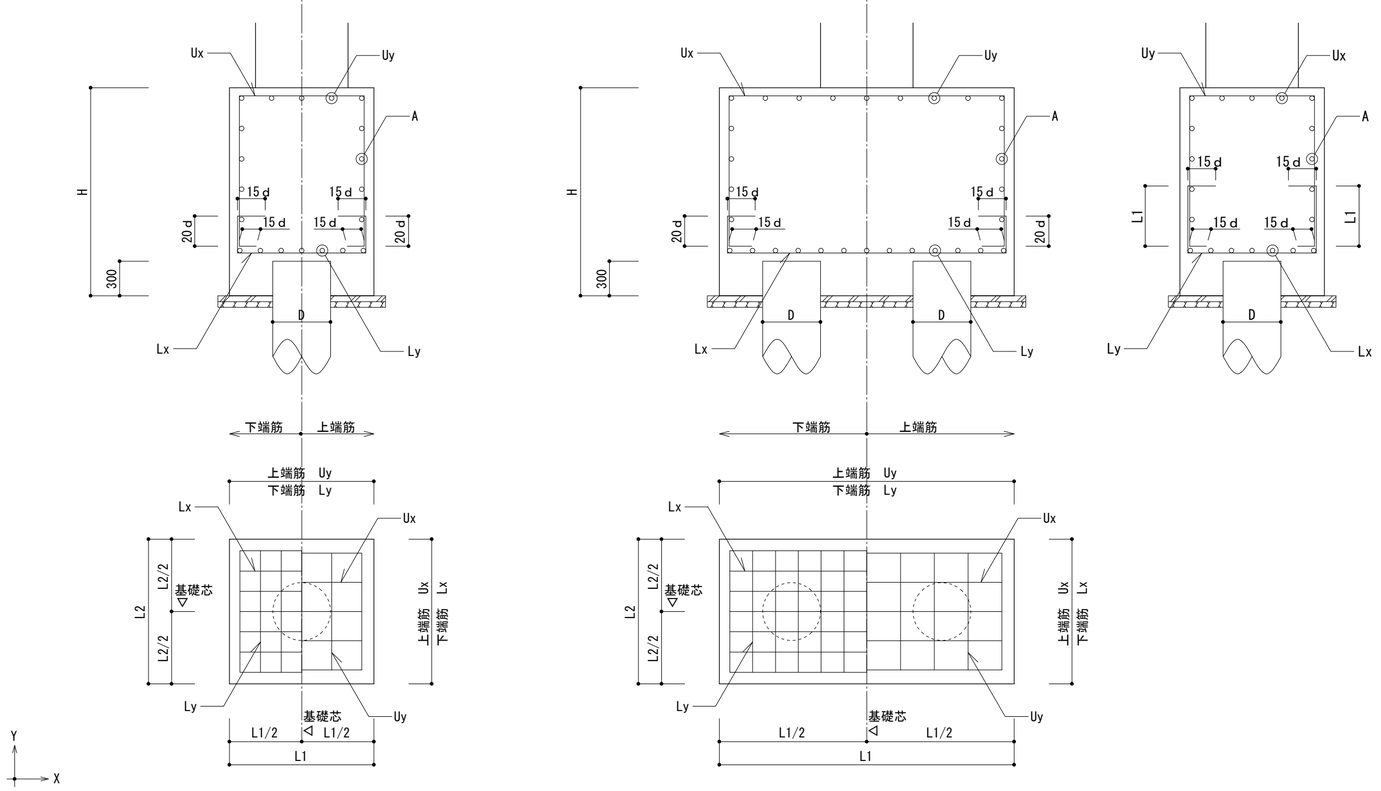
符　号	杭　径 D	TYPE	基礎サイズ			上端筋		下端筋		腹筋
			L1	L2	H	Ux	Uy	Lx	Ly	A
F1	600φ	Ⅰ	1500	1500	1800	D13@300	D13@300	D16@200	D16@200	D13@300
F2，F2a	700φ	Ⅰ	1750	1750	1800	D13@300	D13@300	D16@200	D16@200	D13@300
F3	800φ	Ⅰ	2000	2000	1800	D13@300	D13@300	D16@200	D16@200	D13@300
F11	600φ	Ⅱ	3000	1500	1800	15-D16	┌┐-D16@100	15-D19	└┘-D16@100	D16@100

共通事項

特記無き限り下記とする。

1) 杭の施工偏心があった場合は監理者と協議し、必要な場合は補強等の対応を行うこと。
2) 基礎配筋の継手は施工性を考慮し、重ね継手としてよい。

※基礎と杭芯の関係については伏図による。

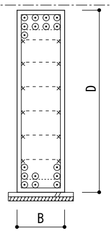
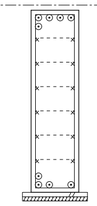
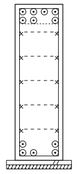
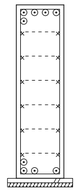
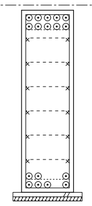
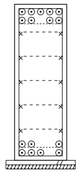
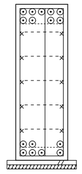


鉄　筋
- ▨ SD295 ：D10 － D16
- ▨ SD345 ：D19 － D25
- □ SD390 ：D29 －

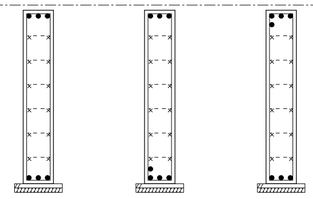
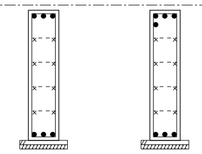
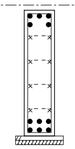
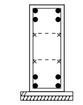
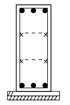
訂正	月．日	事　項		事務所登録	一級建築士事務所東京都知事登録　第22736号	設計者	一級建築士大臣登録　第339311号 構造一級建築士大臣登録　第　9542号　益子 拡	工事名称	仮称芳野市民センター新築工事	図面名称	杭・基礎リスト	縮尺	A2:1/50	図面No.	S－18
								作成	2025 年　2 月　17 日	承認		部長	課長	担当	製図	設計No.	

universal 株式会社ユニバァサル設計
UNIVERSAL DESIGN OFFICE INC.

基礎梁リスト　S=1/50

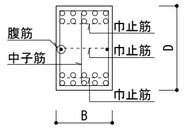
符号	FG1	FG2	FG3	FG4	FG11	FG12	FG13
位置	全断面	全断面	全断面	全断面	全断面	全断面	全断面
断面							
B x D	550x2100	550x2100	550x1800	550x2000	600x2100	600x1800	600x1800
上端筋	9-D25	5-D25	7-D25	5-D25	10-D25	9-D25	9-D25
下端筋	8-D25	4-D25	5-D25	4-D25	7-D25	7-D25	7-D25
スタラップ	□-D13@200	□-D13@200	□-D13@200	□-D13@200	□-D13@200	□-D13@200	□-D13@200
腹筋	12-D13	12-D13	10-D13	12-D13	10-D13	10-D13	10-D13
備考							FCB1受け

基礎小梁リスト　S=1/40

符号	FB1 [FB11]			FB2		FB3	FB4	FCB1
位置	他端	中央	連続端	他端・中央	連続端	全断面	全断面	全断面
断面	 ※[ ]内の断面寸法はFB11を示す							
B x D	350x2000 [1700]			350x1500		350x1450	400x1000	400x1000
上端筋	3-D19	3-D19	4-D19	3-D19	4-D19	5-D19	4-D19	3-D19
下端筋	3-D19	4-D19	3-D19	3-D19	3-D19	6-D19	4-D19	3-D19
スタラップ	□-D13@200			□-D13@200		□-D13@200	□-D13@150	□-D13@150
腹筋	12-D13			8-D13		8-D13	4-D13	4-D13
備考							S階段受け	RC階段受け

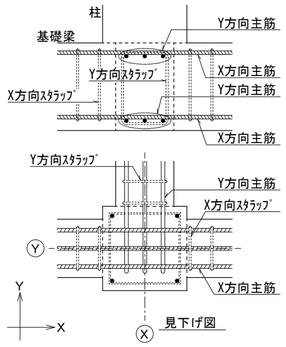
共通事項　※特記無き限り下記とする。

1) 巾止筋D10@1000以内とする。

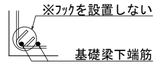


2) 地業：土に接する梁の地業は下記とする。
捨てコンクリート　(ア)　50
砕石　(ア)　100

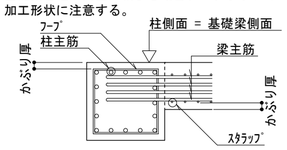
3) 基礎梁主筋の上下関係に注意すること。
・スタラップ形状に注意する。
・ただし、逆梁等、直交の梁主筋と干渉しない時はこの限りではない。



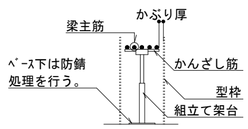
4) 基礎梁のスタラップは下端筋位置にはフックを設置しないこと。



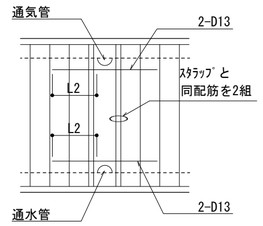
5) 基礎梁と柱が同面に納まる場合、スタラップの加工形状に注意する。



6) 鉄筋組立て架台を使用する際は、かんざし筋のかぶり厚に注意すること。組立架台のベース下は防錆処理を施すこと。

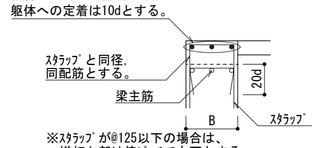


7) ピット部の基礎梁に通水管を設置する場合は、下記のように補強筋を設置すること。



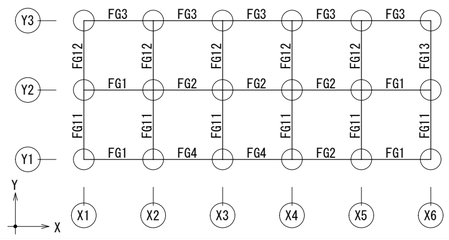
8) 梁上増打ち部は、下記とする。
ただし、増打ち100mm以下は補強不要とする。

軸筋：D19@200(基礎梁)
軸筋：D16@200(基礎小梁)
躯体への定着は10dとする。

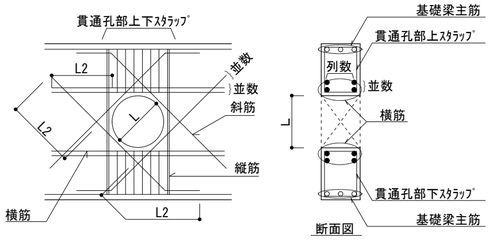


※スタラップが@125以下の場合は、
増打ち部は倍ピッチでも可とする。

基礎梁キープラン



人通孔開口補強要領図



貫通孔部上下スタラップ：設計スタラップと同径・同本数　@100(設計ピッチ以下)

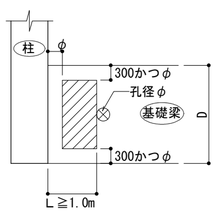
※表記は　鉄筋方向：鉄筋組数-並数-列数-鉄筋径　を示す。

符号	縦筋	横筋	斜筋	貫通孔部スタラップ	L
FG1,FG11	2-2-(2) □-D13	2-1-2-D16	4-2-D22	2-(2) □-D13@100	600
FB1	2-2-(2) □-D13	2-1-2-D16	4-2-D19	2-(2) □-D13@100	600

梁貫通孔補強要領図

基礎階（1階床梁含）
・水平位置について
　・梁貫通孔は、柱面から1m以内に設けてはならない。
　　ただし、▨の範囲は、孔径φがD/10以下（Dは梁せい）かつ150mm未満であれば設けてもよい。
・鉛直位置について
　・梁面から300mmかつ孔径φ以上を原則とすること。
　　ただし、▨の範囲は、孔径φがD/10以下（Dは梁せい）かつ150mm未満であれば設けてもよい。
　・100mm未満の貫通孔を鉛直方向に連続させる場合は設計者または監理者と協議すること。
・上記が困難な場合は設計者または監理者と協議すること。

・孔径φがD/10以上、もしくは150mm以上の場合は全て補強すること。
　ただし、▨の範囲に設けた場合は孔径φに関わらず全て補強すること。
・既製品（認定取得品）を使用するときは監理者に確認すること。（リング型またはプレート型とする）



鉄　筋
▨ SD295　：D10 - D16
▨ SD345　：D19 - D25
▨ SD390　：D29 -

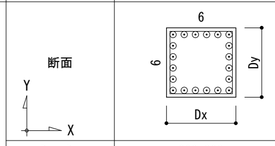
訂正	月　日	事　項		

株式会社ユニバァサル設計
UNIVERSAL DESIGN OFFICE INC.

事務所登録	一級建築士事務所東京都知事登録　第22736号	設計者	一級建築士大臣登録　第339311号 構造一級建築士大臣登録　第　9542号　益子 拡

工事名称	仮称芳野市民センター新築工事	図面名称	基礎梁・基礎小梁リスト	縮尺	A2:1/50	図面No.	S-19
作成	2025 年　2 月　17 日	承認		部長　課長　担当　製図		設計No.	

柱リスト　S=1/50

階	符号	C1	C2	C3
2	断面			
	Dx×Dy	800x800	800x800	800x650
	主筋	20-D25	20-D25	18-D25
	フープ	□ -D13@100	□ -D13@100	□ -D13@100
	備考			
1	断面			
	Dx×Dy	800x800	800x800	800x650
	主筋	20-D25	22-D25	18-D25
	フープ	□ -D13@100	◫ -D13@100	□ -D13@100
	備考			

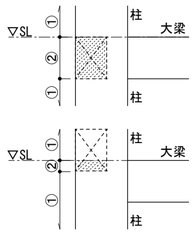
共通事項　※特記無き限り下記とする。

1) フープ筋は全階タガ型とする。

2) 仕口部フープは □-D13@100 とする。

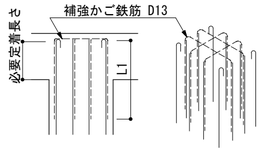
3) 仕口部フープ範囲は下記とする。

①：フープ範囲
②：仕口部フープ範囲

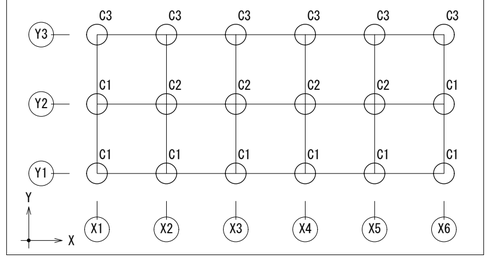


4) 柱頭主筋の必要定着長さは、直線定着550mm以上とし、大梁上端筋の上まで配筋すること。

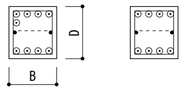
5) 柱頭部には補強かご鉄筋を配筋する。
柱頭主筋の必要定着長さが確保できない場合は補強かご鉄筋を柱主筋と同径とすること。



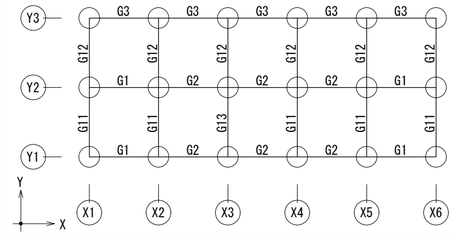
柱キープラン



大梁リスト　S=1/50

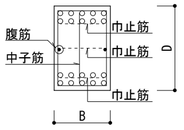
階	符号	G1		G2	G3	G11			G12			G13		
	位置	端部	中央	全断面	全断面	Y1端	中央	Y2端	Y2端	中央	Y3端	Y1端	中央	Y2端
R	断面													
	B x D	550x600		550x600	550x600	700x750			700x750			600x750		
	上端筋	5-D25	4-D25	4-D25	4-D25	5-D25	6-D25	8-D25	7-D25	6-D25	6-D25	5-D25	5-D25	7-D25
	下端筋	4-D25	4-D25	4-D25	3-D25	5-D25	6-D25	6-D25	6-D25	6-D25	6-D25	5-D25	5-D25	5-D25
	スタラップ	□-D13@150		□-D13@150	□-D13@200	□-D13@150			□-D13@150			□-D13@150		
	腹筋	2-D10		2-D10	2-D10	2-D10			2-D10			2-D10		
	備考													
2	断面													
	B x D	550x700		550x700	550x700	700x800			700x800			600x800		
	上端筋	6-D29	4-D29	4-D29	4-D29	6-D29	6-D29	8-D29	7-D29	6-D29	5-D29	7-D29	5-D29	8-D29
	下端筋	4-D29	4-D29	4-D29	3-D29	5-D29	6-D29	6-D29	6-D29	6-D29	5-D29	5-D29	5-D29	5-D29
	スタラップ	◫-D13@150		◫-D13@150	□-D13@200	◫-D13@150			□-D13@150			◫-D13@150		
	腹筋	2-D10		2-D10	2-D10	2-D10			2-D10			2-D10		
	備考													

大梁キープラン

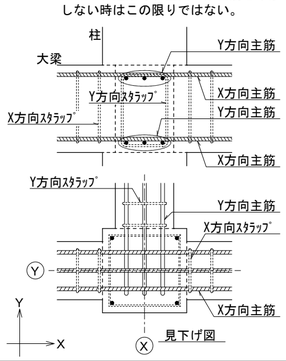


共通事項　※特記無き限り下記とする。

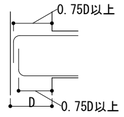
1) 巾止筋D10@1000以内とする。



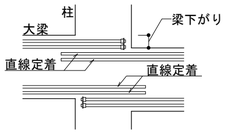
2) 大梁主筋の上下関係に注意すること。
・スタラップ形状に注意する。
・ただし、逆梁等、直交の梁主筋と干渉しない時はこの限りではない。



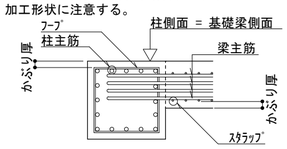
3) 大梁主筋定着は0.75D以上とすること。



4) 段差梁の接合部等納まりが困難な場合は、機械式定着板の使用を検討すること。
適用範囲は各メーカーの仕様に準拠すること。

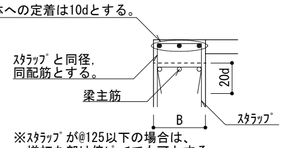


5) 大梁と柱が同面に納まる場合、スタラップの加工形状に注意する。



6) 梁上増打ち部は、下記とする。
ただし、増打ち100mm以下は補強不要とする。

軸筋：D19@200(大梁)
躯体への定着は10dとする。

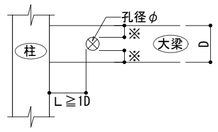


※スタラップが@125以下の場合は、増打ち部は倍ピッチでも可とする。

梁貫通孔補強要領図

一般階
・水平位置について
　・梁貫通孔は、柱面から1D（Dは梁せい）以内に設けてはならない。
・鉛直位置について
　・※寸法はD/3以上（Dは梁せい）を原則とすること。
　・既製品を使用する場合はメーカーの仕様に準拠すること。
　ただし、孔径φがD/10以下かつ150mm未満の場合は※寸法について監理者に確認すること。
・上記が困難な場合は設計者または監理者と協議すること。

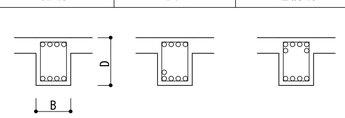
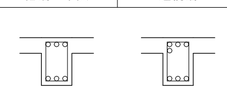
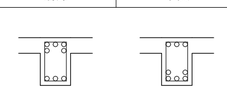
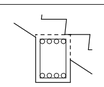
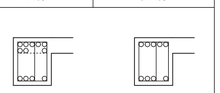
・孔径φがD/10以上、もしくは80mm以上の場合は全て補強すること。
・既製品（認定取得品）を使用するときは監理者に確認すること。（リング型またはプレート型とする）



鉄　筋
SD295 ：D10 － D16
SD345 ：D19 － D25
SD390 ：D29 －

訂正	月 日	事項												
			株式会社ユニバァサル設計 UNIVERSAL DESIGN OFFICE INC.	事務所登録	一級建築士事務所東京都知事登録 第22736号	設計者	一級建築士大臣登録 第339311号 構造一級建築士大臣登録 第 9542号 益子 拡	工事名称	仮称芳野市民センター新築工事	図面名称	柱・大梁リスト	縮尺 A2:1/50	図面No. S-20
								作成	2025 年 2 月 17 日	承認	部長 課長 担当 製図	設計No.	

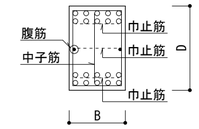
小梁リスト　S=1/50

符号	B1（B1a）			B2		B3		B4	CG1	CB1	
位置	他端	中央	連続端	他端・中央	連続端	端部	中央	全断面	全断面	元端	先端
断面											
B x D	400x550			350x550		350x550		350x550	400x550	440x550	
上端筋	4-D22	4-D22	6-D22（7-D22）	3-D22	4-D22	5-D22	3-D22	3-D22	4-D22	8-D22	5-D22
下端筋	4-D22	5-D22（6-D22）	4-D22	3-D22	3-D22	3-D22	5-D22	3-D22	4-D22	4-D22	4-D22
ｽﾀﾗｯﾌﾟ	□-D10 @150			□-D10 @200		□-D10 @150		□-D10 @200	□-D10 @150	◫-D10 @150	
腹筋	―			―		―		―	―	―	
備考									RC階段受け		

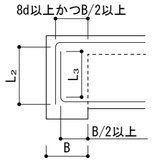
※（　）内の主筋本数はB1aを示す

共通事項　※特記無き限り下記とする。

1) 巾止筋D10@1000以内とする。

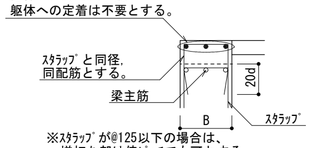


2) 定着する梁幅Bが、投影定着長さL_{dh}を満足できないほど小さい場合は、上端筋は余長部でL_2、下端筋は余長部でL_3とする。
この時投影定着長さは8d以上かつB/2以上とする。



3) 梁上増打ち部は、下記とする。
ただし、増打ち100mm以下は補強不要とする。

軸筋：D16@200（小梁）
躯体への定着は不要とする。



※ｽﾀﾗｯﾌﾟが@125以下の場合は、
増打ち部は倍ﾋﾟｯﾁでも可とする。

壁リスト

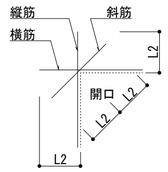
符号		W１５０	W１８０
立断面			
壁厚		150	180
縦筋		D10 @ 200 C	D10 @ 200 D
横筋		D10 @ 200 D	D10 @ 200 D
開口補強筋	縦	2-D10	2-D13
	横	2-D10	2-D13
	斜	1-D13	2-D13
備考			EVシャフト壁 S階段受けは別途補強

共通事項　※特記無き限り下記とする。

1) 巾止筋D10@1000以内とする。
2) 記号は下記を示す。
　D　：ダブル配筋
　C　：ダブルチドリ配筋
　S　：シングル配筋
3) 外壁・パラペットは、@3000前後毎にひび割れ誘発目地を設けること。
4) 土に接する壁のかぶり厚に注意すること。
5) 耐震スリット部を貫通する配管は原則として行わないこと。

開口補強筋要領図

・一般階（雑壁等）



※ 斜め補強筋位置は開口縁からの設計かぶりの位置に配筋すること。

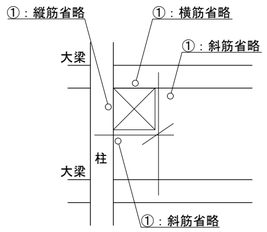
※ スリット付きのW150で、開口補強筋の間隔が確保できない場合、横筋に限りD10としてもよい。

※ 特記無き補強筋は、壁リストの補強筋に倣い配筋すること。

・柱梁際開口補強の場合

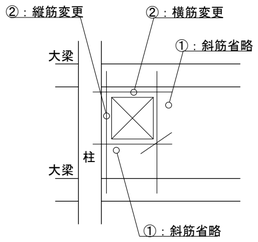
・ 梁際もしくは柱際まで開口が開いている場合（梁際もしくは柱際から開口まで50mm未満を含む）

①補強筋を省略する。



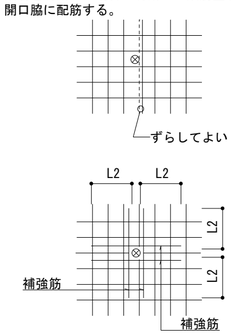
・ 梁際もしくは柱際から開口までが50～100mm以内の場合

①補強筋を省略する。
②補強筋を 2-D13 に変更する。



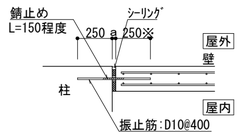
・壁円形小開口の場合（耐震壁は除く）

・ 円形小開口（200φ以下）がある場合は、下記要領とする。
また、小開口を連続して設ける場合は監理者に相談すること。
・ 鉄筋を切断した場合は切断した鉄筋量以上を開口脇に配筋する。



構造スリット要領図　※1：防水・耐火・遮音性能を確保すること。　※2：スリット工法は、要領図又はメーカー仕様によること。

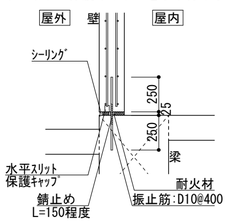
①鉛直スリット（完全スリット型）



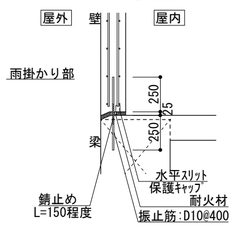
（水平断面図）

※袖壁長さが200～300mmの場合は、振止筋の壁内定着長を袖壁先端からかぶり厚が確保できる長さまで短くしても良い。
a：スリット幅は25mm以上かつ壁高の1/100以上とすること。

②水平スリット（完全スリット型）
注1）水平スリット保護キャップを取り付ける場合は、かぶりを確保出来るものを使用すること。
注2）水平スリット保護キャップを取り付けない場合は、スリットからかぶりを確保すること。

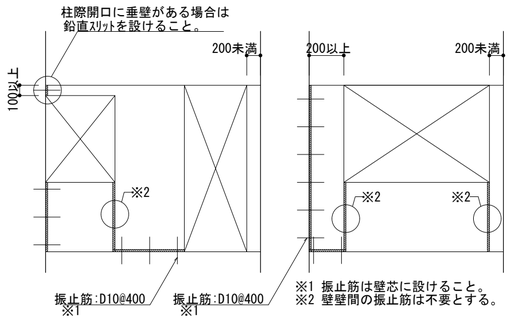


（Aタイプ立断面図）

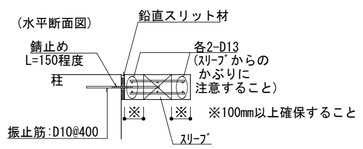


（Bタイプ立断面図）

③スリット設置の留意事項
注1）コンクリート打設時の圧による、スリット材のズレ防止対策を行うこと。
注2）袖壁長さが200mm以上となるが、図面上に構造スリットの表示がない場合、監理者及び構造設計者に構造スリットの有無を確認すること。



④袖壁部スリット設置の留意事項
注1）袖壁にスリーブを設ける場合、下図のようにスリーブから構造スリット際及び開口際までそれぞれ100mm以上の躯体を確保すること。



鉄　筋
▨ SD295　：D10 - D16
▨ SD345　：D19 - D25
□ SD390　：D29 -

訂正	月　日	事　項		

株式会社ユニバァサル設計
UNIVERSAL DESIGN OFFICE INC.

事務所登録	一級建築士事務所東京都知事登録　第22736号	設計者	一級建築士大臣登録　第339311号 構造一級建築士大臣登録　第　9542号　益子 拡

工事名称	仮称芳野市民センター新築工事	図面名称	小梁・壁リスト	縮尺	A2:1/50	図面No.	S-２１
作成	2025 年　2 月　17 日	承認		部長　課長　担当　製図		設計No.	

スラブリスト

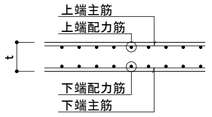
符号	版厚 t	位置	短辺方向（主筋方向）	長辺方向（配力筋方向）	備考
S1	180	上端筋	D13 @ 200	D13 @ 250	
		下端筋	D10D13 @ 200	D10D13 @ 250	
S2	180	上端筋	D13 @ 150	D13 @ 200	
		下端筋	D10D13 @ 150	D10D13 @ 200	
S3	180	上端筋	D13 @ 200	D10D13 @ 250	切妻屋根 躯体上10㎜ふかし
		下端筋	D10D13 @ 200	D10 @ 250	
FS1	250	上端筋	D13 @ 200	D13 @ 250	設備ピット
		下端筋	D13 @ 200	D13 @ 250	
FS2	250	上端筋	D13 @ 200	D13 @ 250	EVピット
		下端筋	D13 @ 200	D13 @ 200	

共通事項　※特記無き限り下記とする。

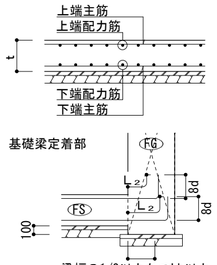
1) スラブには、設備配管を埋め込まないこと。
やむを得ず一般階のスラブに配管類を埋め込む場合は、配管類はスラブ上下配筋の中間に納め、配管類間のあきは50㎜以上とする。
2) スラブが土に接する場合は、かぶり厚を50㎜以上確保すること。
3) ピット内スラブの上端筋は、屋外に接する場合としてかぶり厚を40㎜以上（超長期の場合は50㎜以上）確保すること。
4) FSの下端筋は、上端筋と同等の定着を行うこと。
5) スラブ増打ち厚さが100㎜を超える場合は、D10@250（主筋・配力筋共）の補強筋を追加するか、鉄筋をかさ上げして配筋すること。

領域区分

スラブ配筋要領図

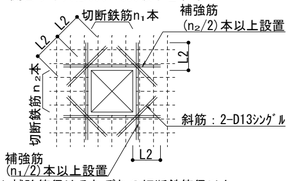


基礎スラブ配筋要領図



床開口補強筋要領図

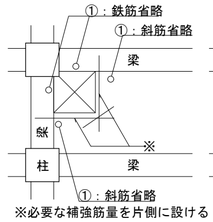
・開口サイズは600×600以下とする



※ 補強筋径はそれぞれの切断鉄筋径以上かつD13以上とする。
※ t>180の場合はﾀﾞﾌﾞﾙ配筋とする。
※ 各補強筋のかぶり厚に注意する。
※ 仮設開口の場合も同様とする。

・梁際に開口が開いている場合
(50㎜未満を含む)

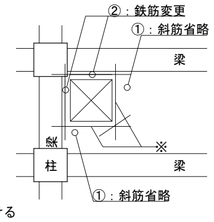
①補強筋を省略する。



※必要な補強筋量を片側に設ける

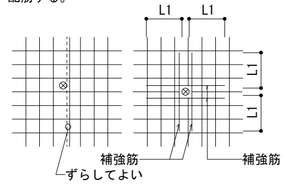
・梁際から開口迄が 50-100㎜ 以内の場合

①補強筋を省略する。
②補強筋を 2-D13 に変更する。



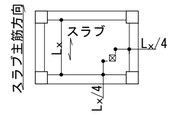
・円形小開口（200φ以下）の場合
(小開口を連続して設ける場合は監理者に相談すること)

・鉄筋を極端に曲げての配筋は避け、貫通口とのかぶりが確保出来ない際には、切断の上補強筋を配筋する。
・鉄筋を切断した場合は切断した鉄筋量以上を開口脇に配筋する。

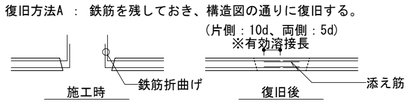


・仮設開口の場合

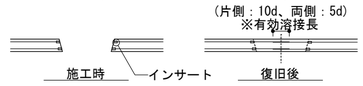
・原則として開口により除外される鉄筋量の1/2以上を各々両側に補強すること。（母材と同径以上かつD13以上）
（例：仮設開口により鉄筋間隔3本分が除外される場合、4本分の1/2以上を両側に配置する）
・L_x/4付近の、目立たない位置に設置すること。
・水回りへの設置は避けること。
・復旧方法は右図のいずれかによる。



復旧方法A ： 鉄筋を残しておき、構造図の通りに復旧する。



復旧方法B ： 鉄筋は切断し、インサートにて定着する。



片持ちスラブリスト

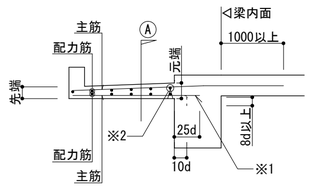
符号	版厚 t 元端	版厚 t 先端	位置	短辺方向（主筋方向）	長辺方向（配力筋方向）	備考
CS1	180	180	上端筋	D13 @ 200	D13 @ 250	３辺固定スラブ
			下端筋	D10D13 @ 200	D10D13 @ 250	
CS2	210	210	上端筋	D13 @ 100	D19 @ 90	RC階段受け・RC階段踊場
			下端筋	D10 @ 100	D16 @ 90	
CS3	150	150	上端筋	D13 @ 200	D10 @ 200	屋根庇 躯体上10㎜ふかし
			下端筋	D10 @ 200	D10 @ 200	
CS3a	180	180	上端筋	D13 @ 200	D10 @ 200	CS3と同配筋
			下端筋	D10 @ 200	D10 @ 200	切妻屋根 躯体上10㎜ふかし

共通事項　※特記無き限り下記とする。

1) 外部廊下の手摺及びバルコニーの床・スラブは、@3000前後毎にひび割れ誘発目地を設けること。
2) 下端筋のかぶり厚さは40㎜以上を確保すること。またひび割れ誘発目地の目地底からも40㎜以上を確保すること。
3) スラブが土に接する場合は、かぶり厚を50㎜以上確保すること。

片持ちスラブ配筋要領図

・上端主筋定着長は、梁内面より1000㎜以上とする。
・先端の版厚は溝下とする。
・先端部の配筋は片持ち先端　配筋要領図による
・各所のかぶり厚には注意する。



※1 下端筋直線定着25d以上または10d以上フック付き(余長8d)
※2 1-D13（ただし上端主筋径がD16の場合1-D16）

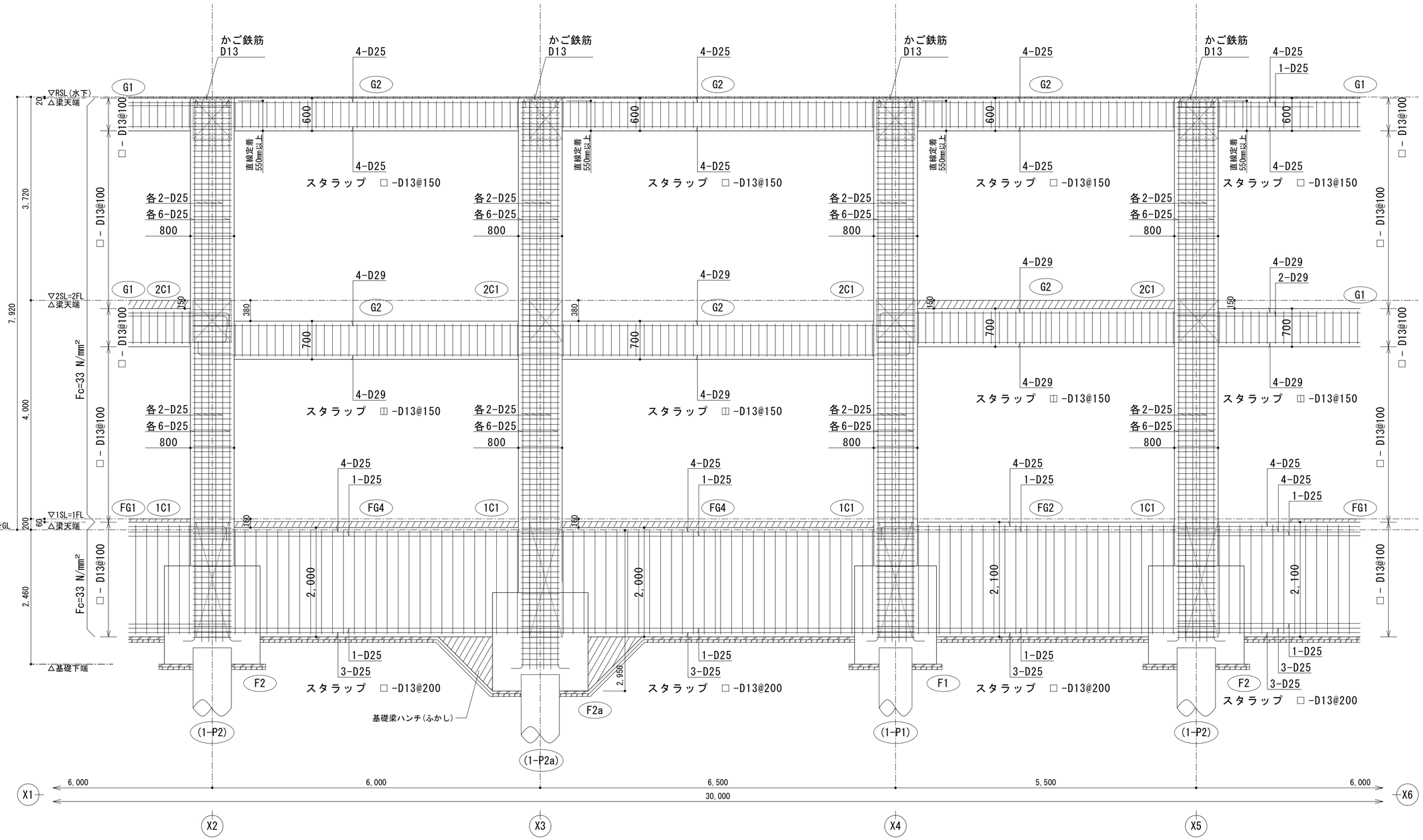
鉄　筋
▨ SD295 ：D10 - D16
□ SD345 ：D19 - D25
□ SD390 ：D29 -

訂正	月 日	事 項		

株式会社ユニバァサル設計
UNIVERSAL DESIGN OFFICE INC.

事務所登録	一級建築士事務所東京都知事登録 第22736号	設計者	一級建築士大臣登録 第339311号 構造一級建築士大臣登録 第 9542号 益子 拡

工事名称	仮称芳野市民センター新築工事	図面名称	スラブリスト	縮尺	A2:1/50	図面No.	S-22
作成	2025 年 2 月 17 日	承認		部長	課長	担当	製図	設計No.	



Y1通り　配筋詳細図

共通事項

特記なき限り下記とする。

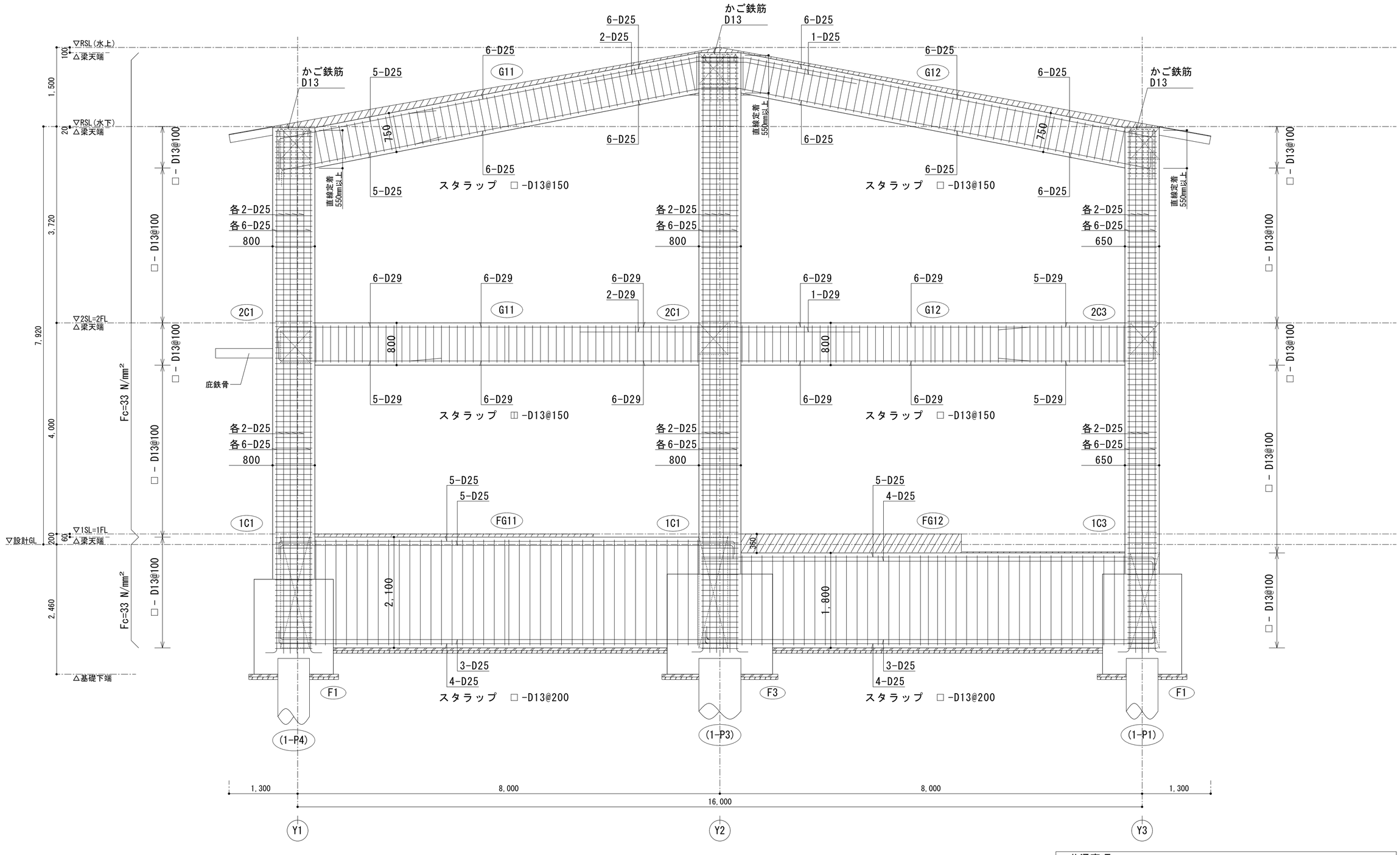
1) 基礎仕様は別途 S-18 杭・基礎リストによる。
2) 特に指定のない腹筋はリストによるものとし、作図を省略する。
3) 梁ふかし等その他の配筋は別途とする。

訂正	月 日	事 項		

株式会社ユニバァサル設計
UNIVERSAL DESIGN OFFICE INC.

事務所登録	一級建築士事務所東京都知事登録 第22736号	設計者	一級建築士大臣登録 第339311号 構造一級建築士大臣登録 第 9542号 益子 拡

工事名称	仮称芳野市民センター新築工事	図面名称	架構詳細図（1）	縮尺	A2:1/50	図面No.	S-23
作成	2025 年 2 月 17 日	承認		部長	課長	担当	製図	設計No.	



X1通り　配筋詳細図

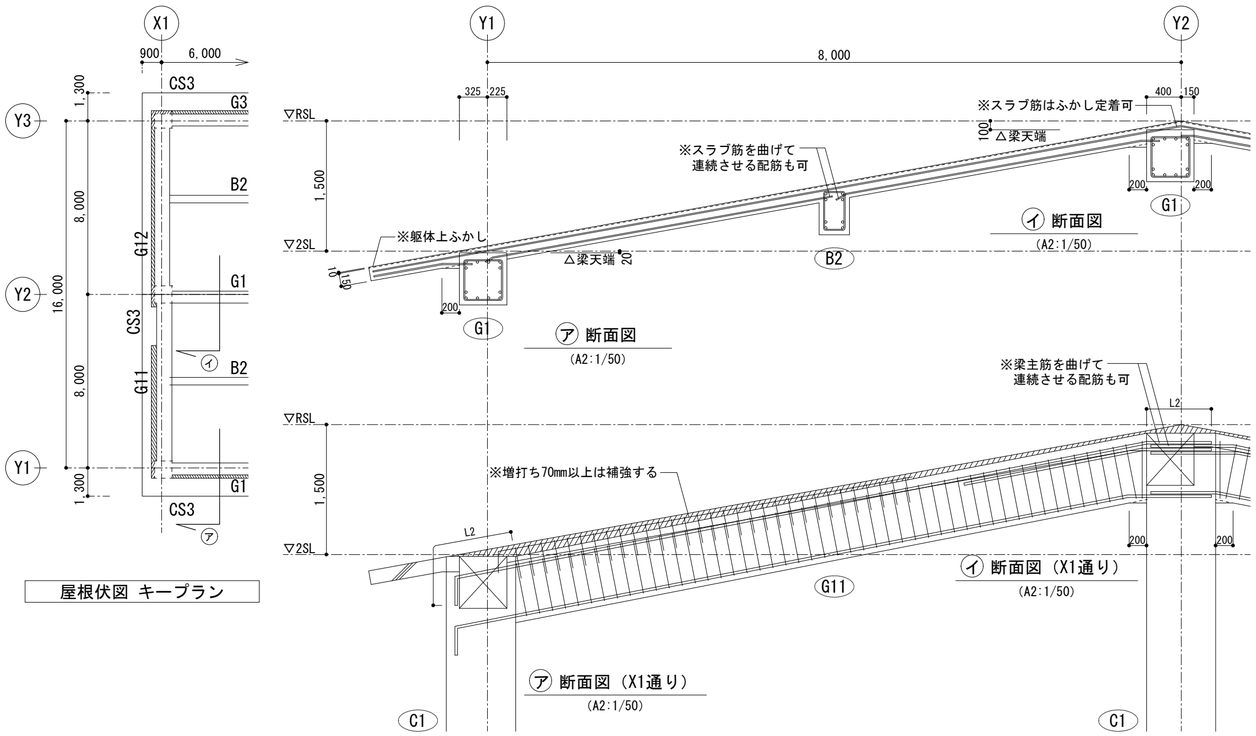
共通事項

特記なき限り下記とする。

1) 基礎仕様は別途 S-18 杭・基礎リストによる。
2) 特に指定のない腹筋はリストによるものとし、作図を省略する。
3) 梁ふかし等その他の配筋は別途とする。

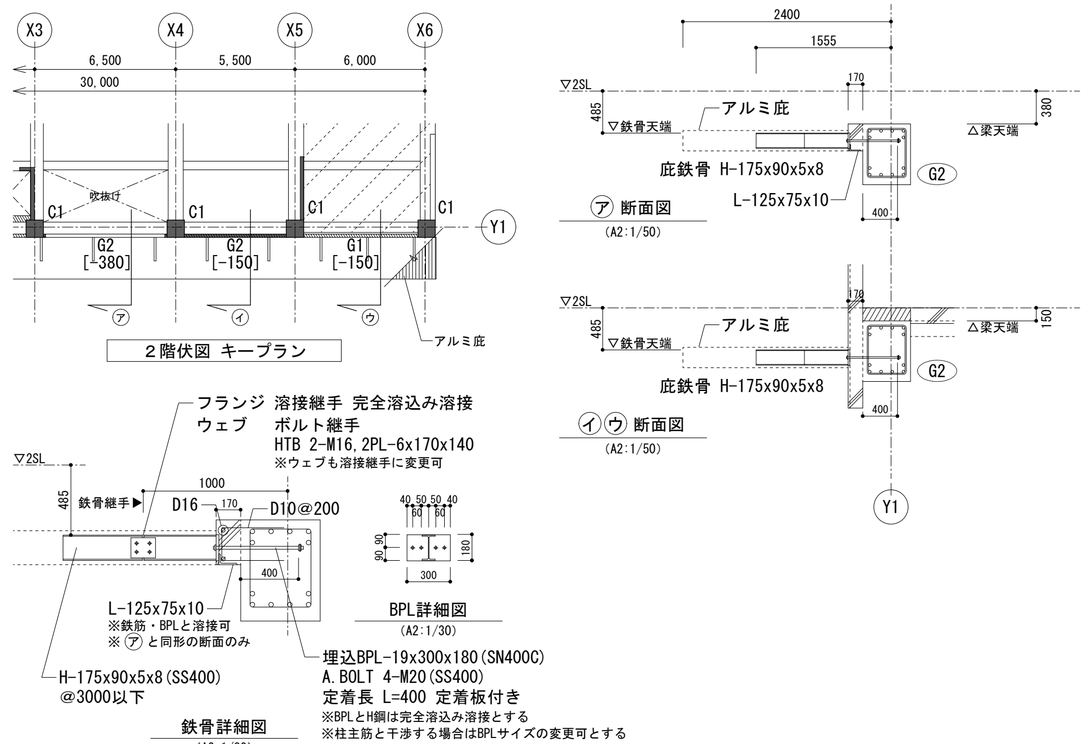
訂正	月 日	事 項												
				株式会社ユニバァサル設計 UNIVERSAL DESIGN OFFICE INC.	事務所登録	一級建築士事務所東京都知事登録 第22736号	設計者	一級建築士大臣登録 第339311号 構造一級建築士大臣登録 第 9542号 益子 拡	工事名称	仮称芳野市民センター新築工事	図面名称	架構詳細図（2）	縮尺 A2:1/50	図面No. S-24
									作成	2025 年 2 月 17 日	承認	部長 課長 担当 製図	設計No.	

切妻屋根配筋詳細図



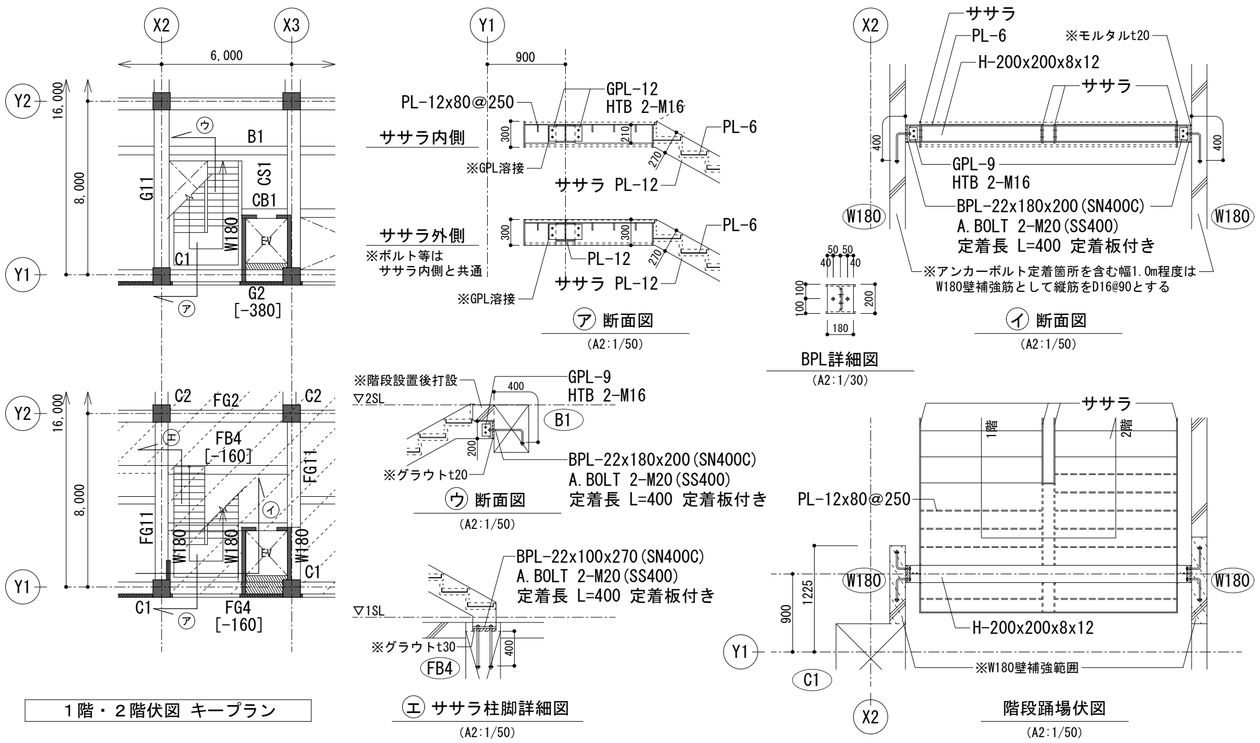
屋根伏図 キープラン

アルミ庇取付き詳細図　※寸法の詳細は意匠図による。



S階段詳細図　※寸法の詳細は意匠図による。

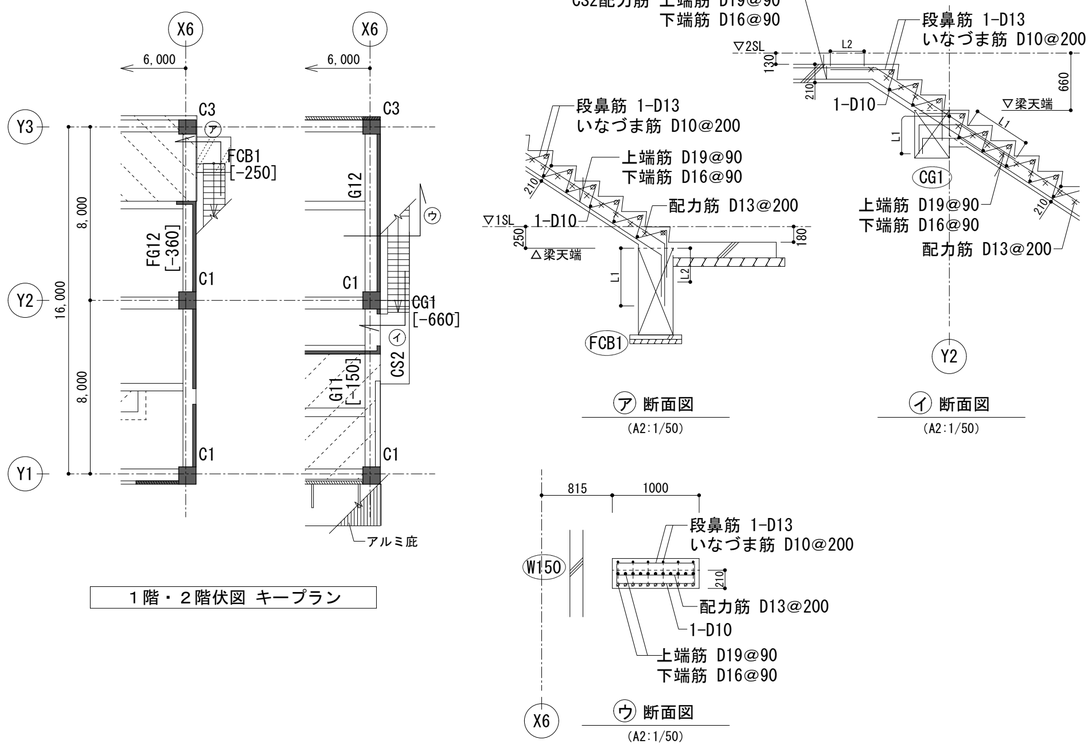
・特記無きS階段関係の部材の鋼種は SS400 とする。



1階・2階伏図 キープラン

RC階段詳細図　※寸法の詳細は意匠図による。

・RC階段配筋の継手は施工性を考慮し、重ね継手としてよい。



訂	月	日	事項		
正					

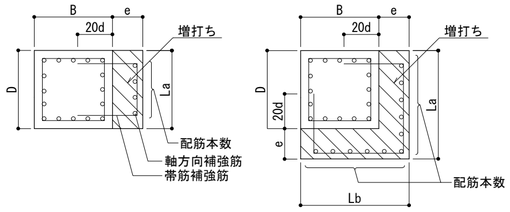
株式会社ユニバァサル設計
UNIVERSAL DESIGN OFFICE INC.

事務所登録	一級建築士事務所東京都知事登録 第22736号	設計者	一級建築士大臣登録 第339311号 構造一級建築士大臣登録 第 9542号 益子 拡

工事名称	仮称芳野市民センター新築工事	図面名称	各部詳細図（1）	縮尺	A2:1/50 1/30	図面No.	S-25
作成	2025 年 2 月 17 日	承認	部長 課長 担当 製図	設計No.			

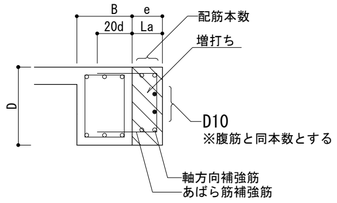
柱・梁 側面増打ち配筋要領図 (NO SCALE)

① 柱増打ち配筋要領図
※増打ち幅 e が70mm未満の場合は補強不要とする。
※増打ち幅 e が200mmを超える場合は詳細図による。
※軸方向補強筋の柱脚定着5dとし、柱頭定着は不要とする。
※帯筋補強筋は、柱のフープ筋と同径・同間隔とし鉄筋種別はSD295とする。



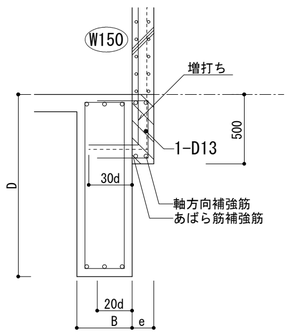
設置範囲	配筋本数
300＜La, Lb≦500	3-D16
500＜La, Lb≦700	4-D16
700＜La, Lb≦900	5-D16
900＜La, Lb≦1100	6-D16
1100＜La, Lb≦1300	7-D16

② 大梁増打ち配筋要領図
※増打ち幅 e が70mm未満の場合は補強不要とする。
※軸方向補強筋の端部定着10dとする。
※あばら筋補強筋は、梁のスタラップと同径・同間隔とし鉄筋種別はSD295とする。

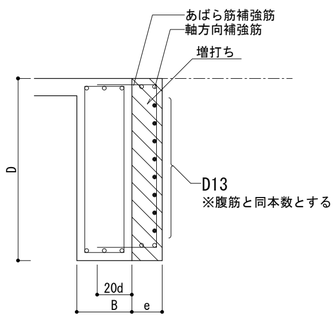


設置範囲	配筋本数
La≦300	2-D16
300＜La≦500	3-D16
500＜La≦700	4-D16
700＜La≦900	5-D16
900＜La≦1100	6-D16
1100＜La≦1300	7-D16

③ 基礎梁増打ち配筋要領図
※増打ち幅 e が70mm未満の場合は補強不要とする。
※軸方向補強筋の端部定着10dとする。
※あばら筋補強筋は、梁のスタラップと同径・同間隔とし鉄筋種別はSD295とする。



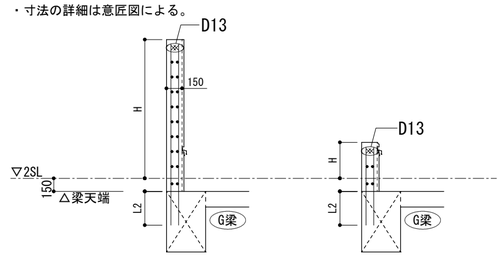
W150受け梁側面増打ち



EV立柱受け梁側面増打ち

設備置場 腰壁配筋要領図 (NO SCALE)

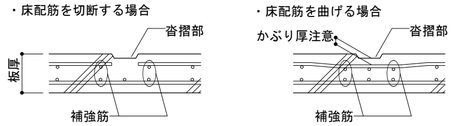
・寸法の詳細は意匠図による。



縦筋：D13@200ダブル　縦筋：D10D13@200ダブル
横筋：D10@200チドリ　横筋：D10@200チドリ

沓摺部 補強配筋要領図 (NO SCALE)

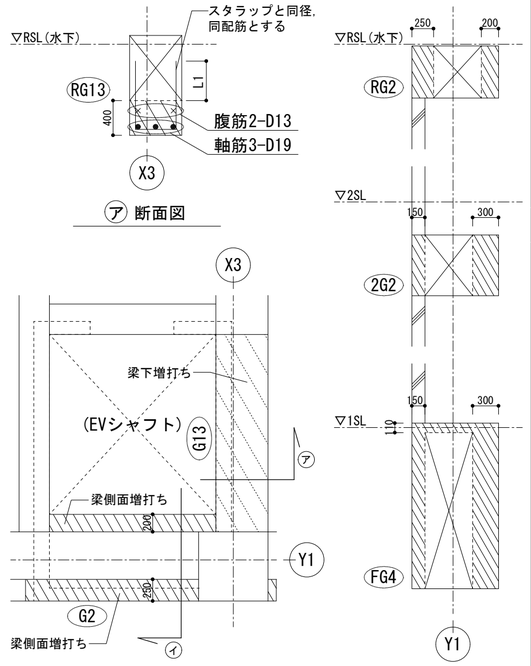
・寸法の詳細は意匠図による。
・沓摺部が一部スラブに干渉する際は、床開口と同等とみなし補強筋を設置する。



※補強筋の本数は、沓摺部により切断または曲げる鉄筋本数以上とする。

EV増打ち詳細図 (A2:1/50)

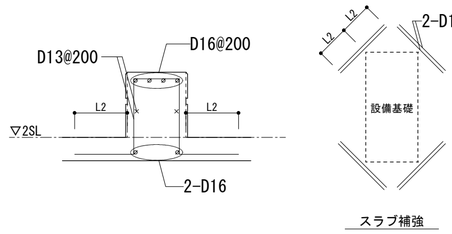
・特記無き増打ち配筋の詳細は増打ち配筋要領図による。



屋根伏図 キープラン

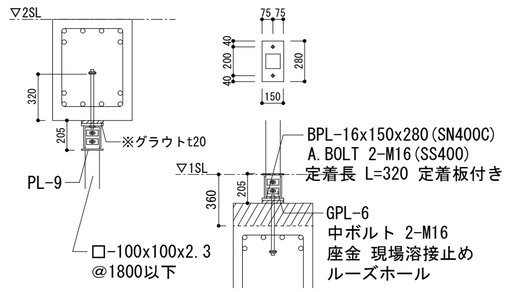
設備置場 設備基礎配筋要領図 (NO SCALE)

・寸法の詳細は意匠図による。



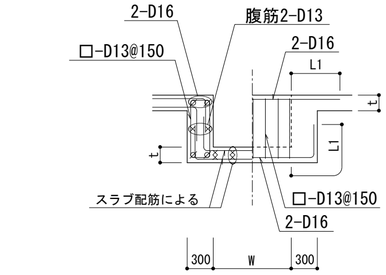
ルーバー受け材詳細図 (A2:1/30)

・特記無きルーバー受け材関係の部材の鋼種は SS400 とする。



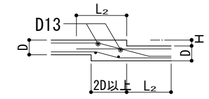
釜場配筋要領図 (NO SCALE)

・寸法の詳細は意匠図による。

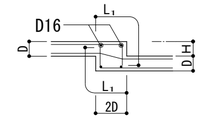


スラブ段差補強要領図 (NO SCALE)

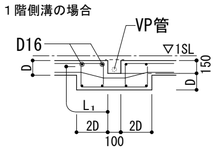
・H≦100の場合



・100＜H≦200の場合



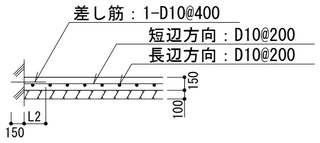
・１階側溝の場合



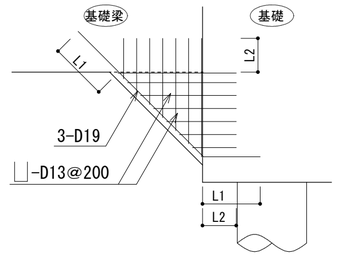
土間スラブ配筋要領図 (NO SCALE)

・十分に転圧した後 施工すること。

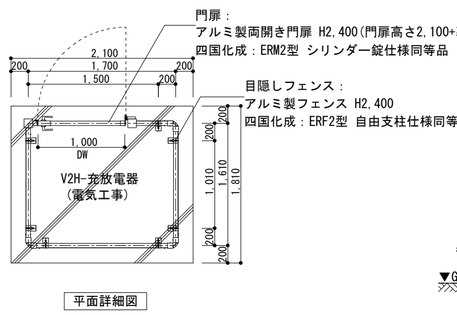
・t=150の場合

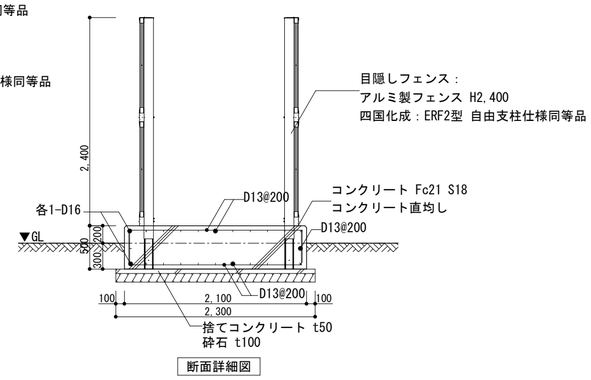


基礎梁ハンチ(ふかし)配筋要領図 (NO SCALE)



V2H基礎廻り詳細図 (A2:1/50)





※地耐力30kN/㎡以上確保すること

訂正	月 日	事 項		

株式会社ユニバァサル設計
UNIVERSAL DESIGN OFFICE INC.

事務所登録	一級建築士事務所東京都知事登録 第22736号	設計者	一級建築士大臣登録 第339311号 構造一級建築士大臣登録 第 9542号 益子 拡

工事名称	仮称芳野市民センター新築工事	図面名称	各部詳細図（２）	縮尺	A2:1/50 1/30	図面No.	S-26
作成	2025 年 2 月 17 日	承認		部長 課長 担当 製図		設計No.	